

uCosminexus 電子フォームワークフロー 解説

解説・手引・操作書

3020-3-Q32-30

■ 対象製品

P-2443-A294 uCosminexus 電子フォームワークフロー Set 09-50 (適用 OS : Windows Server 2008 x86, Windows Server 2008 x64[※], Windows Server 2008 R2[※], Windows Server 2012[※], Windows Server 2012 R2[※])

P-2443-AA94 uCosminexus 電子フォームワークフロー ユーザライセンスセット 09-50 (適用 OS: Windows Server 2008 x86, Windows Server 2008 x64[※], Windows Server 2008 R2[※], Windows Server 2012[※], Windows Server 2012 R2[※])

P-2943-A294 uCosminexus 電子フォームワークフロー Set 09-50 (適用 OS : Windows Server 2008 x64, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2)

P-2943-AA94 uCosminexus 電子フォームワークフロー ユーザライセンスセット 09-50 (適用 OS: Windows Server 2008 x64, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2)

P-2643-A394 uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer 09-50 (適用 OS : Windows Vista, Windows 7, Windows 7 x64[※], Windows 8.1, Windows 8.1 x64[※])

P-2943-A394 uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer 09-50 (適用 OS : Windows 7 x64, Windows 8.1 x64)

注※ WOW64 (Windows On Windows 64) 環境で動作します。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

GIF は、米国 CompuServe Inc.が開発したフォーマットの名称です。

GIF は、米国 CompuServe Inc.のサービス名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office および FrontPage は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

XSL は、the World Wide Web Consortium の商標です。

Eclipse は、開発ツールプロバイダのオープンコミュニティである Eclipse Foundation, Inc.により構築された開発ツール統合のためのオープンプラットフォームです。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Internet Explorer, または IE	Windows(R) Internet Explorer(R) 7
	Windows(R) Internet Explorer(R) 8
	Windows(R) Internet Explorer(R) 9

表記	製品名
Internet Explorer, または IE	Windows(R) Internet Explorer(R) 10
	Windows(R) Internet Explorer(R) 11
Windows Vista	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版
Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版
Windows 7 x64	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版(64ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版(64ビット版)
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版(64ビット版)
Windows 8	Windows(R) 8 Pro 日本語版
	Windows(R) 8 Enterprise 日本語版
Windows 8.1	Windows(R) 8.1 Pro 日本語版
	Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版
Windows 8.1 x64	Windows(R) 8.1 Pro 日本語版(64ビット版)
	Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版(64ビット版)
Windows Server 2008 x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2008 x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版
Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版

表記	製品名
Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版
Excel	Microsoft(R) Office Excel
FrontPage	Microsoft(R) Office FrontPage(R)
SQL Server	Microsoft(R) SQL Server 2005

Windows 8.1, Windows 8, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows 7, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, および Windows Vista を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2014年5月 3020-3-Q32-30

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2010, 2014, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-Q32-30) uCosminexus 電子フォームワークフロー Set 09-50, uCosminexus 電子フォームワークフロー ユーザライセンスセット 09-50, uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer 09-50

追加・変更内容	変更箇所
Cosminexus V9.5 に対応しました。	—
64bit 版の製品をリリースしました。	—
次の適用 OS を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2012• Windows Server 2012 R2• Windows 8.1	—
Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 に対応しました。	—
EUR Form の開発用製品名を修正しました。	1.3.1(2), 2.1, 2.2.2, 図 6-1, 6.2.1(2), 8.2, 9.5.1(2), 9.6.6, 9.6.7, 付録 A.6(4), 付録 I.2, 付録 K
Internet Explorer の VR 表記を廃止しました。	1.3.1(2), 1.3.2(1), 1.3.2(4)
標準では表示されないボタンについての記述を削除し, 追加方法について記述を追加しました。	2.1.2(2)(c)
同梱されなくなった MyEclipse の記述を廃止しました。	図 2-14
階層定義が非サポートであることを注意事項に追加しました。	2.2.3, 3.2.4(2)(a), 6.2.4(2)(a), 付録 B.1(1)
カスタマイズ可能なファイルを追加しました。	表 2-4
次の記述を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• BLC 初期化/終了処理のメソッド名• 実装例のソースコード• 機能を使用するための環境設定例• 注意事項	5.8.2
表示される帳票の VR に関する, 前提条件を追加しました。	8.4(1)
サポートする文字コードに MS932 を追加しました。	9.6.3
ログイン情報を取得できない条件を追加しました。	10.2.2
Portal Framework の記述を追加しました。	13.2
ソートの結果が不正となる場合の説明を追加しました。	19.3.3
アクセス制御クラスを追加しました。	付録 C.1
インデクス数の値を修正しました。	表 D-26
キー名 BLCDELPI_JVM_CLASSPATH の内容に説明を追加および修正しました。	付録 E.4(1)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの機能、操作方法、および運用方法について説明したものです。

- P-2443-A294 uCosminexus 電子フォームワークフロー Set
- P-2443-AA94 uCosminexus ユーザライセンスセット
- P-2943-A294 uCosminexus 電子フォームワークフロー Set
- P-2943-AA94 uCosminexus ユーザライセンスセット
- P-2643-A394 uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer
- P-2943-A394 uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer

なお、マニュアル内では uCosminexus 電子フォームワークフロー Set および uCosminexus 電子フォームワークフロー Developer を合わせて電子フォームワークフローと呼びます。また、Hitachi Business Logic - Container 2 を BLC と呼びます。

■ 対象読者

このマニュアルは、次の方を対象としています。

- BLC の帳票生成機能を使って帳票を作成する方
- BLC の実行環境機能を使って帳票を処理する方
- BLC を使用したシステムの環境を運用する管理者の方

なお、次に示す事項を前提としています。

帳票を作成する方の場合

- OS (Windows) の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Internet Explorer の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Java または JSP を使ってプログラムを作成できること。
- CSCIW-Definer を使ってビジネスプロセスを作成できること。
- HiRDB, Oracle, または SQL Server に関する基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- BLC 帳票を使う場合は、HTML エディタなどを使って画面を作成できること。
- EUR Form 連携帳票を使う場合は、EUR Form Client に関する基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。

帳票を処理する方の場合

- OS (Windows) の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Internet Explorer の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- EUR Form 連携帳票を使う場合は、EUR Form Client の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。

管理者の方の場合

- OS (Windows) の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Internet Explorer の基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Java または JSP を使ってプログラムを作成できること。
- CSCIW-Definer を使ってビジネスプロセスを作成できること。
- HiRDB, Oracle, または SQL Server に関する基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- Cosminexus に関する基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。
- BLC 帳票を使う場合は、HTML エディタなどを使って画面を作成できること。

- EUR Form 連携帳票を使う場合は、EUR Form および EUR Form Client に関する基本的な知識を持ち、その操作を理解していること。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章および付録を選択して読むことができます。目的に応じた章および付録をお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的		記述箇所
全体の概要、システム構成、および前提環境を知りたい		1 章
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能について知りたい	機能概要	2 章
	操作手順 (BLC 帳票の場合)	3 章
	操作手順 (EUR Form 連携帳票の場合)	6 章
	画面の詳細説明	付録 A
BLC 実行環境について知りたい	機能概要	2 章
	操作手順 (BLC 帳票の場合)	4 章
	操作手順 (EUR Form 連携帳票の場合)	7 章
	画面の詳細説明 (BLC 帳票の場合)	4 章
	画面の詳細説明 (EUR Form 連携帳票の場合)	7 章
BLC のカスタマイズ方法について知りたい	機能概要	2 章
	詳細説明 (BLC 帳票の場合)	5 章
	詳細説明 (EUR Form 連携帳票の場合)	8 章
電子フォームワークフローの運用方法について知りたい		9 章
ユーザ情報を管理する方法について知りたい		10 章
案件を管理する方法について知りたい		11 章
BLC のユティリティについて知りたい		12 章
電子フォームワークフローの運用中に障害が発生した場合の対処方法について知りたい		13 章
受信ボックスからの一括承認機能について知りたい		14 章
BLC 以外のページ (イントラネット上のポータルなど) のリンクから直接、申請帳票画面を表示させる機能について知りたい		15 章
申請者が「@source」で申請した直後の審査ノードにある案件を送信ログから引き戻す機能について知りたい		16 章

マニュアルを読む目的	記述箇所
CSCIW の作業情報のテーブルと BLC_INBOX_T テーブルを結合したビューを使用し、カラムヘアクセスする機能について知りたい	17 章
データベースに保管されている案件を検索して参照する機能について知りたい	18 章
案件の処理をほかのユーザに振り替える機能について知りたい	19 章
BLC を使用する上で、ビジネスプロセス定義にかかわる内容について知りたい	付録 B
BLC のクラスの概要を知りたい※	付録 C
電子フォームワークフローのデータベースについて知りたい	付録 D
BLC のプロパティファイル、ストリングリソースプロパティファイル、および帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で出力されるファイルについて知りたい	付録 E
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で提供しているサンプル帳票について知りたい	付録 F
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面およびダイアログで入力する項目について、入力できる文字の種類、文字列の長さなどの規則を知りたい	付録 G
BLC 帳票から添付ファイルを操作する方法について知りたい	付録 H
電子フォームワークフローのメッセージについて知りたい	付録 I
このマニュアルの参考情報について知りたい	付録 J
電子フォームワークフローの用語について知りたい	付録 K

注※

BLC のクラスの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

■ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタン、タブ、およびキーボードのキーを示します。 (例) [ファイル] メニュー [OK] ボタン
[A] + [B]	+の前のキーを押したまま、後ろのキーを押すことを示します。
[A] - [B]	-の前に示した [A] メニューから [B] コマンドを選択することを示します。
[]	ウィンドウまたはダイアログ中に表示される項目を示します。
↑ ↑	計算結果の値を小数点以下で切り上げることを示します。
< >	この記号で囲まれている項目は、該当する要素やファイルなどを指定したり、該当する要素が表示されたりすることを示します。 (例) <パスワード>
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。

■ インストール先の表記

このマニュアルでは、Hitachi Business Logic - Container 2 および Hitachi Business Logic - Container - Script Generator のインストール先を次のように表記しています。

表記	意味
<BLC2 のインストールディレクトリ>	Hitachi Business Logic - Container 2 を C ドライブにインストールした場合、デフォルトでは次のようになります。 C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2
<BLSG のインストールディレクトリ>	Hitachi Business Logic - Container - Script Generator を C ドライブにインストールした場合、デフォルトでは次のようになります。 C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM¥blsg

なお、64 ビット OS に 32 ビット版をインストールした場合は、上記「C:¥Program Files」の部分は「C:¥Program Files (x86)」となります。

■ オンラインヘルプについて

BLC の帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、ダイアログの [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのダイアログの詳細説明を参照できます。

目次

第1編 概要編

1	電子フォームワークフローの概要	1
1.1	電子フォームワークフローとは	2
1.1.1	電子フォームワークフローの特長	2
1.1.2	電子フォームワークフローの主な機能	2
1.1.3	Web 帳票アプリケーションの構成要素	3
1.1.4	電子フォームワークフローの処理概要	3
1.2	システム構成	5
1.2.1	開発環境のシステム構成	5
1.2.2	実行環境のシステム構成	5
1.3	前提環境	7
1.3.1	開発環境の前提環境	7
1.3.2	実行環境の前提環境	8
2	電子フォームワークフローの機能	9
2.1	電子フォームワークフローの帳票	10
2.1.1	BLC 帳票	10
2.1.2	EUR Form 連携帳票	19
2.2	帳票ジェネレータ (BLSG) 機能	23
2.2.1	BLC 帳票アプリケーション開発作業手順	23
2.2.2	EUR Form 連携帳票アプリケーション開発作業手順	25
2.2.3	帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のデータフロー	27
2.3	BLC 実行環境機能	30
2.3.1	クライアント表示機能	30
2.3.2	認証処理機能	30
2.3.3	一覧処理機能	31
2.3.4	案件処理機能	34
2.3.5	宛先管理機能	35
2.3.6	帳票管理機能	36
2.3.7	ユーザ管理機能	36
2.3.8	案件管理機能	36
2.4	カスタマイズ機能	37
2.4.1	カスタマイズの概要	37
2.4.2	帳票ボタン処理などのカスタマイズの概要	40
2.4.3	BLC 実行環境のカスタマイズの概要	40

2.4.4	プロパティファイルのカスタマイズの概要	42
2.4.5	エラー情報表示ページのカスタマイズの概要	42
2.4.6	サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概要	42

第 2 編 BLC 帳票の操作編

3

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)	45
3.1 開発作業の流れ (BLC 帳票の場合)	46
3.2 帳票を作成する (BLC 帳票の場合)	47
3.2.1 例題の内容 (BLC 帳票の場合)	47
3.2.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (BLC 帳票の場合)	48
3.2.3 開発環境を設定する (BLC 帳票の場合)	49
3.2.4 帳票定義を作成する (BLC 帳票の場合)	51
3.2.5 帳票モジュール定義を作成する	60
3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)	72
3.3 帳票を再生成する (BLC 帳票の場合)	74
3.4 特殊な帳票を作成する	76
3.4.1 カスタム申請のソース帳票を作成する	76
3.4.2 DB アクセス専用帳票を作成する	79
3.5 DB アクセス定義の定義方法	81
3.5.1 DB アクセス定義の設定項目	81
3.5.2 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合	83
3.5.3 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合	84
3.5.4 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合	86
3.5.5 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合	87
3.5.6 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合	89
3.5.7 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合	90
3.5.8 DB 出力制御	91
3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細	95
3.5.10 SQL 文の組み立て	98

4

BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)	101
4.1 BLC のポータル画面の構成	102
4.1.1 ポータルホームの構成	102
4.1.2 メニューポートレットの構成	103
4.1.3 ワークフローポートレットの構成	105
4.1.4 ワークフローメニュータブの構成	105
4.2 BLC のポータル画面の操作方法	107
4.3 ログインとログアウト	108

4.3.1	ログイン	108
4.3.2	ログアウト	109
4.4	案件を申請する	110
4.4.1	画面の構成 (案件の申請)	110
4.4.2	操作手順 (案件の申請)	110
4.5	案件を処理する	112
4.5.1	画面の構成 (案件の処理)	112
4.5.2	操作手順 (案件の処理)	115
4.6	案件の送信ログを参照する	117
4.6.1	画面の構成 (送信ログの参照)	117
4.6.2	操作手順 (送信ログの参照)	121
4.7	案件の宛先を管理する	122
4.7.1	画面の構成 (宛先の管理)	122
4.7.2	操作手順 (宛先の管理)	124
4.8	帳票を管理する	126
4.8.1	画面の構成 (帳票の管理)	126
4.8.2	操作手順 (帳票の管理)	131
4.9	ユーザを編集する	134
4.9.1	画面の構成 (ユーザの編集)	134
4.9.2	操作手順 (ユーザの編集)	138
5	BLC のカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)	141
5.1	帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)	142
5.1.1	ユーザ定義クラスのインポート (BLC 帳票の場合)	142
5.1.2	サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (BLC 帳票の場合)	142
5.1.3	クライアント側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ	152
5.2	BLCDirs クラスに関するカスタマイズ	158
5.2.1	BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ	158
5.2.2	BLCDirs クラスのカスタマイズ	159
5.3	クライアント表示機能のカスタマイズ	160
5.3.1	ポータルホームのカスタマイズ	160
5.3.2	メニューポートレットのカスタマイズ	161
5.3.3	ワークフローポートレットのカスタマイズ	164
5.3.4	ワークフローメニュータブのカスタマイズ	166
5.3.5	BLC のスタイルシート	167
5.3.6	BLC の javascript ファイル	168
5.3.7	BLC で起動する画面のサイズ	168
5.4	認証処理機能のカスタマイズ	170
5.4.1	BLC 認証	170
5.4.2	BLC 認証確認	170

5.5	一覧処理機能のカスタマイズ	172
5.5.1	【受信ボックス】画面のカスタマイズ	172
5.5.2	【送信ログ】画面のカスタマイズ	177
5.6	プロパティファイルのカスタマイズ	183
5.6.1	BLC プロパティファイルのカスタマイズ	183
5.6.2	メッセージプロパティファイルのカスタマイズ	183
5.6.3	ストリングリソースプロパティファイルのカスタマイズ	185
5.7	エラー情報表示ページのカスタマイズ	187
5.7.1	BLC 例外	187
5.7.2	エラー情報表示ページ	188
5.8	そのほかのカスタマイズ	189
5.8.1	案件履歴の追加 (BLCDBFormDataHistoryOperation クラス, BLCDBPIHistoryElement クラス)	189
5.8.2	ユーザアプリケーションからの申請 (BLCWFPIStart クラス)	190
5.8.3	宛先の未指定のチェック	194
5.8.4	メールの送信 (BLCMail クラス)	195
5.8.5	案件の引き戻しと差し戻し (BLCFWIWBackward クラス)	196

第3編 EUR Form 連携帳票の操作編

6	帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (EUR Form 連携帳票の場合)	201
6.1	開発作業の流れ (EUR Form 連携帳票の場合)	202
6.2	帳票を作成する (EUR Form 連携帳票の場合)	203
6.2.1	例題の内容 (EUR Form 連携帳票の場合)	203
6.2.2	帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (EUR Form 連携帳票の場合)	204
6.2.3	開発環境を設定する (EUR Form 連携帳票の場合)	205
6.2.4	帳票定義を作成する (EUR Form 連携帳票の場合)	207
6.2.5	帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (EUR Form 連携帳票の場合)	217
7	BLC 実行環境を使う (EUR Form 連携帳票の場合)	219
7.1	BLC 帳票の場合と同様のもの	220
7.2	送信ログから申請する	221
8	BLC のカスタマイズ方法 (EUR Form 連携帳票の場合)	223
8.1	帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)	224
8.1.1	ユーザ定義クラスのインポート (EUR Form 連携帳票の場合)	224
8.1.2	サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)	224
8.2	EUR Form 帳票遷移 JSP のカスタマイズ	234
8.3	ユーザ追加処理による帳票データの変更方法	236

8.4	送信ログからの申請の設定方法	237
8.5	そのほかのカスタマイズ	239
8.5.1	BLC 帳票の場合と同様のカスタマイズ	239
8.5.2	宛先の未登録のチェック (BLCEURFormBase クラス)	240
8.5.3	帳票データの出力 (BLCDBFormDataOperation クラス)	240
8.5.4	データの更新を伴わない作業完了処理 (BLCEURFormProcess クラス)	240

第4編 運用編

9

電子フォームワークフローの運用	243	
9.1	開始と終了	244
9.1.1	電子フォームワークフローの開始	244
9.1.2	電子フォームワークフローの終了	244
9.2	バックアップとリストア	245
9.2.1	データのバックアップ	245
9.2.2	データのリストア	245
9.3	データベース稼働中のバックアップ	246
9.4	データベースの再編成	247
9.4.1	データベースを再編成する必要性	247
9.4.2	データベース再編成の方法	247
9.5	帳票のバージョンアップ	248
9.5.1	帳票だけをバージョンアップする場合	248
9.5.2	ビジネスプロセスだけをバージョンアップする場合	251
9.5.3	帳票とビジネスプロセスをバージョンアップする場合	251
9.6	電子フォームワークフローの運用上の注意事項	252
9.6.1	複数のアプリケーションサーバ使用時の帳票登録方法	252
9.6.2	文字コードの扱い	252
9.6.3	文字コードの範囲	252
9.6.4	BLC のカスタマイズ方法	252
9.6.5	案件名に関する注意事項	252
9.6.6	EUR Form 連携帳票使用時の注意事項	252
9.6.7	uCosminexus EUR Developer で BLC 連携用帳票を作成する場合の注意事項	254

10

ユーザの管理	257	
10.1	ユーザ情報の管理	258
10.1.1	ユーザ情報管理の流れ	258
10.1.2	ユーザ情報管理の画面構成および制限事項	259
10.1.3	役職の管理	262
10.1.4	組織の管理	266

10.1.5 ユーザの管理	271
10.1.6 役職・組織・ユーザの一括登録	283
10.2 アクセス制御の管理	289
10.2.1 ユーザの権限とアクセス制御	289
10.2.2 ログイン可否のステータスとアクセス制御	290
10.2.3 管理機能とアクセス制御	290
10.2.4 帳票・メニューポートレットの表示とアクセス制御	291

11 案件管理機能 293

11.1 案件を検索する	294
11.1.1 案件の検索で使用する画面の構成	294
11.1.2 操作手順（案件の検索）	300
11.1.3 保管案件を照会するための環境設定	301
11.1.4 添付ファイルを参照する場合のカスタマイズ	302
11.2 検索した案件を強制終了する	303
11.2.1 【案件強制終了】画面の構成	303
11.2.2 操作手順（案件の強制終了）	303

12 BLC のユティリティ 305

12.1 完了案件削除ユティリティ	306
12.1.1 完了案件削除ユティリティを実行する環境	307
12.1.2 完了案件削除ユティリティ実行時の前提条件	307
12.1.3 完了案件削除ユティリティを使用するための環境設定	308
12.1.4 完了案件削除ユティリティの実行方法	320
12.1.5 完了案件削除ユティリティの実行用ファイル	331

13 障害対策 335

13.1 障害対策の流れ	336
13.2 電子フォームワークフローの障害対策	337
13.2.1 BLC トレースファイル (BLC)	337
13.2.2 トレースファイルの出力形式 (BLC)	337
13.2.3 BLC が出力する情報	338
13.2.4 ユーザ追加処理クラスでのトレース出力	339
13.3 BLC のユティリティの障害対策	340
13.3.1 トレースファイル (BLC のユティリティ)	340
13.3.2 プロパティファイルで設定できる項目	340
13.3.3 トレースファイルの出力形式 (BLC のユティリティ)	340
13.3.4 完了案件削除ユティリティ実行時の障害	342
13.4 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の障害対策	345

第5編 任意追加機能サンプル編

14	一括承認機能	347
14.1	一括承認機能の概要	348
14.1.1	一括承認機能を使用する場合のBLCのポータル画面の構成例	348
14.1.2	一括承認機能で使用する画面例	348
14.1.3	一括承認機能を使用する際の注意事項	353
14.2	一括承認機能を使用するための条件	354
14.3	一括承認機能を使用するための環境設定	355
14.3.1	提供する一括承認機能のサンプルファイル	355
14.4	一括承認機能のカスタマイズ	357
14.4.1	ワークフローメニュータブ（「一括承認受信ボックス」）のカスタマイズ	357
14.4.2	BLCLinboxBC.jspのカスタマイズ	358
14.4.3	BLCLinboxItemBC.jspのカスタマイズ	358
14.4.4	BLCFMCwiGetListBC.jspのカスタマイズ	358
14.4.5	BLCWWFwiBCSample.jspのカスタマイズ	358
15	申請帳票画面へのリンク機能	361
15.1	申請帳票画面へのリンク機能の概要	362
15.2	申請帳票画面へのリンク機能の使用方法	364
15.3	申請帳票画面へのリンク機能のエラー処理	365
16	引き戻し機能	367
16.1	引き戻し機能の概要	368
16.1.1	引き戻し機能で使用する画面	368
16.1.2	引き戻し機能のメッセージ	370
16.2	引き戻し機能を使用するための条件	372
16.3	引き戻し機能を使用するための環境設定	373
16.3.1	データベースの定義	373
16.3.2	データベース定義の追加	373
16.3.3	ビジネスプロセスの登録	374
16.3.4	EUR Form 連携帳票のカスタマイズ	374
16.3.5	BLC 実行環境のカスタマイズ	374
16.3.6	提供する引き戻し機能のサンプルファイル	375
16.4	引き戻し機能の注意事項	377
16.5	BLCDBAccess クラス	378
17	拡張受信ボックス機能	379
17.1	拡張受信ボックス機能の概要	380

17.2	拡張受信ボックス機能を利用するための環境設定	381
17.3	拡張受信ボックス機能のビュー定義	382
17.4	拡張受信ボックス機能のカスタマイズ	385

18

保管案件の照会機能		389
18.1	保管案件の照会機能の概要	390
18.2	保管案件の照会機能で使用する画面	392
18.2.1	画面の構成	392
18.2.2	処理のフロー	399
18.3	保管案件の照会機能のメッセージ	404
18.4	保管案件の照会機能を利用するための環境設定	405
18.5	保管案件の照会機能のカスタマイズ	406
18.6	保管案件の照会機能の注意事項	408

19

案件の振り替え機能		409
19.1	案件の振り替え機能の概要	410
19.1.1	案件の振り替え機能に関連する権限	410
19.1.2	機能の概要（案件の振り替え機能）	410
19.1.3	代行権限と案件の振り替え機能の関係	411
19.2	案件の振り替え機能を使用するための環境設定	412
19.2.1	代行権限の設定	412
19.2.2	メニューポートレットのカスタマイズ	412
19.2.3	ワークフローメニュータブのカスタマイズ	415
19.3	画面の構成（案件の振り替え）	417
19.3.1	【代行者一覧】画面の構成	417
19.3.2	【代行依頼者一覧】画面の構成	419
19.3.3	【案件振替】画面の構成	421
19.3.4	【共有トレイ一覧】画面の構成	423
19.3.5	【共有トレイ管理】画面の構成	424
19.3.6	【共有トレイ登録】画面の構成	426
19.3.7	【共有トレイ更新】画面の構成	428
19.3.8	【共有トレイ利用者一覧】画面の構成	430
19.3.9	ユーザ選択画面の構成	433
19.4	操作手順（案件の振り替え）	435
19.4.1	代行者または振替作業者の設定	435
19.4.2	代行案件の処理	436
19.4.3	代行依頼者の案件の振り替え	436
19.4.4	共有トレイの案件の振り替え	437
19.4.5	共有トレイの設定	438
19.4.6	共有トレイ利用者の設定	440

付録

付録 A 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面とダイアログ	443
付録 A.1 メイン画面	444
付録 A.2 [名前を付けて保存] ダイアログ	449
付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ	450
付録 A.4 [生成オプションの追加] および [生成オプションの編集] ダイアログ	453
付録 A.5 [帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)	454
付録 A.6 [帳票定義] 画面 (EUR Form 連携帳票の場合)	461
付録 A.7 [作業関連] タブに関連するダイアログ	466
付録 A.8 [帳票モジュールの編集] ダイアログ	467
付録 A.9 [帳票 ID の選択] および [帳票モジュール ID の選択] ダイアログ	468
付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ	469
付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ	470
付録 A.12 [帳票モジュール定義] 画面	471
付録 A.13 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ	476
付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ	477
付録 A.15 [項目グループ定義編集] ダイアログ	484
付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ	486
付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ	490
付録 A.18 [条件定義] ダイアログ	492
付録 A.19 [条件選択] ダイアログ	495
付録 A.20 [SQL 定義] ダイアログ	496
付録 B ビジネスプロセス定義に関する情報	499
付録 B.1 ビジネスプロセス定義とのインタフェース	499
付録 B.2 ビジネスプロセス定義に対応するユーザ追加処理の例	501
付録 C BLC のクラス	504
付録 C.1 BLC クラス一覧	504
付録 C.2 DB アクセス定義実行クラスの補足情報	506
付録 C.3 認証処理クラスの補足情報	507
付録 C.4 共通クラスの補足情報	509
付録 C.5 案件処理フレームワーククラス	510
付録 D 電子フォームワークフローのデータベース	513
付録 D.1 注意事項	513
付録 D.2 名称規則	513
付録 D.3 BLCMASTER データベース	514
付録 D.4 BLCDIRS データベース	523
付録 D.5 完了案件の保管用データベース	533
付録 E 電子フォームワークフローのファイル	543
付録 E.1 BLC プロパティファイル	543
付録 E.2 スtringリソースプロパティファイル	552

付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報	612
付録 E.4 完了案件削除ユティリティのプロパティファイル	614
付録 F サンプル帳票の構築方法	619
付録 F.1 提供する BLC 帳票用サンプルデータ	619
付録 F.2 提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータ	622
付録 F.3 提供する添付ファイル用サンプルデータ	624
付録 F.4 引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルデータ	626
付録 F.5 サンプル帳票作成時に必要な作業	628
付録 G 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則	630
付録 H 添付ファイルの使用方法	634
付録 H.1 BLC 帳票の添付ファイルの使用方法	634
付録 H.2 EUR Form 連携帳票の添付ファイルの使用方法	643
付録 H.3 帳票のサイズチェック機能	651
付録 I メッセージ	653
付録 I.1 メッセージの概要	653
付録 I.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のメッセージ	653
付録 I.3 帳票ファイル (JSP 形式) 生成時のエラーメッセージ	666
付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ	691
付録 J このマニュアルの参考情報	738
付録 J.1 関連マニュアル	738
付録 J.2 このマニュアルでの表記	739
付録 J.3 英略語	740
付録 J.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	741
付録 K 用語解説	742

1

電子フォームワークフローの概要

この章では、電子フォームワークフローの概要、システム構成、および前提環境について説明します。

1.1 電子フォームワークフローとは

電子フォームワークフローとは、電子フォームとワークフローの技術の連携によって、業務プロセスの可視化を実現する製品です。BLC は、電子フォームワークフローで実現する機能のうち、ワークフローに対応する Web 帳票アプリケーションの開発と実行を支援する基盤となるプログラムです。開発を支援するプログラムでは、Web 帳票アプリケーションの構成要素となる情報を結合して、JSP 形式の Web 帳票アプリケーションを生成します。実行を支援するプログラムでは、生成した Web 帳票アプリケーションを実行するための、標準的な実行環境を提供します。

この節では、電子フォームワークフローの概要を説明します。

1.1.1 電子フォームワークフローの特長

電子フォームワークフローでは、Web 帳票アプリケーションの構成要素となる情報（ユーザインタフェースやビジネスプロセス定義など）を独立した部品として扱うため、ユーザがそれぞれの情報を個別に定義および変更できます。情報を変更した場合は、変更した情報だけを電子フォームワークフローに入力すれば Web 帳票アプリケーションを再生成できます。このため、電子フォームワークフローを使用すると、開発しながらユーザインタフェースの詳細な仕様を決定したり、運用後に機能を追加したりといった、Web 帳票アプリケーションの段階的な改良を実現できます。

また、電子フォームワークフローを使用して Web 帳票アプリケーションを改良する場合、次のような利点があります。

効率良く改良できる

電子フォームワークフローでは、生成した Web 帳票アプリケーションの定義情報をひな形として保存し、Web 帳票アプリケーションの改良時に再利用できます。このため、Web 帳票アプリケーションを効率良く改良できます。

安全に改良できる

電子フォームワークフローを使用すると、Web 帳票アプリケーションの JSP ファイルをユーザが直接変更しないで済みます。このため、保守性が高く、Web 帳票アプリケーションを安全に改良できます。

1.1.2 電子フォームワークフローの主な機能

電子フォームワークフローの主な機能を次に示します。

- 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能
Web 帳票アプリケーションを自動的に生成する機能です。帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、入力された Web 帳票アプリケーションの構成要素となる情報を結合して、JSP ファイルを生成します。
- BLC 実行環境機能
電子フォームワークフローを使用して作成した Web 帳票アプリケーションの、標準的な実行環境としての機能です。ユーザが帳票を処理する画面を表示するクライアント表示機能、処理待ち作業や送信ログなどの一覧処理機能、案件処理機能などがあります。
- カスタマイズ機能
帳票のボタン処理や実行環境などをユーザが任意にカスタマイズする機能です。カスタマイズするための Java クラスなどを提供しています。

各機能の詳細は、「2. 電子フォームワークフローの機能」を参照してください。

1.1.3 Web 帳票アプリケーションの構成要素

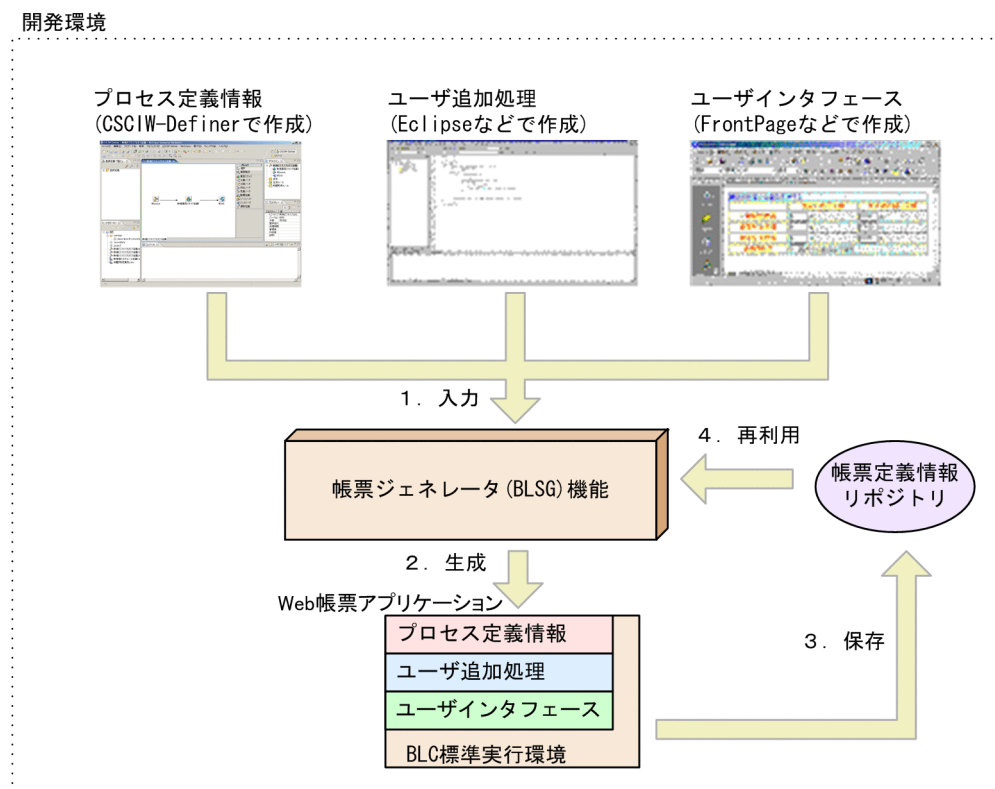
電子フォームワークフローで Web 帳票アプリケーションを生成するには、Web 帳票アプリケーションの構成要素となる情報を入力する必要があります。電子フォームワークフローに入力する情報を次に示します。

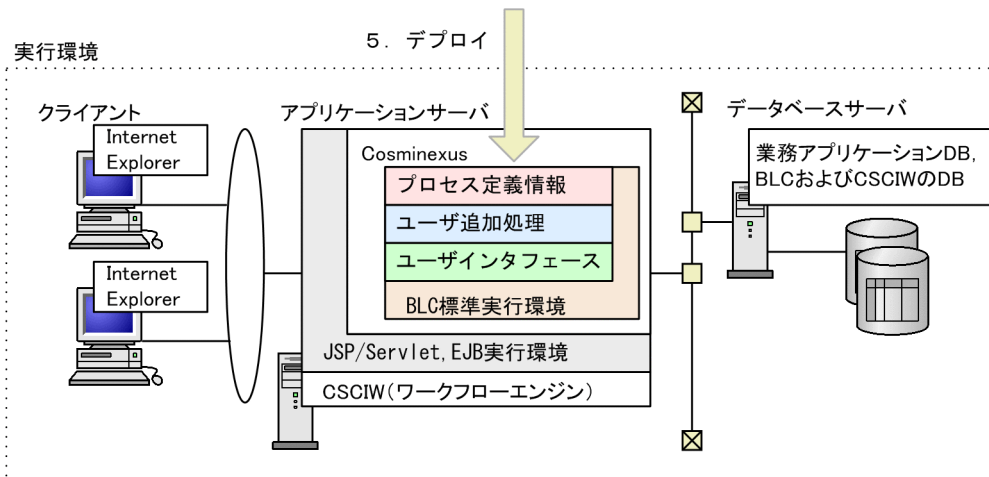
- プロセス定義情報
 プロセス定義情報とは、ビジネスプロセス定義の情報のことです。
 プロセス定義情報として電子フォームワークフローに入力するデータは、CSCIW-Definer を使ってユーザが作成した、ビジネスプロセス定義ファイルです。
- ユーザ追加処理
 ユーザ追加処理とは、帳票のボタン処理などにユーザが任意に追加する処理のことです。必要に応じて作成してください。
 ユーザ追加処理として電子フォームワークフローに入力するデータは、JavaScript や Java クラスを作成するツール (Eclipse など) を使ってユーザが作成した、JSP ファイルおよび Java ファイルです。
- ユーザインタフェース
 ユーザインタフェースとは、帳票の画面のことです。
 ユーザインタフェースとして電子フォームワークフローに入力するデータは、HTML エディタなどを使ってユーザが作成した、HTML ファイルです。HTML エディタには、Microsoft の FrontPage などがあります。

1.1.4 電子フォームワークフローの処理概要

電子フォームワークフローの処理概要を次に示します。

図 1-1 電子フォームワークフローの処理概要





図の説明

1. ユーザが作成した「プロセス定義情報」, 「ユーザ追加処理」, および「ユーザインタフェース」を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に入力します。
2. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では, 「プロセス定義情報」, 「ユーザ追加処理」, および「ユーザインタフェース」を結合し, JSP 形式の Web 帳票アプリケーションを生成します。
3. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義した情報は, 帳票定義情報リポジトリに保存されます。
4. Web 帳票アプリケーションを変更する場合は, 帳票定義情報リポジトリに保存されている定義情報を再利用できます。例えば, 変更した「ユーザインタフェース」だけを帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に入力すれば, 前回の定義情報を再利用して Web 帳票アプリケーションを生成できます。
5. 生成した Web 帳票アプリケーションを実行環境のアプリケーションサーバにデプロイすると, Web 帳票アプリケーションが実行できるようになります。

注 1

開発環境で行う 1.~4.の操作について, 参照先を次に示します。

- 概要は, 「2.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能」を参照してください。
- BLC 帳票を使う場合は, 「3. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)」を参照してください。
- EUR Form 連携帳票を使う場合は, 「6. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

注 2

5.の操作については, マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

注 3

実行環境で行う操作について, 参照先を次に示します。

- BLC 帳票を使う場合は, 「4. BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)」を参照してください。
- EUR Form 連携帳票を使う場合は, 「7. BLC 実行環境を使う (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

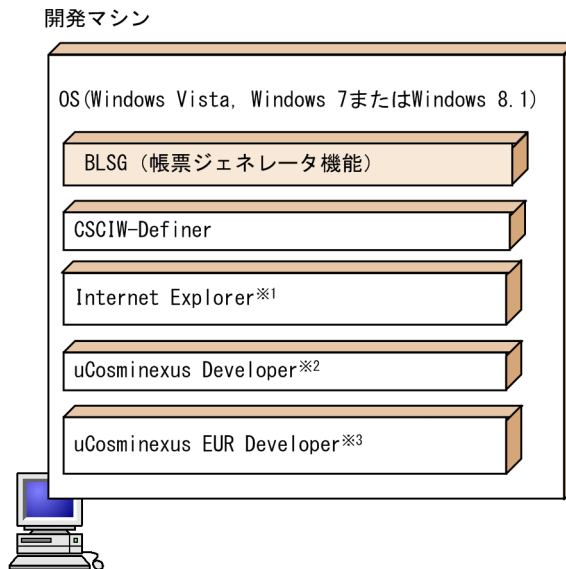
1.2 システム構成

この節では、電子フォームワークフローのシステム構成を説明します。

1.2.1 開発環境のシステム構成

開発環境のシステム構成を次に示します。

図 1-2 開発環境のシステム構成



注※1 ビジネスプロセス定義ファイルを解析するために、これらのソフトウェアのXMLパーサ機能が必要です。

注※2 WebプロジェクトまたはEARプロジェクトを作成する場合に必要です。

注※3 EUR Form連携帳票を使う場合に必要です。

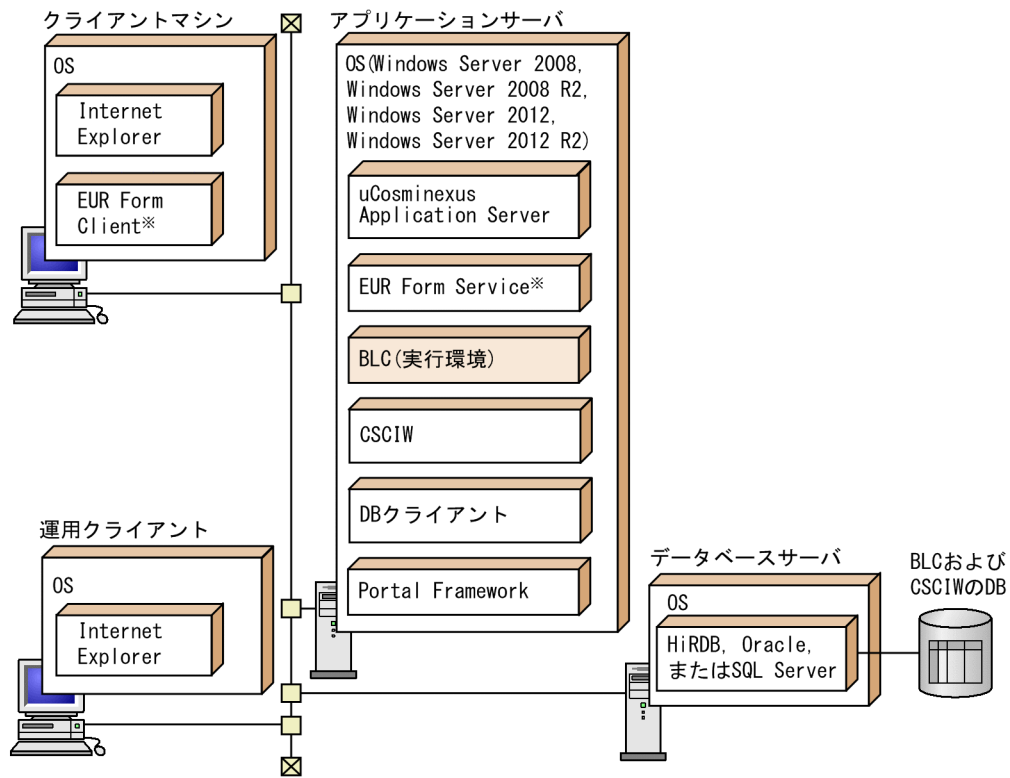
1.2.2 実行環境のシステム構成

実行環境は、標準的に次に示す機器で構成されます。

- クライアントマシン
- アプリケーションサーバ
- データベースサーバ

実行環境のシステム構成を次に示します。

図 1-3 実行環境のシステム構成



注※ EUR Form連携帳票を使う場合に必要です。

1.3 前提環境

この節では、電子フォームワークフローを使用する場合に前提となる環境を説明します。

1.3.1 開発環境の前提環境

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して Web 帳票アプリケーションを作成するための前提環境を次に示します。

(1) 前提 OS

次のどちらかを設定してください。

- Windows 8.1
- Windows 7
- Windows Vista

(2) 前提ソフトウェア

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して Web 帳票アプリケーションを作成するには、次のソフトウェアが必要です。

- HTML ファイルを作成するツール (HTML エディタなど)
BLC 帳票を使う場合に必要なツールです。
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、BLC 帳票を作成するための入力データとして、帳票の画面となる HTML ファイルが必要です。この HTML ファイルを作成するために、HTML エディタなどを使用します。HTML エディタには、Microsoft の FrontPage などがあります。
- uCosminexus EUR Developer
EUR Form 連携帳票を使う場合に必要なツールです。
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、EUR Form 連携帳票を作成するための入力データとして、送信ユニット情報の一覧表ファイル (EUR Form では一覧表ファイルと呼びます) が必要です。この送信ユニット情報の一覧表ファイルを作成するために、uCosminexus EUR Developer を使用します。
- CSCIW-Definer
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、入力データとしてビジネスプロセス定義ファイルが必要です。ビジネスプロセス定義ファイルを作成するために、このソフトウェアを使用します。
- Internet Explorer
ビジネスプロセス定義ファイルを解析するために、これらのソフトウェアの XML パーサ機能が必要です。

(3) 関連ソフトウェア

- JavaScript や Java クラスを作成するツール (Eclipse など)
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、帳票のボタン処理などにユーザの任意の処理を追加できます。ユーザの任意の処理は、JavaScript や Java クラスで作成します。このため、ユーザの任意の処理を追加する場合は、このソフトウェアが必要です。
- uCosminexus Developer
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成したファイルを、ウィザードを使用して Web プロジェクトまたは EAR プロジェクトに変換したい場合は、このソフトウェアが必要です。

1.3.2 実行環境の前提環境

BLC 実行環境機能を使用して Web 帳票アプリケーションを実行するための前提環境を次に示します。

(1) クライアントマシン

クライアントマシンには、次のソフトウェアを設定してください。

- Internet Explorer
- EUR Form Client*

注※ EUR Form 連携帳票を使う場合に必要なソフトウェアです。

(2) アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバには、次の OS およびソフトウェアを設定してください。

- Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012 または Windows Server 2012 R2
- データベースサーバに対応した DB クライアント
 - HiRDB/Run Time または HiRDB/Developer's Kit
 - Oracle Client
 - SQL Server
- uCosminexus Application Server
- CSCIW
- Portal Framework
- EUR Form Service*

注※ EUR Form 連携帳票を使う場合に必要なソフトウェアです。

(3) データベースサーバ

データベースサーバには、次のソフトウェアを設定してください。なお、データベースサーバの OS には、次のソフトウェアの前提 OS を設定してください。

HiRDB の場合

HiRDB/Single Server または HiRDB/Parallel Server

Oracle の場合

Oracle

SQL Server の場合

SQL Server

(4) 運用クライアント

運用クライアントには、次のソフトウェアを設定してください。なお、運用クライアントの OS には、次のソフトウェアの前提 OS を設定してください。

- Internet Explorer

2

電子フォームワークフローの機能

この章では、電子フォームワークフローで作成する帳票の詳細、および電子フォームワークフローの各機能について説明します。

2.1 電子フォームワークフローの帳票

この節では、電子フォームワークフローで作成する Web 帳票アプリケーション（以降、帳票と呼びます）の基本的な構造や機能、および特殊な帳票について説明します。

電子フォームワークフローで処理できる帳票には、次の二つの形式があります。

- BLC 帳票
HTML ファイルを入力データとして、帳票ジェネレータ（BLSG）機能で生成した帳票です。
- EUR Form 連携帳票
uCosminexus EUR Developer で BLC 連携用帳票として生成した帳票（以降 EUR Form 帳票と呼びます）の送信ユニット情報の一覧表ファイル（EUR Form では一覧表ファイルと呼びます）を入力データとして、帳票ジェネレータ（BLSG）機能で生成した EUR Form 帳票を表示するための連携帳票です。

BLC 帳票および EUR Form 連携帳票の特長を次に示します。

BLC 帳票の特長

- HTML ファイルで帳票画面情報を定義します。
- 作業（WorkItem）ごとに、モジュール単位で表示属性（入力/参照/非表示）を定義できます。
- ユーザ追加処理でカスタマイズできます。
- 特殊な帳票（DB アクセス専用帳票およびカスタム申請帳票）を作成できます。
- 帳票ジェネレータ（BLSG）機能で、簡易 DB アクセス機能を定義できます。

EUR Form 連携帳票の特長

- 申請前の帳票をクライアント環境に保存できます。入力済みの帳票の控えを残せません。
クライアント環境に保存した帳票から案件を申請するためには、電子フォームワークフローにログインするためのカスタマイズが必要です。
- 独自の印刷機能で、罫線と入力したデータの調和が取れた帳票を印刷できます。
- GUI で見やすい日本型帳票を作成できます。
- 作業（WorkItem）ごとに、帳票コントロール単位で表示属性（入力/参照/非表示）を定義できます。
- ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

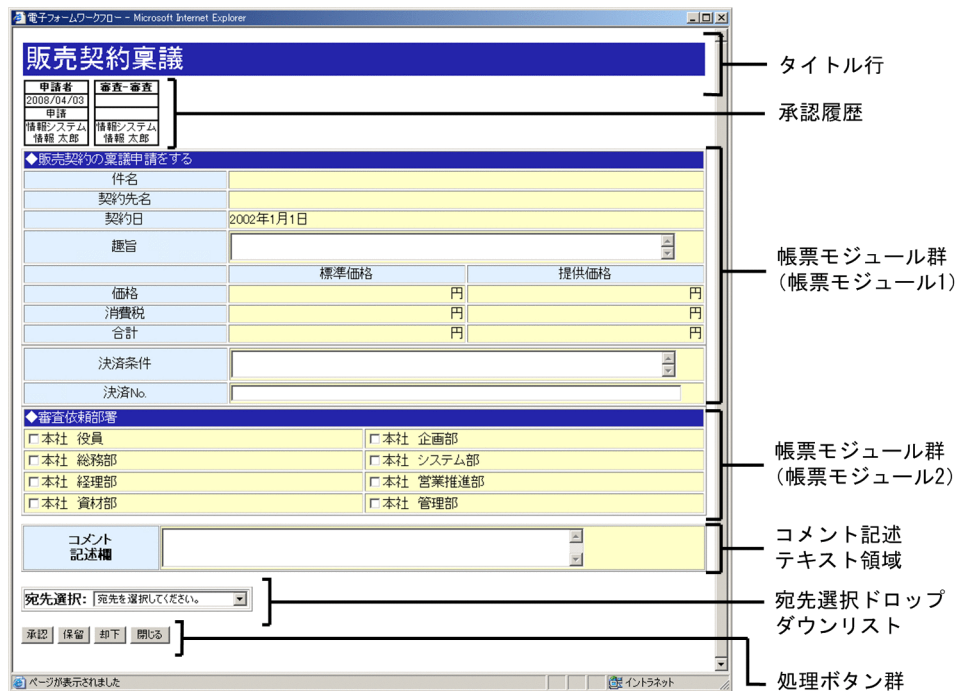
2.1.1 BLC 帳票

この項では、BLC 帳票の基本構造、BLC 帳票の機能、および特殊な BLC 帳票について説明します。

(1) BLC 帳票の基本構造

BLC 帳票の基本的な構造を次に示します。

図 2-1 BLC 帳票の構造



帳票を構成する各部について説明します。

タイトル行

帳票のタイトルが表示されます。タイトル行は、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。カスタマイズ方法の詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

承認履歴

案件の履歴が表示されます。

案件の履歴は、BLC プロパティファイル (BLC.BLCproperties) の DispHistory キーに true を指定した場合に表示されます。

帳票モジュール群

帳票モジュールが表示されます。帳票モジュールとは、帳票の内容を構成する要素です。複数の帳票モジュールを組み合わせて一つの帳票を表現します。

帳票の内容のうち共通的な部分を帳票モジュールとして部品化して、ほかの帳票にも使用できます。

また、帳票モジュールは、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。カスタマイズ方法の詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」, または「付録 A.14(3) [動作] タブ」を参照してください。

帳票モジュールを構成するテキスト領域やボタンなどは、**帳票モジュール項目**といいます。

帳票モジュールおよび帳票モジュール項目は、ビジネスプロセスのノードごとに表示/非表示を切り替えられます。

なお、帳票モジュールの HTML ソースは、FrontPage などの HTML エディタで開発します。

コメント記述テキスト領域

コメントを記述するテキスト領域が表示されます。コメント記述テキスト領域は、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。カスタマイズ方法の詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」, または「付録 A.14(3) [動作] タブ」を参照してください。

宛先選択ドロップダウンリスト

帳票の次の遷移先を選択するためのドロップダウンリストが表示されます。宛先選択ドロップダウンリストは、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。カスタマイズ方法の詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

処理ボタン群

帳票を処理するためのボタンが表示されます。処理ボタンは、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。カスタマイズ方法の詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

(2) BLC 帳票の機能

ここでは、BLC 帳票の機能について説明します。

(a) 帳票モジュールの表示制御機能

帳票モジュールは、次のような表示制御ができます。

- ビジネスプロセスのノードごとに、帳票モジュールの表示/非表示を切り替える
- ビジネスプロセスの申請ノードと承認ノードで、帳票モジュールの状態を次のどちらかに切り替える
入力：帳票モジュールにユーザがデータを入力できる状態。

参照：帳票モジュールにデータが表示される状態。ユーザはデータを更新できない。

帳票モジュールの表示制御の例

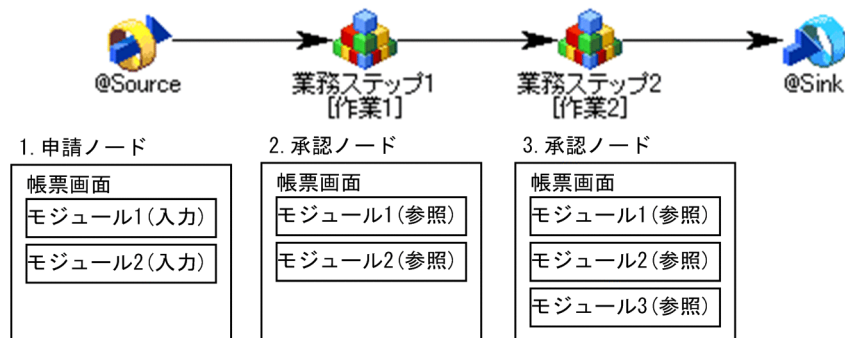
ある帳票に三つの帳票モジュール（「モジュール 1」, 「モジュール 2」, および「モジュール 3」）があるとします。これらの帳票モジュールの表示/非表示および入力/参照を、次の表のとおりノードごとに切り分けます。

表 2-1 帳票モジュールの表示制御の設定例 (BLC 帳票)

ノード名	帳票モジュール名	設定内容
@Source	モジュール 1	入力
	モジュール 2	入力
	モジュール 3	非表示
作業 1	モジュール 1	参照
	モジュール 2	参照
	モジュール 3	非表示
作業 2	モジュール 1	参照
	モジュール 2	参照
	モジュール 3	参照

表 2-1 のように設定した場合、帳票モジュールはノードごとで次の図のような状態で表示されます。

図 2-2 帳票モジュールのノードごとの状態



図の説明

1. 申請ノード「@Source」

モジュール 1 とモジュール 2 が入力できる状態で表示されます。モジュール 3 は表示されません。

2. 承認ノード「作業 1」

モジュール 1 とモジュール 2 が参照状態で表示されます。モジュール 3 は表示されません。

3. 承認ノード「作業 2」

モジュール 1, モジュール 2, およびモジュール 3 が参照状態で表示されます。

(b) 帳票モジュール項目の表示制御機能

帳票モジュール項目は、次のような表示制御ができます。

表示および状態の切り替え

帳票モジュールと同様に、申請ノードまたは承認ノードでの表示/非表示および入力/参照を切り替えられます。

プロパティ情報の設定

帳票モジュール項目に対して、初期値となるプロパティ情報を設定できます。設定できる主な情報を次に示します。

- 項目変数名
- 項目長
- 項目初期値
- データ種別
- 入力規則
- 入力チェック条件

帳票モジュール項目のグループ化

複数の帳票モジュール項目をグループ化して、**項目グループ**として定義できます。項目グループを定義すると、項目グループ単位で入力チェックを実行します。また、データベースへの書き出し処理などを項目グループ単位で実行することもできます。

例えば、帳票上の「年」、「月」、および「日」の三つの帳票モジュール項目を一つの項目グループとして「年月日」と定義します。この「年月日」に対して日付チェックをしたり、データベースとの入出力処理をしたりできます。

<表示制御の規則について>

2 電子フォームワークフローの機能

表示制御には、[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブから [帳票モジュールの編集] ダイアログを起動して行う設定、および [帳票モジュール定義] 画面の [項目入力・表示制御] タブで設定した内容の組み合わせに応じて、次の規則があります。

[帳票モジュールの編集] ダイアログの詳細は「付録 A.8 [帳票モジュールの編集] ダイアログ」、[項目入力・表示制御] タブの詳細は「付録 A.12(2) [項目入力・表示制御] タブ」をそれぞれ参照してください。

表示制御の規則を次に示します。

表 2-2 表示制御の規則

帳票 モジュール	帳票モジュール項目					
	項目入力・表示制御					
	申請帳票			承認帳票		
	選択なし	非入力	非表示	選択なし	入力	非表示
入力	○	△	×※1	○	○	×※1
参照	△	△	×※1	△	○	×※1
非表示	×※2	×※2	×※2	×※2	×※2	×※2

(凡例)

○：入力

△：表示（参照）

×：非表示

注※1

帳票モジュール項目だけ非表示になります。

注※2

帳票モジュール全体が非表示になります。

(c) 承認履歴表示機能

作業の発生および完了を示す承認履歴の情報を、帳票の上部に表示します。

承認履歴は、BLC プロパティファイル (BLC.BLCproperties) の DispHistory キーに true を指定した場合に表示されます。承認履歴の表示形式および表示内容を次に示します。

承認履歴は、左から順に表示されます。

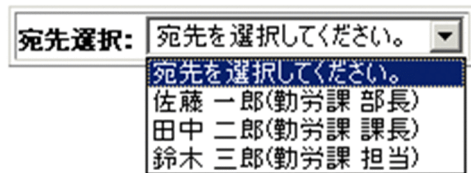
図 2-3 承認履歴の表示形式および表示内容

申請者	審査-審査	} 完全作業名 } 処理日付 } 処理名 (ボタン名) } 組織略称および氏名
2002/09/22	2002/09/22	
申請	承認	
勤務課 鈴木 三郎	勤務課 田中 二郎	

(d) 宛先選択機能

ノードごとに宛先（次ノードの作業員）を選択させるかどうかを、帳票作成時に設定できます。宛先を選択させる設定にした場合、宛先を選択するためのドロップダウンリストが帳票の下部に表示されます。宛先選択ドロップダウンリストの例を次に示します。

図 2-4 宛先選択ドロップダウンリスト



(e) 処理ボタン表示機能

帳票の下部に、標準で次のボタンを表示できます。

申請帳票の場合

[申請] ボタン：入力チェック後、案件を開始します。

[閉じる] ボタン：画面を閉じます。

承認帳票の場合

[承認] ボタン：入力チェック後、作業を完了させます。

[閉じる] ボタン：画面を閉じます。

(f) DB アクセス実行機能

帳票上でDBアクセスを実行できます。DBアクセスは、基本的に帳票ジェネレータ（BLSG）機能で定義するDBアクセス定義を使用して実行します。DBアクセス定義は、帳票定義での標準的なDBアクセスおよびユーザ追加処理でのDBアクセスで使用できます。

DBアクセス定義では、次の項目を定義します。

• テーブル情報

DBアクセスについて、対象テーブル、対象カラム、およびクエリー条件を定義します。また、DBアクセスの実行条件も定義します。

• カラム項目情報

「テーブル情報」で定義した対象カラムと帳票モジュール項目の関係を定義します。

DBアクセス定義の詳細は、「3.5 DBアクセス定義の定義方法」を参照してください。

(g) 帳票モジュールの部品化機能

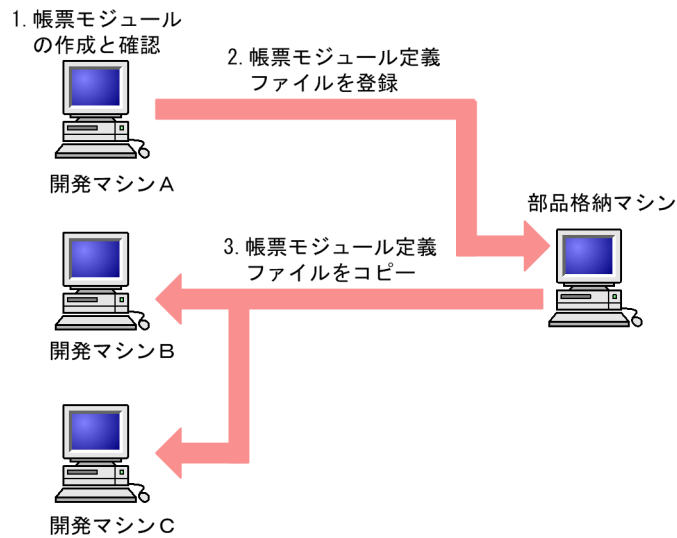
帳票モジュールは、部品としてほかの帳票にも使用できます。部品として共用できるのは、同一の開発マシン、つまり同一のデータフォルダを使用している場合だけです。

複数の開発マシン間で、帳票モジュールを部品として共用したい場合は、帳票モジュール定義ファイルを各開発マシンのデータフォルダ間でコピーして使用する必要があります。

帳票モジュール定義ファイルの詳細は、「付録 E.3(2) 保存および再利用するファイル」を参照してください。

複数の開発マシン間で帳票モジュールを共有する方法を、次に示します。

図 2-5 帳票モジュールの共有方法



図の説明

1. 開発マシン A で帳票モジュールを作成して、問題がないか確認する。
2. 問題がないことを確認した帳票モジュールを、帳票モジュール定義ファイルとして部品格納マシンに登録する。
3. 開発マシン A で作成した帳票モジュールを開発マシン B および C で使用したい場合は、部品格納マシンから開発マシン B および C のデータフォルダに、帳票モジュール定義ファイルをコピーする。

注意事項

開発マシン A のデータフォルダを、開発マシン B および C と共有しないでください。

(3) 特殊な BLC 帳票

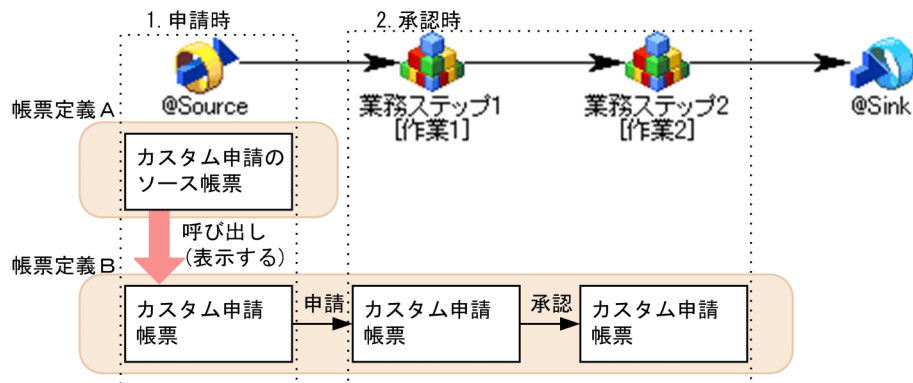
ここでは、特殊な BLC 帳票について説明します。

(a) カスタム申請のソース帳票

カスタム申請とは、申請画面を表示する条件を設定してから、その設定内容に基づいた申請画面を表示する方法です。申請画面を表示する条件を設定する帳票を**カスタム申請のソース帳票**といいます。また、設定内容に基づいて表示される申請画面の帳票を**カスタム申請帳票**といいます。カスタム申請のソース帳票とカスタム申請帳票は、それぞれ異なる帳票定義として定義します。

カスタム申請の流れを次に示します。

図 2-6 カスタム申請の流れ

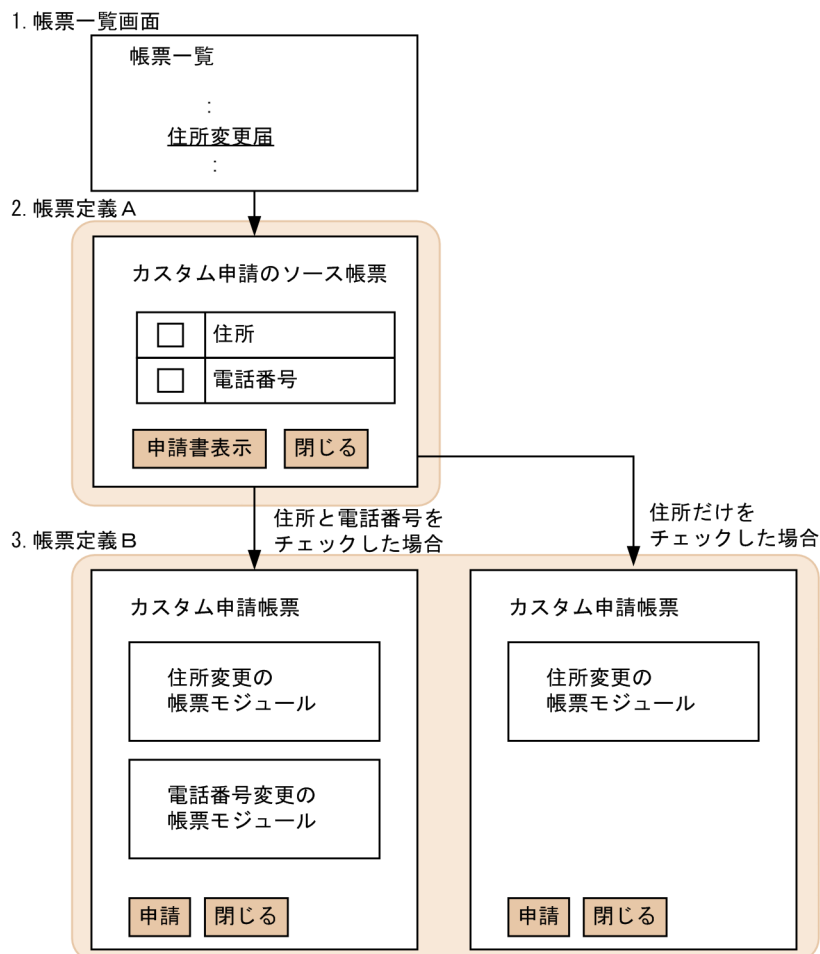


図の説明

1. 申請時は、最初にカスタム申請のソース帳票（帳票定義 A）が表示されます。この帳票で申請画面を表示する条件を設定すると、カスタム申請帳票（帳票定義 B）が呼び出されます。
 カスタム申請のソース帳票が表示されるのは、申請時だけです。
2. 承認時は、1.で申請されたカスタム申請帳票（帳票定義 B）が表示されます。

カスタム申請の概要を次に示します。

図 2-7 カスタム申請の概要



図の説明

1. BLC のポータル画面の帳票一覧画面から、目的の申請帳票「住所変更届」を選択します。
2. 申請帳票「住所変更届」の、カスタム申請のソース帳票（帳票定義 A）が表示されます。この帳票で、変更したい情報のチェックボックス（ここでは、「住所」と「電話番号」）をオンにします。
3. 2.で設定した条件に応じた、カスタム申請帳票（帳票定義 B）が表示されます。

カスタム申請のソース帳票には、次の処理ボタンが表示されます。

[申請書表示] ボタン

入力チェック後、カスタム申請帳票を表示します。なお、カスタム申請帳票が DB アクセス専用帳票の場合は、[申請書表示] ボタンではなく、[次へ] ボタンになります。

[閉じる] ボタン

画面を閉じます。

カスタム申請帳票には、一般の申請帳票と同じ処理ボタン（[申請] ボタンおよび [閉じる] ボタン）が表示されます。申請帳票の処理ボタンの詳細は、「2.1.2(2)(c) 処理ボタン表示機能」を参照してください。

なお、カスタム申請のソース帳票からカスタム申請のソース帳票を呼び出すことはできません。

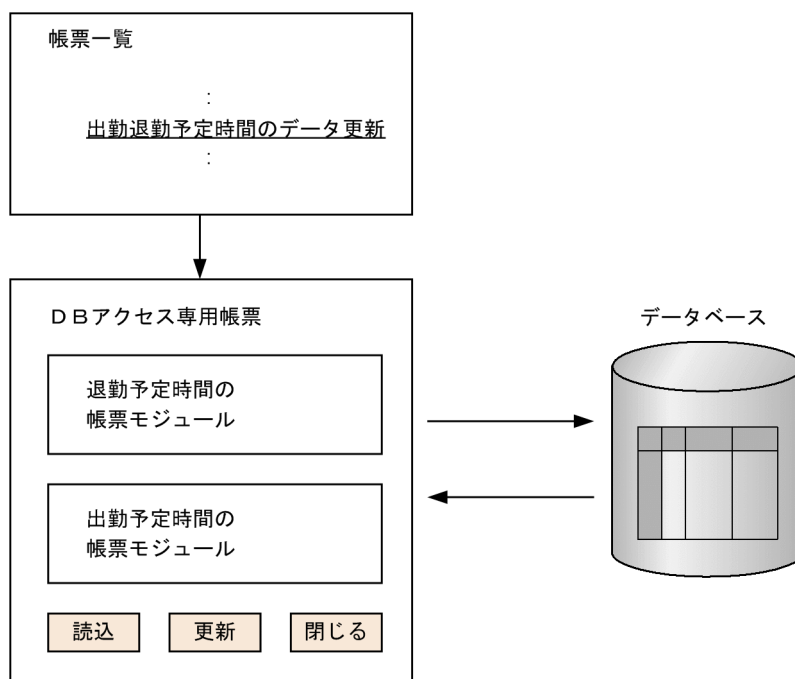
(b) DB アクセス専用帳票

DB アクセス専用帳票とは、案件の申請処理および承認処理を実行しないで、帳票からデータベースの更新だけを実行するための帳票です。

DB アクセス専用帳票は、CSCIW 上の案件を開始しないで、データベースの更新だけを実行する帳票ベースのデータベースアプリケーションです。このため、CSCIW の機能は使用しません。

DB アクセス専用帳票の概要を次に示します。

図 2-8 DB アクセス専用帳票の概要



DB アクセス専用帳票には、次の処理ボタンが表示されます。

【読込】 ボタン

入力チェック後、DB 入力処理の DB アクセス定義を実行します。DB 入力処理とは、データベースから帳票にデータを読み込む処理です。

その後、帳票を再表示して最新の状態にします。

【更新】 ボタン

入力チェック後、DB 出力処理の DB アクセス定義を実行します。DB 出力処理とは、帳票のデータをデータベースに反映する処理です。

その後、処理の結果を別ウィンドウに表示します。

【閉じる】 ボタン

画面を閉じます。

入力チェックの内容は、データベースのテーブルのカラム制約を意識して、正しく定義する必要があります。

DB アクセス定義の詳細は、「3.5 DB アクセス定義の定義方法」を参照してください。

DB アクセス専用帳票は、カスタム申請のソース帳票と組み合わせられます。カスタム申請のソース帳票と組み合わせることで、1 回目の DB アクセス専用帳票表示時の、DB 参照での SQL 検索条件などに値を与えられます。SQL 検索条件に値を引き継ぎたい項目は、カスタム申請のソース帳票で継承項目として定義する必要があります。

カスタム申請のソース帳票の定義方法については、「3.4.1(2) カスタム申請のソース帳票の作成手順」を参照してください。

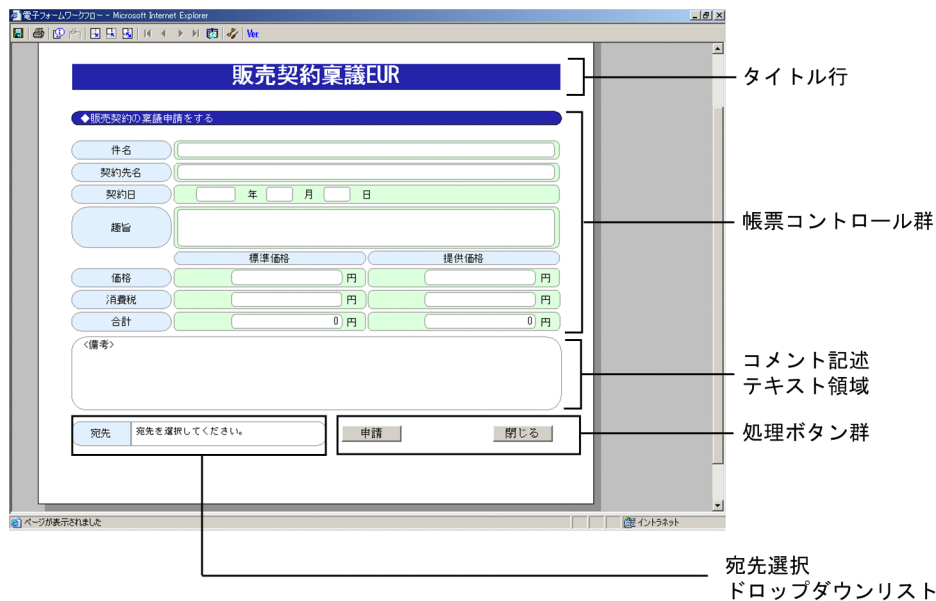
2.1.2 EUR Form 連携帳票

この項では、EUR Form 連携帳票から表示される EUR Form 帳票の基本構造、および EUR Form 連携帳票の機能について説明します。

(1) EUR Form 連携帳票から表示される EUR Form 帳票の基本構造

EUR Form 連携帳票から表示される EUR Form 帳票（以降、EUR Form 帳票と呼びます）の基本的な構造を次に示します。

図 2-9 EUR Form 帳票の構造



帳票を構成する各部について説明します。

タイトル行

帳票のタイトルが表示されます。タイトル行は、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

帳票コントロール群

EUR Form 帳票では、帳票を構成するテキスト領域やボタンなどを、帳票コントロールと呼びます。複数の帳票コントロールを組み合わせて、一つの帳票を表現します。

帳票コントロールは、ビジネスプロセスのノードごとに表示属性（入力/参照/非表示）を切り替えられます。帳票コントロールの表示属性（入力/参照/非表示）は、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

コメント記述テキスト領域

コメントを記述するテキスト領域が表示されます。コメント記述テキスト領域は、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

処理ボタン群

帳票を処理するためのボタンが表示されます。処理ボタンは、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

宛先選択ドロップダウンリスト

帳票の次の遷移先を選択するためのドロップダウンリストが表示されます。宛先選択ドロップダウンリストは、ユーザ追加処理でカスタマイズできます。

(2) EUR Form 連携帳票の機能

EUR Form 帳票を表示する EUR Form 連携帳票の機能について説明します。

(a) 帳票コントロールの表示制御機能

帳票コントロールは、次のような表示制御ができます。

- 帳票ジェネレータ（BLSG）で EUR Form 連携帳票を作成するときに、GUI 上でビジネスプロセスのノードごとに、帳票コントロールの表示属性（入力/参照/非表示）を切り替えます。

- ユーザ追加処理で、帳票コントロールの表示属性（入力/参照/非表示）を、任意に切り替えます。

帳票コントロールの表示制御例

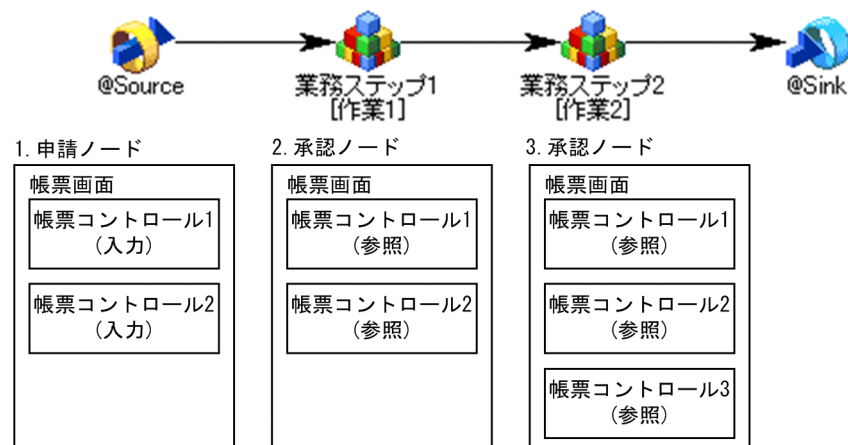
ある帳票に三つの帳票コントロール（「帳票コントロール 1」、「帳票コントロール 2」、および「帳票コントロール 3」）があるとします。これらの帳票コントロールの表示属性（入力/参照/非表示）を、次の表のとおりノードごとに切り分けます。

表 2-3 帳票コントロールの表示制御の設定例（EUR Form 連携帳票）

ノード名	帳票コントロール名	設定内容
@Source	帳票コントロール 1	入力
	帳票コントロール 2	入力
	帳票コントロール 3	非表示
作業 1	帳票コントロール 1	参照
	帳票コントロール 2	参照
	帳票コントロール 3	非表示
作業 2	帳票コントロール 1	参照
	帳票コントロール 2	参照
	帳票コントロール 3	参照

表 2-3 のように設定した場合、帳票モジュールはノードごとに次の図のような状態で表示されます。

図 2-10 帳票モジュールのノードごとの状態



図の説明

1. 申請ノード「@Source」

帳票コントロール 1 と帳票コントロール 2 が入力できる状態で表示されます。帳票コントロール 3 は表示されません。

2. 承認ノード「作業 1」

帳票コントロール 1 と帳票コントロール 2 が参照状態で表示されます。帳票コントロール 3 は表示されません。

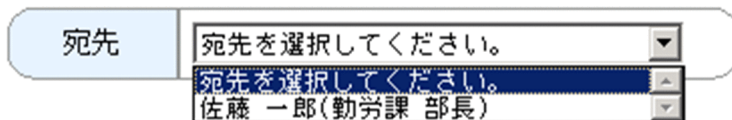
3.承認ノード「作業2」

帳票コントロール1, 帳票コントロール2, および帳票コントロール3が参照状態で表示されます。

(b) 宛先選択機能

ノードごとに宛先(次ノードの作業者)を選択させるかどうかを、帳票作成時に設定できます。宛先を選択させる設定にした場合、宛先を選択するためのドロップダウンリストが帳票に表示されます。宛先選択ドロップダウンリストの例を次に示します。

図 2-11 宛先選択ドロップダウンリスト



(c) 処理ボタン表示機能

帳票に、標準で次のボタンを表示できます。標準以外のボタンを追加する方法については、「8.2 EUR Form 帳票遷移 JSP のカスタマイズ」を参照してください。

申請帳票の場合

[申請] ボタン：入力チェック後、案件を開始します。

[閉じる] ボタン：画面を閉じます。

承認帳票の場合

[承認] ボタン：入力チェック後、作業を完了させます。

[閉じる] ボタン：画面を閉じます。

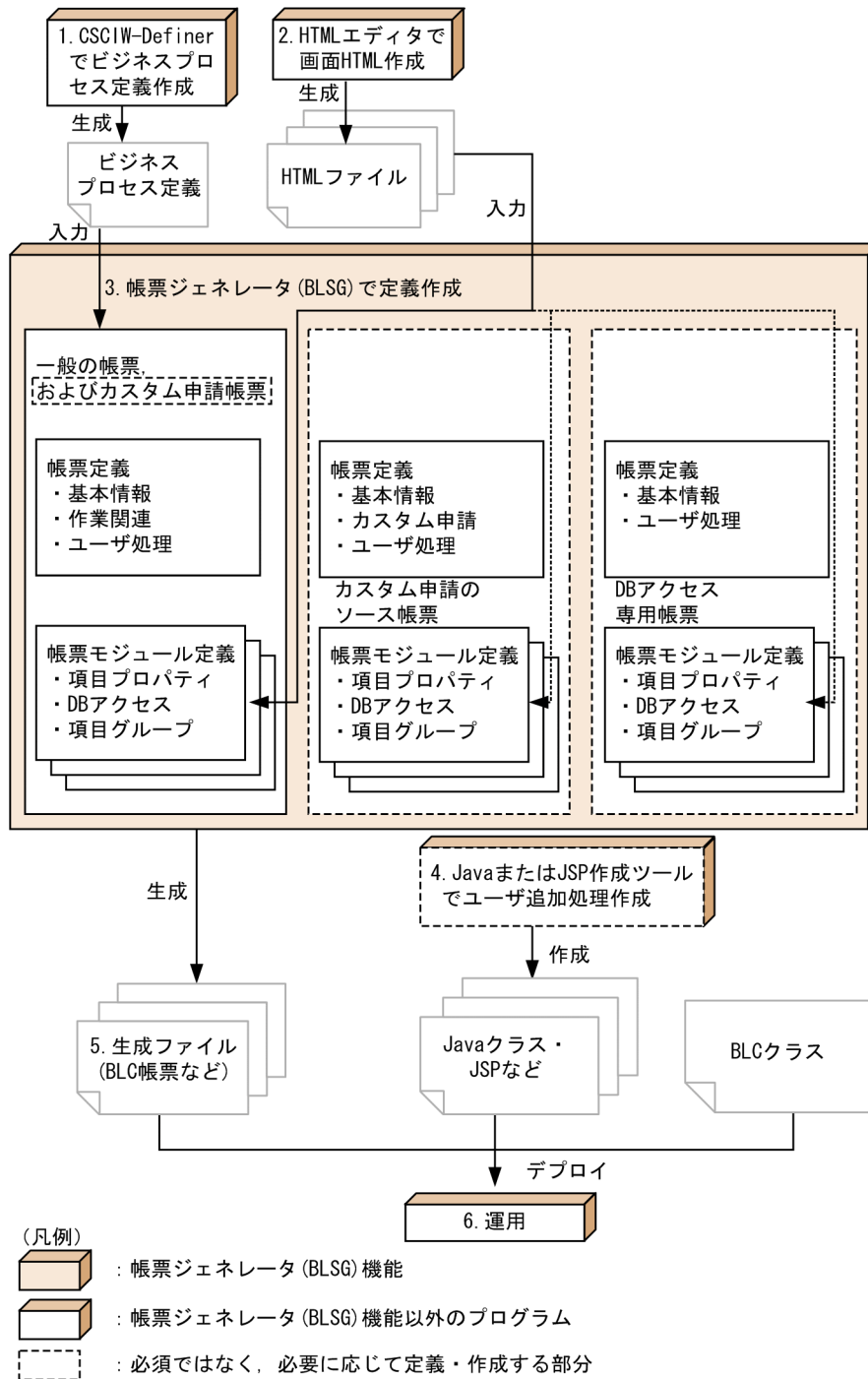
2.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能

この節では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して帳票アプリケーション (BLC 帳票アプリケーションおよび EUR Form 連携帳票アプリケーション) を開発する際の二つの流れである「作業手順」および「データフロー」を説明します。

2.2.1 BLC 帳票アプリケーション開発作業手順

ビジネスプロセス定義の作成から、BLC 帳票アプリケーションの運用までの開発の流れを、次に示します。

図 2-12 BLC 帳票アプリケーション開発作業の流れ



図の説明

1. CSCIW-Definer でビジネスプロセス定義を作成します。
帳票アプリケーションが対応するビジネスプロセス定義を作成します。CSCIW-Definer の操作方法については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow ビジネスプロセス開発ガイド」を参照してください。
2. HTML エディタで画面 HTML を作成します。

帳票の画面スタイルを決定する画面 HTML を作成します。この画面 HTML で、画面項目、項目のレイアウト、画面の配色などを定義します。作成する画面 HTML は、「一般の帳票の画面 HTML」、 「カスタム申請帳票の画面 HTML」、 「カスタム申請のソース帳票の画面 HTML」、 および 「DB アクセス専用帳票の画面 HTML」 の 4 種類です。

ただし、「カスタム申請帳票の画面 HTML」、 「カスタム申請のソース帳票の画面 HTML」、 および 「DB アクセス専用帳票の画面 HTML」 は必須ではありません。カスタム申請帳票、 カスタム申請のソース帳票、 および DB アクセス専用帳票を作成する場合だけ、作成してください。

3. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義を作成します。

帳票の動作を決定するため、および BLC 帳票を生成するために必要な定義を作成します。作成する定義は、帳票全体の構成を決定する「帳票定義」、帳票の構成要素の動作を決定する「帳票モジュール定義」です。各定義は、帳票の種類（「一般の帳票およびカスタム申請帳票」、 「カスタム申請のソース帳票」、 または 「DB アクセス専用帳票」）に応じて定義します。

ただし、「カスタム申請帳票」、 「カスタム申請のソース帳票」、 および 「DB アクセス専用帳票」 は必須ではありません。必要な場合だけ作成してください。

なお、ビジネスプロセス定義の条件定義を変更する場合は、「帳票定義」から変更します。条件定義を変更した場合は、帳票ジェネレータ (BLSG) に指定したビジネスプロセス定義ファイルを CSCIW-Definer でチェックし、CSCIW に登録する必要があります。

4. ユーザ追加処理を作成します。

ユーザの任意の業務処理機能を帳票に追加するための、ユーザ追加処理を作成します。具体的には、Java や JavaScript を使用して、「ユーザ定義クラス」や「ユーザ定義スクリプト」を作成します。ただし、ユーザ追加処理は必須ではありません。必要な場合だけ作成してください。

5. BLC 帳票を生成します。

3. で作成した帳票定義の情報を基に、BLC 帳票を生成します。このファイルには、帳票が動作する上で必要な処理がすべて含まれています。

なお、生成された BLC 帳票をテキストエディタなどで直接編集しないでください。帳票を変更する場合に定義情報を再利用できなくなり、帳票が不正に動作する原因になります。

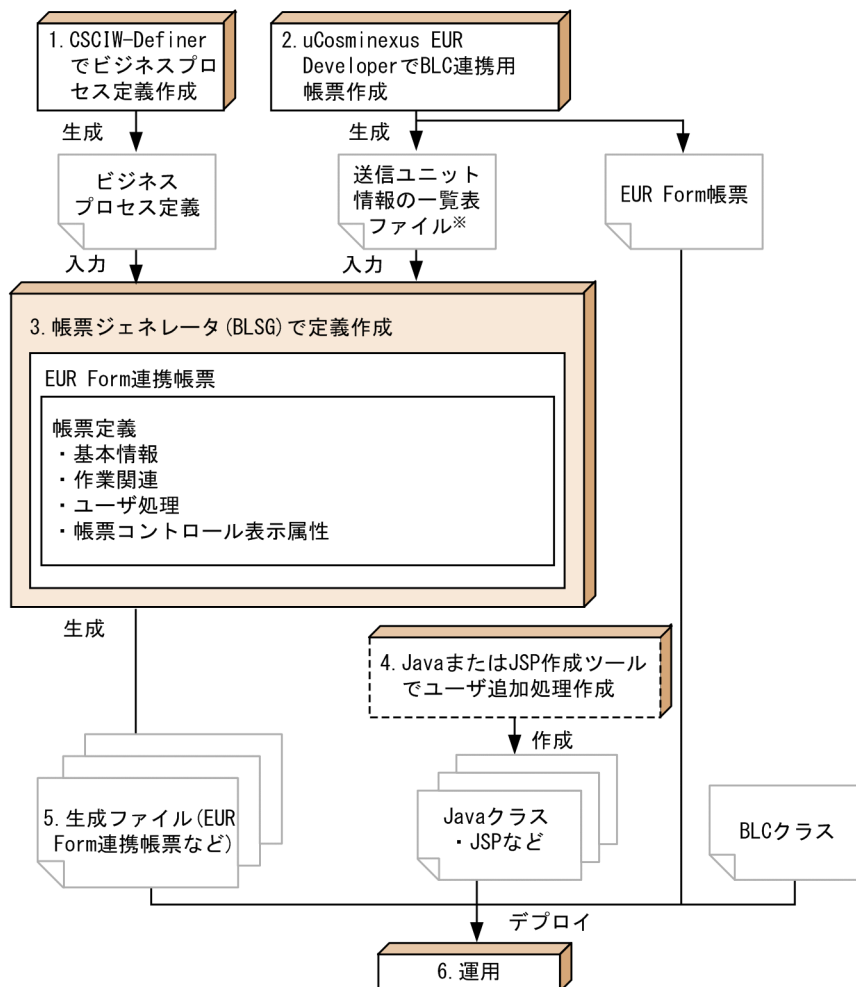
6. 帳票アプリケーションを運用します。

生成ファイル、ユーザ追加処理、および BLC クラスをアプリケーションサーバにデプロイすると、帳票アプリケーションとして運用できるようになります。デプロイの方法については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。




2.2.2 EUR Form 連携帳票アプリケーション開発作業手順

ビジネスプロセス定義の作成から、EUR Form 連携帳票アプリケーションの運用までの開発の流れを、次に示します。

図 2-13 EUR Form 連携帳票アプリケーション開発作業の流れ



(凡例)

-  : 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能
-  : 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能以外のプログラム
-  : 必須ではなく、必要に応じて定義・作成する部分

注※ EUR Formでは、一覧表ファイルと呼びます。

図の説明

1. CSCIW-Definer でビジネスプロセス定義を作成します。
帳票アプリケーションが対応するビジネスプロセス定義を作成します。
CSCIW-Definer の操作方法については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow ビジネスプロセス開発ガイド」を参照してください。
2. uCosminexus EUR Developer を使って、送信ユニット情報の一覧表ファイルおよび EUR Form 帳票を作成します。
EUR Form 帳票の作成方法については、マニュアル「帳票システム構築支援 uCosminexus EUR uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)」を参照してください。
3. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義を作成します。
EUR Form 帳票の動作を決定したり、EUR Form 連携帳票を生成したりするために必要な定義を作成します。

なお、ビジネスプロセス定義の条件定義を変更する場合は、「帳票定義」から変更します。条件定義を変更した場合は、帳票ジェネレータ (BLSG) に指定したビジネスプロセス定義ファイルを CSCIW-Definer でチェックし、CSCIW に登録する必要があります。

4. ユーザ追加処理を作成します。

ユーザの任意の業務処理機能を EUR Form 連携帳票に追加するための、ユーザ追加処理を作成します。具体的には、Java を使用して、「ユーザ定義クラス」を作成します。ただし、ユーザ追加処理は必須ではありません。必要な場合だけ作成してください。

5. EUR Form 連携帳票を生成します。

3. で作成した帳票定義の情報を基に、EUR Form 連携帳票を生成します。このファイルには、EUR Form 連携帳票が動作する上で必要な処理がすべて含まれています。

なお、生成された EUR Form 連携帳票をテキストエディタなどで直接編集しないでください。EUR Form 連携帳票を変更する場合に定義情報を再利用できなくなり、EUR Form 連携帳票が不正に動作する原因になります。

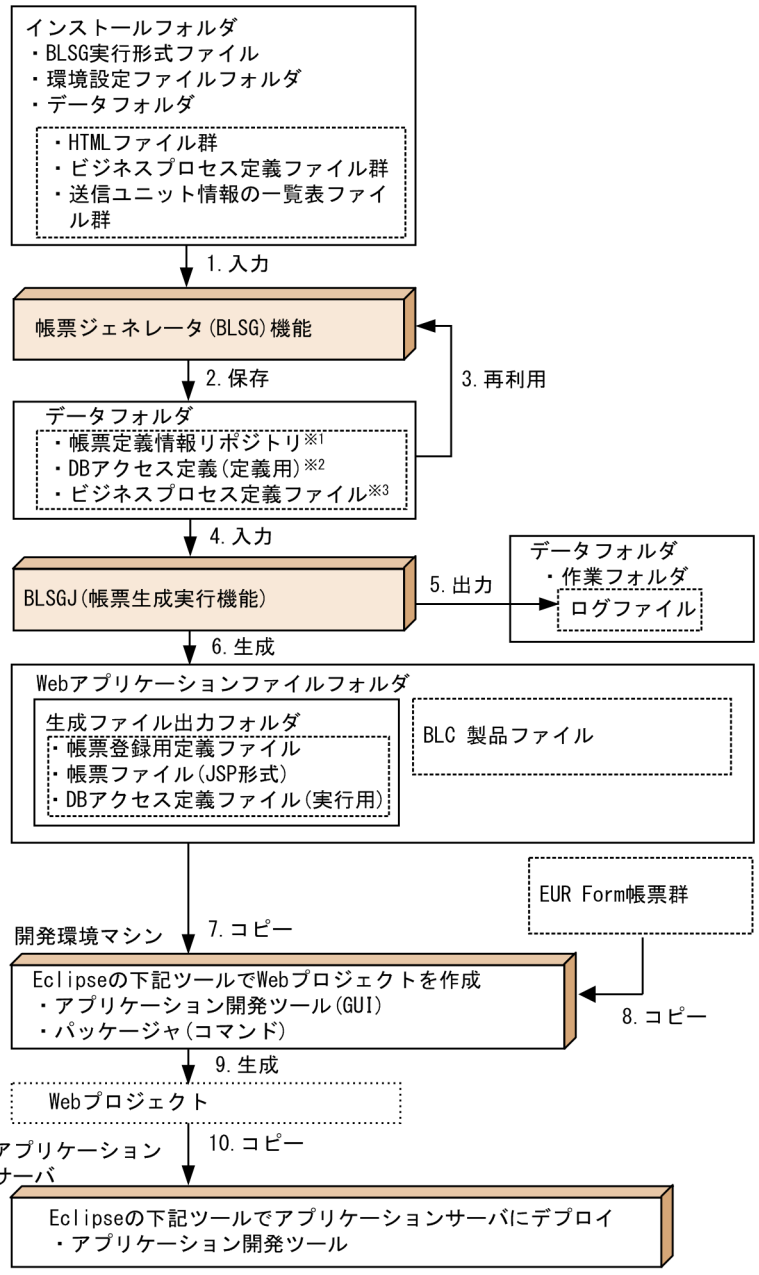
6. EUR Form 連携帳票アプリケーションを運用します。

生成ファイル、ユーザ追加処理、EUR Form 帳票、および BLC クラスをアプリケーションサーバにデプロイすると、EUR Form 連携帳票アプリケーションとして運用できるようになります。デプロイの方法については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

2.2.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のデータフロー

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のプログラム、ファイル、および Eclipse 間のデータフローを次に示します。

図 2-14 帳票アプリケーション開発作業のデータの流れ



(凡例)

- : 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能
- : 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能以外のプログラム
- : フォルダ
- : ファイル

注※1

- BLC 帳票の場合

帳票定義情報リポジトリには、HTML 情報とビジネスプロセス定義の一部情報が格納され、再利用できます。このため、HTML ファイルに変更がない場合、2 回目以降の BLC 帳票生成時は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に HTML 情報を入力する必要はありません。ビジネスプロセス定義も同様です。

- EUR Form 連携帳票の場合

帳票定義情報リポジトリには、帳票コントロール情報の一部とビジネスプロセス定義の一部情報が格納され、再利用できます。このため、EUR Form 帳票ファイルに変更がない場合、2 回目以降の EUR Form 連携帳票生成時は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に送信ユニット情報の一覧表ファイルを入力する必要はありません。ビジネスプロセス定義も同様です。

注※2

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が作成した DB アクセス定義ファイル (定義用) は、別の帳票を作成するときの DB アクセス定義情報として再利用できます。つまり、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能での DB アクセス定義時に、すでに作成された DB アクセス定義ファイル (定義用) を入力することもできます。

注※3

条件定義の機能を使用して定義内容を変更した場合、ビジネスプロセス定義ファイルおよび振り分けルール定義ファイルが変更されます。ファイルが変更された場合、CSCIW-Definer で定義内容を確認する必要があります。なお、BLSG では階層定義を使用しているビジネスプロセス定義を読み込むことができません。CSCIW-Definer で階層定義を使用しないよう、描画しているフロー定義のオブジェクトの配置を工夫してください。

図の説明

1. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に入力するデータ [HTML ファイル] (BLC 帳票を使う場合だけ)、[送信ユニット情報の一覧表ファイル] (EUR Form 連携帳票を使う場合だけ)、および [ビジネスプロセス定義ファイル] を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能に入力します。[HTML ファイル]、[送信ユニット情報の一覧表ファイル]、および [ビジネスプロセス定義ファイル] は、インストールフォルダの下のデータフォルダに格納しておいてください。
データフォルダの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。
2. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義を作成し、帳票定義情報リポジトリおよび DB アクセス定義ファイル (定義用) をデータフォルダに保存します。
3. 帳票定義情報リポジトリに格納された情報、および DB アクセス定義ファイル (定義用) は再利用できます。
4. 帳票定義情報リポジトリに格納された情報、および DB アクセス定義ファイル (定義用) を入力して、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。
5. 帳票ファイル (JSP 形式) を生成するときのログファイルが、データフォルダの下の作業フォルダに出力されます。
6. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成したファイル ([帳票登録用定義ファイル]、[帳票ファイル (JSP 形式)]、および [DB アクセス定義ファイル (実行用)]) が生成ファイル出力フォルダに出力されます。
7. 6. で出力されたファイルを開発環境マシンにコピーします。
8. EUR Form 帳票を開発環境マシンにコピーします。
9. 開発環境マシンの Eclipse で、Web プロジェクトを生成します。
10. Web プロジェクトをアプリケーションサーバにコピーして、Eclipse でアプリケーションサーバにデプロイします。

2.3 BLC 実行環境機能

この節では、BLC 実行環境の機能の概要について説明します。

2.3.1 クライアント表示機能

BLC 実行環境では、クライアントマシンでユーザが帳票を処理するための画面を表示する機能（クライアント表示機能）を提供しています。この画面を BLC のポータル画面といいます。BLC 実行環境で帳票一覧、作業一覧、および帳票を表示するときは、BLC のポータル画面から起動します。

BLC のポータル画面の例を次に示します。

図 2-15 BLC のポータル画面の例



BLC のポータル画面の詳細は、「4.1 BLC のポータル画面の構成」を参照してください。

2.3.2 認証処理機能

BLC 実行環境では、ポータル認証機能を使用して認証処理を実現します。

ポータル認証機能で使用するパスワードの変換方式、および DB テーブルについて説明します。

(1) BLC のパスワード変換方式

ポータル認証機能のパスワード変換方式は、平文、MD5、または SHA-1 形式が使用できます。デフォルトでは、平文が指定されています。次の SQL をログインモジュールに指定してください。

```
SELECT CDLOGINPASSWORD FROM BLC_USER_INFO T
WHERE CDUSER=? AND CFLOGINSTATUS=<>1 AND CFSHARESTATUS=<>1
```

詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

(2) 認証処理で使用する DB テーブル

- パスワードについて

暗号化形式に none (平文) を指定した場合のパスワードは、ユーザ情報テーブル (BLC_USER_INFO_T テーブル) の CDLOGINPASSWORD カラムに指定します。CDLOGINPASSWORD カラムについては、「付録 D.4(7) BLC_USER_INFO_T テーブル」を参照してください。

また、パスワードの構築については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」を参照してください。

- ユーザカスタマイズ情報について

BLC のポータル画面で使用するユーザカスタマイズ情報は、ポータルカスタマイズ情報テーブル (BLC_PORTAL_INFO_T テーブル) に指定します。ポータルカスタマイズ情報テーブルについては、「付録 D.4(8) BLC_PORTAL_INFO_T テーブル」を参照してください。

なお、ポータルの認証機能を使用する場合、BLC 内部でも認証情報を保持し、ページごとに BLC 認証確認を実行します。ユーザが BLC のポータル画面の新規開発、ページの追加などを実行した場合は、BLC 認証の処理を組み込む必要があります。

認証ページのカスタマイズの詳細は、「5.4 認証処理機能のカスタマイズ」を参照してください。

2.3.3 一覧処理機能

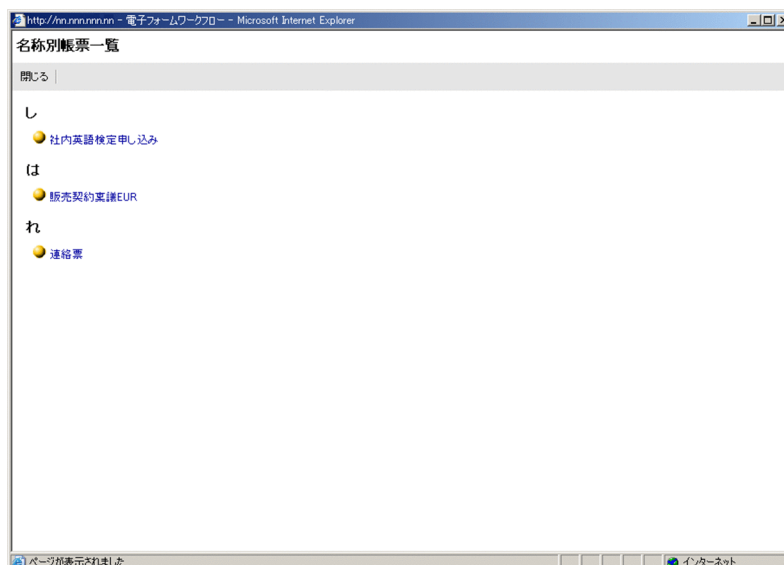
BLC 実行環境機能には、案件や帳票を一覧で表示する次の画面があります。

[名称別帳票一覧] 画面

サーバに登録されている帳票が一覧で表示されます。帳票は、頭文字ごとに昇順でソートして表示されます。この画面で帳票を選択すると、その帳票の申請画面が表示されます。

[名称別帳票一覧] 画面の例を次に示します。

図 2-16 [名称別帳票一覧] 画面の例



[名称別帳票一覧] 画面とその操作手順の詳細は、「4.4 案件を申請する」を参照してください。

[受信ボックス] 画面

ログインしたユーザの処理待ち作業が一覧で表示されます。この画面で作業を選択すると、その作業を処理する帳票画面が表示されます。

処理待ち作業の一覧では、作業の業務名称、申請者の氏名、案件の開始日時などの情報を参照できます。また、処理待ち作業は、業務ごとに一覧で表示することもできます。

[受信ボックス] 画面の例を次に示します。

図 2-17 [受信ボックス] 画面の例



[受信ボックス] 画面とその操作手順の詳細は、「4.5 案件を処理する」を参照してください。

[送信ログ] 画面

ログインしたユーザが処理した案件が一覧で表示されます。この画面で案件を選択すると、その案件の履歴画面が表示されます。

処理した案件の一覧では、案件の現在の状態、ログインしたユーザが最後に処理した日時、案件の現在の作業員などの情報を参照できます。

[送信ログ] 画面の例を次に示します。

図 2-18 [送信ログ] 画面の例

削除	申請ID	業務名称	案件状態	処理日時	最終作業者氏名	最終作業者組織略称	申請者氏名	申請者組織略称
<input type="checkbox"/>	0000002	連絡票	処理中	2008/12/18 12:55:30	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システム
<input type="checkbox"/>	0000003	社内英語検定申し込み	処理中	2008/12/18 12:53:06	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システム
<input type="checkbox"/>	0000001	販売契約案議EUR	処理中	2008/12/18 12:46:03	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システム

[送信ログ] 画面とその使用手順の詳細は、「4.6 案件の送信ログを参照する」を参照してください。

[受信ボックス (代行)] 画面

代行依頼者が一覧で表示されます。この画面で代行依頼者を選択すると、[案件振替] 画面が表示されます。

[受信ボックス (代行)] 画面の例を次に示します。

図 2-19 [受信ボックス (代行)] 画面

代行依頼者	役職	所属略称
情報 太郎	部長	情報システム

[受信ボックス (代行)] 画面とその使用手順の詳細は、「19.3.2 [代行依頼者一覧] 画面の構成」および「19.4.3 代行依頼者の案件の振り替え」を参照してください。

[受信ボックス (共有トレイ)] 画面

共有トレイが一覧で表示されます。この画面で共有トレイを選択すると、[案件振替] 画面が表示されます。

[受信ボックス (共有トレイ)] 画面の例を次に示します。

図 2-20 [受信ボックス (共有トレイ)] 画面の例



[受信ボックス (共有トレイ)] 画面とその使用手順の詳細は、「19.3.4 [共有トレイ一覧] 画面の構成」および「19.4.4 共有トレイの案件の振り替え」を参照してください。

2.3.4 案件処理機能

BLC 実行環境では、帳票の下部に表示される処理ボタンや BLC のポータル画面から、次の処理ができません。

案件開始処理

申請帳票の下部に表示される [申請] ボタンをクリックすると、案件の開始処理ができます。案件の開始処理の内容は次のとおりです。

- 帳票データを保存する
- 案件履歴を追加する
- CSCIW に案件を開始させる

なお、ユーザ追加処理によって、案件の開始処理の内容を追加することもできます。

詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」, または「8.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

作業完了処理

承認帳票の下部に表示される「承認」ボタンをクリックすると、作業の完了処理ができます。作業の完了処理の内容は次のとおりです。

- 帳票データを更新する
- 案件履歴を追加する
- CSCIW の作業を完了させる

なお、ユーザ追加処理によって、作業の完了処理の内容を追加することもできます。

詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」, または「8.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

案件の振り替え処理

BLC のポータル画面にログインし、操作することで案件の振り替え処理ができます。案件の振り替え処理の内容は次のとおりです。

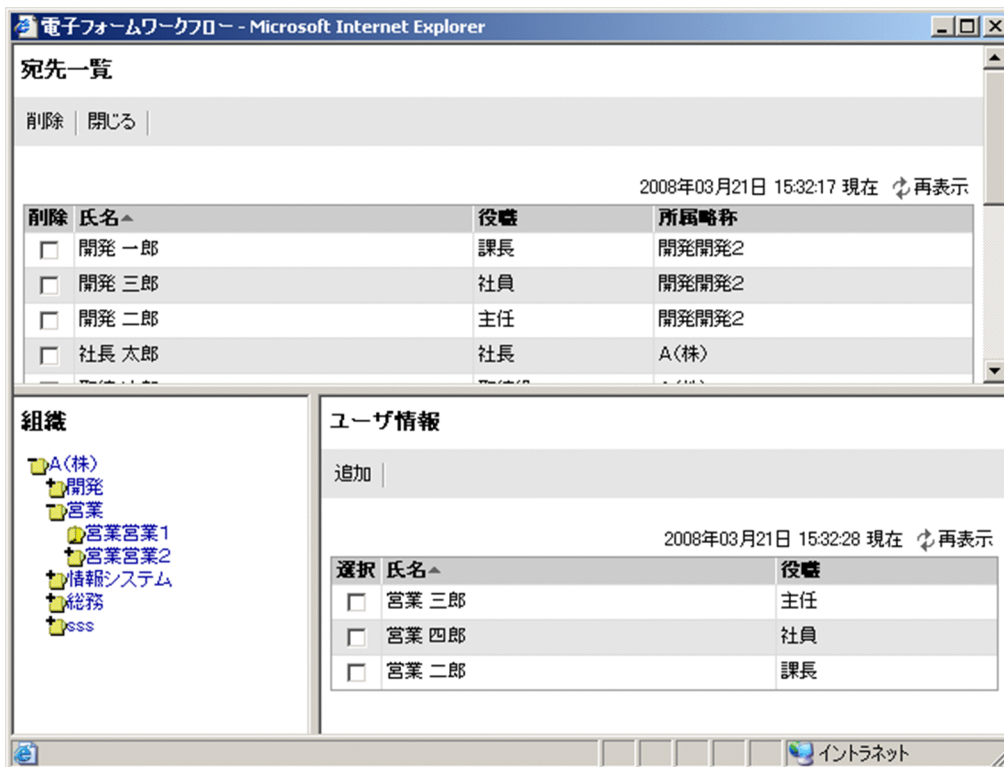
- 代行者を設定する
- 代行案件を処理する
- 案件を振り替える
- 共有トレイの案件を振り替える
- 共有トレイを作成する

詳細は、「19. 案件の振り替え機能」を参照してください。

2.3.5 宛先管理機能

宛先管理機能とは、宛先選択ドロップダウンリストに表示される宛先を管理する機能です。BLC のポータル画面の「宛先管理」メニューを選択すると、宛先管理画面が表示されます。この画面で、宛先選択ドロップダウンリストに表示される宛先を追加または削除できます。宛先管理画面を次に示します。

図 2-21 宛先管理画面



宛先の追加または削除の方法の詳細は、「4.7 案件の宛先を管理する」を参照してください。

2.3.6 帳票管理機能

BLC 実行環境では、BLC の帳票を管理できます。帳票をサーバに登録して運用できるようにしたり、不要な帳票をサーバから削除したりします。また、変更された帳票を更新することもできます。

帳票を管理する方法の詳細は、「4.8 帳票を管理する」を参照してください。

2.3.7 ユーザ管理機能

ユーザ管理機能とは、システム管理者権限を持つユーザが、役職、組織、およびユーザの情報を管理したり、ユーザの権限によってアクセスを制御したりする機能です。

ユーザ管理機能を使用して、役職、組織、およびユーザの情報を登録、更新、削除できます。また、各ユーザに対して、権限を付与したり、役職や所属組織を設定したりすることで、権限、役職または所属組織に応じて機能別にアクセスを制御できます。

ユーザを管理する機能の詳細は、「10. ユーザの管理」を参照してください。

2.3.8 案件管理機能

案件管理機能とは、運用中の案件または完了案件削除ユティリティで保存した案件の情報を検索したり、指定された案件の履歴表示、および案件の強制終了をしたりする機能です。

案件管理機能の詳細は、「11. 案件管理機能」を参照してください。

2.4 カスタマイズ機能

BLC では、帳票のボタン処理や実行環境などをユーザが任意にカスタマイズできます。

この節では、BLC のカスタマイズ機能について説明します。

2.4.1 カスタマイズの概要

この項では、BLC でカスタマイズできる範囲、カスタマイズ時の命名規則、バージョンアップなどに関するカスタマイズ時の注意事項を説明します。

(1) BLC でカスタマイズできる範囲

BLC でカスタマイズできる範囲を次に示します。

表 2-4 カスタマイズできる範囲

カスタマイズ対象	カスタマイズ対象ファイル
帳票	ビジネスプロセス定義ファイル HTML 帳票モジュールファイル ユーザ定義クラス (追加処理 java ファイル) ユーザ定義ファイル (追加処理 jsp ファイル)
EUR Form 帳票遷移 JSP ファイル	BLCEURAttachedSample.jsp BLCEURProcessSample.jsp BLCEUREnd.jsp
BLC プロパティ	BLC.BLCproperties
メッセージプロパティ	BLCmessage.properties
ストリングリソースプロパティ	BLCstringResource.properties BLCstringResourcePortal.properties
認証ページ	—
スタイルシート	ja/blc.cssen/blc.css blc_category.css blc_common.css blc_dialog.css blc_error.css blc_list.css blc_menutab.css blc_tree.css
JavaScript ファイル	blc_displaycommon.js
メニューポートレット	css/blc_mp.css BLCMenuIndex.jsp BLCMenu.jsp
ワークフローポートレット	css/blc_wp.css BLCWorkflowIndex.jsp

2 電子フォームワークフローの機能

カスタマイズ対象		カスタマイズ対象ファイル
ワークフローメニュータブ		BLCWorkFlowMenu.jsp
受信ボックス		BLCLinboxItem.jsp BLCLinbox.jsp
送信ログ		BLCLsentlog.jsp
送信ログ（引き戻し用）		BLCLsentlog.jsp BLCLsentlogPullBack.jsp BLC_ChgPullBack.jsp BLC_ChgPullBackErr.jsp
拡張受信ボックス		BLCLinboxItemV.jsp BLCLinboxV.jsp
一括承認関連		BLCLinboxItemBC.jsp BLCFMCwiGetListBC.jsp BLCWWFwiBCSample.jsp BLCFMCwiBatchCompleted.jsp
保管案件関連		BLCpiselect.jsp BLCLpiselectResult.jsp BLCLpiselectHistory.jsp BLCpiselectEURView.jsp
案件操作関連		BLCFMCpiStarted.jsp BLCFMCwiCompleted.jsp
ポータルテンプレート		次のフォルダの配下にあるファイルが該当します。 <ul style="list-style-type: none"> • <BLC2 のインストールディレクトリ>%portal%template%css • <BLC2 のインストールディレクトリ>%portal%template%images • <BLC2 のインストールディレクトリ>%portal%template%js • <BLC2 のインストールディレクトリ>%portal%template%WEB-INF
[案件振替] 画面		BLCLActingItem.jsp
役職順ソートのカスタマイズ 関連	宛先管理画面	BLCWGuserList.jsp
		BLCMPparticipantList.jsp
	代行者管理画面	BLCWAgentChoiceList.jsp
		BLCLAgent.jsp
振替先選択画面	BLCWUserChoiceList.jsp	
代行者設定カスタマイズ		BLCWAgentChoiceFrame.jsp
		BLCWUserChoiceTree.jsp
案件履歴カスタマイズ		BLCWPHpiHistoryView.jsp

(凡例)

－：該当しません。

(2) カスタマイズ時の命名規則

BLC では、先頭が"BLC"および"blc"で始まる名称（ファイル名、変数名、リクエストタグ名、クラス名、メソッド名など）を予約しています。

このため、BLC でカスタマイズする場合は、次のファイル名とクラス名の命名規則に従ってください。

カスタマイズ時のファイル名命名規則

BLC では、先頭が"BLC"および"blc"で始まるファイル名のほかに、次のファイル名を予約しています。

- 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成される帳票ファイル (JSP 形式) のファイル名 ("帳票 ID"+"_"+"帳票 Version"で始まり、続く 2 文字が"_u"以外になるファイル名)

このため、カスタマイズ時は、次の規則に従ってファイル名を命名してください。

- ユーザ作成ファイルのファイル名には、"UBLC" で始まる名称を推奨します。
- 帳票のユーザ追加スクリプトファイル名は、末尾を"_userClientSideScript.inc"とすることを推奨します。

<例>

- UBLCInbox.jsp
- u_userClientSideScript.inc

カスタマイズ時の Java クラス/メソッド・メンバ名命名規則

BLC では、先頭が"BLC"および"blc"で始まるクラス名、およびメソッド・メンバ名のほかに、次の名称を予約しています。

- 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成される帳票ファイル (JSP 形式) のクラス名 ("帳票 ID"+"_"+"帳票 Version"+"_Class"で始まるファイル名)

このため、カスタマイズ時は、次の規則に従って Java クラス、およびメソッド・メンバ名を命名してください。

- jp.co.Hitachi.soft.blc パッケージと配下のサブパッケージ内に作成するユーザ作成 Java クラスには、BLC が予約するクラス名を使用しないでください。推奨するクラス名は、"UBLC"で始まる名称です。
- BLC の Java クラスを継承するユーザ作成 Java クラスで、独自に作成するメソッド・メンバ名は "_u"で始まる名称でなければなりません。

<例>

- UBLCDataManage.java java クラス
- u_updateUserDataBase()メソッド

(3) カスタマイズ時の注意事項

電子フォームワークフローをバージョンアップまたは上書きインストールすると、カスタマイズした内容が失われる場合があります。このため、カスタマイズ時には次の作業をしてください。

- カスタマイズする方は、カスタマイズした項目とその内容を記録しておいてください。
- ファイル名を変更しないでカスタマイズする場合は、上書きインストールを実行するとカスタマイズした内容が失われます。このため、上書きインストールを実行する前に、カスタマイズしたファイルのバックアップを取っておき、上書きインストール後にカスタマイズの内容をマージしてください。

- ファイル名を変更してカスタマイズする場合は、コピー元のファイルとカスタマイズしたファイルのバックアップを取っておいてください。バージョンアップなどでコピー元ファイルに変更があった場合は、必要に応じて、カスタマイズの内容をマージしてください。

2.4.2 帳票ボタン処理などのカスタマイズの概要

BLC では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で行う帳票のカスタマイズのほかに、帳票を表示、申請、承認した延長で動作する帳票ボタン処理などのカスタマイズができます。

カスタマイズできる帳票ボタン処理などの項目を次に示します。

BLC 帳票の場合

- ユーザ追加処理でのカスタマイズ
ユーザ追加処理で、次の項目をカスタマイズできます。次の項目のカスタマイズについては、「2.4.6 サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概要」を参照してください。
 - 帳票開始処理の追加
 - 帳票前処理の追加
 - 帳票タイトル表示処理の変更
 - コメント表示処理の変更
 - 宛先選択表示処理の変更
 - ボタン表示処理の変更
 - ボタン DB 更新前処理の追加
 - ボタン DB 更新処理の追加
 - ボタン DB 更新後処理の追加
 - 承認履歴表示処理の変更
- JavaScript 関数の追加

EUR Form 連携帳票の場合

- ユーザ追加処理でのカスタマイズ
ユーザ追加処理で、次の項目をカスタマイズできます。次の項目のカスタマイズについては、「2.4.6 サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概要」を参照してください。
 - 帳票開始処理の追加
 - 帳票前処理の追加
 - ボタン DB 更新前処理の追加
 - ボタン DB 更新処理の追加
 - ボタン DB 更新後処理の追加

帳票ボタン処理などのカスタマイズの詳細は、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」, または「8.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

2.4.3 BLC 実行環境のカスタマイズの概要

この項では、BLC 実行環境でカスタマイズできる内容について説明します。

BLC 実行環境では、次のカスタマイズができます。

- BLCDirs クラスに関するカスタマイズ
- クライアント表示機能の BLC のポータル画面のカスタマイズ
- 認証処理機能の認証ページのカスタマイズ
- 一覧処理機能の [受信ボックス] 画面および [送信ログ] 画面のカスタマイズ

(1) BLCDirs クラスに関するカスタマイズ

BLCDirs クラスとは、ユーザ情報および組織情報を管理するクラスです。BLCDirs クラスに関する、次のカスタマイズができます。

BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ

BLCDirs クラス用のデータベースでは、ビューにカラムを追加したり、テンプレートテーブルにカラムを追加したりするカスタマイズができます。

BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズの詳細は、「5.2.1 BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ」を参照してください。

BLCDirs クラスのカスタマイズ

BLCDirs クラスのカスタマイズでは、BLCDirs クラスの一部を変更したり、BLCDirs クラス自体を置き換えたりするカスタマイズができます。

BLCDirs クラスのカスタマイズの詳細は、「5.2.2 BLCDirs クラスのカスタマイズ」を参照してください。

(2) クライアント表示機能のカスタマイズ

クライアント表示機能の BLC のポータル画面では、画面の構成要素（メニューポートレットやワークフローポートレットなど）ごとにスタイルの変更、メニューの追加/削除などのカスタマイズができます。

BLC のポータル画面のカスタマイズについては、「5.3 クライアント表示機能のカスタマイズ」を参照してください。

(3) 認証処理機能のカスタマイズ

認証処理は、ポータルの認証機能を使用して実行しますが、BLC 内部でも認証情報を保持し、ページごとに BLC 認証確認を実行します。

このため、ユーザが BLC のポータル画面の新規開発、ページの追加などを実行した場合は、BLC 認証の処理を組み込んでください。

認証ページのカスタマイズの詳細は、「5.4 認証処理機能のカスタマイズ」を参照してください。

(4) 一覧処理機能のカスタマイズ

一覧処理機能の [受信ボックス] 画面（受信ボックス一覧 JSP）および [送信ログ] 画面（送信ログ一覧 JSP）をカスタマイズできます。カスタマイズによって、表示項目や表示項目の順序を変更できます。

[受信ボックス] 画面のカスタマイズの詳細は、「5.5.1 [受信ボックス] 画面のカスタマイズ」を参照してください。

[送信ログ] 画面のカスタマイズの詳細は、「5.5.2 [送信ログ] 画面のカスタマイズ」を参照してください。

2.4.4 プロパティファイルのカスタマイズの概要

BLC では、次のプロパティファイルのカスタマイズできます。

表 2-5 カスタマイズできるプロパティファイル

プロパティファイルの種類	ファイル名	カスタマイズできる内容
BLC プロパティファイル	BLC.BLCproperties	BLC の動作の制御情報
メッセージプロパティファイル	BLCmessage.properties	メッセージのテキスト
ストリングリソースプロパティファイル	BLCstringResource.properties BLCstringResourcePortal.properties	<ul style="list-style-type: none"> 固定文字列 日付のフォーマット

各プロパティファイルのカスタマイズの詳細は、「5.6.1 BLC プロパティファイルのカスタマイズ」, 「5.6.2 メッセージプロパティファイルのカスタマイズ」, または「5.6.3 ストリングリソースプロパティファイルのカスタマイズ」を参照してください。

2.4.5 エラー情報表示ページのカスタマイズの概要

エラー情報表示ページとは、BLC のシステムでエラーを検知した場合に表示するページです。エラー情報表示ページでは、表示情報、形式、および動作をカスタマイズできます。

エラー情報表示ページのカスタマイズの詳細は、「5.7 エラー情報表示ページのカスタマイズ」を参照してください。

2.4.6 サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概要

ここでは、サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズで、エラー処理を設定する方法を説明します。

(1) BLC の Java クラスの拡張

BLC のクラスを拡張して、ユーザが任意に処理ロジックを作成する場合、チェックエラーおよび実行エラーを応答したいときは、BLCException クラスの次のメソッドを使って BLC 例外オブジェクトを構築し、スローする必要があります。

- static BLCException getUserException(int msgId,String[] msgArray)
- static BLCException getUserException(Throwable exception,int msgId,String[] msgArray)
- final int getUserMessageId()
- String getUserMessageIdText()
- String getUserMessageText()

BLCException クラスのメソッドの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCException クラス」の説明を参照してください。

上記のメソッドで受け取るメッセージ ID は、メッセージプロパティファイル (BLCmessage.properties) に登録されている必要があります。メッセージプロパティファイルにメッセージ ID を追加する方法については、「5.6.2 メッセージプロパティファイルのカスタマイズ」を参照してください。

案件履歴表示処理を追加するときに BLC 例外オブジェクトを構築する例を次に示します。

```

public String ufsv_overrideProcessHistory() throws BLCException{
    try{
        :
        String StrHTML = super.ufsv_overrideProcessHistory();
        :
        // ユーザ処理ロジックでエラー
        BLCException blcErr = BLCException.getUserException( 50000, new String [] { arg1 } );
        throw blcErr;
        :
        // BLCクラスメソッド発行
        :
    } catch ( BLCException err ) { // BLC例外を捕捉
        throw err;
    } catch ( Exception err ) { // システムエラーを捕捉
        BLCException blcErr = BLCException.getUserException( err, 50001, new String [] { arg1 } );
        throw blcErr;
    }
    return StrHTML;
}

```

(2) BLC の JSP ファイルのカスタマイズ

カスタマイズで JSP ファイルを変更および新規追加する場合、BLC の各クラスを使うときは、BLC 例外 (BLCException オブジェクト) をキャッチして、適切な処置をします。

BLC 例外オブジェクトをキャッチして、BLC 標準エラーページに遷移する例を次に示します。

```

<%@ page language="java" errorPage="/app/include/BLCError.jsp" pageEncoding="Shift_JIS"%>
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS" %>
<%@ page import="jp.co.Hitachi.soft.blc.*" %>
:
<jsp:useBean class="jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCInfo" id="blc" scope="request" />
<%
String strURI = request.getRequestURI();
try {
    blc.setInfo(application, session, request, response);
    BLCTrace.putJspStart(strURI);
    blc.getAuthenticateObject().checkLoginStatus();
    :
    //ユーザ処理ロジックでエラー
    BLCException blcErr = BLCException.getUserException(59998, new String[]{ arg1 });
    throw blcErr;
    :
}%>
<html><head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
</head><body>
:
</body></html>
<%
} catch (BLCException blcErr) { // BLC例外を捕捉
    blcErr.postResponse(pageContext); // BLC標準エラーページにforward
} catch (Exception err) { // システムエラーを捕捉
    BLCException blcErr = BLCException.getUserException(err, 59999, new String[]{ arg1 });
    blcErr.postResponse(pageContext); // BLC標準エラーページにforward
} finally {
    BLCTrace.putJspEnd(strURI); // トレース出力
}
}%>

```


3

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

この章では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使って BLC 帳票を開発する手順について、例題を基に説明します。

3.1 開発作業の流れ (BLC 帳票の場合)


この節では、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能を使って BLC 帳票を開発する作業の流れを説明します。

帳票の開発から運用までの作業の流れと、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能がどんな作業を支援しているかを次に示します。

図 3-1 帳票の開発作業の流れと帳票ジェネレータ (BSLG) 機能



(凡例)

 : 帳票ジェネレータ (BSLG) 機能で支援する作業

3.2 帳票を作成する (BLC 帳票の場合)

この節では、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能で帳票定義および帳票モジュール定義を作成し、BLC 帳票を生成する手順を、例題を基に説明します。

3.2.1 例題の内容 (BLC 帳票の場合)

この章では、例題として、販売契約について稟議する帳票「販売契約稟議」を作成する手順を説明します。入力が必要な個所には、入力例を示しています。実際に入力するときは、利用環境に応じて内容を変更してください。

帳票ジェネレータ (BSLG) 機能では、帳票「販売契約稟議」を作成するために必要なビジネスプロセス定義ファイル、画面 HTML ファイル、ユーザ追加処理の JavaScript ファイルなどのサンプルを提供しています。また、帳票「販売契約稟議」の帳票定義ファイルおよび帳票モジュール定義ファイルのサンプルも提供しています。

この章で示す入力例や画面図は、一部サンプルファイルと異なる場合があります。

サンプルファイルの詳細および使用方法については、「付録 F サンプル帳票の構築方法」を参照してください。

(1) 例題の業務の流れ

帳票「販売契約稟議」で想定している業務の流れを次に示します。

図 3-2 帳票「販売契約稟議」の業務の流れ



図の説明

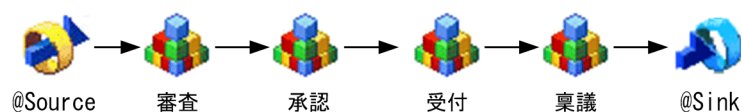
1. 担当者が案件を申請します。
2. 上司が案件を審査または承認します。
3. 受付部門が案件の内容を判定し、審査部門を選択します。
4. 選択された審査部門に稟議依頼します。
5. 案件がシンクノードに到達し、業務が完了します。

(2) 例題に入力する情報

• ビジネスプロセス定義

帳票「販売契約稟議」が対応するビジネスプロセス定義 (販売契約稟議.hbx) の遷移図を次に示します。

図 3-3 ビジネスプロセス定義の遷移図

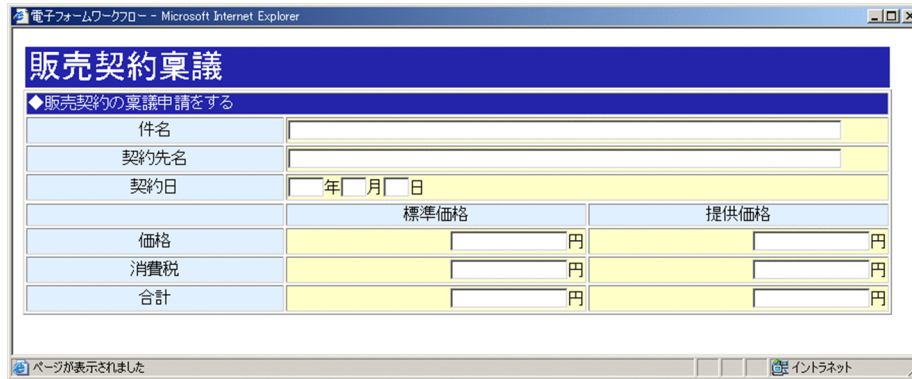


• 画面 HTML

3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

帳票「販売契約稟議」は、三つの帳票モジュール（販売契約、販売契約決済、および審査依頼部署）で構成されており、それぞれの帳票モジュールに対応する画面 HTML があります。販売契約の画面 HTML（販売契約.htm）をブラウザ上で表示した例を次に示します。

図 3-4 帳票モジュール（販売契約）の画面 HTML

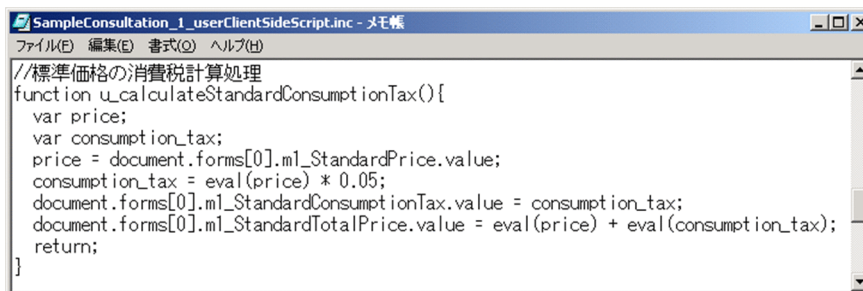


販売契約稟議			
◆販売契約の稟議申請をする			
件名	<input type="text"/>		
契約先名	<input type="text"/>		
契約日	年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/>		
	標準価格	提供価格	
価格	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円
消費税	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円
合計	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円

(3) 例題のユーザ追加処理

帳票「販売契約稟議」では、価格を入力すると消費税およびその消費税を含めた価格を自動計算するユーザ追加処理（SampleConsultation_1_userClientSideScript.inc）を追加します。ユーザ追加処理の内容を次に示します。

図 3-5 ユーザ追加処理の内容



```
SampleConsultation_1_userClientSideScript.inc - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) ヘルプ(H)
//標準価格の消費税計算処理
function u_calculateStandardConsumptionTax(){
    var price;
    var consumption_tax;
    price = document.forms[0].m1_StandardPrice.value;
    consumption_tax = eval(price) * 0.05;
    document.forms[0].m1_StandardConsumptionTax.value = consumption_tax;
    document.forms[0].m1_StandardTotalPrice.value = eval(price) + eval(consumption_tax);
    return;
}
```

3.2.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (BLC 帳票の場合)

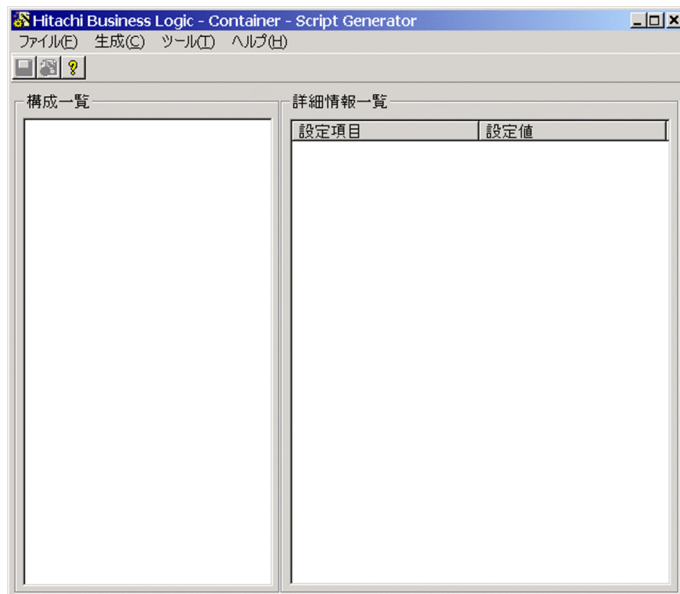
最初に、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動します。

操作手順

1. タスクバーの [スタート] をクリックして、[プログラム] - [電子フォームワークフロー] - [BLSG] を選択します。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が起動し、メイン画面が表示されます。

メイン画面を次に示します。



3.2.3 開発環境を設定する (BLC 帳票の場合)

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の開発環境 (定義したファイルの保存先や帳票生成時のオプションなど) を設定します。

操作手順

1. メイン画面で [ツール] - [オプション] を選択します。

[開発環境設定] ダイアログが、[基本情報] タブが前面に表示された状態で表示されます。

ダイアログの各項目の詳細は、「付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ」を参照してください。

2. 「プロジェクト名」を指定します。

プロジェクトとは、この [開発環境設定] ダイアログで指定した内容を保存しておくファイルです。この例題では、デフォルトの "project" を指定してください。

3. 「データフォルダパス」を指定します。

データフォルダをフルパス名で指定します。データフォルダとは、帳票定義の定義情報ファイル (以降、帳票定義ファイルと呼びます) を保存するフォルダです。データフォルダの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

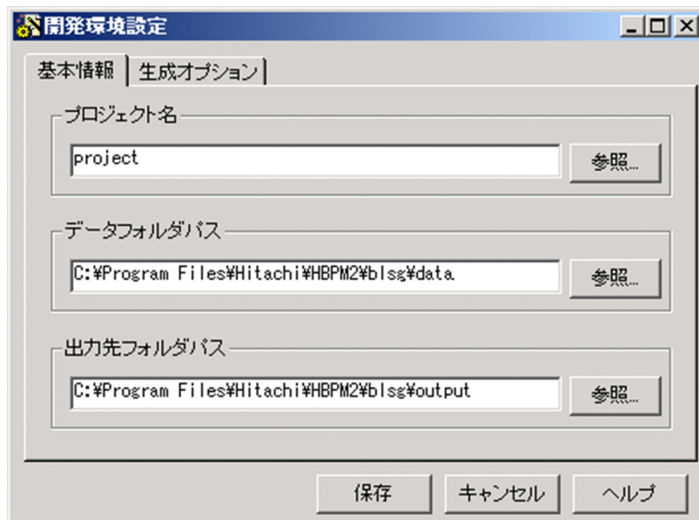
この例題では、デフォルトの "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blsg\data" を指定してください。

4. 「出力先フォルダパス」を指定します。

生成した帳票ファイル (JSP 形式) を出力するフォルダをフルパス名で指定します。生成ファイルの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

この例題では、デフォルトの "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blsg\output" を指定してください。

項目を設定した [基本情報] タブを次に示します。



なお、帳票を開いている状態で、[基本情報] タブの情報を変更して保存しようとする、メッセージが表示されます。このメッセージで、変更先のフォルダパスに開いている帳票と同じ名称の帳票または帳票モジュールがある場合、上書きされてしまうことを警告します。

5. [生成オプション] タブを選択します。

[生成オプション] タブが前面に表示されます。

生成オプションとは、帳票ファイル (JSP 形式) の生成時に実行するオプションのことです。

なお、この例題では生成オプションを設定しません。このため、以下の操作 6.~11.では、帳票ファイル (JSP 形式) が生成されたあとで実行ファイルを起動する生成オプションを設定する場合の、基本的な操作手順を説明します。

6. [追加] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが表示されます。このダイアログで、生成オプションを新規追加できます。

7. [変数名] ドロップダウンリストで次の変数名を指定します。

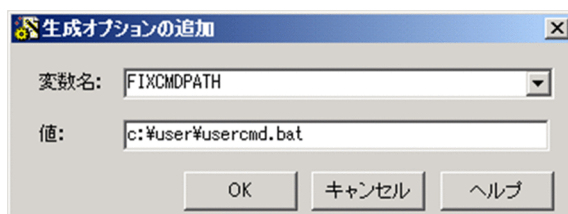
- FIXCMDPATH : 帳票ファイル (JSP 形式) が生成されたあとで、ユーザが作成した実行ファイルを起動する場合に選択する変数です。
- EXECN2ASC : native2ascii を実行する場合に選択する変数です。

生成オプションタブについては、「付録 A.3(2) [生成オプション] タブ」を参照してください。

8. [値] テキストボックスに、実行ファイルのフルパス名を入力します。

ユーザが作成した実行ファイルのフルパス名を入力してください。

項目を設定した [生成オプションの追加] ダイアログを次に示します。



9. [OK] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが閉じて、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブに戻ります。[生成オプション] タブには、[生成オプションの追加] ダイアログで設定した内容が表示されます。

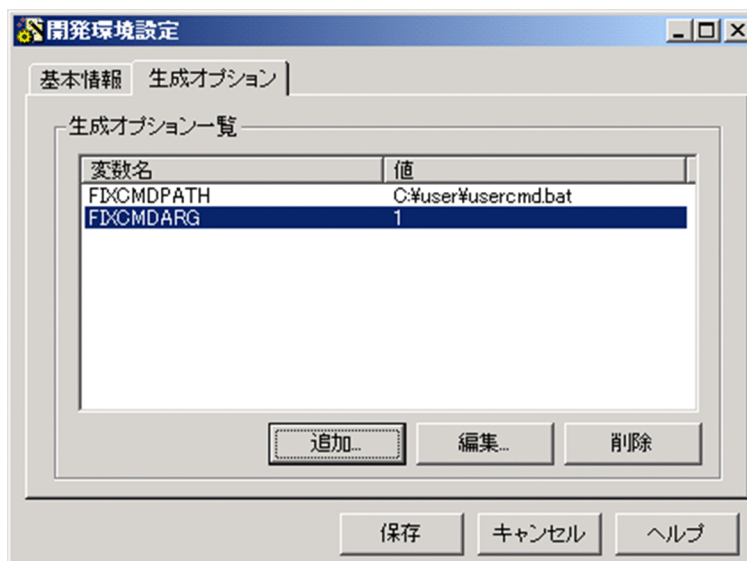
10. 操作 6.~9.を繰り返して、そのほかの変数を設定します。

変数「FIXCMDPATH」で指定した実行ファイルに引数を渡したい場合は、変数「FIXCMDARG」を設定します。[値] テキストボックスに入力した値が、引数の値になります。

11. [OK] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが閉じて、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブに戻ります。

設定内容が表示された [生成オプション] タブを次に示します。



12. [保存] ボタンをクリックします。

[開発環境設定] ダイアログで設定した内容が、プロジェクトファイルに保存されます。

3.2.4 帳票定義を作成する (BLC 帳票の場合)

帳票定義を作成するには、まず帳票定義ファイルを作成し、そのあとで帳票定義の内容を編集します。この項では、帳票「販売契約稟議」の帳票定義を作成する手順を説明します。

(1) 帳票定義ファイルを作成する

帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) を決定して、帳票定義ファイルを作成します。

操作手順

1. メイン画面で [ファイル] - [新規作成] を選択します。

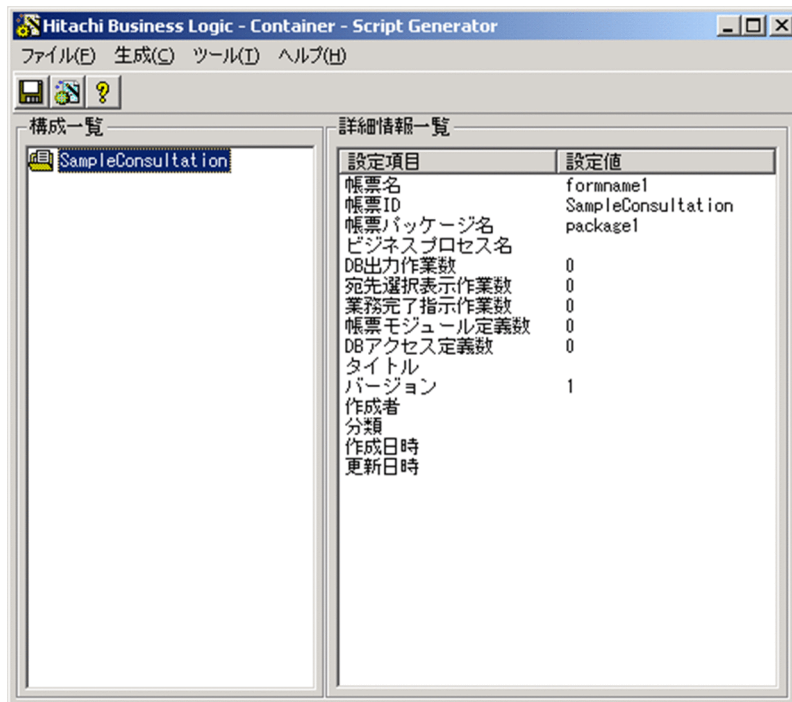
[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が表示されます。初期表示は、"form1"となっています。

2. 帳票 ID を入力します。

この例題では、"SampleConsultation"と入力してください。

帳票 ID を入力すると、帳票定義ファイルが作成されます。また、[詳細情報一覧] 領域に帳票定義の情報が表示されます。

帳票 ID を入力したメイン画面を次に示します。



(2) 帳票定義の内容を編集する

帳票の基本情報、対応するビジネスプロセス定義、対応するユーザ追加処理、DB とのアクセス方法などを、[帳票定義] 画面で定義します。

[帳票定義] 画面の詳細は、「付録 A.5 [帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

操作手順

1. [構成一覧] 領域で帳票 ID を選択して [生成] - [定義編集] を選択するか、帳票 ID をダブルクリックするか、または帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [定義編集] コマンドを選択します。

[基本情報] タブが前面に表示された状態で、[帳票定義] 画面が表示されます。

(a) 帳票の基本情報を定義する

[基本情報] タブで、帳票の基本情報を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [帳票名] テキストボックスに帳票の名前を入力します。
初期表示は、"formname1"となっています。この例題では、"販売契約稟議"と入力してください。
2. 必要に応じて、[帳票 ID] テキストボックスの帳票 ID を変更します。
[帳票 ID] テキストボックスには、「(1) 帳票定義ファイルを作成する」の操作 2. で入力した帳票 ID が表示されます。必要に応じて帳票 ID を変更してください。
この例題では、変更しないでください。
3. [帳票パッケージ名] テキストボックスにパッケージ名を入力します。
帳票パッケージ名とは、自動生成帳票クラスのパッケージ名です。パッケージとは、Java の仕様に関連したクラスのグループのことです。自動生成帳票クラスとは、帳票の生成時に作成される帳票のクラスファイルのことです。

Java のパッケージ名は, "jp.co.Hitachi.soft.blc."+ "帳票パッケージ名" になります。

初期表示は, "package1" となっています。この例題では, "Hitachi" と入力してください。

4. 特殊な帳票を作成する場合は, 該当するチェックボックスをオンにします。

「カスタム申請のソース帳票」または「DB アクセス専用帳票」を作成する場合は, 該当するチェックボックスをオンにします。

この例題では, チェックボックスをオンにしないでください。

5. [ビジネスプロセス定義] 領域で, 帳票が対応するビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

[参照] ボタンをクリックすると表示される [ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログで, ビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

この例題では, "販売契約稟議.hbx" を選択してください。

なお, 帳票が対応するビジネスプロセス定義ファイルは, あらかじめデータフォルダ ([3.2.3 開発環境を設定する (BLC 帳票の場合)] の操作 3. で指定したフォルダ) に格納しておいてください。

項目を設定した [基本情報] タブを次に示します。

注意事項

- 帳票 ID の一部またはすべてについて, 英字の大文字と小文字を変更した場合, 出力先フォルダに格納されている, 大文字と小文字が異なる Java クラスファイルおよび JSP ファイルを削除し, JSP ファイル用の帳票 ID フォルダ名を変更する必要があります。デプロイするためにコピーする場合も, 対象となるフォルダに大文字と小文字が異なるファイルおよびフォルダがないことを確認する必要があります。
- 帳票 ID はシステム内で一意になるように指定してください。
- 帳票パッケージ名の一部またはすべてについて, 英字の大文字と小文字を変更した場合, 出力先フォルダにある大文字と小文字が異なるフォルダ名も正しく変更する必要があります。デプロイするためにコピーする場合も, 対象となる環境に大文字と小文字が異なるフォルダがないことを確認する必要があります。

3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

- 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能でビジネスプロセス定義を読み込んだあとで、CSCIW-Definer によってビジネスプロセス定義を変更した場合、必ず帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で再読み込みを実行してください。再読み込みを実行しないで帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票を保存した場合、ビジネスプロセス定義が上書きされるため、矛盾が発生するおそれがあります。
- BLSG では階層定義を使用しているビジネスプロセス定義を読み込むことはできません。

(b) 作業 (WorkItem) について定義する

[作業関連] タブで、帳票が各作業 (WorkItem) で実行する処理や表示の切り替えなどについて定義する手順を説明します。

操作手順

1. [作業関連] タブを選択します。

[作業関連] タブが前面に表示されます。

2. [DB 出力作業] 領域の [DB 出力作業リストの編集] ボタンをクリックします。

[DB 出力作業選択] ダイアログが表示されます。このダイアログには、[基本情報] タブの [ビジネスプロセス定義] 領域で指定したビジネスプロセス定義の作業 (WorkItem) が一覧表示されます。一覧で、DB への出力処理を実行する作業 (WorkItem) をチェックします。

この例題では、何もチェックしないでください。

3. [OK] ボタンをクリックします。

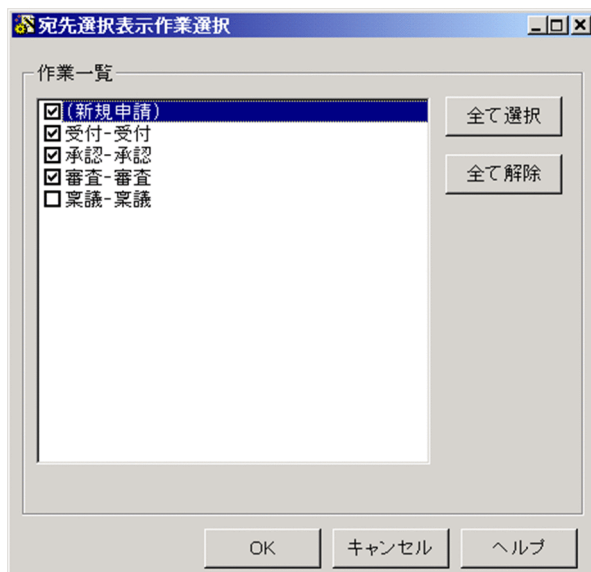
[作業関連] タブに戻ります。

4. [宛先選択表示作業] 領域の [宛先選択表示作業リストの編集] ボタンをクリックします。

[宛先選択表示作業選択] ダイアログが表示されます。一覧で、ユーザが帳票を処理する時に宛先 (次ノードの作業) を選択させる作業 (WorkItem) をチェックします。ここで選択した作業 (WorkItem) では、帳票の下部に宛先選択ドロップダウンリストが表示されます。

この例題では、" (新規申請) ", "受付-受付", "承認-承認", および"審査-審査"をチェックしてください。

チェックした [宛先選択表示作業選択] ダイアログを次に示します。



5. [OK] ボタンをクリックします。

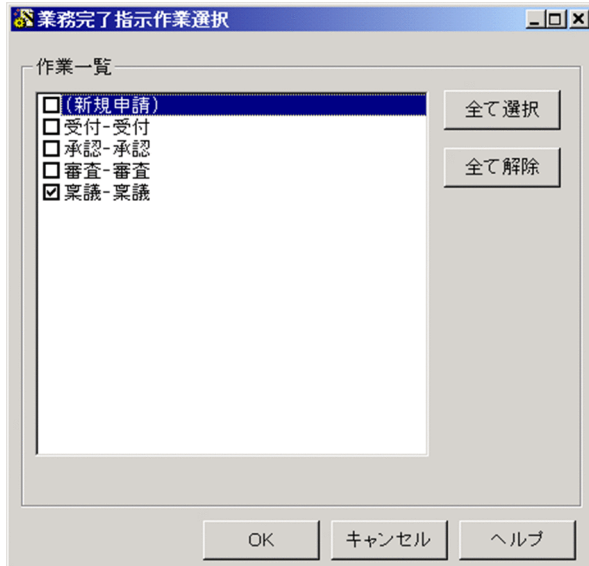
[作業関連] タブに戻ります。

6. [業務完了指示作業] 領域の [業務完了指示作業リストの編集] ボタンをクリックします。

[業務完了指示作業選択] ダイアログが表示されます。一覧で、シンクノードに到達する前に案件を完了状態にさせる作業 (WorkItem) をチェックします。

この例題では, "稟議-稟議"をチェックしてください。

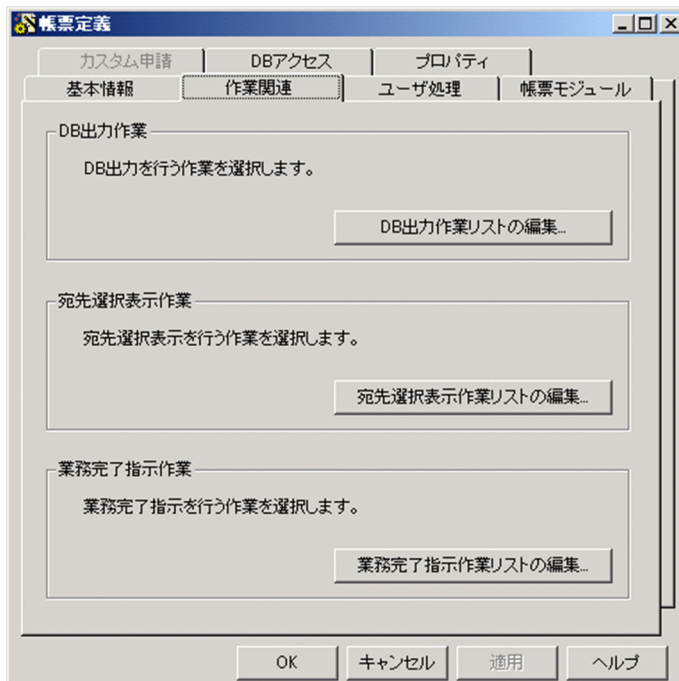
チェックした [業務完了指示作業選択] ダイアログを次に示します。



7. [OK] ボタンをクリックします。

[作業関連] タブに戻ります。

[作業関連] タブを次に示します。



(c) ユーザ追加処理について定義する

[ユーザ処理] タブで、帳票に追加するユーザ追加処理を定義する手順を説明します。なお、ユーザ追加処理を作成しない場合は、設定する必要はありません。

操作手順

1. [ユーザ処理] タブを選択します。

[ユーザ処理] タブが前面に表示されます。

2. 必要に応じて、ユーザ定義クラスを設定します。

ユーザ追加処理を Java クラスで作成する場合に設定します。[ユーザ定義クラスをインポートする。] チェックボックスをオンにして、ユーザが作成した Java クラスの名前を [クラス名] テキストボックスに入力します。拡張子を入力する必要はありません。

ユーザが作成した Java クラスは、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+ "帳票パッケージ名" のフォルダに格納してください。

この例題では、ユーザ定義クラスを設定しません。

なお、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、ユーザ定義クラスを作成する際に利用できる Java クラス「SampleConsultation_1_userServerSideClass.java」をサンプルとして提供しています。詳細は「付録 F サンプル帳票の構築方法」参照してください。

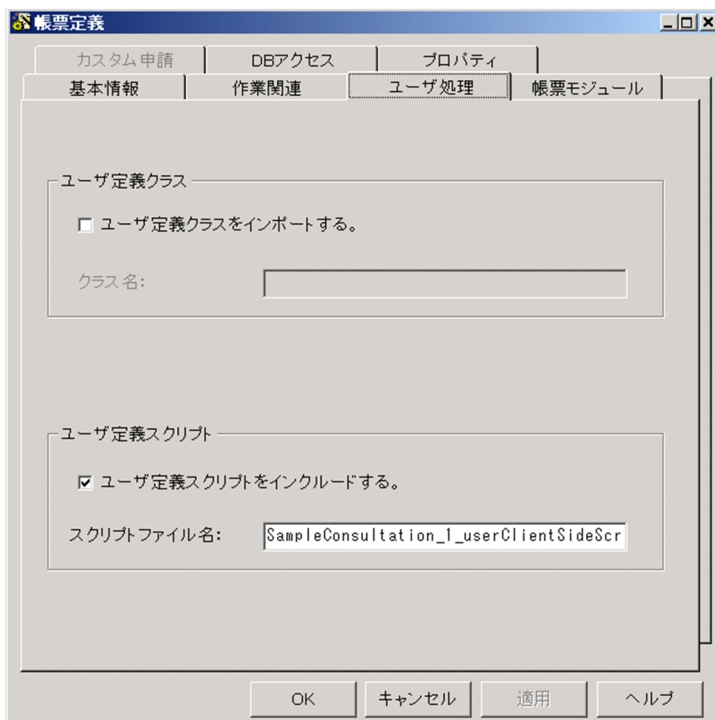
3. 必要に応じて、ユーザ定義スクリプトを設定します。

ユーザ追加処理を JavaScript で作成する場合に設定します。[ユーザ定義スクリプトをインクルードする。] チェックボックスをオンにして、ユーザが作成した JavaScript ファイルの名前を [スクリプトファイル名] テキストボックスに入力します。拡張子は、".inc"を入力します。

なお、ユーザが作成した JavaScript ファイルは、帳票ファイル (JSP 形式) と同じフォルダに格納してください。

この例題では、"SampleConsultation_1_userClientSideScript.inc"と入力してください。

項目を設定した [ユーザ処理] タブを次に示します。



ユーザ定義スクリプトのファイルは、必ず native2ascii でエンコードしたファイルを利用してください。

(d) 帳票モジュールを定義する

[帳票モジュール] タブで、帳票を構成する帳票モジュールや、帳票モジュールの帳票上の並び順などを定義する手順を説明します。

操作手順

1. [帳票モジュール] タブを選択します。

[帳票モジュール] タブが前面に表示されます。

2. [追加] ボタンをクリックします。

[帳票モジュールの編集] ダイアログが表示されます。

3. [帳票モジュール ID] テキストボックスに、帳票に追加したい帳票モジュールの ID を入力します。

この例題では、"SalesContract"と入力してください。SalesContract は、帳票モジュール「販売契約」の ID です。なお、[参照] ボタンをクリックすると表示される [帳票モジュール ID の選択] ダイアログで、作成済みの帳票モジュール ID を選択することもできます。

4. [各作業のモード] 領域で、帳票モジュールの表示および入力制御を定義します。

帳票モジュールは、ビジネスプロセス定義の作業 (WorkItem) ごとに表示/非表示および入力/参照の状態を切り替えられます。

各作業名の [モード] 欄をクリックして、「入力」、「参照」、および「非表示」の3種類のモードから一つを選択してください。

この例題では、作業 (WorkItem) 「(新規申請)」は「入力」モードを、ほかの作業 (WorkItem) はすべて「参照」モードを選択してください。

項目を設定した [帳票モジュールの編集] ダイアログを次に示します。

作業名	モード
(新規申請)	入力
受付-受付	参照
承認-承認	参照
審査-審査	参照
稟議-稟議	参照

5. [OK] ボタンをクリックします。

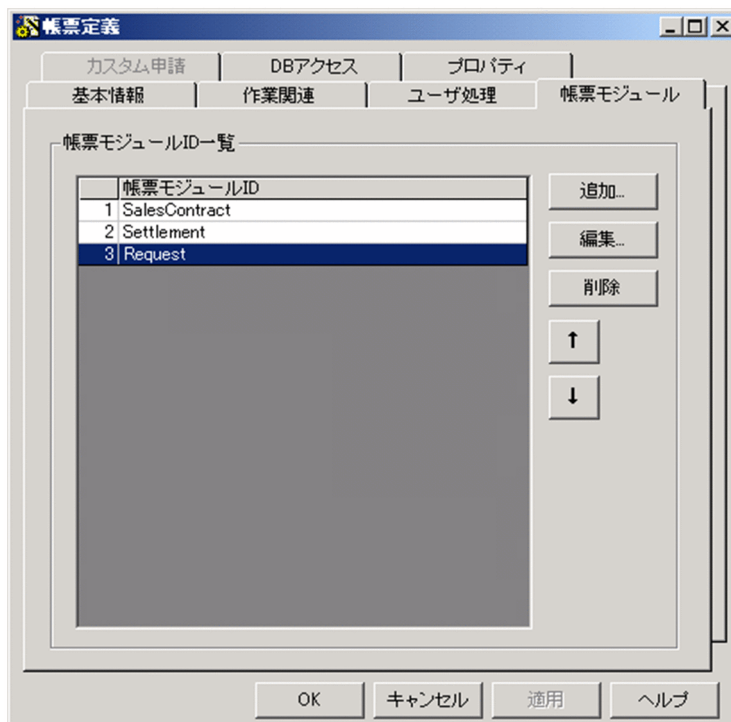
3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

[帳票モジュールの編集] ダイアログが閉じて、[帳票モジュール] タブに設定内容が反映されます。
この例題では、さらに帳票モジュール ID 「Settlement」と「Request」を追加する必要があります。
Settlement は帳票モジュール「販売契約決済」、Request は帳票モジュール「審査依頼部署」の ID です。これら二つの帳票モジュールはサンプルとして提供されているため、操作 3.の [帳票モジュール ID の選択] ダイアログで選択することで、追加できます。

6. 帳票モジュールの並び順を定義します。

[帳票モジュール ID 一覧] 領域で、帳票モジュール ID を選択して、[↑] ボタンまたは [↓] ボタンをクリックしてください。帳票モジュールの並び順を入れ替えられます。

この例題では、上から「SalesContract」、「Settlement」、「Request」の順に設定してください。
項目を設定した [帳票モジュール] タブを次に示します。



(e) DB アクセス時に必要な情報を定義する

[DB アクセス] タブでは、帳票が DB との入出力処理を実行するための定義（以降、DB アクセス定義と呼びます）をします。通常、DB アクセス定義は帳票モジュールごとに設定しますが、帳票ごとに DB アクセスをしたい場合は、[帳票定義] 画面の [DB アクセス] タブで設定します。

なお、帳票定義の DB アクセス定義名は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能によって、先頭に "F(帳票 ID)_" が自動的に付加されます。この付加された部分は、変更できません。[DB アクセス定義の編集] ダイアログで DB アクセス定義名を設定する場合は、 "_" のあとに目的の DB アクセス定義の名前を設定してください。

この例題では、帳票定義に DB アクセス定義を設定しません。

DB アクセス定義の基本的な定義の手順の詳細は、「3.2.5(2)(e) DB アクセス時に必要な情報を定義する」を参照してください。

また、DB アクセスの定義方法の詳細は、「3.5 DB アクセス定義の定義方法」を参照してください。

(f) 帳票定義ファイルの管理情報を定義する

管理者が帳票定義ファイルを管理するための情報を、[プロパティ] タブで定義する手順を説明します。

操作手順

1. [プロパティ] タブを選択します。

[プロパティ] タブが前面に表示されます。

2. [タイトル] テキストボックスに、帳票定義のタイトルを入力します。

この例題では、"サンプル (販売契約稟議)" と入力してください。

3. [バージョン] テキストボックスに、帳票定義のバージョン番号を入力します。

バージョン番号は、帳票ファイル (JSP 形式) のファイル名の最後に付けられます。初期表示は、"1" となっています。

この例題では、初期表示の「1」から変更しないでください。

4. [作成者] テキストボックスに、帳票定義の作成者または提供先の顧客名を入力します。

この例題では、"(株)日立製作所" と入力してください。

5. [分類] テキストボックスに、帳票定義の分類を入力します。

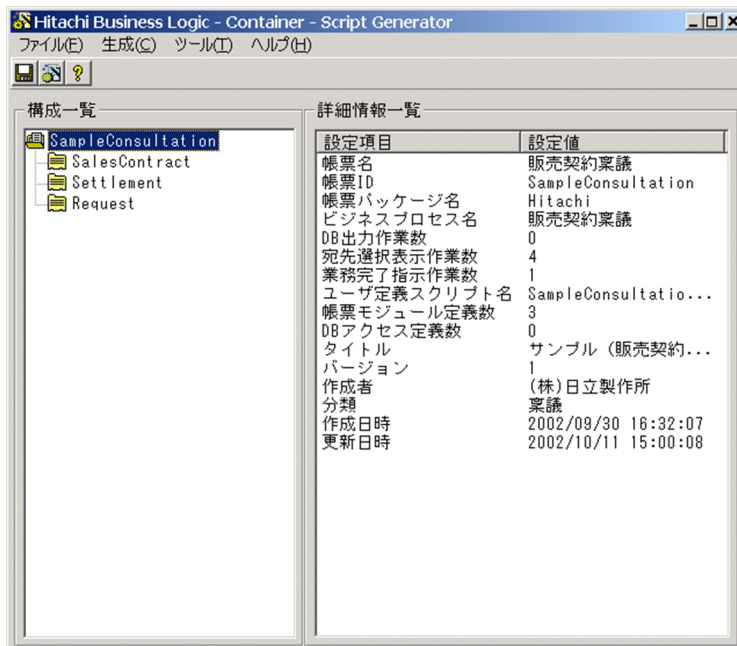
この例題では、"稟議" と入力してください。

6. [コメント] テキストボックスに、帳票を識別するためのコメント (著作権表示や修正履歴など) を入力します。

この例題では、"All Rights Reserved. Copyright (C) 2002, Hitachi, Ltd." と入力してください。

これで、帳票定義ファイルの編集は完了です。[OK] ボタンをクリックすると、[帳票定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。メイン画面の [詳細情報一覧] 領域には、[帳票定義] 画面で定義された内容が表示されます。

定義された内容が表示されたメイン画面を次に示します。



3.2.5 帳票モジュール定義を作成する

帳票を構成する帳票モジュール定義を作成します。帳票モジュール定義を作成するには、まず帳票モジュール定義ファイルを作成し、そのあとで帳票モジュール定義の内容を編集します。この項では、帳票モジュール定義を作成する手順を説明します。

なお、例題の帳票「販売契約稟議」は三つの帳票モジュールで構成されています。この項では、それらの帳票モジュールの一つである「販売契約」を例として説明します。

(1) 帳票モジュール定義ファイルを作成する

帳票に対して新しい帳票モジュールを追加する場合は、帳票モジュール ID を決定して、帳票モジュール定義ファイルを作成します。

ただし、この例題では、「3.2.4(2)(d) 帳票モジュールを定義する」ですでに帳票モジュール定義ファイルを作成しているので、この操作は不要です。

操作手順

1. メイン画面の [構成一覧] 領域で、帳票 ID を選択します。
2. [ファイル] - [帳票モジュールの追加] - [新規作成] を選択するか、または右クリックすると表示されるメニューから [帳票モジュールの追加] - [新規作成] を選択します。
帳票 ID の下に、帳票モジュール ID の入力欄が表示されます。初期表示は"module1"となっています。
3. 帳票モジュール ID を入力します。
帳票モジュール ID を入力すると、帳票モジュール定義ファイルが作成されます。また、[詳細情報一覧] 領域に、帳票モジュール定義の情報が表示されます。

(2) 帳票モジュール定義ファイルを編集する

帳票モジュールの基本情報、対応する画面 HTML、DB とのアクセス方法などを、[帳票モジュール定義] 画面で定義します。

[帳票モジュール定義] 画面の詳細は、「付録 A.12 [帳票モジュール定義] 画面」を参照してください。

操作手順

1. [構成一覧] 領域で帳票モジュール ID を選択して [生成] - [定義編集] を選択するか、帳票モジュール ID をダブルクリックするか、または帳票モジュール ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [定義編集] コマンドを選択します。
[帳票モジュール] タブが前面に表示された状態で、[帳票定義モジュール定義] 画面が表示されます。この例題では、帳票モジュール ID 「SalesContract」を選択してください。

(a) 帳票モジュールの基本情報を定義する

[帳票モジュール] タブで、帳票モジュールの基本情報を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [帳票モジュール名] テキストボックスに、帳票モジュールの名前を入力します。
この例題では、「販売契約」と入力してください。
2. 必要に応じて、[帳票モジュール ID] テキストボックスの帳票モジュール ID を変更します。

[帳票モジュール ID] テキストボックスには、「(1) 帳票モジュール定義ファイルを作成する」の操作 3.で入力した帳票モジュール ID が表示されます。必要に応じて、帳票モジュール ID を変更してください。

この例題では、変更しないでください。

3. [帳票モジュールプレフィックス] テキストボックスに、帳票モジュールを登録するときに帳票項目に付けられるコード (半角英数字, 最大文字列長 32 バイト) を入力します。

先頭に、半角小文字の "m" が必ず付けられます。

この例題では、"1" を入力して "m1" としてください。

4. [帳票モジュール HTML] 領域で、帳票モジュールに対応する画面 HTML を選択します。

[参照] ボタンをクリックすると表示される [帳票モジュール HTML ファイルの選択] ダイアログで、画面 HTML を選択します。

この例題では、"販売契約.htm" を選択してください。

なお、画面 HTML を選択したあと、[参照] ボタンの上にある [HTML ビューワ] ボタンをクリックすると、HTML ビューワが表示されます。HTML ビューワでは、画面 HTML の内容や項目変数名などを確認できます。

項目を設定した [帳票モジュール] タブを次に示します。

(b) 帳票モジュール項目の表示および入力制御を定義する

帳票モジュールを構成するテキスト領域やボタンなどを帳票モジュール項目といいます。ここでは、帳票モジュール項目の表示/非表示および入力/参照の状態を、申請ノードと承認ノードで切り替えるために定義する手順を説明します。帳票モジュール項目の表示および入力状態の切り替えは、[項目入力・表示制御] タブで定義します。

操作手順

1. [項目入力・表示制御] タブを選択します。
[項目入力・表示制御] タブが前面に表示されます。
2. 申請帳票の [非入力項目リストの編集] ボタンをクリックします。

3 帳票ジェネレータ (BSLG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログが表示されます。

3. [項目一覧] 領域で、申請ノードでは参照 (入力しない) 状態にする帳票モジュール項目をチェックします。

この例題では、チェックしないでください。

4. [OK] ボタンをクリックします。

[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログが閉じて、[項目入力・表示制御] タブに戻ります。

5. 申請帳票の [非表示項目リストの編集] ボタンをクリックします。

[申請帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログが表示されます。

6. [項目一覧] 領域で、申請ノードでは表示しない帳票モジュール項目をチェックします。

この例題ではチェックしないでください。

7. [OK] ボタンをクリックします。

[申請帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログが閉じて、[項目入力・表示制御] タブに戻ります。

8. 承認帳票の [入力項目リストの編集] ボタンをクリックします。

[承認帳票における入力項目リストの編集] ダイアログが表示されます。

9. [項目一覧] 領域で、承認ノードで入力 (入力する) 状態にする帳票モジュール項目をチェックします。

この例題ではチェックしないでください。

10. [OK] ボタンをクリックします。

[承認帳票における入力項目リストの編集] ダイアログが閉じて、[項目入力・表示制御] タブに戻ります。

11. 承認帳票の [非表示項目リストの編集] ボタンをクリックします。

[承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログが表示されます。

12. [項目一覧] 領域で、承認ノードで表示しない帳票モジュール項目をチェックします。

この例題ではチェックしないでください。

13. [OK] ボタンをクリックします。

[承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログが閉じて、[項目入力・表示制御] タブに戻ります。

(c) 帳票モジュール項目の内容を定義する

画面 HTML から帳票モジュール項目の情報を読み込んで、詳細な内容を定義する手順を説明します。ここでは、例題の帳票モジュール項目「Year」(契約年)を例に挙げて説明します。

帳票モジュール項目の内容は、[項目プロパティ] タブで定義します。

操作手順

1. [項目プロパティ] タブを選択します。

[項目プロパティ] タブが前面に表示されます。[項目プロパティ一覧] 領域には、画面 HTML から読み込まれた帳票モジュール項目の内容が一覧表示されます。

2. [編集] ボタンをクリックします。

[項目プロパティの編集] ダイアログが表示されます。このダイアログで、帳票モジュール項目の内容を定義します。

3. [番号] 領域で、内容を定義したい帳票モジュール項目の番号を選択します。

この例題では, "3"を選択してください。帳票モジュール項目「Year」の内容が表示されます。

4. [項目名] テキストボックスに, 帳票モジュール項目の名前を入力します。

[項目プロパティ] タブの [項目プロパティ一覧] 領域に表示される名前を入力します。初期表示では "Year オブジェクト"となっています。この例題では, "契約年"と入力してください。

5. [共通項目] タブの項目を設定します。

帳票モジュール項目の共通項目を設定します。各項目の [設定値] 欄をクリックすると, 値を入力または選択できます。

共通項目には, 次の項目があります。

項目長

帳票モジュール項目の入力長を設定します。この例題では, "4"と入力してください。

項目初期値

項目変数にあらかじめ代入する値を設定します。この例題では, "2002"と入力してください。

入力必須

この帳票モジュール項目が, ユーザに入力されなかった場合の処理を設定します。ドロップダウンリストで"yes"を選択すると, 入力しなかった場合にエラーメッセージが表示されます。この例題では, "yes"を選択してください。

入力チェック要

この帳票モジュール項目が, ユーザに入力された場合の処理を設定します。ドロップダウンリストで"yes"を選択すると, 入力されたデータがチェックされます。また, "yes"を選択すると, [チェック] タブが活性化します。

この例題では, "no"を選択してください。

データ種別

入力されたデータをチェックするための, データ種別を設定します。入力されたデータが設定されたデータ種別と異なっていた場合, エラーメッセージが表示されます。この例題では, "整数"を選択してください。

桁区切り表示

データ種別で"整数"または"数値 (実数)"が選択されている場合, 表示項目の値を桁区切りで表示するかどうかを設定します。この例題では, "no"を選択してください。

"yes"に設定すると, 整数値または実数値を表す数字文字列を, 3桁ごとに「,」(半角コンマ)で区切って表示します。整数値または実数値を表す数字文字列だけを桁区切り表示します。

データ種別で"整数"が選択されている場合, 10進数で構成された数字文字列を桁区切り表示します。データ種別で"実数"が選択されている場合, 10進数で構成された数字文字列, および小数点(先頭および末尾を除く)を含む10進数で構成された数字文字列を桁区切り表示します。これ以外の文字を含む場合は, 桁区切り表示しません。

負の値を表す場合は, 左端のマイナス記号だけが有効です。また, 0を表す整数および実数にマイナス記号が付加されている場合, マイナス記号を省略します。

データ種別で"文字"が選択されている場合は, 桁区切り表示するかどうか設定できません。

項目が設定された [共通項目] タブを次に示します。



6. 必要に応じて、[チェック] タブの項目を設定します。

帳票モジュール項目に入力されたデータをチェックする際の入力規則やチェックの実行条件などを設定します。各項目の [設定値] 欄をクリックすると、値を入力または選択できます。

[チェック] タブの各項目の詳細な内容については、「付録 A.14(2) [チェック] タブ」を参照してください。

なお、この例題では、[チェック] タブを設定する必要はありません。

7. 必要に応じて、[動作] タブの項目を設定します。

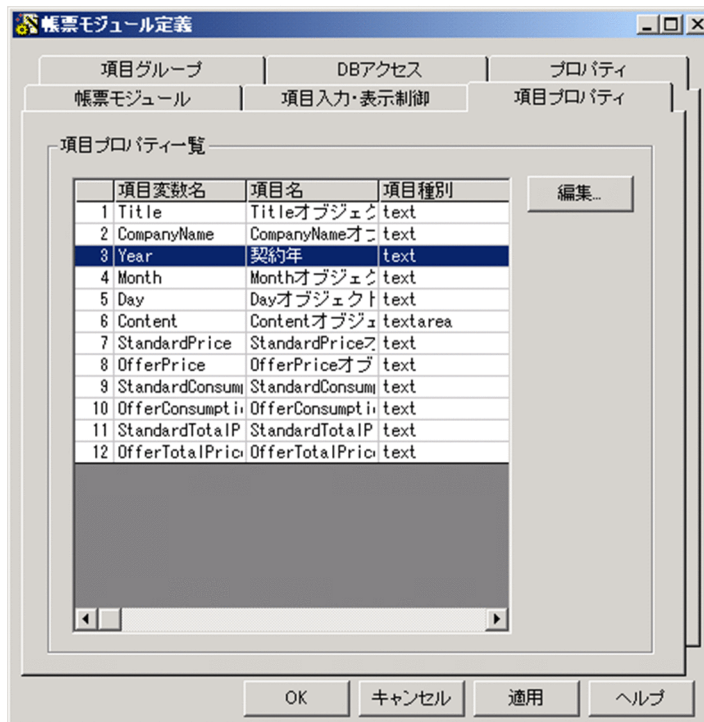
帳票モジュール項目の動作について設定します。各項目の [設定値] 欄をクリックすると値を入力または選択できます。

[動作] タブの各項目の詳細な内容については、「付録 A.14(3) [動作] タブ」を参照してください。

なお、この例題では [動作] タブを設定する必要はありません。

8. [OK] ボタンをクリックします。

[項目プロパティの編集] ダイアログが閉じて、[項目プロパティ] タブに定義内容が反映されます。定義内容が反映された [項目プロパティ] タブを次に示します。

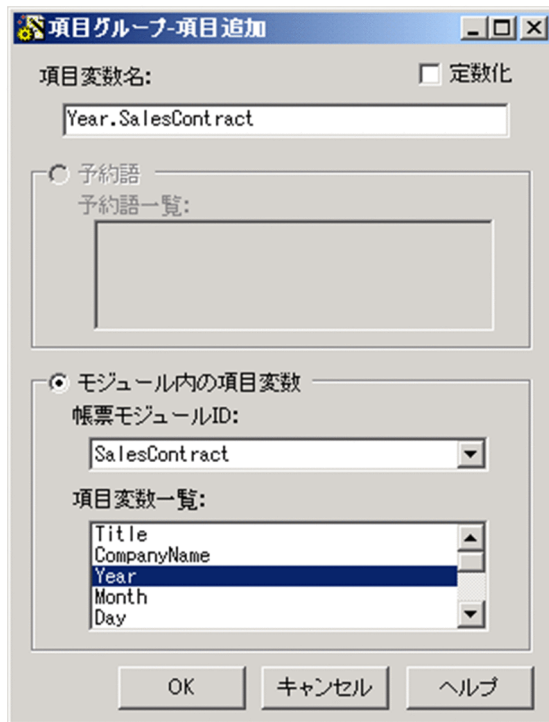


(d) 項目グループを定義する

項目グループ（複数の帳票モジュール項目をグループ化したもの）を定義する手順を説明します。項目グループは、[項目グループ] タブで定義します。

操作手順

1. [項目グループ] タブを選択します。
[項目グループ] タブが前面に表示されます。
2. [追加] ボタンをクリックします。
[項目グループ定義編集] ダイアログが表示されます。
3. [項目グループ名] テキストボックスに項目グループ名を入力します。
この例題では、"ContractDate"と入力してください。
4. [項目一覧] 領域の [追加] ボタンをクリックします。
[項目グループ-項目追加] ダイアログが表示されます。
5. [帳票モジュール ID] ドロップダウンリストで、帳票モジュール項目をグループ化したい帳票モジュール ID を選択します。
この例題では、"SalesContract"を選択します。
6. [項目変数一覧] 領域から、グループ化したい帳票モジュール項目の項目変数を選択します。
この例題では、"Year"を選択します。
[項目変数名] テキストボックスに、"Year.SalesContract"と表示されます。
項目を設定した [項目グループ-項目追加] ダイアログを次に示します。



7. [OK] ボタンをクリックします。

[項目グループ-項目追加] ダイアログが閉じて、[項目グループ定義編集] ダイアログの [項目一覧] 領域に設定内容が反映されます。

この例題では、さらに操作 4.~7.を繰り返し、[項目一覧] 領域に、"Month.SalesContract"および "Day.SalesContract"を追加してください。

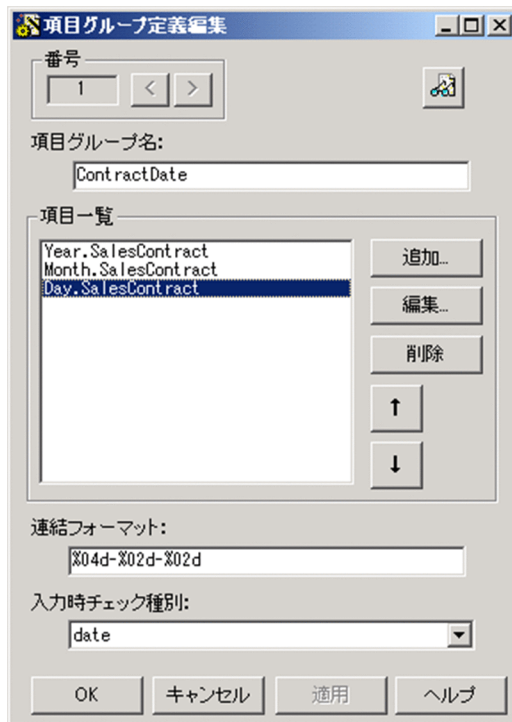
8. [連結フォーマット] テキストボックスに、連結する項目変数の書式を入力します。

DB への出力で日付型カラムに使用する場合は、DB の SQL 文に合致する書式にします。この例題では、"%04d-%02d-%02d"と入力してください。

9. [入力時チェック種別] ドロップダウンリストで、入力値のチェック種別を選択します。

date を選択すると、項目グループの帳票モジュール項目にデータが入力されていた場合、日付があるかをチェックします。この例題では、"date"を選択してください。

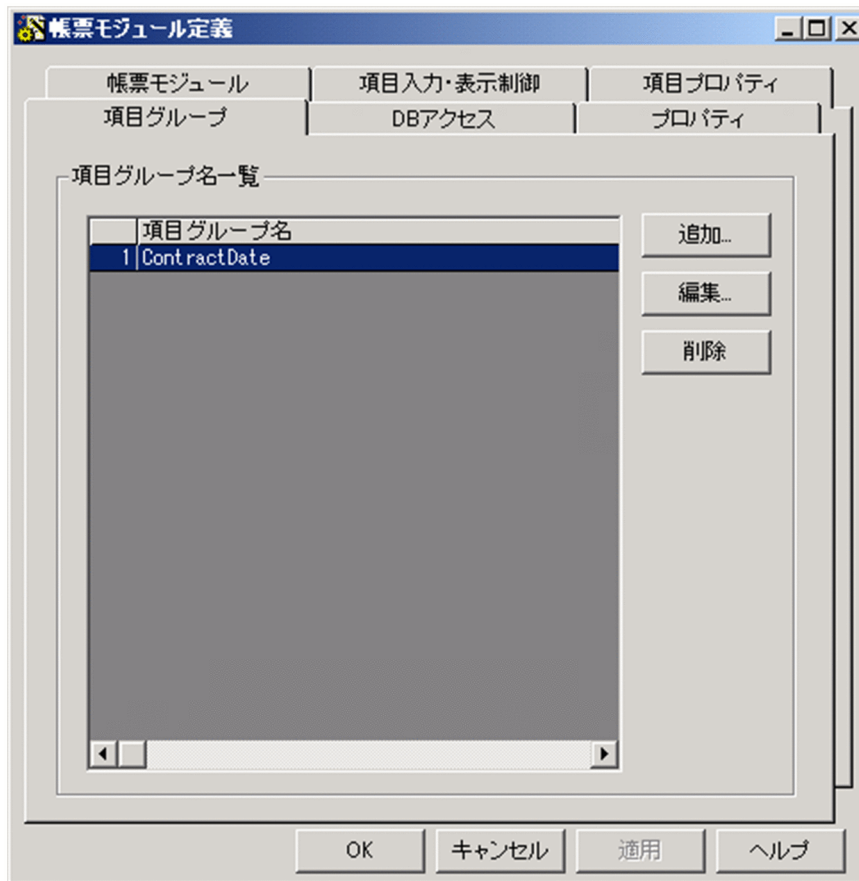
項目を設定した [項目グループ定義編集] ダイアログを次に示します。



10. [OK] をクリックします。

[項目グループ定義編集] ダイアログが閉じて、設定内容が [項目グループ] タブの [項目グループ名一覧] 領域に反映されます。

設定内容が反映された [項目グループ] タブを次に示します。



(e) DB アクセス時に必要な情報を定義する

帳票モジュール定義の DB アクセス定義を、[DB アクセス] タブで定義します。

なお、この例題では DB アクセス定義を使用しないため、ここでは基本的な操作手順を説明します。

操作手順

1. [DB アクセス] タブを選択します。
[DB アクセス] タブが前面に表示されます。
2. [追加] ボタンをクリックします。
[DB アクセス定義の編集] ダイアログが表示されます。
3. [DB アクセス定義を無効化する。] チェックボックスで、定義する DB アクセスを有効にするか無効にするかを設定します。
4. [DB アクセス定義名] テキストボックスに DB アクセス定義の名前を入力します。
初期表示は、"M(帳票モジュール ID)_1"となっています。"M(帳票モジュール ID)"は帳票ジェネレータ (BSLG) 機能によって自動的に付加される部分で、変更できません。"_1"のあとに目的の DB アクセス定義の名前を設定してください。
DB アクセス定義名の詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。
5. [接続テーブル定義] タブの項目を設定します。
このタブでは、DB へ接続する際に必要な次の情報を設定します。

[DB 接続情報] ドロップダウンリスト

BLC プロパティファイルで定義した DB 接続情報を識別するための、DB 接続名を設定します。

[テーブル名] テキストボックス

DB アクセス時のテーブル名を入力します。

[DB 入出力属性] ドロップダウンリスト

DB アクセス時の入出力属性を選択します。

[DB 操作種別] ドロップダウンリスト

DB アクセス時の操作種別を選択します。

[接続テーブル定義] タブの設定例を、次に示します。

The screenshot shows a dialog box titled "DBアクセス定義の編集". It has several sections:

- 番号**: A field with "1" and navigation buttons (<, >).
- DBアクセス定義**: Buttons for "読み込.." and "保存..".
- DBアクセス定義名**: A text box containing "MName_NameInput".
- DBアクセス定義を無効化する**: A checkbox that is currently unchecked.
- 接続テーブル定義**: The active tab, containing:
 - DB接続情報**: A dropdown menu with "USERINFO" selected.
 - テーブル名**: An empty text input field.
 - DB入出力属性**: A dropdown menu with "入力" selected.
 - DB操作種別**: A dropdown menu with "単項目" selected.
- Buttons**: "OK", "キャンセル", "適用", and "ヘルプ" at the bottom.

6. [SQL 検索条件指定] タブを選択します。

[SQL 検索条件指定] タブが前面に表示されます。

7. [SQL 検索条件指定] タブの項目を設定します。

このタブでは、接続した DB のテーブルから情報を取得する際の検索条件を指定します。

[SQL 用検索条件項目] テキストボックス

SQL の WHERE 句に指定する条件文を入力します。

[SQL 用条件オプション] テキストボックス

SQL 文の最後尾に指定する句 (ORDER BY など) を入力します。

[レコード数項目変数名] テキストボックス

[接続テーブル定義] タブの [DB 操作種別] ドロップダウンリストで"リスト項目"または"候補値取得用"を設定した場合に、レコード数を示す項目変数名を設定します。

[参照ゼロ件エラー扱い] チェックボックス

DB アクセスによって得られたレコードの数が 0 件のときにエラーとしたい場合、このチェックボックスをオンにします。

【候補値追加取得】 チェックボックス

画面 HTML ファイル内に記述されたドロップダウンリストの候補値またはリスト項目に、DB アクセスによって取得したデータを追加する場合、このチェックボックスをオンにします。

8. 【カラム項目定義】 タブを選択します。

【カラム項目定義】 タブが前面に表示されます。

9. 【追加】 ボタンをクリックします。

【カラム項目定義】 ダイアログが表示されます。このダイアログで、DB テーブルのカラムと画面項目の対応を設定します。

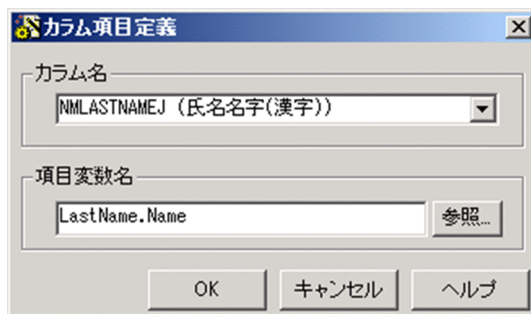
【カラム名】 テキストボックスまたはドロップダウンリスト

接続先 DB テーブルのカラム名を入力します。または、【接続テーブル定義】 タブで定義する「DB 接続情報」が、"_USERINFO"または"_AUTHINFO"の場合は、ドロップダウンリストからカラム名を選択します。

【項目変数名】 テキストボックス

画面 HTML ファイル中の項目変数名またはキーカラム制御用の予約語を入力します。【参照】 ボタンをクリックすると表示される【項目変数選択】 ダイアログで選択することもできます。

【カラム項目定義】 ダイアログの設定例を次に示します。

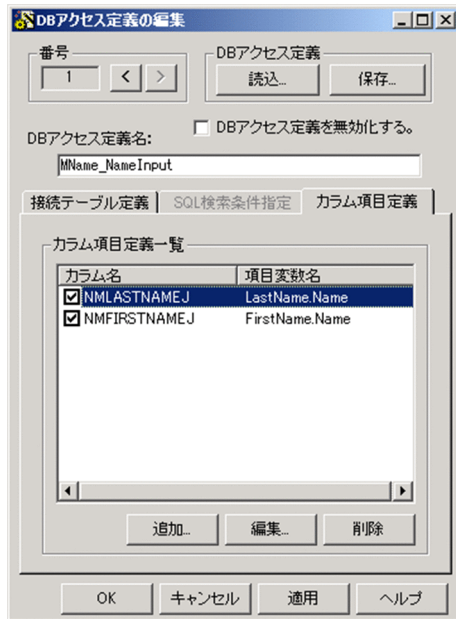


10. 【OK】 ボタンをクリックします。

【カラム項目定義】 ダイアログが閉じて、設定した内容が【カラム項目定義】 タブに反映されます。

11. 【カラム項目定義】 タブの【カラム項目定義一覧】 領域で、DB アクセス時に有効にするカラム項目定義をチェックします。

【カラム項目定義】 タブの設定例を次に示します。



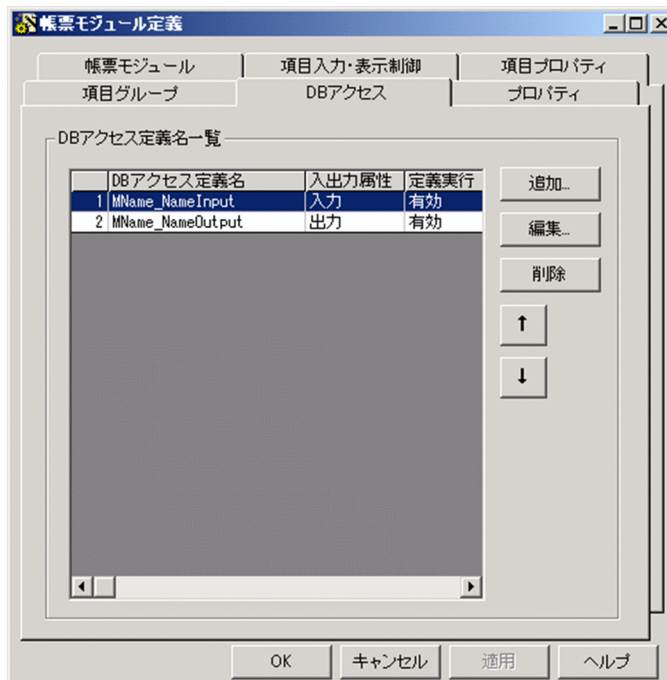
12. [DB アクセス定義] 領域の [保存] ボタンをクリックします。

DB アクセス定義がファイルとして保存されます。保存されたファイルを、DB アクセス定義ファイル (定義用) と呼びます。DB アクセス定義ファイル (定義用) は、ほかの帳票定義および帳票モジュール定義を作成するときに、ひな形として利用できます。

13. [OK] ボタンをクリックします。

[DB アクセス定義の編集] ダイアログが閉じて、設定した内容が [帳票定義] 画面の [DB アクセス] タブに反映されます。

設定内容が反映された [DB アクセス] タブの例を次に示します。

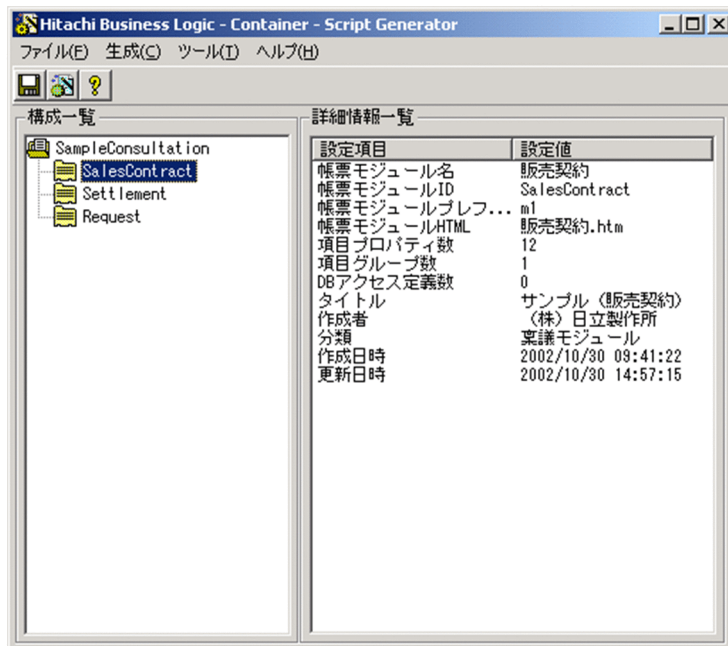


(f) 帳票モジュール定義ファイルの管理情報を定義する

帳票モジュール定義ファイルの管理情報を [プロパティ] タブで定義します。定義する手順については、「3.2.4(2)(f) 帳票定義ファイルの管理情報を定義する」の操作手順を参照してください。

これで、帳票モジュール定義ファイルの編集が完了しました。[OK] ボタンをクリックすると、[編集モジュール定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。メイン画面の [詳細情報一覧] 領域には、[帳票モジュール定義] 画面で定義された内容が表示されます。

定義された内容が表示されたメイン画面を次に示します。



3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)

作成した帳票定義ファイルおよび帳票モジュール定義ファイルを基に、帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

操作手順

1. [生成] - [帳票ファイル生成] を選択するか、または [構成一覧] 領域で帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [帳票ファイル生成] コマンドを選択します。

帳票定義ファイルが保存されている場合

帳票ファイルが生成されます。

帳票定義ファイルが保存されていない場合

帳票定義ファイルを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、帳票定義ファイルが保存されます。ただし、一度も保存していない場合は、[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。[名前を付けて保存] ダイアログで [保存] ボタンをクリックすると、帳票定義ファイルが保存されて、帳票ファイルが生成されます。

帳票ファイルを生成すると、[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブで設定した出力先フォルダに、帳票ファイル (JSP 形式) を含む生成ファイルが出力されます。生成ファイルの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

出力されたファイルを運用するには、アプリケーションサーバにファイルをコピーしたあと、BLC 実行環境機能の帳票管理機能で帳票をサーバに登録する必要があります。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

3.3 帳票を再生成する (BLC 帳票の場合)

この節では、ビジネスプロセス定義、画面 HTML、またはユーザ追加処理が変更された場合に、BLC 帳票を再生成する方法を説明します。

ここでは、例題の帳票「販売契約稟議」の画面 HTML を変更した例を挙げて、BLC 帳票を再生成する手順を説明します。

(1) 例題の内容

帳票「販売契約稟議」の帳票モジュール「販売契約」の画面 HTML に、帳票モジュール項目「趣旨」を次の図のように追加します。

図 3-6 「趣旨」を追加した画面 HTML

標準価格		提供価格	
価格	円	円	円
消費税	円	円	円
合計	円	円	円

(2) 帳票を再生成する手順

帳票を再生成する手順を説明します。

操作手順

1. メイン画面で [ファイル] - [開く] を選択すると表示される [帳票 ID の選択] ダイアログで、帳票 ID を選択します。
メイン画面に、選択した帳票の定義内容が表示されます。
この例題では、帳票「販売契約稟議」の帳票 ID を選択してください。
2. 帳票 ID の下に表示されている帳票モジュール ID のうち、変更したい画面 HTML に対応する帳票モジュール ID をダブルクリックします。
[帳票モジュール定義] 画面が開きます。
この例題では、帳票モジュール「販売契約」の帳票モジュール ID 「SalesContract」を選択してください。
3. [基本情報] タブの [帳票モジュール HTML] 領域で [参照] ボタンをクリックします。
[帳票モジュール HTML ファイルの選択] ダイアログが表示されます。
4. 変更した画面 HTML ファイルを選択します。
この例題では、"販売契約.htm" を選択してください。
5. [開く] ボタンをクリックします。
[帳票モジュール HTML ファイルの選択] ダイアログが閉じて、[帳票モジュール] タブに戻ります。
このとき、変更した画面 HTML が再度読み込まれます。

6. [帳票モジュール定義] 画面で、追加した帳票モジュール項目「趣旨」について必要な情報を定義します。
- [項目入力・表示制御] タブ、[項目プロパティ] タブ、[項目グループ] タブ、および [DB アクセス定義] タブで、帳票モジュール項目「趣旨」について必要な情報を定義します。
- この例題では、[項目プロパティ] タブで「Content」を編集し、項目名を「Content オブジェクト」から「趣旨」に変更してください。
- 操作手順の詳細は、「3.2.5 帳票モジュール定義を作成する」を参照してください。
7. [OK] ボタンをクリックします。
- [帳票モジュール定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。このとき、帳票モジュール定義の変更が帳票定義に反映されます。
8. 帳票ファイル (JSP 形式) を再生成します。
- 操作手順の詳細は、「3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

これで、帳票「販売契約稟議」の再生成が完了しました。

帳票ファイル (JSP 形式) を一度に再生成するには

例題のように、帳票モジュール定義に変更があった場合は、その帳票モジュールを部品として使っているすべての帳票ファイル (JSP 形式) を一度に再生成することもできます。

帳票モジュールを部品として使用する方法の詳細は、「2.1.1(2)(g) 帳票モジュールの部品化機能」を参照してください。

帳票ファイル (JSP 形式) を一度に再生成する手順を次に示します。

操作手順

1. メイン画面の [構成一覧] 領域で、変更した帳票モジュールを選択します。
2. [生成] - [関連する帳票ファイルの再生成] を選択するか、または右クリックすると表示されるメニューから [関連する帳票ファイルの再生成] コマンドを選択します。
その帳票モジュールを使っているすべての帳票定義が検索されて、各帳票定義の帳票ファイル (JSP 形式) が再生成されます。

なお、帳票ファイル (JSP 形式) を再生成したあとは、各定義 (帳票定義、帳票モジュール定義、および DB アクセス定義) の内容を、各定義の画面ですべて見直す必要があります。

3.4 特殊な帳票を作成する

この節では、カスタム申請のソース帳票、およびDB アクセス専用帳票を作成する方法を説明します。

3.4.1 カスタム申請のソース帳票を作成する

この項では、カスタム申請のソース帳票を作成する方法を説明します。

(1) 例題の説明

ここでは、カスタム申請のソース帳票「販売契約稟議をカスタムするための帳票」を例に挙げて説明します。申請者がソース帳票「販売契約稟議をカスタムするための帳票」で契約先の名前を入力すると、帳票「販売契約稟議」の帳票モジュール項目「契約先名」に反映されます。

ソース帳票「販売契約稟議をカスタムするための帳票」と帳票「販売契約稟議」を次に示します。

図 3-7 ソース帳票「販売契約稟議をカスタムするための帳票」

図 3-8 帳票「販売契約稟議」

	標準価格	提供価格
価格	円	円
消費税	円	円
合計	円	円

(2) カスタム申請のソース帳票の作成手順

カスタム申請のソース帳票を作成する手順について説明します。

操作手順

1. メイン画面で [ファイル] - [新規作成] を選択します。
[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が表示されます。
2. 帳票 ID を入力します。
この例題では、"PreSampleConsultation" と入力してください。
3. [構成一覧] 領域で帳票 ID を選択して [生成] - [定義編集] を選択するか、帳票 ID をダブルクリックするか、または帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [定義編集] コマンドを選択します。
[基本情報] タブが前面に表示された状態で、[帳票定義] 画面が表示されます。
4. [基本情報] タブで、[帳票情報] 領域の項目を定義します。
この例題では、次のように定義してください。

項目名	この例題での定義内容
[帳票名] テキストボックス	販売契約稟議をカスタムするための帳票
[帳票 ID] テキストボックス	PreSampleConsultation
[帳票パッケージ名] テキストボックス	Hitachi

5. [カスタム申請のソース帳票] チェックボックスをオンにします。
[カスタム申請] タブが活性になります。また、[基本情報] タブの [DB アクセス専用帳票] チェックボックスならびに [ビジネスプロセス定義] 領域、および [作業関連] タブが非活性になります。
項目を設定した [基本情報] タブを次に示します。

6. ソース帳票にユーザ追加処理を追加したい場合は、[ユーザ処理] タブで必要な情報を設定します。
操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(c) ユーザ追加処理について定義する」を参照してください。
7. [帳票モジュール] タブで、ソース帳票を構成する帳票モジュールや帳票モジュールの並び順などを定義します。
操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(d) 帳票モジュールを定義する」を参照してください。

8. [カスタム申請] タブを選択します。

[カスタム申請] タブが前面に表示されます。このタブで、ソース帳票に必要な情報を設定します。

[カスタム申請] タブの詳細は、「付録 A.5(5) [カスタム申請] タブ」を参照してください。

9. [ターゲット帳票 ID] 領域の [参照] ボタンをクリックします。

[帳票 ID の選択] ダイアログが表示されます。

なお、ターゲット帳票 ID とは、ソース帳票で条件を入力したあとに表示されるカスタム申請帳票の ID です。

10. カスタム申請帳票の帳票 ID を選択します。

ここで選択した帳票 ID のカスタム申請帳票が、定義しているソース帳票のターゲットになります。この例題では、"SampleConsultation"を選択してください。

11. [選択] ボタンをクリックします。

[帳票 ID の選択] ダイアログが閉じて、[カスタム申請] タブに戻ります。[ターゲット帳票 ID] 領域に、選択した帳票 ID が表示されます。また、[帳票モジュール表示条件一覧] 領域に、選択した帳票に定義されている帳票モジュール ID および判定用項目変数名が表示されます。

12. [帳票モジュール表示条件一覧] 領域で、カスタム申請帳票の帳票モジュールの表示制御を設定します。

[帳票モジュール表示条件一覧] 領域の項目の内容は次のとおりです。

帳票モジュール ID

カスタム申請帳票の帳票モジュールの ID です。

判定用項目変数名

ソース帳票内の表示条件となる項目変数の名前です。変更したい判定用項目変数名をクリックすると、[...] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると表示される [判定用項目変数名編集] ダイアログで、予約語の一覧から判定用項目変数名を選択できます。

比較値

判定用項目変数名と比較する値です。この比較結果が、「真」の場合、該当する帳票モジュールがカスタム申請帳票に表示されます。

[比較値] 欄をクリックすると、値を入力できます。

この例題では、判定用項目変数名を次のように設定してください。なお、比較値を設定する必要はありません。

帳票モジュール ID	この例題で設定する判定用項目変数名
SalesContract	_Const_True
Settlement	_Const_True
Request	_Const_True

13. 継承項目を設定します。

継承項目とは、ソース帳票からカスタム申請帳票に継承する項目です。

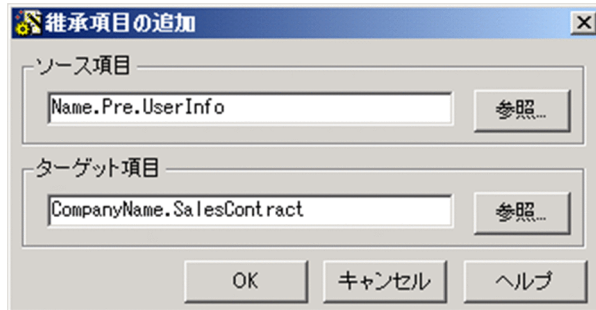
[継承項目一覧] 領域の [追加] ボタンをクリックすると表示される [継承項目の追加] ダイアログで、ソース項目 (ソース帳票の帳票モジュール項目) と、ソース項目の値を継承するターゲット項目 (カスタム申請帳票の帳票モジュール項目) を設定します。

この例題では、次のようにソース項目とターゲット項目を設定してください。

設定項目	この例題での設定内容	意味
ソース項目	Name.PreUserInfo	ソース帳票の契約先名

設定項目	この例題での設定内容	意味
ターゲット項目	CompanyName.SalesContract	ターゲット帳票の契約先名

項目を設定した [継承項目の追加] ダイアログを次に示します。



14. ソース帳票で DB アクセスへの入出力処理をしたい場合は、[DB アクセス] タブで必要な情報を定義します。

操作手順の詳細は、「3.2.5(2)(e) DB アクセス時に必要な情報を定義する」を参照してください。

15. ソース帳票定義ファイルの管理情報を、[プロパティ] タブで定義します。

操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(f) 帳票定義ファイルの管理情報を定義する」を参照してください。

16. [帳票定義] 画面の [OK] ボタンをクリックします。

これで、カスタム申請のソース帳票の定義が完了しました。[帳票定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。メイン画面の [詳細情報一覧] 領域には、[帳票定義] 画面で定義された内容が表示されません。

17. 帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

操作手順の詳細は、「3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

注意事項

カスタム申請時に使用する帳票データ初期化メソッド (BLCFormControl.initFormTag メソッド) では、帳票データの送信ログ用の項目値 1～項目値 10 の初期設定はできません。

3.4.2 DB アクセス専用帳票を作成する

この節では、DB アクセス専用帳票を作成するための、基本的な操作手順を説明します。

操作手順

1. メイン画面で [ファイル] - [新規作成] を選択します。

[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が表示されます。

2. 帳票 ID を入力します。

入力した帳票 ID を基に、帳票定義ファイルが作成されます。

3. 帳票 ID をダブルクリックするか、帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [定義編集] コマンドを選択します。

[基本情報] タブが前面に表示された状態で、[帳票定義] 画面が表示されます。

4. [基本情報] タブで、[帳票情報] 領域の項目を定義します。

定義方法の詳細は、「3.2.4(2)(a) 帳票の基本情報を定義する」を参照してください。

5. [特殊帳票] 領域の [DB アクセス専用帳票] チェックボックスをオンにします。

[基本情報] タブの [カスタム申請のソース帳票] チェックボックスならびに [ビジネスプロセス定義] 領域、[作業関連] タブ、および [カスタム申請] タブが非活性になります。

DB アクセス専用帳票の、[基本情報] タブの設定例を次に示します。

6. DB アクセス専用帳票にユーザ追加処理を追加したい場合は、[ユーザ処理] タブで必要な情報を設定します。

操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(c) ユーザ追加処理について定義する」を参照してください。

7. [帳票モジュール] タブで、DB アクセス専用帳票を構成する帳票モジュールや帳票モジュールを表示する順番などを定義します。

操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(d) 帳票モジュールを定義する」を参照してください。

8. [DB アクセス] タブで、DB への入出力処理に必要な情報を定義します。

[DB アクセス] タブの項目を設定する操作手順の詳細は、「3.2.5(2)(e) DB アクセス時に必要な情報を定義する」を参照してください。

また、DB アクセス定義の定義方法の詳細は、「3.5 DB アクセス定義の定義方法」を参照してください。

9. [プロパティ] タブで、DB アクセス専用帳票定義ファイルの管理情報を定義します。

操作手順の詳細は、「3.2.4(2)(f) 帳票定義ファイルの管理情報を定義する」を参照してください。

10. [帳票定義] 画面の [OK] ボタンをクリックします。

[帳票定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。メイン画面の [詳細情報一覧] 領域には、[帳票定義] 画面で定義された内容が表示されます。

11. 帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

操作手順の詳細は、「3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

3.5 DB アクセス定義の定義方法

この節では、DB アクセス定義（帳票が DB との入出力処理を実行するための定義）の詳細な定義方法について説明します。

なお、DB アクセス定義は、[帳票定義] 画面および [帳票モジュール定義] 画面から呼び出される [DB アクセス定義の編集] ダイアログで定義します。このダイアログの詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

3.5.1 DB アクセス定義の設定項目

DB アクセス定義は、DB にアクセスする目的に応じて、[接続テーブル定義] タブの設定項目「DB 入出力属性」および「DB 操作種別」を組み合わせて定義します。それぞれの設定項目を次に説明します。

●DB 入出力属性

DB アクセス時の入出力の属性です。DB 入出力属性には、次の二つの種類があります。

入力

データベースから帳票にデータを読み込む場合に設定します。

出力

帳票のデータをデータベースに反映する場合に設定します。

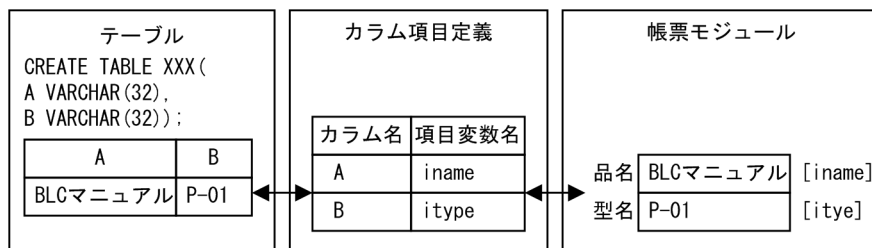
●DB 操作種別

DB アクセス時に、データベースに対して操作する内容です。DB 操作種別には、次の四つの種類があります。

単項目

[カラム項目定義] タブでカラムに対応づけた項目変数名に対して入出力します。単項目では、データベースの 1 レコードに対して入出力します。

図 3-9 単項目の DB アクセスの例



図の説明

項目変数名 iname をカラム A に、項目変数名 itype をカラム B に対応づけて、データの入出力を行います。

[カラム項目定義] タブで、「カラム名」に“A”を、「項目変数名」に“iname”を定義します。さらに、「カラム名」に“B”を、「項目変数名」に“itype”を定義します。

リスト項目

リスト項目は、データベースの複数レコードに対して入出力します。

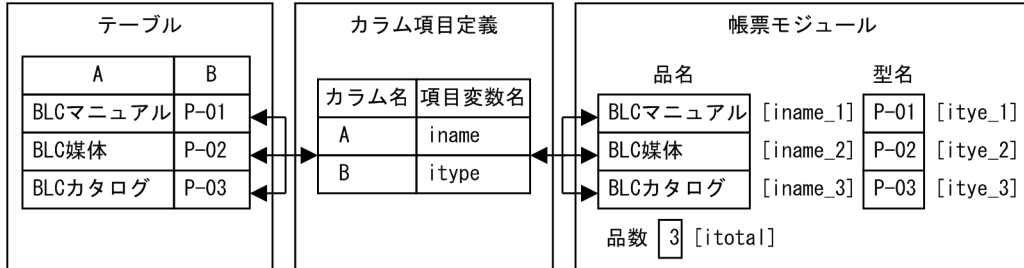
リスト項目とは、項目変数名の末尾に“_1”から始まる枝番号を付けた項目変数の集合です。

[カラム項目定義] タブでカラムに対応づけた項目変数名 + 枝番号の項目変数に対して入出力します。

入力時には、[SQL 検索条件指定] タブの [レコード数項目変数名] テキストボックスに、指定した項目変数に入力したレコード数が自動的に入ります。

出力時には、[SQL 検索条件指定] タブの [レコード数項目変数名] テキストボックスに、出力しようとするレコード数 (項目数) が入っている項目変数名を指定します。出力を実行する前に指定しておく必要があります。

図 3-10 リスト項目の DB アクセスの例



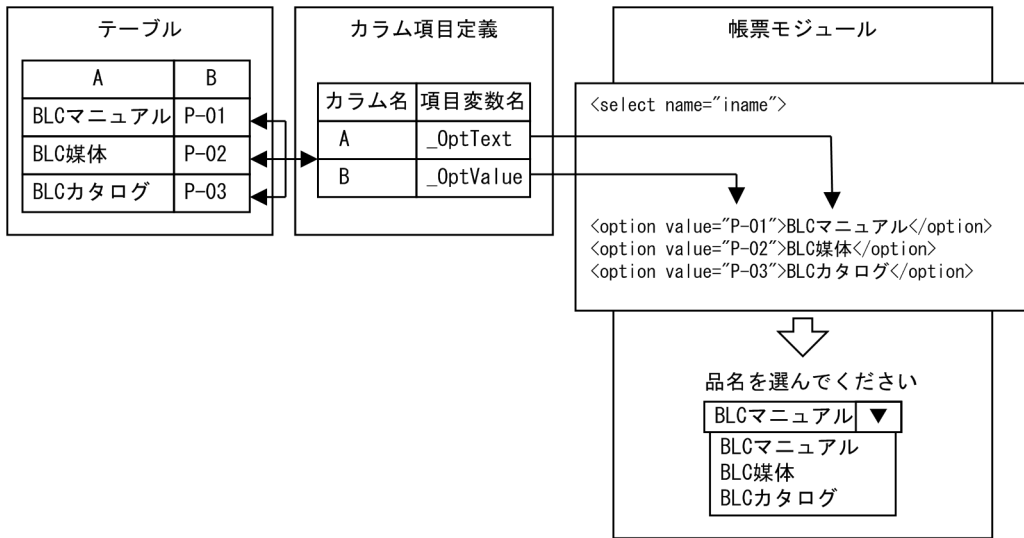
図の説明

カラムAの1行目をiname_1に、2行目をiname_2に、3行目をiname_3に対応づけて入出力します。同様に、カラムBの各行をitype_1~itype_3に対応づけて入出力します。
 [カラム項目定義] タブで、「カラム名」に“A”を、「項目変数名」に“iname”を定義します。
 さらに、「カラム名」に“B”を、「項目変数名」に“itype”を定義します。
 [SQL検索条件指定] タブの [レコード数項目変数名] テキストボックスに“itotal”を定義します。

候補値取得用

帳票のドロップダウンリスト (select タグ) の候補値 (option タグ) データを、データベースから入力します。この操作は、DB 入出力属性が“入力”の場合だけ設定できます。

図 3-11 候補値取得用の DB アクセスの概要



図の説明

カラムAをoptionタグの表示データに、カラムBをoptionタグのvalue値に対応づけて入力します。
 [カラム項目定義] タブで、「カラム名」に“A”を、「項目変数名」に“_OptText”を定義します。
 さらに、「カラム名」に“B”を、「項目変数名」に“_OptValue”を定義します。
 [SQL検索条件指定] タブの [候補値取得用の項目変数名] テキストボックスに“iname”を定義します。

レコード削除

データベースのデータを削除する場合に設定します。この操作種別は、DB 入出力属性が“出力”の場合だけ設定できます。

DB アクセス定義の目的に応じた、設定項目の組み合わせ方法を次に示します。なお、表中の「項番」は、マニュアルの各項番号と対応しています。

表 3-1 DB アクセス定義の目的に応じた設定項目の組み合わせ

項番	DB アクセス定義の目的	DB 入出力属性	DB 操作種別
3.5.2	データベースの 1 レコードのカラムデータを、帳票の項目に読み込む	入力	単項目
3.5.3	データベースの複数レコードのカラムデータを、帳票の項目に読み込む	入力	リスト項目
3.5.4	帳票のドロップダウンリストの候補値となるデータを、データベースから読み込む	入力	候補値取得用
3.5.5	<ul style="list-style-type: none"> 帳票の項目のデータで、データベースにレコードを追加する 帳票の項目のデータで、データベースのレコードの内容を更新する 	出力	単項目
3.5.6	<ul style="list-style-type: none"> 帳票の複数行の項目データで、データベースにレコードを追加する 帳票の複数行の項目データで、データベースのレコードの内容を更新する 	出力	リスト項目
3.5.7	データベースのデータを削除する	出力	レコード削除

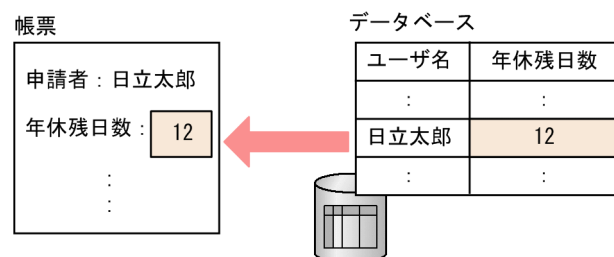
3.5.2 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の DB アクセス時の処理、および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-12 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の処理



データベースの 1 レコードのカラムデータ (ここでは「12」) を、帳票の項目 (ここでは「年休残日数」) に読み込みます。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは、申請者の年休残日数を参照する例を説明します。

「TESTYEARLYVACATIONTABLE テーブル」(年休管理テーブル)に、全ユーザの年休残日数が管理されているとします。テーブルの詳細を次に示します。

表 3-2 TESTYEARLYVACATIONTABLE (年休管理テーブル) のカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID	KEY
NOREMAIN	SMALLINT	—	年休残日数	—

(凡例)

—:該当しません。

なお、帳票モジュール ID は"TestModule1"とします。

定義例

定義例を次に示します。

表 3-3 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容		説明
テーブル名	TESTYEARLYVACATIONTABLE		年休管理テーブル。
SQL 検索条件	CDUSER = '<#=#BLC_UserID#>'		SQL 文 WHERE 条件。 申請作業をしている自分をキーとします。
SQL オプション	—		指定しません。
レコード数項目	—		指定しません。
参照 0 件エラー扱い	OFF		エラーにしないで帳票を表示します。
カラム定義	カラム名	項目変数名	項目変数名="remainday"。 カラムの値が項目変数に格納されます。
	NOREMAIN	remainday.TestModule1	

(凡例)

—:該当しません。

各設定項目の詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

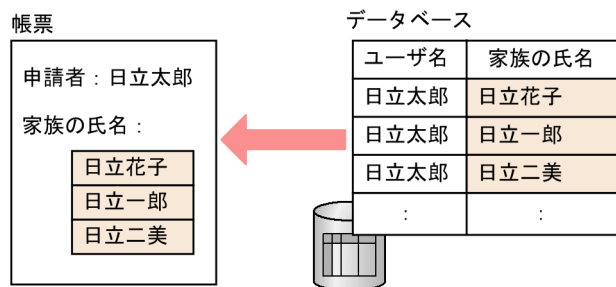
3.5.3 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の DB アクセス時の処理、および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の、DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-13 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の処理



データベースの複数レコードのカラムデータ（ここでは「日立花子」, 「日立一郎」, 「日立二美」）を、帳票の項目（ここでは「家族の氏名」）に読み込みます。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは、申請者の家族の氏名を参照する例を説明します。
 「TESTFAMILYTABLE テーブル」(家族情報テーブル) に全ユーザの家族の情報が管理されているとします。テーブルの詳細を次に示します。

表 3-4 TESTFAMILYTABLE テーブル (家族情報テーブル) のカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID	KEY1
NOINDEX	SMALLINT	-	レコードインデックス	KEY2
NMLAST	VARCHAR	80	氏名 姓	-
NMFIRST	VARCHAR	80	氏名 名	-
NORELATION	VARCHAR	20	続柄コード	-

(凡例)
 - : 該当しません。

なお、帳票モジュール ID は"TestModule2"とします。

定義例

定義例を次に示します。

表 3-5 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容	説明
テーブル名	TESTFAMILYTABLE	家族情報テーブル。
SQL 検索条件	CDUSER = '<#=#BLC_UserID#>'	SQL 文 WHERE 条件。 申請作業をしている自分をキーとします。
SQL オプション	ORDER BY NOINDEX ASC	インデックス番号順。

設定項目	設定内容		説明
レコード数項目	famtotal.TestModule2		明細領域の行数保持項目変数名 "famtotal"。
参照 0 件エラー扱い	OFF		エラーにしないで帳票を表示します。
候補値追加取得	OFF		指定しません。
カラム定義	カラム名	項目変数名	明細領域の項目変数名 "last", "first", "rel"。 カラムの値が項目変数に格納されます。
	NMLAST	last.TestModule2	
	NMFIRST	first.TestModule2	
	NORELATION	rel.TestModule2	

各設定項目の詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

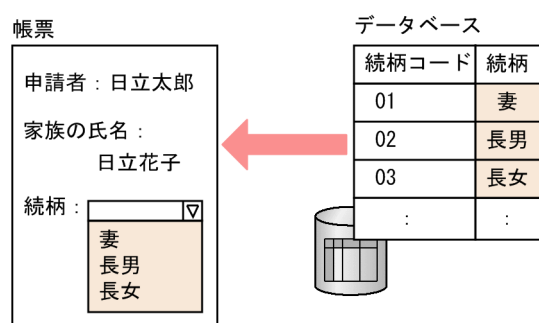
3.5.4 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合の DB アクセス時の処理, および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合の, DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-14 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合の処理



帳票のドロップダウンリストの候補値となるデータ (ここでは「妻」, 「長男」, 「長女」) を, データベースから読み込みます。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは, 申請者の家族の続柄候補リストを参照する例を説明します。

「TESTFAMILYRELATIONTABLE テーブル」(家族続柄テーブル) に全ユーザの家族の続柄リストが管理されているとします。テーブルの詳細を次に示します。

表 3-6 TESTFAMILYRELATIONTABLE テーブル (家族続柄テーブル) のカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	備考
NORELATION	SMALLINT	—	続柄コード	KEY
NMRELATION	VARCHAR	128	続柄名	—

(凡例)

— : 該当しません。

なお、帳票モジュール ID は"TestModule2"とします。

定義例

定義例を次に示します。

表 3-7 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"候補値取得用"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容		説明
テーブル名	TESTFAMILYRELATIONTABLE		家族続柄テーブル。
SQL 検索条件	—		SQL 文 WHERE 条件。 指定しません。 全行取得します。
SQL オプション	ORDER BY NORELATION ASC		インデックス番号順。
候補値取得項目変数名	rel.TestModule2		select タグ項目変数名 "rel"。
参照 0 件エラー扱い	OFF		エラーにしないで帳票を表示します。
候補値追加取得	OFF		指定しません。
カラム定義	カラム名	項目変数名	カラムの値が項目変数に格納されます。
	NORELATION	_OptValue	
	NMRELATION	_OptText	

(凡例)

— : 該当しません。

各設定項目の詳細は、「付録 A.16 「DB アクセス定義の編集」ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

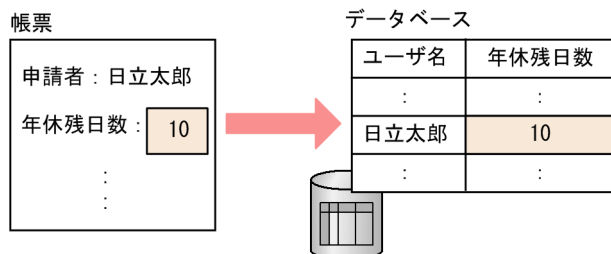
3.5.5 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の DB アクセス時の処理、および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の, DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-15 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の処理



帳票の項目のデータ (ここでは「10」) で, データベースのレコードの内容を更新します。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは, 申請者の年休残日数を更新する例を説明します。

「3.5.2 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合」の年休残日数を参照する例で使用した「TESTYEARLYVACATIONTABLE テーブル」(年休管理テーブル)を使用します。

なお, 帳票モジュール ID は"TestModule1"とします。

定義例

定義例を次に示します。設定項目から「レコード数項目」および「参照 0 件エラー扱い」がなくなったほかは, 年休残日数を参照する例と同じ定義内容です。

表 3-8 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"単項目"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容		説明
テーブル名	TESTYEARLYVACATIONTABLE		年休管理テーブル。
SQL 検索条件	CDUSER = '<#=#BLC_UserID#>'		SQL 文 WHERE 条件。 申請作業をしている自分をキーとします。
SQL オプション	-		指定しません。
カラム定義	カラム名	項目変数名	項目変数名="remainday"。 項目変数名の値がカラムに格納されます。
	CDUSER	BLC_UserID	
	NOREMAIN	remainday.TestModule1	

(凡例)

- : 該当しません。

各設定項目の詳細は, 「付録 A.16 「DB アクセス定義の編集」ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

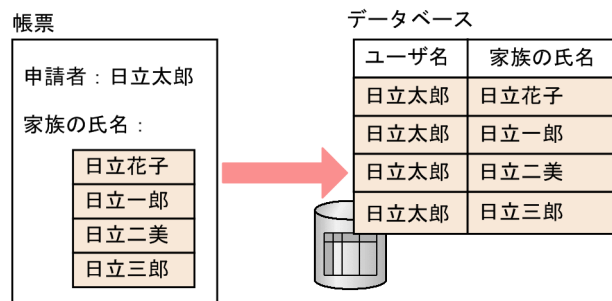
3.5.6 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の DB アクセス時の処理、および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の、DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-16 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の処理



帳票の複数行の項目データ（ここでは「家族の氏名」）で、データベースにレコード（ここでは「日立花子」、「日立一郎」、「日立二美」、および「日立三郎」のレコード）を追加します。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは、申請者の家族の氏名を更新する例を説明します。

「3.5.3 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合」の家族の氏名を参照する例で使用した「TESTFAMILYTABLE テーブル」（家族情報テーブル）を使用します。

なお、帳票モジュール ID は"TestModule2"とします。

定義例

定義例を次に示します。

表 3-9 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容	説明
テーブル名	TESTFAMILYTABLE	家族情報テーブル。
SQL 検索条件	CDUSER = '<#=#BLC_UserID#>'	SQL 文 WHERE 条件。 申請作業をしている自分をキーとします。
SQL オプション	—	指定しません。

設定項目	設定内容		説明
レコード数項目	famtotal.TestModule2		明細領域の行数保持項目変数名 "famtotal"。
カラム定義	カラム名	項目変数名	明細領域の項目変数名 "last", "first", "rel"。 項目変数名の値がカラムに格納されます。
	CDUSER	BLC_UserID	
	NOINDEX	_Count	
	NMLAST	last.TestModule2	
	NMFIRST	first.TestModule2	
	NORELATION	rel.TestModule2	

(凡例)

— : 該当しません。

各設定項目の詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

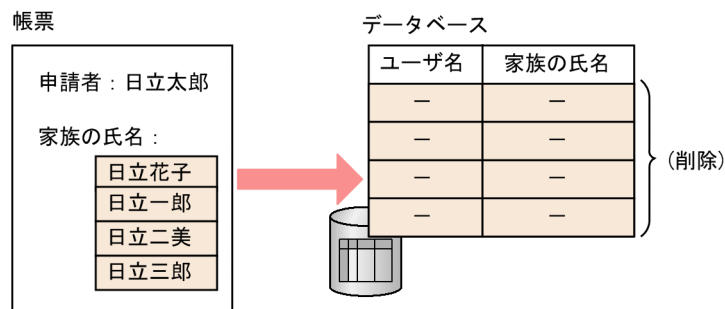
3.5.7 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合

この項では、「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合の DB アクセス時の処理、および定義例を説明します。

(1) DB アクセス時の処理

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合の、DB アクセス時の処理を次に示します。

図 3-17 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合の処理



データベースのデータ（ここでは「日立花子」、「日立一郎」、「日立二美」、および「日立三郎」）を削除します。

(2) 定義例

「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合の定義例を説明します。

例の概要

ここでは、申請者の家族の情報を削除する例を説明します。

「3.5.3 「DB 入出力属性」に"入力", 「DB 操作種別」に"リスト項目"を設定した場合」の、家族の氏名を参照する例で使用した「TESTFAMILYTABLE テーブル」(家族情報テーブル)を使用します。

定義例

定義例を次に示します。

表 3-10 「DB 入出力属性」に"出力", 「DB 操作種別」に"レコード削除"を設定した場合の定義例

設定項目	設定内容	説明
テーブル名	TESTFAMILYTABLE	家族情報テーブル。
SQL 検索条件	CDUSER = '<#=BLC_UserID#>'	SQL 文 WHERE 条件。 申請作業をしている自分をキーとします。
SQL オプション	—	指定しません。

(凡例)

—: 該当しません。

各設定項目の詳細は、「付録 A.16 「DB アクセス定義の編集」ダイアログ」を参照してください。

また、設定項目の組み合わせや、特記事項、設定時に指定できる予約語などの詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

3.5.8 DB 出力制御

項目変数のデータをデータベースに出力する場合、新規のレコードを追加するか、既存のレコードを更新するかを制御するための定義が必要です。

(1) 単項目の出力

単項目の出力では、[SQL 用検索条件指定] タブの [SQL 用検索条件項目] テキストボックスの定義内容、および実行時の検索結果によって制御します。

表 3-11 DB 出力制御 (単項目の出力の場合)

SQL 用検索条件項目	検索結果	出力方式
検索条件なし	—	レコード追加
検索条件あり	レコードなし	レコード追加
	レコードあり※	レコード更新

(凡例)

—: 該当しません。

注※

複数のレコードがヒットした場合、ヒットしたすべてのレコードを更新します。

(2) リスト項目の出力

リスト項目の出力では、[SQL 用検索条件指定] タブの [SQL 用検索条件項目] テキストボックスの定義内容、および実行時の検索結果によって制御します。また、[カラム項目定義] タブで制御予約語を定義して制御できます。

表 3-12 DB 出力制御 (リスト項目の出力の場合)

SQL 用検索条件項目	検索結果	出力方式
検索条件なし	—	レコード追加
検索条件あり	レコードなし	レコード追加
	レコードあり	制御予約語での制御※

(凡例)

— : 該当しません。

注※

[カラム項目定義] タブで制御予約語を定義して制御します。

(a) 制御予約語での制御

[カラム項目定義] タブで制御予約語を定義して制御するには、行番号制御方式とカラムデータ制御方式があります。各制御方式で使用できる判定方式を次に示します。

表 3-13 制御予約語による制御方式と判定方式

制御方式	判定方式
行番号制御方式	先頭更新方式
	空き番号追加方式
カラムデータ制御方式	データ値判定方式

●行番号制御方式の場合

行番号制御方式では、既存レコードの行番号カラムの内容によって、追加/更新を制御します。

行番号方式の判定方式には、制御予約語_Count を定義する「先頭更新方式」、および制御予約語_NewIndex を定義する「空き番号追加方式」があります。

行番号制御方式を使用する場合、出力先のテーブルには、行番号を格納する数値型の行番号カラムを用意する必要があります。[SQL 検索条件指定] タブの [SQL 用条件オプション] テキストボックスに、"ORDER BY 行番号カラム名 ASC"を定義し、行番号でソートします。

[SQL 検索条件指定] タブの [SQL 用検索条件項目] テキストボックスでは、対象とする既存レコードすべてがヒットする条件を定義する必要があります。

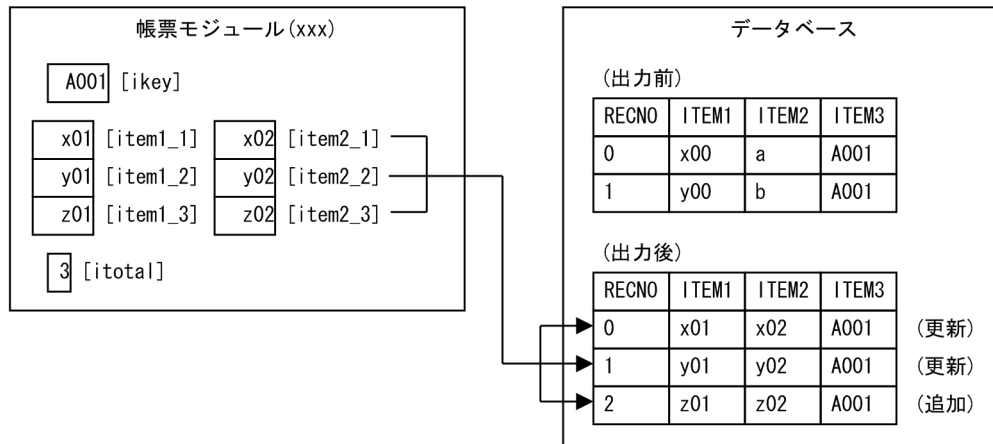
先頭更新方式

先頭項目方式では、リスト項目の枝番号 (_1 から始まる番号) に対応して、0 からの行番号を割り当てます。検索結果から得た既存レコードの行番号カラム内容と、割り当てた行番号を比較します。一致する既存レコードがある場合は、項目変数の値で既存のレコードを更新します。一致する既存レコードがない場合は、項目変数の値で新規のレコードを追加します。

先頭項目方式を使用する場合、[カラム項目定義] タブで、「カラム名」に行番号を格納するカラム名を、「項目変数」に制御予約語_Count を定義します。

リスト項目の出力行数より多くの既存レコードがある場合、多い分のレコードは変更しません。更新するレコードと同じ行番号のレコードがある場合、そのレコードも更新します。

図 3-18 先頭更新方式の設定例



- ・ KEYカラムの内容で、対象とする既存のレコードを絞り込みます。
- ・ RECNOを行番号カラムとして、更新/追加を制御します。

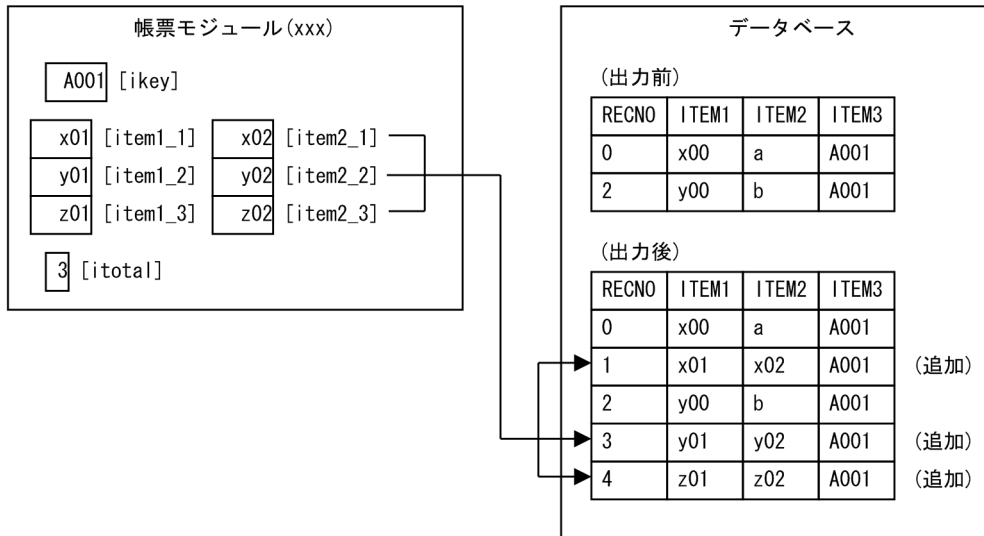
設定項目	設定内容	
SQL用検索条件項目	ITEM3='<#=ikey.xxx#>'	
SQL用条件オプション	ORDER BY RECNO ASC	
レコード数項目変数名	itotal.xxx	
カラム項目名定義	カラム名	項目変数名
	ITEM3	ikey.xxx
	RECNO	_Count
	ITEM1	item1.xxx
	ITEM2	item2.xxx

空き番号追加方式

空き番号追加方式では、必ずレコードを追加します。検索結果から得た既存レコードには、0 から連続する行番号が格納されていると仮定し、抜けている行番号に新規レコードを追加します。

空き番号追加方式を使用する場合、[カラム項目定義] タブで、「カラム名」に行番号を格納するカラム名を、「項目変数名」に制御予約語_NewIndex を定義します。

図 3-19 空き番号追加方式の設定例



- ・ KEYカラムの内容で、対象とする既存のレコードを絞り込みます。
- ・ RECNOを行番号カラムとして、追加を制御します。

設定項目	設定内容	
SQL用検索条件項目	ITEM3='<#=ikey. xxx#>'	
SQL用条件オプション	ORDER BY RECNO ASC	
レコード数項目変数名	itotal. xxx	
カラム項目名定義	カラム名	項目変数名
	ITEM3	ikey. xxx
	RECNO	_NewIndex
	ITEM1	item1. xxx
	ITEM2	item2. xxx

●カラムデータ制御方式の場合

カラムデータ制御方式では、判定用カラムの内容によって、追加/変更を制御します。

カラムデータ制御方式を使用する場合、出力先テーブルの任意のカラムを判定用カラムとして指定します。判定用の項目変数の値と、既存レコードの判定用カラムの値を比較します。

一致する既存レコードがある場合は、項目変数の値で既存レコードを更新します。一致する既存レコードがない場合は、項目変数の値で新規レコードを追加します。更新レコードの判定用カラムの値と同一のレコードが存在する場合、そのレコードも更新します。

カラムデータ制御方式を使用する場合、[カラム項目定義] タブで、「カラム名」に判定用カラム名を、「項目変数名」に制御予約語_UpdateKeyを定義します。さらに、「カラム名」に判定用カラム名を、「項目変数名」に判定用の項目変数名を定義します。

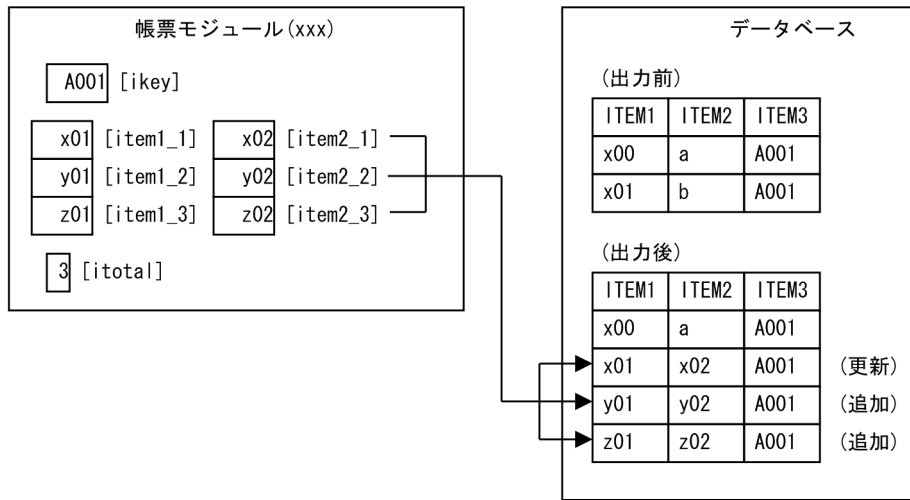
表 3-14 カラムデータ制御方式の [カラム項目定義] タブの設定内容

カラム名	項目変数名
判定用カラム名	_UpdateKey
判定用カラム名	判定用の項目変数

[SQL 検索条件指定] タブの [SQL 用検索条件項目] テキストボックスでは、対象とする既存レコードのすべてがヒットする条件を定義してください。

カラムデータ制御方式では、レコードの順番は関係ありません。[SQL 検索条件指定] タブの [SQL 用条件オプション] テキストボックスで、ソート指定を定義する必要はありません。

図 3-20 データ値判定方式の設定例



- ・ KEYカラムの内容で、対象とする既存のレコードを絞り込みます。
- ・ Item1を判定カラムとして、更新/追加を制御します。

設定項目	設定内容	
SQL用検索条件項目	ITEM3='<#=ikey. xxx#>'	
SQL用条件オプション	指定しません	
レコード数項目変数名	itotal. xxx	
カラム項目名定義	カラム名	項目変数名
	ITEM3	ikey. xxx
	ITEM1	_UpdateKey
	ITEM1	item1. xxx
	ITEM2	item2. xxx

3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細

DB アクセス定義は、[接続テーブル定義] タブの設定項目「DB 入出力属性」および「DB 操作種別」の組み合わせによって、そのほかの設定項目の組み合わせが変わります。

この項では、DB アクセス定義の設定項目の仕様、特記事項、および予約語について説明します。

(1) 設定項目の仕様

「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせ、およびその組み合わせに応じたそのほかの設定項目の組み合わせを説明します。

(a) 「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせ

「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせ可否を次に示します。

表 3-15 「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせ可否

項番	DB 入出力属性	DB 操作種別	組み合わせ可否
1	入力	単項目	選択可

3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

項番	DB 入出力属性	DB 操作種別	組み合わせ可否
2	入力	リスト項目	選択可
3	入力	候補値取得用	選択可
4	入力	レコード削除用	選択不可*
5	出力	単項目	選択可
6	出力	リスト項目	選択可
7	出力	候補値取得用	選択不可*
8	出力	レコード削除	選択可

注※

DB 入出力属性の切り替え操作時に、DB 操作種別の自動変更はしません。帳票ファイル生成時にチェックします。

(b) 設定項目の組み合わせ指定可否

「DB 入出力属性」および「DB 操作種別」の組み合わせに応じた、設定項目の組み合わせの指定可否を次に示します。

表 3-16 設定項目の組み合わせ指定可否

項番	DB 入出力属性	DB 操作種別	指定可否					
			SQL 検索条件	SQL オプション	レコード数項目	0 件エラー	追加取得	カラム定義
1	入力	単項目	可	可	可	可	不可	必須
2	入力	リスト項目	可	可	可	可	可	必須
3	入力	候補値取得用	可	可	必須*	可	可	必須
4	出力	単項目	可	可	不可	不可	不可	必須
5	出力	リスト項目	可	可	必須	不可	不可	必須
6	出力	リスト項目	必須	必須	必須	不可	不可	必須 _Count 要
7	出力	リスト項目	必須	必須	必須	不可	不可	必須 _NewIndex 要
8	出力	リスト項目	必須	可	必須	不可	不可	必須 _UpdateKey 要
9	出力	レコード削除	可	可	不可	不可	不可	不可

(凡例)

可：定義内容は有効です。

不可：定義内容は無効です。

必須：定義は必須で、省略できません。

注※

ラベルは"候補値取得用の項目変数名"になります。

(2) 特記事項

- 「DB 入出力属性」の設定が"入力"の場合、SQL 用検索条件項目が設定されていないと全レコードを読み込みます。このため、レコード数と性能に注意してください。
- DB アクセス定義は、次の順序で実行されます。
 - 帳票モジュール定義の DB アクセスが実行されます。
 帳票モジュール定義の DB アクセス定義が複数ある場合は、定義されている順序に従って、DB アクセス定義が実行されます。
 なお、帳票定義に複数の帳票モジュール定義が定義されている場合は、帳票定義に定義されている帳票モジュール定義の順序に従って、各帳票モジュール定義の DB アクセス定義が実行されます。
 - 帳票定義の DB アクセス定義が実行されます。
 帳票定義の DB アクセス定義が複数ある場合は、定義されている順序に従って、DB アクセス定義が実行されます。
- 「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせごとの特記事項を次に示します。

表 3-17 「DB 入出力属性」と「DB 操作種別」の組み合わせごとの特記事項

項番	DB 入出力属性	DB 操作種別	特記事項
1	入力	単項目	SQL 検索条件によって複数行がヒットした場合、先頭レコードの情報だけを取得します。レコード数項目変数名を指定した場合、ヒットしたときはレコード数項目に 1 を、ヒットしないときはレコード数項目に 0 を格納します。
2	入力	リスト項目	追加取得の場合は、レコード数項目変数名にすでに入っている値+1 から、項目変数名の枝番号を開始します。
3	入力	候補値取得用	DB アクセスによって入力された値は、次の規則で BLCValDic に格納されます。 キー名固定部の形式 "s"+"帳票モジュールプレフィックス"+"_"+"項目変数名" 取得候補値数 キー名固定部+"_optcnt" Value 値 キー名固定部+"_optval""_\$n"* 表示値 キー名固定部+"_opttxt""_\$n"*
4	出力	単項目	—
5	出力	リスト項目	項目変数名+枝番号の項目変数が存在しない場合、項目変数名の項目値で出力します。
6	出力	レコード削除	削除するレコードがない場合でも、エラーになりません。

(凡例)

—：該当しません。

3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (BLC 帳票の場合)

注※

\$n は 1 から取得候補値までの数字です。ただし、追加取得の場合は、入力前の候補値数+1 から始まります。

(3) 予約語

[SQL 検索条件指定] タブの項目「SQL 用検索条件項目」および「SQL 用条件オプション」、[コラム項目定義] タブの「コラム項目定義一覧」領域の「項目変数名」で指定できる予約語を次に示します。

なお、実行時にこの予約語に対応する値は、BLCValDic クラスのキー値として存在します。

BLCValDic クラスの詳細については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCValDic クラス」を参照してください。

表 3-18 [SQL 検索条件指定] タブおよび [コラム項目定義] タブで指定できる予約語

項番	予約語	名称	備考
1	_NowYear	現在年	—
2	_NowMonth	現在月	—
3	_NowDay	現在日	—
4	_NowHour	現在時	24 時間制
5	_NowMinute	現在分	—
6	_NowSecond	現在秒	—
7	_Now	現在日時	yyyymmddhhmmss 形式文字列
8	_NowDate	現在日付	yyyy-mm-dd
9	_NowTime	現在時刻	hh:mm:ss
10	BLC_BpName	ビジネスプロセス名	—
11	BLC_UserID	ユーザ ID	—
12	BLC_AuthUserID	認証時ユーザ ID	—
13	BLC_ApplyUID	申請時ユーザ ID	—
14	BLC_NodeName	作業名情報	業務ステップ定義名+"—" +作業定義名
15	BLC_NodeInstName	完全作業名	—
16	BLC_AcceptMode	ボタン名	—
17	BLC_FormID	帳票 ID	—
18	BLC_PIName	案件名	—

(凡例)

— : 該当しません。

3.5.10 SQL 文の組み立て

帳票実行時の DB アクセスでは、定義内容から、次に示す SQL 文を組み立てて発行します。

(1) SQL 文の書式

●検索文

項目値の入力および項目出力で、更新レコード検索時に発行します。

```
SELECT [DISTINCT] カラム名[, カラム名]... FROM テーブル名 [WHERE SQL用検索条件] [SQL用条件オプション] [FOR UPDATE]
```

●行追加文

項目値出力で、行追加時に発行します。

```
INSERT INTO テーブル名( カラム名[, カラム名]...) VALUES( 値[, 値]...)
```

●行更新文

項目値出力で、行更新時に発行します。

```
UPDATE テーブル名 SET カラム名=値[, カラム名=値]... WHERE SQL用検索条件 [AND リスト項目出力制御カラム=値]
```

●行削除文

レコード削除時に発行します。

```
DELETE FROM テーブル名 WHERE SQL用検索条件
```

(2) SQL 文の各項目

●DISTINCT

候補値取得用の場合だけ、必ず付加します。

●カラム名[,カラム名]...

[カラム項目定義] タブで有効と定義されたカラム名を、指定順に付加します。

●FOR UPDATE

項目出力で、項目更新レコード探索時に付加します。

●値[,値]...

[カラム項目定義] タブで有効と定義された項目変数名の項目値を、指定順に付加します。

●カラム名=値[,カラム名=値]...

[カラム項目定義] タブで有効と定義されたカラム名および項目変数名の項目値を、指定順に付加します。

● [AND リスト項目出力制御カラム=値]

行番号制御でリスト項目を出力する定義で、_Count を指定したカラム名と割り当てた行番号を付加します。カラムデータ制御方式でリスト項目を出力する定義でも、_UpdateKey を指定したカラム名と、そのカラム名を指定した項目変数名の項目値を付加します。

テーブル名、カラム名、SQL 条件、および SQL 用条件オプションの入力規則については「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」および「付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ」を参照してください。

4

BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)

この章では、BLC 実行環境を使うために必要な、BLC のポータル画面の構成、操作方法、ログインとログアウト、案件の処理、帳票の管理などについて説明します。

4.1 BLC のポータル画面の構成

BLC 実行環境で BLC の各機能を利用する場合、BLC のポータル画面で操作します。帳票一覧、作業一覧、帳票など、BLC の各機能を利用するための画面は、BLC のポータル画面または BLC のポータル画面から起動した画面に表示されます。この節では、BLC のポータル画面の構成を説明します。

BLC のポータル画面の構成を次に示します。

図 4-1 BLC のポータル画面の構成



BLC のポータル画面は、次の要素から構成されます。

- ポータルホーム
- メニューポートレット
- ワークフローポートレット
- ワークフローメニュータブ

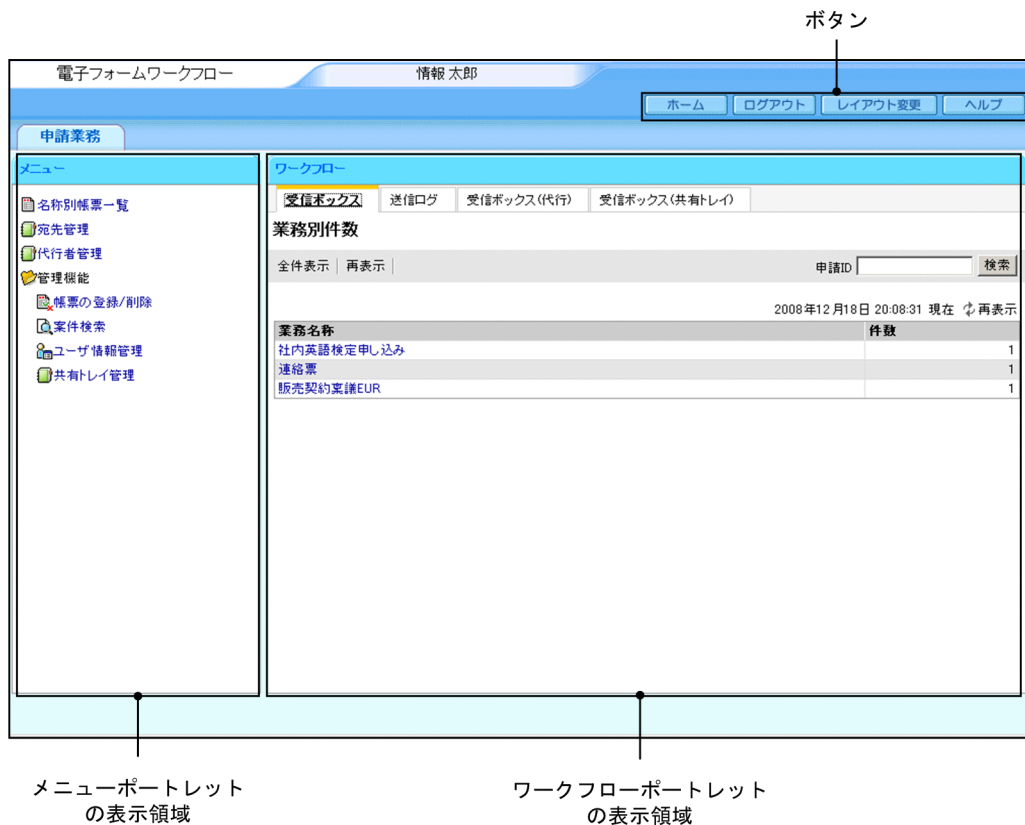
BLC のポータル画面は、必要に応じて、画面の構成要素（ポータルホーム、メニューポートレット、ワークフローポートレット、ワークフローメニュータブ）のスタイルの変更や、メニューの追加/削除などのカスタマイズができます。BLC のポータル画面のカスタマイズの詳細は、「5.3 クライアント表示機能のカスタマイズ」を参照してください。

4.1.1 ポータルホームの構成

ポータルホームのボタンを操作することで、電子フォームワークフローからログアウトしたり、BLC のポータル画面のレイアウトを変更したりできます。

ポータルホームの構成を次に示します。

図 4-2 ポータルホームの構成



ポータルホームのボタンは、次の要素から構成されます。

[ホーム] ボタン

BLC のホーム画面を表示します。

[ログアウト] ボタン

電子フォームワークフローからログアウトします。

[レイアウト変更] ボタン

BLC のポータル画面のレイアウトを変更します。

[ヘルプ] ボタン

マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を表示します。

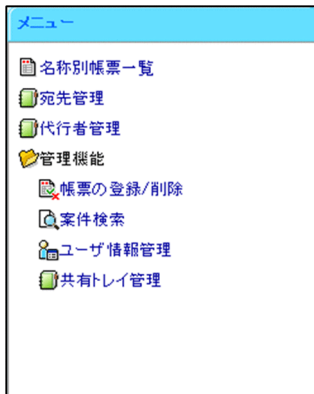
4.1.2 メニューポートレットの構成

メニューポートレットには、BLC の各機能を示すメニューが表示されます。メニューを選択することで、BLC の機能を利用できます。

メニューポートレットにメニューを追加する方法については、「5.3.2 メニューポートレットのカスタマイズ」を参照してください。

メニューポートレットの構成を次に示します。

図 4-3 メニューポートレットの構成



メニューポートレットは、次に示すメニューから構成されます。

- 名称別帳票一覧
別ウィンドウに [名称別帳票一覧] 画面が表示されます。[名称別帳票一覧] 画面には、申請用帳票の一覧が表示されます。
- 宛先管理
別ウィンドウに宛先管理画面が表示されます。宛先管理画面には、送付先ユーザの一覧が表示されま
す。
- 代行者管理
別ウィンドウに [代行者一覧] 画面が表示されます。[代行者一覧] 画面には、ログインユーザが代行
者として設定されているユーザの一覧が表示されます。
- 管理機能
管理機能の配下にサブメニューが表示されます。
表示されるサブメニューはログインユーザの権限によって異なります。ユーザの権限については、
「10.2 アクセス制御の管理」を参照してください。
 - 帳票の登録/削除
別ウィンドウに [登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。
このサブメニューは、ログインユーザがシステム管理者の場合にだけ表示されます。
 - 保管案件の検索/表示
別ウィンドウに [保管案件検索] 画面が表示されます。
なお、このサブメニューは、デフォルトでは表示されません。保管案件の照会機能を使用する場合
は、「18. 保管案件の照会機能」を参照してカスタマイズしてください。このサブメニューは、ロ
グインユーザがシステム管理者の場合にだけ表示されます。
 - 案件検索
別ウィンドウに [案件検索] 画面が表示されます。
このサブメニューは、ログインユーザがシステム管理者の場合にだけ表示されます。
 - ユーザ情報管理
別ウィンドウに [ユーザ情報管理] 画面が表示されます。
[ユーザ情報管理] 画面は、ログインユーザの権限によって表示内容が異なります。詳細について
は、「4.9 ユーザを編集する」を参照してください。
 - 共有トレイ管理

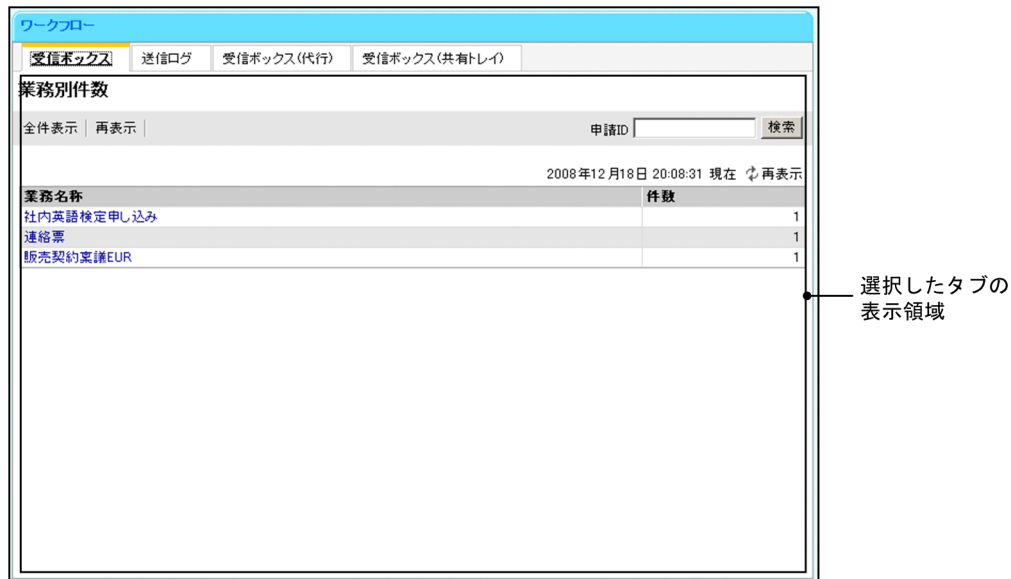
別ウィンドウに [共有トレイ管理] 画面が表示されます。

このサブメニューは、ログインユーザがシステム管理者の場合にだけ表示されます。

4.1.3 ワークフローポートレットの構成

ワークフローポートレットには、ワークフローメニュータブで選択した画面が表示されます。ワークフローポートレットの構成を次に示します。

図 4-4 ワークフローポートレットの構成



4.1.4 ワークフローメニュータブの構成

ワークフローメニュータブで選択した画面が、ワークフローポートレットの表示領域に表示されます。デフォルトでは [受信ボックス] タブおよび [送信ログ] タブが表示されます。

ワークフローメニュータブにタブを追加する場合 ([拡張受信ボックス] タブ, [一括承認受信ボックス] タブなど) は、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルを編集してください。

ワークフローメニュータブの構成を次に示します。

図 4-5 ワークフローメニュータブの構成



ワークフローメニュータブは、次の要素から構成されます。

[拡張受信ボックス] タブおよび [一括承認受信ボックス] タブはカスタマイズすることでワークフローメニュータブに表示されます。

- 受信ボックス

ワークフローポートレットの表示領域に [受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。[受信ボックス (業務別件数)] 画面には、業務の一覧とそれぞれの案件の作業数が表示されます。詳細については、[4.5.1(1) [受信ボックス (業務別件数)] 画面の構成] を参照してください。

この画面が BLC のポータル画面のホーム画面になります。

- 送信ログ

ワークフローポートレットの表示領域に [送信ログ] 画面が表示されます。[送信ログ] 画面には、送信した案件の一覧が表示されます。詳細については、「4.6.1(1) [送信ログ] 画面の構成」を参照してください。

- 受信ボックス (代行)

ワークフローポートレットの表示領域に、[代行依頼者一覧] 画面が表示されます。[代行依頼者一覧] 画面には、案件の代行依頼者の一覧が表示されます。この画面から案件の振り替えが実行できます。詳細については、「19.3.2 [代行依頼者一覧] 画面の構成」を参照してください。

- 受信ボックス (共有トレイ)

ワークフローポートレットの表示領域に [共有トレイ一覧] 画面が表示されます。[共有トレイ一覧] 画面には、ログインユーザが所属する共有トレイの一覧が表示されます。この画面から共有トレイ内の案件の振り替えが実行できます。詳細については、「19.3.4 [共有トレイ一覧] 画面の構成」を参照してください。

- 拡張受信ボックス

ワークフローポートレットの表示領域に [拡張受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。[拡張受信ボックス (業務別件数)] 画面には、業務の一覧とそれぞれの案件の件数が表示されます。

なお、[拡張受信ボックス] タブは、デフォルトでは表示されません。拡張受信ボックス機能を使用する場合は、「17. 拡張受信ボックス機能」を参照してカスタマイズしてください。

- 一括承認受信ボックス

ワークフローポートレットの表示領域に [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。[一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面には、業務の一覧とそれぞれの案件の件数が表示されます。

なお、[一括承認受信ボックス] タブは、デフォルトでは表示されません。一括承認機能を使用する場合は、「14. 一括承認機能」を参照してカスタマイズしてください。

4.2 BLC のポータル画面の操作方法

BLC のポータル画面を操作する前に知っておいていただきたいことについて説明します。

(1) BLC のポータル画面を操作する上での制限事項

BLC のポータル画面は、JavaScript を使用して、画面の状態を制御しています。

このため、BLC のポータル画面を表示している間は、ブラウザを閉じる機能以外の Internet Explorer の機能を使用して、画面の状態を変更しないでください。

Internet Explorer の戻る、進む、最新の情報に更新、別画面で開くなどの機能を使用して画面の状態を変更すると、BLC のポータル画面の画面制御情報と画面の状態が一致なくなって、不正な動作を起こします。

また、1 台のマシン上で、複数のユーザが同時にログインすることはできません。ほかのユーザでログインする場合は、いったんログアウトしたあとで再度ログインしてください。

(2) エラー発生時の操作方法

Web サーバのダウンなどでブラウザからサーバに要求が届かない場合や、要求が不正なために該当するページがない場合、前ページに戻るかどうかを確認するダイアログが表示されます。

前ページに戻る場合は、確認ダイアログで [OK] ボタンをクリックしてください。

ただし、前ページに戻ったあとで再度要求したときに、Web サーバが回復されていない場合は、確認ダイアログで [OK] ボタンをクリックしても前ページに戻れなくなります。このような場合は、[ホーム] ボタンをクリックし、BLC のホーム画面を再表示してください。

4.3 ログインとログアウト

この節では、ログインおよびログアウトの操作手順を説明します。

4.3.1 ログイン

BLC 実行環境は、ブラウザに表示された BLC の [ログイン] 画面からログインして利用します。

(1) 操作手順

1. ブラウザを起動して、[ログイン] 画面の URL を入力します。

[ログイン] 画面が表示されます。



The screenshot shows a web browser window titled "電子フォームワークフロー". The page content is centered and titled "ログイン". It features two input fields: "ユーザ名" (Username) and "パスワード" (Password). Below these fields are two buttons: "ログイン" (Login) and "クリア" (Clear). In the top right corner of the page, there are two buttons: "ホーム" (Home) and "ログイン画面へ" (To login page), along with a "ヘルプ" (Help) link.

2. ユーザ名とパスワードを入力します。

[クリア] ボタンをクリックすると、[ユーザ名] テキストボックスおよび [パスワード] テキストボックスの内容をすべて消去できます。

3. [ログイン] ボタンをクリックします。

BLC のポータル画面が表示されます。



4.3.2 ログアウト

BLC からログアウトするには、ポータル画面で [ログアウト] ボタンをクリックします。

図 4-6 BLC のポータル画面の [ログアウト] ボタン



(1) 操作手順

1. BLC のポータル画面で [ログアウト] ボタンをクリックします。
電子フォームワークフローからログアウトします。

4.4 案件を申請する

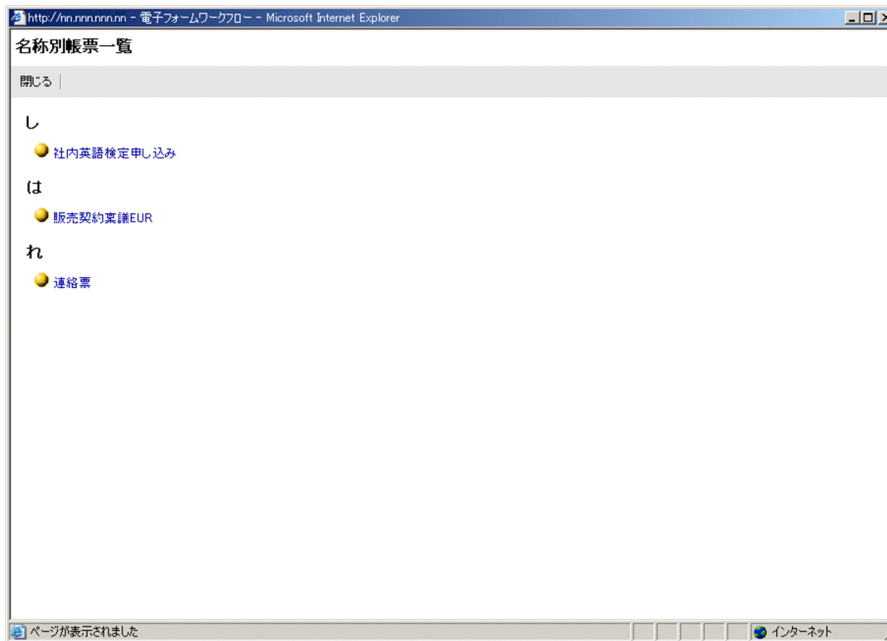
ここでは、申請に使用する帳票の選択から案件の申請までを実行する画面の構成、および操作手順を説明します。

4.4.1 画面の構成 (案件の申請)

申請に使用する帳票を選択する画面の構成を説明します。

(1) [名称別帳票一覧] 画面の構成

[名称別帳票一覧] 画面の構成を次に示します。



[閉じる] メニュー

[名称別帳票一覧] 画面が閉じます。

名称別帳票一覧

頭文字

各帳票の登録時に設定したソート用の頭文字が、昇順に表示されます。

頭文字の下に、その頭文字を設定した帳票名が表示されます。

頭文字は、帳票登録時に、[帳票登録] 画面で設定します。詳細は、「4.8.1(3) [帳票登録] 画面の構成」を参照してください。

[帳票名] アンカー

頭文字の下に、登録済みの帳票名が表示されます。同じ頭文字で複数の帳票名が登録されている場合、帳票名で昇順にソートされます。

[帳票名] アンカーをクリックすると、選択した帳票が別ウィンドウに表示されます。

4.4.2 操作手順 (案件の申請)

帳票を選択して、案件を申請するまでの操作の手順を説明します。

(1) 操作手順

1. メニューポートレットで、[名称別帳票一覧] メニューをクリックします。
別ウィンドウに、[名称別帳票一覧] 画面が表示されます。
2. 申請したい帳票をクリックします。
別ウィンドウに、選択した帳票が表示されます。

3. 案件を申請するために必要な情報を、入力および選択します。
帳票によっては、次ノードの作業員（次の遷移先）を選択する必要があります。この場合は、[宛先選択] ドロップダウンリストで次ノードの作業員を選択してください。
なお、[宛先選択] ドロップダウンリストで選択した作業員の情報は、BLC_INBOX_T テーブルの次のカラムに格納されます。

カラム名	作業員の情報
CDPARTICIPANT	作業員 ID
NMPARTICIPANT	氏名
NMPARBELONGTO	組織略称

4. [申請] ボタンをクリックします。
案件を申請したことを通知するメッセージダイアログが表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
帳票が閉じます。

以上で案件の申請は完了です。

案件の申請が完了すると、帳票データの保存、案件履歴の追加、および CSCIW での案件開始が実行されます。

4.5 案件を処理する

ここでは、受信した案件を表示する画面の構成、および案件を処理する手順を説明します。

4.5.1 画面の構成 (案件の処理)

受信した案件を表示する [受信ボックス] 画面の構成を説明します。

[受信ボックス] 画面では、業務別に案件を表示させたり (業務別件数)、すべての案件を表示させたり (全件表示) できます。

(1) [受信ボックス (業務別件数)] 画面の構成

[受信ボックス (業務別件数)] 画面を次に示します。

The screenshot shows the 'Workflow' application interface. At the top, there are tabs for '受信ボックス' (Selected), '送信ログ' (Send Log), '受信ボックス(代行)' (Received Box (Proxy)), and '受信ボックス(共有トレイ)' (Received Box (Shared Tray)). Below the tabs is the title '業務別件数' (Business Case Count). There are buttons for '全件表示' (All Cases) and '再表示' (Refresh). A search field labeled '申請ID' (Application ID) with a '検索' (Search) button is present. The main content area shows a table with the following data:

業務名称	件数
社内英語検定申し込み	1
連絡票	1
販売契約案議EUR	1

At the top right of the table area, it shows the date and time: '2008年12月18日 20:08:31 現在' and a '再表示' (Refresh) button.

[受信ボックス (業務別件数)] 画面の構成を説明します。

[全件表示] メニュー

[受信ボックス] 画面が表示されます。[受信ボックス] 画面には、指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) の受信ボックスにあるすべての案件の一覧が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

[申請 ID] テキストボックス

参照したい帳票の申請 ID を 80 バイト以下の文字列で入力します。

[検索] ボタン

[申請 ID] テキストボックスに入力した文字列と完全に一致する申請 ID を検索し、ワークフローポートレットの表示領域に表示します。

一致する申請 ID がない場合は、作業一覧のヘッダだけが表示されます。

ただし、申請 ID の指定による検索は、ビジネスプロセス定義が次の作業を含まない場合にできます。

- 並列作業
- 並列業務ステップ作業

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

業務別の件数一覧

[業務名称] アンカー

指定した作業（テンプレートでは実行ユーザ）の受信ボックスに作業がある業務の、業務名称が表示されます。

業務名称のアンカーをクリックすると、選択した業務の案件がワークフローポートレットの表示領域に一覧表示されます。

件数

指定した作業（テンプレートでは実行ユーザ）の受信ボックスにある、業務ごとの案件の件数が表示されます。

(2) [受信ボックス] 画面の構成

[受信ボックス] 画面は、[受信ボックス（業務別件数）] 画面の [全件表示] メニューをクリックすることで表示されます。

[受信ボックス] 画面を次に示します。

申請ID	作業名	業務名称	到着日時	申請者氏名	申請者組織略称	開始日時	前回作業
0000002	承認	連絡票	2008/12/18 12:55:30	情報 太郎	情報システム	2008/12/18 12:44:44	情報 太郎
0000003	部教育委員	社内英語検定申し込み	2008/12/18 12:53:06	情報 太郎	情報システム	2008/12/18 12:44:56	情報 太郎
0000001	受付	販売契約稟議EUR	2008/12/18 12:46:03	情報 太郎	情報システム	2008/12/18 12:44:22	情報 太郎

[受信ボックス] 画面の構成を説明します。

[業務別件数] メニュー

[受信ボックス（業務別件数）] 画面が表示されます。[受信ボックス（業務別件数）] 画面には、指定した作業（テンプレートでは実行ユーザ）の受信ボックスに作業がある業務の名称が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

[申請 ID] テキストボックス

参照したい帳票の申請 ID を 80 バイト以下の文字列で入力します。

[検索] ボタン

[申請 ID] テキストボックスに入力した文字列と完全に一致する申請 ID を検索し、ワークフローポータルレットの表示領域に表示します。

一致する申請 ID がない場合は、作業一覧のヘッダだけが表示されます。

ただし、申請 ID の指定による検索は、ビジネスプロセス定義が次の作業を含まない場合にできます。

- 並列作業
- 並列業務ステップ作業

YYYY 年 MM 月 DD 日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

l : 表示ページの先頭の作業が何件目かが表示されます。

n : 表示ページの最後の作業が何件目かが表示されます。

m : 全体の作業の件数が表示されます。

次頁

表示されている一覧の次のページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

一覧の最終ページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

作業一覧

指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) の受信ボックスにある作業の一覧が表示されます。

1 ページに表示される作業の件数は、デフォルトで最大 50 件です。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△ : 昇順で表示されている場合

▽ : 降順で表示されている場合

なお、指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) の作業が、CSCIW の作業属性に 150 件以上ある場合は、ソートの結果が不正となる項目があります。

なお、デフォルトでは到着日時でソートされます。

[申請 ID] アンカー

作業の申請 ID が表示されます。申請 ID のアンカーをクリックすると、その申請 ID の帳票が表示されます。

作業名

作業定義の名称が表示されます。なお、作業の種類が並列作業の場合は、"作業定義の名称.作業の名称"が表示されます。

業務名称

作業が所属する業務の名称が表示されます。

到着日時

作業が所属する案件に、その作業が発生した日時が表示されます。

申請者氏名

作業が所属する案件の申請者の氏名が表示されます。

申請者組織略称

作業が所属する案件の申請者が所属する組織の略称が表示されます。

開始日時

作業が所属する案件の開始日時が表示されます。

前回作業者氏名

前回の作業を実施した作業者の氏名が表示されます。

前回作業者組織略称

前回の作業者が所属する組織の略称が表示されます。

前回作業日時

前回の作業が実施された日時が表示されます。

項目値 1～項目値 10

これらの項目は、デフォルトでは表示されません。

カスタマイズによって追加された項目の値が表示されます。

4.5.2 操作手順 (案件の処理)

案件を処理する操作の手順を説明します。

(1) 操作手順

1. BLC のポータル画面のワークフローメニュータブで、[受信ボックス] タブをクリックします。
ワークフローポートレットの表示領域に [受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。
2. 業務ごとの作業を参照する場合は業務件数の一覧で目的の業務名のアンカーを、全業務の作業を参照する場合は [全件表示] メニューをクリックします。
ワークフローポートレットの表示領域に作業の一覧が表示されます。
3. 作業の一覧で、処理する案件の申請 ID をクリックします。
別ウィンドウに、選択した帳票が表示されます。

4 BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)

4. 案件を処理するために必要な情報を、入力および選択します。

帳票によっては、次ノードの作業者（次の遷移先）を選択する必要があります。この場合は、[宛先選択] ドロップダウンリストで次ノードの作業者を選択してください。

なお、[宛先選択] ドロップダウンリストで選択した作業者の情報は、BLC_INBOX_T テーブルの次のカラムに格納されます。

カラム名	作業者の情報
CDPARTICIPANT	作業者 ID
NMPARTICIPANT	氏名
NMPARBELONGTO	組織略称

5. [承認] ボタンをクリックします。

案件を承認したことを通知するメッセージダイアログが表示されます。

6. [OK] ボタンをクリックします。

帳票が閉じます。処理する案件が複数ある場合は、操作 3.~6.を繰り返してください。

以上で案件の処理は完了です。

案件の処理が完了すると、帳票データの更新、案件履歴の追加、および CSCIW での作業が完了します。

4.6 案件の送信ログを参照する

ここでは、処理した案件を確認または送信ログを削除する画面、および案件の履歴を確認する画面の構成および操作手順を説明します。

4.6.1 画面の構成 (送信ログの参照)

処理した案件の一覧を表示する [送信ログ] 画面、および詳細な案件の履歴を表示する [案件履歴] 画面の構成を説明します。

(1) [送信ログ] 画面の構成

[送信ログ] 画面を次に示します。

削除	申請ID	業務名称	案件状態	処理日時	最終作業氏名	最終作業組織略称	申請者氏名	申請者組織略称
<input type="checkbox"/>	0000002	連絡票	処理中	2008/12/18 12:55:30	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システ
<input type="checkbox"/>	0000003	社内英語検定申し込み	処理中	2008/12/18 12:53:06	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システ
<input type="checkbox"/>	0000001	販売契約裏議EUR	処理中	2008/12/18 12:46:03	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システ

[送信ログ] 画面の構成を説明します。

[削除] メニュー

[削除] チェックボックスで選択した送信ログが削除されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

- l: 表示ページの先頭の業務が何件目かが表示されます。
- n: 表示ページの最後の業務が何件目かが表示されます。
- m: 全体の業務の件数が表示されます。

次頁

- 表示されている一覧の次のページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

- 一覧の最終ページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

送信ログの一覧

指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) の処理した案件の一覧が表示されます。

1 ページに表示される送信ログの件数は、デフォルトで最大 50 件です。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示され、1 件目から表示されます。

△: 昇順で表示されている場合

▽: 降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは処理日時でソートされます。

[削除] チェックボックス

削除する送信ログを選択するか、または選択を解除します。

[申請 ID] アンカー

指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) が処理した案件の申請 ID が表示されます。申請 ID のアンカーをクリックすると該当する申請 ID の案件の [案件履歴] 画面が表示されます。

業務名称

案件が所属する業務の名称が表示されます。

案件状態

案件の現在の状態が表示されます。

ただし、申請 ID と一致する案件を BLC_INBOX_T テーブルから取得して、その案件の BLC_INBOX_T テーブルの NMSTATUS カラムの値が表示されます。

NMSTATUS カラムの値が CSCIW の案件状態と一致しない場合があります。

<例>

- ・ 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [業務完了指示作業選択] ダイアログで、業務完了指示を行う作業が設定されていない場合、CSCIW のシンクまで遷移した案件の状態が、処理中として表示されます。
- ・ 次ノードがシンクノード以外の作業に対して、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [業務完了指示作業選択] ダイアログで、業務完了指示を行う作業として設定された場合、CSCIW では処理中の案件が完了状態として表示されます。

処理日時

指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) が、案件を最後に処理した日時が表示されます。

最終作業員氏名

案件を現在所有する作業員の氏名が表示されます。ただし、案件がシンクノードまで遷移している場合は、最後に処理した作業員の氏名が表示されます。

申請 ID と一致する案件を BLC_INBOX_T テーブルから取得して、その案件の BLC_INBOX_T テーブルの NMPARTICIPANT カラムの値が表示されます。

NMPARTICIPANT カラムの値が CSCIW の所有者の氏名と一致しない場合があります。

<例>

- 「付録 B.1(3) BLC で使用する振り分けルールの定義」に示す振り分けルール以外を使用した場合。
- 次ノードがシンクノードの業務ステップに所属する作業で宛先選択を行った場合。

最終作業員組織略称

案件を現在所有する作業員が所属する組織の略称が表示されます。

ただし、案件がシンクノードまで遷移している場合は、最後に処理した作業員が所属する組織の略称が表示されます。

申請 ID と一致する案件を BLC_INBOX_T テーブルから取得して、その案件の BLC_INBOX_T テーブルの NMPARBELONGTO カラムの値が表示されます。

NMPARBELONGTO カラムの値が CSCIW の案件の所有者が所属する組織の略称と一致しない場合があります。

<例>

- 「付録 B.1(3) BLC で使用する振り分けルールの定義」に示す振り分けルール以外を使用した場合。
- 次ノードがシンクノードの業務ステップに所属する作業で宛先選択を行った場合。

申請者氏名

案件の申請者の氏名が表示されます。

申請者組織略称

案件の申請者が所属する組織の略称が表示されます。

開始日時

案件の開始日時が表示されます。

前回作業員氏名

前回の作業を実施した作業員の氏名が表示されます。

前回作業員組織略称

前回の作業員が所属する組織の略称が表示されます。

前回作業日時

前回の作業が実施された日時が表示されます。

項目値 1～項目値 10

これらの項目は、デフォルトでは表示されません。

カスタマイズによって追加された項目の値が表示されます。

(2) [案件履歴] 画面の構成

[案件履歴] 画面を次に示します。

ワークフロー		
受信ボックス	送信ログ	受信ボックス(代行)
受信ボックス(共有トレイ)		
案件履歴		
送信ログ 内容確認		
2008年12月19日 09:47:13 現在 再表示		
業務名称 連絡票		
申請ID 0000002		
作業名	処理者	処理日時
申請者	情報 太郎 情報システム	2008年12月18日 12:44:44
	↓ 申請	
審査-審査	情報 太郎 情報システム	2008年12月18日 12:55:30
	↓ 承認	
承認-承認	情報 太郎 情報システム	---年--月--日 -----

[案件履歴] 画面の構成を説明します。

[送信ログ] メニュー

ワークフローポートレットの表示領域に送信ログが一覧で表示 ([送信ログ] 画面) されます。

[内容確認] メニュー

別ウィンドウに帳票が表示されます。帳票には、帳票の詳細な内容が表示されます。

[申請] メニュー

[申請] メニューは EUR Form 連携帳票の場合だけ表示されます。

送信ログの内容が複写された帳票が起動します。帳票から帳票の申請を実行できます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

業務名称

ビジネスプロセスの名称が表示されます。

申請 ID

申請 ID が表示されます。

案件の履歴

作業名

先頭には「申請」が表示され、その下からは完全作業名が表示されます。

処理者

処理者の氏名と所属略称が表示されます。

処理日時

完了した作業は、完了した順に表示されます。

完了していない作業は、作業の発生した順に表示されます。年月日の値は「- (半角ハイフン)」と表示されます。

このほか、最終作業の実行処理名や案件の状態を画面に表示させることもできます。最終作業の実行処理名や案件の状態を表示させるには、BLC プロパティファイルをカスタマイズします。詳細は、「付録 E.1(4) プロパティ情報一覧」を参照してください。

4.6.2 操作手順 (送信ログの参照)

処理した案件の履歴を参照、および送信ログを削除する操作の手順を説明します。

(1) 操作手順

1. BLC のポータル画面のワークフローメニュータブで、[送信ログ] タブをクリックします。

ワークフローポートレットの表示領域に [送信ログ] 画面が表示されます。

2. 処理した案件の履歴を参照、および送信ログを削除します。

案件履歴の参照は「(a) 案件履歴の参照」、送信ログの削除は「(b) 送信ログの削除」を参照してください。

(a) 案件履歴の参照

操作手順

1. [送信ログ] 画面で、履歴を参照する案件の申請 ID をクリックします。

選択した案件の履歴が表示された、[案件履歴] 画面が表示されます。

(b) 送信ログの削除

操作手順

1. [送信ログ] 画面で、削除する送信ログの [削除] チェックボックスをオンにします。

送信ログは複数選択できます。

2. [削除] メニューをクリックします。

削除を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

選択した送信ログが削除されます。

(2) 注意事項

送信ログを削除する場合、チェックボックスを選択していない状態で [削除] メニューをクリックしたときは、エラーダイアログが表示されます。

4.7 案件の宛先を管理する

ここでは、案件の宛先を追加または削除する画面の構成、および操作手順を説明します。

4.7.1 画面の構成 (宛先の管理)

宛先管理画面の構成を説明します。

図 4-7 宛先管理画面の構成



宛先管理画面は、次の要素から構成されます。

- 宛先一覧フレーム
登録されている宛先の一覧が表示されます。
- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- ユーザ情報フレーム
宛先に追加するユーザを選択します。

(1) 宛先一覧フレームの構成 (宛先の管理)

宛先一覧フレームの構成を説明します。

[削除] メニュー

[削除] チェックボックスで選択したユーザが宛先から削除されます。

[閉じる] メニュー

宛先管理画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

宛先の一覧

登録されている宛先の一覧が表示されます。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは氏名でソートされます。

[削除] チェックボックス

削除する宛先を選択するか、または選択を解除します。

氏名

登録されている宛先の氏名が表示されます。

ここに表示される「氏名」とは、データベースの BLC_TARGET_USER_V ビューの NMLASTNAME、および NMFIRSTNAME カラムの内容です。

役職

登録されている宛先の役職名が表示されます。

ここに表示される「役職」とは、データベースの BLC_TARGET_USER_V ビューの NMJOBTITLE カラムの内容です。

所属略称

登録されている宛先の所属略称名が表示されます。

ここに表示される「所属略称」とは、データベースの BLC_TARGET_USER_V ビューの NMBELONGTO カラムの内容です。

(2) 組織ツリーフレームの構成 (宛先の管理)

組織ツリーフレームの構成を説明します。

すべての組織が表示されます。

デフォルトでは、ログインユーザの所属組織が表示されます。

フォルダアイコン

組織ツリーフレームで、組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、画面の表示が次のように変わります。

- 組織ツリーフレーム：選択した組織の下位階層が表示されます。
- ユーザ情報フレーム：選択した組織に所属するユーザの一覧が表示されます。

(3) ユーザ情報フレーム (宛先の管理)

ユーザ情報フレームの構成を説明します。

[追加] メニュー

[選択] チェックボックスをオンにし、[追加] メニューをクリックすると、選択したユーザを宛先としてサーバに登録できます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

ユーザ情報

組織ツリーフレームで選択した組織に所属するユーザの一覧が表示されます。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△:昇順で表示されている場合

▽:降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは氏名でソートされます。

[選択] チェックボックス

追加するユーザを選択するか、または選択を解除します。

氏名

組織ツリーフレームで選択した組織に所属している、ユーザの氏名が表示されます。ここに表示される「氏名」とは、データベースの宛先情報検索ビュー (BLC_TARGET_USER_V ビュー) の NMLASTNAME、および NMFIRSTNAME カラムの内容です。

役職

組織ツリーフレームで選択した組織に所属している、ユーザの役職名が表示されます。ここに表示される「役職」とは、データベースの宛先情報検索ビュー (BLC_TARGET_USER_V ビュー) の NMJOBTITLE カラムの内容です。

4.7.2 操作手順 (宛先の管理)

案件の宛先を追加および削除する操作の手順を説明します。

(1) 操作手順

1.メニューポートレットで **[宛先管理]** メニューをクリックします。

別ウィンドウに、宛先管理画面が表示されます。

2.宛先を追加または削除します。

宛先の追加については「(a) 宛先の追加」、削除については「(b) 宛先の削除」を参照してください。

(a) 宛先の追加

操作手順

1.組織ツリーフレームで、組織を選択します。

選択した組織に所属するユーザがユーザ情報フレームに表示されます。

2.ユーザ情報フレームで、宛先に追加したいユーザの **[選択]** チェックボックスをオンにします。

ユーザは複数選択できます。

3. ユーザ情報フレームの [追加] メニューをクリックします。

選択したユーザが宛先に追加され、宛先一覧フレームが更新されます。

(b) 宛先の削除

操作手順

1. 宛先一覧フレームで、削除するユーザの [削除] チェックボックスをオンにします。

ユーザは複数選択できます。

2. [削除] メニューをクリックします。

削除を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

選択したユーザが宛先から削除されます。

(2) 注意事項

チェックボックスを選択していない状態で [追加] メニューまたは [削除] メニューをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。

4.8 帳票を管理する

ここでは、帳票を管理（登録，更新，および削除）する画面の構成，ならびに操作手順を説明します。

システム管理者だけが帳票を管理できます。

4.8.1 画面の構成（帳票の管理）

帳票を登録，更新および削除する [登録済み帳票一覧] 画面，登録する帳票を選択する [帳票登録用定義選択] 画面，ならびに帳票を登録するための情報を設定する [帳票登録] 画面の構成を説明します。

注意事項

- カスタム帳票の場合，ターゲット帳票を単体で使用しないときは，ソース帳票だけを登録します。
- ターゲット帳票を単体でも使用するときは，ソース帳票とターゲット帳票を両方登録する必要があります。

(1) [登録済み帳票一覧] 画面の構成

帳票を登録，更新，および削除する [登録済み帳票一覧] 画面の構成を説明します。

[登録済み帳票一覧] 画面を次に示します。

選択	帳票名称	ビジネスプロセス名	運用	帳票カテゴリ	帳票ID	帳票バージョン	登録日時	更新日時	送信ログからの申請
<input type="checkbox"/>	社内英語検定申し込み	社内英語検定申し込み	許可	各種申請	BLCSimpleForm_0001	1	2008/02/11 20:30:17	2008/02/11 20:30:19	不可
<input type="checkbox"/>	連絡票	連絡票	許可	各種申請	BLCSimpleForm_0002	1	2008/02/11 20:32:57	2008/02/11 20:32:59	不可
<input type="checkbox"/>	販売契約案議EUR	販売契約案議EUR	許可	各種申請	SampleConsultationEUR	1	2008/02/11 20:25:49	2008/02/11 20:25:49	不可

[登録済み帳票一覧] 画面の構成を説明します。

[新規登録] メニュー

[新規登録] メニューをクリックすると，[帳票登録用定義選択] 画面が表示されます。[帳票登録用定義選択] 画面で帳票を選択し，[設定] メニューをクリックすることで，新しい帳票を登録できます。

[更新] メニュー

[選択] チェックボックスで選択した登録済み帳票の情報が，[帳票登録] 画面に表示されます。[帳票登録] 画面で帳票を編集し，更新できます。

[定義ファイル再読込] メニュー

登録済みの帳票に最新の帳票定義を読み込みます。

帳票の [選択] チェックボックスをオンにして、[定義ファイル再読込] ボタンをクリックすると、選択した帳票に最新定義が読み込まれ、[帳票登録用定義選択] 画面が表示されます。[帳票登録用定義選択] 画面で [設定] メニューをクリックすることで、最新の帳票内容で [帳票登録] 画面が表示されます。

なお、[登録済み帳票一覧] 画面で [更新] メニューをクリックした場合は、現在登録されている帳票の内容で [帳票登録] 画面が表示されます。

[削除] メニュー

[選択] チェックボックスで選択した帳票を削除できます。

[閉じる] メニュー

[登録済み帳票一覧] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

登録済み帳票の一覧

現在登録されている帳票の一覧が表示されます。

[選択] チェックボックス

登録済みの帳票に帳票定義を再登録する場合、または登録済みの帳票を削除する場合に、帳票を選択するか、または選択を解除します。

登録済みの帳票に最新の帳票定義を読み込む場合は、チェックボックスをオンにしたあと、[定義ファイル再読込] メニューをクリックします。

登録済みの帳票を削除する場合は、[削除] メニューをクリックします。

(2) [帳票登録用定義選択] 画面の構成

登録する帳票を選択する [帳票登録用定義選択] 画面の構成を説明します。

[帳票登録用定義選択] 画面を次に示します。

4 BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)

選択	帳票名称	ビジネスプロセス名	帳票ID	帳票バージョン	作成日時	更新日時	作成者
<input type="radio"/>	契約	契約	BLCSimpleForm_0001	1	2008/02/17 22:32:52	2008/02/17 22:32:52	A01102
<input type="radio"/>	社内英語検定申し込み	社内英語検定申し込み	BLCSimpleForm_0002	2	2008/02/18 11:26:53	2008/02/18 11:38:18	A01102
<input type="radio"/>	販売契約案議EUR	販売契約案議EUR	SampleConsultationEUR	1	2003/06/05 19:50:28	2006/10/02 11:35:46	(株)日立製作所

[帳票登録用定義選択] 画面の構成を説明します。

[登録済み帳票一覧] メニュー

[登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。

[設定] メニュー

[選択] ラジオボタンで選択した帳票の情報が、[帳票登録] 画面に表示されます。

[閉じる] メニュー

[帳票登録用定義選択] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

帳票登録用定義の一覧

[選択] ラジオボタン

登録する帳票を選択します。

(3) [帳票登録] 画面の構成

帳票を登録するための情報を設定する [帳票登録] 画面の構成を説明します。

[帳票登録] 画面を次に示します。

登録する場合

帳票登録

帳票カテゴリ	各種申請
帳票名称	販売契約稟議EUR
頭文字(ノート用)	
帳票格納URL	http://nn.nnn.nn.nn/blc/
ファイル名	form/Hitachi/SampleConsultationEUR/SampleConsultationEUR_1.jsp
ビジネスプロセス名	販売契約稟議EUR
運用	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 不可 <input type="radio"/> 不可(互換)
送信ログからの申請	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 不可
帳票利用者	役職: 全員 組織: 全組織 A(株) 総務 総務庶務
帳票バージョン	1

不可(互換): BLC 03-01以前のバージョンで、運用状態を「不可」に設定した場合の互換モード(名称別帳票一覧での表示: 不可, 帳票の申請: 許可)です。

新規登録 戻る 閉じる

更新する場合

帳票登録

帳票カテゴリ	各種申請
帳票名称	販売契約稟議EUR
頭文字(ノート用)	は
帳票格納URL	http://nn.nnn.nn.nn/blc/
ファイル名	form/Hitachi/SampleConsultationEUR/SampleConsultationEUR_1.jsp
ビジネスプロセス名	販売契約稟議EUR
運用	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 不可 <input type="radio"/> 不可(互換)
送信ログからの申請	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 不可
帳票利用者	役職: 全員 組織: 全組織 A(株) 総務 総務庶務
帳票バージョン	1

不可(互換): BLC 03-01以前のバージョンで、運用状態を「不可」に設定した場合の互換モード(名称別帳票一覧での表示: 不可, 帳票の申請: 許可)です。

更新 戻る 閉じる

[帳票登録] 画面の構成を説明します。

帳票カテゴリ

「各種申請」と表示されます。変更できません。

帳票名称

帳票の名称が表示されます。入力はできません。

【頭文字(ソート用)】 テキストボックス

帳票の頭文字を、64 文字以下の文字列で入力します。半角または全角のどちらでも、64 文字以下の文字列であれば問題ありません。

帳票格納 URL

帳票が格納されている URL が表示されます。入力はできません。アプリケーションサーバが複数ある場合、現在接続しているアプリケーションサーバの URL が表示されます。

ファイル名

帳票のファイル名が表示されます。入力はできません。

ビジネスプロセス名

ビジネスプロセス名が表示されます。入力はできません。

運用

許可、不可または不可(互換)を選択します。

動作の違いを次に示します。

表 4-1 「運用」の値の動作差異

機能	設定値		
	許可	不可	不可(互換) [※]
[名称別帳票一覧] 画面での帳票名表示	表示	非表示	非表示
名称別帳票一覧以外からの申請帳票の表示 <ul style="list-style-type: none"> • 送信ログからの申請 • 外部リンクからの申請帳票表示 • ユーザカスタマイズ帳票一覧からの帳票表示 	許可	不可	許可
申請処理 <ul style="list-style-type: none"> • ローカル保存からの申請 • 帳票表示後に運用が不可に変わった場合 	許可	不可	許可

注※

BLC03-01 以前のバージョンで、「運用」に"不可"を設定した場合と同じ動作をします。

送信ログからの申請

許可または不可を選択します。

送信ログからの申請は、EUR Form 連携帳票の場合だけ表示されます。送信ログからの申請を利用する場合は、「8.4 送信ログからの申請の設定方法」を参照してください。

帳票利用者

【役職】 ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストから帳票利用者に設定する役職を選択します。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称に「以上」が追加された一覧です。

役職は「以上」の単位で選択できます。役職の権限を設定しない場合は、「全員」を選択してください。

【組織】 リストボックス

リストボックスから帳票利用者に設定する組織を一つ以上選択します。組織を設定しない場合は、「全組織」を選択してください。

リストボックスに表示される「組織」とは、組織管理画面で登録された組織略称です。

帳票バージョン

帳票のバージョンが表示されます。入力できません。

[新規登録] ボタン (帳票を新規登録する場合)

帳票が新規登録されます。新規登録したあと、[登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。

[更新] ボタン (帳票を更新する場合)

帳票が更新されます。更新したあと、[登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。

[戻る] ボタン

呼び出し元の画面に戻ります。

[閉じる] ボタン

[帳票登録] 画面が閉じます。

4.8.2 操作手順 (帳票の管理)

帳票を追加, 更新, および削除する操作の手順を説明します。

なお, 帳票の追加または更新時に帳票利用者が設定されていない場合はエラー画面が表示されます。

(1) 操作手順

1. システム管理者で電子フォームワークフローにログインします。

2. メニューポートレットの [帳票の登録/削除] メニューをクリックします。

別ウィンドウに, [登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。[登録済み帳票一覧] 画面には, 登録された帳票が表示されています。

3. 帳票を登録, 更新, および削除します。

帳票の登録については「(a) 帳票の登録」, 更新については「(b) 帳票の更新」, 削除については「(c) 帳票の削除」を参照してください。

(a) 帳票の登録

帳票を登録する方法を説明します。

操作手順

1. [登録済み帳票一覧] 画面で, [新規登録] ボタンをクリックします。

[帳票登録用定義選択] 画面が表示されます。

2. 選択する帳票定義の [選択] ラジオボタンを選択します。

3. [設定] メニューをクリックします。

[帳票登録] 画面が表示されます。

4. [頭文字 (ソート用)] テキストボックスに, 帳票の頭文字を 64 文字以下の文字列で入力します。

半角または全角のどちらでも, 64 文字以下の文字列であれば問題ありません。

5. 「運用」, 「送信ログからの申請」(EUR Form 連携帳票の場合だけ), および「帳票利用者」を選択します。

6. [新規登録] ボタンをクリックします。

登録を確認するダイアログが表示されます。

7. [OK] ボタンをクリックします。

帳票情報がデータベースに格納され、[登録済み帳票一覧] 画面に設定した帳票が登録されます。

注意事項

登録できる帳票 (BLC 帳票および EUR Form 連携帳票の総数) の数は、2,000 個までです。ただし、同じ帳票でもバージョンが異なれば、異なる帳票としてカウントされます。

例えば、次の帳票が登録されているとします。

- 帳票 A (バージョン 1, バージョン 2)
- 帳票 B (バージョン 1~バージョン 3)

この場合の帳票の数は、帳票 A が 2 個、帳票 B が 3 個となり、合計で 5 個になります。

(b) 帳票の更新

登録済みの帳票に帳票定義を再登録する方法と、登録済みの帳票の運用状態 ("許可", "不可"または"不可(互換)") を変更する方法を説明します。

● 最新の帳票定義を読み込む

登録済みの帳票に帳票定義を再登録します。

操作手順

1. [登録済み帳票一覧] 画面で、選択する帳票の [選択] チェックボックスをチェックします。

帳票は複数選択できません。

2. [定義ファイル再読込] メニューをクリックします。

[帳票登録用定義選択] 画面が表示されます。最新の帳票定義が読み込まれます。

● 登録済みの帳票の情報を変更する

登録済みの帳票の運用状態 ("許可", "不可"または"不可(互換)") や、ソート用に入力した頭文字を変更する方法を説明します。

操作手順

1. [登録済み帳票一覧] 画面で、変更する帳票の [選択] チェックボックスを選択し、[更新] メニューをクリックします。

現在登録されている帳票の内容で [帳票登録] 画面が表示されます。

2. [頭文字 (ソート用)] テキストボックスに、帳票の頭文字を 64 文字以下の文字列で入力します。

半角または全角のどちらでも、64 文字以下の文字列であれば問題ありません。

3. [運用], [送信ログからの申請] (EUR Form 連携帳票の場合だけ), および [帳票利用者] を選択します。

4. [更新] ボタンをクリックします。

帳票情報がデータベースに格納され、[登録済み帳票一覧] 画面に更新された帳票が登録されます。

(c) 帳票の削除

登録されている帳票を削除する方法を説明します。

操作手順

1. [登録済み帳票一覧] 画面で、削除する帳票の [選択] チェックボックスをオンにします。

2. [削除] メニューをクリックします。
削除を確認する画面が表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。
選択した帳票が削除されます。

(2) 注意事項

チェックボックスおよびラジオボタンを選択していない状態で [更新], [削除] などのメニューをクリックした場合, エラーダイアログが表示されます。

4.9 ユーザを編集する

ここでは、ユーザ情報を編集する操作手順を説明します。

なお、ユーザ情報を管理（登録、削除など）する操作手順については、「10. ユーザの管理」を参照してください。

4.9.1 画面の構成（ユーザの編集）

システム管理者がユーザ情報を編集したり、システム管理者以外のユーザが自身のパスワードを編集したりできるユーザ情報編集画面の構成を説明します。

なお、ユーザ情報編集画面が含まれる「ユーザ情報管理」画面の構成については、「10.1.2(1) 「ユーザ情報管理」画面の構成」を参照してください。

ユーザ情報編集画面を次に示します。

システム管理者の場合

電子フォームワークフロー - Microsoft Internet Explorer

ユーザー情報管理

CSV読込 CSV出力 閉じる

組織情報 ユーザー情報

更新 戻る

*は必須入力項目です。

ユーザーID A00001

従業員番号 A00001

氏名* 社長 太郎 例) 営業 花子

氏名カナ* シヤチョウ タロウ 例) エイゴウ ハナコ

氏名英字(半角) syacho taro 例) Eitoyo Hanako

パスワード

パスワード(確認)

役割* 社長

所属職种* A(種)

管理者権限* 一般ユーザー

代行権限* 経管作業権

メール A00001@a-kaisyaya.com 例) XXXX@oooo.co.jp

TEL外線 0000-0000-0000 例) 0000-0000-0000

TEL内線 777-0000 例) 0001

更新

ページが表示されました

ツリーエリア

ユーザー情報編集画面

システム管理者以外の場合

電子フォームワークフロー - Microsoft Internet Explorer

ユーザー情報管理

更新 閉じる

ユーザーID A01103

従業員番号 A01103

氏名* 座務 幸子 例) 営業 花子

氏名カナ* シヨムム サチコ 例) エイゴウ ハナコ

氏名英字(半角) syomu sachiko 例) Eitoyo Hanako

旧パスワード

新パスワード

新パスワード(確認)

役割* 社員

所属職种* 経管座務

管理者権限* 一般ユーザー

代行権限* 利用権

メール A01103@a-kaisyaya.com 例) XXXX@oooo.co.jp

TEL外線 0000-0000-0000 例) 0000-0000-0000

TEL内線 777-0000 例) 0001

更新

ページが表示されました

- システム管理者の場合

システム管理者は、選択したユーザのユーザ情報をユーザ情報編集画面で編集できます。ユーザ情報編集画面の構成については、「(1) システム管理者の場合」を参照してください。

- システム管理者以外の場合

システム管理者以外のユーザは、ユーザ情報編集画面で自身のパスワードおよび電話番号を変更できます。そのほかの項目は変更できません。

ユーザ情報編集画面の構成については、「(2) システム管理者以外の場合」を参照してください。

ユーザ情報編集画面の構成を説明します。

(1) システム管理者の場合

[更新] メニュー

変更内容がユーザ情報テーブル (BLC_USER_INFO_T テーブル) に登録されます。

なお, [更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[戻る] メニュー

ユーザー一覧画面に戻ります。

ユーザ情報

選択したユーザのユーザ情報が表示されます。

[ユーザ ID] テキストボックス

選択したユーザのユーザ ID が表示されます。

ユーザ ID は変更できません。

[従業員番号] テキストボックス

選択したユーザの従業員番号が表示されます。

従業員番号は変更できます。半角 128 文字以下の英数字で入力してください。

[氏名 (姓)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (姓) が表示されます。

氏名 (姓) は変更できます。全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[氏名 (名)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (名) が表示されます。

氏名 (名) は変更できます。全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[氏名カナ (姓)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (姓) のかたかな名が表示されます。

氏名カナ (姓) は変更できます。全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[氏名カナ (名)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (名) のかたかな名が表示されます。

氏名カナ (名) は変更できます。全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[氏名英字 (半角) (姓)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (姓) の英字名が表示されます。

氏名英字 (半角) (姓) は変更できます。半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[氏名英字 (半角) (名)] テキストボックス

選択したユーザの氏名 (名) の英字名が表示されます。

氏名英字 (半角) (名) は変更できます。半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[パスワード] テキストボックス

パスワードを変更する場合だけ, 新しいパスワードを入力します。システム管理者は旧パスワードを指定することなく, 新しいパスワードを入力することで強制的にパスワードを変更できます。

パスワードに入力する文字は, BLC.BLCproperties の PasswordMin キーに指定した最小文字数 (デフォルトでは半角 8 文字) 以上, 128 文字以下の文字列で入力してください。なお, パスワードにユーザ ID と同じ値は入力できません。

パスワードに設定できる文字については、「4.9.2(2) 注意事項」のパスワードに関する注意事項を参照してください。

[パスワード (確認)] テキストボックス

[パスワード] テキストボックスに入力したパスワードをもう一度入力します。

[役職] ドロップダウンリスト

選択したユーザの役職略称が表示されます。

役職はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

選択したユーザが所属する組織の略称が表示されます。

組織はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「所属略称」とは、組織管理画面で登録された組織略称の一覧です。

[管理者権限] ドロップダウンリスト

選択したユーザの管理者権限が表示されます。

管理者権限は変更できます。ドロップダウンリストからシステム管理者、共有トレイ管理者、または一般ユーザを選択できます。なお、システム管理者および共有トレイ管理者を選択する場合、ユーザの代行権限は振替作業または代行者にしてください。

[代行権限] ドロップダウンリスト

選択したユーザの代行権限が表示されます。

代行権限は変更できます。ドロップダウンリストから振替作業、代行者、または利用者を選択できます。なお、管理者権限でシステム管理者および共有トレイ管理者を選択している場合、利用者は選択できません。

[メール] テキストボックス

選択したユーザのメールアドレスが表示されます。

メールアドレスは変更できます。半角 128 文字以下の英数字（記号を含む）で入力してください。

なお、メール送信機能を利用する場合は、必ずメールアドレスを設定してください。

[TEL 外線] テキストボックス

選択したユーザの電話番号（外線）が表示されます。

電話番号（外線）は変更できます。半角 128 文字以下で入力してください。

[TEL 内線] テキストボックス

選択したユーザの電話番号（内線）が表示されます。

電話番号（内線）は変更できます。半角 128 文字以下で入力してください。

(2) システム管理者以外の場合

[更新] メニュー

変更内容がユーザ情報テーブル (BLC_USER_INFO_T テーブル) に反映されます。

なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[閉じる] メニュー

ユーザ情報編集画面が閉じます。

ユーザ情報管理

ログインユーザのユーザ情報が表示されます。

パスワード, TEL (外線), および TEL (内線) 以外は変更できません。

[旧パスワード] テキストボックス

パスワードを変更する場合だけ, ログインユーザの旧パスワードを入力します。

[新パスワード] テキストボックス

パスワードを変更する場合だけ, 新しいパスワードを入力します。

半角 8 文字以上 128 文字以下の文字列で入力してください。なお, パスワードにユーザ ID と同じ値は入力できません。

パスワードに設定できる文字については, 「4.9.2(2) 注意事項」のパスワードに関する注意事項を参照してください。

[新パスワード (確認)] テキストボックス

[新パスワード] テキストボックスに入力したパスワードをもう一度入力します。

[TEL 外線] テキストボックス

ログインユーザの電話番号 (外線) が表示されます。

TEL 外線は変更できます。半角 128 文字以下の数字で入力してください。

[TEL 内線] テキストボックス

ログインユーザの電話番号 (内線) が表示されます。

TEL 内線は変更できます。半角 128 文字以下の数字で入力してください。

4.9.2 操作手順 (ユーザの編集)

ユーザ情報を編集する手順を説明します。

(1) 操作手順

ユーザ情報を編集する場合は次の点に注意してください。

- パスワードにユーザ ID と同じ値は指定できません。
- システム管理者または共有トレイ管理者の代行権限に「利用者」は指定できません。

(a) システム管理者の場合

システム管理者がユーザ情報を編集する手順を説明します。

なお, 検索したユーザのユーザ情報を編集する場合は, 「10.1.5(2)(d) ユーザの検索」を参照してください。

操作手順

1. BLC のメニューポートレットの [ユーザ情報管理] メニューをクリックします。
別ウィンドウに [ユーザ情報管理] 画面が表示されます。
2. ツリーエリアから組織を一つ選択します。
各画面エリアに組織管理画面が表示されます。
3. 各画面エリアの [ユーザ情報] タブをクリックします。
ユーザー一覧画面が表示されます。
4. 編集するユーザ ID のアンカーをクリックします。

選択したユーザのユーザ情報編集画面が表示されます。

5. ユーザ情報を編集します。

各項目で選択できる内容については、「4.9.1(1) システム管理者の場合」を参照してください。

6. [更新] メニューをクリックします。

変更内容がユーザ情報テーブルに登録され、ユーザー一覧が更新されます。

(b) システム管理者以外の場合

システム管理者以外のユーザが自身のパスワードまたは電話番号を編集する手順を説明します。

操作手順

1. BLC のメニューポートレットの [ユーザ情報管理] メニューをクリックします。

別ウィンドウにログインユーザのユーザ情報編集画面が表示されます。

2. ユーザ情報を編集します。

編集できる項目は、パスワード、TEL (外線)、および TEL (内線) です。

各項目で選択できる内容については、「4.9.1(2) システム管理者以外の場合」を参照してください。

3. [更新] メニューをクリックします。

変更内容がユーザ情報テーブルに登録されます。

(2) 注意事項

- 入力項目に誤りがある場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。
- システムエラーが発生した場合は、エラーページに遷移します。表示されたエラー内容を基に、要因を調査して対処してください。
- パスワードに指定する文字の最小文字数は、プロパティファイル (BLC.BLCproperties) の「PasswordMin」に設定した値です。デフォルトでは 8 文字以上に設定されています。
- パスワードに設定できる文字は A-Z, 0-9, a-z, 記号です。これ以外を設定した場合、動作は保証されません。

記号を次に示します。

```
! " # $ % & ' ( ~ `
) * + , - . / : ; {
< = > ? @ [ ¥ ] ^ }
| (垂直バー)
_ (半角アンダーバー)
_ (半角スペース)
```


5

BLC のカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

この章では、BLC 帳票での BLC 実行環境のカスタマイズの方法について説明します。

BLC 実行環境では、帳票ボタン処理、BLCDirs クラス、クライアント表示機能、認証処理機能、一覧処理機能、プロパティファイル、エラー情報表示ページなどをカスタマイズできます。

5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)

この節では、サーバ側のユーザ追加処理、およびクライアント側のユーザ追加処理で行う、帳票ボタン処理などのカスタマイズについて説明します。

5.1.1 ユーザ定義クラスのインポート (BLC 帳票の場合)

サーバ側のユーザ追加処理を追加するには、BLSG で自動生成した帳票クラス（以降、自動生成帳票クラスと呼びます）を継承したユーザ定義クラスを Java で実装し、帳票 JSP にインポートする必要があります。帳票 JSP へのインポート設定方法については、「3.2.4(2)(c) ユーザ追加処理について定義する」を参照してください。

BLCFormBase クラスのクラス階層を次に示します。

表 5-1 BLCFormBase クラス階層

クラス名	説明
jp.co.hitachi.soft.blc.BLCFormBase	BLC の提供するクラスです。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。
└ "jp.co.hitachi.soft.blc."<帳票パッケージ名>+"."<帳票 ID>+"_"<帳票 Version>+"_Class"	自動生成帳票クラスです。 BLC サンプル帳票（販売契約稟議 EUR）例 SampleConsultation_1_Class.java
└ "jp.co.hitachi.soft.blc."<帳票パッケージ名>+"."<ユーザ定義クラス名>	ユーザ定義クラスです。 帳票前処理などのユーザ追加処理を実装する場合は、「5.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」の BLCFormBase クラスのユーザ追加処理メソッドをオーバーライドしてください。 BLC サンプル帳票（販売契約稟議 EUR）例 SampleConsultation_1_userServerSideClass.java

5.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (BLC 帳票の場合)

サーバ側のユーザ追加処理で、帳票ボタン処理などをカスタマイズするには、帳票クラスを継承して、BLCFormBase クラスのメソッドをオーバーライドします。オーバーライドする BLCFormBase クラスのメソッドを次に示します。

BLCFormBase クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCFormBase クラス」の説明を参照してください。

サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理については、「2.4.6 サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概要」を参照してください。

表 5-2 オーバーライドする BLCFormBase クラスのメソッド

カスタマイズの種類	BLCFormBase クラスのメソッド	備考
帳票開始処理の追加	ufsv_addFormStartUp	帳票開始処理は、DB から帳票データを読み出す前に呼び出され、帳票の新規表示時だけ呼ばれます。
帳票前処理の追加	ufsv_addFormPreparation	帳票前処理は、DB からの案件情報や帳票データの呼び出し後、帳票の HTML 生成処理の直前で呼ばれます。新規表示と再表示の両方で呼ばれます。
帳票タイトル表示処理の変更	ufsv_overrideFormTitle	帳票のタイトル HTML を置き換えます。
コメント表示処理の変更	ufsv_overrideCommentArea	帳票のコメント記述テキスト領域の HTML を置き換えます。
宛先選択表示処理の変更	ufsv_overrideGetAvailableParticipant	帳票の宛先選択領域の HTML を置き換えます。
ボタン表示処理の変更	ufsv_overrideSubmitButtons	帳票の処理ボタンの HTML を置き換えます。
ボタン DB 更新前処理の追加	ufsv_addButtonPreparation	申請ボタンや承認ボタンなどのボタンをクリックしたあと、BLC の申請/承認処理の延長 (BLC の DB 処理の前) で呼ばれます。 追加処理の例 申請する案件の申請 ID の設定 案件宛先ユーザの設定
ボタン DB 更新処理の追加	ufsv_addButtonExecution	ボタン DB 更新前処理のあと、BLC の DB トランザクション中に呼ばれます。 追加処理の例 業務 DB へのアクセス処理
ボタン DB 更新後処理の追加	ufsv_addButtonPostHandling	ボタン DB 更新処理のあと、BLC と CSCIW の同一トランザクション処理の終了後に呼ばれます。 ただし、ボタン DB 更新前処理、ボタン DB 更新処理、または BLC と CSCIW の同一トランザクション処理のどれかでエラーが発生した場合は呼ばれません。 追加処理の例 メール送信処理
案件履歴表示処理の変更	ufsv_overrideProcessHistory	帳票の承認履歴領域の HTML を置き換えます。
宛先選択リスト情報取得処理の変更	ufsv_overrideGetDirsData	帳票の宛先選択リストの取得処理を変更します。

(1) 宛先選択のカスタマイズ

(a) 宛先選択表示処理の変更

表 5-2 の「宛先選択表示処理の変更」メソッドは、帳票の宛先選択部分に表示される HTML 全体を置き換えるカスタマイズです。

BLCFormTarget クラスによる表示動作を変更するために、帳票前処理で、次に示す BLCValDic クラスのキーによって、表示条件を変更できます。

- BLC_TargetPutList キー
宛先に表示する役職範囲を役職略称で指定します。
- BLC_TargetPutCond キー
帳票の作業者の役職による役職条件を指定します。
- BLC_TargetPutMax キー
宛先選択ドロップダウンを表示する帳票の作業者の最高役職を役職略称で指定します。

BLCFormTarget クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCFormTarget クラス」の説明を参照してください。

(b) 宛先選択リスト情報取得処理の変更

宛先選択の表示方法はそのまま、表示するデータだけをカスタマイズしたい場合は、「宛先選択リスト情報取得処理の変更」メソッドをオーバーライドして実装します。また、宛先選択リストのデータが不要な場合 (宛先選択リストを表示しないよう BLSG で設定している場合) は、このメソッドを空のメソッドでオーバーライドすることによって、データの取得処理 (SQL 文発行) を抑止できます。

(2) 処理ボタンのカスタマイズ

BLCFormButton クラスによる処理ボタンの表示動作を変更するために、帳票前処理で、BLCFormButton クラスのメソッドによって、ボタンの配置順序、ボタン名、および動作 JavaScript 関数を変更できます。

BLCFormButton クラスの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCFormButton クラス」の説明を参照してください。

表 5-2 の「ボタン表示処理の変更」のメソッドは、帳票の処理ボタン部分に表示される HTML 全体を置き換えるカスタマイズです。

(3) タイトル文字のカスタマイズ

帳票前処理で帳票のタイトル文字を変更する例を次に示します。

図 5-1 帳票のタイトル文字のカスタマイズ例

```
public void ufsv_addFormPreparation() throws BLCException {
    Calendar nowDate = Calendar.getInstance();
    int MonthNow = nowDate.get(Calendar.MONTH)+1;
    //帳票のタイトルを変更
    blse.m_DataValue.put("BLC_FormName", "出張実績申請 "+MonthNow+"月分");
}
```

(4) サーバ側のユーザ追加処理の呼び出し順序

サーバ側ユーザ追加処理を行う際、BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出す順序を説明します。

(a) 帳票開始時

帳票開始時には、次の順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

1. ufsv_addFormStartUp
入力の DB アクセス定義を実行されます。
2. ufsv_addFormPreparation
3. ufsv_overrideFormTitle
4. ufsv_overrideProcessHistory
5. ufsv_overrideCommentArea
6. ufsv_overrideGetAvailableParticipant
7. ufsv_overrideSubmitButtons

帳票が表示され、ブラウザ側に制御が移ります。

注意事項

運用不可が設定されている場合、申請帳票の表示処理を開始すると、「1.ufsv_addFormStartUp」の処理の前で帳票の表示処理を停止し、エラーを表示します。

EUR Form 連携帳票の場合と運用不可を判定するタイミングが異なります。

(b) 申請または承認時

申請または承認時には、次の順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

1. ufsv_addButtonPreparation
出力の DB アクセス定義を実行されます。
2. ufsv_addButtonExecution
3. ufsv_addButtonPostHandling
結果表示 JSP に制御が移ります。

注意事項

運用不可が設定されている場合、申請処理を開始すると、「1.ufsv_addButtonPreparation」の処理の前で申請処理を停止し、エラーを表示します。

(c) DB アクセス専用帳票の読み込み時

DB アクセス専用帳票の読み込み時には、「(a) 帳票開始時」と同じ順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

(d) DB アクセス専用帳票の更新時

DB アクセス専用帳票の更新時には、「(b) 申請または承認時」と同じ順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

(e) カスタム申請帳票のソース帳票で申請書の表示時

カスタム申請帳票のソース帳票で申請書の表示時には、ターゲット帳票では、「(a) 帳票開始時」と同じ順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

(f) 案件履歴表示時

案件履歴表示時には、次の順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

5 BLCのカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

- 1.ufsv_addButtonPreparation
- 2.ufsv_overrideSubmitButtons

(g) 内容確認表示時

内容確認表示時には、「(a) 帳票開始時」と同じ順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

(h) 保留時

保留時には、次の順序で BLCFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

- 1.ufsv_addButtonPreparation
出力の DB アクセス定義は実行されません。
- 2.ufsv_addButtonExecution
- 3.ufsv_addButtonPostHandling
結果表示 JSP に制御が移ります。

(5) ユーザ追加処理クラスでアクセスできる BLCValDic クラスキー

ユーザ追加処理クラスでアクセスできる項目を次に示します。

表 5-3 ユーザ追加処理クラスでアクセスできる項目

項目名	変数名	内容	設定の可否
ビジネスプロセス名	BLC_BpName	ビジネスプロセス名	—
作業名	BLC_NodeName	<ul style="list-style-type: none"> • "業務ステップ定義名"+"-" (半角ハイフン) +"作業定義名" • 申請時は"@Source" 	—
完全作業名	BLC_NodeInstName	<ul style="list-style-type: none"> • "業務ステップ名"+"-" (半角ハイフン) +"作業名" • 申請時は"@Source" 	—
処理モード	BLC_ProcMode	<ul style="list-style-type: none"> • 0：帳票一覧から起票します。 申請帳票画面へのリンク機能によって起票します。 • 1：受信ボックスから起票します。 • 3：送信ログから起票します（[案件履歴] 画面および内容確認画面の場合）。 • そのほかの値：今後の拡張用に予約済みです。 	—
案件 ID	BLC_PIID	<ul style="list-style-type: none"> • CSCIW の案件 ID • 申請時は空文字列 	—
申請 ID	BLC_PIName	<ul style="list-style-type: none"> • CSCIW の案件名 • 申請時だけ CSCIW のシステムで重複しないようなユーザ指定値に設定できます。 • 値を設定する場合は、ボタン DB 更新前処理で設定する必要があります。 	○

項目名	変数名	内容	設定の可否
作業 ID	BLC_WIID	<ul style="list-style-type: none"> CSCIW の作業 ID 申請時は空文字列 	—
帳票 ID	BLC_FormID	帳票 ID	—
申請作業 ID	BLC_ApplyUID	申請をしたユーザ ID	—
処理期限	BLC_PILimit	<ul style="list-style-type: none"> 案件の処理期限 案件の処理期限の日時を YYYYMMDDHHMMSS の形式で格納します。 申請時のデフォルトは、サーバ時刻の 30 日後の 23 時 59 分 59 秒です。 注 CSCIW で設定する処理期限とは異なります。	○
帳票モジュール表示種別	BLC_show_<帳票モジュール ID>	<ul style="list-style-type: none"> True：帳票モジュールを表示します。 False：帳票モジュールを表示しません。 	—
案件状態	BLC_PIStatus	申請時は"処理中", 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の業務完了指示作業で"完了"を設定します。値を設定する場合は、ボタン DB 更新前処理で設定する必要があります。	○
宛先ユーザ	BLC_SendToData	<ul style="list-style-type: none"> 値を設定する場合は、ボタン DB 更新前処理で設定する必要があります。 値を設定する場合は、BLC_USER_V ビューに存在するユーザのユーザ ID を設定する必要があります。 	○
フッター HTML	BLC_PageFooterHtml	帳票前処理で指定すると、帳票の最下部にエンコードしないで、値文字列をそのまま出力します。	○
DB アクセス定義ファイルパス	BLC_DBDefFile	BLCDBDef クラスを使用する場合の load メソッドに指定するフルパス情報です。実行中の帳票の DB アクセス定義ファイル名を保持します。	○
BODY bgcolor 指定	BLC_htmlbody_bgcolor	帳票の BODY タグに出力する bgcolor タグオプションの値を指定できます。	○
BODY オプションタグ指定	BLC_htmlbody_option	帳票の BODY タグに出力する bgcolor, onLoad, および onUnload 以外のタグオプションを指定できます。タグオプションと値全体を文字列で指定します。	○
ボタン名	BLC_AcceptMode	ボタン DB 更新前処理で参照できます。	—
ボタン ID	BLC_AcceptID	ボタン DB 更新前処理で参照できます。	—
帳票モジュールプレフィックスリスト	BLC_MdlList	<ul style="list-style-type: none"> 帳票モジュールプレフィックスを保持します。 帳票モジュールプレフィックスがコンマ区切りで格納されています。 例：m1,m2,m3	—
履歴項目数	phist_total	<ul style="list-style-type: none"> 承認履歴の数が格納されています。 申請帳票表示時は承認履歴が存在しません。 	—

5 BLCのカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

項目名	変数名	内容	設定の可否
業務ステップ名	phist_actdef_\$n	<ul style="list-style-type: none"> 承認履歴の業務ステップ名が格納されています。 申請の履歴には空文字列が格納されています。 	—
作業名	phist_winm_\$n	<ul style="list-style-type: none"> 承認履歴の作業名が格納されています。 申請の履歴には空文字列が格納されています。 	—
作業日付	phist_date_\$n	承認履歴の作業日付が YYYYMMDDHHMMSS の形式で格納されています。	—
実行処理名	phist_exenm_\$n	承認履歴の処理名 (ボタン名) が格納されています。	—
実行処理 ID	phist_exeid_\$n	承認履歴の処理 ID (ボタン ID) が格納されています。	—
作業組織略称	phist_parblg_\$n	承認履歴の作業組織略称が格納されています。	—
作業名	phist_parmm_\$n	承認履歴の作業氏名が格納されています。	—
作業 ID	phist_parid_\$n	承認履歴の作業 ID が格納されています。	—
案件属性の項目数	BLC_AttrNum	<p>案件属性の項目を利用する数を指定します。 デフォルトは 10 です。 0~10 の値を指定してください。 0 は項目値を利用しない場合に指定します。 1~10 の値を指定した場合は、指定した値の個数の項目値を利用できます。 0~10 以外の値を指定した場合は、正常に動作しません。 値を変更しない場合は、申請/承認などを行った次ノードでも値が引き継がれます。 値を設定する場合は、ボタン DB 更新前処理で指定してください。</p>	○
案件属性の項目値	BLC_AttrData\$n	<p>案件属性の項目値を指定します。 デフォルトは "" (空文字列) です。\$n には、[1~BLC_AttrNum で指定した値]を指定してください。 \$n に BLC_AttrNum で指定した値の範囲以外を指定した場合は、案件属性の項目値として有効になりません。 値を変更しない場合は、申請/承認などを行った次ノードでも値が引き継がれます。 値を設定する場合は、ボタン DB 更新前処理で指定してください。</p>	○
ユーザ追加項目	(例) u_userdata	<p>ユーザ追加処理で利用する任意の値を格納/参照できます。 "u"で始まるキー名を使用できます。</p>	○

(凡例)

- : ユーザ追加クラスで参照だけできます。
- : ユーザ追加クラスで参照および設定ができます。
- \$n : 取得情報番号 (1~履歴項目数)。

帳票の最下部にデバッグ情報を表示する帳票前処理メソッドの例を次に示します。

図 5-2 帳票の最下部にデバッグ情報を表示する帳票前処理メソッド

```
blse.m_DataValue.put("BLC_PageFooterHtml", "debug text data")
```

(6) データの扱い

帳票が送信するデータや帳票表示時のデータは、帳票ページの処理開始時に BLCValDic クラスのキーにマップします。帳票前処理やボタン DB 更新前処理と BLC の間は、BLCValDic クラスが保持するキーと値の組 (データ) をインタフェースに各機能を実現します。

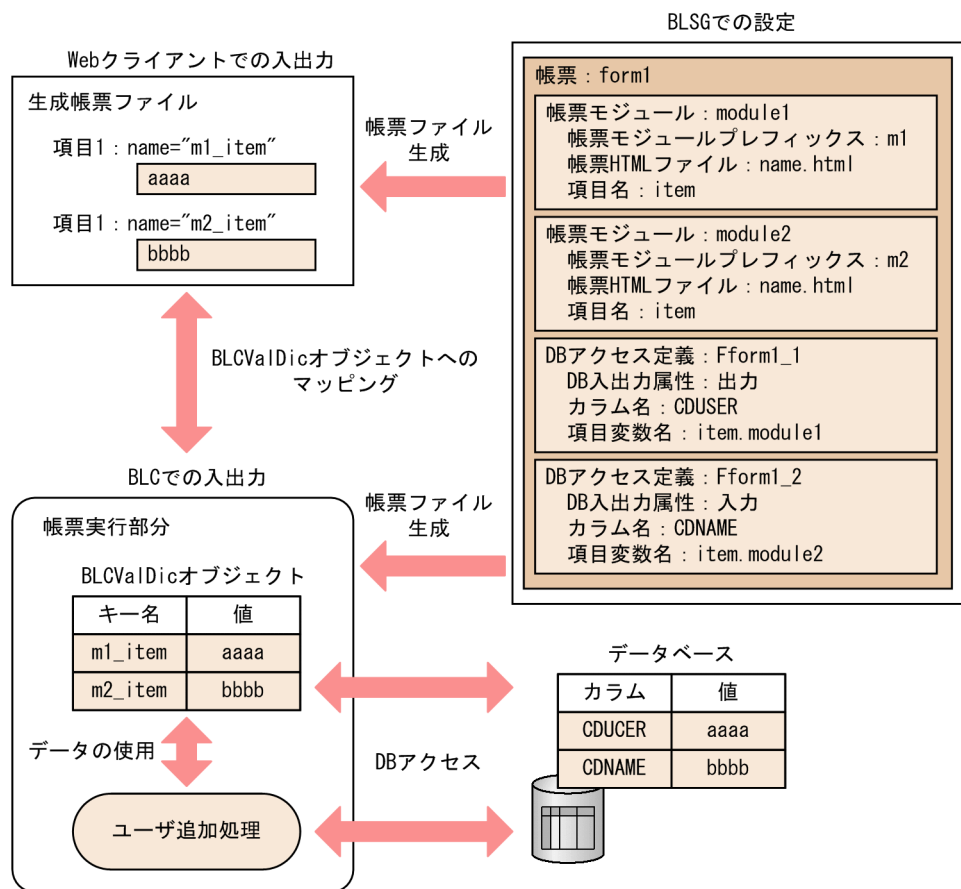
BLCValDic クラスの"u"で始まるキー名は、ユーザ追加処理に使用できます。そのほかのキー名は、BLC で使用するので、注意が必要です。

(a) 概要

BLC で帳票を実行すると、帳票の各項目のデータは、BLCValDic オブジェクトに格納されます。各項目のデータは、帳票内でユニークに付けられた項目のキー名 ("帳票モジュールプレフィックス"+"項目名") と、項目の値を組として、BLCValDic オブジェクトにマッピングされます。

各項目のデータが BLCValDic オブジェクトに格納されるイメージを、次に示します。

図 5-3 BLCValDic オブジェクトへのデータの格納



図の説明

帳票"form1"は、同じ名前の項目"item"を持つ帳票モジュール"module1"および"module2"のそれぞれの項目に、DB アクセスを定義しています。

帳票"form1"から生成した帳票ファイルでは、帳票モジュール"module1"の項目"item"には"m1_item", 帳票モジュール"module2"の項目"item"には"m2_item"と、ユニークに名前が付けられます。

BLCで帳票を起動すると、各項目のデータは、項目に付けられた名前("m1_item"または"m2_item")をキー名として、BLCValDic オブジェクト (BLCFormControl クラスのフィールド m_DataValue) に格納されます。以降、帳票実行中は、BLCValDic オブジェクトに格納されたデータにアクセスします。

帳票にDBアクセスが定義されている場合は、BLCValDic オブジェクトに格納されたデータがデータベースに出力され、データベースに格納されていたデータがBLCValDic オブジェクトに格納されません。

ユーザ追加処理などで、項目のデータを使用する場合は、キー名を使用してアクセスします。

BLCValDic オブジェクトの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCFormBase クラス」, 「BLCFormControl クラス」, および「BLCFormValDic クラス」の説明を参照してください。

(b) 項目変数名からキー名への変換規則

BLCでは、BLSGで定義された項目変数名を、次の規則でBLCValDic オブジェクトのキー名に変換します。項目のデータを使用する場合は、キー名を使用してBLCValDic オブジェクトにアクセスします。

- 項目変数名が"項目変数名"+"_"+"帳票モジュール ID"の場合
キー名は、"帳票モジュールプレフィックス"+"_"+"項目変数名"となります。

例

項目変数名: item.module1 → キー名: m1_item

- 項目変数名に予約語(先頭が"_"または"BLC_")を指定している場合
変換されないで、そのままキー名となります。

例

項目変数名: _Now → キー名: _Now

- 帳票モジュール定義で、項目変数名の末尾に"帳票モジュール ID"の指定がない場合
帳票モジュール定義の"帳票モジュールプレフィックス"を使用して、キー名は、"帳票モジュールプレフィックス"+"_"+"項目変数名"となります。

例 (帳票モジュールが"module1", 項目変数名が"item"の場合)

項目変数名: item → キー名: m1_item

- 帳票モジュール定義内で、"帳票モジュールプレフィックス"+"_"+"項目変数名"の場合
変換されないで、そのままキー名となります。

ただし、指定した"帳票モジュールプレフィックス"が、帳票モジュール定義で設定された"帳票モジュールプレフィックス"と異なる場合は、「帳票モジュール定義内で、項目変数名の末尾に"帳票モジュール ID"の指定がない場合」と同様に、キー名の先頭に"帳票モジュールプレフィックス"+"_"を付けます。

例 (帳票モジュールが"module1", 項目変数名が"m1_item"の場合)

項目変数名: m1_item → キー名: m1_item

例 (帳票モジュールが"module2", 項目変数名が"m1_item"の場合)

項目変数名: m1_item → キー名: m2_m1_item

- 帳票モジュール定義で、"s"+"帳票モジュールプレフィックス"+"_"+"項目変数名"の場合

変換されないで、そのままキー名となります。

ただし、指定した"帳票モジュールプレフィックス"が、帳票モジュール定義で設定された"帳票モジュールプレフィックス"と異なる場合は、「帳票モジュール定義内で、項目変数名の末尾に"帳票モジュールID"の指定がない場合」と同様に、キー名の先頭に"帳票モジュールプレフィックス"+"_"を付けます。

例（帳票モジュールが"module1"、項目変数名が"sm1_item_opttxt"の場合）

項目変数名：sm1_item_opttxt → キー名：sm1_item_opttxt

例（帳票モジュールが"module2"、項目変数名が"sm1_item_opttxt"の場合）

項目変数名：sm1_item_opttxt → キー名：m2_sm1_item_opttxt

- 上記以外の場合

変換されないで、そのままキー名となります。

図 5-3 の場合、DB アクセス定義で定義された項目変数"item.module1"からデータベースへの出力は、BLCValDic クラスの"m1_item"キー対応する値をデータベースに出力する処理となります。また、データベースから項目変数"item.module2"への入力も、データベース上のデータを、"m2_item"キーに対応する値として BLCValDic オブジェクトに格納する処理となります。

(7) 項目の表示属性の変更

BLC 帳票では、「申請帳票」と「承認帳票」の 2 種類の帳票ごとに、各項目の表示属性を帳票ジェネレータ (BLSG) で定義できます。

項目の表示属性の変更機能を使用してユーザ追加処理を Java で記述することによって、ビジネスプロセスに複数の承認ノードが存在する場合でも、ノードごとに項目変数の表示属性を変更できるようになります。

(a) 提供するメソッド

項目の表示属性変更機能では、次のメソッドを BLCFormControl クラスで提供しています。

setInputItem：項目の表示属性を「入力」に設定します。

setReferItem：項目の表示属性を「参照」に設定します。

setHiddenItem：項目の表示属性を「非表示」に設定します。

これらのメソッドは、次のどちらかのユーザ追加処理メソッドで使用します。

- ufsv_addFormStartUp（帳票開始処理を実装するメソッド）
- ufsv_addFormPreparation（帳票前処理を実装するメソッド）

(b) 実装例

項目の表示属性変更機能の実装例を次に示します。

この例では、承認ノード「承認-承認」で項目「m1_item1」を入力属性に変更しています。

```
// パッケージ宣言
package jp.co.Hitachi.soft.blc.[パッケージ名];

//インポート文
import java.io.*;
import java.util.*;
import jp.co.Hitachi.soft.blc.*;

// ユーザ定義クラス
public class [ユーザ定義クラス名] extends [BLSG自動生成帳票クラス名] {
```

```

        :
        省略
        :

// 帳票前処理の追加
public void usfv_addFormPreparation( ) throws BLCEXception {
    String strProcMode = null;
    String strNodeName = null;

    try{
        // 処理モード取得
        strProcMode = blse.m_DataValue.item("BLC_ProcMode");

        // 完全作業名取得
        strNodeName = blse.getNodeName();

        if(strProcMode.equals("1") && strNodeName.equals("承認-承認")){
            // 処理モードが「1」、かつ作業名が「承認-承認」の場合
            // 項目「m1_item1」を入力に設定
            blse.setInputItem("m1_item1");
        }
    }
    catch( Exception ex){
        BLCEXception blcEx =
            BLCEXception.getUserException( ex, 50001, new String [] { "arg1" } );
        throw blcEx;
    }
}
}

```

(c) 注意事項

項目の表示属性の設定の優先度

項目の表示属性は、次の方法で設定できます。

1. 帳票モジュールの [各作業のモード] での設定
BLSG の帳票定義で、作業ごとにモジュール単位で設定します。
2. 申請帳票・承認帳票の項目表示制御での設定
BLSG の帳票モジュール定義で、帳票ごとに項目単位で設定します。
3. 項目の表示属性変更機能のメソッドでの設定
(a)に示したメソッドを使用して、項目単位で設定します。

表示属性をこれらの方法でそれぞれ設定した場合、どの設定が優先されるかを次に示します。

- 1.の方法で「入力」または「参照」を設定している場合は、3.での設定が優先されます。
- 1.の方法で「非表示」を設定している場合は、1.での設定が優先されます。

DB アクセス処理

帳票の申請時および承認時に多くのメモリが必要になる DB アクセス処理は実行できません。申請/承認処理で一つのトランザクションとなることを考慮して、ユーザ追加処理を実装してください。

5.1.3 クライアント側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ

クライアント側のユーザ追加処理で、帳票ボタン処理などをカスタマイズするためには、JavaScript 関数を追加します。JavaScript は、BLC とは別のファイルに記述し、JavaScript を含むファイル名を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で指定します。なお、該当のファイルは、必ず native2ascii でエンコードしたファイルを利用してください。

追加できる JavaScript 関数を次に示します。

表 5-4 追加できる JavaScript 関数

関数の種類	JavaScript 関数名	説明
OnLoad イベント	ufcl_OnLoad	帳票ページの開始時にコールされます。
帳票モジュールチェック	ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>	申請ボタンおよび承認ボタンがクリックされたときにコールされます。 この関数を定義した場合、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面およびダイアログで定義した、入力必須・入力チェック処理を実行しないで、この関数に切り替えます。
帳票チェック	ufcl_checkForm	帳票モジュールチェック実行後にコールされます。
ボタンチェック	ufcl_checkButtons	入力チェック後に、申請ボタンや承認ボタンなどのボタンが、帳票を送信する直前でコールされます。

帳票チェック処理の指定例を次に示します。

図 5-4 帳票チェック処理の指定例

```
function ufcl_checkForm() {
    alert('入力チェック処理が完了しました');
    return true;
}
```

(1) 追加できる JavaScript 関数の詳細

ユーザが追加できる JavaScript 関数の詳細な内容を説明します。

(a) ufcl_OnLoad

JavaScript 関数 ufcl_OnLoad の詳細を次に示します。

表 5-5 ufcl_OnLoad の詳細

関数名	ufcl_OnLoad
格納ファイル	<ユーザ追加スクリプトファイル>
機能	帳票の OnLoad 関数から呼び出されます。
書式	ufcl_OnLoad()
引数	なし
戻り値	ロード OK 時 : true エラー時 : false
備考	戻り値が false の場合、呼び出し元で表示エラーダイアログを出力します。
使用例	<pre>function ufcl_OnLoad(){ return true; }</pre>

(b) ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>

JavaScript 関数 ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>の詳細を次に示します。

表 5-6 ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>の詳細

関数名	ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>
格納ファイル	<ユーザ追加スクリプトファイル>
機能	帳票モジュールの入力チェック関数を置き換えます。
書式	ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>()
引数	なし
戻り値	チェック OK 時 : true チェックエラー時 : false
備考	<ul style="list-style-type: none"> 戻り値が false の場合、申請・承認の実行を中断します。 この関数を定義した場合、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面およびダイアログで定義した入力必須・入力チェック処理を実行しないで、この関数だけを呼び出します。
使用例	<pre>function ufcl_checkModule_<帳票モジュール ID>(){ alert('帳票モジュール入力エラー'); return false; }</pre>

(c) ufcl_checkForm

JavaScript 関数 ufcl_checkForm の詳細を次に示します。

表 5-7 ufcl_checkForm の詳細

関数名	ufcl_checkForm
格納ファイル	<ユーザ追加スクリプトファイル>
機能	帳票の入力チェック処理を追加する関数です。
書式	ufcl_checkForm()
引数	なし
戻り値	チェック OK 時 : true チェックエラー時 : false
備考	<ul style="list-style-type: none"> 戻り値が false の場合、申請・承認の実行を中断します。 この関数を定義した場合、各帳票モジュールの入力チェックを実行したあとに呼び出されます。
使用例	<pre>function ufcl_checkForm(){ alert('帳票全体の入力エラー'); return false; }</pre>

(d) ufcl_checkButtons

JavaScript 関数 ufcl_checkButtons の詳細を次に示します。

表 5-8 ufcl_checkButtons の詳細

関数名	ufcl_checkButtons
格納ファイル	<ユーザ追加スクリプトファイル>
機能	帳票のボタンクリック関数から呼び出されます。
書式	ufcl_checkButtons(strButtonName, strButtonID)
引数	strButtonName：ボタン名 strButtonID：ボタン ID ボタン名とボタン ID の対応を次に示します。 左側がボタン名、右側がボタン ID です。 <ul style="list-style-type: none"> ・申請：ID_APPLY ・再申請：ID_REAPPLY ・破棄：ID_DESTRUCTION ・確認：ID_CONFIRM ・受付：ID_RECEPTION ・却下：ID_REJECT ・承認：ID_WICOMPLETE ・申請書表示^{※1}：ID_APPLYFORM ・読込^{※2}：ID_DBIN ・更新^{※2}：ID_UPDATEWIN
戻り値	チェック OK 時：true チェックエラー時：false
備考	エラー時は、呼び出し元の帳票でボタンによる submit 処理を中断します。
使用例	<pre>function ufcl_checkButtons(strButtonName, strButtonID){ alert(strButtonName + ':' + strButtonID); return true; }</pre>

注※1

カスタム申請のソース帳票だけで使用します。

注※2

DB アクセス専用帳票だけで使用します。

(2) JavaScript 関数でアクセスできる項目

ユーザが追加できる JavaScript 関数で参照または設定できる項目を次に示します。

表 5-9 JavaScript 関数でアクセスできる項目

項目名	変数名	内容	設定の可否
ビジネスプロセス名	BLC_BpName	ビジネスプロセス名	—
作業名	BLC_NodeName	<ul style="list-style-type: none"> ・ "業務ステップ定義名"+"-" (半角ハイフン) +"作業定義名" 	—

5 BLCのカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

項目名	変数名	内容	設定の可否
作業名	BLC_NodeName	<ul style="list-style-type: none"> 申請時は"@Source" 	—
完全作業名	BLC_NodeInstName	<ul style="list-style-type: none"> "業務ステップ名"+"-" (半角ハイフン) +"作業名" 申請時は"@Source" 	—
処理モード	BLC_ProcMode	<ul style="list-style-type: none"> 0 : 帳票一覧から起票します。 1 : 受信ボックスから起票します。 3 : 送信ログから起票します。 そのほかの値 : 今後の拡張用に予約済みです。 	—
案件 ID	BLC_PIID	<ul style="list-style-type: none"> CSCIW の案件 ID 申請時は空文字列 	—
申請 ID	BLC_PIName	<ul style="list-style-type: none"> CSCIW の案件名 申請時だけ CSCIW のシステムでユニークになるようなユーザ指定値に設定できます。 	○
作業 ID	BLC_WIID	<ul style="list-style-type: none"> CSCIW の作業 ID 申請時は空文字列 	—
帳票 ID	BLC_FormID	帳票 ID	—
申請作業 者 ID	BLC_ApplyUID	申請をしたユーザ ID	—
帳票 モジュール 表示種別	BLC_show_<帳票モジュール ID>	<ul style="list-style-type: none"> True : 帳票モジュールを表示します。 False : 帳票モジュールを表示しません。 	—
案件状態	BLC_PISatus	申請時は"処理中", 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の業務完了指示作業で"完了"を設定します。ユーザ追加処理で設定できます。	○
宛先ユーザ	BLC_SendToData	<ul style="list-style-type: none"> 宛先選択ドロップダウンが表示されるときは, HTML 項目種別が"select"。 宛先選択ドロップダウンが表示されないときは, HTML 項目種別が"hidden"となります。 値を設定する場合は, BLC_USER_V ビューに存在するユーザのユーザ ID を設定する必要があります。 	○

(凡例)

— : ユーザが追加できる JavaScript 関数で, 参照だけできます。

○ : ユーザが追加できる JavaScript 関数で, 参照と設定ができます。

項目「作業名」を, JavaScript 関数 alert で表示する場合の指定例を次に示します。

図 5-5 作業名を JavaScript 関数 alert で表示する場合の指定例

```
alert(document.forms[0].BLC_NodeName.value);
```

5.2 BLCDirs クラスに関するカスタマイズ

この節では、BLC 実行環境で行う、BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ、および BLCDirs クラスのカスタマイズを説明します。

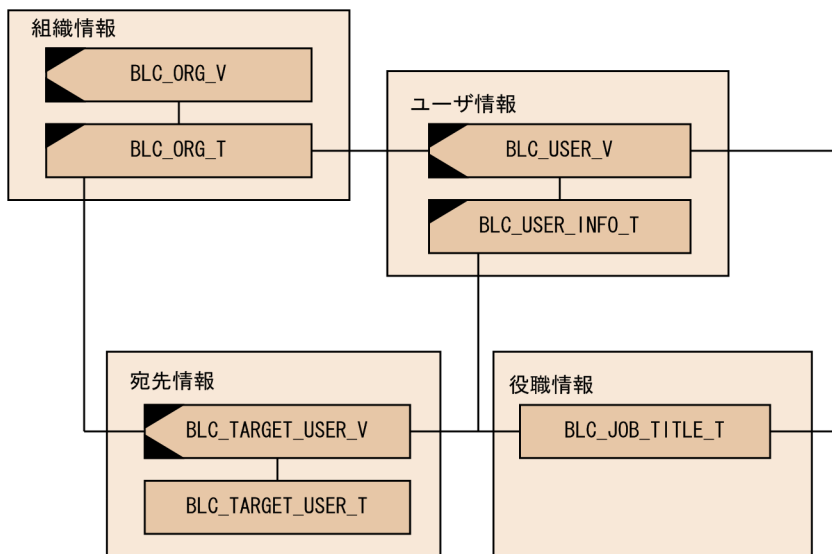
5.2.1 BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ

BLCDirs クラス用データベースでは、図 5-6 に示すテーブルに対して、次のようなカスタマイズができます。




- BLC_ORG_V, BLC_USER_V, および BLC_TARGET_USER_V の場合
ビューにカラムを追加できます。追加したカラムは、BLCDirs のメソッドに引数としてカラム名を指定すると取得できます。
- BLC_ORG_T および BLC_USER_INFO_T の場合
テンプレートテーブルをカスタマイズしたり、テンプレートテーブルの代わりにユーザが作成したテーブルを使用したりできます。図 5-6 を参照して、テンプレートテーブルと関連を持つビューも、合わせて変更する必要があります。

BLCDirs クラス用データベースの構成を次に示します。

図 5-6 BLCDirs クラス用データベース



(凡例)

-  : ビューにカラムを追加するカスタマイズができます。
-  : カスタマイズできません。
-  : テンプレートテーブルをカスタマイズしたり、テンプレートの代わりに、ユーザが作成したテーブルを使用したりします。

注※ 各テーブルおよびビューの詳細は、「付録D.4 BLCDIRSデータベース」を参照してください。

5.2.2 BLCDirs クラスのカスタマイズ

BLCDirs クラスでは、次のようなカスタマイズができます。

- BLCDirs クラスの一部を変更する
BLCDirs クラスを変更する場合、BLCDirs クラスを継承してユーザ独自のクラスを作成します。作成したクラス名は、BLC.BLCproperties ファイルの BLC.Directory_Class キーに記述します。
- BLCDirs クラスを置き換える
ユーザ管理に BLC データベースを使用しないで LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を使用する場合などは、BLCDirs クラスを継承してユーザ独自のクラスを作成します。作成したクラス名は、BLC.BLCproperties ファイルの BLC.Directory_Class パラメタに記述します。この場合、BLCDirs クラスの全メソッドを BLCDirs クラスと同じインタフェースでユーザ作成クラスに実装する必要があります。

BLCDirs クラスのメソッドについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCDirs クラス」の説明を参照してください。

5.3 クライアント表示機能のカスタマイズ

この節では、BLC 実行環境で、クライアント表示機能の BLC のポータル画面をカスタマイズする方法を説明します。BLC では、ポータル画面の構成要素ごとにスタイルの変更、メニューの追加/削除などのカスタマイズができます。

BLC のポータル画面の構成要素については、「4.1 BLC のポータル画面の構成」を参照してください。

なお、ポータルのカスタマイズについては、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

各要素のカスタマイズについて、詳細を次に示します。

5.3.1 ポータルホームのカスタマイズ

ポータルホームの BLC 用のカスタマイズについて説明します。

(1) テンプレート

BLC のポータル画面では、Portal Framework のテンプレートの skyblue を選択して、ポータルホームのタイトル、画像、ユーザ名の表示などをカスタマイズして使用しています。ポータルテンプレートは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
 < BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%portal%template

(2) ナビゲーションビュー

BLC のポータル画面では、次に示すプロパティファイルの項目をコメントアウトし、ナビゲーションビューを使用しないよう設定されています。

- Windows 版の場合
 < Portal Framework のインストールディレクトリ > %conf%PortalResources.properties
 項目：
 jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl.NavigationPortletName

(3) ウェルカムページ

BLC のポータル画面では、次に示すプロパティファイルの項目に "false" を指定し、ウェルカムページを使用しないよう設定されています。

- Windows 版の場合
 < Portal Framework のインストールディレクトリ > %conf%PortalResources.properties
 項目：jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show

(4) デフォルト表示

BLC のポータル画面では、メニューポートレットとワークフローポートレットがデフォルトで表示されます。デフォルト表示を設定するファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

< Portal Framework のインストールディレクトリ > %psml%group%default%homeHTML.psml

(5) ポートレットの幅

BLC のポータル画面では、デフォルトで表示されるポートレットの幅は、2列 (25% : 75%) に設定されています。デフォルト表示を設定するファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

< Portal Framework のインストールディレクトリ > %conf%controllers.xml

5.3.2 メニューポートレットのカスタマイズ

メニューポートレットの BLC 用のカスタマイズについて説明します。メニューポートレットの画面は、Portal Framework のポートレットの形式に従ってカスタマイズしてください。

メニューポートレットの構成ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ : < BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%portal%portlet%blcmenu

デプロイディレクトリ : < Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %adportlets%blcmenu

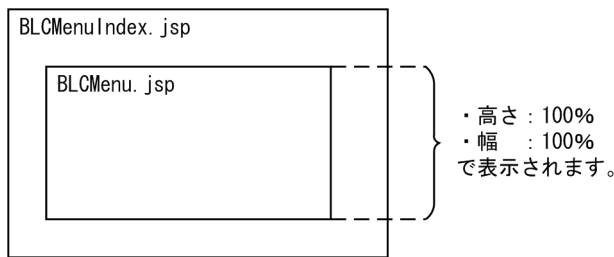
メニューポートレットの構成ファイルを次に示します。

表 5-10 メニューポートレットの構成ファイル

ファイル名またはディレクトリ名	内容	説明
css/blc_mp.css	メニューポートレット用スタイルシート	メニューポートレットで使用するスタイルを定義します。
images	メニューポートレットで使用する画像保管ディレクトリ	メニューのアイコンなどを格納します。
BLCMenuIndex.jsp	ポータルから呼び出される jsp ファイル	ポータルがメニューポートレットを呼び出すときに最初に呼ばれる jsp ファイルです。BLCMenuIndex.jsp ファイルから、メニューポートレットに表示する BLCMenu.jsp ファイルを呼び出します。BLCMenuIndex.jsp ファイルはポータルのポートレットの仕様に従って作成してください。詳しくは、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。
BLCMenu.jsp	メニューポートレットに表示されるメニュー	メニューポートレットに表示されるメニューを HTML で生成します。BLCMenu.jsp ファイルはポータルのポートレットの仕様に従って作成してください。詳しくは、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

(1) 画面の構成

メニューポートレットの画面の構成を次に示します。



(2) ポートレット定義およびパラメタ定義

メニューポートレットのポートレット定義およびパラメタ定義について説明します。

ポートレット定義に指定するタグについて次に示します。なお、詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

表 5-11 メニューポートレットのポートレット定義

タグ名	値	説明
portlet-name	blcmenu	ポートレット名
portlet-type	ref	Portal Framework の仕様のため、常に"ref"を指定
portlet-parent	MultijSP	ポートレットの種類
title lang="ja"※	メニュー	タイトル名 (日本語)
title lang="en"※	Menu	タイトル名 (英語)
description lang="ja"※	電子フォームワークフローのメニューを表示します。	ポートレットの説明 (日本語)
description lang="en"※	Display the workflow window of the Electronic Form Workflow	ポートレットの説明 (英語)
windowtitle lang="言語種別"※	電子フォームワークフロー	ウィンドウのタイトル
config-param	詳細は、「表 5-12 メニューポートレットのパラメタ定義」を参照してください。	
timeout※	300	ポートレットの無応答監視時間
minimize※	—	最小化表示の許可
close※	—	閉じるボタンの許可
maximize※	—	最大化表示の許可
device media="HTML"	下位属性を記述する	デバイス種別単位の情報 HTML: パソコン向けのコンテンツ
url	BLCMenuIndex.jsp	エントリポイント (最初に表示されるページ)

(凡例)

— : 指定しません。

注※

カスタマイズで追加できます。

パラメタ定義に指定するタグについて次に示します。なお、詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

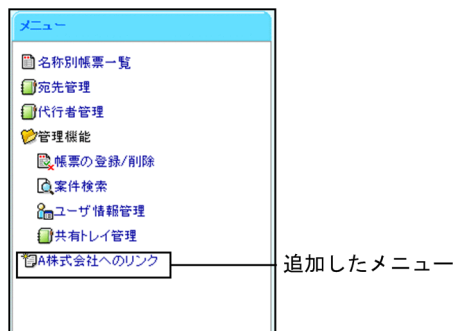
表 5-12 メニューポートレットのパラメタ定義

タグ名	値	説明
hptl.EditMode	false	編集モード
hptl.MinimizeMode	false	ポートレットの最小化ボタンを表示
hptl.CloseMode	false	ポートレットの閉じるボタンを表示
hptl.MaximizeMode	false	ポートレットの最大化ボタンを表示 デフォルト値：true
hptl.NewWindowMode	false	ポートレットの新規ウィンドウを表示

(3) メニューの追加

メニューポートレットに「A 株式会社へのリンク」をメニューとして追加する方法について説明します。

図 5-7 カスタマイズしたメニューポートレット



「A 株式会社へのリンク」メニューの追加

メニューポートレットに「A 株式会社へのリンク」を追加する実装例を次に示します。

```

:
<div class="blc_mp_normal1" onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover1');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal1');" onclick="window.open(<リンク先のURL>
','_sample'); return false;">
A株式会社へのリンク
</div>
:

```

div タグ

メニューを指定します。

メニューの文字列は自由にカスタマイズできます。例では、アイコン、およびメニュー（A 株式会社へのリンク）を表示しています。

class="blc_mp_normal1"

メニューの階層を指定します。次に示す 3 種類のスタイルが指定できます。

- blc_mp_normal1：第 1 階層のリンクのスタイル

- blc_mp_normal1_nolink：第1階層の非リンクのスタイル
- blc_mp_normal2：第2階層のリンクのスタイル

```
onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover1');"

```

マウスポインタがメニュー内を指定した場合のメニューのスタイルを指定します。メソッドの第1引数には「this」以外は指定できません。第2引数には次に示す2種類のスタイルが指定できます。

- blc_mp_mouseover1：第1階層 (class に blc_mp_normal1 を指定した場合) のリンクのスタイル
- blc_mp_mouseover2：第2階層 (class に blc_mp_normal2 を指定した場合) のリンクのスタイル

```
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal1');"

```

マウスポインタがメニュー外へ移動した場合のメニューのスタイルを指定します。メソッドの第1引数には「this」以外は指定できません。第2引数には次に示す2種類のスタイルが指定できます。

- blc_mp_normal1：第1階層 (class に blc_mp_normal1 を指定した場合) のリンクのスタイル
- blc_mp_normal2：第2階層 (class に blc_mp_normal2 を指定した場合) のリンクのスタイル

```
onclick

```

メニューのクリック時に実行する javascript を指定します。onclick に指定する値は自由にカスタマイズできます。例では、URL (<リンク先の URL >) を別ウィンドウに表示する設定を指定しています。

(4) 注意事項

- メニューを選択して起動できるウィンドウは一つだけです。ただし、カスタマイズで追加したメニューについては、複数のウィンドウを起動できるように設定できます。その場合は、十分に検討した上でカスタマイズしてください。
- メニューポートレットの高さは、デフォルトではポータルホームの高さに合わせて表示されるよう JavaScript で動的に指定しています。メニューポートレットの上下にほかのポートレットを表示する場合は、BLCMenuIndex.jsp ファイルの JavaScript メソッド "blc_mp_height" を修正してください。なお、メニューポートレットの上下にほかのポートレットを表示する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

5.3.3 ワークフローポートレットのカスタマイズ

ワークフローポートレットの BLC 用のカスタマイズについて説明します。ワークフローポートレットの画面は、ポータルのポートレット形式に従ってカスタマイズしてください。

ワークフローポートレットの構成ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
 インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%portal%portlet
 %blcworkflow
 デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %adportlets
 %blcmenu

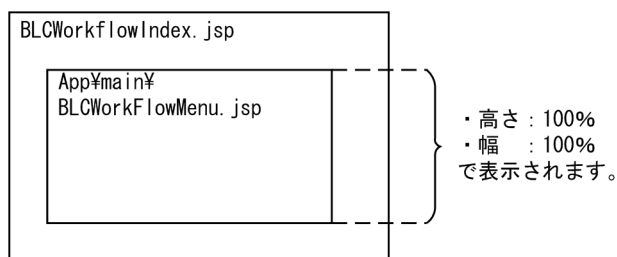
ワークフローポートレットの構成ファイルを次に示します。

表 5-13 ワークフローポートレットの構成ファイル

ファイル名またはディレクトリ名	内容	説明
css/blc_wp.css	ワークフローポートレット用スタイルシート	ワークフローポートレットで使用するスタイルを定義します。
BLCWorkflowIndex.jsp	ポータルから呼び出される jsp ファイル	ポータルがワークフローポートレットを呼び出すときに最初に呼ばれる jsp ファイルです。 BLCWorkflowIndex.jsp ファイルから、ワークフローポートレットに表示する app¥main¥BLCWorkFlowMenu.jsp ファイルを呼び出します。 ポータルのポートレットの仕様に従って作成してください。 詳しくは、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

(1) 画面の構成

ワークフローポートレットの画面の構成を次に示します。



(2) ポートレット定義およびパラメタ定義

ワークフローポートレットのポートレット定義およびパラメタ定義について説明します。

ポートレット定義に指定するタグについて次に示します。なお、詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

表 5-14 ワークフローポートレットのポートレット定義

タグ名	値	説明
portlet-name	blcworkflow	ポートレット名
portlet-type	ref	Portal Framework の仕様のため、常に"ref"を指定
portlet-parent	MultiJSP	ポートレットの種類
title lang="ja"※	ワークフロー	タイトル名 (日本語)
title lang="en"※	Workflow	タイトル名 (英語)
description lang="ja"※	電子フォームワークフローのワークフロー画面を表示します。	ポートレットの説明 (日本語)
description lang="en"※	Display the menu of the Electronic Form Workflow	ポートレットの説明 (英語)

タグ名	値	説明
windowtitle lang="言語種別"※	電子フォームワークフロー	ウィンドウのタイトル
config-param	詳細は、「表 5-15 ワークフローポートレットのパラメタ定義」を参照してください。	
timeout※	300	ポートレットの無応答監視時間
minimize※	—	最小化表示の許可
close※	—	閉じるボタンの許可
maximize※	—	最大化表示の許可
device media="HTML"	下位属性を記述する	デバイス種別単位の情報 HTML: パソコン向けのコンテンツ
url	BLCWorkflowIndex.jsp	エントリポイント (最初に表示されるページ)

(凡例)

—: 指定しません。

注※

カスタマイズで追加できます。

パラメタ定義に指定するタグについて次に示します。なお、詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

表 5-15 ワークフローポートレットのパラメタ定義

タグ名	値	説明
hptl.EditMode	false	編集モード
hptl.MinimizeMode	false	ポートレットの最小化ボタンを表示
hptl.CloseMode	false	ポートレットの閉じるボタンを表示
hptl.MaximizeMode	false	ポートレットの最大化ボタンを表示 デフォルト値: true
hptl.NewWindowMode	false	ポートレットの新規ウィンドウを表示

5.3.4 ワークフローメニュータブのカスタマイズ

ワークフローメニュータブの BLC 用のカスタマイズについて説明します。

ワークフローメニュータブの構成ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ: < BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%main

デプロイディレクトリ: < Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %app%main

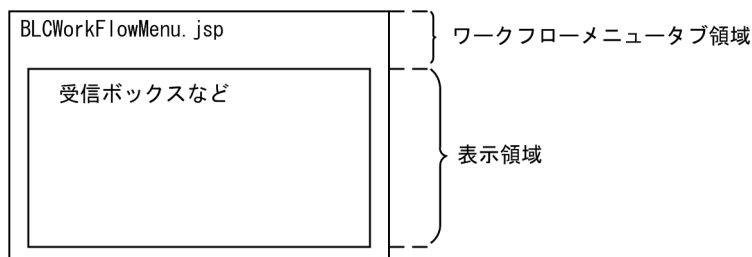
ワークフローメニュータブの構成ファイルを次に示します。

表 5-16 ワークフローメニュータブの構成ファイル

ファイル名	内容	説明
BLCWorkFlowMenu.jsp	ワークフローメニュータブの jsp ファイル	ワークフローメニュータブに表示する HTML を指定します。 タブ以外の表示領域は iframe で表示されます。

(1) 画面の構成

ワークフローメニュータブの画面の構成を次に示します。



(2) 注意事項

拡張受信ボックス、一括承認機能などの機能を使用する場合は、BLCWorkFlowMenu.jsp にタブを指定して使用します。タブの指定方法については、次の個所を参照してください。

- 拡張受信ボックス機能を使用する場合
「17. 拡張受信ボックス機能」
- 一括承認機能を使用する場合
「14. 一括承認機能」

5.3.5 BLC のスタイルシート

BLC のポータル画面の色やスタイルをカスタマイズできる css ファイルについて説明します。BLCDisplayUtil#getCSSPath("blc.css")メソッドを使用して、ブラウザの言語環境に合わせたスタイルシートを指定します。スタイルシートは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%css
デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %app%css

css ファイルを次に示します。

表 5-17 css ファイル

ファイル名	内容	説明
ja/blc.css	日本語用共通	ブラウザの言語に「日本語」が指定された場合のスタイルを定義します。
en/blc.css	日本語以外用共通	ブラウザの言語に「日本語」以外が指定された場合のスタイルを定義します。

ファイル名	内容	説明
blc_category.css	カテゴリ画面	名称別帳票一覧のスタイルを定義します。
blc_common.css	BLC 共通	BLC 共通で使用する body タグなどのスタイルを定義します。
blc_dialog.css	ダイアログ画面	ダイアログ画面 (保管案件検索など) のスタイルを定義します。
blc_error.css	エラー画面	BLC のエラー画面のスタイルを定義します。
blc_list.css	一覧画面	一覧画面 (受信ボックスなど) のスタイルを定義します。
blc_menutab.css	ワークフローメニュータブ	ワークフローメニュータブのスタイルを定義します。
blc_tree.css	組織のツリー画面	組織のツリー表示 (宛先管理画面の組織, [ユーザ情報管理] 画面のツリーエリアに表示される組織など) のスタイルを定義します。

注

body タグを修正する場合は、ブランクページも修正する必要があります。
ブランクページは次のディレクトリに格納されています。
< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%main%BLCblank.html

5.3.6 BLC の javascript ファイル

BLC 共通の javascript ファイルについて説明します。

javascript ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%js

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %app%js

javascript ファイルを次に示します。

表 5-18 javascript ファイル

ファイル名	内容	説明
blc_displaycommon.js	BLC 共通	BLC のポータル画面に表示される一覧画面で、チェックボックスやラジオボタンを選択したときの背景色を定義します。

5.3.7 BLC で起動する画面のサイズ

BLC で起動する画面のサイズを次に示します。

表 5-19 BLC で起動する画面のサイズ

画面	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)
帳票	—	—

画面	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)
帳票 (保管案件)	—	—
[名称別帳票一覧] 画面	900	600
[宛先管理] メニューから起動する画面	650	450
[代行者管理] メニューから起動する画面	650	450
[帳票の登録/削除] メニューから起動する画面	650	450
[案件検索] メニューから起動する画面	650	450
[ユーザ情報管理] メニューから起動する画面	1000	700
[共有トレイ管理] メニューから起動する画面	1000	700

(凡例)

—：帳票のサイズに依存します。

5.4 認証処理機能のカスタマイズ

認証処理は、ポータル認証機能を使用して実行しますが、BLC 内部でも認証情報を保持し、ページごとに BLC 認証確認を実行します。

ユーザが BLC のポータル画面の新規開発、ページの追加などを実行した場合は、BLC 認証の処理を組み込む必要があります。

5.4.1 BLC 認証

BLC 認証は、BLC のポータル画面について定義されている<device>-<url>に指定したエントリポイント (最初に表示されるページ) で、BLC 認証 JSP ファイル「`¥app¥include¥BLCAUTHlogin.inc`」をインクルードすることで実行します。なお、「`¥app¥include¥BLCAUTHlogin.inc`」をインクルードする前に、ポータルの API (PortletInfoBean#initBean) を発行しておく必要があります。

ポータルの API については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

BLC 認証の実行例を次に示します。なお、実行例の中の数字は、説明文の項番と対応しています。

```

<%@ page import="jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.beans.PortletInfoBean" %>
<%@ page import="jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCException" %>
<jsp:useBean id="portletInfo"
class="jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.beans.PortletInfoBean" scope="page"/>
<%
try{
    portletInfo.initBean(request); ●────────────────── 1.
    %><%@ include file="/app/include/BLCAUTHlogin.inc" %> ●────────── 2.
    <%
    //以降にユーザカスタマイズのコーディングを記述 ●────────────────── 3.
    %>
    . . . .

    <%
    } catch ( BLCException exp ){ ●────────────────── 4.
        exp.postResponse (pageContext);
    } %>

```

説明

1. ポータルの API (PortletInfoBean#initBean) を発行します。
2. 「`¥app¥include¥BLCAUTHlogin.inc`」をインクルードします。
3. ユーザカスタマイズ処理のコーディングを記述します。
4. 例外 (BLCException) が発生した場合、「`¥app¥include¥BLCAUTHlogin.inc`」内で例外 (BLCException) が発生するため、エラーページへ遷移します。

注意事項

ポータルの API (PortalUserInfoBean#getId) からユーザ ID が取得できる環境である必要があります。

5.4.2 BLC 認証確認

ページごとに BLC 認証確認の処理が実行されます。

BLC 認証確認の処理の実行例を次に示します。なお、実行例の中の数字は、説明文の項番と対応しています。

```

<%@ page import="jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCInfo" %>
<jsp:useBean class="jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCInfo" id="blc" scope="request" />
<%
try{
    blc.setInfo(application, session, request, response); ●———— 1.
    blc.getAuthenticateObject().checkLoginStatus(); ●———— 2.

//以降にユーザカスタマイズのコーディングを記述 ●———— 3.
%>
. . . .

<%
} catch ( BLCEXception exp ){ ●———— 4.
    exp.postResponse(pageContext);
}%>

```

説明

1. BLCInfo#setInfo を発行します。
2. BLCInfo#getAuthenticateObject から取得したオブジェクトで BLCAuthenticate#checkLoginStatus を発行します。
3. ユーザカスタマイズ処理のコーディングを記述します。
4. 例外 (BLCEXception) が発生した場合、1.および2.の処理で例外 (BLCEXception) が発生するため、エラーページへ遷移します。

5.5 一覧処理機能のカスタマイズ

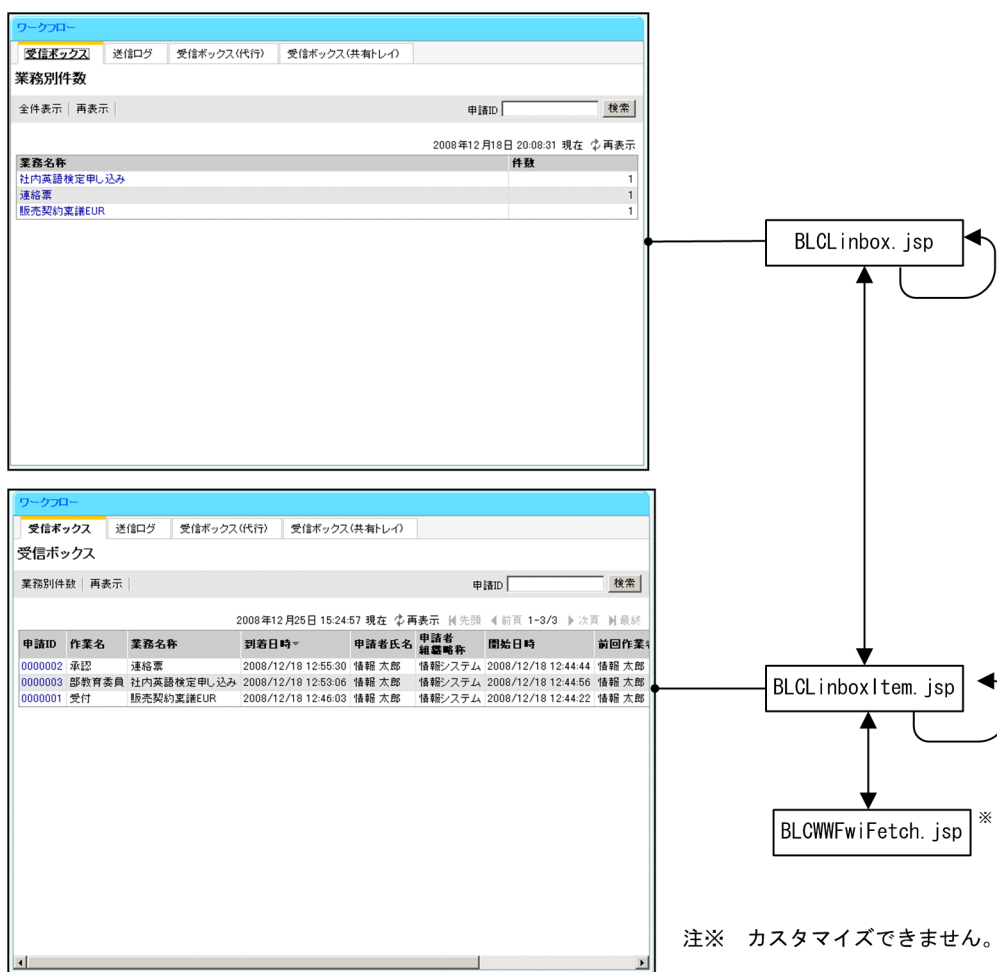
受信ボックスおよび送信ログの表示項目や、表示項目の順序を、JSP ファイルで記述しています。表示項目や、表示項目の順序を変更する場合は、JSP ファイルを編集します。

5.5.1 [受信ボックス] 画面のカスタマイズ

受信ボックスで、表示項目および表示項目の順序を変更する場合、JSP ファイル (BLCLinbox.jsp および BLCLinboxItem.jsp) を編集します。

[受信ボックス] 画面と JSP ファイルの関係を次に示します。

図 5-8 [受信ボックス] 画面と JSP ファイルの関係



(1) BLCLinbox.jsp のカスタマイズ

BLCLinbox.jsp ファイルには、[受信ボックス (業務別件数)] 画面の表示項目が設定されています。BLCLinbox.jsp ファイルは、内容を十分理解した上で、編集してください。

BLCLinbox.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%main

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) >%app%main

(2) BLCLinboxItem.jsp のカスタマイズ

BLCLinboxItem.jsp ファイルには、[受信ボックス] 画面の表示項目が設定されています。

BLCLinboxItem.jsp ファイルは、内容を十分理解した上で、編集してください。なお、帳票を表示するウィンドウは、一つだけしか起動できない仕様になっています。この設定はカスタマイズできません。

BLCLinboxItem.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

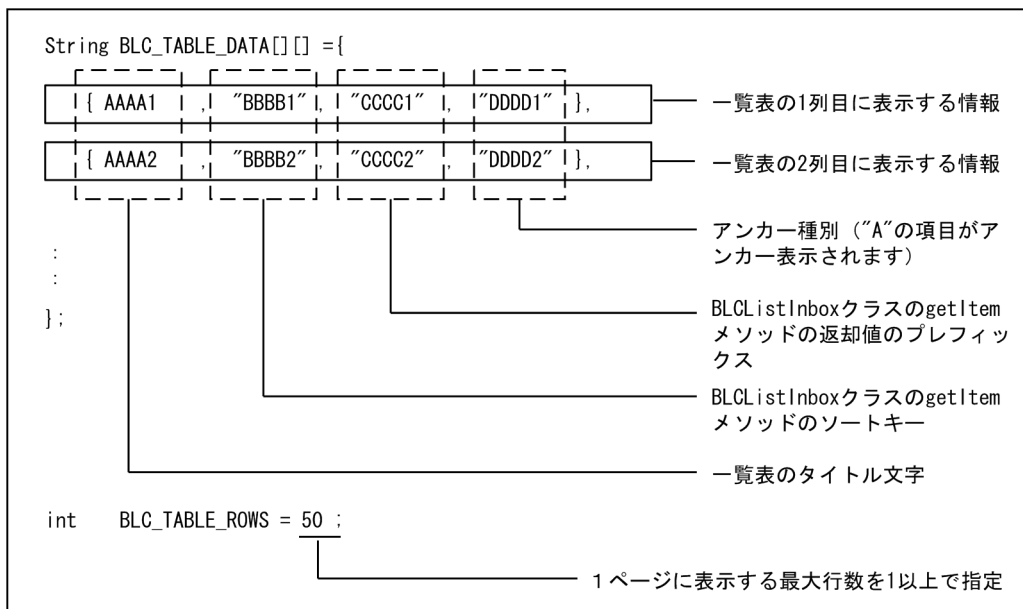
- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ >%blc%webhome%app%main

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) >%app%main

作業の一覧のレイアウトをカスタマイズする例を次に紹介します。作業の一覧のレイアウトは、BLCLinboxItem.jsp ファイルで変数の設定値を変更することで、簡単にカスタマイズできます。

図 5-9 作業の一覧のレイアウトを変更する変数 (BLCLinboxItem.jsp ファイル)



なお、次の例の下線部分のように、行の末尾に値を指定することで、表示、非表示やアンカーの設定ができます。

```
{BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.PINAME) ,"ProcessInstanceName" ,"blc_inbox_nmpi_" ,"A" }
```

指定できる値には次のものがあります。

- - : 画面にテキストで表示します。
- A : 画面にアンカー付きで表示します。
- N : 画面に表示しません。

(a) 表示項目から開始日時の情報を削除する場合

BLCLinboxItem.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数から、次の行を削除します。

図 5-10 開始日時の情報 ([受信ボックス] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "bhc_inbox_dtcreate_", "-" }
```

(b) 表示項目の到着日時と開始日時の表示順を入れ替える場合

BLCInboxItem.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数で、次の行を入れ替えてください。

図 5-11 表示順を入れ替える - 到着日時の情報 ([受信ボックス] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.ARRIVED_TIME), "CreationDate", "bhc_inbox_dtarive_", "-" }
```

図 5-12 表示順を入れ替える - 開始日時の情報 ([受信ボックス] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "bhc_inbox_dtcreate_", "-" }
```

(c) [受信ボックス] 画面の項目を非表示にする場合

BLCInboxItem.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数を次のように変更します。

図 5-13 [受信ボックス] 画面の項目の非表示

```
String BLC_TABLE_DATA[] = {
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.PINAME), "ProcessInstanceName", "bhc_inbox_rmpi_", "A"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.WORK_NAME), "WorkDefinitionName", "bhc_inbox_rmwidef_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BPNAME), "NMBP", "bhc_inbox_rmbp_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.ARRIVED_TIME), "CreationDate", "bhc_inbox_dtarive_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.APPLY_NAME), "NMAPPLICANT", "bhc_inbox_rmaplicant_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.APPLY_ORG), "NMAPPLICANTBELONGTO", "bhc_inbox_abapplicantorg_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "bhc_inbox_dtcreate_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT), "NMBEFOREPARTICIPANT",
        "bhc_inbox_rmbeforeparticipant_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT_BELONGTO), "NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO",
        "bhc_inbox_rmbeforeparticipantbelongto_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT_TIME), "DTUPDATE", "bhc_inbox_dtupdate_", "-"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM1), "NMI ITEM1", "bhc_inbox_rmitem1_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM2), "NMI ITEM2", "bhc_inbox_rmitem2_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM3), "NMI ITEM3", "bhc_inbox_rmitem3_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM4), "NMI ITEM4", "bhc_inbox_rmitem4_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM5), "NMI ITEM5", "bhc_inbox_rmitem5_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM6), "NMI ITEM6", "bhc_inbox_rmitem6_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM7), "NMI ITEM7", "bhc_inbox_rmitem7_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM8), "NMI ITEM8", "bhc_inbox_rmitem8_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM9), "NMI ITEM9", "bhc_inbox_rmitem9_", "N"}
    , {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_ITEM10), "NMI ITEM10", "bhc_inbox_rmitem10_", "N"}
}
```

「N」を設定する

円で囲んだ部分に「N」を設定することで、非表示にします。

(3) [受信ボックス] 画面の項目とデータベースの項目の対応

[受信ボックス] 画面の項目とデータベースの項目の対応を次に示します。

表 5-20 【受信ボックス】画面の項目とデータベースの項目の対応

画面項目	データベース		
	テーブル	項目名	項目 ID
申請 ID	CSCIW を使用して取得	—	ProcessInstanceName
作業名	CSCIW を使用して取得	—	WorkDefinitionName
業務名称	BLC_INBOX_T	ビジネスプロセス名	NMBP
到達日時	CSCIW を使用して取得	—	CreationDate
申請者氏名	BLC_INBOX_T	作業者 ID	NMAPPLICANT
申請者組織略称	BLC_INBOX_T	作業者組織略称	NMAPPLICANTBELONGTO
開始日時	BLC_INBOX_T	開始日時	DTCREATE
前回作業者氏名	BLC_INBOX_T	前回作業者氏名	NMBEFOREPARTICIPANT
前回作業者組織略称	BLC_INBOX_T	前回作業者組織略称	NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO
前回作業日時	BLC_INBOX_T	更新日	DTUPDATE
項目値 1	BLC_INBOX_T	項目値 1	NMITEM1
項目値 2	BLC_INBOX_T	項目値 2	NMITEM2
項目値 3	BLC_INBOX_T	項目値 3	NMITEM3
項目値 4	BLC_INBOX_T	項目値 4	NMITEM4
項目値 5	BLC_INBOX_T	項目値 5	NMITEM5
項目値 6	BLC_INBOX_T	項目値 6	NMITEM6
項目値 7	BLC_INBOX_T	項目値 7	NMITEM7
項目値 8	BLC_INBOX_T	項目値 8	NMITEM8
項目値 9	BLC_INBOX_T	項目値 9	NMITEM9
項目値 10	BLC_INBOX_T	項目値 10	NMITEM10

(凡例)

— : 該当しません。

(4) 【受信ボックス】画面の追加項目の設定方法

【受信ボックス】画面の追加項目を設定する方法を次に説明します。

なお、新規申請/承認などで処理を分けたい場合は、ProcMode を使用します。

(a) 項目値 1～項目値 10 の設定方法

【受信ボックス】画面に、独自の項目を追加できます。例えば、項目値 1 に「至急」や「大至急」などの「至急」属性を追加するといったことができます。

5 BLCのカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

項目値 1 に"至急", 項目値 2 に"15400 円"を設定する場合を例に, 受信ボックステーブルの項目値を設定する方法を次に示します。

BLC 帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//項目値の数を設定します
blse.m_DataValue.put("BLC_AttrNum", "2");
//項目値1-2を設定します
blse.m_DataValue.put("BLC_AttrData1", "至急");
blse.m_DataValue.put("BLC_AttrData2", "15400円");
```

EUR Form 連携帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addEURButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//項目値の数を設定します
befpi.setInfo(befpi.BEF_ATTRNUM, "2");
//項目値1-2を設定します
befpi.setInfo(befpi.BEF_ATTRDATA+"1", "至急");
befpi.setInfo(befpi.BEF_ATTRDATA+"2", "15400円");
```

(b) 前回作業者氏名の設定方法

前回作業者氏名, 前回作業者組織略称, 更新日を更新しない場合を例に, 受信ボックステーブルの前回作業者氏名, 前回作業者組織略称, 更新日を設定する方法を次に示します。

BLC 帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//受信ボックステーブルの前回作業者氏名, 前回作業者組織略称,
//更新日を変更しない場合, 前回作業者変更制御フラグをOFFに設定します。
setBeforeParticipant(BLC_BEFORE_UID_OFF);
```

EUR Form 連携帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addEURButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//受信ボックステーブルの前回作業者氏名, 前回作業者組織略称,
//更新日を変更しない場合, 前回作業者変更制御フラグをOFFに設定します。
setBeforeParticipant(BLC_BEFORE_UID_OFF);
```

(c) 提供ファイル

[受信ボックス] 画面の追加項目を設定するためのサンプルファイルを次に示します。これらのファイルを所定のフォルダにコピーして使用してください。

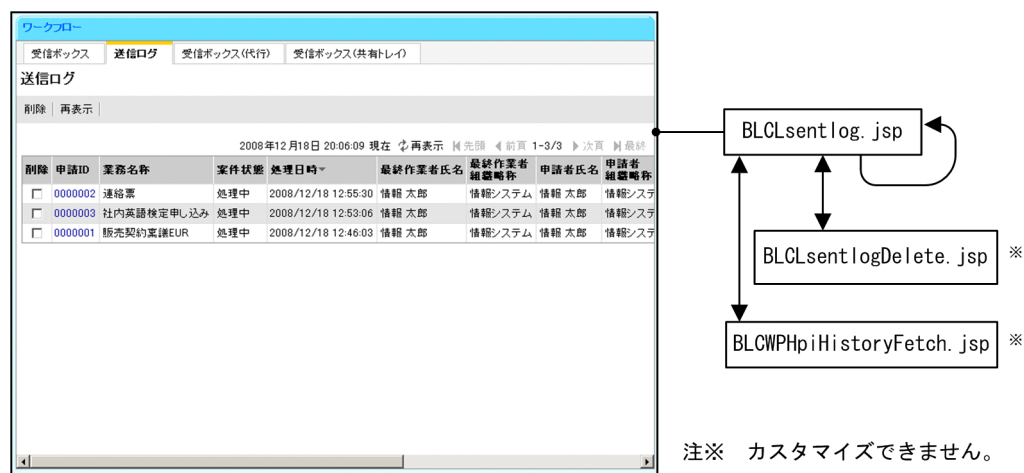
ファイル名	内容
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥webhome¥app¥main¥BLCLinbox.jsp	[受信ボックス (業務別件数)] 画面
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥webhome¥app¥main¥BLCLinboxItem.jsp	[受信ボックス] 画面
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥hirdb¥BLCInbox.txt	HiRDBの受信ボックステーブルのcreate文
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥oracle¥BLCInbox.txt	Oracleの受信ボックステーブルのcreate文
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥sqlserver¥BLCInbox.txt	SQL Serverの受信ボックステーブルのcreate文

5.5.2 [送信ログ] 画面のカスタマイズ

送信ログで、表示項目および表示項目の順序を変更する場合、JSP ファイル (BLCLsentlog.jsp) を編集します。

[送信ログ] 画面と JSP ファイルの関係を次に示します。

図 5-14 [送信ログ] 画面と JSP ファイルの関係



(1) BLCLsentlog.jsp のカスタマイズ

BLCLsentlog.jsp ファイルには、[送信ログ] 画面の表示項目が設定されています。BLCLsentlog.jsp ファイルは、内容を十分理解した上で、編集してください。

BLCLsentlog.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

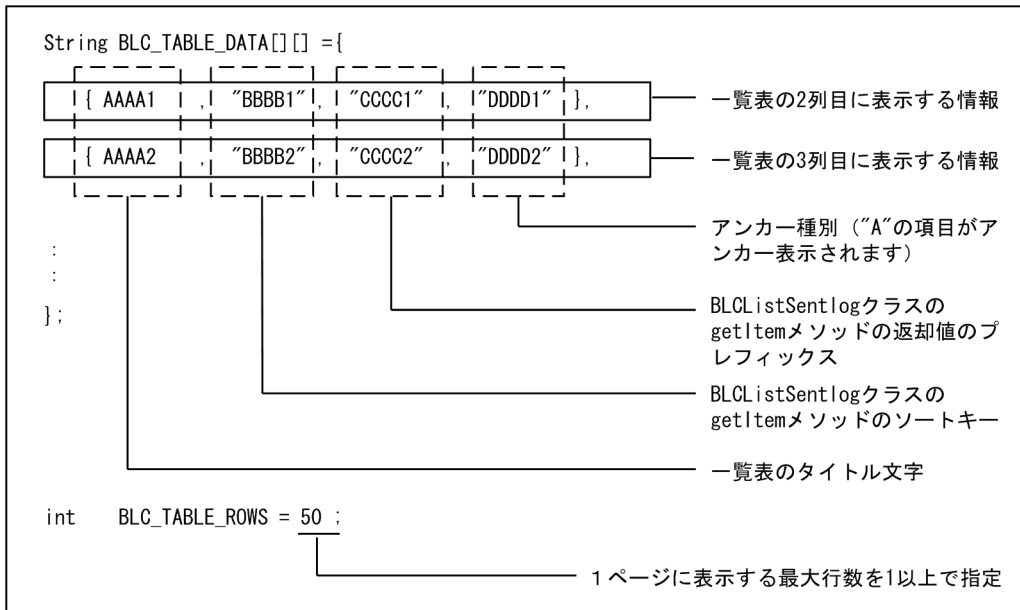
- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥webhome¥app¥main

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) >¥app¥main

送信ログの一覧のレイアウトをカスタマイズする例を次に紹介します。作業の一覧のレイアウトは、BLCLsentlog.jsp ファイルで変数の設定値を変更することで、簡単にカスタマイズできます。

図 5-15 作業の一覧のレイアウトを変更する変数 (BLCLsentlog.jsp ファイル)



なお、次の例の下線部分のように、行の末尾に値を指定することで、表示・非表示やアンカーの設定ができます。

```
{BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.PINAME), "CDPINAME", "blc_sentlog_nmpi_", "A" }
```

指定できる値には次のものがあります。

- - : 画面にテキストで表示します。
- A : 画面にアンカー付きで表示します。
- N : 画面に表示しません。

(a) 表示項目から開始日時の情報を削除する場合

BLCLsentlog.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数から、次の行を削除します。

図 5-16 開始日時の情報 ([送信ログ] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "blc_sentlog_dtcreate_", "-"} }
```

(b) 表示項目の到着日時と開始日時の表示順を入れ替える場合

BLCLsentlog.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数で、次の行を入れ替えてください。

図 5-17 表示順を入れ替える - 到着日時の情報 ([送信ログ] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.COMPLETE_TIME), "DTCOMPLETE", "blc_sentlog_dtcomplete_", "-"} }
```

図 5-18 表示順を入れ替えるー開始日時の情報 ([送信ログ] 画面)

```
, {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "blc_sentlog_dtcreate_", "-"}
```

(c) [送信ログ] 画面の項目を非表示にする場合

BLCsentlog.jsp ファイルの BLC_TABLE_DATA 変数を次のように変更します。

図 5-19 [送信ログ] 画面の項目の非表示

```
String BLC_TABLE_DATA[] = {
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.PINAME), "CDPNAME", "blc_sentlog_rmpi_", "A"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BPNAME), "NMBP", "blc_sentlog_rmbp_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.PSTATUS), "NMSTATUS", "blc_sentlog_rmst_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.COMPLETE_TIME), "DTCOMPLETE", "blc_sentlog_dtcomplete_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.LAST_PARTICIPANT_NAME), "NMPARTICIPANT", "blc_sentlog_rmpar_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.LAST_PARTICIPANT_ORG), "NMPARBELONGTO",
        "blc_sentlog_abparbelongto_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.APPLY_NAME), "NMAPPLICANT", "blc_sentlog_rmapp_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.APPLY_ORG), "NMAPPLICANTBELONGTO", "blc_sentlog_abappbelongto_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.START_TIME), "DTCREATE", "blc_sentlog_dtcreate_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT), "NMBEFOREPARTICIPANT",
        "blc_sentlog_rmbeforeparticipant_", "-"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT_BELONGTO),
        "NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO", "blc_sentlog_rmbeforeparticipantbelongto_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BEFORE_PARTICIPANT_TIME), "DTUPDATE", "blc_sentlog_dtupdate_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM1), "NMI ITEM1", "blc_sentlog_rmiten1_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM2), "NMI ITEM2", "blc_sentlog_rmiten2_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM3), "NMI ITEM3", "blc_sentlog_rmiten3_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM4), "NMI ITEM4", "blc_sentlog_rmiten4_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM5), "NMI ITEM5", "blc_sentlog_rmiten5_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM6), "NMI ITEM6", "blc_sentlog_rmiten6_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM7), "NMI ITEM7", "blc_sentlog_rmiten7_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM8), "NMI ITEM8", "blc_sentlog_rmiten8_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM9), "NMI ITEM9", "blc_sentlog_rmiten9_", "N"},
    {BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SENTLOG_ITEM10), "NMI ITEM10", "blc_sentlog_rmiten10_", "N"}
}
```

「N」を設定する

円で囲んだ部分に「N」を設定することで、非表示にします。

(2) [送信ログ] 画面の項目とデータベースの項目の対応

[送信ログ] 画面の項目とデータベースの項目の対応を次に示します。

表 5-21 [送信ログ] 画面の項目とデータベースの項目の対応

画面項目	データベース		
	テーブル	項目名	項目 ID
申請 ID	BLC_SENTLOG_T	案件名	CDPNAME
業務名称	BLC_INBOX_T	ビジネスプロセス名	NMBP
案件状態	BLC_INBOX_T	案件状態	NMSTATUS
処理日時	BLC_SENTLOG_T	作業日時	DTCOMPLETE
最終作業者氏名	BLC_INBOX_T	作業者 ID	NMPARTICIPANT

画面項目	データベース		
	テーブル	項目名	項目 ID
最終作業組織略称	BLC_INBOX_T	作業組織略称	NMPARBELONGTO
申請者氏名	BLC_INBOX_T	申請者氏名	NMAPPLICANT
申請者組織略称	BLC_INBOX_T	申請者組織略称	NMAPPLICANTBELONGTO
開始日時	BLC_INBOX_T	開始日時	DTCREATE
前回作業者氏名	BLC_INBOX_T	前回作業者氏名	NMBEFOREPARTICIPANT
前回作業組織略称	BLC_INBOX_T	前回作業組織略称	NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO
前回作業日時	BLC_INBOX_T	更新日	DTUPDATE
項目値 1	BLC_SENTLOG_T	項目値 1	NMITEM1
項目値 2	BLC_SENTLOG_T	項目値 2	NMITEM2
項目値 3	BLC_SENTLOG_T	項目値 3	NMITEM3
項目値 4	BLC_SENTLOG_T	項目値 4	NMITEM4
項目値 5	BLC_SENTLOG_T	項目値 5	NMITEM5
項目値 6	BLC_SENTLOG_T	項目値 6	NMITEM6
項目値 7	BLC_SENTLOG_T	項目値 7	NMITEM7
項目値 8	BLC_SENTLOG_T	項目値 8	NMITEM8
項目値 9	BLC_SENTLOG_T	項目値 9	NMITEM9
項目値 10	BLC_SENTLOG_T	項目値 10	NMITEM10

(3) 【送信ログ】画面の追加項目の設定方法

【送信ログ】画面に、独自の項目を追加できます。例えば、項目値 1 に簡単なメモを表示する欄を追加できます。これによって、エンドユーザは、メモ欄に表示された「大阪出張」や「備品購入」などを参考にして、再申請する案件を検索できます。

【送信ログ】画面の追加項目を設定する方法を次に説明します。

なお、新規申請/承認などで処理を分けたい場合は、ProcMode を使用します。

(a) 項目値 1～項目値 10 の設定方法

項目値 1 に"至急", 項目値 2 に"15400 円"を設定する場合を例に、送信ログテーブルの項目値を設定する方法を次に示します。

BLC 帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//項目値の数を設定します
blse.m_DataValue.put("BLC_SENTLOG_AttrNum","2");
//項目値1-2を設定します
blse.m_DataValue.put("BLC_SENTLOG_AttrData1","至急");
blse.m_DataValue.put("BLC_SENTLOG_AttrData2","15400円");
```

EUR Form 連携帳票の場合

呼び出し場所

ユーザ追加処理のボタン DB 更新前処理 (ufsv_addEURButtonPreparation)

呼び出し方法

```
//項目値の数を設定します
befpi.setInfo(befpi.BEF_SENTLOG_ATTRNUM,"2");
//項目値1-2を設定します
befpi.setInfo(befpi.BEF_SENTLOG_ATTRDATA+"1","至急");
befpi.setInfo(befpi.BEF_SENTLOG_ATTRDATA+"2","15400円");
```

(b) 一括承認機能を使用した場合の項目値 1～項目値 10 の設定方法

項目値 1 に"至急", 項目値 2 に"15400 円"を設定する場合を例に, 一括承認機能を使用した送信ログテーブルの項目値を設定する方法を次に示します。

なお, 承認機能を使用できる帳票は, EUR Form 連携帳票の場合だけです。

呼び出し場所

BLCWWFwiBCSample.jsp

呼び出し方法

```
//送信ログテーブルの項目値の数を設定します
BLC_FormData.put("BLC_SENTLOG_AttrNum","2");
//送信ログテーブルの項目値1-2を設定します。
BLC_FormData.put("BLC_SENTLOG_AttrData1","至急");
BLC_FormData.put("BLC_SENTLOG_AttrData2","15400円");
```

(c) 提供ファイル

[送信ログ] 画面の追加項目を設定するためのサンプルファイルを次に示します。これらのファイルを所定のフォルダにコピーして使用してください。

ファイル名	内容
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥webhome¥app¥main¥BLCLsentlog.jsp	[送信ログ] 画面
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥hirdb¥BLCLsentlog.txt	HiRDB の送信ログテーブルの create 文
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥oracle¥BLCLsentlog.txt	Oracle の送信ログテーブルの create 文
<BLC2のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥sqlserver¥BLCLsentlog.txt	SQL Server の送信ログテーブルの create 文

(4) 任意のユーザの案件履歴からの内容確認

ログインユーザ以外のユーザの案件を表示する送信ログを作成すると、送信ログから [案件履歴] 画面を表示させ、そこから内容確認画面を表示させることができます。この場合、内容確認画面は現在の最終処理ノードの状態が表示されます。

このカスタマイズによって、例えばある課のすべての案件を監視するようなユーザアプリケーションを作成した場合、管理者は案件の内容まで確認できるようになります。

5.6 プロパティファイルのカスタマイズ

この節では、BLC で提供する、BLC プロパティファイル、メッセージプロパティファイル、およびストリングリソースプロパティファイルをカスタマイズする方法を説明します。

5.6.1 BLC プロパティファイルのカスタマイズ

BLC プロパティファイルは、BLC 実行環境のシステム動作についてカスタマイズするファイルです。

BLC プロパティファイルについては、「付録 E.1 BLC プロパティファイル」を参照してください。

5.6.2 メッセージプロパティファイルのカスタマイズ

メッセージプロパティファイルは、BLC 実行環境で発生する、BLC メッセージ内容、および表示テキストをカスタマイズするファイルです。テキストを変更する場合は、BLC システムが出力するメッセージの要因および対処を十分理解した上で、カスタマイズしてください。テキストを追加する場合は、50000～59999 の範囲で指定してください。

メッセージプロパティファイルの構成を次に示します。

カスタマイズを行う前に、メッセージプロパティファイルをバックアップ用に、コピーしておいてください。

(1) ファイル名と格納先

メッセージプロパティファイルのファイル名は、「BLCmessage.properties」です。

BLCmessage.properties ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf

(2) 書式

メッセージプロパティファイル内の記述形式を次に示します。

Message Id = Message Text

Message Id

メッセージ識別コードです。「付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ」のエラーメッセージの番号（「KDLC nnnn-Z」の「nnnn」、または「KDLC nnnnn-Z」の「nnnnn」）と同じです。ユーザ任意の ID を新規に付加してメッセージテキストを登録する場合は、次の範囲で ID を登録してください。

- 1～9999：システムで予約されています。
- 10000～49999：関連製品で予約されています。
- 50000～59999：ユーザが任意に使えます。

Message Text

メッセージテキストです。テキスト中の"%s"（半角 2 バイト）は、埋め字として処理されます。入力する文字は、基本的に全角文字を使用し、"、"や"。"などの記号も全角を使用します。半角かたかなおよび半角記号は、なるべく使用しないでください。

Message Id と Message Text は, "=" (半角) で区切ります。Message Text 部に "=" が含まれていても, テキストの一部と解釈され, 区切りの "=" とはみなされません。また, 区切りの "=" の前後に半角スペースが入力されている場合は無視されますが, Message Text 部に半角スペースを入力した場合は有効となります。ただし, Message Text 部に半角スペースを連続して入力した場合は, ブラウザによって無視されることがあります。

(3) カスタマイズの手順

メッセージプロパティファイルは, Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルである必要があります。

メッセージプロパティファイルのカスタマイズする場合, 一度ネイティブコードのテキストファイルに変換し, テキストファイルを編集します。編集したテキストファイルを Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルに変換すると, 編集した内容が有効になります。

変換には, Cosminexus に付属の JDK コマンド (native2ascii コマンド) を使用します。native2ascii コマンドの実行例を次に示します。

操作手順

1. BLC で提供するメッセージプロパティファイル (BLCmessage.properties) を, ネイティブコードのテキストファイル (BLCmessage.txt) に変換します。

```
native2ascii -reverse BLCmessage.properties > BLCmessage.txt
```

2. ネイティブコードのテキストファイル (BLCmessage.txt) の内容を編集します。
3. 編集したネイティブコードのテキストファイル (BLCmessage.txt) を, Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルに変換します。

```
native2ascii -encoding Shift_JIS BLCmessage.txt > BLCmessage.properties
```

(4) 注意事項

- 既存メッセージの ID (キー名) は変更しないでください。
- 埋め字の数を変更した場合, 表示内容は保証されません。
- メッセージ要因 (エラー要因) を十分把握してください。
- 登録したメッセージ識別コードを, BLC の JSP ページカスタマイズおよび Java クラス拡張で扱う場合は, BLCException クラスの getUserException メソッドを使って BLC 例外オブジェクトを構築してください。BLCException クラスおよび getUserException メソッドについては, マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCException クラス」の説明を参照してください。
- ユーザ任意のメッセージ識別コードで BLC 例外オブジェクトを構築した場合, メッセージ ID は「KDLcnnnnn-U」で, 登録されたメッセージテキストがトレースに出力されます。また, BLC 標準エラーページには, メッセージ識別コードおよびメッセージテキストが表示されます。

5.6.3 スtringリソースプロパティファイルのカスタマイズ

Stringリソースプロパティファイルは、BLC 実行環境の各ページで表示するテキストリソースをカスタマイズするファイルです。テキストリソースの用途を十分理解した上で、カスタマイズしてください。

Stringリソースの一覧は、「付録 E.2 Stringリソースプロパティファイル」を参照してください。

Stringリソースプロパティファイルの構成を次に示します。

カスタマイズする前に、Stringリソースプロパティファイルをバックアップ用に、コピーしておいてください。

Stringリソースの取得は、BLCSTRPortal クラスのメソッドを使用します。BLCSTRPortal クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCSTRPortal クラス」の説明を参照してください。

(1) ファイル名と格納先

Stringリソースプロパティファイルのファイル名は、「BLCstringResourcePortal.properties」です。BLCstringResourcePortal.properties ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
 <BLC2 のインストールディレクトリ>*conf

(2) 書式

Stringリソースプロパティファイル内の記述形式を次に示します。

Id = Resource Text

Id

識別コードです。ユーザ任意の ID を新規に付けてリソーステキストを登録する場合は、次の範囲で ID を登録してください。

- 1~9999：システムで予約されています。
- 10000~49999：関連製品で予約されています。
- 50000~59999：ユーザが任意に使えます。

Resource Text

BLC で管理するテキストリソースです。埋め字は"%s" (半角 2 バイト) で表現します。入力する文字に半角記号を使用すると、HTML エンコードが必要となる場合があります。HTML エンコード用のメソッドは共通クラス (BLCCommon クラス) で提供しています。

Id と Resource Text は、"=" (半角) で区切ります。Resource Text 部に"="が含まれていても、テキストの一部と解釈され、区切りの"="とはみなされません。また、区切りの"="の前後に半角スペースが入力されている場合は無視されますが、Resource Text 部に半角スペースを入力した場合は有効となります。ただし、Resource Text 部に半角スペースを連続して入力した場合は、ブラウザによって無視されることがあります。

共通クラス (BLCCommon クラス) で提供するメソッドを使用すると、半角スペースを HTML エンコードできます。ただし、HTML エンコードした場合、ブラウザから印刷した結果に問題が確認されています。半角スペースの HTML エンコードは、BLC プロパティファイルでオプション化できます。BLC プロパティファイルについては、「付録 E.1 BLC プロパティファイル」を参照してください。

(3) カスタマイズの手順

ストリングリソースプロパティファイルは、Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルである必要があります。

ストリングリソースプロパティファイルをカスタマイズする場合、一度ネイティブコードのテキストファイルに変換し、テキストファイルを編集します。編集したテキストファイルを Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルに変換すると、編集した内容が有効になります。

変換には、Cosminexus に付属の JDK コマンド (native2ascii コマンド) を使用します。native2ascii コマンドの実行例を次に示します。

操作手順

1. BLC で提供するストリングリソースプロパティファイル (BLCstringResourcePortal.properties) を、ネイティブコードのテキストファイル (BLCstringResourcePortal.txt) に変換します。

```
native2ascii -reverse BLCstringResourcePortal.properties > BLCstringResourcePortal.txt
```

2. ネイティブコードのテキストファイル (BLCstringResourcePortal.txt) の内容を編集します。
3. 編集したネイティブコードのテキストファイル (BLCstringResourcePortal.txt) を、Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルに変換します。

```
native2ascii -encoding Shift_JIS BLCstringResourcePortal.txt >
BLCstringResourcePortal.properties
```

(4) 注意事項

- 既存の ID (キー名) は変更しないでください。
- 埋め字の数は変更しないでください。
- 指定できる時間フォーマットは、Java の SimpleDateFormat クラスで定義される日付時刻パターン文字列としてください。
- テキストリソースを空値で指定したい場合は、"¥" (半角) + " " (半角スペース) を指定してください。
- テキストリソースの用途、使用範囲を十分把握してください。
- ブラウザのタイトルバーに表示されるタイトルや、JavaScript の alert() メソッドなどで使用するテキストリソースには、HTML のタグを記述できません。BODY タグの中で使用されるテキストリソースにだけ、HTML のタグを記述できます。ただし、タグ属性 (ボタン名など) として使用するテキストリソースには、HTML のタグを記述できません。
- テキストリソースには、半角英数字または 2 バイト文字コード以外の文字コードを入力しないでください。

5.7 エラー情報表示ページのカスタマイズ

BLC 実行環境でエラー発生時に表示される、エラー情報表示ページをカスタマイズする方法を説明します。

例として、保管案件の検索時にエラーが発生した場合のエラー情報表示ページを次に示します。

図 5-20 エラー情報表示ページの例 (保管案件の検索時のエラー)



5.7.1 BLC 例外

すべての BLC ページでは、BLC のメソッドを実行する場合は、BLC 例外 (BLCEXception) のスローキャッチを実装します。BLC 例外が発生した場合は、BLCEXception オブジェクトを使用して、必要な情報を取得できます。また、エラー情報表示ページへフォワードするメソッドも提供しています。

BLCException については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCException クラス」の説明を参照してください。

5.7.2 エラー情報表示ページ

エラー情報ページは、次のファイルから構成されています。

BLCCError.jsp ファイル

エラーメッセージを表示します。また、エラー詳細画面を表示する [エラー詳細] ボタンおよび [閉じる] ボタンを表示します。

BLCCerrinfo.jsp ファイル

エラー詳細情報を表示します。テンプレートでは、メッセージ、例外区分コード、およびスタックトレースの情報を表示します。また、[閉じる] ボタンを表示します。

BLCCError.jsp と BLCCerrinfo.jsp のページ間は、JavaScript を利用して情報を引き継いでいます。現状の動作を十分理解した上で、カスタマイズしてください。

5.8 そのほかのカスタマイズ

この節では、5.7 節までに取り上げた以外のカスタマイズについて紹介します。

カスタマイズで利用する API の詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

5.8.1 案件履歴の追加 (BLCDBFormDataHistoryOperation クラス, BLCDBPIHistoryElement クラス)

案件履歴の追加として、次のようなカスタマイズができます。

- システム連携で、CSCIW の案件処理を行った履歴を BLC の案件履歴に追加する。
- 代行振り替えて、案件を振り替えた履歴を BLC の案件履歴に追加する。

カスタマイズ方法

案件履歴を追加する方法を次に示します。

1. 案件履歴項目オブジェクト (BLCDBPIHistoryElement オブジェクト) を生成し、案件履歴情報を設定します。
2. DB アクセスオブジェクト (BLCDBAccess) を生成し、オープンします。
3. 申請 ID, DB アクセスオブジェクトを引数として、DBFormDataOperation オブジェクトを生成します。
4. 案件履歴項目オブジェクトを引数として、addHistory メソッドを実行します。
5. DB アクセスオブジェクトに対して、コネクション決着, クローズを実行します。

案件履歴項目として、BLCDBPIHistoryElement クラスのオブジェクトに設定する値を次に示します。

表 5-22 案件履歴項目として設定する値

設定項目	【案件履歴】画面表示	設定メソッド	説明
作業 ID	なし	—	BLCDBPIHistoryElement クラスのコンストラクタの引数として指定する。
作業日付	あり	setdate	YYYYMMDDHHMMSS の形式
作業名	あり	setwinm	申請の場合 設定しない。または空文字列を指定する。 申請以外の場合 作業名は必ず設定する。作業名が設定されていない場合 (空文字列の場合), 案件履歴の画面で作業名が「申請者」として表示される。
実行処理 ID	あり*	setexeid	BLC の申請/承認処理では、ボタン ID を設定する。
実行処理名	あり	setexenm	BLC の申請/承認処理では、ボタン名称を設定する。
業務ステップ名	あり	setactdef	—
作業者 ID	なし	setparid	—

5 BLCのカスタマイズ方法 (BLC 帳票の場合)

設定項目	[案件履歴] 画面表示	設定メソッド	説明
作業者名	あり	setparnm	—
作業者組織略称	あり	setparblg	—
業務ステップ定義名	なし	setactdefname	CSCIW の業務ステップ定義名を指定する。
作業定義名	なし	setwidefname	CSCIW の業務作業定義名を指定する。
案件履歴の表示属性	あり	setDisplayattr	案件履歴表示時に表示の対象: "disp" (必ずこの値を設定すること)
案件履歴の有効性	あり	setvalidity	案件履歴から最終処理ノードを検索する際に、その案件履歴が有効である: "valid" (必ずこの値を設定すること)

(凡例)

—: 該当しません。

注※

案件履歴項目の実行処理 ID の値によって、実行処理名の左側に表示する画像 (矢印) が変更されます。この画像の変更は、カスタマイズの対象外です。

矢印の色と実行処理 ID の対応を次に示します。

処理	矢印の色	実行処理 ID
却下	黄	"ID_REJECT"(BLCFormButton. BTNID_REJECT)
破棄	赤	"ID_DESTRUCTION"(BLCFormButton. BTNID_DESTRUCTION)
引戻	水	"ID_TAKEBACK"(BLCFormButton. BTNID_TAKEBACK)
上記以外	青	上記以外

注意事項

画面の表示項目は設定値の文字列がそのまま表示されるため、文字列が長過ぎると表示が乱れる場合があります。設定される文字列の最大長で実際に画面に表示させ、確認する必要があります。

5.8.2 ユーザアプリケーションからの申請 (BLCWFPIStart クラス)

ユーザアプリケーションなど BLC 帳票の画面以外から案件を投入するようカスタマイズできます。これによって、案件投入 (申請) はシステムのバッチ処理で一括申請し、承認など申請よりあとの作業は、帳票画面で行うということができます。例えば、次のようなカスタマイズができます。

- FAX で送られた情報を添付ファイルとしてデータベースへ保管する。
一定の間隔でそのデータベースを参照し、自動的に案件を申請するユーザアプリケーションを作成する。
- 既存の入力業務でデータベースへデータを格納する。
一定の間隔でそのデータベースを参照し、自動的に案件を申請するユーザアプリケーションを作成する。

カスタマイズ方法

ユーザアプリケーションなどから案件を投入できるようにする方法を次に示します。

1. 実行情報オブジェクト (BLCInfo) を生成し、ユーティリティ専用の BLC 初期化処理 (BLCInfo#initUtil) を実行します。
2. DB アクセスオブジェクト (BLCDBAccess) を生成し、オープンします。
3. ユーザの業務 DB へのアクセス処理を行います。
トランザクションの決着は start メソッド内で行います。
4. BLCValDic クラスのインスタンスを生成します。
5. BLCValDic クラスの put メソッドなどを利用して、BLCValDic に対して案件の情報を設定します。
6. DB アクセスオブジェクト、申請者 ID、および BLCValDic を引数として、start メソッドを実行します。
start メソッド内でエラーがあった場合は、BLC 例外をスローします。このとき、rollback は start メソッド内で行うため、ユーザが rollback 処理を作成する必要はありません。
7. ユティリティ専用の BLC 終了処理 (BLCInfo#finalUtil) を実行します。

帳票データについては、次の方法で設定します。

- 承認時の帳票前処理で設定し、帳票表示する。

次にサンプルで提供している、販売契約稟議 EUR 帳票をベースにしたアプリケーション名が”UPApply”の場合の実装例を示します。

```
public static void main( String args[] ) throws BLCEXception {

    BLCInfo info = null;
    BLCDBAccess db = null;

    String l_userID = "A02203"; // UP申請者
    String l_SendToData = "A02202"; // 宛先設定

    try {
        // BLCInfoクラスオブジェクトを構築
        info = new BLCInfo();
        // ユティリティ専用のBLC初期化処理
        info.initUtil( "UPApply", "UPApply" );
        // BLCDBAccessクラスオブジェクトを構築
        db = new BLCDBAccess( "BLCMaster" );
        // BLCValDicクラスオブジェクトを構築
        BLCValDic upFormData = new BLCValDic();

        // 案件情報の設定
        // ビジネスプロセス名称
        upFormData.put("BLC_BpName", "販売契約稟議EUR");
        // 帳票ID
        upFormData.put("BLC_FormID", "SampleConsultationEUR");
        // 帳票バージョン
        upFormData.put("BLC_FormVer", "1");
        // 帳票のファイル名
        upFormData.put("BLC_StartForm",
            "/form/Hitachi/SampleConsultationEUR/SampleConsultationEUR_1.jsp");
        // 案件の処理期限
        upFormData.put("BLC_PILimit", "20201231235959");
        // 案件状態名 (任意の文字列)
        upFormData.put("BLC_PIStatus", "処理中");
        // 次の作業の作業者ID
        upFormData.put("BLC_SendToData", l_SendToData);
        // 帳票属性項目値の上限 (帳票属性がなければ0)
        upFormData.put("BLC_AttrNum", "10");
        // 帳票モジュールプレフィックス
        upFormData.put("BLC_MdlList", "mBLCEUR");
        // ボタン名
        upFormData.put("BLC_AcceptMode", "UP申請");
        // ボタンID
        upFormData.put("BLC_AcceptID", "UPSTART");
        // forward先URL
        upFormData.put("BLC_CloseObj", " ");
    }
}
```

```

// データベースに接続
db.open();
// BLCWFPIStartオブジェクトを構築
BLCWFPIStart upStart = new BLCWFPIStart();

// 案件を申請
upStart.start(db, l_userID, upFormData);

} catch ( BLCException exp ) {
    System.out.println( exp.getMessageIdText() + exp.getMessageText() );
} catch ( Exception exp ) {
    System.out.println( "UserProgram Exception=" + exp );
} catch ( Throwable exp ) {
    System.out.println( "UserProgram Throwable=" + exp );
} finally {
    try {
        // データベースの切断
        db.close();
    } catch ( BLCException exp ) {
    }
    // ユティリティ専用のBLC終了処理
    info.finalUtil();
}
}

```

環境設定

UP 申請を使用する場合の環境設定について次に記載します。

1. 環境変数の設定

次の環境変数を設定します。

表 5-23 環境変数

#	変数名	変数値
1	COSMINEXUS_HOME	< Cosminexus インストールディレクトリ >
2	CSCIW_HOME	< CSCIW インストールディレクトリ >
3	BLC2_HOME	< BLC2 インストールディレクトリ >

2. UP 申請用プロパティファイルの作成

BLC.BLCproperties ファイルをコピーして、<アプリケーション名>.BLCproperties を作成します。

<例>

アプリケーション名が” UPApply” で HiRDB を使用する場合の設定例を次に示します。

ファイル名: %BLC2_HOME%\conf\UPApply.BLCproperties

```

TracePath = C:\Program Files\HITACHI\BPM2\Logs
TraceFileNum = 2
TraceFileSize = 20971520
TraceLevel = 20
TraceEncoding=Shift_JIS

```

```

BLCMASTER.driv = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver
BLCMASTER.url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=22200,DBHOST=<接続先ホスト名>, ENCODELANG=MS932

```

```

BLCMASTER.method = direct
BLCMASTER.properties = user=BLC,password=BLC
BLCMASTER.name = java:comp/env/BLC

```

```

RequestDataEncode = Shift_JIS
TimeZone = GMT+09:00

```

3. 実行時のクラスパス設定

cjclstartap コマンドの-classpath 引数に次の表に示す設定値を指定します。

注 cjcstartap コマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバリファレンス コマンド編」を参照してください。

表 5-24 クラスパス設定値

#	設定値	備考
1	%BLC2_HOME%#conf	classpath の先頭に記載します。
2	%BLC2_HOME%#bcl#lib#bcl.jar	
3	%CSCIW_HOME%#lib%#CSCIW_HOME%#lib#cscliw.jar	
4	%COSMINEXUS_HOME%#CC#lib#hitj2ee.jar	
5	C:#Program Files#HITACHI#HNTRLib2#classes#hnrLib2j.jar※1	
6	<HiRDBインストールディレクトリ>#CLIENT#UTIL#pdjdbc2.jar※2	HiRDB を使用する場合
7	<Oracleインストールディレクトリ>#jdbc#lib#ojdbc6.jar※2	Oracle 11g を使用する場合
8	<SQL Server JDBC Driver インストールディレクトリ>#sqljdbc_<バージョン>#<言語>#sqljdbc4.jar※2	SQL Server を使用する場合

注※1

システムドライブが C ドライブの場合の例を記載しています。

注※2

JDBC ドライバの格納フォルダはデータベースのインストール先によって変わるため使用するデータベースのインストール先を参照してください。

注意事項

ユーザアプリケーションからの申請機能を利用して案件を投入し、帳票データが存在しない案件は、次の操作ができません。

- [案件履歴] 画面から内容確認画面を表示できません。この場合、KDLC1271-E のメッセージが表示されます。
- [案件履歴] 画面から「送信ログからの申請」はできません。この場合、KDLC1271-E のメッセージが表示されます。
- CSCIW の API を使用する業務アプリケーションを作成する場合は、BLC の API を使用する場合と同様の手順で初期化したあと、BLCInfo#getCIWFactory() を使用して、CIWFactory インスタンスを取得するようにします。
BLC で使用する CSCIW の初期化および CIWFactory インスタンスは BLCInfo クラスで管理するため、CSCIW の初期化メソッドである CIWAdmin#initializeCIWFactory および CIWFactory#getInstance は BLC の業務アプリケーションから呼び出さないでください。
CSCIW の API の詳細は、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow AP 開発ガイド」を参照してください。
- バッチ処理から J2EE サーバ上の JSP を動作させる場合には、初期化処理に (BLCInfo#setInfo メソッド) を使用してください。ユーティリティ専用 BLC 初期化処理 (BLCInfo#initUtil メソッド)

を使用すると、J2EE サーバ上のメッセージリソース情報がユーティリティ用メッセージリソースに上書きされてしまい、エラーが発生します。

- ユティリティ専用 BLC 初期化処理 (BLCInfo#initUtil メソッド) を使用する場合には、パラメータには” BLC” 以外の名称を指定して、バッチのトレースと J2EE のトレースを分けてください。

5.8.3 宛先の未指定のチェック

「申請/承認処理時に宛先が指定されているか」について「チェックする / チェックしない」を指定できません。

カスタマイズ方法

申請/承認処理時に宛先が指定されているかのチェックの指定は、BLC プロパティファイルの CheckSendToData キーで設定します。CheckSendToData キーの詳細は、「付録 E.1(4) プロパティ情報一覧」を参照してください。

なお、次の場合は、「チェックしない」を設定する必要があります。

1. ユーザが帳票のプルダウンメニューから宛先を選択しない場合
(例) 宛先が固定で決まっている場合、ユーザ追加処理で設定する場合
2. 1.に加え、振り分けルールの参照カラムを BLC_INBOX_T テーブルの CDPARTICIPANT 以外に設定している場合
1.だけの場合は、ユーザ追加処理 (ボタン DB 更新前処理) で、BLC_SendToData に値を設定する方法を推奨します。

BLC_SendToData に値を設定しない場合は、次の影響があります。

- 受信ボックステーブルの CDPARTICIPANT, NMPARTICIPANT および NMPARBELONGTO のカラムに値が設定されません。
CSCIW の振り分けルールが CDPARTICIPANT カラムを利用している場合、CSCIW の案件操作でエラーとなります (BLSG が提供する振り分けルールのサンプル (sample_rule.hcx) がこれに該当します)。
- [送信ログ] 画面の最終作業員氏名および最終作業員組織略称に値が表示されません。

申請/承認処理時のチェックの指定は、次のようにカスタマイズすることを推奨します。

- 宛先をユーザが選択する場合、クライアント側でチェックする処理を実装する
- 宛先をサーバ側 (ユーザ追加処理) で設定する場合、ユーザ追加処理内で、未指定となった場合の例外処理を実装する

次の場合は、BLC_SendToData の設定を省略できます。

- [送信ログ] 画面で最終作業員氏名および最終作業員組織略称を表示しない場合
- 振り分けルールで BLC_INBOX_T テーブルの CDPARTICIPANT カラムの値を使用しない場合

独自の振り分けルールを使用する場合は、最終作業員氏名および最終作業員組織略称の値を正しく表示するためのカスタマイズが必要になります。CDPARTICIPANT などに正しい情報を設定しないと正しく表示されません。このため、上記の場合をよく検討してください。

5.8.4 メールの送信 (BLCMail クラス)

メール連携機能を使用して、案件がワークフローのノードを移動するときに次の作業担当者に対してメールが送信されるようカスタマイズできます。帳票画面で申請、承認、または差し戻しなどの操作を実行した場合にメールが送信されます。

なお、メール連携機能はボタン DB 更新処理を実行したあとで実装することを推奨します。

カスタマイズ方法

メール連携機能を実装する前に、メールサーバ (SMTP サーバ) を設定してください。メールサーバ (SMTP サーバ) は、「<BLC2 のインストールディレクトリ>%conf」の下にある BLC プロパティファイル (BLC.BLCproperties) に、次に示すプロパティを追加して設定します。

```
MailSMTPHost=<メールを送信するSMTPサーバのホスト名またはIPアドレス>
MailSMTPPort=<メールを送信するSMTPサーバのポート番号>
```

BLC プロパティファイル (BLC.BLCproperties) については、「付録 E.1 BLC プロパティファイル」を参照してください。

実装例

メール連携機能の実装例を次に示します。

なお、次の例ではメールの件名および本文 (斜体部分) はリソースファイルから取得しています。

```
try{
    BLCMail blcMail = new BLCMail();
    //送信元ユーザID
    String l_strUserId = blse.blc.authenticateObject().getUserId();
    //送信先ユーザID
    String[] l_strSendUserId = {blse.m_DataValue.item("BLC_SendToData")};
    //メールの件名
    String l_strSubject = BLCSTRPortal.get(50000);
    //メールの本文
    String l_strBody = BLCSTRPortal.get(50500);
    //メールの文字コード
    String l_strCharSet = "ISO-2022-JP";

    // メール連携API
    blcMail.sendMail(l_strUserId, l_strSendUserId, l_strSubject, l_strBody, l_strCharSet);

} catch (BLCException e) {

    // 例外処理
    . . .
}
```

注意事項

- BLCMail クラスのメソッドについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCMail クラス」の説明を参照してください。
- メール連携機能で送信されるメールのタイトルおよび本文の文字エンコーディングは、デフォルトでは ISO-2022-JP が指定されています。このため、ISO-2022-JP で定義されていない文字を使用した場合、文字化けが発生します。

次に示す文字は使用しないでください。

- 半角かたかな
- 特殊記号

特殊記号の例を次に示します。

```
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳
I II III IV V VI VII VIII IX X
ミリ キロ キロメートル アルトン ヘルツ フォット ドル セン 円 記号
mm cm km mg kg cc m2
No. KK Tel. ㊤ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ (株) (有) (代) ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰
```

注 上記は特殊記号の一例です。該当する特殊記号はほかにもあります。

- 補助漢字

補助漢字の例を次に示します。

ㄨ ㄩ ㄷ ㄸ ㄹ ㄺ ㄻ ㄼ ㄽ ㄾ ㄿ ㅀ ㅁ ㅂ ㅃ ㅄ ㅅ ㅆ ㅈ ㅉ ㅊ ㅋ ㅌ ㅍ ㅑ ㅒ ㅓ ㅔ ㅕ ㅖ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅡ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ ㅣ ㅤ ㅥ ㅦ ㅧ ㅨ ㅩ ㅪ ㅫ ㅬ ㅭ ㅮ ㅯ ㅰ ㅱ ㅲ ㅳ ㅴ ㅵ ㅶ ㅷ ㅸ ㅹ ㅺ ㅻ ㅼ ㅽ ㅾ ㅿ ㆀ ㆁ ㆂ ㆃ ㆄ ㆅ ㆆ ㆇ ㆈ ㆉ ㆊ ㆋ ㆌ ㆍ ㆎ ㆏ ㆐ ㆑ ㆒ ㆓ ㆔ ㆕ ㆖ ㆗ ㆘ ㆙ ㆚ ㆛ ㆜ ㆝ ㆞ ㆟ ㆠ ㆡ ㆢ ㆣ ㆤ ㆥ ㆦ ㆧ ㆨ ㆩ ㆪ ㆫ ㆬ ㆭ ㆮ ㆯ ㆰ ㆱ ㆲ ㆳ ㆴ ㆵ ㆶ ㆷ ㆸ ㆹ ㆺ ㆻ ㆼ ㆽ ㆾ ㆿ ㆿ

注 上記は補助漢字の一例です。該当する補助漢字はほかにもあります。

- ラテン語, アラビア語, 欧文
- 絵文字

5.8.5 案件の引き戻しと差し戻し (BLCWFWIBackward クラス)

案件を次のノードから引き戻したり, 一つ前のノードへ差し戻したりするようカスタマイズできます。引き戻し機能および差し戻し機能について, 次に説明します。

(1) 引き戻し

引き戻し機能とは, 案件の申請または承認処理を実行したユーザが, 次の業務ステップへ遷移した案件を引き戻す機能です。

ただし, 申請ノード「@Source」は業務ステップではないため, 申請者が申請ノードに案件を引き戻すことはできません。

また, 次に示す場合, 案件の引き戻しはできません。

- 対象となる案件が次のノードより先へ遷移した場合
- 対象となる案件がすでに完了している（「@Sink」ノードに到達している）場合
- 案件履歴にない業務ステップを指定した場合

なお, 引き戻しが正しく動作する構造については, マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

実装例

引き戻し機能の実装例を次に示します。

```
try{
    BLCWFWIBackward backward = new BLCWFWIBackward();

    // 引き戻しAPI
    backward.pullBack (BLCInfoオブジェクト, 引き戻し対象の案件情報);

} catch (BLCException e) {
    // 例外処理
    . . . . .
}
```


引き戻し機能のメッセージ

引き戻し機能でエラーが発生した場合に表示されるメッセージとその対処について、次に示します。

引き戻しに失敗しました。案件名=<案件名>, 案件 ID =<案件 ID>, 詳細情報=<詳細情報>

要因

指定した案件が、次の条件のどちらかに該当します。

- 指定した案件は引き戻し処理中に削除されました。
- 指定した案件のレコードが BLC_INBOX_T テーブルに存在しません。

対処

指定した案件が引き戻しできる状態かどうか確認してください。

引き戻しできませんでした。案件名=<案件名>

要因

指定した案件が、次の条件のどちらかに該当します。

- 指定した案件は引き戻しできない次のノードへ遷移済みです。
- 指定した案件は差し戻し済みです。

対処

指定した案件が引き戻しできる状態かどうか確認してください。

必要な項目が指定されていません。項目名=<項目名>

要因

次の項目のどれかが指定されていません。

- 申請 ID
- 案件 ID
- 作業 ID
- ボタン ID

対処

上記はすべて必須項目です。すべての項目が指定されているかどうか確認してください。

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の案件情報がありません。案件名=<案件名>

要因

指定した案件は削除されています。

対処

案件の状態を確認して、引き戻しできる条件かどうか確認してください。

注意事項

- 案件を承認したユーザが申請者に開示したくない内容を追記した場合は、案件の引き戻し時に情報が見えないように実装する必要があります。
- 一度しか実行しない承認処理 (DB 処理など) を実装している場合、引き戻し処理によって 2 回目の承認処理が実行されないように実装してください。
- BLSG で指定した業務完了指示作業で案件を開くと、BLCValDic クラスの「BLC_PIStatus」が「完了」になります。API で案件の業務ステップを変更する場合は、ボタン DB 更新前処理で BLCValDic クラスの「BLC_PIStatus」に値を設定する必要があります。
- 引き戻し、差し戻し、または承認処理が競合した場合、先着した処理以外は例外が発生します。

(2) 差し戻し

差し戻し機能とは、案件を保持しているユーザが処理済みの業務ステップへ案件を差し戻す機能です。

ただし、申請ノード「@Source」は業務ステップではないため、申請ノードに案件を差し戻すことはできません。この場合は、申請者が作業となる再申請などの業務ステップをあらかじめ作成しておくことで、申請された案件を差し戻せます。

なお、差し戻しが正しく動作する構造については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

実装例

差し戻し機能の実装例を次に示します。

```
try{
    BLCWFIBackward backward = new BLCWFIBackward();

    // 差し戻しAPI
    backward.sendBack (BLCInfoオブジェクト, 差し戻し対象の案件情報);

} catch (BLCException e) {
    // 例外処理
    . . . .
}
```

差し戻し機能のメッセージ

差し戻しでエラーが発生した場合に表示されるメッセージとその対処について、次に示します。

差し戻しに失敗しました。案件名=<案件名>, 案件 ID =<案件 ID>, 詳細情報=<詳細情報>

要因

指定した案件が、次の条件のどれかに該当します。

- 指定した案件は差し戻できない次のノードへ遷移済みです。
- 指定した案件は引き戻し済みです。
- 指定した案件は差し戻し処理中に削除されました。
- 指定した案件のレコードが BLC_INBOX_T テーブルに存在しません。

対処

指定した案件が差し戻しできる状態かどうか確認してください。

必要な項目が指定されていません。項目名=<項目名>

要因

次の項目のどれかが指定されていません。

- 申請 ID
- 案件 ID
- 作業 ID
- ボタン ID
- 差し戻し先の業務ステップ定義名
- forward 先 URL

対処

上記はすべて必須項目です。すべての項目が指定されているかどうか確認してください。

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の案件情報がありません。案件名=<案件名>

要因

指定した案件は削除されています。

対処

案件の状態を確認して、差し戻しできる条件かどうか確認してください。

注意事項

- 一度しか実行しない承認処理 (DB 処理など) を実装している場合、差し戻し処理によって 2 回目の承認処理が実行されないように実装してください。
- BLSG で指定した業務完了指示作業で案件を開くと、BLCValDic クラスの「BLC_PISstatus」が「完了」になります。API で案件の業務ステップを変更する場合は、ボタン DB 更新前処理で BLCValDic クラスの「BLC_PISstatus」に値を設定する必要があります。
- 引き戻し、差し戻し、または承認処理が競合した場合、先着した処理以外は例外が発生します。

6

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使う (EUR Form 連携帳票の場合)

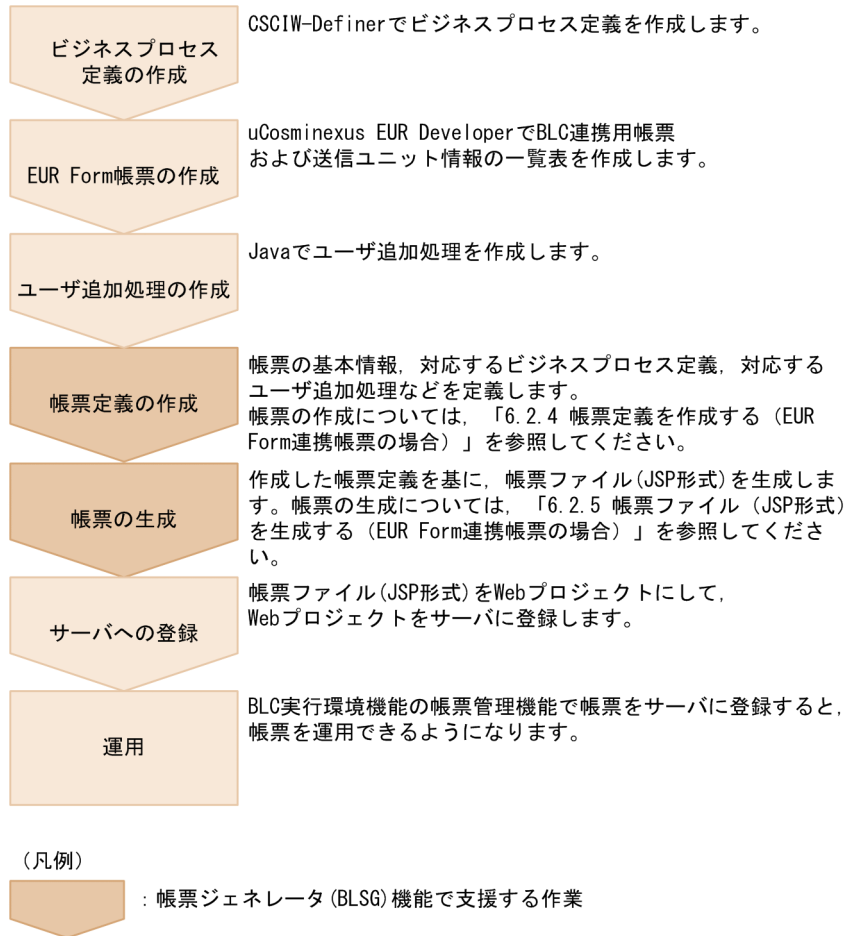
この章では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使って EUR Form 連携帳票を開発する手順について、例題を基に説明します。

6.1 開発作業の流れ (EUR Form 連携帳票の場合)

この節では、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能を使って EUR Form 連携帳票を開発する作業の流れを説明します。

帳票の開発から運用までの作業の流れと、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能がどんな作業を支援しているかを次に示します。

図 6-1 帳票の開発作業の流れと帳票ジェネレータ (BSLG) 機能



6.2 帳票を作成する (EUR Form 連携帳票の場合)

この節では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票定義を作成し、EUR Form 連携帳票を生成する手順を、例題を基に説明します。

6.2.1 例題の内容 (EUR Form 連携帳票の場合)

この章では、例題として、販売契約について稟議する帳票「販売契約稟議 EUR」を作成する手順を説明します。入力が必要な個所には、入力例を示しています。実際に入力するときは、利用環境に応じて内容を変更してください。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、帳票「販売契約稟議 EUR」を作成するために必要なビジネスプロセス定義ファイル、EUR Form 帳票などのサンプルを提供しています。また、帳票「販売契約稟議 EUR」の帳票定義ファイルのサンプルも提供しています。

この章で示す入力例や画面図は、一部サンプルファイルと異なる場合があります。

サンプルファイルの詳細および使用方法については、「付録 F サンプル帳票の構築方法」を参照してください。

(1) 例題の業務の流れ

帳票「販売契約稟議 EUR」で想定している業務の流れを次に示します。

図 6-2 帳票「販売契約稟議 EUR」の業務の流れ



図の説明

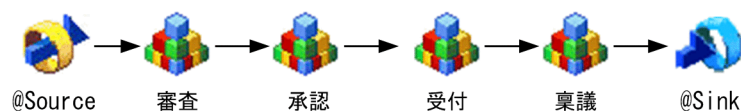
1. 担当者が案件を申請します。
2. 上司が案件を審査または承認します。
3. 受付部門が案件の内容を判定し、審査部門を選択します。
4. 選択された審査部門に稟議依頼します。
5. 案件がシンクノードに到達し、業務が完了します。

(2) 例題に入力する情報

• ビジネスプロセス定義

帳票「販売契約稟議 EUR」が対応するビジネスプロセス定義 (販売契約稟議 EUR.hbx) の遷移図を次に示します。

図 6-3 ビジネスプロセス定義の遷移図



• EUR Form 帳票

販売契約稟議の EUR Form 帳票 (SellingAgreementEUR.efd) を Internet Explorer で表示した例を、次に示します。

注意事項

- EUR Form 帳票 (SellingAgreementEUR.efs) の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログで設定した URL が実行環境と異なる場合、実行環境に合わせて変更したあと、次のファイルを再生成してから使う必要があります。
 - SellingAgreementEURC.csv
 - SellingAgreementEURD.csv
 - SellingAgreementEURM.csv
 - SellingAgreementEURP.csv
 - SellingAgreementEUR.efd
- uCosminexus EUR Developer で、[EUR Form 帳票ファイルの生成] メニューから EUR Form 帳票ファイル (*.efd) を保存するとき、ファイル名を変更しないでください。ファイル名を変更した場合、帳票を表示するときにエラーが発生します。

図 6-4 販売契約稟議の EUR Form 帳票の画面

The screenshot shows a web browser window titled '電子フォームワークフロー - Microsoft Internet Explorer'. The main content area displays a form titled '販売契約稟議EUR'. The form has a blue header bar with the title. Below the header, there is a blue bar with the text '◆販売契約の稟議申請をする'. The form contains several input fields and buttons:

- '件名' (Subject): A text input field.
- '契約先名' (Contractor Name): A text input field.
- '契約日' (Contract Date): Three dropdown menus for year, month, and day.
- '趣旨' (Purpose): A large text area.
- '標準価格' (Standard Price) and '提供価格' (Offered Price): Two text input fields with '円' (Yen) labels.
- '価格' (Price): A text input field with '円' (Yen) label.
- '消費税' (Consumption Tax): A text input field with '円' (Yen) label.
- '合計' (Total): A text input field with '0円' (0 Yen) label.
- '宛先' (Recipient): A dropdown menu with the text '宛先を選択してください。' (Please select a recipient).
- '申請' (Apply) and '閉じる' (Close): Two buttons at the bottom right.

 The browser's status bar at the bottom shows 'ページが表示されました' (Page displayed) and 'インターネット' (Internet).

6.2.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (EUR Form 連携帳票の場合)

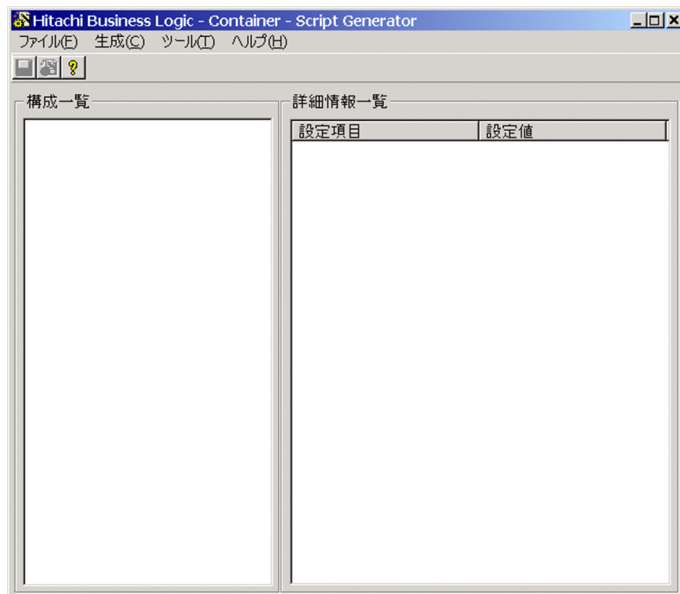
最初に、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動します。

操作手順

1. タスクバーの [スタート] をクリックして、[プログラム] - [電子フォームワークフロー] - [BLSG] を選択します。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が起動し、メイン画面が表示されます。

メイン画面を次に示します。



6.2.3 開発環境を設定する (EUR Form 連携帳票の場合)

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の開発環境 (定義したファイルの保存先や帳票生成時のオプションなど) を設定します。

操作手順

1. メイン画面で [ツール] - [オプション] を選択します。

[開発環境設定] ダイアログが、[基本情報] タブが前面に表示された状態で表示されます。

ダイアログの各項目の詳細は、「付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ」を参照してください。

2. 「プロジェクト名」を指定します。

プロジェクトとは、この [開発環境設定] ダイアログで指定した内容を保存しておくファイルです。この例題では、デフォルトの "project" を指定してください。

3. 「データフォルダパス」を指定します。

データフォルダをフルパス名で指定します。データフォルダとは、帳票定義の定義情報ファイル (以降、帳票定義ファイルと呼びます) を保存するフォルダです。データフォルダの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

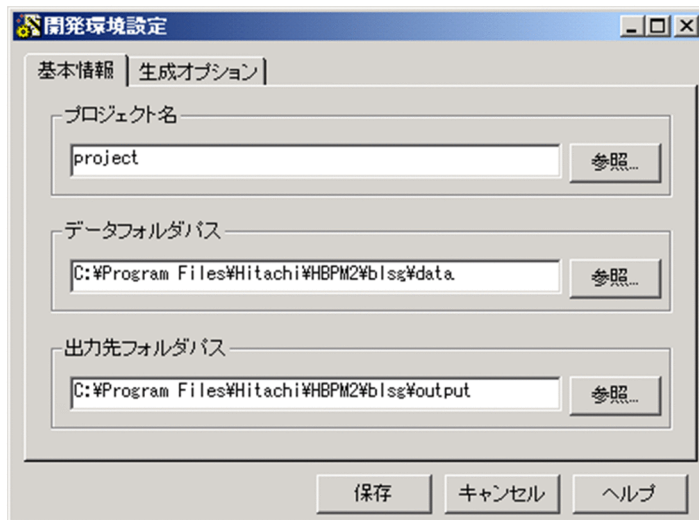
この例題では、デフォルトの "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blsg\data" を指定してください。

4. 「出力先フォルダパス」を指定します。

生成した帳票ファイル (JSP 形式) を出力するフォルダをフルパス名で指定します。生成ファイルの詳細は、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

この例題では、デフォルトの "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blsg\output" を指定してください。

項目を設定した [基本情報] タブを次に示します。



なお、帳票を開いている状態で、[基本情報] タブの情報を変更して保存しようとする、メッセージが表示されます。このメッセージで、変更先のフォルダパスに開いている帳票と同じ名称の帳票または帳票モジュールがある場合、上書きされてしまうことを警告します。

5. [生成オプション] タブを選択します。

[生成オプション] タブが前面に表示されます。

生成オプションとは、帳票ファイル (JSP 形式) の生成時に実行するオプションのことです。

なお、この例題では生成オプションを設定しません。このため、以下の操作 6.~11.では、帳票ファイル (JSP 形式) が生成されたあとで実行ファイルを起動する生成オプションを設定する場合の、基本的な操作手順を説明します。

6. [追加] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが表示されます。このダイアログで、生成オプションを新規追加できます。

7. [変数名] ドロップダウンリストで次の変数名を指定します。

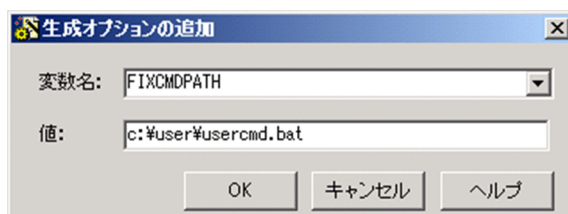
- FIXCMDPATH：帳票ファイル (JSP 形式) が生成されたあとで、ユーザが作成した実行ファイルを起動する場合に選択する変数です。
- EXECN2ASC：native2ascii を実行する場合に選択する変数です。

生成オプションタブについては、「付録 A.3(2) [生成オプション] タブ」を参照してください。

8. [値] テキストボックスに、実行ファイルのフルパス名を入力します。

ユーザが作成した実行ファイルのフルパス名を入力してください。

項目を設定した [生成オプションの追加] ダイアログを次に示します。



9. [OK] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが閉じて、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブに戻ります。[生成オプション] タブには、[生成オプションの追加] ダイアログで設定した内容が表示されます。

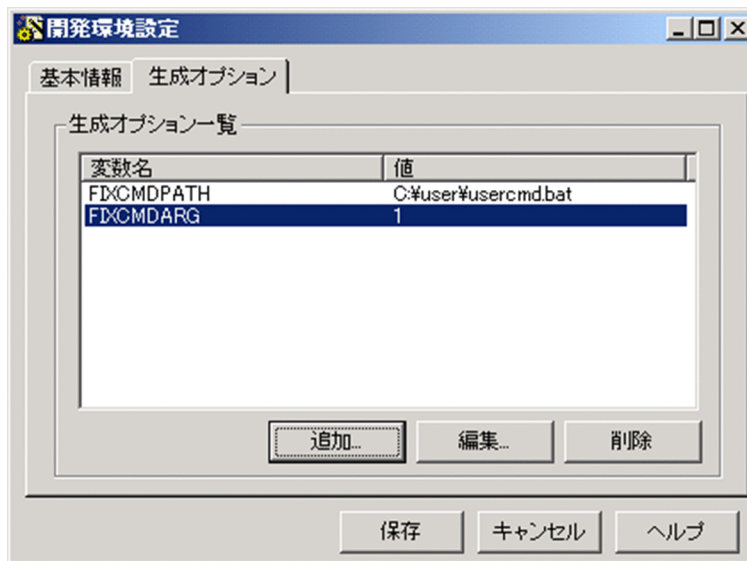
10. 操作 6.~9.を繰り返して、そのほかの変数を設定します。

変数「FIXCMDPATH」で指定した実行ファイルに引数を渡したい場合は、変数「FIXCMDARG」を設定します。[値] テキストボックスに入力した値が、引数の値になります。

11. [OK] ボタンをクリックします。

[生成オプションの追加] ダイアログが閉じて、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブに戻ります。

設定内容が表示された [生成オプション] タブを次に示します。



12. [保存] ボタンをクリックします。

[開発環境設定] ダイアログで設定した内容が、プロジェクトファイルに保存されます。

6.2.4 帳票定義を作成する (EUR Form 連携帳票の場合)

帳票定義を作成するには、まず帳票定義ファイルを作成し、そのあとで帳票定義の内容を編集します。この項では、帳票「販売契約稟議 EUR」の帳票定義を作成する手順を説明します。

(1) 帳票定義ファイルを作成する

帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) を決定して、帳票定義ファイルを作成します。

操作手順

1. メイン画面で [ファイル] - [EUR Form 連携帳票の新規作成] を選択します。

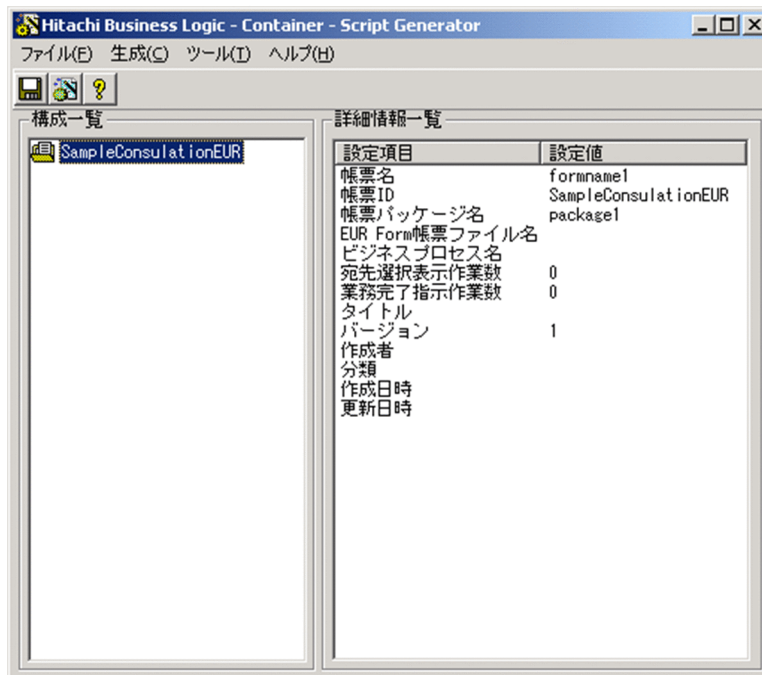
[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が表示されます。初期表示は、"form1"となっています。

2. 帳票 ID を入力します。

この例題では、"SampleConsultationEUR"と入力してください。

帳票 ID を入力すると、帳票定義ファイルが作成されます。また、[詳細情報一覧] 領域に帳票定義の情報が表示されます。

帳票 ID を入力したメイン画面を次に示します。



(2) 帳票定義の内容を編集する

帳票の基本情報、対応するビジネスプロセス定義、対応するユーザ追加処理などを、[帳票定義] 画面で定義します。

[帳票定義] 画面の詳細は、「付録 A.6 [帳票定義] 画面 (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

操作手順

1. [構成一覧] 領域で帳票 ID を選択して [生成] - [定義編集] を選択するか、帳票 ID をダブルクリックするか、または帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [定義編集] コマンドを選択します。

[基本情報] タブが前面に表示された状態で、[帳票定義] 画面が表示されます。

(a) 帳票の基本情報を定義する

[基本情報] タブで、帳票の基本情報を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [帳票名] テキストボックスに帳票の名前を入力します。
初期表示は、"formname1"となっています。この例題では、"販売契約稟議 EUR"と入力してください。
2. 必要に応じて、[帳票 ID] テキストボックスの帳票 ID を変更します。
[帳票 ID] テキストボックスには、「6.2.4(1) 帳票定義ファイルを作成する」の操作 2. で入力した帳票 ID が表示されます。必要に応じて帳票 ID を変更してください。
この例題では、変更しないでください。
3. [帳票パッケージ名] テキストボックスにパッケージ名を入力します。

帳票パッケージ名とは、自動生成帳票クラスのパッケージ名です。パッケージとは、Java の仕様で関連したクラスのグループのことです。自動生成帳票クラスとは、帳票の生成時に作成される帳票のクラスファイルのことです。

Java のパッケージ名は、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+帳票パッケージ名"になります。

初期表示は、"package1"となっています。この例題では、"Hitachi"と入力してください。

4. [ビジネスプロセス定義] 領域で、帳票が対応するビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

[参照] ボタンをクリックすると表示される [ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログで、ビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

この例題では、"販売契約稟議 EUR.hbx"を選択してください。

なお、帳票が対応するビジネスプロセス定義ファイルは、あらかじめデータフォルダ ([6.2.3 開発環境を設定する (EUR Form 連携帳票の場合)] の操作 3.で指定したフォルダ) に格納しておいてください。

5. [EUR Form 帳票] 領域で、送信ユニット情報の一覧表ファイル (EUR Form では一覧表ファイルと呼びます) または EUR Form 帳票定義ファイルを選択します。

送信ユニット情報の一覧表ファイルは、BLSG のバージョンまたは帳票定義内容によって選択できない場合があります。詳細は、[9.6.6 EUR Form 連携帳票使用時の注意事項] を参照してください。

送信ユニット情報の一覧表ファイルを選択する場合

[送信ユニット情報の一覧表ファイル] テキストボックスに指定します。指定する場合、[参照] ボタンをクリックすると表示される [送信ユニット情報の一覧表ファイルの選択] ダイアログで、EUR Form 帳票の送信ユニット情報の一覧表ファイルを選択します。

なお、帳票が対応する送信ユニット情報の一覧表ファイルは、あらかじめデータフォルダ ([6.2.3 開発環境を設定する (EUR Form 連携帳票の場合)] の操作 3.で指定したフォルダ) に格納しておいてください。

EUR Form 帳票定義ファイルを選択する場合

[EUR Form 帳票定義ファイル] テキストボックスに指定します。指定する場合、[参照] ボタンをクリックすると表示される [EUR Form 帳票定義ファイルの選択] ダイアログで、EUR Form 帳票の EUR Form 帳票定義ファイルを選択します。

この例題では、"SellingAgreementEUR.efs"を選択してください。

なお、帳票が対応する EUR Form 帳票定義情報ファイルは、あらかじめデータフォルダ ([6.2.3 開発環境を設定する (EUR Form 連携帳票の場合)] の操作 3.で指定したフォルダ) に格納しておいてください。

項目を設定した [基本情報] タブを次に示します。

注意事項

- 帳票 ID の一部またはすべてについて、英字の大文字と小文字を変更した場合、出力先フォルダに格納されている、大文字と小文字が異なる Java クラスファイルおよび JSP ファイルを削除し、JSP ファイル用の帳票 ID フォルダ名を変更する必要があります。デプロイするためにコピーする場合も、対象となるフォルダに大文字と小文字が異なるファイルおよびフォルダがないことを確認する必要があります。
- 帳票 ID はシステム内で一意になるように指定してください。
- 帳票パッケージ名の一部またはすべてについて、英字の大文字と小文字を変更した場合、出力先フォルダにある大文字と小文字が異なるフォルダ名も正しく変更する必要があります。デプロイするためにコピーする場合も、対象となる環境に大文字と小文字が異なるフォルダがないことを確認する必要があります。
- BLSG では階層定義を使用しているビジネスプロセス定義を読み込むことはできません。

(b) 作業 (WorkItem) について定義する

[作業関連] タブで、帳票が各作業 (WorkItem) で実行する処理や表示の切り替えなどについて定義する手順を説明します。

操作手順

1. [作業関連] タブを選択します。

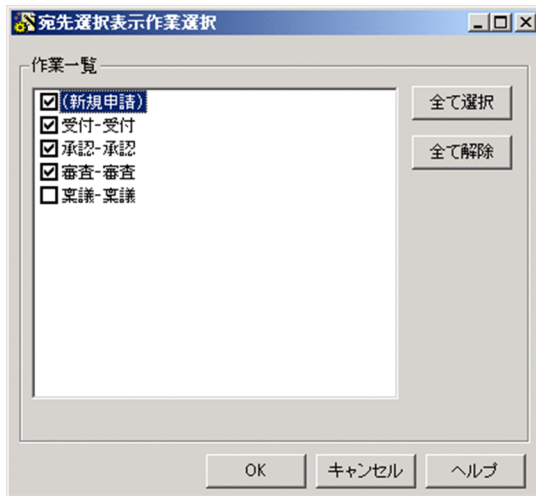
[作業関連] タブが前面に表示されます。

2. [宛先選択表示作業] 領域の [宛先選択表示作業リストの編集] ボタンをクリックします。

[宛先選択表示作業選択] ダイアログが表示されます。一覧で、ユーザが帳票を処理する時に宛先 (次ノードの作業) を選択させる作業 (WorkItem) をチェックします。ここで選択した作業 (WorkItem) では、帳票に宛先選択ドロップダウンリストが表示されます。

この例題では、" (新規申請)", " (受付-受付)", " (承認-承認)", および" (審査-審査)"をチェックしてください。

チェックした [宛先選択表示作業選択] ダイアログを次に示します。



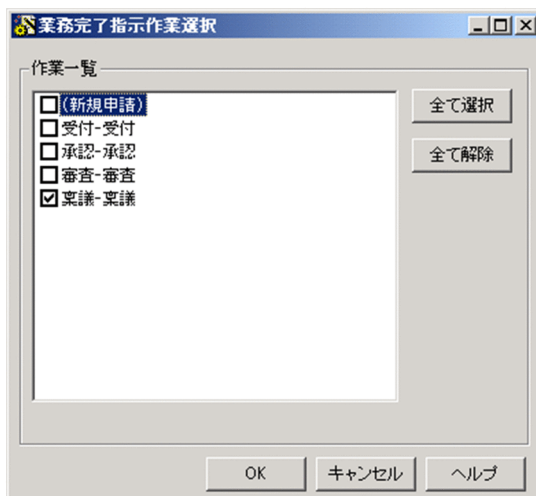
3. [OK] ボタンをクリックします。

[作業関連] タブに戻ります。

4. [業務完了指示作業] 領域の [業務完了指示作業リストの編集] ボタンをクリックします。

[業務完了指示作業選択] ダイアログが表示されます。一覧で、シンクノードに到達する前に案件を完了状態にさせる作業 (WorkItem) をチェックします。この例題では、"稟議-稟議" をチェックしてください。

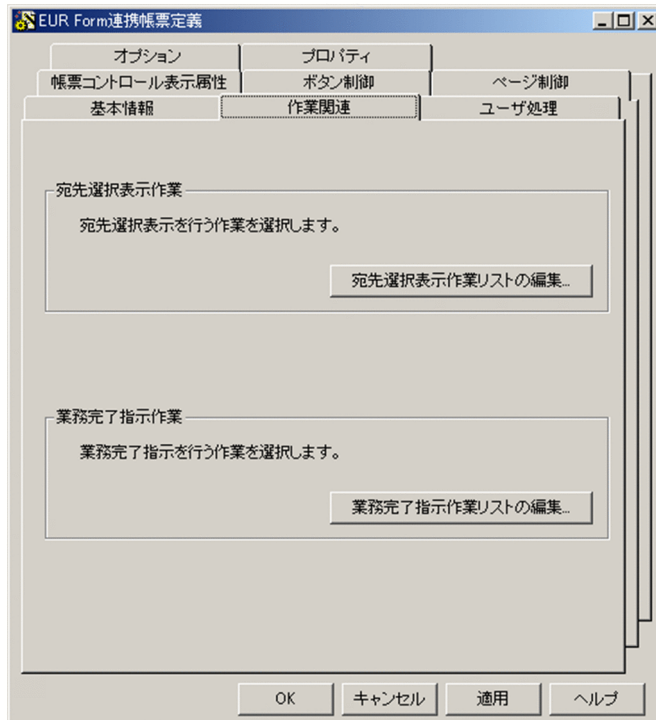
チェックした [業務完了指示作業選択] ダイアログを次に示します。



5. [OK] ボタンをクリックします。

[作業関連] タブに戻ります。

[作業関連] タブを次に示します。



(c) ユーザ追加処理について定義する

[ユーザ処理] タブで、帳票に追加するユーザ追加処理を定義する手順を説明します。なお、ユーザ追加処理を作成しない場合は、設定する必要はありません。

操作手順

1. [ユーザ処理] タブを選択します。

[ユーザ処理] タブが前面に表示されます。

2. 必要に応じて、ユーザ定義クラスを設定します。

ユーザ追加処理を Java クラスで作成する場合に設定します。[ユーザ定義クラスをインポートする] チェックボックスをオンにして、ユーザが作成した Java クラスの名前を [クラス名] テキストボックスに入力します。拡張子を入力する必要はありません。

ユーザが作成した Java クラスは、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+ "帳票パッケージ名" のフォルダに格納してください。

この例題では、ユーザ定義クラスを設定しません。

なお、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、ユーザ定義クラスを作成する際に利用できる Java クラス「SampleConsultationEUR_1_userServerSideClass.java」をサンプルとして提供しています。詳細は、「付録 F サンプル帳票の構築方法」参照してください。

(d) 帳票コントロール表示属性を定義する

[帳票コントロール表示属性] タブで、各作業 (WorkItem) での帳票コントロールの表示属性 (入力/参照/非表示) を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [帳票コントロール表示属性] タブを選択します。

[帳票コントロール表示属性] タブが前面に表示されます。

[帳票コントロール表示属性] タブを次に示します。



2. 必要に応じて、帳票コントロールの表示属性 (入力/参照/非表示) を設定します。

各帳票コントロールの表示属性の初期状態を次に示します。

- 新規申請作業 (WorkItem) は"入力"
- 新規申請作業以外の作業 (WorkItem) は"参照"

この例題では、帳票コントロール表示属性は初期状態から変更する必要はありません。

(e) ボタンの表示属性を定義する

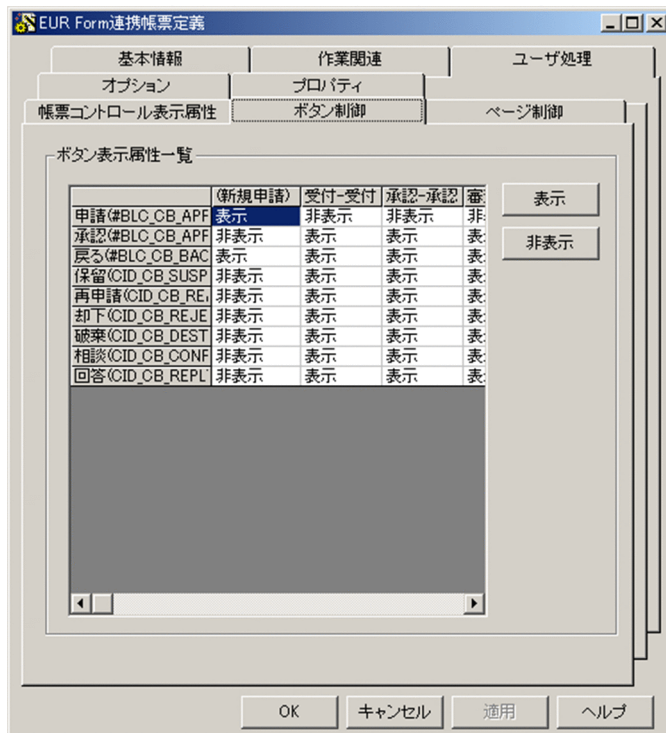
[ボタン制御] タブで、各作業 (WorkItem) でのボタンの表示属性 (表示/非表示) を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [ボタン制御] タブを選択します。

[ボタン制御] タブが前面に表示されます。

[ボタン制御] タブを次に示します。



2. 必要に応じて、ボタンの表示属性（表示/非表示）を設定します。

各ボタンの表示属性の初期状態を次に示します。

表 6-1 ボタンの表示属性の初期状態

帳票コントロール ID (メンバ名初期値)	完全作業名	
	(新規申請)	(新規申請)以外
#BLC_CB_APPLY(申請)	表示	非表示
#BLC_CB_APPROVAL(承認)	非表示	表示
#BLC_CB_BACK(戻る)	表示	表示
上記以外	表示	表示

この例題では、ボタンの表示属性は、完全作業名が"(新規申請)"の場合、"#BLC_CB_APPLY(申請)"および"#BLC_CB_BACK(戻る)"以外はすべて"非表示"にしてください。そのほかは初期状態から変更する必要はありません。

(f) ページの表示属性を定義する

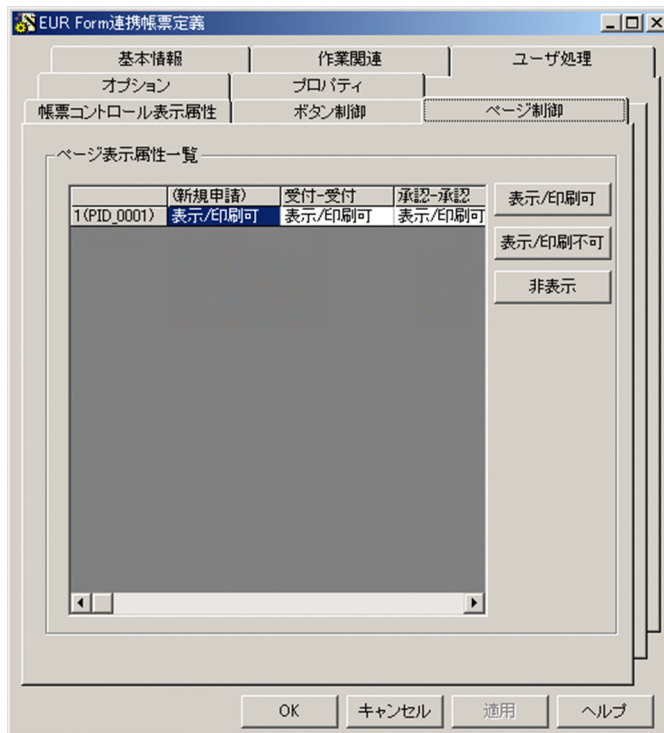
[ページ制御] タブで、各作業 (WorkItem) でのページの表示属性 (表示/印刷可/表示/印刷不可/非表示) を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [ページ制御] タブを選択します。

[ページ制御] タブが前面に表示されます。

[ページ制御] タブを次に示します。



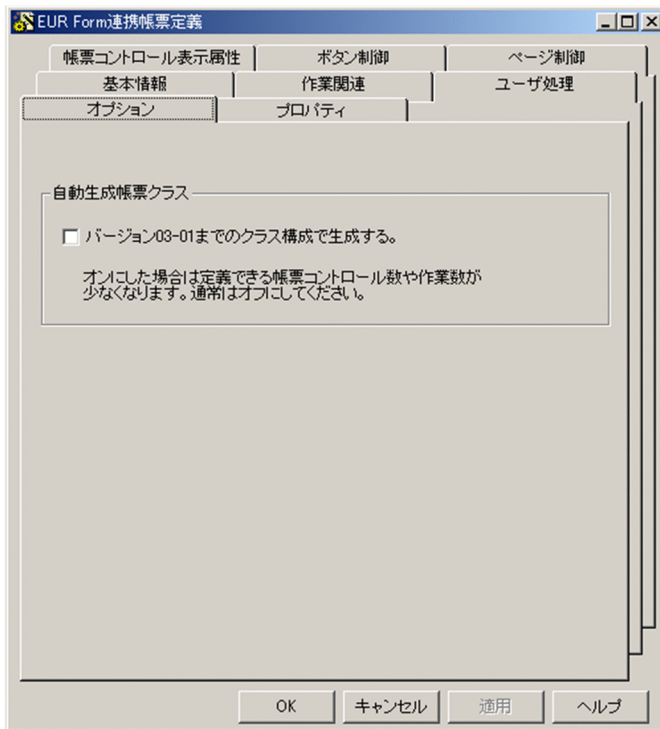
2. 必要に応じて、ページの表示属性（表示/印刷可/表示/印刷不可/非表示）を設定します。
 各ページの表示属性の初期状態はすべて"表示/印刷可"になります。
 この例題では、ページの表示属性は初期状態から変更する必要はありません。

(g) 自動生成帳票クラスの出力形式を定義する

[オプション] タブで、自動生成帳票クラスの出力形式を定義する手順を説明します。

操作手順

1. [オプション] タブを選択します。
 [オプション] タブが前面に表示されます。
 [オプション] タブを次に示します。



2. 必要に応じて、自動生成帳票クラスの出力形式を設定します。

BLSG 03-01 までのクラス構成で帳票クラスを生成する場合は、[バージョン 03-01 までのクラス構成で生成する。] チェックボックスをオンにします。

BLSG 03-02 以降のクラス構成で帳票クラスを生成する場合は、[バージョン 03-01 までのクラス構成で生成する。] チェックボックスをオフにします。

この例題では、[バージョン 03-01 までのクラス構成で生成する。] チェックボックスをオフにします。

(h) 帳票定義ファイルの管理情報を定義する

管理者が帳票定義ファイルを管理するための情報を、[プロパティ] タブで定義する手順を説明します。

操作手順

1. [プロパティ] タブを選択します。

[プロパティ] タブが前面に表示されます。

2. [タイトル] テキストボックスに、帳票定義のタイトルを入力します。

この例題では、"サンプル (販売契約稟議 EUR)" と入力してください。

3. [バージョン] テキストボックスに、帳票定義のバージョン番号を入力します。

バージョン番号は、帳票ファイル (JSP 形式) のファイル名の最後に付けられます。初期表示は、"1" となっています。

この例題では、初期表示の「1」から変更しないでください。

4. [作成者] テキストボックスに、帳票定義の作成者または提供先の顧客名を入力します。

この例題では、" (株) 日立製作所" と入力してください。

5. [分類] テキストボックスに、帳票定義の分類を入力します。

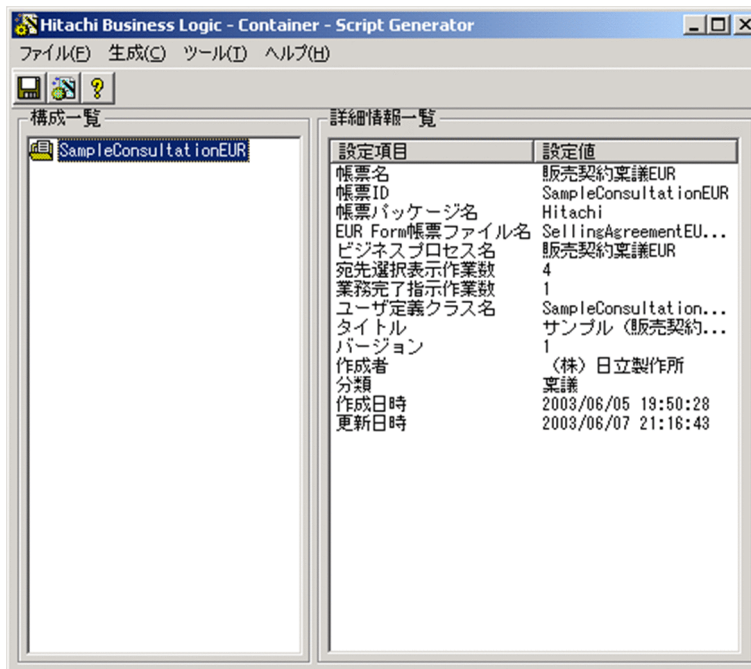
この例題では、"稟議" と入力してください。

6. [コメント] テキストボックスに、帳票を識別するためのコメント (著作権表示や修正履歴など) を入力します。

この例題では、"All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, Hitachi, Ltd."と入力してください。

これで、帳票定義ファイルの編集は完了です。[OK] ボタンをクリックすると、[帳票定義] 画面が閉じて、メイン画面に戻ります。メイン画面の [詳細情報一覧] 領域には、[帳票定義] 画面で定義された内容が表示されます。

定義された内容が表示されたメイン画面を次に示します。



6.2.5 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (EUR Form 連携帳票の場合)

作成した帳票定義ファイルを基に、帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

操作手順

1. [生成] - [帳票ファイル生成] を選択するか、または [構成一覧] 領域で帳票 ID を選択して右クリックすると表示されるメニューで [帳票ファイル生成] コマンドを選択します。

帳票定義ファイルが保存されている場合

帳票ファイルが生成されます。

帳票定義ファイルが保存されていない場合

帳票定義ファイルを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、帳票定義ファイルが保存されます。ただし、一度も保存していない場合は、[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。[名前を付けて保存] ダイアログで [保存] ボタンをクリックすると、帳票定義ファイルが保存されて、帳票ファイルが生成されます。

帳票ファイルを生成すると、[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブで設定した出力先フォルダに、帳票ファイル (JSP 形式) を含む生成ファイルが出力されます。生成ファイルの詳細は、[付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報] を参照してください。

6 帳票ジェネレータ (BSLG) 機能を使う (EUR Form 連携帳票の場合)

出力されたファイルを運用するには、アプリケーションサーバにファイルをコピーしたあと、BLC 実行環境機能の帳票管理機能で帳票をサーバに登録する必要があります。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

7

BLC 実行環境を使う (EUR Form 連携帳票の場合)

この章では, EUR Form 連携帳票で BLC 実行環境を使用する方法について説明しています。

7.1 BLC 帳票の場合と同様のもの

「送信ログから申請する」方法を除き、EUR Form 連携帳票で BLC 実行環境を使う方法は、BLC 帳票で BLC 実行環境を使う方法と同様です。

BLC 実行環境を使う方法については、「4. BLC 実行環境を使う (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

送信ログから申請する方法については、次の節で説明します。

7.2 送信ログから申請する

送信ログからの申請が許可されている帳票は、送信ログにある案件から新規の申請帳票を開くことができます。この新規の申請帳票には、過去に入力した内容があらかじめ表示されます。

送信ログから申請する手順を説明します。

操作手順

1. BLC のワークフローポートレットで [送信ログ] タブをクリックします。
ワークフローポートレットの表示領域に、[送信ログ] 画面が表示されます。
2. 送信ログ一覧で、帳票を利用したい案件の申請 ID をクリックします。
選択した案件の履歴が表示された、[案件履歴] 画面が表示されます。
3. [送信ログからの申請] ボタンをクリックします。
選択した案件の入力内容が表示された、新規の申請帳票が表示されます。
4. 必要に応じて帳票の情報を変更し、[申請] ボタンをクリックします。
案件を申請したことを通知するメッセージダイアログが表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックします。
案件の申請が完了します。

案件の申請が完了すると、帳票データの保存、案件履歴の追加、および CSCIW での案件開始が実行されます。

! 注意事項

新規の申請帳票には、過去の申請済み案件の現在の情報が表示されます。申請時の情報ではありません。したがって、申請後承認者が何か入力していた場合は、その情報も表示されることがあります。この場合は、必要に応じて削除してください。

8

BLC のカスタマイズ方法 (EUR Form 連携帳票の場合)

この章では, EUR Form 連携帳票での BLC 実行環境のカスタマイズの方法について説明します。

BLC 実行環境では, 帳票ボタン処理, EUR Form 帳票遷移 JSP, ユーザ追加処理による帳票データ, 送信ログからの申請などをカスタマイズできます。

8.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)

この節では、EUR Form 連携帳票でサーバ側のユーザ追加処理で行う帳票ボタン処理などのカスタマイズについて説明します。

8.1.1 ユーザ定義クラスのインポート (EUR Form 連携帳票の場合)

サーバ側のユーザ追加処理を追加するには、BLSG で自動生成した帳票クラス (以降、自動生成帳票クラスと呼びます) を継承したユーザ定義クラスを Java で実装し、帳票 JSP にインポートする必要があります。帳票 JSP へのインポート設定方法については、「6.2.4(2)(c) ユーザ追加処理について定義する」を参照してください。

BLCFormBase クラスのクラス階層を次に示します。

表 8-1 BLCFormBase クラス階層

クラス名		説明
jp.co.hitachi.soft.blc.BLCFormBase		BLC の提供するクラスです。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。
↳	jp.co.hitachi.soft.blc.BLCEURFormBase	BLC の提供するクラスです。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。
↳	"jp.co.hitachi.soft.blc."<帳票パッケージ名>+"."<帳票 ID>+"_"<帳票 Version>+"_Class"	自動生成帳票クラスです。 BLC サンプル帳票 (販売契約稟議 EUR) 例 SampleConsultationEUR_1_Class.java
↳	"jp.co.hitachi.soft.blc."<帳票パッケージ名>+"."<ユーザ定義クラス名>	ユーザ定義クラスです。 帳票前処理などのユーザ追加処理を実装する場合は、「8.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」の BLCEURFormBase クラスのユーザ追加処理メソッドをオーバーライドしてください。 BLC サンプル帳票 (販売契約稟議 EUR) 例 SampleConsultationEUR_1_userServerSide Class.java

8.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)

サーバ側のユーザ追加処理で、帳票ボタン処理などをカスタマイズするには、帳票クラスを継承して、BLCEURFormBase クラスのメソッドをオーバーライドします。オーバーライドする BLCEURFormBase クラスのメソッドを次に示します。

BLCEURFormBase クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCEURFormBase クラス」を参照してください。

表 8-2 オーバーライドする BLCEURFormBase クラスのメソッド

カスタマイズの種類	BLCEURFormBase クラスのメソッド名	備考
帳票開始処理の追加	ufsv_addEURFormStartUp	帳票開始処理は、DB から帳票データを読み出す前に呼び出され、帳票の新規表示時（申請帳票）だけ呼ばれます。
帳票前処理の追加	ufsv_addEURFormPreparation	帳票前処理は、DB からの案件情報や帳票データの読み出し後、EUR Form 帳票を表示する直前で呼ばれます。新規表示（申請帳票）と再表示（承認帳票）の両方で呼ばれます。 追加処理の例 EUR Form 帳票のある特定の帳票コントロールの値の変更
ボタン DB 更新前処理の追加	ufsv_addEURButtonPreparation	申請ボタンや承認ボタンなどのボタンをクリックしたあと、BLC の申請/承認処理の延長（BLC の DB 処理の前）で呼ばれます。 追加処理の例 申請する案件の申請 ID の設定 案件宛先ユーザの設定
ボタン DB 更新処理の追加	ufsv_addEURButtonExecution	ボタン DB 更新前処理のあと、BLC の DB トランザクション中に呼ばれます。 追加処理の例 業務 DB へのアクセス処理
ボタン DB 更新後処理の追加	ufsv_addEURButtonPostHandling	ボタン DB 更新処理のあと、BLC の DB トランザクション、CSCIW のトランザクションの終了後に呼ばれます。 追加処理の例 メール送信処理

(1) サーバ側のユーザ追加処理の呼び出し順序

サーバ側のユーザ追加処理を行う際、BLCEURFormBase クラスのメソッドを呼び出す順序を説明します。

(a) 帳票の開始時

帳票の開始時には、次の順序で BLCEURFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

1. ufsv_addEURFormStartUp
2. ufsv_addEURFormPreparation

注意事項

運用不可が設定されている場合、申請帳票の表示処理を開始すると、「1.ufsv_addEURFormStartUp」の処理と「2.ufsv_addEURFormPreparation」の間で帳票の表示処理を停止し、エラーを表示します。運用不可を設定した場合でも、申請帳票の表示時に「1.ufsv_addEURFormStartUp」が呼び出されるため、DB 更新処理などは「1.ufsv_addEURFormStartUp」ではなく、「2.ufsv_addEURFormPreparation」に追加することを推奨します。BLC 帳票の場合と運用不可を判定するタイミングが異なります。

(b) 申請, 承認または保留時

申請, 承認または保留時には, 次の順序で BLCEURFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

- 1.ufsv_addEURButtonPreparation
- 2.ufsv_addEURButtonExecution
- 3.ufsv_addEURButtonPostHandling

注意事項

運用不可が設定されている場合, 申請処理を開始すると, 「1.ufsv_addEURButtonPreparation」の処理の前で申請処理を停止し, エラーを表示します。

(c) 案件履歴の表示時

案件履歴の表示時には, 次の順序で BLCEURFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

- 1.ufsv_addEURFormStartUp

(d) 内容確認の表示時

内容確認の表示時には, 「(a) 帳票の開始時」と同じ順序で BLCEURFormBase クラスのメソッドを呼び出します。

(2) ユーザ追加処理のカスタマイズの例 (帳票前処理での DB アクセス)

帳票前処理のカスタマイズの例として, ユーザの業務データベースからデータを取得して, 帳票の入力欄に反映する処理を次に示します。

(a) 処理内容

この処理は, 申請帳票の場合だけ実行します。

1. ユーザの業務データベースの USERTABLE テーブルから, ログインユーザの ID, および CDUSER カラムの値が一致するレコードを検索します。
2. 該当するレコードの USERDATA カラムの値を取得し, EUR Form 帳票の項目 (帳票コントロール ID: Content) に設定します。

(b) 想定しているテーブル

```
CREATE TABLE USERTABLE (  
  CDUSER varchar(128) NOT NULL PRIMARY KEY,  
  USERDATA varchar(128));
```

(c) 帳票前処理のカスタマイズの実装例

ユーザ定義クラス (.java) ファイル

ユーザ定義クラス (.java) ファイルの先頭部分の実装例を次に示します。

図 8-1 ユーザ定義クラス (.java) ファイルの先頭部分の実装例

```

//インポート文
import java.io.*;
import java.util.*;
import jp.co.Hitachi.soft.blc.*;
import jp.co.Hitachi.soft.EURForm.*;
import jp.co.Hitachi.soft.EURForm.error.*;
import jp.co.Hitachi.soft.bpm.*;

import java.sql.*;
import javax.sql.*;
import javax.naming.*;
}

```

1. DBアクセスに必要なパッケージの
インポート宣言

```

//サンプルソース (ご参考)
public class SampleConsultationEUR_1_userServerSideClass extends
SampleConsultationEUR_1_Class {

(以下略)

```

説明

1.java ファイルの先頭部分では、DB アクセスに必要なパッケージのインポート宣言を記述します。

帳票前処理 (ufsv_addEURFormPreparation メソッド)

帳票前処理 (ufsv_addEURFormPreparation メソッド) の実装例を次に示します。

図 8-2 帳票前処理 (ufsv_addEURFormPreparation メソッド) の実装例

```

// 帳票前処理をユーザが追加するためのメソッド
public void ufsv_addEURFormPreparation() throws BLCEXception {
    try{

        //カスタマイズ処理を実装します。

        //帳票一覧からの起票 (ProcMode="0") の場合のみ
        if (befpi.getInfo(befpi.BEF_PROCMODE).equals("0")) {

            Connection l_dbConnection = null;           //DBコネクション
            Statement l_StateSql = null;                //SQL文の器
            String l_strSql = null;                     //SQL文
            ResultSet l_rs = null;                     //SQLの結果
            Context l_objCTX = null;                   //コンテキスト
            DataSource l_ds = null;                     //データソース
            String l_strLookUpURL = null;               //URL
            String l_strUserID = null;                  //ログインユーザ名
            String l_strUserData = null;                //ユーザデータ

            //ログインユーザ名の取得
            l_strUserID =
                befpi.getBLCInfo().getAuthenticateObject().getAuthenticateUserId();

            try{
                //コネクションプールから、DBコネクションを取得
                l_objCTX = new InitialContext();

                //BLCのプロパティからBLCの論理DB名称を取得
                l_strLookUpURL = BLCProperty.getProperty("BLCMASTER.name");

                //データソースの取得
                l_ds = (DataSource)l_objCTX.lookup( l_strLookUpURL );
                l_dbConnection = l_ds.getConnection();

                //SQL文の器を生成
                l_StateSql = l_dbConnection.createStatement();

                //SQL文の作成(select文)
                l_strSql = "SELECT USERDATA FROM USERTABLE WHERE CDUSER=' "
                    + l_strUserID
                    + "'";

                //SQLの実行
                l_rs = l_StateSql.executeQuery(l_strSql);
                l_rs.next();

                //取得したデータを帳票コントロールに設定
                l_strUserData = l_rs.getString( "USERDATA" );
                efDoc.modifyInstanceDataItem( "Content", l_strUserData );

                //SQL文の器をクローズ
                l_StateSql.close();
                l_StateSql = null;

                //コネクションをクローズ
                l_dbConnection.close();
                l_dbConnection = null;
            }
        }
    }
}

```

1. DBへのコネクションの取得

2. SQL文の作成

3. SQLの実行

4. 帳票のデータの設定

5. クローズ処理


```

} catch( SQLException eSQL) { //SQL例外
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException(eSQL,
            50006,
            new String [] { "UP SQLException" } );
    throw blcErr;
} catch ( Exception err ) { // その他の例外
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException(err,
            50006,
            new String [] { "UP Exception1" } );
    throw blcErr;
} finally{
    //リソースの解放漏れチェック
    if( l_StateSql != null ){
        try {
            //SQL文の器をクローズ
            l_StateSql.close();
        } catch(SQLException eSQL) {eSQL = null;}
    }
    l_StateSql = null;
    if( l_dbConnection != null ){
        try {
            //コネクションをクローズ
            l_dbConnection.close();
        } catch(SQLException eSQL) {eSQL = null;}
        l_dbConnection = null;
    }
}
}

//カスタマイズ処理を実装します。

} catch( BLCException err ) { //BLC例外を捕捉
    throw err;
} catch( Exception err ) { //他の例外を捕捉
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException( err, 50006, new String [] { "UP Exception2" } );
    throw blcErr;
}
}

```

説明

1.DB へのコネクションの取得

DB のコネクションを取得します。帳票前処理では、BLC のコネクションを利用することはできないため、コネクションプールから取得します。BLC の論理 DB 名称は、`BLCProperty.getProperty("BLCMASTER.name")` で取得できます。

2.SQL 文の作成

実行する SQL 文を作成します。この例では、USERTABLE テーブルに対して、ログインユーザの ID を検索条件として USERDATA カラムの値を取得する select 文を作成しています。

3.SQL の実行

SQL を実行し、レコードセットにデータを取得します。

4. 帳票のデータの設定

DB から取得したデータを EFormDocument クラスの `modifyInstanceDataItem` メソッドを利用して設定します。

5. クローズ処理

Statement コネクションをクローズします。

6. 例外処理

DB アクセス処理で例外が発生した場合の処理を記述します。この例では、SQL 例外とそれ以外の例外を捕捉し、BLC 例外をスローしています。

7. 解放漏れチェック

例外が発生した場合にリソースの解放漏れを起こさないようにするため、finally 節で解放漏れをチェックし、リソース解放処理をします。

開発時の注意事項

リソースの解放漏れが発生した場合、コネクションのプール不足や、DB のコネクション不足などの原因となります。また、業務アプリケーションだけでなくほかのアプリケーションにも影響する場合があります。このため、DB アクセス処理を実装する場合は、リソース解放漏れを作り込まないように注意してください。

(3) ユーザ追加処理のカスタマイズの例 (ボタン DB 更新処理での DB アクセス)

ボタン DB 更新処理のカスタマイズの例として、ユーザの業務データベースにデータを書き込む処理を次に示します。

(a) 処理内容

この処理は、申請ボタンをクリックしたときだけ実行します。

また、コネクションに BLC のコネクションを利用することで、BLC の DB 処理と同一のトランザクションで処理できます。

1. ユーザの業務データベースの APPLYRECORD テーブルに、ログインユーザの ID、送信先ユーザ ID、および処理時刻のレコードを挿入します。

(b) 想定しているテーブル

```
CREATE TABLE APPLYRECORD (  
  CDUSER varchar(128) NOT NULL,  
  SENDTODATA varchar(128),  
  APPLYDATE varchar(14) NOT NULL,  
  PRIMARY KEY (CDUSER, APPLYDATE)  
);
```

(c) ボタン DB 更新処理のカスタマイズの実装例

ユーザ定義クラス (.java) ファイル

「(2)(c) 帳票前処理のカスタマイズの実装例」と同様に、インポート文を記述してください。

ボタン DB 更新処理 (ufsv_addEURButtonExecution メソッド)

ボタン DB 更新処理 (ufsv_addEURButtonExecution メソッド) の実装例を次に示します。

図 8-3 ボタン DB 更新処理 (ufsv_addEURButtonExecution メソッド) の実装例

```

// ボタンDB更新処理をユーザ処理で追加するためのメソッド
public void ufsv_addEURButtonExecution(int p_KindCode, String p_Arg) throws BLCEXception{
    try{

        //申請ボタンが押された場合
        if(befpi.getInfo(BLCEURFormProcessInfo.BEF_ACCEPTID).equals("ID_APPLY")){
            Connection l_dbConnection=null; //DBコネクション
            Statement l_StateSql=null; //SQL文の器
            String l_strSql=null; //SQL文格納
            ResultSet l_rs = null; //SQLの結果
            DataSource l_ds = null; //データソース
            String l_strUserID = null; //ログインユーザ名
            String nowDate = null;

            //ログインユーザ名の取得
            l_strUserID = befpi.getBLCInfo().getAuthenticateObject().getAuthenticateUserID();
            nowDate = BLCCommon.getGMTDateTime();
            try{
                //BLCのコネクションを取得
                if(blse.m_DataValue.containsKey("BLCMASTER")==true) {
                    l_dbConnection =
                    (Connection)((BLCDBAccess)blse.m_DataValue.get("BLCMASTER")).getConnection();
                } else ;

                //SQL文の器を生成
                l_StateSql = l_dbConnection.createStatement();

                //SQL文作成(insert文)
                l_strSql = "INSERT INTO APPLYRECORD (CDUSER, SENDTODATA, APPLYDATE) VALUES ("
                    + l_strUserID
                    + ","
                    + befpi.getInfo(BLCEURFormProcessInfo.BEF_SENDDATA)
                    + ","
                    + nowDate
                    + ")";

                //SQL文実行
                l_StateSql.executeUpdate(l_strSql);
            }
        }
    }
}

```

1. DBへのコネクションの取得

2. SQL文の作成

3. SQLの実行

```

} catch( SQLException eSQL) { //SQL例外
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException(eSQL,
                                      50006,
                                      new String [] {"UP SQLException"});

    throw blcErr;
} catch ( Exception err ) { // その他の例外
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException(err,
                                      50006,
                                      new String [] {"UP Exception1"});

    throw blcErr;
} finally{
    //リソースの解放漏れチェック
    if( l_StateSql != null ){
        try {
            //SQL文の器をクローズ
            l_StateSql.close();
        } catch(SQLException eSQL) {
            eSQL = null;
        }
        l_StateSql = null;
    }
    //コネクションのクローズはBLCが行うため不要
}
}
} catch ( BLCException err ) { // BLC例外を捕捉
    throw err;
} catch ( Exception err ) { // システムエラーを捕捉
    BLCException blcErr =
        BLCException.getUserException(err,
                                      50001,
                                      new String [] {"arg1"});

    throw blcErr;
}
}
}

```

4. 例外処理

5. 解放漏れ
チェック

説明

1.DB へのコネクションの取得

DB のコネクションを取得します。ボタン DB 更新処理では、BLC のコネクションを利用できます。BLC のコネクションを利用することで、BLC の DB 処理（受信ボックスや送信ログへの DB アクセス処理）と同一のトランザクションで処理できます。

2.SQL 文の作成

実行する SQL 文を作成します。この例では、APPLYRECORD テーブルに対して、レコードをインサートする select 文を作成しています。

3.SQL の実行

SQL を実行し、レコードセットにデータを取得します。

トランザクションの決着（コミットやロールバック）は BLC が実行するため、ユーザプログラムでは実行しません。ユーザプログラムでコミットやロールバック、コネクションのクローズなどを実行した場合、BLC のデータベースに不整合が起こる原因となりますので注意してください。

4.例外処理

DB アクセス処理で例外が発生した場合の処理を記述します。この例では、DB アクセス処理で発生した SQL 例外とそれ以外の例外を捕捉し、BLC 例外をスローしています。ボタン DB 更新処理メソッドで BLC 例外をスローすることで、BLC が例外処理を実行します。

5.解放漏れチェック

例外が発生した場合にリソースの解放漏れを起こさないようにするため、finally 節で解放漏れをチェックし、リソース解放処理をします。

8.2 EUR Form 帳票遷移 JSP のカスタマイズ

EUR Form 帳票遷移 JSP (BLCEURProcessSample.jsp) は、EUR Form 帳票のボタンをクリックしたときに呼び出されるページ (uCosminexus EUR Developer の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログにある [送信ユニット] タブで URL に指定するページ) のサンプルです。

EUR Form 帳票遷移 JSP をカスタマイズして、利用環境に応じた処理を組み込む必要があります。サンプルでは、次のパラメタ名および値に対応する処理を行っています。このパラメタ名および値は、uCosminexus EUR Developer の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログにある [送信ユニット] タブで、[送信ボタン] 領域の [パラメタ] 欄で指定します。

パラメタ名	値	BLC の動作
"Param"	"Back"	閉じる
"Param"	"Apply"	申請
"Param"	"Approval"	承認
"Param"	"BLC_Suspend"	保留
"Param"	"BLC_Reject"*	却下
"Param"	"BLC_Reapply"*	再申請
"Param"	"BLC_Destruction"*	破棄
"Param"	"BLC_Conference"*	相談
"Param"	"BLC_Reply"*	回答

注※

このパラメタを使用する場合は、ビジネスプロセス定義およびユーザ追加処理の対応が必要です。帳票ジェネレータ (BLSG) 付属のサンプル帳票を参考にカスタマイズしてください。

●保留機能の追加方法

EUR Form 連携帳票に保留機能を追加する方法を説明します。

EUR Form 帳票に保留ボタンを追加する方法

EUR Form 帳票作成で保留ボタンを追加します。ボタンの ID、キャプションは任意ですが、帳票間で統一するため次の値をお勧めします。

表 8-3 保留ボタンの設定値の例

項目	値
帳票コントロール ID	CID_CB_SUSPEND
キャプション	保留

上記で追加した保留ボタンについて、送信ユニットのプロパティで送信ボタンとして追加し、パラメタを次のように設定してください。

表 8-4 送信ユニットパラメタ (推奨値)

パラメタ名	値
Param	BLC_Suspend

既存のユーザ帳票でパラメタに同一の値を使用している場合、「BLC_Suspend」以外の値を設定することもできます。この場合は、BLCEURProcessSample.jsp ファイルのパラメタ判定条件 ACT_PARAM_SUSPEND の値を適宜変更してください。

対象ファイル：

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥webhome¥app¥main¥BLCEURProcessSample.jsp

BLCEURProcessSample.jsp の送信ユニットパラメタの設定箇所を次に示します。

(中略)

```
final String ACT_PARAM_APPLY = "Apply";
final String ACT_PARAM_APPROVAL = "Approval";
final String ACT_PARAM_SUSPEND = "BLC_Suspend";
final String ACT_PARAM_BACK = "Back";
(以下略)
```

上記の下線部を EUR Form 帳票の保留ボタンに設定した送信ユニットパラメタと同じ値にします。

保留ボタンを非表示にする方法

新規申請時および内容確認時は、保留機能は使用できません。ユーザが保留ボタンを押した場合、次のようなメッセージが表示されます。

新規申請の場合：「新規申請では保留ボタンは使用できません。」

内容確認の場合：「内容確認では保留ボタンは使用できません。」

新規申請時および内容確認時に保留ボタンを表示させないようにするには、EUR Form 連携帳票のカスタマイズ (サーバ側ユーザ追加処理：帳票前処理) でボタン非表示の処理を記述してください。

保留ボタンを非表示にするユーザ追加処理の例を次に示します。

サーバ側ユーザ追加処理 java ファイル

```
// 帳票前処理をユーザが追加するためのメソッド
public void ufsv_addEURFormPreparation() throws BLCEXception {
    try{

        EFormVisible action = new EFormVisible();

        // 帳票一覧からの起票または送信ログからの起票の場合
        if ((befpi.getInfo(befpi.BEF_PROCMODE).equals("0")) ||
            (befpi.getInfo(befpi.BEF_PROCMODE).equals("3"))){
            // 「保留」ボタンを非表示にする
            action.setVisible(false);
            // "CID_CB_SUSPEND"は、「保留」ボタンの帳票コントロールID
            efDoc.modifyControl("CID_CB_SUSPEND", action);
        }

        //ユーザ処理ロジックでエラー判定の例
        //if( !true ) {
        //BLCEXception blcErr = BLCEXception.getUserException( 50000, new String []
        { "arg1" } );
        //throw blcErr;
        //上記判定の終わり
        //}

        //BLCクラスメソッド発行, またはEUR Formメソッドの発行

    //} catch ( BLCEXception err ) { // BLC例外を捕捉
    //throw err;

    //} catch ( EFormException err ) { // Form Service例外を捕捉
    //BLCEXception blcErr = BLCEXception.getUserException( err, 50002, new String []
    { "arg1" } );
    //throw blcErr;

    } catch ( Exception err ) { // システムエラーを捕捉
        BLCEXception blcErr = BLCEXception.getUserException( err, 50001, new String []
        { "arg1" } );
        throw blcErr;
    }
}
```

8.3 ユーザ追加処理による帳票データの変更方法

この節では、申請ボタンまたは承認ボタンがクリックされたあとで、帳票データ（送信ユニットのデータ）を変更する手順を説明します。

1. サーバ側のユーザ追加処理で、`ufsv_addEURButtonPreparation` メソッドをオーバーライドします。オーバーライドしたメソッドの処理を次に示します。

サーバ側のユーザ追加処理の詳細は、「8.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」、およびマニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCEURFormBase クラス」を参照してください。

2. `BLCEURFormProcessInfo` クラスの `getInfo` メソッドを使って、帳票データ（送信ユニットのデータ）を取得します。

`getInfo` メソッドの書式を次に示します。帳票データ（送信ユニットのデータ）は、XML 形式データの文字列となっていることに注意してください。

```
befpi.getInfo(befpi.BEF_EURFORMDATA);
```

`BLCEURFormProcessInfo` クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「`BLCEURFormProcessInfo` クラス」を参照してください。

3. `javax.xml.parsers.DocumentBuilder` クラスの `parse` メソッドを使って、`org.w3c.dom.Document` オブジェクトを取得します。

4. 3.で取得した `org.w3c.dom.Document` オブジェクトを使って、各コントロールの値を取得、変更、または削除します。

コントロールの値を変更する場合は、「9.6.3 文字コードの範囲」、および帳票生成時に設定した最大桁数に注意してください。不正な値に変更すると、帳票を開けなくなる場合があります。

5. 編集した `org.w3c.dom.Document` オブジェクトを、`javax.xml.transform.Transformer` の `transform` メソッドを使って、文字列に変換します。

6. `BLCEURFormProcessInfo` クラスの `setEURFormData` メソッドを使って、帳票データ（送信ユニットのデータ）を格納します。

`setEURFormData` メソッドの書式を次に示します。

```
befpi.setEURFormData(<5. で変換した文字列>);
```

`BLCEURFormProcessInfo` クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「`BLCEURFormProcessInfo` クラス」を参照してください。

8.4 送信ログからの申請の設定方法

送信ログにある案件から新規の申請帳票を開くことができるように、設定できます。この新規の申請帳票には、過去に入力した内容があらかじめ表示されます。

送信ログから申請できるようにするかどうかは、帳票ごとに設定できます。

この設定方法について説明します。

(1) 前提条件

送信ログから申請できるようにするかどうかを設定するには、次の条件があります。

- EUR Form 連携帳票だけが対象となります。BLC 帳票に対して、[帳票登録] 画面で送信ログからの申請を「許可」に設定しても、[送信ログからの申請] ボタンは表示されません。
- 送信ログから申請できる案件は、送信ログに表示されている案件が対象となります。
- 新規の申請帳票には、過去の申請済み案件の現在の情報が表示されます。申請時の情報ではありません。したがって、申請後承認者が何か入力していた場合は、その情報も表示されます。このため、承認者が入力する項目については、申請時の帳票表示で入力内容を空にするなどのユーザアプリケーション側での対応が必要です。
- 送信ログの申請機能から表示される帳票は、申請したときのバージョンの帳票となります。送信ログの旧バージョンの帳票から、変更後の新バージョンの新規帳票を開くことはできません。

(2) 設定方法

EUR Form 連携帳票に対して、送信ログから申請できるようにする方法を説明します。この設定は、システム管理者が帳票ごとに実施します。この設定をした帳票については、すべてのユーザが送信ログから申請できるようになります。

操作手順

1. BLC のメニューポートレットで、[帳票の登録/削除] アイコンをクリックします。
別ウィンドウに、[登録済み帳票一覧] 画面が表示されます。一覧表のいちばん右の列に、送信ログからの申請の利用可否が表示されます。デフォルトは「不可」です。
2. 新規登録する帳票に対して設定する場合は、[新規登録] ボタンをクリックします。[帳票登録用定義選択] 画面で登録する帳票を選択し、[設定] ボタンをクリックします。
登録済みの帳票に対して設定する場合は、変更する帳票の [選択] チェックボックスを選択し、[更新] メニューをクリックします。
[帳票登録] 画面が表示されます。
3. [送信ログからの申請] で"許可"を選択し、[新規登録] ボタンまたは [更新] ボタンをクリックします。
[送信ログからの申請] の設定が完了します。
"許可"を選択した [帳票登録] 画面の例を次に示します。

8 BLCのカスタマイズ方法 (EUR Form 連携帳票の場合)

帳票登録

帳票カテゴリ	各種申請	
帳票名称	販売契約稟議EUR	
頭文字(ノート用)	<input type="text"/>	
帳票格納URL	http://nn.nnn.nn.nn/blc/	
ファイル名	form/Hitachi/SampleConsultationEUR/SampleConsultationEUR_1.jsp	
ビジネスプロセス名	販売契約稟議EUR	
運用	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 不可 <input type="radio"/> 不可(互換)	
送信ログからの申請	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 不可	
帳票利用者	役職 全員	組織 全組織 A(株) 総務 総務庶務
帳票バージョン	1	

不可(互換): BLC 03-01以前のバージョンで、運用状態を「不可」に設定した場合の互換モード(名称別帳票一覧での表示: 不可, 帳票の申請: 許可)です。

新規登録 戻る 閉じる

ページが表示されました イン트라ネット

ワークフローポートレットの [送信ログ] 画面から上記で設定した帳票の案件を選択すると, [案件履歴] 画面に [送信ログからの申請] ボタンが表示されるようになります。

注意事項

「運用」で"不可"を設定し, 「送信ログからの申請」で"許可"を設定した場合, [案件履歴] 画面に [送信ログからの申請] ボタンが表示されます。しかし, [送信ログからの申請] ボタンをクリックすると, 帳票の表示でエラーが発生します。

8.5 そのほかのカスタマイズ

この節では、8.4節までに取り上げた以外のカスタマイズについて紹介します。

カスタマイズで利用するAPIの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

8.5.1 BLC 帳票の場合と同様のカスタマイズ

次のカスタマイズについて、参照先を紹介します。

- BLCDirs クラスに関するカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.2 BLCDirs クラスに関するカスタマイズ」を参照してください。
- クライアント表示機能カスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.3 クライアント表示機能のカスタマイズ」を参照してください。
- 認証処理機能のカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.4 認証処理機能のカスタマイズ」を参照してください。
- 一覧処理機能のカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.5 一覧処理機能のカスタマイズ」を参照してください。
- プロパティファイルのカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.6 プロパティファイルのカスタマイズ」を参照してください。
- エラー情報表示ページのカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.7 エラー情報表示ページのカスタマイズ」を参照してください。
- 案件履歴の追加のカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.8.1 案件履歴の追加 (BLCDBFormDataHistoryOperation クラス, BLCDBPIHistoryElement クラス)」を参照してください。
- ユーザアプリケーションからの申請のカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.8.2 ユーザアプリケーションからの申請 (BLCWFPIStart クラス)」を参照してください。
- 宛先の未指定のチェックのカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.8.3 宛先の未指定のチェック」を参照してください。
- メールの送信のカスタマイズ
カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.8.4 メールの送信 (BLCMail クラス)」を参照してください。
- 案件の引き戻しと差し戻しのカスタマイズ

カスタマイズの方法は BLC 帳票の場合と同様です。詳細は、「5.8.5 案件の引き戻しと差し戻し (BLCWFWIBackward クラス)」を参照してください。

8.5.2 宛先の未登録のチェック (BLCEURFormBase クラス)

EUR Form 連携帳票の場合、「起票時に宛先が登録されているか」について「チェックする / チェックしない」を指定できます。

「チェックしない」を設定した場合は、宛先を登録していなくても起票処理ができるようになります。これによって、エンドユーザに宛先を登録させないで、システム (アプリケーション) で自動的に宛先を設定するといったことができるようになります。

なお、起票時のチェックの指定ができるのは、宛先プルダウンを表示するノード (BLSG で「宛先選択表示作業選択」にチェックがある) の場合です。

カスタマイズ方法

起票時に宛先が登録されているかのチェックの指定は、ユーザ追加処理の帳票開始処理 (ufsv_addEURFormStartup メソッド) で利用します。デフォルトでは「チェックする」が設定されているため、チェックする場合、カスタマイズは不要です。「チェックしない」を設定する場合、BLCEURFormBase クラスの setFlgChkTarget メソッドの引数に BLCEURFormBase.BLC_CHKTARGET_OFF (または"0") を指定します。

8.5.3 帳票データの出力 (BLCDBFormDataOperation クラス)

EUR Form 連携帳票の場合、帳票データテーブルのデータを取得できるようになります。このデータの取得は、ユーザ追加処理以外の業務アプリケーションやバッチ処理などで帳票データを取得するユーザプログラムを作成するときに利用できます。

例えば、帳票のデータを分析するユーザアプリケーションを作成した場合、業務データベースにデータを格納することなく、BLC データベースから直接データを取得できます。これによって、データを格納する手間を省いたり、データベースの容量を節約したりできます。

カスタマイズ方法

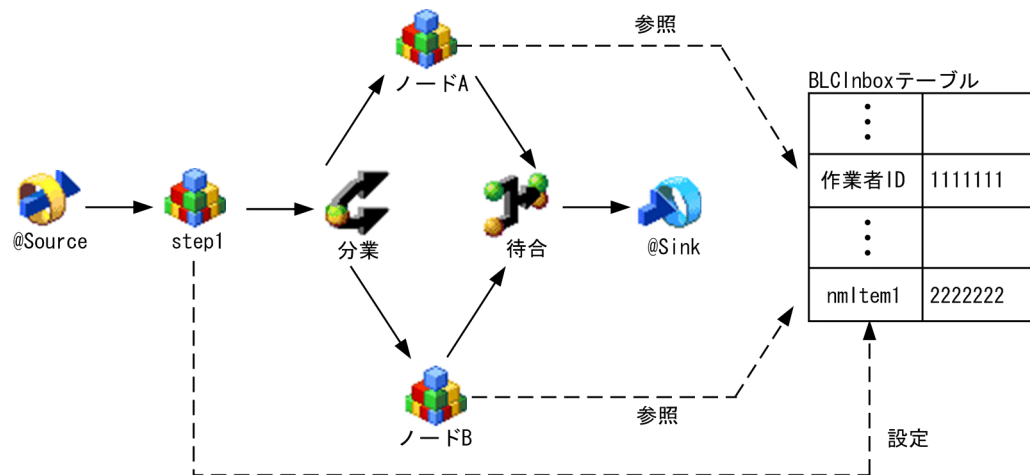
帳票データテーブルのデータを取得する方法を次に示します。

- 1.DB アクセスオブジェクト (BLCDBAccess) を生成し、オープンします。
- 2.BLCDBFormDataOperation を申請 ID および DB アクセスオブジェクトを引数として生成します。
- 3.getEURFormData メソッドを実行します。
- 4.DB アクセスオブジェクトに対して、コネクション決着、クローズを実行します。

8.5.4 データの更新を伴わない作業完了処理 (BLCEURFormProcess クラス)

EUR Form 連携帳票の場合、帳票のデータを更新しなくても作業完了の処理ができるようにカスタマイズできます。この処理は、分業で帳票データを更新するべきノードと、更新するべきでないノードがあるようなビジネスプロセスに利用できます。ビジネスプロセスの例を次に示します。

図 8-4 データの更新を伴わない作業完了処理が有効なビジネスプロセスの例



このビジネスプロセスでは次の作業が実行されます。

1. 帳票データを更新するノード A の作業者が帳票を開きます。
2. 帳票データを更新しないノード B の作業者が帳票を開きます。なお、1.と 2.の順序は逆でもかまいません。
3. ノード A で作業者が帳票データを変更し、承認（作業完了）します。
データベース上の帳票データが、変更したデータに更新されます。
4. ノード B で作業者が帳票データを変更しないで、承認（作業完了）します。
データベース上の帳票データが、変更していないデータで更新されます。

上記の作業では、3.で更新された帳票データが、4.の更新によって変更前の帳票データに戻ってしまいます。

このような場合に、ノード B の処理を帳票のデータを更新しなくても作業完了の処理ができるようにカスタマイズします。これによって、4.で承認（作業完了）しても帳票データが更新されないため、3.で変更した帳票データが失われることはありません。

カスタマイズ方法

帳票のデータを更新しなくても作業完了の処理ができるようにする方法を上記のビジネスプロセスを例に示します。次の方法でカスタマイズすると、カスタマイズの量を低減できます。

1. EUR Form 帳票を作成します。ノード B での承認ボタンをノード A での承認ボタンとは別に用意します。
2. BLCEURProcessSample.jsp を次のようにカスタマイズします。

ノード B で承認ボタンがクリックされたときの処理

setCompleteMode メソッドで作業完了モードを「帳票データを更新しないモード」に設定してから、作業完了 API (BLCEURFormProcess.complete) を呼び出すようにします。

ノード A で承認ボタンがクリックされたときの処理

通常の作業完了 API (BLCEURFormProcess.complete) を呼び出すようにします。ただし、作業完了モードのデフォルトは「更新する」モードであるため、指定する必要はありません。

8 BLCのカスタマイズ方法 (EUR Form 連携帳票の場合)

例に示したビジネスプロセスのほか、分業で、審議ルートとは別にデータを参照するだけの回覧ルートがあるようなビジネスプロセスにも上記の方法を利用できます。

9

電子フォームワークフローの運用

この章では、電子フォームワークフローの開始と終了、バックアップとリストア、データベースの運用、帳票とビジネスプロセスの関係、帳票のバージョンアップ時の注意事項、および電子フォームワークフロー運用時の注意事項について説明します。

9.1 開始と終了

9.1.1 電子フォームワークフローの開始

電子フォームワークフローを開始する場合、次に示す手順で関連するプログラムを起動してから電子フォームワークフローへログインしてください。

操作手順

1. データベースを起動します。
2. Cosminexus の J2EE サーバを起動します (CSCIW および BLC の J2EE アプリケーションを起動します)。
3. 電子フォームワークフローへログインします。

9.1.2 電子フォームワークフローの終了

電子フォームワークフローを終了する場合、次に示す手順で電子フォームワークフローからログアウトしてから関連するプログラムを終了してください。

操作手順

1. 電子フォームワークフローからログアウトします。
2. Cosminexus の J2EE サーバを停止します (CSCIW および BLC の J2EE アプリケーションを停止します)。
3. データベースを終了します。

バックアップしたデータをリストアする場合は、必ずアプリケーションサーバプロセス (CSCIW)、およびアプリケーションサーバプロセス (BLC 実行環境) をすべて終了してください。

9.2 バックアップとリストア

データベースのデータをバックアップする方法と、リストアする方法を説明します。

9.2.1 データのバックアップ

データベースの障害に備えて、データをバックアップする必要があります。

バックアップの対象となるデータには、データベースのリソースと電子フォームワークフローのリソースがあります。

(1) データベースのリソース

ユーザシステムと規模を考慮して、データベースの運用に従って、バックアップの対象となるリソースを決定します。データベースのリソースについては、データベースのマニュアルを参照してください。

(2) 電子フォームワークフローのリソース

バックアップの対象となる電子フォームワークフローのリソースを次に示します。電子フォームワークフローのリソースが格納されているディレクトリの構成については、「付録 E 電子フォームワークフローのファイル」を参照してください。

- BLC プロパティファイル、およびユティリティ用プロパティファイル
- BLC メッセージプロパティファイル、およびユティリティ用メッセージプロパティファイル
- スtringリソースプロパティファイル

9.2.2 データのリストア

データをリストアする場合は、次の機能をすべて停止する必要があります。

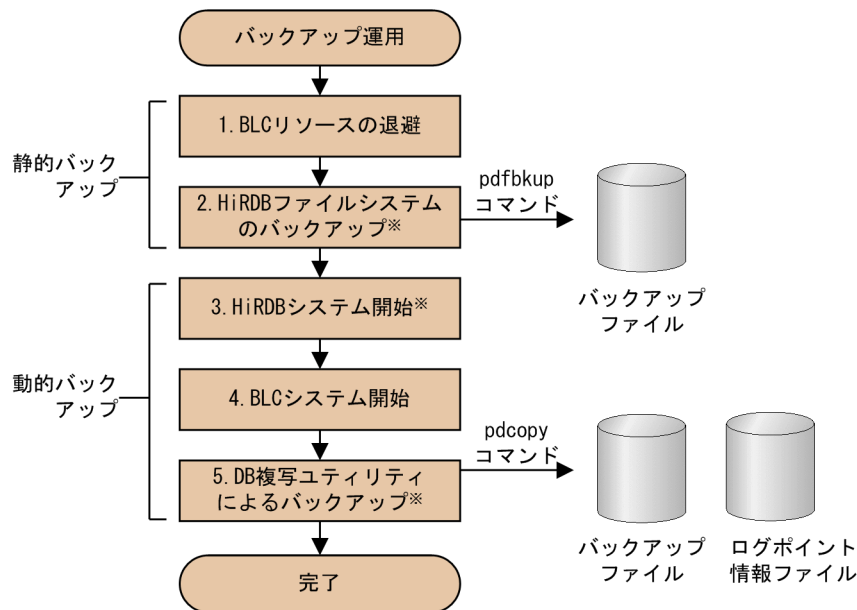
- アプリケーションサーバプロセス (CSCIW)
- アプリケーションサーバプロセス (BLC 実行環境)

9.3 データベース稼働中のバックアップ

データベース稼働中にデータをバックアップする場合は、使用するデータベースの機能を使って実行します。電子フォームワークフローがデータベースの関与しない動的データを持つことはありません。リストアする場合も、データベースを障害時回復する場合の手順に従って実行してください。

HiRDB を使用した場合の、データベース稼働中にデータをバックアップする作業の流れを次に示します。

図 9-1 データベース稼働中のバックアップ作業の流れ (HiRDB 使用時)



注※ マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows (R) 用)」を参照してください。

9.4 データベースの再編成

データベースを効率良く運用するために、データベースを再編成する方法を説明します。

9.4.1 データベースを再編成する必要性

電子フォームワークフローの運用中には、データベースのテーブルに対して、レコードの追加、更新、または削除が発生します。データベースを連続して運用していると、データ格納効率やデータ検索効率が低下するため、必要に応じてデータベースを再編成してください。

9.4.2 データベース再編成の方法

データベースを再編成する前に、バックアップを取得する必要があります。バックアップの方法については、「9.2.1 データのバックアップ」を参照してください。

再編成の方法については、使用するデータベースのマニュアルを参照してください。

9.5 帳票のバージョンアップ

帳票およびビジネスプロセスをバージョンアップする方法を説明します。帳票およびビジネスプロセスのバージョンアップには、次のような場合が考えられます。

表 9-1 帳票バージョンおよびビジネスプロセスのバージョン

項番	バージョンアップ前		バージョンアップ後	
	帳票のバージョン	ビジネスプロセスのバージョン	帳票のバージョン	ビジネスプロセスのバージョン
1	001	1	002	1
2	001	1	001	2
3	001	1	002	2

注意事項

- BLC のポータル画面の管理機能から、帳票を削除した場合、または運用不可にした場合、既存の案件は申請時の帳票を使用して実行されます。
- BLC のポータル画面の管理機能から、帳票を運用不可にした場合、運用可にすると、再度申請処理ができます。
- BLC のポータル画面の管理機能から、帳票を削除したあと、削除したバージョンの帳票で再度申請処理をする場合は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で作成した同一バージョンの帳票を、再度登録する必要があります。

9.5.1 帳票だけをバージョンアップする場合

(1) BLC 帳票の場合

BLC 帳票だけをバージョンアップする場合 (表 9-1 の項番 1)、次の手順で帳票をバージョンアップします。

操作手順

1. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で次の操作をします。
 - [帳票定義] 画面の [プロパティ] タブにある [バージョン] テキストボックスで、帳票バージョンを変更します。
 - [帳票モジュール定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール HTML ファイル名] テキストボックスに、変更した帳票モジュール HTML ファイルを指定します。
2. ユーザ定義クラスを使用している場合は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [帳票定義] 画面の [ユーザ定義] タブにある [クラス名] テキストボックスに、新しい帳票バージョンに対応したユーザ定義クラス名を指定します。
3. 手順 1. および 2. で指定した項目以外の帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の各設定項目を見直してから、BLC 帳票を生成します。
4. 手順 3. で生成した BLC 帳票を、Eclipse の Web プロジェクトにコピーします。
5. ユーザ定義クラスを使用している場合は、Eclipse の Web プロジェクトで、手順 2. で指定したユーザ定義クラスを作成します。

作成するユーザ定義クラスが継承する親クラスには、新しい帳票バージョンの自動生成帳票クラスを指定します。

6. 更新した Web プロジェクトをリデプロイし、Web 帳票アプリケーションをリロードします。

7. BLC のポータル画面の管理機能から、バージョン変更後の帳票を登録します。

帳票を登録する方法については、「4.8.2(1)(a) 帳票の登録」を参照してください。

8. BLC のポータル画面の管理機能から、バージョン変更前の帳票を削除するか、または運用許可を"不可"に変更します。

帳票を削除する方法については、「4.8.2(1)(c) 帳票の削除」を参照してください。

帳票の運用許可を変更する方法については、「4.8.2(1)(b) 帳票の更新」を参照してください。

手順 2.のユーザ定義クラスの指定、および手順 5.のユーザ定義クラスの作成について、例を示します。ここではバージョン 1 の自動生成帳票クラスおよびユーザ定義クラスを次のように仮定します。

- 帳票バージョン 1 の自動生成帳票クラス：SampleConsultation_1_Class
- 帳票バージョン 1 のユーザ定義クラス：SampleConsultation_1_userServerSideClass

帳票バージョンを 2 にバージョンアップする場合、手順 2.では、クラス名に「SampleConsultation_2_userServerSideClass」を指定します。

手順 5.では SampleConsultation_2_userServerSideClass クラスを作成します。

SampleConsultation_2_userServerSideClass クラスの作成時、クラス宣言で次の下線部分のように指定して、SampleConsultation_2_Class クラスを継承します。

```
public class SampleConsultation_2_userServerSideClass extends SampleConsultation_2_Class {
public SampleConsultation_2_userServerSideClass(){
```

(2) EUR Form 連携帳票の場合

EUR Form 帳票だけをバージョンアップする場合 (表 9-1 の項番 1)、次の手順で帳票をバージョンアップします。

操作手順

1. uCosminexus EUR Developer で EUR Form 帳票定義ファイルを開いて、[EUR Form 帳票 文書情報] ダイアログの [管理情報] タブで EUR Form 帳票名を変更してから、EUR Form 帳票定義ファイルを別名で保存します。

EUR Form 帳票定義ファイルのファイル名 (*.efs) には、必ず編集前の EUR Form 帳票定義ファイルと異なるファイル名を指定する必要があります。

なお、EUR Form 帳票を EUR Form 帳票ファイル名で識別させる設定をすることで、EUR Form 帳票名の変更が不要になります。

設定方法

EUR Form の環境設定ファイルに次の設定をします。

```
OverlapFormName=safe
```

この設定によって、EUR Form 帳票名が重複した場合でも、エラーとしないで処理を続行できます。詳細は、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」を参照してください。

2. EUR Form 帳票ファイル、および送信ユニット情報の一覧表ファイルを生成します。*1

EUR Form 帳票ファイルのファイル名 (*.efd) には、必ずバージョンアップ前に生成した EUR Form 帳票ファイルと異なるファイル名を指定する必要があります。

バージョンアップ前に生成した EUR Form 帳票ファイルと同じファイル名を指定して EUR Form 帳票ファイルを生成した場合、バージョンアップ前の帳票によって申請された案件の動作は保証されません。

3. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で対応する EUR Form 連携帳票を開きます。
4. [EUR Form 連携帳票定義] 画面の [基本情報] タブにある [EUR Form 帳票定義ファイル] テキストボックスの [参照] ボタンをクリックし、新しい EUR Form 帳票定義ファイルを指定します。^{※2}
5. 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [EUR Form 連携帳票定義] 画面の [プロパティ] タブにある [バージョン] テキストボックスで、帳票のバージョンを変更します。
バージョンを変更しないで EUR Form 連携帳票を生成した場合、バージョンアップ前の帳票によって申請された案件の動作は保証されません。
6. ユーザ定義クラスを使用している場合、[EUR Form 連携帳票定義] 画面の [ユーザ処理] タブにある [クラス名] テキストボックスに、新しい帳票バージョンに対応したユーザ定義クラス名を指定します。
7. 手順 5. および 6. で指定した項目以外の、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の各設定項目を見直してから EUR Form 連携帳票を生成します。
8. 手順 2. で生成した EUR Form 帳票ファイル、および手順 7. で生成した EUR Form 連携帳票を Eclipse の Web プロジェクトにコピーします。
9. ユーザ定義クラスを使用している場合は、Eclipse の Web プロジェクトで、手順 6. で指定したユーザ定義クラスを作成します。
作成するユーザ定義クラスが継承する親クラスには、新しい帳票バージョンの自動生成帳票クラスを指定します。
10. 更新した Web プロジェクトをリデプロイし、Web 帳票アプリケーションをリロードします。
11. BLC のポータル画面の管理機能から、バージョン変更後の帳票を登録します。
12. BLC のポータル画面の管理機能から、バージョン変更前の帳票を削除するか、または運用不可にします。

注※1

バージョンアップ前の帳票の作成時に、送信ユニット情報の一覧表ファイルを生成していた場合は、手順 2. で送信ユニット情報の一覧表ファイルも生成します。

注※2

バージョンアップ前の帳票の作成時に、送信ユニット情報の一覧表ファイルからファイルを指定していた場合は、バージョンアップ後の帳票でも同様に指定します。[EUR Form 連携帳票定義] 画面の [基本情報] タブにある [送信ユニット情報の一覧表ファイル] テキストボックスの [参照] ボタンをクリックし、新しい送信ユニット情報の一覧表ファイルを指定してください。

手順 6. のユーザ定義クラスの指定、および手順 9. のユーザ定義クラスの作成について、例を示します。ここではバージョン 1 の自動生成帳票クラスおよびユーザ定義クラスを次のように仮定します。

- 帳票バージョン 1 の自動生成帳票クラス：SampleConsultationEUR_1_Class
- 帳票バージョン 1 のユーザ定義クラス：SampleConsultationEUR_1_userServerSideClass

帳票バージョンを 2 にバージョンアップする場合、手順 6. では、クラス名に「SampleConsultationEUR_2_userServerSideClass」を指定します。

手順 9. では SampleConsultationEUR_2_userServerSideClass クラスを作成します。SampleConsultationEUR_2_userServerSideClass クラスの作成時、クラス宣言で次の下線部分のように指定して、SampleConsultationEUR_2_Class クラスを継承します。

```
public class SampleConsultationEUR_2_userServerSideClass extends SampleConsultationEUR_2 Class
{
public SampleConsultationEUR_2_userServerSideClass(){
```

9.5.2 ビジネスプロセスだけをバージョンアップする場合

ビジネスプロセスだけをバージョンアップする場合（表 9-1 の項番 2），CSCIW のコマンドでビジネスプロセスのバージョンを変更します。

バージョンアップ後，帳票一覧から新たに申請帳票を選択して申請する場合は，最新バージョンのビジネスプロセスに案件が投入されます。

バージョンアップ前に開いていた帳票で申請する場合は，古いバージョンのビジネスプロセスに投入されます。

ビジネスプロセスに対して，帳票またはユーザ追加処理に影響のある変更をした場合は，帳票のバージョンアップが必要となります。

（例）ビジネスプロセス名の変更や作業の追加/削除/変更など

9.5.3 帳票とビジネスプロセスをバージョンアップする場合

帳票とビジネスプロセスをバージョンアップする場合（表 9-1 の項番 3），次の手順で帳票およびビジネスプロセスをバージョンアップします。

操作手順

1. ビジネスプロセスをバージョンアップします。

「9.5.2 ビジネスプロセスだけをバージョンアップする場合」に従って，ビジネスプロセスをバージョンアップしてください。

2. 帳票をバージョンアップします。

「9.5.1 帳票だけをバージョンアップする場合」の手順に従って，帳票をバージョンアップしてください。

新規に帳票を申請する場合，帳票一覧から選択した帳票の最新バージョンのビジネスプロセスに案件が投入されます。

既存の案件の場合，開始時の帳票バージョンと開始時のビジネスプロセスバージョンで実行されます。

9.6 電子フォームワークフローの運用上の注意事項

電子フォームワークフローを運用する上での注意事項のうち、BLC 運用時の注意事項を説明します。

9.6.1 複数のアプリケーションサーバ使用時の帳票登録方法

アプリケーションサーバが複数ある環境でも、データベースが一つの場合は、帳票の登録または削除を一つのアプリケーションサーバで実行すれば、すべてのアプリケーションサーバで有効になります。

9.6.2 文字コードの扱い

電子フォームワークフローで使用する文字は、Shift_JIS コードで扱います。帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成したファイルをエンコードする際、Cosminexus 付属の JDK コマンド (native2ascii コマンド) の -encoding に Shift_JIS を指定してください。

図 9-2 エンコードオプションの指定例

```
native2ascii -encoding Shift_JIS test.jsp > test2.jsp
```

9.6.3 文字コードの範囲

BLSG で使用できる文字コードは、Shift_JIS および MS932 だけです。

CSCIW-Definer では定義ファイルの XML の encoding として、UTF-8、Shift_JIS、または MS932 が指定できますが、Shift_JIS または MS932 の encoding で作成された定義ファイルを読み込めます。

EUR Form 連携帳票の場合は、さらに EUR Form で使用できる文字の制限があります。EUR Form で使用できない文字を使用すると、動作は保証されません。EUR Form で使用できる文字については、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」を参照してください。

9.6.4 BLC のカスタマイズ方法

JSP ページおよびプロパティファイルをカスタマイズした場合、文字コードに Shift_JIS を指定してエンコードしてください。

9.6.5 案件名に関する注意事項

BLC とほかのシステムを同一の CSCIW 上に構築する場合、BLC プロパティファイル (BLC.BLCproperties) の PINamePrefix キーを使用して、BLC の案件名とほかのシステムの案件名が重複しないように案件名を設定する必要があります。案件名が重複していると、受信ボックスおよび送信ログが正しく表示されないことや、案件が正しく処理されないことがあります。

9.6.6 EUR Form 連携帳票使用時の注意事項

EUR Form 連携帳票を使う場合、次の点を考慮する必要があります。

- EUR Form 帳票を表示するときに、表示されるファイルをダウンロードするかどうかを問い合わせるメッセージが表示される場合は、必ず【開く】ボタンをクリックしてください。

[開く] ボタン以外のボタンをクリックすると、何も表示されない画面になります。

誤って [キャンセル] ボタンなどをクリックした場合は、ログインから実行し直す必要があります。

- EUR Form 連携帳票を使う場合、URL に指定するホスト名を区別します。
uCosminexus EUR Developer の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログにある [送信ユニット] タブで指定した URL と、BLC 接続時に指定する URL には、同じホスト名を指定する必要があります。次のような場合は、EUR Form 帳票の処理時に BLC 認証エラーとなります。
 - uCosminexus EUR Developer の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログにある [送信ユニット] タブでは URL にホスト名を指定して、BLC の認証ページでは URL に IP アドレスを指定した場合
 - uCosminexus EUR Developer の [送信ユニットのプロパティ] ダイアログにある [送信ユニット] タブでは URL に IP アドレスを指定して、BLC の認証ページでは URL にホスト名を指定した場合
- [EUR Form 連携帳票定義] 画面の [基本情報] タブで、送信ユニット情報の一覧表ファイルまたは EUR Form 帳票定義ファイルのどちらかを選択します。しかし、BLSG のバージョンまたは EUR Form 帳票定義の内容によっては選択できない場合があります。

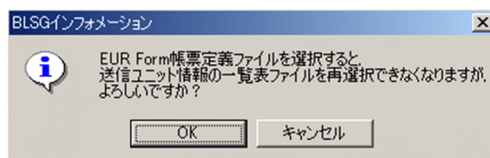
次の表に状態を示します。

表 9-2 [EUR Form 帳票] 領域選択状態

[EUR Form 帳票] 領域	EUR Form 連携帳票定義の新規作成時	EUR Form 連携帳票定義の変更時		
		BLSG 03-00 以前で作成	送信ユニット情報の一覧表ファイルから作成 (BLSG 03-01 以降)	EUR Form 帳票定義ファイルから作成 (BLSG 03-01 以降)
送信ユニット情報の一覧表ファイル	選択不可	選択可	選択可	選択不可
EUR Form 帳票定義ファイル	選択可	選択可	選択可	選択可

- EUR Form 連携帳票定義の変更時、送信ユニット情報の一覧表ファイルが選択されている状態で、[EUR Form 帳票定義ファイル] テキストボックスの [参照] ボタンをクリックした場合、次の図のメッセージダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[EUR Form 帳票定義ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

図 9-3 BLSG インフォメーション



送信ユニット情報の一覧表ファイルから EUR Form 帳票定義ファイルへ変更した場合、ユーザ追加処理内でボタン表示に関する処理をしているときは、処理を見直してください。

- BLSG で帳票コントロール表示属性、ボタン制御およびページ制御の設定ができます。BLC 実行環境での EUR Form 帳票の表示優先順位を次に示します。

表 9-3 EUR Form 帳票の表示優先順位

優先順位	処理
1	ユーザ追加処理（ページ処理）
2	ページ制御（BLSG）
3	ユーザ追加処理（帳票コントロール表示属性/ボタン制御）
4	帳票コントロール表示属性/ボタン制御（BLSG）

9.6.7 uCosminexus EUR Developer で BLC 連携用帳票を作成する場合の注意事項

(1) BLC 連携帳票の帳票コントロール ID の設定に関する注意事項

uCosminexus EUR Developer の [帳票コントロールのプロパティ] ダイアログで、[BLC 連携用帳票コントロール] の設定を変更する場合の注意事項について次に示します。

(a) 帳票コントロール ID (#BLC_EF_TITLE) に関する注意事項

- [editFiled] タブの [初期値] で指定したタイトルは無視されます。帳票のタイトルは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で、EUR Form 連携帳票作成時に指定した「帳票名」が表示されます。
- [editFiled] タブの [最大桁] には、必ず 64 以上を指定する必要があります。
- [表示制御] タブの [表示する] および [入力可能にする] の設定は無視されます。表示、および入力可能に関する設定は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [EUR Form 連携帳票定義] 画面にある [帳票コントロール表示属性] タブで行います。

(b) 帳票コントロール ID (#BLC_MF_COMMENT) に関する注意事項

[表示制御] タブの [表示する] および [入力可能にする] の設定は無視されます。表示、および入力可能に関する設定は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [帳票コントロール表示属性] タブで行います。

(c) 帳票コントロール ID (#BLC_DL_ADDRESS) に関する注意事項

- [DropDownList] タブの [キャプションと値] に関する設定は無視されます。宛先の追加・削除は、BLC の宛先管理画面で行います。
- [表示制御] タブの [表示する] および [入力可能にする] の設定は無視されます。表示、および入力可能に関する設定は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の [宛先選択表示作業選択] ダイアログで行います。[宛先選択表示作業選択] ダイアログは、[EUR Form 連携帳票定義] 画面の [作業関連] タブにある [宛先選択表示作業リスト] ボタンをクリックすると表示されます。

(2) Web サーバ連携をしない場合の EUR Form 帳票のファイル名に関する注意事項

uCosminexus Application Server の Web サーバ連携機能を使わない場合、EUR Form 帳票のファイル名 (*.efd) には、ASCII 文字列（半角英数字）だけを使ったファイル名を付ける必要があります。ASCII 文字列（半角英数字）以外のファイル名を付けた場合は、動作は保証されません。Web サーバ連携機能については、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド」を参照してください。

(3) EUR Form 帳票作成時の注意事項

EUR Form 帳票に帳票コントロールを追加する場合、メンバパス（root/からのフルパス）は一意になるように指定してください。同一のメンバパスがある場合、申請/承認処理でエラーが発生します。

10 ユーザの管理

この章では、ユーザ管理機能を使ってユーザ情報を管理したり、アクセス制御機能を使ってユーザが実行できる操作を制御したりする方法について説明します。

10.1 ユーザ情報の管理

システム管理者権限を持つユーザは、ユーザ情報（役職、組織、ユーザなど）を管理（登録、更新、削除など）できます。ユーザ情報の管理は GUI で操作します。

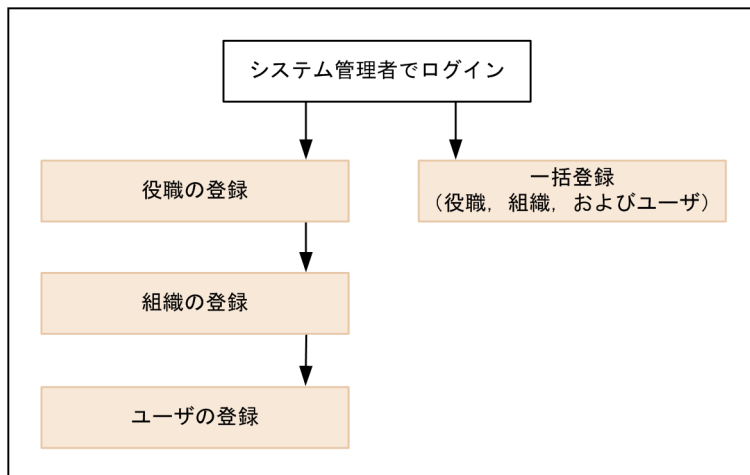
10.1.1 ユーザ情報管理の流れ

ユーザ情報（役職、組織、およびユーザ）を管理（登録、更新、削除など）する流れについて、電子フォームワークフローのインストール直後および運用時に分けて説明します。

- インストール直後のユーザ情報の登録

ユーザ情報はシステム管理者だけが登録できます。

登録には、役職、組織、ユーザの順に登録する方法と、すべてを一括して登録する方法があります。登録方法を次の図に示します。



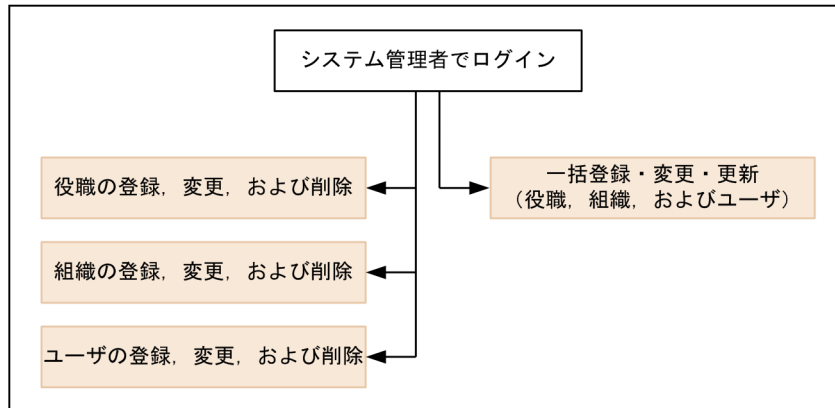
- 運用時のユーザ情報の管理

システム管理者は、ユーザ情報を登録、更新、および削除できます。ユーザ情報の管理は、役職、組織、ユーザの情報ごとに操作する方法と、すべてを一括して操作する方法があります。

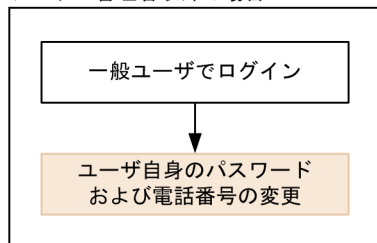
また、システム管理者以外のユーザは、自身のユーザ情報（パスワード、電話番号）を変更できます。

ユーザ情報を管理する方法を次の図に示します。

システム管理者の場合



システム管理者以外の場合



なお、一般ユーザが自身のユーザ情報を変更する場合の画面構成は、「4.9 ユーザを編集する」を参照してください。

10.1.2 ユーザ情報管理の画面構成および制限事項

ここでは、ユーザ情報の管理で使用する画面の画面構成、およびユーザ情報を管理する機能の制限事項について説明します。

(1) [ユーザ情報管理] 画面の構成

システム管理者がユーザ情報を管理する [ユーザ情報管理] 画面の構成を次に示します。



【ユーザー情報管理】画面は、共通エリア、ツリーエリア、および各画面エリアから構成されます。

各エリアの構成について次に示します。

- 共通エリア

CSV ファイルを使用して、役職、組織、およびユーザの情報を一括して登録または出力できます。詳細は、「10.1.6 役職・組織・ユーザの一括登録」を参照してください。

【CSV 読込】 ボタン

【CSV 読込】画面が表示され、情報を一括登録できます。

【CSV 出力】 ボタン

【CSV 出力】画面が表示され、情報を一括出力できます。

【閉じる】 ボタン

【ユーザー情報管理】画面が閉じます。

なお、共通エリアは【ユーザー情報管理】画面で常に表示されます。

- ツリーエリア

ユーザ管理機能のアイコンおよび組織の階層がツリー状に表示されます。

【役職】 アイコン

【役職一覧】画面が各画面エリアに表示されます。

詳細は、「10.1.3 役職の管理」を参照してください。

【組織】 アイコン

組織管理画面が各画面エリアに表示されます。

【組織】アイコンをクリックした場合、組織管理画面には新規組織を登録する画面が表示されます。

【組織】アイコンの配下には、最上位組織が表示されます。また、表示される組織は 15 階層までです。組織の階層が 16 以上の場合は表示されません。

なお、組織のアイコンをクリックすると、次の画面および項目が表示されます。

- ・各画面エリア：選択した組織の組織管理画面が表示されます。
- ・ツリーエリア：選択した組織の配下の組織が表示されます。組織は上位組織、組織コードの順序で表示されます。配下の組織がない場合は表示されません。

詳細は、「10.1.4 組織の管理」を参照してください。

【ユーザ検索】 アイコン

【ユーザ検索入力】画面が各画面エリアに表示されます。

詳細は、「10.1.5(1)(c) 【ユーザ検索入力】画面」を参照してください。

【組織追加】 ボタン

組織管理画面が各画面エリアに表示されます。

組織管理画面には新規組織を登録する画面が表示されます。

なお、組織のアイコンを選択している状態で【組織追加】ボタンをクリックすると、組織管理画面の【上位組織】テキストボックスに次の値が選択されます。

- ・組織管理画面の上位組織：選択した組織と同じ階層

組織の作成については、「10.1.4(2)(a) 組織の登録」を参照してください。

【組織削除】 ボタン

組織管理画面に表示されている組織が削除されます。

組織の削除については、「10.1.4(2)(c) 組織の削除」を参照してください。

なお、ツリーエリアは【ユーザ情報管理】画面で常に表示されます。

・各画面エリア

ツリーエリアで選択した項目の画面が表示されます。

(2) ユーザ管理機能の注意事項および制限事項

・ ユーザの設定について

- ・ ユーザは、必ず一つの組織に所属させてください。
ユーザを複数の組織に所属させることはできません。
- ・ ユーザには必ず一つの役職を設定してください。
一人のユーザに複数の役職を設定することはできません。
- ・ 必ず一人以上のユーザにシステム管理者権限を設定してください。

・ パスワードについて

- ・ パスワードにユーザ ID と同じ値は設定できません。
- ・ パスワードに指定する文字の最小文字数は、プロパティファイル (BLC.BLCproperties) の「PasswordMin」に設定した値です。デフォルトでは 8 文字以上に設定されています。
- ・ パスワードに設定できる文字は A-Z, 0-9, a-z, および記号です。これ以外を設定した場合、動作は保証されません。

設定できる記号を次に示します。

```
! " # $ % & ' ( ~ `
) * + , - . / : ; {
< = > ? @ [ ¥ ] ^ }
| (垂直バー)
_ (半角アンダーバー)
  (半角スペース)
```

- ユーザ情報を一括登録する場合、ユーザのパスワード情報は平文形式で CSV ファイルに記述してください。テーブルに登録するときに、環境構築時にプロパティファイル (BLC.BLCproperties の PasswordType) に設定したパスワード形式で変換されて登録されます。
- ユーザ情報などを変更した場合の画面遷移について
ユーザ情報などを変更した場合、必ず画面を更新してください。更新しないで画面を遷移させた場合、変更内容は反映されません。
- 予約語について
次の予約語を使用して、各画面でユーザ情報などを登録および更新することはできません。
 - \$root：組織コード
 - TOP：役職略称
 - LOW：役職略称

10.1.3 役職の管理

役職の登録、変更、および削除について説明します。

役職の変更および削除は [役職一覧] 画面、役職の登録は [役職登録] 画面で実行できます。

(1) 画面の構成

(a) [役職一覧] 画面

[役職一覧] 画面を次に示します。

削除	変更	役職コード	役職略称*	役職順序*▲	役職名	役職名カナ	役職名英字(平角)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00000100	社長	100	代表取締役社長	シヤチョウ	President
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00000400	取締役	400	取締役	トリシマリヤク	Director
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00002000	事業部長	2000	事業部長	シギョウブチョウ	Division Manager
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00002100	副事業部長	2100	副事業部長	フクシギョウブチョウ	Deputy Division Man
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00003000	部長	3000	部長	ブチョウ	General Manager
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00003100	副部長	3100	副部長	フクブチョウ	Deputy General Mar
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00003200	部長代理	3200	部長代理	ブチョウダイリ	Acting General Man
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00004000	課長	4000	課長	カチョウ	Manager
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00004100	課長代理	4100	課長代理	カチョウダイリ	Acting Manager
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00005000	係長	5000	係長	カカリチョウ	Assistant Manager
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00005100	主任	5100	主任	シュニン	Chief
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	00010000	社員	10000	社員	シヤイン	Staff

2008年12月18日 19:19:37 現在 [再表示](#)

[役職一覧] 画面の構成を説明します。

[役職追加] メニュー

[役職登録] 画面が表示されます。

[更新] メニュー

[変更] チェックボックスで選択した役職の変更内容が、役職情報テーブル (BLC_JOB_TITLE_T テーブル) に登録されます。

また、[削除] チェックボックスで選択した役職が役職情報テーブルから削除されます。

なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

役職の一覧

役職情報テーブルの一覧が表示されます。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは役職順序でソートされます。

[削除] チェックボックス

削除する役職を選択するか、または選択を解除します。

[変更] チェックボックス

変更する役職を選択するか、または選択を解除します。

役職コード

登録されている役職コードが表示されます。

役職コードは変更できません。

[役職略称] テキストボックス

登録されている役職略称が表示されます。

役職略称は変更できます。全角 42 文字以下の文字列で入力してください。ただし、次の文字は入力できません。

- 予約語
- 「-」 (半角ハイフン)
- 「,」 (半角コンマ)

[役職順序] テキストボックス

登録されている役職順序が表示されます。

値の小さい役職が上位役職、値の大きい役職が下位役職として設定されます。

役職順序は変更できます。0~32767の半角数字を入力してください。

[役職名] テキストボックス

登録されている役職名が表示されます。

役職名は変更できます。全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

[役職名カナ] テキストボックス

登録されている役職名のかたかな名が表示されます。

役職名カナは変更できます。全角 42 文字以下のかたかなで入力してください。

【役職名英字（半角）】 テキストボックス

登録されている役職名の英字名が表示されます。

役職名英字（半角）は変更できます。半角 128 文字以下の英字で入力してください。

(b) 【役職登録】 画面

【役職登録】 画面を次に示します。

役職登録	
追加 戻る	
*は必須入力項目です。	
役職コード*	<input type="text"/>
役職順序*	<input type="text"/>
役職略称*	<input type="text"/>
役職名	<input type="text"/>
役職名カナ	<input type="text"/>
役職名英字(半角)	<input type="text"/>
追加	

【役職登録】 画面の構成を説明します。

【追加】 メニュー

追加項目が役職情報テーブルに登録されます。

なお、【追加】メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

【戻る】 メニュー

【役職一覧】画面に戻ります。

新規役職の入力項目**【役職コード】 テキストボックス**

追加したい役職コードを入力します。

半角 128 文字以下の英数字で入力してください。

【役職順序】 テキストボックス

追加したい役職順序を入力します。

値の小さい役職が上位役職、値の大きい役職が下位役職として設定されます。

0~32767 の半角数字を入力してください。

役職順序に同じ値を設定した役職については、役職の一覧をドロップダウンリストなどで表示する場合に並び順が不定となります。

【役職略称】 テキストボックス

追加したい役職略称を入力します。

全角 42 文字以下の文字列で入力してください。
ただし、次の文字は入力できません。

- 予約語
- 「-」 (半角ハイフン)
- 「,」 (半角コンマ)

【役職名】 テキストボックス

追加したい役職名を入力します。
全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

【役職名カナ】 テキストボックス

追加したい役職名のかたかな名を入力します。
全角 42 文字以下のかたかなで入力してください。

【役職名英字 (半角)】 テキストボックス

追加したい役職名の英字名を入力します。
半角 128 文字以下の英字で入力してください。

(2) 操作手順

役職を登録, 変更, および削除する操作の手順を説明します。

操作手順

1. システム管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
2. メニューポートレットの【ユーザ情報管理】メニューをクリックします。
別ウィンドウに【ユーザ情報管理】画面が表示されます。
3. ツリーエリアの【役職】アイコンをクリックします。
各画面エリアに【役職一覧】画面が表示されます。
4. 役職を登録, 変更, および削除します。
役職の登録については、「(a) 役職の登録」, 変更については「(b) 役職の変更」, 削除については「(c) 役職の削除」を参照してください。

(a) 役職の登録

役職を登録する手順を説明します。

操作手順

1. 【役職追加】メニューをクリックします。
【役職登録】画面が表示されます。
2. 登録する役職の内容を指定します。
【役職コード】、【役職順序】、および【役職略称】は入力必須です。
入力できる文字列については、「(1)(b) 【役職登録】画面」を参照してください。
3. 【追加】メニューをクリックします。
役職情報テーブルに役職が登録され、役職一覧が更新されます。

(b) 役職の変更

役職を変更する手順を説明します。

役職を変更する場合は次の点に注意してください。

- 役職順序だけを変更する場合の動作は保証できません。役職順序だけを変更した場合、役職コードだけを保持している機能で正常に動作しないおそれがあります。

操作手順

1. 変更する役職の [変更] チェックボックスをオンにします。
2. 役職一覧のテキストボックスに変更する内容を指定します。
[役職略称] および [役職順序] に空文字列は入力できません。
入力できる文字列については、[(1)(a) [役職一覧] 画面] を参照してください。
3. [更新] メニューをクリックします。
変更内容が役職情報テーブルに反映され、役職一覧が更新されます。

(c) 役職の削除

役職を削除する手順を説明します。

役職を削除する場合は次の点に注意してください。

- ユーザが存在する役職は削除できません。
- 帳票利用者に設定されている役職は削除できません。なお、ユーザ管理機能以外の方法で該当する役職を削除した場合は、[帳票登録] 画面で帳票利用者を再設定する必要があります。

操作手順

1. 削除する役職の [削除] チェックボックスをオンにします。
2. [更新] メニューをクリックします。
確認ダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。
選択した役職が役職情報テーブルから削除され、役職一覧が更新されます。

(3) 注意事項

次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。

- 入力項目に誤りがある場合
- 同じ役職コードがすでに存在する場合
- チェックボックスを選択していない状態で [更新] メニューをクリックした場合
- [削除] および [変更] チェックボックスを両方選択している状態で [更新] メニューをクリックした場合

10.1.4 組織の管理

組織の登録、変更、および削除について説明します。

組織の登録、変更、および削除は組織管理画面で実行できます。

(1) 画面の構成

(a) 組織管理画面

組織管理画面を次に示します。

登録する場合

組織情報		ユーザ情報	
追加			
*は必須入力項目です。			
組織コード*	<input type="text"/>		
組織略称*	<input type="text"/>		
組織名	<input type="text"/>		
上位組織	<input type="text"/>		選択
			追加

変更する場合

組織情報		ユーザ情報	
更新			
*は必須入力項目です。			
組織コード*	EKGYO000		
組織略称*	営業		
組織名	営業部		
上位組織	A(株)		選択
			更新

組織管理画面の構成を説明します。

組織の階層

ツリーエリアで選択した組織の階層が、「/」（スラッシュ）で区切られて表示されます。組織を変更する場合に表示されます。

【組織情報】 タブ

組織管理画面が表示されます。

デフォルトでは【組織情報】 タブが選択されています。

【ユーザ情報】 タブ

ユーザー一覧画面が表示されます。

なお、【組織追加】 ボタンから組織管理画面を開いている場合、組織を作成し、登録するまでは【ユーザ情報】 タブは選択できません。

● 新しい組織を登録する場合

【追加】 メニュー

設定した組織を組織管理情報テーブル（BLC_ORG_T テーブル）に登録します。

組織の登録が成功すると、組織管理画面が更新され、【ユーザ情報】 タブが選択できるようになります。

なお、【追加】 メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

組織管理の情報

【組織コード】 テキストボックス

追加したい組織コードを入力します。

半角 128 文字以下の英数字で入力してください。ただし、予約語は入力できません。

【組織略称】 テキストボックス

追加したい組織略称を入力します。

全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

【組織名】 テキストボックス

追加したい組織名を入力します。

全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

【上位組織】 テキストボックス

【上位組織選択】 画面で選択した組織が表示されます。

【選択】 ボタン

【上位組織選択】 画面が表示されます。

【上位組織選択】 画面で上位組織を選択できます。

● 組織を変更する場合

【更新】 メニュー

更新した組織を組織管理情報テーブルに登録します。

なお、【更新】 メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

組織管理の情報

【組織コード】 テキストボックス

選択した組織の組織コードが表示されます。

組織コードは変更できません。

【組織略称】 テキストボックス

選択した組織の組織略称が表示されます。

組織略称は変更できます。全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

[組織名] テキストボックス

選択した組織の組織名が表示されます。

組織名は変更できます。全角 42 文字以下の文字列で入力してください。

[上位組織] テキストボックス

選択した組織の上位に位置する組織が表示されます。

上位組織は変更できます。[上位組織選択] 画面で上位組織を選択してください。

[選択] ボタン

[上位組織選択] 画面が表示されます。

[上位組織選択] 画面で上位組織を選択できます。

(b) [上位組織選択] 画面

[上位組織選択] 画面を次に示します。



[上位組織選択] 画面にはツリーエリアと同じ構成の組織階層が表示されます。

[上位組織選択] 画面の構成を説明します。

[組織] アイコン

組織の階層が表示されます。

[組織] アイコンの配下には、最上位組織が表示されます。

[組織] アイコンをクリックすると、最上位組織だけが表示されます。

なお、組織のアイコンをクリックすると、次の項目が表示されます。

- 組織：選択した組織の配下の組織が表示されます。組織は上位組織、組織コードの順序で表示されます。配下の組織がない場合は表示されません。
- 上位組織の表示欄：選択した組織の階層が表示されます。

上位組織の表示欄

選択した組織の階層が表示されます。

なお、[組織] アイコンを選択した場合、上位組織の表示欄にはなにも表示されません。この場合は最上位組織を作成します。

【設定】 ボタン

上位組織の表示欄に表示された階層が呼び出し元の画面に設定されます。

【閉じる】 ボタン

[上位組織選択] 画面が閉じます。

(2) 操作手順

組織を登録、変更、および削除する操作の手順を説明します。

操作手順

1. システム管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
2. メニューポートレットの [ユーザ情報管理] メニューをクリックします。
別ウィンドウに [ユーザ情報管理] 画面が表示されます。
3. 組織を登録、変更および削除します。
組織の登録については、「(a) 組織の登録」、変更については「(b) 組織の変更」、削除については「(c) 組織の削除」を参照してください。

(a) 組織の登録

組織を登録する手順を説明します。

操作手順

1. ツリーエリアの [組織] アイコンまたは [組織追加] ボタンをクリックします。
各画面エリアに、組織管理画面が表示されます。
なお、ツリーエリアで組織を選択したあとに [組織追加] ボタンをクリックした場合は、上位組織の表示欄に選択した組織の階層が表示されます。
2. 登録する組織の内容を指定します。
[組織コード] および [組織略称] は入力必須です。
入力できる文字列については、「(1)(a) 組織管理画面」を参照してください。
また、階層を選択する場合、[選択] ボタンをクリックしてください。[上位組織選択] 画面が表示され、階層を選択できます。なお、[上位組織選択] 画面で [組織] アイコンを選択した場合は、最上位組織を作成できます。
3. [追加] メニューをクリックします。
組織管理情報テーブルに組織が登録されます。

(b) 組織の変更

組織を変更する手順を説明します。

操作手順

1. ツリーエリアの組織を一つ選択します。
各画面エリアに選択した組織の情報が表示されます。
2. [組織略称]、[組織名]、および [上位組織] の設定を変更する場合、変更内容を指定します。
[組織略称] に空文字列は入力できません。

入力できる文字列については、「(1)(a) 組織管理画面」を参照してください。

また、階層を変更する場合、[選択] ボタンをクリックしてください。[上位組織選択] 画面が表示され、階層を選択できます。なお、[組織] アイコンを選択した場合は、最上位組織を作成できます。

3. [更新] メニューをクリックします。

変更内容が組織管理情報テーブルに反映されます。

(c) 組織の削除

組織を削除する手順を説明します。

組織を削除する場合、ユーザが存在する組織は削除できません。注意してください。

操作手順

1. ツリーエリアの組織を一つ選択します。

各画面エリアに選択した組織の組織管理情報が表示されます。

2. ツリーエリアの [組織削除] ボタンをクリックします。

選択した組織が組織管理情報テーブルから削除されます。

(3) 注意事項

- 次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。
 - 遷移元の画面を閉じたり、ほかの画面に遷移させたりしたあとで、[上位組織選択] 画面の [設定] メニューをクリックした場合
 - 入力項目に誤りがある場合
 - 組織の登録時に同じ組織コードがすでに存在する場合
 - 選択した上位組織がすでに削除されている場合
- [登録] または [削除] メニューのクリック時にシステムエラーが発生した場合は、エラーページに遷移します。表示されたエラー内容を基に、要因を調査して対処してください。

10.1.5 ユーザの管理

ユーザの登録、変更、削除、および検索について説明します。

ユーザの変更および削除はユーザー一覧画面および [ユーザ検索結果] 画面、ユーザの登録はユーザ登録画面、ユーザの検索は [ユーザ検索入力] 画面で実行できます。

(1) 画面の構成

(a) ユーザー一覧画面

ユーザー一覧画面を次に示します。

組織情報 ユーザ情報

ユーザ追加 | 更新

変更または削除するレコードにチェックしてください。
*は必須入力項目です。

2008年12月18日 19:27:00 現在 再表示 先頭 前頁 1-1/1 次頁 最終

削除	変更	ユーザID▲	ログイン可否*	従業員番号	氏名	役職*	所属階層*	管理者権限*	代行権限*
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03001	可	A03001	営業 次郎	部長	営業	一般ユーザ	経営作業権

更新

ユーザー一覧画面の構成を次に示します。

組織の階層

参照している組織の階層が、「/」（スラッシュ）で区切られて表示されます。

[組織情報] タブ

組織管理画面が表示されます。

[ユーザ情報] タブ

ユーザー一覧画面が表示されます。

[ユーザ追加] メニュー

ユーザ登録画面が表示されます。

[更新] メニュー

[変更] チェックボックスで選択したユーザの変更内容が、ユーザ情報テーブルに登録されます。

また、[削除] チェックボックスで選択したユーザが、ユーザ情報テーブルから削除されます。

なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

- l：表示ページの先頭のユーザ情報が何件目かが表示されます。
- n：表示ページの最後のユーザ情報が何件目かが表示されます。
- m：全体のユーザ情報の件数が表示されます。

次頁

- 表示されている一覧の次のページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

- 一覧の最終ページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

ユーザの一覧

選択した組織に所属するユーザのユーザ情報 (BLC_USER_INFO_T テーブル) の一覧が表示されます。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトではユーザ ID でソートされます。

[削除] チェックボックス

削除するユーザを選択するか、または選択を解除します。

[変更] チェックボックス

変更するユーザを選択するか、または選択を解除します。

[ユーザ ID] アンカー

選択したユーザのユーザ ID が表示されます。

ユーザ ID のアンカーをクリックすると、ユーザ情報編集画面が表示されます。

[ログイン可否] ドロップダウンリスト

選択したユーザのログイン可否のステータスが表示されます。

ログイン可否のステータスは変更できます。ドロップダウンリストから「可」または「不可」を選択できます。

ログイン可否のステータスが「可」のユーザだけ、ログインできます。また、ログイン可否のステータスが「不可」のユーザはログインできなくなり、[宛先選択] ドロップダウンリストで選択できなくなります。

従業員番号

選択したユーザの従業員番号が表示されます。

氏名

選択したユーザの氏名が表示されます。

[役職] ドロップダウンリスト

選択したユーザの役職が表示されます。

役職はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

選択したユーザの組織が表示されます。

組織はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「組織」とは、組織管理画面で登録された組織略称の一覧です。

[管理者権限] ドロップダウンリスト

選択したユーザの管理者権限が表示されます。

管理者権限は変更できます。ドロップダウンリストからシステム管理者、共有トレイ管理者、または一般ユーザを選択できます。なお、システム管理者および共有トレイ管理者を選択する場合、ユーザの代行権限は振替作業員または代行者にしてください。

[代行権限] ドロップダウンリスト

選択したユーザの代行権限が表示されます。

代行権限は変更できます。ドロップダウンリストから振替作業員、代行者、または利用者を選択できます。なお、管理者権限でシステム管理者および共有トレイ管理者を選択している場合、利用者は選択できません。

(b) ユーザ登録画面

ユーザ登録画面を次に示します。

A(株)/営業	
組織情報	ユーザ情報
追加 戻る	
*は必須入力項目です。	
ユーザID*	<input type="text"/>
従業員番号*	<input type="text"/>
氏名*	(姓) <input type="text"/> (名) <input type="text"/> 例) 営業 花子
氏名カナ*	<input type="text"/> <input type="text"/> 例) エイゴウ ハナコ
氏名英字(半角)	<input type="text"/> <input type="text"/> 例) Eieyo Hanako
パスワード*	<input type="password"/> 8文字以上の英数字および記号
パスワード(確認)*	<input type="password"/>
役割*	社員
所属略称*	営業
管理者権限*	一般ユーザ
代行権限*	利用者
メール	<input type="text"/> 例) XXXX@oooo.co.jp
TEL外線	<input type="text"/> 例) 0000-0000-0000
TEL内線	<input type="text"/> 例) 0001
追加	

ユーザ登録画面の構成を次に示します。

組織の階層

作成された組織、またはツリーエリアで選択した組織の階層が、「/」(スラッシュ)で区切られて表示されます。

[組織情報] タブ

組織管理画面が表示されます。

[ユーザ情報] タブ

ユーザー一覧画面が表示されます。

[追加] メニュー

設定した情報をユーザ情報テーブルに登録します。

なお、[追加] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[戻る] メニュー

ユーザー一覧画面に戻ります。

新規ユーザ情報の入力項目

[ユーザ ID] テキストボックス

追加したいユーザ ID を入力します。
半角 32 文字以下の英数字で入力してください。

[従業員番号] テキストボックス

追加したいユーザの従業員番号を入力します。
半角 128 文字以下の英数字で入力してください。

[氏名 (姓)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (姓) を入力します。
全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[氏名 (名)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (名) を入力します。
全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[氏名カナ (姓)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (姓) のかたかな名を入力します。
全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[氏名カナ (名)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (名) のかたかな名を入力します。
全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[氏名英字 (半角) (姓)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (姓) の英字名を入力します。
半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[氏名英字 (半角) (名)] テキストボックス

追加したいユーザの氏名 (名) の英字名を入力します。
半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[パスワード] テキストボックス

パスワードを入力します。
パスワードに入力する文字は、BLC.BLCproperties の PasswordMin キーに指定した最小文字数 (デフォルトでは半角 8 文字) 以上、128 文字以下の文字列で入力してください。なお、パスワードにユーザ ID と同じ値は入力できません。
パスワードに設定できる文字は、A-Z, 0-9, a-z, および記号です。
記号については、「10.1.2(2) ユーザ管理機能の注意事項および制限事項」の「パスワードについて」を参照してください。

[パスワード (確認)] テキストボックス

[パスワード] テキストボックスに入力したパスワードをもう一度入力します。

[役職] ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストからユーザの役職を選択します。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストからユーザの組織を選択します。

ドロップダウンリストに表示される「所属略称」とは、組織管理画面で登録された組織略称の一覧です。デフォルトでは、[組織情報] タブで選択されている組織が表示されます。

[管理者権限] ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストからユーザの管理者権限を選択します。

管理者権限はシステム管理者、共有トレイ管理者、または一般ユーザを選択できます。

なお、システム管理者および共有トレイ管理者を選択する場合、ユーザの代行権限は振替作業員または代行者にしてください。

デフォルトでは一般ユーザが表示されます。

[代行権限] ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストからユーザの代行権限を選択します。

代行権限は振替作業員、代行者、または利用者を選択できます。

なお、管理者権限でシステム管理者および共有トレイ管理者を選択している場合、利用者は選択できません。

デフォルトでは利用者が表示されます。

[メール] テキストボックス

追加したいユーザのメールアドレスを入力します。

半角 128 文字以下の英数字（記号を含む）で入力してください。

なお、メール送信機能を利用する場合は、必ずメールアドレスを設定してください。

[TEL 外線] テキストボックス

追加したいユーザの電話番号（外線）を入力します。

半角 128 文字以下で入力してください。

[TEL 内線] テキストボックス

追加したいユーザの電話番号（内線）を入力します。

半角 128 文字以下で入力してください。

(c) **[ユーザ検索入力] 画面**

[ユーザ検索入力] 画面を次に示します。

ユーザ 検索入力	
検索 クリア	
ユーザID	<input type="text"/>
従業員番号	<input type="text"/>
氏名	(姓) <input type="text"/> (名) <input type="text"/>
氏名カナ	<input type="text"/>
氏名英字(半角)	<input type="text"/>
役職	<input type="text"/>
所属部署	<input type="text"/>
管理者権限	<input type="text"/>
代行権限	<input type="text"/>
ログイン可否	<input type="text"/>
<input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="クリア"/>	

[ユーザ検索入力] 画面の構成を次に示します。

[検索] メニュー

指定された検索条件を基にユーザ情報が検索されます。

検索結果は [ユーザ検索結果] 画面に表示されます。

なお、[検索] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[クリア] メニュー

検索条件が初期化されます。

なお、[クリア] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

検索条件の入力項目

[ユーザ ID] テキストボックス

検索条件にユーザ ID を設定する場合に入力します。

半角 32 文字以下の英数字で入力してください。入力された文字を含むユーザ ID が検索対象になります。

[従業員番号] テキストボックス

検索条件に従業員番号を設定する場合に入力します。

半角 128 文字以下の英数字で入力してください。入力された文字を含む従業員番号が検索対象になります。

[氏名 (姓)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (姓) を設定する場合に入力します。

全角 20 文字以下の文字列で入力してください。入力された文字を含む氏名 (姓) が検索対象になります。

[氏名 (名)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (名) を設定する場合に入力します。

全角 20 文字以下の文字列で入力してください。入力された文字を含む氏名 (名) が検索対象になります。

[氏名カナ (姓)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (姓) のかたかな名を設定する場合に入力します。

全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。入力された文字を含む氏名カナ (姓) が検索対象になります。

[氏名カナ (名)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (名) のかたかな名を設定する場合に入力します。

全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。入力された文字を含む氏名カナ (名) が検索対象になります。

[氏名英字 (半角) (姓)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (姓) の英字を設定する場合に入力します。

半角 62 文字以下の英字で入力してください。入力された文字を含む氏名英字 (姓) が検索対象になります。

[氏名英字 (半角) (名)] テキストボックス

検索条件にユーザの氏名 (名) の英字を設定する場合に入力します。

半角 62 文字以下の英字で入力してください。入力された文字を含む氏名英字 (名) が検索対象になります。

[役職] ドロップダウンリスト

検索条件に役職を設定する場合に指定します。リストで選択した役職のユーザが検索対象になります。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

検索条件に組織を設定する場合に指定します。リストで選択した組織に所属するユーザが検索対象になります。

ドロップダウンリストに表示される「組織」とは、組織管理画面で登録された組織略称の一覧です。

[管理者権限] ドロップダウンリスト

検索条件に管理者権限を設定する場合に指定します。選択した管理者権限を持つユーザが検索対象になります。

[代行権限] ドロップダウンリスト

検索条件に代行権限を設定する場合に指定します。選択した代行権限を持つユーザが検索対象になります。

[ログイン可否] ドロップダウンリスト

検索条件にログイン可否のステータスを設定する場合に指定します。選択したログイン可否のステータスを持つユーザが検索対象になります。

(d) **[ユーザ検索結果] 画面**

[ユーザ検索結果] 画面を次に示します。

ユーザ検索結果

更新 | 戻る |

検索条件

ユーザID		従業員番号	
氏名	(姓) 営業 (名)	氏名英字(半角)	(姓) (名)
氏名カナ	(姓) (名)	所属略称	
役職		代行権限	
管理者権限			
ログイン可否			

変更または削除するレコードにチェックしてください。
*は必須入力項目です。

2008年12月18日 19:31:20 現在 再表示 先頭 前頁 1-7/7 次頁 最終

削除	変更	ユーザID▲	ログイン可否*	従業員番号	氏名	役職*	所属略称*	管理者権限*	代行権限*
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03001	可	A03001	営業 太郎	部長	営業	一般ユーザ	振替作業
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03101	可	A03101	営業 二郎	課長	営業営業1	一般ユーザ	代行者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03102	可	A03102	営業 三郎	主任	営業営業1	一般ユーザ	利用者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03103	可	A03103	営業 四郎	社員	営業営業1	一般ユーザ	利用者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03201	可	A03201	営業 花子	課長	営業営業2	一般ユーザ	代行者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03202	可	A03202	営業 - 男	主任	営業営業2	一般ユーザ	利用者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A03203	不可	A03203	営業 次男	社員	営業営業2	一般ユーザ	利用者

更新

検索条件表示エリア

検索結果表示エリア

[ユーザ検索結果] 画面の構成を次に示します。

[更新] メニュー

[変更] チェックボックスで選択したユーザの変更内容がユーザ情報テーブルに反映されます。また、
[削除] チェックボックスで選択したユーザがユーザ情報テーブルから削除されます。
なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[戻る] メニュー

[ユーザ検索入力] 画面に戻ります。

● 検索条件表示エリア

検索条件

[ユーザ検索入力] 画面で指定した検索条件が表示されます。

● 検索結果表示エリア

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

- l: 表示ページの先頭のユーザ情報が何件目かが表示されます。
- n: 表示ページの最後のユーザ情報が何件目かが表示されます。
- m: 全体のユーザ情報の件数が表示されます。

次頁

- 表示されている一覧の次のページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

- 一覧の最終ページが表示されます。
- 最終ページが表示されている場合は選択できません。

検索結果のユーザー一覧

- [ユーザ検索入力] 画面で検索したユーザの一覧が表示されます。
- 各項目については、「(a) ユーザー一覧画面」を参照してください。

(2) 操作手順

ユーザを登録、変更、削除、および検索する操作の手順を説明します。

操作手順

1. システム管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
2. メニューポートレットの [ユーザ情報管理] メニューをクリックします。
別ウィンドウに [ユーザ情報管理] 画面が表示されます。
3. ツリーエリアの組織を一つ選択します。
組織管理画面が表示されます。
4. 組織管理画面の [ユーザ情報] タブをクリックします。
ユーザー一覧画面が表示されます。
5. ユーザを登録、変更、削除、および検索します。
ユーザの登録については、「(a) ユーザの登録」、変更については「(b) ユーザの変更」、削除については「(c) ユーザの削除」、検索については「(d) ユーザの検索」を参照してください。

(a) ユーザの登録

ユーザを登録する手順を説明します。

操作手順

1. [ユーザ追加] メニューをクリックします。
ユーザ登録画面が表示されます。
2. 登録するユーザ情報を指定します。
次に示す項目は入力必須です。
 - ユーザ ID
 - 従業員番号
 - 氏名
 - 氏名カナ

- パスワード
- パスワード (確認)
- 役職
- 所属略称
- 管理者権限
- 代行権限

入力できる文字列については、「(1)(b) ユーザ登録画面」を参照してください。

3. [追加] メニューをクリックします。

ユーザ情報テーブルにユーザが登録され、ユーザー一覧が更新されます。

(b) ユーザの変更

ユーザ情報を変更する手順を説明します。

検索したユーザのユーザ情報を変更する場合は、「(d) ユーザの検索」を実行したあとに次の操作を実行してください。

ユーザ情報を変更する場合は次の点に注意してください。

- ログインユーザ自身の「ログイン可否」ステータスは変更しないでください。ログインユーザが自身の「ログイン可否」ステータスを「不可」に設定し、[更新] ボタンをクリックした場合、エラー画面が表示され、ログインできなくなります。この場合、ユーザ自身がユーザ管理機能で「ログイン可否」ステータスを変更することはできません。
- すべてのシステム管理者の「ログイン可否」ステータスを「不可」にした場合、エラー画面が表示され、すべてのシステム管理者がログインできなくなります。

操作手順

1. 変更するユーザの [変更] チェックボックスをオンにします。
2. 変更するユーザのユーザ情報をドロップダウンリストから選択し、変更します。
変更できる項目を次に示します。

- ログイン可否
- 役職
- 所属略称
- 管理者権限
- 代行権限

各項目で選択できる内容については、「(1)(a) ユーザー一覧画面」を参照してください。

3. [更新] メニューをクリックします。

変更内容がユーザ情報テーブルに反映され、ユーザー一覧が更新されます。

(c) ユーザの削除

ユーザを削除する手順を説明します。

ログインユーザが自身のユーザ情報を削除することはできません。

また、ユーザ情報を削除すると [案件履歴] 画面でユーザ情報が表示されなかったり、次に示す情報が削除されたりします。

- 宛先情報テーブルの宛先に登録されているユーザ情報
- 代行者管理に登録されている代行者の情報

ユーザ情報を削除する場合はご注意ください。

一時的にログインできない状態にする場合は、ユーザの変更で「ログイン可否」ステータスを「不可」に設定することをお勧めします。

なお、検索したユーザのユーザ情報を削除する場合は、「(d) ユーザの検索」を実行したあとに次の操作を実行してください。

操作手順

1. 削除するユーザの [削除] チェックボックスをオンにします。
2. [更新] メニューをクリックします。
確認ダイアログが表示されます。
3. 確認ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。
選択したユーザがユーザ情報テーブルから削除され、ユーザー一覧が更新されます。

(d) ユーザの検索

ユーザを検索する手順を説明します。

操作手順

1. ツリーエリアの [ユーザ検索] アイコンをクリックします。
[ユーザ検索入力] 画面が表示されます。
2. ユーザの検索条件を指定します。
検索条件は、次に示す項目を複数組み合わせることで指定できます。
複数の項目を指定した場合、検索は AND で実行されます。
 - ユーザ ID
 - 従業員番号
 - 氏名
 - 氏名カナ
 - 氏名英字（半角）
 - 役職
 - 所属略称
 - 管理者権限
 - 代行権限
 - ログイン可否

各項目に指定できる条件については、「(1)(c) [ユーザ検索入力] 画面」を参照してください。

3. [検索] メニューをクリックします。
検索が実行され、結果が [ユーザ検索結果] 画面に表示されます。

(3) 注意事項

- 次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。
 - 入力項目に誤りがある場合
 - チェックボックスを選択していない状態で [更新] メニューをクリックした場合
 - [削除] および [変更] チェックボックスを両方選択している状態で [更新] メニューをクリックした場合
 - ユーザ情報を更新、または削除することで、システム管理者権限を持つユーザが一人も存在しなくなる場合
 - ログインユーザが自身のユーザ情報を削除しようとした場合
 - ユーザ登録時に同じユーザ ID がすでに存在する場合
 - ユーザ情報を重複して指定しようとした場合
- システム管理者によってユーザ情報を削除、またはログイン可否のステータスを「不可」に設定されたユーザのユーザ情報編集画面は表示できません。
- [登録] または [更新] メニューのクリック時にシステムエラーが発生した場合は、エラーページに遷移します。表示されたエラー内容を基に、要因を調査して対処してください。

10.1.6 役職・組織・ユーザの一括登録

役職、組織、およびユーザの情報を一括して登録、更新したり、出力したりする方法について説明します。

新規情報の一括登録、および既存情報の一括更新は [CSV 読込] 画面、情報の出力は [CSV 出力] 画面で実行できます。

(1) 画面の構成

(a) [CSV 読込] 画面

[CSV 読込] 画面を次に示します。

[CSV 読込] 画面の構成を次に示します。

役職情報

役職情報の CSV ファイルを指定します。

組織情報

組織情報の CSV ファイルを指定します。

ユーザ情報

ユーザおよび共有トレイ情報の CSV ファイルを指定します。

【参照】 ボタン

別ウィンドウに、ファイルを選択する画面が表示されます。ファイルを参照し、CSV ファイルを指定できます。

【登録】 ボタン

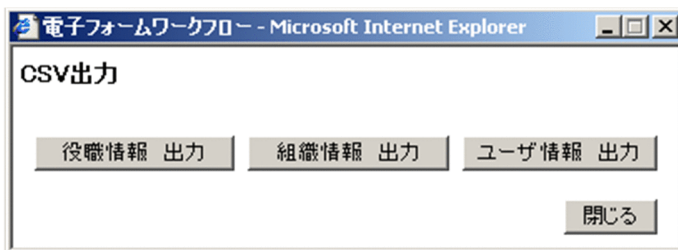
指定した CSV ファイルの内容がチェックされ、情報が登録されます。

【閉じる】 ボタン

【CSV 読込】画面が閉じます。

(b) 【CSV 出力】 画面

【CSV 出力】画面を次に示します。



【CSV 出力】画面の構成を次に示します。

【役職情報 出力】 ボタン

役職情報が CSV ファイルに出力されます。

ファイル名のデフォルト値は、「master_copy_jobTitle.csv」です。

【組織情報 出力】 ボタン

組織情報が CSV ファイルに出力されます。

ファイル名のデフォルト値は、「master_copy_org.csv」です。

【ユーザ情報 出力】 ボタン

ユーザおよび共有トレイ情報が CSV ファイルに出力されます。

ファイル名のデフォルト値は、「master_copy_user.csv」です。

【閉じる】 ボタン

【CSV 出力】画面が閉じます。

(2) CSV ファイルのフォーマット

CSV ファイルの記述形式、フォーマット、および記述例について説明します。

CSV ファイルの記述形式

CSV ファイルの記述形式は次のとおりです。

- 1 行を 1 レコードとして記述します。
- フィールドを「"」（ダブルクォーテーション）で囲む必要はありません。
ただし、「"」、または「,」（半角コンマ）を含むフィールドは、「"」で囲みます。「"」で囲まれているフィールドに「"」を指定する場合は、直前に「\"」をエスケープ文字として指定してください。
- 先頭に「#」（半角シャープ）が記載されている行は、コメント行になります。

CSV ファイルのフォーマット

CSV ファイルのフォーマットについて説明します。

- 各 CSV ファイルの先頭行にファイル識別子を記述します。

CSV ファイルの登録時にファイルの先頭行に正しいファイル識別子が記述されていない場合は、読み込みエラーとなります。

ファイル識別子を次の表に示します。

ファイル識別子*	登録時の処理内容
JOB_TITLE	役職情報としてテーブルに登録されます。
ORG	組織情報としてテーブルに登録されます。
USER_INFO	ユーザ情報としてテーブルに登録されます。

注※

ファイル識別子は半角英字（大文字）です。

- 2 行目にカラム名を記述します。

各カラムは「,」で区切り、先頭にレコード識別子「#」を記述します。各カラムは「'」（シングルクォート）では囲みません。

項目	2 行目に記述するカラム名*
役職情報	#, 役職コード, 役職順序, 役職名 漢字, 役職略称, 役職名 カナ, 役職名 英字
組織情報	#, 組織コード, 組織略称, 組織名, 上位組織コード
ユーザ情報	#, ユーザ ID, パスワード, 従業員番号, 氏名漢字名字, 氏名漢字名前, 氏名カナ名字, 氏名カナ名前, 氏名英字名字, 氏名英字名前, 所属する組織コード, 役職コード, メール (e-Mail), TEL 外線, TEL 内線, 管理者権限, 代行者権限, ログイン可否ステータス, 共有トレイステータス

注※

カラム名の文字コードによって、レコードの文字コードを判別します。使用できる文字コードは、Shift_JIS (windows-31j) および UTF-8 だけです。ほかの文字コードを使用している場合の動作は保証できません。

- 3 行目以降は、2 行目のカラム名に従ってユーザ情報を記述します。

3 行目以降の各レコードは改行で区切り、先頭にレコード識別子を記述します。

出力した CSV ファイルでは、すべてのレコードの先頭に「#」が表示されます。

CSV ファイルの登録時に各レコードの先頭に正しいレコード識別子が記述されていない場合は、読み込みエラーとなります。

また、レコードの終端以外に改行を入れないでください。

レコード識別子を次の表に示します。

レコード識別子*	登録時の処理内容
A	レコードが追加されます。
C	レコードが更新されます。

注※

レコード識別子は半角英字（大文字）です。

各テーブルのカラム名およびデータについては、「付録 D.4 BLCDIRS データベース」を参照してください。

CSV ファイルの記述例

CSV ファイルの記述例を次に示します。

- 役職情報

```
JOB_TITLE
#, 役職コード, 役職順序, 役職名 漢字, 役職略称, 役職名 カナ, 役職名 英字
#, 00001, 0, 代表取締役社長, 社長, シャチョウ, President
C, 00002, 1, 代表取締役, 常務, ジョウム, joumu
A, 00003, 2, 部長, 部長, ブチョウ, bucho
```

- 組織情報

```
ORG
#, 組織コード, 組織略称, 組織名, 上位組織コード
#, A-COM, A (株), A 株式会社, $root
#, SOMU0000, 総務, 総務部, A-COM
```

- ユーザ情報

```
USER_INFO
#, ユーザID, パスワード, 従業員番号, 氏名漢字名字, 氏名漢字名前, 氏名カナ名字, 氏名カナ名前, 氏名英
字名字, 氏名英字名前, 所属する組織コード, 役職コード, メール (e-Mail), TEL外線, TEL内線, 管理者権
限, 代行者権限, ログイン可否ステータス, 共有トレイステータス
#, A00001, , A00001, 社長, 太郎, シャチョウ, タロウ, syacho, taro, A-COM, 00000100, A00001@a-
kaisya.com, 0000-0000-0000, 777-0000, 0, 2, 0, 0
```

注意事項

- 組織情報の上位組織コードに最上位の組織を指定する場合は、「\$root」を指定してください。なお、「\$root」は組織コードには使用できません。
- Excel を使用してファイル内容を修正する場合、ゼロサプレスに注意して出力結果を確認してください。
- 文字コードに UTF-8 を指定した環境で出力した CSV ファイルは、UTF-8 に対応したプログラムで編集してください。
- 共有トレイの情報を CSV で読み込む場合は、共有トレイのステータスを 1 に指定してください。
- CSV ファイルでは、ログインユーザは指定できません。
- CSV ファイルでは、ユーザ ID を重複して指定できません。
- ユーザ情報を CSV で出力した場合、共有トレイの情報も出力されます。共有トレイのステータスが 1 となっているものが共有トレイの情報となります。

ユーザ情報のパスワードについての注意事項

ユーザ情報のパスワードについて、注意事項を次に示します。

なお、「10.1.2(2) ユーザ管理機能の注意事項および制限事項」の「パスワードについて」もあわせて参照してください。

- CSV ファイルの出力時は、パスワードは空欄で出力されます。
- パスワードを空欄にしてユーザ情報の一括更新を実行した場合、パスワードは更新されません。
- パスワードに環境構築時に指定したパスワード変換形式（平文、MD5、または SHA-1）で値を指定した場合、指定したパスワードが登録されます。
- パスワードが設定されていないユーザ情報を新規登録した場合、すぐにパスワードを設定するよう勧めるダイアログが表示されます。その場合はすぐにユーザのパスワードを設定してください。

共有トレイの情報を利用する際の注意事項

共有トレイの情報を利用する際の注意事項を次に示します。

- 共有トレイを登録する場合、「パスワード」、「従業員番号」、「氏名漢字名前」、「氏名カナ名前」、および「氏名英字名前」については、値のチェックおよびデータベースへの登録処理が実行されません。また、「管理者権限」および「ログイン可否ステータス」には、常に0が登録されます。
- 共有トレイを取得する場合、データベースに格納している情報がそのまま出力されます。このため、「従業員番号」、「氏名漢字名前」、「氏名カナ名前」、および「氏名英字名前」に値が設定されていることがあります。
- 共有トレイ管理画面で作成する際に、ユーザIDとして「Share」+4桁の数値が使用されます。このため、ユーザIDを設定するときには、「Share」+4桁の数値を使用しないでください。

(3) 操作手順

役職、組織、およびユーザの情報を一括登録または出力する操作の手順を説明します。

操作手順

- システム管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
- メニューポートレットの【ユーザ情報管理】メニューをクリックします。
別ウィンドウに【ユーザ情報管理】画面が表示されます。
- 役職、組織、およびユーザの情報を一括登録または出力します。
一括登録については、「(a) 役職・組織・ユーザの一括登録」、出力については「(b) 役職・組織・ユーザの出力」を参照してください。

(a) 役職・組織・ユーザの一括登録

役職、組織、およびユーザの情報を一括して登録する手順を説明します。

一括登録する場合は次の点に注意してください。

- CSV ファイルは、規定フォーマットで作成したものを指定してください。
規定フォーマットに従って作成された CSV ファイル以外を指定した場合、読み込みエラーとなります。
【CSV 出力】画面で出力した CSV ファイル以外を指定する場合は、規定フォーマットに従ってファイルを修正してから指定してください。
CSV ファイルの規定フォーマットについては、「(2) CSV ファイルのフォーマット」を参照してください。
- 一度に登録できる最大ユーザ数は 3,000 人です。3,000 人を超えるユーザを登録する場合はファイルを分けて登録してください。
- 登録に利用できる CSV ファイルのファイルサイズは 1,048,576 バイトまでです。
- 登録完了後、ユーザのパスワードを設定するよう勧めるダイアログが表示された場合は、すぐにパスワードを設定してください。
- ログインユーザの管理者権限は CSV ファイルでは変更しないでください。
CSV ファイルで、ログインユーザの管理者権限をシステム管理者以外に変更した場合、ユーザ管理機能へのアクセス権限がなくなり、ユーザ管理機能が利用できなくなります。
- 指定した CSV ファイルに誤りがある場合は、エラーダイアログが表示されます。表示された項目を修正してください。
- 情報の登録件数が多い場合は登録に時間が掛かることがあります。

操作手順

1. 登録する役職、組織、またはユーザの情報を記述した CSV ファイルを作成します。
2. 共通エリアの [CSV 読込] ボタンをクリックします。
別ウィンドウに [CSV 読込] 画面が表示されます。
3. 登録する CSV ファイルを指定します。
4. [登録] ボタンをクリックします。
指定した CSV ファイルの内容がチェックされ、各テーブルへ登録されます。
CSV ファイルの登録が完了すると、登録完了のダイアログが表示されます。

(b) 役職・組織・ユーザの出力

役職、組織、およびユーザの情報を出力する手順を説明します。

操作手順

1. 共通エリアの [CSV 出力] ボタンをクリックします。
別ウィンドウに [CSV 出力] 画面が表示されます。
2. 出力する情報のボタンをクリックします。
テーブルから情報が取得され、CSV ファイルに出力されます。

10.2 アクセス制御の管理

アクセス制御機能を使用して、ユーザがBLCのシステムに対して実行できる操作を制御できます。各ユーザに対して、権限を付与したり、役職や所属組織を設定したりすることで、権限、役職または所属組織に応じて機能別にアクセスを制御できます。

10.2.1 ユーザの権限とアクセス制御

ユーザには管理者権限と代行権限をそれぞれ設定できます。

管理者権限とは、システム全体を管理する権限および共有トレイを管理する権限を設定できる権限です。また、代行権限では、案件の振り替え機能に関連する権限を設定できます。

(1) 管理者権限で制御できること

ユーザの管理者権限はシステム管理者だけが設定できます。

ユーザに設定できる管理者権限とそのアクセス制御を次に示します。

表 10-1 管理者権限とアクセス制御

管理者権限	アクセス制御
システム管理者	システム全体に実行権限を持つユーザです。 すべてのメニューを操作する権限を持ちます。 システム全体に関連する設定（ユーザ情報管理など）は、システム管理者だけが実行できます。 なお、システム管理者は必ず一人以上設定する必要があります。
共有トレイ管理者	共有トレイを管理する権限を持つユーザです。 共有トレイの管理以外は、一般ユーザが持つ権限と同じです。 なお、共有トレイについては、「19. 案件の振り替え機能」を参照してください。
一般ユーザ	操作できる機能が最小限に制限されているユーザです。

(2) 代行権限で制御できること

ユーザの代行権限はシステム管理者だけが設定できます。

ユーザに設定できる代行権限とそのアクセス制御を次に示します。

表 10-2 代行権限とアクセス制御

代行権限	アクセス制御
振替作業	利用者の案件をほかのユーザに振り替えることができるユーザです。 同じ組織に所属するユーザの案件を組織に関係なくだれにでも振り替えることができます。 また、振替作業自身に案件を振り替えて、処理を実行することもできます。
代行者	代行依頼者の案件の処理を実行できるユーザです。
利用者	案件の申請や承認を実行できる一般のユーザです。 利用者自身の案件をほかのユーザに振り替えることはできません。

なお、案件の振り替え機能については、「19. 案件の振り替え機能」を参照してください。

代行権限と管理者権限の関係を次に示します。

管理者権限にシステム管理者または共有トレイ管理者が設定されているユーザは、代行権限の「利用者」になることはできません。

表 10-3 代行権限と管理者権限の関係

代行権限	管理者権限		
	システム管理者	共有トレイ管理者	一般ユーザ
振替業者	○	○	○
代行者	○	○	○
利用者	×	×	○

(凡例)

- ：設定できます。
- ×：設定できません。

10.2.2 ログイン可否のステータスとアクセス制御

ユーザにはログイン可否のステータスに「可」または「不可」を設定できます。

ログイン可否のステータスが「可」のユーザだけログインできます。また、ログイン可否のステータスが「不可」のユーザは【宛先選択】ドロップダウンリストに表示されなくなるため、選択できなくなります。

ユーザ情報を削除しなくても、ログイン可否のステータスを「不可」に設定することで、退職者、休職者などのユーザ情報を利用できないようにしたり、一時的にログインできないようにしたりできます。ログイン可否を「不可」にした場合、APIでは該当するユーザ情報を取得することができません。

10.2.3 管理機能とアクセス制御

BLCで利用できる管理機能は、ユーザの管理者権限によってアクセスが制御されます。

各管理機能と管理者権限の関係を次に示します。

表 10-4 管理機能と管理者権限の関係

管理機能	アクセス制御	管理者権限		
		システム管理者	共有トレイ管理者	一般ユーザ
帳票の管理	帳票を管理（登録，更新，削除など）できる。	○	×	×
共有トレイの管理	共有トレイを作成できる。	○	○	×
	所属する共有トレイの利用者を追加または削除できる。	○	○	×
	所属する共有トレイを利用できる。	○	○	○

管理機能	アクセス制御	管理者権限		
		システム 管理者	共有トレイ 管理者	一般 ユーザ
ユーザの管理	ユーザ情報を管理（登録，変更，削除および検索）ができる。	○	×	×
ユーザの編集	ユーザ情報編集画面を利用できる。	○	○	○

(凡例)

○：設定できます。

×：設定できません。

なお、各機能については、次の個所を参照してください。

- 帳票の管理：「4.8 帳票を管理する」
- 共有トレイの管理：「19. 案件の振り替え機能」
- ユーザの管理：「10.1 ユーザ情報の管理」
- ユーザの編集：「4.9 ユーザを編集する」

10.2.4 帳票・メニューポートレットの表示とアクセス制御

ユーザによって、閲覧できる帳票を制御したり、BLCのメニューポートレットに表示される項目を制御したりできます。

表 10-5 帳票一覧・メニューの表示とアクセス制御

表示内容	権限	アクセス制御
帳票一覧の表示	【帳票登録】画面で設定された帳票利用者	帳票を利用できるユーザを帳票ごとに設定し、ユーザによって利用できる帳票を制御できます。
メニューの表示	システム管理者	システム管理者の権限を持つユーザがログインした場合だけ、帳票の管理（作成，更新，削除など）に関するメニューが表示されるように制御できます。 メニューを制御することで、システム管理者だけが帳票を管理できます。
	ログインユーザの管理者権限	ログインユーザの管理者権限によって、表示されるメニューを制御できます。

(1) 帳票一覧表示の制御

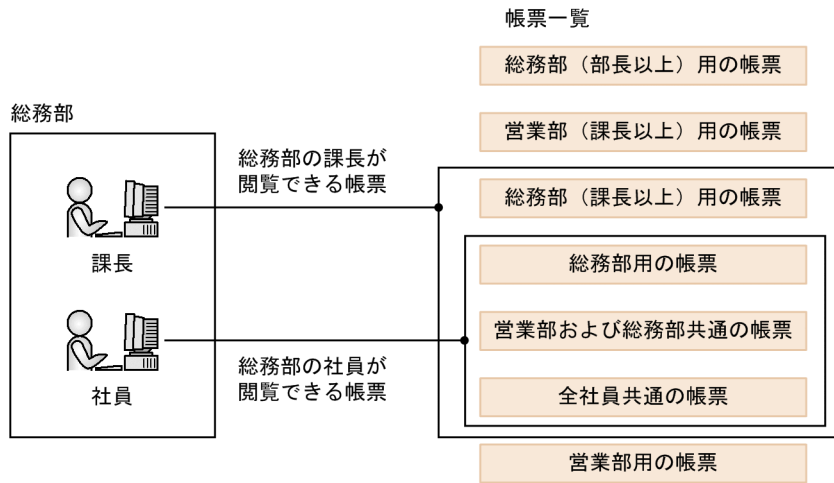
帳票を利用できる帳票利用者を組織および役職の単位で設定できます。帳票利用者を設定することで、ユーザの組織および役職によって【名称別帳票一覧】画面に表示される帳票を制御できます。帳票利用者は【帳票登録】画面で帳票ごとに設定できます。

なお、帳票利用者はユーザ個人の単位では設定できません。

帳票利用者の設定については、「4.8 帳票を管理する」を参照してください。

帳票利用者を設定した場合の帳票の表示例を次の図に示します。

図 10-1 帳票の表示例



(2) メニューポートレット表示の制御

(a) 帳票の管理

帳票の作成, 更新, 削除などの操作をシステム管理者だけが実行できるようにメニューポートレットの表示を制御できます。

(b) メニュー

ログインユーザの管理者権限によって, 表示されるメニューを制御できます。

この機能は, メニューごとにシステム管理者だけに表示, 一般ユーザだけに表示といった制御ができます。

システム管理者および一般ユーザなどの権限によって, メニューを制御した例を次の図に示します。

図 10-2 メニューポートレット表示の制御例



11 案件管理機能

この章では、案件管理機能を使って案件を検索したり、検索した案件を強制終了したりする方法について説明します。

11.1 案件を検索する

ここでは、案件を検索するときに表示する画面の構成、および案件を検索する手順について説明します。

11.1.1 案件の検索で使用する画面の構成

案件の検索機能で使用する画面の構成を説明します。

(1) 【案件検索】画面の構成

【案件検索】画面を次に示します。

図 11-1 【案件検索】画面

The screenshot shows a web browser window titled '電子フォームワークフロー - Microsoft Internet Explorer'. The main content area is titled '案件検索'. At the top, there are buttons for '検索' (Search), 'クリア' (Clear), and '閉じる' (Close). Below this, a message states: '検索項目を複数指定した場合は、全ての条件を満たす案件を検索します。' (If multiple search items are specified, search for cases that meet all conditions). The form contains several input fields and radio buttons:

- 検索対象** (Search Target): Radio buttons for '運用中の案件' (Selected) and '保管された案件' (Archived cases).
- 業務名称** (Business Name): A dropdown menu.
- 案件状態** (Case Status): A dropdown menu.
- 申請ID** (Application ID): Two text input fields with 'から' (from) between them.
- 申請者ユーザID** (Applicant User ID): A text input field and a '選択' (Select) button.
- 開始日** (Start Date): Two date pickers (year, month, day) with 'から' (from) between them. A note: '案件を申請した日を示します。' (Shows the date the case was applied for).
- 処理日** (Processing Date): Two date pickers with 'から' (from) between them. A note: '案件を最後に処理した日を示します。' (Shows the date the case was last processed).
- 完了日** (Completion Date): Two date pickers with 'から' (from) between them. A note: '保管案件の検索でのみ利用可能です。' (Only available for searching archived cases).

At the bottom of the form, there are three buttons: '検索' (Search), 'クリア' (Clear), and '閉じる' (Close). The browser's status bar at the bottom shows 'ページが表示されました' (Page displayed) and 'イントラネット' (Intranet).

【検索】メニュー

入力した条件で案件が検索され、検索結果が【案件検索結果】画面に表示されます。ただし、次の場合は、【検索】ボタンをクリックできません。

- システム管理者でログインした場合で、案件がないとき。

【クリア】メニュー

入力した内容が消去され、初期状態に戻ります。

【閉じる】メニュー

【案件検索】画面が閉じます。

検索対象

【運用中の案件】ラジオボタン

BLC_INBOX_T テーブルの情報から案件を抽出する場合に選択します。デフォルトでは、このボタンが選択されています。

【保管された案件】 ラジオボタン

保管案件テーブルの情報から案件を抽出する場合に選択します。ただし、保管案件テーブルにアクセスできない場合、このボタンは選択できません。

【業務名称】 ドロップダウンリスト

案件として検索できる業務名称を一覧表示します。リストの内容は、検索対象によって異なります。また、表示される業務名称はログインユーザの権限によっても異なります。システム管理者でログインした場合、すべての業務名称が表示されます。

【業務状態】 ドロップダウンリスト

案件として検索できる案件状態が一覧表示されます。リストの内容は、案件状態によって異なります。

【申請 ID】 テキストボックス

検索する案件の申請 ID の範囲を入力します。

- 指定できる文字の長さは 80 文字以内です。
- 指定範囲が不正な場合はチェックされません。例えば、「範囲開始 > 範囲終了」と指定した場合、検索結果は 0 件となります。

【申請者ユーザ ID】 テキストボックス

ユーザ選択画面の選択結果が表示されます。

なお、ユーザ ID を直接入力して指定することもできます。この場合、128 文字以内の半角英数字で指定してください。

【選択】 ボタン

ユーザ選択画面が表示されます。

【開始日】 テキストボックス

検索条件に案件の開始日を指定する場合、案件を申請した日をテキストボックスに入力します。

- 年は 4 桁、月は 2 桁、日は 2 桁で指定します。
- 範囲開始のテキストボックスに入力した年月日が範囲終了のテキストボックスに入力した年月日よりもあとの年月日の場合は、エラーになります。
- 開始は 00 時 00 分 00 秒から、終了は 23 時 59 分 59 秒までとして処理します。
- 範囲開始だけ、または範囲終了だけの指定もできます。ただし、年月日の一部だけの指定はできません。指定を省略する場合は、年月日すべての指定を省略してください。

【処理日】 テキストボックス

検索条件に案件の処理日を指定する場合、案件を最後に処理した日をテキストボックスに入力します。

- 年は 4 桁、月は 2 桁、日は 2 桁で指定します。
- 範囲開始のテキストボックスに入力した年月日が範囲終了のテキストボックスに入力した年月日よりもあとの年月日の場合は、エラーになります。
- 開始は 00 時 00 分 00 秒から、終了は 23 時 59 分 59 秒までとして処理します。
- 範囲開始だけ、または範囲終了だけの指定もできます。ただし、年月日の一部だけの指定はできません。指定を省略する場合は、年月日すべての指定を省略してください。

【完了日】 テキストボックス

検索条件に案件の処理日を指定する場合、案件を最後に処理した日をテキストボックスに入力します。

- 年は 4 桁、月は 2 桁、日は 2 桁で指定します。
- 範囲開始のテキストボックスに入力した年月日が範囲終了のテキストボックスに入力した年月日よりもあとの年月日の場合は、エラーになります。

- 開始は00時00分00秒から、終了は23時59分59秒までとして処理します。
- 範囲開始だけ、または範囲終了だけの指定もできます。ただし、年月日の一部だけの指定はできません。指定を省略する場合は、年月日すべての指定を省略してください。
- 検索対象で「運用中の案件」ラジオボタンを選択した場合は、入力できません。

[検索] ボタン

入力した条件で案件が検索され、検索結果が「案件検索結果」画面に表示されます。ただし、次の場合は、[検索] ボタンをクリックできません。

- システム管理者でログインした場合で、案件がないとき。

[クリア] ボタン

入力した内容が消去され、初期状態に戻ります。

[閉じる] ボタン

「案件検索」画面が閉じます。

(2) 「案件検索結果」画面の構成

「案件検索結果」画面を次に示します。

図 11-2 「案件検索結果」画面



[戻る] メニュー

「案件検索」画面に戻ります。

[閉じる] メニュー

「案件検索結果」画面が閉じます。

検索条件

- 検索対象
「運用中の案件」または「保管された案件」のどちらかが表示されます。
- 業務名称
「案件検索」画面で指定した業務名称が表示されます。
- 申請 ID

[案件検索] 画面で指定した申請 ID の範囲が表示されます。

- 申請者

[案件検索] 画面で指定した申請者ユーザ ID に該当するユーザ名とユーザ ID が表示されます。ただし、申請者ユーザ ID に該当するユーザ名がデータベースにない場合、ユーザ ID だけが表示されます。

- 案件状態

[案件検索] 画面で指定した案件状態が表示されます。

- 開始日

[案件検索] 画面で指定した開始日が表示されます。

- 処理日

[案件検索] 画面で指定した処理日が表示されます。

- 完了日

[案件検索] 画面で指定した完了日が表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

[先頭] メニュー

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

[前頁] メニュー

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

l：表示ページの先頭の案件が何件目かが表示されます。

n：表示ページの最後の案件が何件目かが表示されます。

m：全体の案件の件数が表示されます。

[次頁] メニュー

表示されている一覧の次のページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

[最終] メニュー

一覧の最終ページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

案件検索結果の一覧

案件検索した結果の一覧が表示されます。

1 ページに表示される作業の件数は、デフォルトでは最大 50 件です。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは申請 ID でソートされます。

- **[選択] チェックボックス**
強制終了させたい案件を選択します。選択された案件は、背景色が変更されます。
- **[申請 ID] アンカー**
検索対象で [運用中の案件] ラジオボタンを選択した場合は、[運用案件履歴] 画面が表示されます。[保管された案件] ラジオボタンを選択した場合は、[保管案件履歴] 画面が表示されます。
- **案件状態**
案件の現在の状態が表示されます。
- **業務名称**
案件の業務名称が表示されます。
- **処理日時**
作業の処理日時が表示されます。
- **最終作業氏名**
案件を現在所有する作業者の氏名が表示されます。ただし、案件が完了している場合は、最後に処理した作業者の氏名が表示されます。
- **申請者氏名**
案件の申請者の氏名が表示されます。
- **申請者組織略称**
案件の申請者が所属する組織の略称が表示されます。
- **開始日時**
案件の開始日時が表示されます。
- **完了日付**
案件の完了日時が表示されます。なお、[案件検索] 画面で [保管された案件] ラジオボタンを選択した場合にだけ表示されます。

[案件強制終了] ボタン

[選択] チェックボックスにチェックがついている案件を強制終了するための、[案件強制終了] 画面が表示されます。

なお、案件を強制終了できるのは、システム管理者でログインした場合に、運用中の案件をチェックしたときだけです。

[案件強制終了] 画面での操作の結果は [案件検索結果] 画面には反映されません。強制終了後は [案件検索結果] 画面を再表示してください。

(3) 案件履歴画面の構成

案件履歴画面について説明します。

[案件検索] 画面の検索対象で [運用中の案件] ラジオボタンを選択した場合は [運用案件履歴] 画面が表示されます。[保管された案件] ラジオボタンを選択した場合は [保管案件履歴] 画面が表示されます。

例として [運用案件履歴] 画面を次に示します。

図 11-3 「運用案件履歴」画面



【内容確認】メニュー

帳票が表示されます。ただし、[案件検索]画面で[保管された案件]ラジオボタンを選択した場合、EUR Form 連携帳票以外では表示されません。

また、保管された案件を表示するためには、保管案件を照会するための環境設定が必要です。保管案件を照会するための環境設定については、「11.1.3 保管案件を照会するための環境設定」を参照してください。

【戻る】メニュー

[案件検索結果]画面に戻り、[案件検索]画面で設定した条件で再度検索が実行されます。このため、案件検索の結果は変わる場合があります。

【閉じる】メニュー

[運用案件履歴]画面、または[保管案件履歴]画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

【再表示】メニュー

画面を最新の情報に更新します。

業務名称

案件の業務名称が表示されます。

申請 ID

案件の申請 ID が表示されます。

運用案件履歴の一覧

- 作業名

業務ステップ名と作業名が表示されます。ただし、処理状態が申請の場合は、"申請者"と表示されません。

- **処理者**

作業の処理者（組織略称）が表示されます。ただし、帳票を申請した時に処理者（組織略称）を指定しなかった場合は、表示されません。

- **組織略称**

作業が所属する案件の処理者が所属する組織の略称が表示されます。

- **処理日時**

作業の処理日時が表示されます。

- **処理状態**

帳票を操作したときのボタンの名前が表示されます。ただし、まだ案件が処理されていない場合は、何も表示されません。

[内容確認] ボタン

帳票が表示されます。ただし、[案件検索] 画面で [保管された案件] ラジオボタンを選択した場合、EUR Form 連携帳票以外では表示されません。

また、保管された案件を表示するためには、保管案件を照会するための環境設定が必要です。

[案件強制終了] ボタン

案件を強制終了するための、[案件強制終了] 画面が表示されます。ただし、[案件検索] 画面で [保管された案件] ラジオボタンを選択した場合、EUR Form 連携帳票以外では表示されません。

なお、案件を強制終了できるのは、システム管理者でログインした場合に、運用中の案件をチェックしたときだけです。

11.1.2 操作手順（案件の検索）

案件を検索する操作の手順を説明します。

(1) 案件の検索

案件の検索方法について説明します。

操作手順

1. メニューポートレットで [案件検索] メニューをクリックします。
別ウィンドウに [案件検索] 画面が表示されます。
2. 検索条件を指定します。
3. [検索] ボタンまたは [検索] メニューをクリックします。
検索結果が [案件検索結果] 画面に表示されます。

(2) 検索した案件の履歴表示

検索した案件の履歴の表示方法について説明します。

操作手順

1. 履歴を表示したい案件を検索します。
[案件検索結果] 画面が表示されます。
案件の検索方法の詳細については、「(1) 案件の検索」を参照してください。

2. [案件検索結果] 画面で、履歴を表示したい案件の申請 ID アンカーをクリックします。
運用中の案件の履歴を検索した場合は [運用案件履歴] 画面が表示されます。保管された案件の履歴を検索した場合は [保管案件履歴] 画面が表示されます。
3. [運用案件履歴] 画面または [保管案件履歴] 画面で履歴を確認します。

(3) 検索した案件の内容確認

検索した案件の内容の確認方法について説明します。

操作手順

1. 内容を確認したい案件を検索します。
[案件検索結果] 画面が表示されます。
案件の検索方法の詳細は、「(1) 案件の検索」を参照してください。
2. [案件検索結果] 画面で、内容を確認したい案件の申請 ID のアンカーをクリックします。
運用中の案件の履歴を検索した場合は [運用案件履歴] 画面が表示されます。保管された案件の履歴を検索した場合は [保管案件履歴] 画面が表示されます。
3. [運用案件履歴] 画面または [保管案件履歴] 画面で [内容確認] ボタンまたは [内容確認] メニューをクリックします。
別ウィンドウに帳票が表示されます。

11.1.3 保管案件を照会するための環境設定

保管案件を照会するためには、環境設定が必要です。保管案件の照会機能を利用するための環境設定の手順を説明します。

環境設定は、電子フォームワークフローの開発環境で行います。

1. EUR Form 帳票の格納用に、<作業フォルダ>に [bkefd] フォルダを作成し、保管案件の照会機能で使用する EUR Form 帳票ファイル (.efd) をコピーします。
<作業フォルダ>は、Web アプリケーション構成を作成するフォルダです。
作業フォルダの例：<BLC2 のインストールディレクトリ>¥webSample
EUR Form 帳票の格納用フォルダに EUR Form 帳票ファイルがない場合、EUR Form 連携帳票を表示させようとしたとき、エラーメッセージ (KDLC1261-E) が表示されます。
2. EUR Form Service の環境設定ファイル [eformservice.properties] を編集します。
EUR Form Service の環境設定ファイルは、次のフォルダに格納されています。
<作業フォルダ>¥WEB-INF¥classes
EUR Form Service の環境設定ファイルに [EFormDir.bkefd] キーを追加し、1.で作成した EUR Form 帳票の格納用フォルダのフォルダ名を記述します。編集した例を次に示します。次の下線部分を編集します。
EFormDir=efd
EFormDir.bkefd=bkefd
TraceFileDir= . . .
3. 2.で編集した環境設定ファイルを開発環境の「<作業フォルダ>¥WEB-INF¥src」フォルダに上書きでコピーします。
4. 業務アプリケーションを再デプロイします。

自動生成帳票クラスファイルを含めてデプロイしてください。自動生成帳票クラスファイルとは、帳票の生成時に作成される帳票の自動生成帳票クラス（java ファイル）をコンパイルして作成した Class ファイルのことです。このファイルがない場合、KDLC9201-E のメッセージが表示されます。

11.1.4 添付ファイルを参照する場合のカスタマイズ

保管案件の帳票を参照したときに添付ファイルも参照する場合は、BLCpiselectEURView.jsp ファイル内のコメントの処理を有効にしてください。

該当する個所の例を次に示します。下線部分のコードを削除することで、コメント化されている行が有効になります。

```

    /// Create EFormDocument Object.
    resource = PropertyResourceBundle.getBundle( EFormService.PROPERTYFILE );
    service = new EFormService( resource, EFORMDIR_KEY );

    BLCTrace.putProgramCall( "EFormService", "initialize" );
    service.initialize(pageContext.getServletConfig() );
    BLCTrace.putProgramReturn( "EFormService", "initialize" );

    BLCTrace.putProgramCall( "EFormDocument", "createEFormDocumentByFileName" );
    l_efDoc = service.createEFormDocumentByFileName( l_strefdFileName );
    BLCTrace.putProgramReturn( "EFormDocument", "createEFormDocumentByFileName" );

    / * *****
    * When attached file operation refers to a necessary book vote.
    * I exclude this comment out, and please validate the following processing.
    *
    /// get Attached File
    /// File Access Create
    BLCFileAccess l_FileAccess = new BLCFileAccess();
    l_FileAccess.setTableName("BLC_BK_FILE_T");

        :
        :

    if ((null == l_strType) || (true == l_strType.equals("FREE"))) {
        BLCTrace.putProgramCall( "EFormDocument", "modifyAttachFree" );
        l_efDoc.modifyAttachFree(l_strTitle, l_strFileName, l_byFile, l_strContent);
        BLCTrace.putProgramReturn( "EFormDocument", "modifyAttachFree" );
    }else{
        BLCTrace.putProgramCall( "EFormDocument", "modifyAttachDemand" );
        l_efDoc.modifyAttachDemand(l_strTitle, l_strFileName, l_byFile, l_strContent);
        BLCTrace.putProgramReturn( "EFormDocument", "modifyAttachDemand" );
    }
    }
}
}
***** */

```

削除するコード

11.2 検索した案件を強制終了する

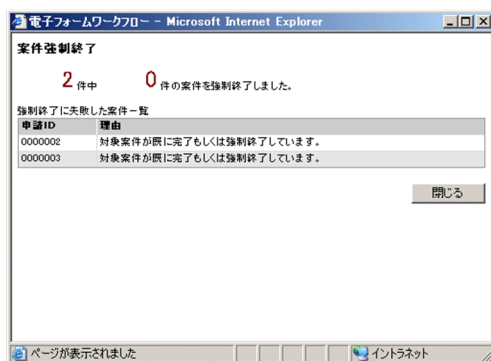
検索した案件を強制終了するときに表示される画面の構成および操作手順について説明します。

強制終了できるのは、運用中の案件だけです。また、強制終了は、システム管理者だけが実行できます。

11.2.1 [案件強制終了] 画面の構成

案件を強制終了するときに表示される画面の構成を次に示します。

図 11-4 [案件強制終了] 画面



n 件中 m 件の案件を強制終了しました。

n には強制終了に指定した全体の件数が、m には強制終了に成功した件数が表示されます。

強制終了に失敗した案件一覧

- 申請 ID
強制終了に失敗した案件の申請 ID が表示されます。正常に強制終了した場合は、何も表示されません。
- 理由
強制終了に失敗した理由が表示されます。正常に強制終了した場合は、何も表示されません。

[閉じる] ボタン

[案件強制終了] 画面が閉じます。

11.2.2 操作手順 (案件の強制終了)

案件を強制終了する操作の手順を説明します。

(1) 検索結果一覧から強制終了する

検索結果一覧から案件を強制終了する方法について説明します。

操作手順

1. 強制終了したい案件を検索します。
[案件検索結果] 画面が表示されます。
案件の検索方法の詳細は、「11.1.2(1) 案件の検索」を参照してください。
2. 強制終了したい案件のチェックボックスをチェックします。

3. [案件強制終了] ボタンをクリックします。

案件が強制終了されて、[案件強制終了] 画面に処理結果が表示されます。

(2) 帳票の内容を確認してから強制終了する

帳票の内容を確認してから案件を強制終了する方法について説明します。

操作手順

1. 強制終了したい案件を検索します。

[案件検索結果] 画面が表示されます。

案件の検索方法の詳細は、「11.1.2(1) 案件の検索」を参照してください。

2. [案件検索結果] 画面で、内容を確認したい案件の申請 ID のアンカーをクリックします。

運用中の案件の履歴を検索した場合は [運用案件履歴] 画面が表示されます。保管された案件の履歴を検索した場合は [保管案件履歴] 画面が表示されます。

3. [運用案件履歴] 画面または [保管案件履歴] 画面で [内容確認] ボタンまたは [内容確認] メニューをクリックします。

別ウィンドウに帳票が表示されます。

4. 強制終了しても問題ないことを確認したら、[運用案件履歴] 画面または [保管案件履歴] 画面で [案件強制終了] ボタンをクリックします。

案件が強制終了されて、[案件強制終了] 画面に処理結果が表示されます。

12 BLC のユティリティ

この章では, BLC が提供する完了案件削除ユティリティについて説明します。

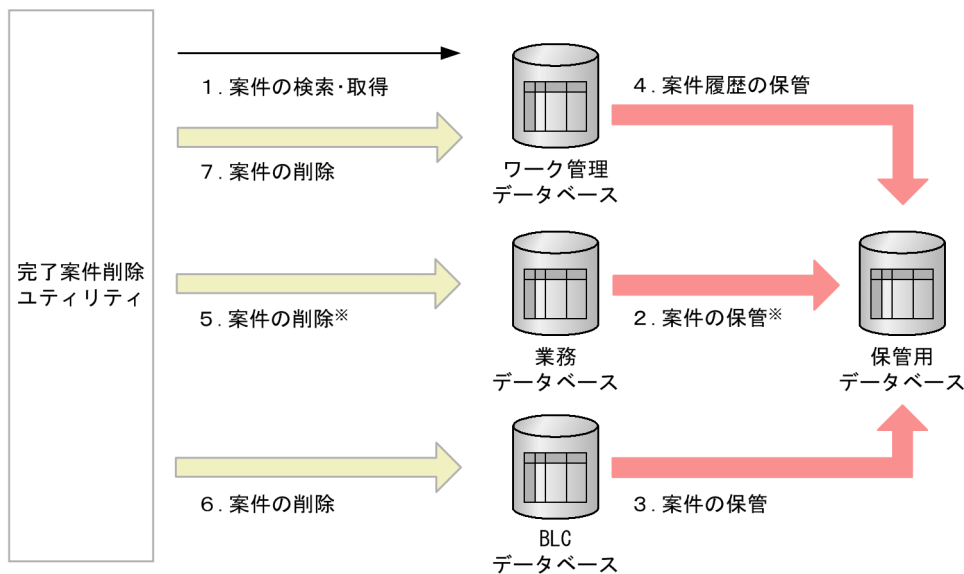
12.1 完了案件削除ユティリティ

完了案件削除ユティリティは、ワーク管理データベースの業務完了案件を検索し、ワーク管理データベースとBLCデータベースから案件を削除します。

また、このユティリティは、オプションの指定によって、削除しようとしている案件の情報を必要に応じて保管用のデータベースに保管できます。保管用テーブルへ保管する必要がある場合は、オプションで保管しない指定をしてください。

業務が完了した案件を保管・削除する流れを次に示します。

図 12-1 業務が完了した案件を保管・削除する流れ



注※ ユーザカスタマイズ処理
プロシージャを作成して実行します。

図中の処理について説明します。

- ワーク管理データベースを検索し、業務完了案件を取得します。
業務完了案件とは、次の条件をすべて満たす案件のことです。
 - ワーク管理データベースの案件状態コードが「完了」、「強制終了」、「異常終了」のどれかである
 - ワーク管理データベースの案件完了日時から、指定された日数以上経過している
 - ワーク管理データベースのビジネスプロセス定義名（BP 定義名）が指定された BP 定義名と等しい
- 業務データベース保管用プロシージャを実行し、案件を業務データベースから保管用データベースへ保管します。
業務データベース保管用プロシージャには、ユーザが、業務データベースから案件を保管用データベースへ保管する処理を記述しておきます。
- 案件を BLC データベースから保管用データベースへ保管します。
- ワーク管理データベースから案件履歴を抽出し、保管用データベースへ保管します。
- 業務データベース削除用プロシージャを実行し、案件を業務データベースから削除します。
業務データベース削除用プロシージャには、ユーザが、業務データベースから案件を削除する処理を記述しておきます。

6. 案件を BLC データベースから削除します。

削除の対象となるのは、次のテーブルです。

受信ボックステーブル、送信ログテーブル、帳票データテーブル、添付ファイルテーブル（添付ファイルがある場合）

7. ワーク管理データベースの業務完了案件を削除します。

注意

- 保管用テーブルへ保管するためのデータベース領域は、ワークフローの実行時に必要なデータベース領域とは別に作成することを推奨します。
- ワーク管理データベースおよび BLC データベースに多数の業務完了案件がある場合、完了案件削除ユティリティの実行に時間が掛かりますので、定期的に行う運用を推奨します。
- 業務中のトラブルを防ぐため、業務中以外の時間帯に完了案件削除ユティリティを実行する運用を推奨します。

業務中に完了案件削除ユティリティを実行すると、業務およびこのユティリティの処理速度が低下したり、送信ログに表示していた情報が、削除されたことによって送信ログに表示されなくなったりします。

12.1.1 完了案件削除ユティリティを実行する環境

完了案件削除ユティリティを実行するためには、システムが次のような状態であることが必要です。

表 12-1 完了案件削除ユティリティの実行に必要な環境

項番	サーバ	アプリケーション	アプリケーションの起動状態
1	DB サーバ	ワーク管理データベース	○
2		BLC データベース	○
3	アプリケーションサーバ	J2EE	△
4		アプリケーション	△

(凡例)

- ：起動している必要があります。
- △：起動中または停止中のどちらでも実行できます。

12.1.2 完了案件削除ユティリティ実行時の前提条件

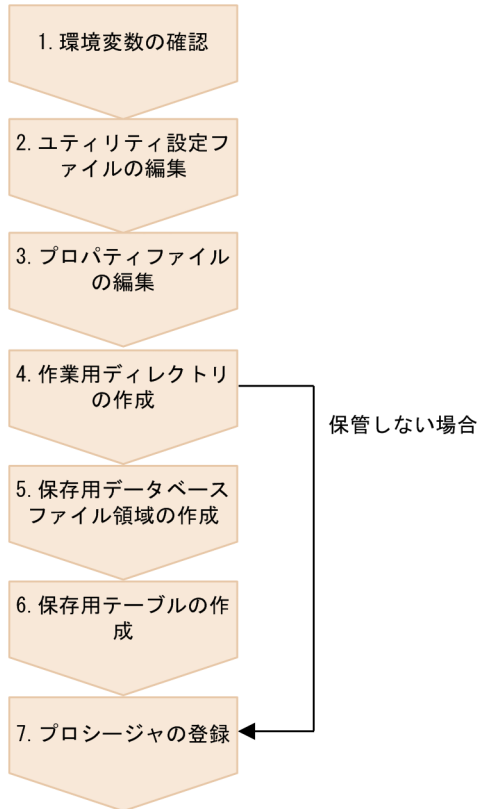
- 完了案件削除ユティリティは、必ずデータベースのバックアップを取得してから実行してください。バックアップの取得については、「9.2 バックアップとリストア」を参照してください。
- 完了案件削除ユティリティは、完了案件削除 BLC プロパティファイル (DELPI.BLCproperties) の TracePath キーで指定したディレクトリにトレース情報を出力します。そのため、実行ユーザに対して、上記のプロパティファイルで指定したディレクトリおよびファイルに読み取り権限、および書き込み権限を与えておく必要があります。
- 完了案件削除ユティリティを実行する場合、BLC のデータベースアクセス用の JDBC ドライバ (pdjdbc2.jar, ojdbc6.jar, または sqljdbc4.jar) 使用時に読み込まれるネイティブライブラリの動作環境を設定する必要があります。また、データベースクライアントライブラリの動作環境を設定する必要があります。

12.1.3 完了案件削除ユティリティを使用するための環境設定

完了案件削除ユティリティを使用するための環境設定の方法を説明します。

環境設定の手順を次に示します。

図 12-2 環境設定の手順



図の説明

1. 環境変数の確認

次の環境変数を確認してください。

- COSMINEXUS_HOME
- CSCIW_HOME
- BLC2_HOME

詳細は、「(1) 環境変数の確認」を参照してください。

2. ユティリティ設定ファイルの編集

次のユティリティ設定ファイルに必要な情報を設定してください。

- 完了案件削除ユティリティ設定ファイル (BLCDelPI_conf.bat)

詳細は、「(2) ユティリティ設定ファイルの編集」を参照してください。

3. プロパティファイルの編集

次のプロパティファイルに必要な情報を設定してください。

- 完了案件削除 BLC プロパティファイル (DELPI.BLCproperties)

詳細は、「(3) プロパティファイルの編集」を参照してください。

4. 作業用ディレクトリの作成

作業用ディレクトリが作成されているか確認してください。作成されていない場合は、「(4) 作業用ディレクトリの作成」を参照して、作業用ディレクトリを作成してください。

5. 保管用データベースファイル領域の作成

保管用テーブルを作成するためのデータベースファイル領域を確保してください。詳細は、「(5) 保管用データベースファイル領域の作成」を参照してください。

業務完了案件を保管しない場合は、保管用データベースファイル領域を確保する必要はありません。

6. 保管用テーブルの作成

5.で作成した保管用データベースファイル領域に保管用テーブルを作成してください。詳細は、「(6) 保管用テーブルの作成」を参照してください。

業務完了案件を保管しない場合は、保管用テーブルを作成する必要はありません。

7. プロシージャの登録

業務データベースを保管用テーブルに保管するためには、業務データベース保管用プロシージャを作成し、登録する必要があります。詳細は、「(7) プロシージャの登録」を参照してください。

業務データベースを保管用テーブルに保管しない場合、業務データベース保管用プロシージャを登録する必要はありません。

また、業務データベースを削除しない場合、業務データベース削除用プロシージャを登録する必要はありません。

(1) 環境変数の確認

完了案件削除ユティリティを実行する場合、次に示す環境変数に正しい値が設定されていることを確認してください。

- COSMINEXUS_HOME

COSMINEXUS_HOME 環境変数に、Cosminexus のインストールディレクトリが正しく設定されていることを確認してください。

```
COSMINEXUS_HOME=<Cosminexusインストールディレクトリ>
```

- CSCIW_HOME

CSCIW_HOME 環境変数に、CSCIW のインストールディレクトリが正しく設定されていることを確認してください。

```
CSCIW_HOME=<CSCIWインストールディレクトリ>
```

- BLC2_HOME

BLC2_HOME 環境変数に、BLC のインストールディレクトリが正しく設定されていることを確認してください。

```
BLC2_HOME=<BLC2のインストールディレクトリ>
```

(2) ユティリティ設定ファイルの編集

完了案件削除ユティリティで使用する完了案件削除ユティリティ設定ファイルを編集してください。編集する内容については、「付録 E.4(1) 完了案件削除ユティリティ設定ファイル」を参照してください。

BLCDelPI_conf.bat.sam ファイルを、BLCDelPI_conf.bat というファイル名でコピーし、BLCDelPI_conf.bat ファイルを使用する環境に合わせて編集してください。BLCDelPI_conf.bat.sam ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf

(3) プロパティファイルの編集

完了案件削除ユティリティで使用する完了案件削除 BLC プロパティファイルを編集してください。編集する内容については、「付録 E.4(2) 完了案件削除 BLC プロパティファイル」を参照してください。

DELPI.BLCproperties.sam ファイルを、DELPI.BLCproperties というファイル名でコピーし、DELPI.BLCproperties ファイルを使用する環境に合わせて編集してください。DELPI.BLCproperties.sam ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf

(4) 作業用ディレクトリの作成

作業用ディレクトリを新規作成してください。

作成したディレクトリを DELPI.BLCproperties ファイルの WorkPath パラメタにフルパス名で指定してください。

BLC インストールディレクトリ下に、「tmp」という作業用ディレクトリを作成する場合の例を次に示します。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥tmp

なお、作業用ディレクトリには、完了案件削除ユティリティが使用する、ロックファイルおよびワークファイルが作成されます。

(5) 保管用データベースファイル領域の作成

業務完了案件を保管する場合、保管用テーブルを作成するためのデータベースファイル領域を確保してください。保管用テーブルについては、「付録 D.5 完了案件の保管用データベース」を参照してください。

(a) データベースの容量見積もり

データベースの容量見積もりの基となる各テーブルのサイズおよびインデックスのサイズ（単位=バイト）を次に示します。

- BLC_BK_INBOX_T テーブル容量 = $3364 \times a$ 、インデックス容量 = $646 \times a$
- BLC_BK_SENTLOG_T テーブル容量 = $1502 \times b \times a$ 、インデックス容量 = $308 \times b \times a$
- BLC_BK_FORM_DATA_T テーブル容量 = $4,114 \times c \times a$ 、インデックス容量 = $200 \times c \times a$
- BLC_BK_FILE_T テーブル容量 = $(3,570 + d) \times e$ 、インデックス容量 = $166 \times e$
- BLC_BK_HISTORY_T テーブル容量 = $356 \times f \times a$ 、インデックス容量 = $166 \times f \times a$

(凡例)

a: 削除案件の総数

b: ビジネスプロセス一つ当たりの作業者数 (申請者の確認作業など, 同一ユーザ ID で複数の作業が明らかかな場合は, まとめて一つの作業とします)。

c: 帳票一つ当たりのレコード数

$$\uparrow \text{システムデータ}/3,800 \uparrow + \uparrow \text{案件履歴データ}/3,800 \uparrow + \Sigma (\text{帳票モジュール数}) \{ \uparrow \text{帳票データ}/3,800 \uparrow \}$$

(上記計算式は, 運用中の帳票のデータに依存しているため, 「3+帳票モジュール数」を目安に計算してください)。

d: BLOB 型のデータ長

e: 添付ファイル数 (添付ファイル機能を使用する場合に必要です)。

f: 申請 ID 一つ当たりの履歴数

なお, テーブル内のカラム詳細については, 「付録 D.5 完了案件の保管用データベース」を参照してください。

また, データベースの容量見積もりについては, お使いのデータベースのマニュアルを参照してください。

(b) 容量見積もりの例

次に示す条件で容量を見積もった場合, テーブル容量 = 10,173,720,000 (バイト), インデックス容量 = 483,912,000 (バイト) となります。

- ・ サンプルビジネスプロセス定義, サンプル帳票 (販売契約稟議) を使用
- ・ 完了案件削除ユティリティの実行頻度: 1回/月
- ・ 1回の実行で削除される業務完了案件数: 1,000件
- ・ 保存用テーブルに保存する期間: 10年間

(a: 120,000, b: 5, c: 5, d: 500KB, e: 12,000, f: 5)

(c) 注意事項

- ・ 業務データベースを保存する場合は, 業務データベースの保存用テーブルのディスク占有量を求めて, データベースファイル領域に追加する必要があります。
- ・ 保存用データベースファイル領域は, 業務で使用するデータベースファイル領域とは別のデータベースファイル領域に確保することを推奨します。ただし, BLC データベースと同じデータベースに作成してください。

(6) 保管用テーブルの作成

業務完了案件を保管する場合, データベースに保管用テーブルを作成してください。保管用テーブルについては, 「付録 D.5 完了案件の保管用データベース」を参照してください。

業務データベースを保管する場合は, 各テーブル作成 SQL を参考に, 業務データベースの保管用テーブルを作成してください。

保管用テーブルの作成手順を次に示します。

作成手順

1. サンプルファイルを編集します。

サンプルファイルに含まれている各ファイルを, 使用する環境に合わせて編集してください。保管用テーブルは, 「(5) 保管用データベースファイル領域の作成」で作成したデータベースファイル領域に割り当ててください。保管用データベースファイル領域は, 業務で使用するデータベースファイル領域

とは別のデータベースファイル領域に確保することを推奨します。ただし、BLC データベースと同じデータベースに作成してください。

2. バッチファイルを実行します。

サンプルファイルに含まれている、バッチファイルを実行して、保管用テーブルを作成してください。

(a) サンプルファイルの説明

BLC では、保管用テーブルを作成するサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

• Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%sql%<データベース種別>

サンプルファイルの一覧 (Windows 版の場合) を次に示します。

表 12-2 サンプルファイル一覧 (Windows 版の場合)

ファイル名	内容	備考
createBackUp.bat	バッチファイル	使用する環境に合わせて編集してください。
BLCBKTable.txt	保管用テーブル作成 SQL (添付ファイル以外)	表領域を修正してください。
BLCBKFile.txt	添付ファイル保管用テーブル作成 SQL*	

注※

添付ファイル機能を使用する場合は必要です。

(b) サンプルファイルの実行

サンプルファイルを、テキストエディタ (メモ帳, vi など) で環境に合わせて編集し、バッチファイルを実行してください。

テーブル作成 SQL の編集箇所 (HiRDB の場合) を次に示します。下線部分を環境に合わせて編集してください。

図 12-3 テーブル作成 SQL の編集箇所 (HiRDB の場合)

```
CREATE TABLE BLC_BK_SENTLOG_T
(CDLOGPARTICIPANT    VARCHAR(128) NOT NULL,
CDPINAME             MVARCHAR(80) NOT NULL,
DTCOMPLETE           VARCHAR(14) IN RDDATA11);

CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDLOGPART ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDLOGPARTICIPANT)
IN RDINDEX11;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_DTCOMPLETE ON BLC_BK_SENTLOG_T (DTCOMPLETE)
IN RDINDEX11;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDPINAME ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDPINAME)
IN RDINDEX11;
.
.
.
```

注 データベースファイル領域 (RDエリア) を次のように割り当てた例です。

- データ : RDDATA11
- インデックス : RDINDEX11

テーブル作成 SQL の編集箇所（Oracle の場合）を次に示します。下線部分を環境に合わせて編集してください。

図 12-4 テーブル作成 SQL の編集箇所（Oracle の場合）

```
CREATE TABLE BLC_BK_SENTLOG_T
(CDLOGPARTICIPANT    VARCHAR(128) NOT NULL,
 CDPINAME            VARCHAR(80)  NOT NULL,
 DTCOMPLETE         VARCHAR(14)  tablespace data1);

CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDLOGPART    ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDLOGPARTICIPANT)
tablespace data1;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_DTCOMPLETE  ON BLC_BK_SENTLOG_T (DTCOMPLETE)
tablespace data1;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDPINAME    ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDPINAME)
tablespace data1;
.
.
.
```

注 表領域をdata1に割り当てた例です。

テーブル作成 SQL の編集箇所（SQL Server の場合）を次に示します。下線部分を環境に合わせて編集してください。

図 12-5 テーブル作成 SQL の編集箇所（SQL Server の場合）

```
CREATE TABLE BLC_BK_SENTLOG_T
(CDLOGPARTICIPANT    VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL,
 CDPINAME            VARCHAR(80)  COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL,
 DTCOMPLETE         VARCHAR(14) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL) ON
file1;

CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDLOGPART    ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDLOGPARTICIPANT)
ON file1;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_DTCOMPLETE  ON BLC_BK_SENTLOG_T (DTCOMPLETE)
ON file1;
CREATE INDEX BLC_BK_SENTLOG_CDPINAME    ON BLC_BK_SENTLOG_T (CDPINAME)
ON file1;
.
.
.
```

注 ファイルグループをfile1に割り当てた例です。

バッチファイルの編集箇所（Windows 版の場合）を次に示します。下線部分を環境に合わせて編集してください。

図 12-6 バッチファイルの編集箇所 (Windows 版の場合)

```

@echo off
setlocal
rem #####
rem ## Please modify following parameters. ##
rem #####
set SQLExecuterDir="C:\Program Files\HITACHI\PDSQL"
set PATH=%SQLExecuterDir%;%PATH%
set USER_ID=user1
set PASSWORD=password1
set HOST_NAME=<ホスト名>
set NAME_PORT=22200

echo on
pdsq1 -u %USER_ID%/PASSWORD% -h %HOST_NAME% -n %NAME_PORT% < BLCBKTable.txt
rem* pdsq1 -u %USER_ID%/PASSWORD% -h %HOST_NAME% -n %NAME_PORT% < BLCBKFile.txt

```

注 データベース種別をHiRDBとする場合の例です。

注※ 添付ファイル機能を使用する場合は、コメントを外してください。

(7) プロシージャの登録

業務データベースを保管または削除する場合、プロシージャを作成し、データベースに登録してください。プロシージャの詳細については、各データベースのマニュアルを参照してください。

(a) プロシージャの仕様

プロシージャの仕様は次のとおりです。

- 入力パラメタで案件名を、出力パラメタで完了コードを指定します。完了コードの意味は次のとおりです。

表 12-3 完了コード一覧

完了コード	意味
0	正常時
-1	異常時
1	キー重複時*
2	該当データなし

注※

キー重複は業務データベース保管用プロシージャだけです。

- 業務データベース保管用プロシージャは、業務データベースを保管するとき、保管用テーブルにすでに同じ案件が保管されていた場合、完了コードの 1 を返すように作成してください。

(b) プロシージャサンプルの説明

BLC では、プロシージャサンプルを提供しています。プロシージャサンプルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%sql%<データベース種別>

プロシージャサンプルの一覧を次に示します。

表 12-4 プロシージャサンプルの一覧

ファイル名	内容	プロシージャ名
BLCDelPISaveUDB.txt	業務データベース保管用プロシージャのサンプル	SaveUDB*
BLCDelPIDeleteUDB.txt	業務データベース削除用プロシージャのサンプル	DeleteUDB*

注※

プロシージャ名は、使用する環境に合わせて変更してください。変更したプロシージャ名は、プロパティファイルに設定する必要があります。詳細は、「付録 E.4 完了案件削除ユティリティのプロパティファイル」を参照してください。

プロシージャサンプルは、使用する環境に合わせて変更してください。なお、プロシージャサンプルは、次のことを想定しています。

- 業務データベースにテーブルを想定しています。
想定しているテーブル（HiRDB の場合）を次に示します。

図 12-7 想定している業務データベースのテーブル（HiRDB の場合）

```
CREATE TABLE USER_T (
  USER_CDPINAME      MVARCHAR(80) NOT NULL PRIMARY KEY,
  USER_CDAPPLICANT  VARCHAR(128),
  USER_NMAPPLICANT  MVARCHAR(128)
);
```

想定しているテーブル（Oracle の場合）を次に示します。

図 12-8 想定している業務データベースのテーブル（Oracle の場合）

```
CREATE TABLE USER_T (
  USER_CDPINAME      VARCHAR(80) NOT NULL PRIMARY KEY,
  USER_CDAPPLICANT  VARCHAR(128),
  USER_NMAPPLICANT  VARCHAR(128)
);
```

想定しているテーブル（SQL Server の場合）を次に示します。

図 12-9 想定している業務データベースのテーブル（SQL Server の場合）

```
CREATE TABLE USER_T (
  USER_CDPINAME      VARCHAR(80) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL PRIMARY KEY,
  USER_CDAPPLICANT  VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
  USER_NMAPPLICANT  VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL
);
```

- 業務データベースの保管用テーブルは、テーブル名を「USER_BK_T」として、テーブルフォーマットは業務データベースと同一のものを想定しています。

● 業務データベース保管用プロシージャ

業務データベース保管用プロシージャに、業務データベースから保管用テーブルへ案件を保管する処理を記述してください。作成した業務データベース保管用プロシージャは、データベースによって次の SQL を使用して登録してください。

- HiRDB の場合
HiRDB SQL Executer
- Oracle の場合
SQL*Plus
- SQL Server の場合
SQL Server Management Studio または sqlcmd

業務データベース保管用プロシージャのサンプル (HiRDB の場合) を次に示します。

図 12-10 業務データベース保管用プロシージャのサンプル (HiRDB の場合)

```

CREATE PROCEDURE SaveUDB ( IN incdpiname MVARCHAR(80), OUT outstatus INTEGER ) 1.
ISOLATION 2 2.
BEGIN
  DECLARE EXIT HANDLER FOR SQLCODE VALUE -803 3.
  BEGIN
    SET outstatus = 1 ;
  END ;
  DECLARE EXIT HANDLER FOR SQLERROR 4.
  BEGIN
    SET outstatus = -1 ;
  END ;
  DECLARE EXIT HANDLER FOR NOT FOUND 5.
  BEGIN
    SET outstatus = 2 ;
  END ;
  insert into USER_BK_T select USER_CDPINAME, USER_CDAPPLICANT, USER_NMAPPLICANT
    from USER_T where USER_CDPINAME = incdpiname ;
  SET outstatus = 0 ;
END
END_PROC ;

```

図の説明

1. プロシージャ名は SaveUDB です。SQL パラメタは、次のとおりです。
 - incdpiname は入力パラメタで、案件名を入力します。
 - outstatus は出力パラメタで、完了コードを出力します。
2. データ保証レベルは 2 です。変更する場合は、システムの運用を考慮して行ってください。
3. キー重複が発生した場合、SQL パラメタの outstatus に 1 を設定してプロシージャを終了します。
4. SQLERROR が発生した場合、SQL パラメタの outstatus に -1 を設定してプロシージャを終了します。
5. NOT FOUND が発生した場合、SQL パラメタの outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。

業務データベース保管用プロシージャのサンプル (Oracle の場合) を次に示します。

図 12-11 業務データベース保管用プロシージャのサンプル (Oracle の場合)

```

CREATE PROCEDURE SaveUDB ( incdpiname IN VARCHAR, outstatus OUT NUMBER ) ]—1.
IS
BEGIN
  insert into USER_BK_T select USER_CDPINAME, USER_CDAPPLICANT, USER_NMAPPLICANT
    from USER_T where USER_CDPINAME = incdpiname ;
  IF SQL%NOTFOUND = TRUE THEN ]—2.
    outstatus := 2 ;
  ELSE
    IF SQL%ROWCOUNT = 0 THEN ]—3.
      outstatus := -1 ;
    ELSE
      outstatus := 0 ;
    END IF ;
  END IF ;
  EXCEPTION ]—4.
  WHEN dup_val_on_index THEN
    outstatus := 1 ;
  WHEN others THEN
    outstatus := -1 ;
END ;
/

```

図の説明

1. プロシージャ名は SaveUDB です。SQL パラメタは、次のとおりです。
 - incdpiname は入力パラメタで、案件名を入力します。
 - outstatus は出力パラメタで、完了コードを出力します。
2. select 文で該当するデータがない (SQL%NOTFOUND) 場合、SQL パラメタの outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。
3. insert 文で挿入された件数 (SQL%ROWCOUNT) が 0 の場合、SQL パラメタの outstatus に -1 を設定してプロシージャを終了します。
4. 例外処理です。エラーが発生したときに実行されます。
 - キーが重複した場合 (dup_val_on_index), SQL パラメタの outstatus に 1 を設定してプロシージャを終了します。
 - キー重複以外の例外が発生した場合 (others), SQL パラメタの outstatus に -1 を設定してプロシージャを終了します。

業務データベース保管用プロシージャのサンプル (SQL Server の場合) を次に示します。

図 12-12 業務データベース保管用プロシージャのサンプル (SQL Server の場合)

```

CREATE PROCEDURE SaveUDB @incdpiname varchar (80), @outstatus integer OUTPUT ] 1.
AS
BEGIN TRY
    insert into USER_BK_T select USER_CDPINAME, USER_CDAPPLICANT, USER_NMAPPLICANT
    from USER_T where USER_CDPINAME = @incdpiname
    IF @@ROWCOUNT = 0 ] 2.
        select @outstatus = 2
    ELSE
        select @outstatus = 0
END TRY
BEGIN CATCH ] 3.
    IF ERROR_NUMBER() = 2627
        select @outstatus = 1
    ELSE
        select @outstatus = -1
END CATCH

```

図の説明

1. プロシージャ名は SaveUDB です。SQL パラメタは、次のとおりです。
 - @incdpiname は入力パラメタで、案件名を入力します。
 - @outstatus は出力パラメタで、完了コードを出力します。
2. insert 文で挿入された件数 (@@ROWCOUNT) が 0 の場合、SQL パラメタの @outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。
3. 例外処理です。エラーが発生したときに実行されます。
 - キーが重複した場合 (ERROR_NUMBER() = 2627), SQL パラメタの outstatus に 1 を設定してプロシージャを終了します。
 - キー重複以外の例外が発生した場合 (ELSE), SQL パラメタの @outstatus に -1 を設定してプロシージャを終了します。

● 業務データベース削除用プロシージャ

業務データベース削除用プロシージャに、業務データベースから案件を削除する処理を記述してください。作成した業務データベース削除用プロシージャは、データベースによって次の SQL を使用して登録してください。

- HiRDB の場合
HiRDB SQL Executer
- Oracle の場合
SQL*Plus
- SQL Server の場合
SQL Server Management Studio または sqlcmd

業務データベース削除用プロシージャのサンプル (HiRDB の場合) を次に示します。

図 12-13 業務データベース削除用プロシージャのサンプル (HiRDB の場合)

```

CREATE PROCEDURE DeleteUDB ( IN incdpiname MVARCHAR(80), OUT outstatus INTEGER ) ]—1.
ISOLATION 2 ]—2.
BEGIN
  DECLARE EXIT HANDLER FOR SQLERROR ]
  BEGIN ]—3.
    SET outstatus = -1 ;
  END ;
  DECLARE EXIT HANDLER FOR NOT FOUND ]
  BEGIN ]—4.
    SET outstatus = 2 ;
  END ;
  delete from USER_T where USER_CDPINAME = incdpiname ;
  SET outstatus = 0 ;
END
END_PROC ;

```

図の説明

1. プロシージャ名は DeleteUDB です。SQL パラメタは、次のとおりです。
 - incdpiname は入力パラメタで、案件名を入力します。
 - outstatus は出力パラメタで、完了コードを出力します。
2. データ保証レベルは 2 としています。変更する場合は、システムの運用を考慮して行ってください。
3. SQLERROR が発生した場合、SQL パラメタの outstatus に -1 を設定してプロシージャを終了します。
4. NOT FOUND が発生した場合、SQL パラメタの outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。

業務データベース削除用プロシージャのサンプル (Oracle の場合) を次に示します。

図 12-14 業務データベース削除用プロシージャのサンプル (Oracle の場合)

```

CREATE PROCEDURE DeleteUDB ( incdpiname IN VARCHAR, outstatus OUT NUMBER ) ]—1.
IS
BEGIN
  delete from USER_T where USER_CDPINAME = incdpiname ;
  IF SQL%NOTFOUND = TRUE THEN ]—2.
    outstatus := 2 ;
  ELSE
    IF SQL%ROWCOUNT = 0 THEN ]—3.
      outstatus := -1 ;
    ELSE
      outstatus := 0 ;
    END IF ;
  END IF ;
  EXCEPTION ]—4.
  WHEN others THEN
    outstatus := -1 ;
END ;
/

```

図の説明

1. プロシージャ名は DeleteUDB です。SQL パラメタは、次のとおりです。
 - incdpiname は入力パラメタで、案件名を入力します。
 - outstatus は出力パラメタで、完了コードを出力します。

- 2.delete 文で該当するデータがない (SQL%NOTFOUND) 場合, SQL パラメタの outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。
- 3.delete 文で削除された件数 (SQL%ROWCOUNT) が 0 の場合, SQL パラメタの outstatus に-1 を設定してプロシージャを終了します。
- 4.例外処理です。エラーが発生したときに実行されます。
例外が発生した場合, SQL パラメタの outstatus に-1 を設定してプロシージャを終了します。

業務データベース削除用プロシージャのサンプル (SQL Server の場合) を次に示します。

図 12-15 業務データベース削除用プロシージャのサンプル (SQL Server の場合)

```

CREATE PROCEDURE DeleteUDB @incdpiname varchar (80), @outstatus integer OUTPUT ]-1.
AS
BEGIN TRY
  delete from USER_T where USER_CDPINAME = @incdpiname
  IF @@ROWCOUNT = 0 ]- 2.
    select @outstatus = 2 ]- 2.
  ELSE
    select @outstatus = 0
END TRY
BEGIN CATCH ]- 3.
  select @outstatus = -1 ]- 3.
END CATCH

```

図の説明

1. プロシージャ名は DeleteUDB です。SQL パラメタは, 次のとおりです。
 - @incdpiname は入力パラメタで, 案件名を入力します。
 - @outstatus は出力パラメタで, 完了コードを出力します。
- 2.delete 文で削除された件数 (@@ROWCOUNT) が 0 の場合, SQL パラメタの@outstatus に 2 を設定してプロシージャを終了します。
- 3.例外処理です。エラーが発生したときに実行されます。
例外が発生した場合, SQL パラメタの@outstatus に-1 を設定してプロシージャを終了します。

12.1.4 完了案件削除ユティリティの実行方法

完了案件削除ユティリティの実行方法について説明します。

このユティリティは, アプリケーションサーバで実行してください。

(1) 実行コマンド

実行コマンドの実行方法について説明します。

注意事項

- 完了案件削除ユティリティの実行時に Java VM のヒープサイズが不足する場合は, 最大ヒープサイズを指定してください。
- 最大ヒープサイズは, 次の使用メモリの計算式を参考にしてください。

Oracle の場合

1 トランザクションで使用するメモリ

= 添付ファイルの最大サイズ × -a オプションの値

HiRDB (LOCATOR) の場合

1 トランザクションで使用するメモリ

= HiRDB_for_Java_LONGVARIABLE_ACCESS_SIZE の値 × -a オプションの値

HiRDB (REAL) の場合

1 トランザクションで使用するメモリ

= HiRDB_for_Java_MAXBINARYSIZE の値 × -a オプションの値

SQL Server の場合

1 トランザクションで使用するメモリ

= 添付ファイルの最大サイズ × -a オプションの値

(a) 入力形式

```
BLCDeIPI_△-u_△ユーザID_△-p_△パスワード_△[-o_△<削除結果ファイル>]_△[-c]_△[-s]_△[-g]_△[-d_△案件終了後の経過日数]_△[-b_△<BP定義名ファイル>]_△[-a_△処理単位]
```

注 △は半角スペースを表しています。
実際は、途中改行なし（1行）で入力してください。

(b) 実行コマンド**BLCDeIPI**

完了案件削除ユーティリティの実行用コマンドです。変更できません。

(c) オプション**-u ユーザ ID**

データベース接続用のユーザ ID を指定します。テーブルを作成した認可識別子またはユーザを指定します（小文字で指定する場合は、「"」で文字列を囲んでください）。指定は必須です。

-p パスワード

-u オプションで指定したユーザ ID に対応するデータベース接続用のパスワードを指定します。指定は必須です。

-o <削除結果ファイル>

完了案件削除ユーティリティが出力する削除結果ファイルを、フルパス名で指定します。削除結果ファイルの詳細は、「(2) 削除結果ファイル」を参照してください。このオプションは、-c オプションの有無によって指定が異なります。

- -c オプションを指定する場合

-o オプションは省略できます。指定した場合、指定は無効になり、削除結果ファイルに、初期化、書き込みなどの変更はされません。

- -c オプションを指定しない場合

-o オプションの指定は必須になります。

すでに削除結果ファイルがある場合は、初期化してから上書きします。

削除結果ファイルがない場合は、新規に作成します。ただし、ファイルパスに含まれるディレクトリは作成されません。

-c

削除対象となる業務完了案件の件数を取得するだけの場合に指定します。業務完了案件の件数をメッセージに出力したあと、業務完了案件の保管または削除をしないで完了案件削除ユーティリティを終了し

ます。このオプションを指定した場合、-o オプションを省略できます。-s オプションおよび-g オプションは、指定しても無効になります。

-s

業務完了案件の保管をする場合に指定します。省略した場合は、業務完了案件の削除だけをして、業務完了案件の保管はしません。

このオプションと-g オプションの指定の関係を次に示します。

- -s オプションを指定する場合
-s オプションを指定した場合の動作は、-g オプションの指定の有無によって次のようになります。

動作	-g オプション	
	指定あり	指定なし
業務データベースの保管	○	×
業務完了案件の保管	○	○
業務データベースの削除	○	×
業務完了案件の削除	○	○

(凡例)

- ：実行されます。
- ×：実行されません。

- -s オプションを指定しない場合
-s オプションを指定しない場合の動作は、-g オプションの指定の有無によって次のようになります。

動作	-g オプション	
	指定あり	指定なし
業務データベースの保管	×	×
業務完了案件の保管	×	×
業務データベースの削除	○	×
業務完了案件の削除	○	○

(凡例)

- ：実行されます。
- ×：実行されません。

-g

業務データベースの保管および削除をする場合に指定します。このオプションを指定した場合は、業務データベース保管用プロシージャおよび業務データベース削除用プロシージャを登録してください。省略した場合は、業務データベースの保管および削除はしません。

このオプションと-s オプションの指定の有無で、業務データベースの動作が変わります。

このオプションと-s オプションの指定の関係を次に示します。

- -g オプションを指定する場合
-g オプションを指定した場合の動作は、-s オプションの指定の有無によって次のようになります。

動作	-s オプション	
	指定あり	指定なし
業務データベースの保管	○	×
業務完了案件の保管	○	×
業務データベースの削除	○	○
業務完了案件の削除	○	○

(凡例)

○：実行されます。

×：実行されません。

- -g オプションを指定しない場合

-g オプションを指定しない場合の動作は、-s オプションの指定の有無によって次のようになります。

動作	-s オプション	
	指定あり	指定なし
業務データベースの保管	×	×
業務完了案件の保管	○	×
業務データベースの削除	×	×
業務完了案件の削除	○	○

(凡例)

○：実行されます。

×：実行されません。

-d 案件終了後の経過日数

業務完了案件を特定するための案件終了後の経過日数を指定します。0~3,650 (10年) の値を指定してください。省略した場合は、31日となります。0を指定した場合は、すべての終了案件を対象とします。

日数は GMT (グリニッジ標準時間) で次のように求めます。

案件の完了日時 ≤

(実行日 - (-d オプションで指定した日数 + 1日)) の 23 時 59 分 59 秒

-b <BP 定義名ファイル>

業務完了案件を絞り込むための BP 定義名を格納したファイルをフルパス名で指定します。省略した場合は、CSCIW に登録されているすべての BP 定義を対象とします。指定したファイルパスがない場合は、エラーとなります。

BP 定義名ファイルは、プロパティ形式で作成してください。

キーの値は、001~100 です。これ以外のキーを指定しても無視されます。

BP 定義名はキー一つにつき 1 件を記述してください。指定できるキーの数は最大 100 です。

001~100 のキーを重複して指定した場合、あとから読み込まれた方が有効となります。

001~100 のキーが途中で抜けていても、エラーにはなりません。

キーの指定順に昇順、降順などの規定はありません。

同じ BP 定義名を重複して指定してもエラーにはなりません。

誤った BP 定義名を指定したり、ワーク管理データベースにない BP 定義名を指定したりした場合はエラーとなり、ユティリティが異常終了します。

指定した BP 定義名がすべてワーク管理データベースにない場合は、エラーとなります。

BP 定義名に該当する業務完了案件を確認するには、実行後の削除結果ファイルを参照してください。

BP 定義名ファイルは、Unicode コード文字エンコーディングされた値で構成されたファイルである必要があります。

BLC では、エンコーディングされた BP 定義名ファイル (DelPIbpname.sam) をサンプルとして提供しています。DelPIbpname.sam ファイルは、次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>%conf%\DelPIbpname.sam

DelPIbpname.sam ファイルを DelPIbpname.txt というファイル名でコピーし、使用してください。

提供するファイル (エンコーディングされたファイル) の例を次に示します。

```
001 = ¥u8ca9¥u58f2¥u5951¥u7d04¥u7a1f¥u8b70EUR
002 = ¥u8b70¥u4e8b¥u9332
003 = ¥u8ca9¥u58f2¥u5951¥u7d04¥u7a1f¥u8b70
004 =
      .
      .
      .
100 =
```

BP 定義名ファイルを編集するには、いったんネイティブコードに変換する必要があります。変換には、Cosminexus に付属の JDK コマンド (native2ascii コマンド) を使用します。

内容を変更する場合は native2ascii -reverse でネイティブコードのファイルに変換し、編集したあと native2ascii で変換してください。

操作手順を Windows 版の場合を例に示します。

操作手順

1. エンコーディングされている BP 定義名ファイルを native2ascii コマンドで変換します。

```
native2ascii -reverse DelPIbpname.txt > DelPIbpnamenative.txt
```

native2ascii -reverse でネイティブコードに変換したファイルの例を次に示します。

```
001 = 販売契約稟議EUR
002 = 議事録
003 = 販売契約稟議
004 =
      .
      .
      .
100 =
```

2. ネイティブコードに変換したファイルをメモ帳などのテキストエディタで編集します。
3. 編集したファイルを native2ascii コマンドでエンコーディングされたファイルに変換します。


```
native2ascii DelPibpnamenative.txt > DelPibpname.txt
```

-a 処理単位

何件ごとに案件を処理するかを指定するオプションです。実行時に、画面に処理中であることを示す「.」（ピリオド）を表示する単位です。10～255 の値を指定してください。10～255 以外の値を指定した場合は、エラーとなります。省略した場合は、50 となります（50 案件を 1 単位として保管および削除をします）。

(d) オプションの注意事項

- -p オプションを除く各オプションに指定した値は、トレースファイルに出力されます。
- -o オプションおよび-b オプションで指定するファイルパスに半角スペースを含む文字列を指定するときは、ファイルパス全体を「"」（半角ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。

例

Windows 版の場合："C:¥Program△files . . ."

注 △は半角スペースを表します。

- -o オプションおよび-b オプションで指定するファイルパスに「"」（半角ダブルクォーテーション）を含む文字列を指定する場合は、「"」の前に「¥」（半角円記号）を入力する必要があります。
- -o オプションおよび-b オプションで指定したファイルパスが次の条件のどれかと一致する場合、引数チェックでエラーとなりコマンドの実行が中止されます。
 - 指定したファイルパスに含まれるディレクトリがなかった場合
 - 指定したファイルパスに含まれるディレクトリにアクセス権限がない場合
 - 指定したファイルパスの長さが、区切り文字も含めて、文字コードのバイト換算で 256 文字以上の場合（エスケープ文字は長さに含まれません）
- -o オプションおよび-b オプションで指定するファイルパスに、ネットワークドライブを指定しないでください。
- -o オプションおよび-b オプションで指定するファイルパスに予約デバイス名を指定した場合、エラーとなりコマンドの実行が中止されます。（Windows の場合）
予約デバイス名：AUX, CON, NUL, PRN, CLOCK\$, COM1～COM9, LPT1～LPT9
- 各オプションについて、構文チェックをすることがあります。このため、オプションの組み合わせによって「指定は無効になる」と説明されているオプションでも、構文チェックした結果、そのオプションのエラーとなる場合があります。

(2) 削除結果ファイル

削除結果ファイルは、完了案件削除ユティリティを実行した場合に作成されます。

削除結果ファイルの形式は、CSV ファイル（コンマ区切りの可変長テキストファイル）です。各項目は「"」（半角ダブルクォーテーション）で囲まれます。

画面に表示される開始メッセージ（KDLC5006-I）、および終了メッセージ（KDLC5007-I）が削除結果ファイルに出力されます。

削除対象の案件がない場合、開始メッセージ、ヘッダとフッタ、および終了メッセージだけが出力されません。

削除対象の案件がない場合、ヘッダだけが出力されます。

(a) ファイル名と出力先

完了案件削除ユティリティの実行コマンドの-o オプションで指定したファイルパスに作成されます。

(b) ファイル形式

削除結果ファイルの文字セットは UTF-8 で出力されます。

削除結果ファイルに出力されるヘッダ、内容形式およびフッタを次に示します。

処理の途中で異常終了した場合、フッタは出力されません。

図 12-16 削除結果ファイルのヘッダ、内容形式およびフッタ

削除結果ファイルのヘッダ

```
Action, PIID, PIName, BPID, BPName, Code, ClosedDate, Result
```

削除結果ファイルの内容形式

```
動作, 案件ID, 案件名, BP定義ID, BP定義名, 案件状態コード, 案件完了日時, 処理結果
```

削除結果ファイルのフッタ

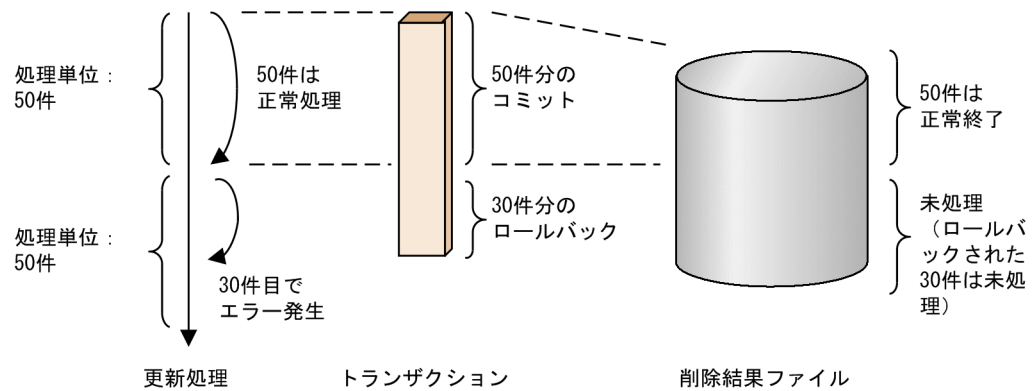
```
Utility ended normally. SaveUDB=99 SaveBLC=99 SaveCSCIW=99 DeleteUDB=99 DeleteBLC=99  
DeleteCSCIW=99
```

注 件数はゼロ抑制して表示します。ここでは、例として99件を表示しています。

(c) 注意事項

- 削除結果ファイルを Excel で開く場合、いったん削除結果ファイルをメモ帳などのテキストエディタで開き、UTF-8 以外の文字コードを選択して削除結果ファイルを変換してください。その後、Excel で開いてください。
- 削除処理での削除結果ファイルの更新は、-a オプションで指定された処理単位でします。例えば、-a オプションの処理単位に 50 (デフォルト) を指定した場合、50 案件を 1 単位として削除結果ファイルを更新します。データベースのトランザクションも処理単位ごとに決着 (コミットまたはロールバック) するため、処理の途中でエラーが発生した場合、処理単位分のロールバックが発生します。例えば、処理単位が 50 で、80 件目にエラーが発生した場合の流れを次に示します。

図 12-17 削除結果ファイルの更新処理の流れ



(d) 削除結果ファイルの内容

削除結果ファイルに出力される内容について次に示します。

表 12-5 削除結果ファイルの内容一覧

カラム名	内容	備考
Action	動作	処理の名称
PIID	案件 ID	案件 ID
PIName	案件名	案件の名称
BPID	BP 定義 ID	案件が所属するビジネスプロセス定義の ID
BPName	BP 定義名	案件が所属するビジネスプロセス定義の名称
Code	案件状態コード	案件の状態コード
ClosedDate	案件完了日時	案件の終了日時
Result	処理結果	各処理の結果

● 動作の値

動作の値と内容を次に示します。

表 12-6 動作の値

値	内容
SaveUDB	業務データベース保管処理
SaveBLC	BLC データベース保管処理
SaveCSCIW	ワーク管理データベース保管処理
DeleteUDB	業務データベース削除処理
DeleteBLC	BLC データベース削除処理
DeleteCSCIW	ワーク管理データベース削除処理

● 案件状態コードの一覧

案件状態コードの値と内容を次に示します。

表 12-7 案件状態コードの値

値	内容
o	完了
u	強制終了
v	異常終了

値の英字は小文字で、CSCIW の案件状態コードです。

● 案件完了日時の形式

```
yyyy/MM/dd△HH:mm:ss
```

注 △は半角スペースを表しています。

案件完了日時に設定されている各項目の内容を次に示します。

表 12-8 案件完了日時の項目

項目	文字数	設定内容
yyyy	4	年（西暦）を 4 桁で表示します。（例：2002, 2003・・・）
MM	2	月を 2 桁で表示します。（例：01, 02・・・）
dd	2	日を 2 桁で表示します。（例：01, 02・・・）
HH	2	時（24 時間制）を 2 桁で表示します。（例：01, 02・・・）
mm	2	分を 2 桁で表示します。（例：01, 02・・・）
ss	2	秒を 2 桁で表示します。（例：01, 02・・・）

● 削除結果の値

処理結果の値と内容を次に示します。

表 12-9 処理結果の値

値	内容	以降の処理
OK	正常終了しました。	処理を続行します。
NG	異常終了しました。	ユティリティの実行を終了します。
Duplicate	重複キーがあります。 すでに案件が保存されています。	処理を続行します。
NoData	該当データがありません。	処理を続行します。

値	内容	以降の処理
PartLack	部分不足です。 BLC データベースの保管処理で、システムに必須であるテーブル (BLC_BK_INBOX_T, BLC_BK_FORM_DATA_T) のデータがありませんでした。	処理を続行します。ただし保存用テーブルの内容が正しくないで、保管案件照会機能で正しく検索できない場合があります。
数値	業務データベース保存プロシージャ、業務データベース削除プロシージャから規定外の戻り値が返されました。 戻り値の数値をそのまま出力します。	プロシージャの戻り値が0、または正の数の場合、処理を続行します。負の数の場合、ユティリティの実行を終了します。

BLC データベースの保管処理結果

BLC データベースの保管処理では、BLC_INBOX_T, BLC_SENTLOG_T, BLC_FORM_DATA_T および BLC_FILE_T のデータを案件単位に保管します。また、保管処理のトランザクションは、BLC_INBOX_T, BLC_SENTLOG_T および BLC_FORM_DATA_T の1案件を1トランザクションで処理し、BLC_FILE_T は1ファイルごとになっています。

BLC データベースの保管処理時の状態と結果リストを次に示します。

表 12-10 BLC データベースの保管処理時の状態と結果リスト

テーブルおよび結果リスト	保管状態	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
BLC_INBOX_T	成功	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-
	保管済み	-	○	-				-		-	-	-
	データなし	○	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○
BLC_SENTLOG_T	成功	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	保管済み	-	○		-							-
	データなし	○			-					-	-	○
BLC_FORM_DATA_T	成功	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-
	保管済み	-	○			-			-	-	-	-
	データなし	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○
BLC_FILE_T	成功	-	-	○	○	○	○	○	○	○	-	○
	保管済み	-	○				-				-	-
	データなし※	○					-			-	○	-
結果リストの出力		No D	Du p	○ K	○ K	○ K	OK	PL K	PL K	PL K	PL K	PL K

(凡例)

- ：その保管状態に該当している
- ：その保管状態に該当していない
- OK："OK"
- Dup："Duplicate"
- NoD："NoData"

PLK : "PartLack"

注※

BLC_FILE_T の定義なしを含みます。

BLC データベースの保管処理中に例外が発生した場合は、該当する案件に対して結果リストに"NG"が出力されます。

なお、BLC_FILE_T の処理で例外が発生した場合は、BLC_INBOX_T, BLC_SENTLOG_T および BLC_FORM_DATA_T のデータは正常に保管されますが、結果リストには"NG"が出力されます。

ワーク管理データベースの保管処理結果

ワーク管理データベースの保管処理時の状態と結果リストを次に示します。

表 12-11 ワーク管理データベースの保管処理時の状態と結果リスト

保管状態	1	2	3
成功	○	—	—
保管済み	—	○	—
データなし	—	—	○
結果リストの出力	OK	Duplicate	NoData

(凡例)

○ : その保管状態に該当している

— : その保管状態に該当していない

ワーク管理データベースの保管処理中に例外が発生した場合は、処理単位の案件すべてに対して結果リストに"NG"が出力されます。

(e) 出力例

削除結果ファイルの出力例を次に示します。

図 12-18 削除結果ファイルの出力例

```

KDLC5006-I コマンドを開始しました。(2007/10/03 19:20:01)
Action, PI ID, PIName, BPID, BPName, Code, ClosedDate, Result
"SaveUDB", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
"SaveBLC", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
"SaveCSCIW", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
>DeleteUDB", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
>DeleteBLC", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
>DeleteCSCIW", "58045", "0058055", "4", "販売契約稟議EUR", "o", "2007/09/06 11:14:02", "OK"
Utility ended normally. SaveUDB=1 SaveBLC=1 SaveCSCIW=1 DeleteUDB=1 DeleteBLC=1 DeleteCSCIW=1
KDLC5007-I コマンドが正常終了しました。(2007/10/03 19:30:51)
    
```

(3) ワークファイル

ワークファイルは、完了案件削除ユティリティが実行時に作業用として使用するファイルです。

作業用ディレクトリの下にファイル名を「BLCDelPI.Wk」として作成されます。

実行時に、ワークファイルがない場合は新規に作成され、すでに作成されている場合は上書きされます。

ワークファイルが使用する容量の最大は、344×削除対象案件数(バイト)です。

(4) ロックファイル

ロックファイルは、完了案件削除ユーティリティが実行時に作成し、終了時に削除するファイルです。

作業用ディレクトリの下にファイル名を「BLCDeIPI.lock」として作成されます。

完了案件削除ユーティリティの同時実行をチェックするために使用し、このファイルが存在する間は、ユーティリティが実行中であると見なされます。

ロックファイルは、0バイトのファイルです。

12.1.5 完了案件削除ユーティリティの実行用ファイル

完了案件削除ユーティリティの実行用ファイルについて説明します。

(1) 実行用ファイル

完了案件削除ユーティリティを実行するためのバッチファイルは、次のファイルとなります。

- Windows 版の場合

<BLC2のインストールディレクトリ>%blc%bin%BLCDeIPI.bat

使用する環境および運用に合わせて、オプションを設定する必要があります。

オプションの詳細については、「12.1.4(1)(c) オプション」を参照してください。

バッチファイルの実行例を次に示します。

操作手順

1. オプションを指定して、コマンドを実行します。

コマンド実行後、画面にコマンド実行結果が表示されます。

```
C:>
C:>cd "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blc\bin"
C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blc\bin>BLCDeIPI.bat -u BLC -p PASS -o "C:\temp\output.txt"
-s -g -d 31 -b "C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\conf\DeIPIbpname.txt"
KDLC5006-I コマンドを開始しました。(2006/09/03 19:20:01)
KDLC5008-I 業務完了案件を検索します。
KDLC5009-I 業務完了案件を9000件検知しました。
KDLC5010-I 保存処理を開始します。
処理中.....
.....
KDLC5011-I 業務データベース9000件：BLCデータベース9000件：ワーク管理データベース9000件を保存
しました。
。
KDLC5016-I 削除処理を開始します。
処理中.....
.....
KDLC5017-I 業務データベース9000件：BLCデータベース9000件：ワーク管理データベース9000件を削除
しました。
KDLC5007-I コマンドが正常終了しました。(2006/09/03 19:30:51)
C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blc\bin>
```

注 案件を50件単位で処理するごとに「.」（半角ピリオド）を表示します。

注意事項

- Windows Vista, Windows 7 または Windows Server 2008 の場合、管理者特権で完了案件削除ユティリティを実行する必要があります。管理者特権でコマンドプロンプトを起動する手順を次に示します。

操作手順

1. [スタート] ボタンをクリックします。
2. [プログラム] - [アクセサリ] を選択します。
3. [コマンドプロンプト] を右クリックして、[管理者として実行] をクリックします。

管理者のパスワードまたは確認を求められた場合は、画面の指示に従ってパスワードまたは確認情報を入力してください。

- 完了案件削除ユティリティが出力するトレースファイルのファイルサイズの目安を次に示します。使用する環境に合わせて、プロパティファイルでトレースファイルについて設定している項目を変更してください。運用時は、十分に余裕を持った値を設定することを推奨します。トレースファイルの詳細については、「13.3.1 トレースファイル (BLC のユティリティ)」を、プロパティファイルの詳細は、「付録 E.4 完了案件削除ユティリティのプロパティファイル」を参照してください。

例 (削除対象の業務完了案件が 50 件の場合)

完了案件削除ユティリティの実行によって出力されるトレースファイルのファイルサイズは次のようになります。

BLC のトレースファイル：約 0.8MB

- SQL Server の場合、完了案件削除 BLC プロパティファイルの url キーに「integratedSecurity=true」を追加で指定すると、Windows 資格情報が使用され、-u オプションおよび-p オプションの指定値は無効になります。

(2) 戻り値

完了案件削除ユティリティの戻り値を次に示します。

表 12-12 完了案件削除ユティリティの戻り値

戻り値	内容	詳細
0	正常終了しました。	削除件数が 0 件以上でした。
9	実行権限のエラーが発生しました。	Windows Vista, Windows 7 または Windows Server 2008 をご使用の場合に管理者特権が確認できませんでした。 この戻り値は、Windows Vista, Windows 7 または Windows Server 2008 の場合だけ表示されます。
255	完了案件削除ユティリティが異常終了しました。	次に示す項目が原因で異常終了しました。 <ul style="list-style-type: none"> • 環境変数不正 • 完了案件削除ユティリティ設定ファイル不正 • 二重起動 • オプション不正 • プロパティファイル不正 • DB アクセスエラー • 強制終了など

(3) 注意事項

完了案件削除ユティリティを実行するときの注意を次に示します。

- 完了案件削除ユティリティを二重に実行できません。
- 完了案件削除ユティリティの実行中は、保管案件の照会をしないでください。
- 完了案件削除ユティリティの実行中に、CSCIW の案件運用操作で、案件を削除するなどの操作をしないでください。
- 完了案件削除ユティリティの実行を中断する場合は、[Ctrl] キー+ [C] キーで中断してください。中断後、必要に応じてユティリティを再実行してください。なお、[Ctrl] キー+ [C] キーでユティリティを中断する場合、中断するまでに時間が掛かる場合があります。
- 完了案件削除ユティリティの実行後は、データベースの格納効率や検索効率を向上させるため、データベースの再編成を推奨します。データベースの再編成の詳細については、「9.4 データベースの再編成」を参照してください。
- 完了案件削除ユティリティの実行前に BLC の送信ログに表示していた業務完了案件を、このユティリティを実行したことによって削除してしまった場合、BLC の送信ログに表示されなくなります。
- 完了案件削除ユティリティはワーク管理データベースを参照して業務完了案件を判断します。BLC データベースで業務完了していなくても、ワーク管理データベースで業務完了していれば、その案件を業務完了案件として BLC データベースおよびワーク管理データベースから削除します。
- 完了案件削除ユティリティで不整合案件（BLC データベースにあり、ワーク管理データベースにない案件）は削除できません。
- 完了案件削除ユティリティの削除対象は、業務が完了している案件です。業務が完了していない案件を削除するには、CSCIW の案件運用操作で案件を強制終了してから、このユティリティを実行してください。案件運用操作については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 案件運用操作ガイド」を参照してください。
- CSCIW から BP 定義を削除した場合は、BP 定義名ファイルから該当する BP 定義名を削除してください。

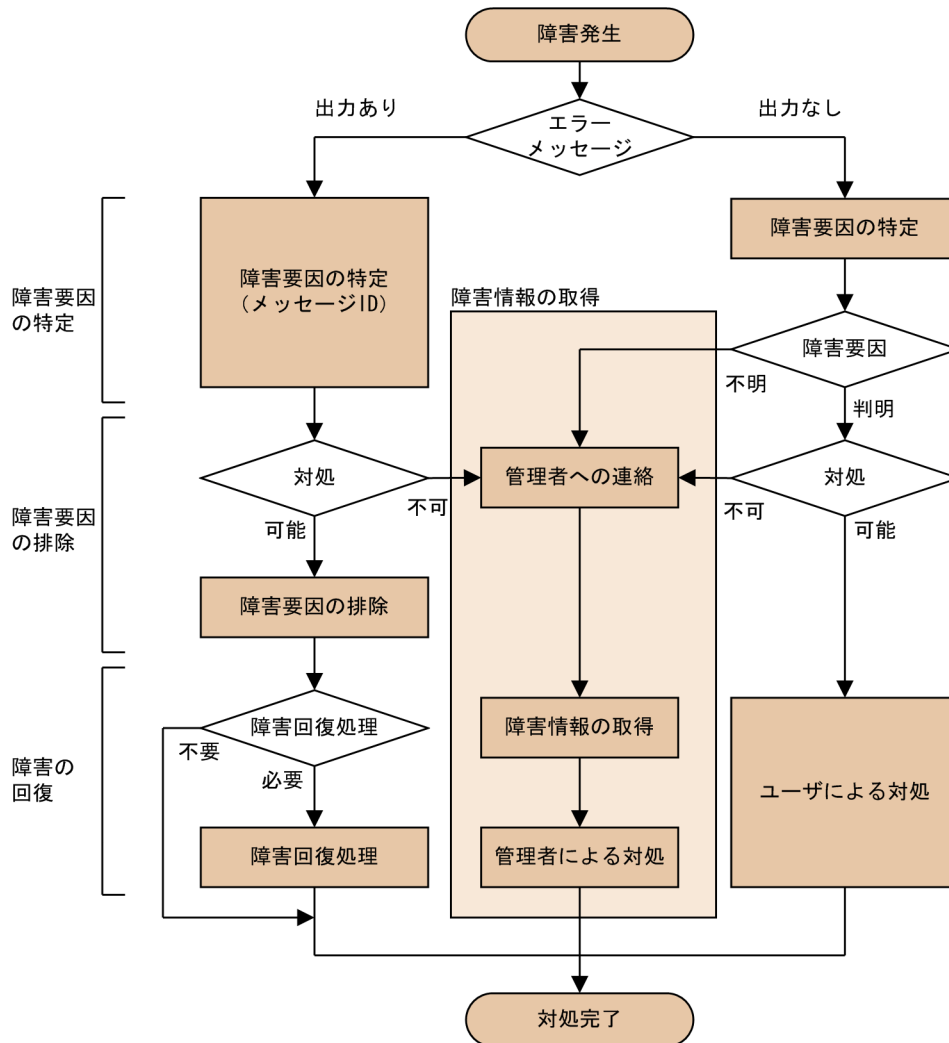
13 障害対策

この章では、電子フォームワークフローの運用中に障害が発生した場合の障害対策のうち、BLCの障害対策について説明します。

13.1 障害対策の流れ

BLC または 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の運用中に、システムに障害が発生してから、対処が完了するまでの作業の流れを次に示します。

図 13-1 障害発生時の対処の流れ



図の説明

障害要因の特定

エラーメッセージおよび発生した現象から、障害の要因を特定します。

障害要因の排除

障害の要因を取り除きます。

障害情報の取得

ユーザが対処できない障害の場合、管理者に連絡して、障害情報を取得します。

障害の回復

必要に応じて、障害の回復処理をします。

13.2 電子フォームワークフローの障害対策

電子フォームワークフローの使用中に障害が発生した場合には、障害の原因を特定するために、次の情報が必要です。

- BLC トレースファイル
- BLC プロパティファイル
- CSCIW の障害情報
- Cosminexus の障害情報
- EUR Form Service の障害情報
EUR Form 連携帳票を使う場合に必要な情報です。
- Portal Framework の障害情報

CSCIW の障害情報を取得する方法については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

Cosminexus の障害情報を取得する方法については、Cosminexus のマニュアルを参照してください。

EUR Form Service の障害情報を取得する方法については、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」を参照してください。

Portal Framework の障害情報を取得する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

BLC には、障害発生時に備えて、障害の原因を特定するための情報をトレースファイルに出力する、トレース機能があります。

13.2.1 BLC トレースファイル (BLC)

トレースファイルは、BLC の障害発生時に備えて、障害の原因を特定するために必要な情報を出力するファイルです。トレースファイルは、BLC プロパティファイルで指定されたディレクトリに出力されます。トレースファイルのファイル名は、"BLC_BLCTrace-"+<面数>+".log"となります。トレースファイルの出力先ディレクトリ、レベル、面数、およびサイズは BLC プロパティファイルで設定できます。BLC プロパティファイルについては、「付録 E.1 BLC プロパティファイル」を参照してください。

トレース情報は、BLC クラスがプロセスで最初に呼び出されたときにプロパティファイルから読み込まれます。BLC プロパティファイルの指定値を変更した場合は、該当するプロセスを再起動すると、変更された値が有効になります。

13.2.2 トレースファイルの出力形式 (BLC)

トレースファイルの出力形式を次に示します。該当するプロセスを起動するたびにヘッダが出力されます。

番号	日付	時刻	AP名	pid	tid	メッセージID	種別	テキスト	改行コード
----	----	----	-----	-----	-----	---------	----	------	-------

トレースファイルの各カラムに出力される内容を次に示します。例外発生時には、スタックトレースが、1レコードずつ、スタック数と同じ数だけ出力されます。

表 13-1 トレースファイルの出力内容

カラム名	長さ (バイト)	内容	備考
番号	4	トレースレコードの通番 (4桁)	—
日付	10	トレースの取得日付 (yyyy/mm/dd)	—
時刻	12	トレースの取得時刻 (hh:mm:ss.sss)	ローカル時刻(JST)で、ミリ秒単位の時刻が出力されます。
AP 名	16	アプリケーション識別名	BLC のトレースでは、"BLC"が設定されます。ユーザアプリケーションのトレースでは、BLCTrace クラスの putTrace メソッドで指定したアプリケーション名が設定されます。
pid	8	プロセス識別子	JavaVM が Runtime のインスタンスに付与したハッシュ値です。
tid	8	スレッド識別子	JavaVM が Thread のインスタンスに付与したハッシュ値です。
メッセージ ID	10	メッセージ ID	例外時だけ、エラーメッセージの ID が設定されます。BLC の場合は、"KDLCxxxx-E"です。
種別	2	イベント種別	トレースの契機となるイベント種別です。 <ul style="list-style-type: none"> • FB：関数の開始 • FE：関数の終了 • GM：アクセスメソッドの呼び出し • EC：例外の発生 • PB：他プログラムの呼び出し • PE：他プログラムからの戻り • CP：任意のチェックポイントイベント
テキスト	0~4,095*	メッセージテキスト	<ul style="list-style-type: none"> • 例外時は、エラーメッセージテキスト • トレース情報 (0~4,095 バイト)
改行コード	2	レコード終端記号	—

(凡例)

—：特にありません。

注※

上限値を超えた場合は切り捨てられます。

13.2.3 BLC が出力する情報

トレースファイルには、BLC プロパティファイルで指定したトレースレベル以下のトレースが出力されません。トレースレベルと出力内容を次に示します。

表 13-2 トレースレベル

トレースレベル	出力基準	出力内容
-1	トレースを出力しません。	なし
10	すべての BLC 例外で出力します。	例外トレース (イベント種別は"EC")
20	再現性のある障害に対し、障害の部位を明確に切り分けるために使用します。オペレータ監視の元でプログラムを実行し、障害の発生時に、直ちにトレースを収集できる環境での利用を想定しています (デフォルトの設定)。	<ul style="list-style-type: none"> トレースレベル 10 で出力される出力項目 JSP ファイルの開始・終了トレース DB 接続, SQL 実行, 切断の開始・終了トレース SQL 実行時の SQL 文の内容
30	障害の個所を特定するために使用します。主要なメンバ関数の開始や終了を取得します。	<ul style="list-style-type: none"> トレースレベル 20 で出力される出力項目 JSP ファイルから呼び出される BLC クラスメソッド*の開始・終了トレース 任意のイベントトレース
40	障害の個所を特定するために使用します。すべてのメンバ関数の開始や終了を取得します。	<ul style="list-style-type: none"> トレースレベル 30 で出力される出力項目 JSP ファイルから呼ばれる全 BLC クラスメソッドの開始・終了トレース

注※

次の BLC クラスメソッドが該当します。

- ・他プログラムにアクセスするメソッド
- ・DB アクセスに関するメソッド
- ・初期化にかかわるメソッド

13.2.4 ユーザ追加処理クラスでのトレース出力

ユーザ追加処理でトレースを出力する場合は、BLCTrace クラスの putTrace ()メソッドを使用します。putTrace ()メソッドを使用するためには、BLC プロパティファイルで、UAP トレース情報を設定する必要があります。putTrace()メソッドの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCTrace クラス」にある「putTrace ()メソッド」の説明を参照してください。

13.3 BLC のユティリティの障害対策

BLC のユティリティには、障害発生時に備えて、障害の原因を特定するための情報をトレースファイルに出力する機能があります。

13.3.1 トレースファイル (BLC のユティリティ)

BLC のユティリティ用トレースファイルは、障害発生時に備えて、障害の原因を特定するために必要な情報を出力するファイルです。出力先ディレクトリ、面数、サイズ、およびレベルは、完了案件削除ユティリティのプロパティファイル (DELPI.BLCproperties) で設定できます。

BLC のユティリティ用トレースファイルのファイル名を次に示します。

表 13-3 BLC のユティリティ用トレースファイルのファイル名

ユティリティ名	コマンド名	作成するファイル
完了案件削除ユティリティ	java コマンド	BLCDelPI_BLCTrace-<面数>.log

13.3.2 プロパティファイルで設定できる項目

BLC のユティリティ用トレースファイルについて、完了案件削除ユティリティのプロパティファイル (DELPI.BLCproperties) で設定できる項目について説明します。

完了案件削除ユティリティのプロパティファイル (DELPI.BLCproperties) で出力先ディレクトリ、面数、サイズ、およびレベルを設定する BLC のユティリティ用トレースファイルのファイル名は、「BLCDelPI_BLCTrace-<面数>.log」です。

各項目の設定方法を次に示します。

表 13-4 BLC プロパティファイルで設定できる項目

項目名	設定方法
出力先ディレクトリ	TracePath キーで指定します。
面数	TraceFileNum キーで指定します。
サイズ	TraceFileSize キーで指定します。
レベル	TraceLevel キーで指定します。

13.3.3 トレースファイルの出力形式 (BLC のユティリティ)

BLC のユティリティ用トレースファイルの出力形式および出力内容について説明します。また、出力例を示します。

(1) 出力形式

BLC のユティリティ用トレースファイルの出力形式を次に示します。該当するプロセスを起動するたびにヘッダが出力されます。

番号	日付	時刻	ユティリティ名	pid	tid	メッセージID	種別	テキスト	改行コード
----	----	----	---------	-----	-----	---------	----	------	-------

(2) 出力内容

トレースファイルの各カラムに出力される内容を次に示します。例外発生時には、スタックトレースが、1レコードずつ、スタック数と同じ数だけ出力されます。

表 13-5 BLC のユティリティ用トレースファイルの出力内容

カラム名	長さ (バイト)	内容	備考
番号	4	トレースレコードの通番 (4 桁)	—
日付	10	トレースの取得日付 (yyyy/mm/dd)	—
時刻	12	トレースの取得時刻 (hh:mm:ss.sss)	ローカル時刻(JST)で、ミリ秒単位の時刻が出力されます。
ユティリティ名	16	ユティリティ名	ユティリティ名を出力します。
pid	8	プロセス識別子	JavaVM が Runtime のインスタンスに付与したハッシュ値です。
tid	8	スレッド識別子	JavaVM が Thread のインスタンスに付与したハッシュ値です。
メッセージ ID	10	メッセージ ID	例外時だけ、エラーメッセージの ID が設定されます。
種別	2	イベント種別	<p>トレースの契機となるイベント種別です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FB：関数の開始 • FE：関数の終了 • GM：アクセスメソッドの呼び出し • EC：例外の発生 • PB：他プログラムの呼び出し • PE：他プログラムからの戻り • CP：任意のチェックポイントイベント
テキスト	0~4,095※	メッセージテキスト	<ul style="list-style-type: none"> • 例外時は、エラーメッセージテキスト • コマンド名およびコマンドライン情報 • トレース情報 (0~4,095 バイト) <p>ただし、1レコード最大 2,000 文字で複数行に分割して出力する場合があります。</p>
改行コード	2	レコード終端記号	—

(凡例)

—：特にありません。

注※

上限値を超えた場合は切り捨てられます。

(3) 出力例

BLC のユティリティ用トレースファイルの出力例を次に示します。

- 完了案件削除ユティリティの場合

完了案件削除ユティリティのトレースファイルの出力例を次に示します。

図 13-2 完了案件削除ユティリティのトレースファイルの出力例

yyyy/mm/dd hh:mm:ss.sss	pid	tid	message-id	message (LANG=ja)
0000 2007/09/12 11:33:39.323	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	FB	BLCDeIPI
0001 2007/09/12 11:33:39.323	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	Property WorkPath(C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥tmp)
0002 2007/09/12 11:33:39.323	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	LOCKFILE(C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥tmp¥BLCDeIPI.lock)
0003 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	KDLC5006-I コマンドを開始しました。(2007/06/12 11:33:39)
0004 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	CSCIWUser ID (BLCDeIPI)
0005 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	Property
0006 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	Property url(jdbc:hitachi:hirdb://DBID=22200,DBHOST=localhost,ENCODING=MS932)
0007 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	Property SaveUDB(SaveUDB)
0008 2007/09/12 11:33:39.386	BLCDeIPI	00A470B8 01E4457D	CP	Property DeleteUDB(DeleteUDB)

13.3.4 完了案件削除ユティリティ実行時の障害

完了案件削除ユティリティの実行中に異常が発生すると、システムは実行を中断して次の処理をします。

1. トレースファイルにトレース情報を出力する
2. 標準出力とトレースファイルにメッセージを出力する
3. 使用中のリソース（データベースのコネクションや削除結果ファイルなど）を閉じる
4. 異常終了の戻り値でユティリティを終了する

システムによって完了案件削除ユティリティが終了されたあと、ユーザは次の手順で対処してください。

1. 障害の原因を取り除く

障害発生時に表示されるメッセージおよびトレースファイルを参照して、障害の原因を取り除いてください。障害がどのような処理で発生したかを識別する方法については、「(1) 障害が発生した処理の識別」を参照してください。

2. 必要に応じて削除結果ファイルのバックアップを取得する

障害の原因によっては、前回分の削除結果ファイルが必要な場合があります。しかし、完了案件削除ユティリティを再度実行すると削除結果ファイルは上書きされます。このため、必要に応じて前回分の削除結果ファイルのバックアップを取得してください。削除結果ファイルのバックアップが必要な場合については、「(2) 障害発生時のデータベースの状態」を参照してください。

3. 完了案件削除ユティリティを再度実行する

(1) 障害が発生した処理の識別

ユティリティ実行時のメッセージから、障害がどの処理中に発生したのかを識別できます。

完了案件削除ユティリティのバッチファイル（Windows 版）の実行例を基に、処理の範囲を次に示します。

図 13-3 バッチファイル (Windows 版) の実行例と処理の範囲

```

KDLC5006-I コマンドを開始しました。(2007/10/03 19:20:01)
KDLC5008-I 業務完了案件を検索します。
KDLC5009-I 業務完了案件を6000件検知しました。
KDLC5010-I 保存処理を開始します。
処理中.....
KDLC5011-I 業務データベース6000件：BLCデータベース6000件：ワーク管理データベース6000件を保存しました。
KDLC5016-I 削除処理を開始します。
処理中.....
KDLC5017-I 業務データベース6000件：BLCデータベース6000件：ワーク管理データベース6000件を削除しました。
KDLC5007-I コマンドが正常終了しました。(2007/10/03 19:56:28)
C:\Program Files\Hitachi\HBP2\bin>

```

(凡例)

- : 業務完了案件の取得
- : 業務完了案件の保管
- : 業務完了案件の削除

注：KDLC5006-IおよびKDLC5007-Iは、ユーティリティの開始/終了メッセージです。
 KDLC5011-Iは、業務完了案件の保管処理が完了したあとに表示される結果報告メッセージです。
 KDLC5017-Iは、業務完了案件の削除処理の完了後に表示される結果報告メッセージです。

(2) 障害発生時のデータベースの状態

ユーティリティ実行時の各処理で障害が発生した場合の、データベースの状態を説明します。ここで説明していないデータベースの状態は、ユーティリティを実行する前と同じ状態です。

出力されるメッセージの詳細は、「付録I メッセージ」を参照してください。

(a) 業務完了案件の取得

業務完了案件の取得時にワーク管理データベースの検索処理で出力されるメッセージ ID、データの更新状態、および障害の原因を取り除いたあとの対処を次に示します。

表 13-6 業務完了案件の取得処理で障害が発生した場合

情報項目	業務完了案件の取得処理時の情報内容
正常時に出力されるメッセージ ID	KDLC5008-I, KDLC5009-I
障害発生時に出力されるメッセージ ID	KDLC5204-E
障害発生後のデータ更新状態	特に問題はありません。
障害の原因を取り除いたあとの対処	完了案件削除ユーティリティを再度実行してください。

(b) 業務完了案件の保管

業務完了案件の保管時に業務データベース保管用プロシージャの実行処理で出力されるメッセージ ID、データの更新状態、および障害の原因を取り除いたあとの対処を次に示します。

表 13-7 業務完了案件の保管処理で障害が発生した場合

情報項目	業務完了案件の保管処理時の情報内容
正常時に出力されるメッセージ ID	KDLC5010-I, KDLC5011-I

情報項目	業務完了案件の保管処理時の情報内容
障害発生時に出力されるメッセージ ID	KDLC5234-E, KDLC5235-E, KDLC5246-E
障害発生後のデータ更新状態	業務データベース, BLC データベース, およびワーク管理データベースの一部の対象案件が, 保管用テーブルに保管されていないおそれがあります。
障害の原因を取り除いたあとの対処	削除結果ファイルのバックアップを取得したあと, 完了案件削除ユーティリティを再度実行してください。

(c) 業務完了案件の削除

業務完了案件の削除時に次の処理で出力されるメッセージ ID, データの更新状態, および障害の原因を取り除いたあとの対処を表 13-8 に示します。

- 業務データベース削除用プロシージャの実行
- BLC データベースの業務完了案件の削除
- ワーク管理データベースの業務完了案件の削除

表 13-8 業務完了案件の削除処理で障害が発生した場合

情報項目	業務完了案件の削除処理時の情報内容
正常時に出力されるメッセージ ID	KDLC5016-I, KDLC5017-I
障害発生時に出力されるメッセージ ID	KDLC5236-E, KDLC5237-E, KDLC5238-E
障害発生後のデータ更新状態	業務データベースおよび BLC データベースの業務完了案件, ならびにワーク管理データベースの案件履歴が保管用テーブルに保管されています。 業務データベース, BLC データベース, およびワーク管理データベースの一部の業務完了案件が削除されていないおそれがあります。
障害の原因を取り除いたあとの対処	削除結果ファイルのバックアップを取得したあと, 完了案件削除ユーティリティを再度実行してください。

13.4 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の障害対策

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の使用中に障害が発生した場合には、障害の原因を特定するために、次の情報が必要です。

- ログ情報ログファイル一式
- 現象が発生するファイル一式
- 現象が発生する手順

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能には、障害発生時に備えて、障害の原因を特定するための情報をログファイルに出力する機能があります。

ログファイルは、[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブにある [データフォルダパス] テキストボックスで指定したフォルダに出力されます。デフォルトでは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のインストール先のフォルダに作成された「data\tmp」フォルダに出力されます。フォルダについては、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

[開発環境設定] ダイアログは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のメイン画面で、[ツール] メニューの [オプション] コマンドを選択すると表示されます。[開発環境設定] ダイアログについては、「付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ」を参照してください。

ログファイルのファイル名は、「blsgccj.log」となります。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の帳票ファイル生成後、変換結果を通知するダイアログにエラーメッセージが表示された場合に、ダイアログの [エラーログ] ボタンをクリックすると、ログファイルの内容が表示されます。

14 一括承認機能

この章では、承認者が複数の案件をまとめて承認する機能について説明します。

14.1 一括承認機能の概要

一括承認機能は、承認者が複数の案件をまとめて承認する機能です。一括承認機能は、BLCのポータル画面から使用します。一括承認機能を使用できる帳票は、EUR Form 連携帳票だけです。BLC 帳票は使用できません。

BLC では、一括承認機能のサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルをカスタマイズして、一括承認機能を使用するための準備をする必要があります。

14.1.1 一括承認機能を使用する場合のBLCのポータル画面の構成例

一括承認機能を使用する場合のBLCのポータル画面の構成例を次に示します。

一括承認機能を使用する場合のBLCのポータル画面の構成例



ワークフローメニュータブの [一括承認受信ボックス] タブを選択すると、ワークフローポートレットの表示領域に [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。

14.1.2 一括承認機能で使用する画面例

一括承認機能で使用する画面の例を次に示します。

(1) [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面の例

業務名称	件数
社内英語検定申し込み	1
販売契約稟議EUR	1
連絡票	1

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] ボタンは日時表示の横にも表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

業務別の件数一覧

業務名称

指定した作業者（テンプレートでは実行ユーザ）の一括承認受信ボックスに処理待ちの作業がある業務の、業務名称が表示されます。

業務名称のアンカーをクリックすると、[一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。[一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面には、選択した業務の処理待ちの案件がワークフローレポートの表示領域に一覧表示されます。

件数

指定した作業者（テンプレートでは実行ユーザ）の一括承認受信ボックスにある、業務ごとの案件の件数が表示されます。

(2) 一括承認受信ボックス] 画面の例

ワークフロー

受信ボックス | 送信ログ | 受信ボックス(代行) | 受信ボックス(共有トレイ) | 拡張受信ボックス | **一括承認受信ボックス**

一括承認受信ボックス

業務別件数 | 承認 | 再表示

2008年12月25日 14:12:15 現在 再表示 先頭 前頁 1-1/1 次頁 最終

<input type="checkbox"/>	申請ID	作業名	業務名称	到着日時	申請者氏名	申請者組織略称	開始日時	NMITEM1
<input type="checkbox"/>	0000002	承認	連絡票	2008/12/18 12:55:30	情報 太郎	情報システム	2008/12/18 12:44:44	

カスタマイズ追加列

[業務別件数] メニュー

[一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。[一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面には、指定した作業者 (テンプレートでは実行ユーザ) の一括承認受信ボックスに処理待ちの作業がある業務の、業務名称が表示されます。

[承認] メニュー

チェックボックスで選択した案件を一括で承認します。

チェックボックスが一つも選択されていない場合はエラーダイアログが表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] ボタンは日時表示の横にも表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

l: 表示ページの先頭の作業が何件目かが表示されます。

n：表示ページの最後の作業が何件目かが表示されます。

m：全体の作業の件数が表示されます。

次頁

表示されている一覧の次のページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

一覧の最終ページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

作業一覧

指定した業務の作業が一覧表示されます。

1 ページに表示される作業の件数は、デフォルトで最大 20 件です。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目は、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは到着日時でソートされます。

チェックボックス

一括承認する案件のチェックボックスをオンにして、一括承認の対象として選択します。

なお、ヘッダのチェックボックスをオンにするとすべての案件が選択され、オフにするとすべての案件の選択がクリアされます。

申請 ID

作業の申請 ID が表示されます。

作業名

作業定義の名称が表示されます。なお、作業の種類が並列作業の場合は、"作業定義の名称.作業の名称"が表示されます。

業務名称

作業が所属する業務の名称が表示されます。

到着日時

作業が所属する案件に、その作業が発生した日時が表示されます。

申請者氏名

作業が所属する案件の申請者の氏名が表示されます。

申請者組織略称

作業が所属する案件の申請者が所属する組織の略称が表示されます。

開始日時

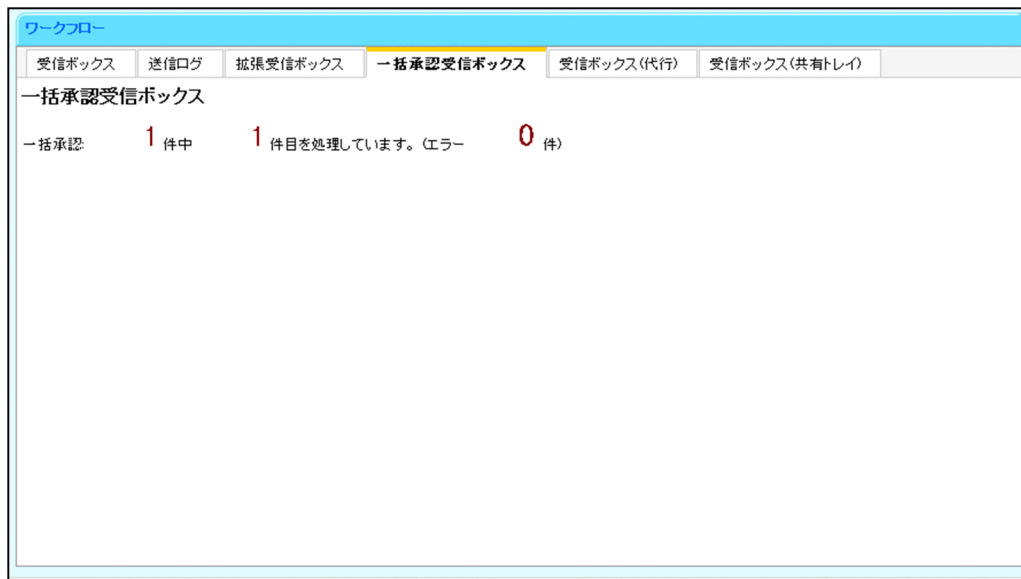
作業が所属する案件の開始日時が表示されます。

NMITEM1～NMITEM10

業務に応じて、ユーザがカスタマイズする列です。承認に必要な任意の情報を表示できます。複数の列も表示できます。

カスタマイズ追加列には、任意の業務データベースから取得された情報が表示されます。カスタマイズ追加列に表示される情報は、任意の業務データベースにビューを定義して取得します。

(3) 処理状況確認画面の例



一括処理中は、1 件ごとに案件の承認処理が実行されて、処理状況確認画面に処理状況が表示されます。

一括承認中にエラーが発生しなかった場合、一括承認が完了すると、「一括承認が終了しました。(XX 件中エラー 0 件)」というメッセージが表示されます。このメッセージの [OK] ボタンをクリックすると、[一括承認受信ボックス] 画面に戻ります。

一括承認中にエラーが発生した場合、処理状況確認画面にエラー件数が表示されて、一括承認処理は続行されます。一括承認が完了すると、「一括承認が終了しました。(XX 件中エラー X 件)」および「一括承認でエラーが発生していますので受信ボックスを確認し、再度承認を行ってください。」というメッセージが表示されます。このメッセージの [OK] ボタンをクリックすると、[一括承認受信ボックス] 画面に戻ります。

(4) 単独の帳票承認画面の例

[一括承認受信ボックス] 画面で、申請 ID のアンカーをクリックして選択した案件を、1 件ずつ承認します。

14.1.3 一括承認機能を使用する際の注意事項

一括承認機能を使用する際の注意事項を次に示します。

- 一括承認機能を使用できる帳票は、EUR Form 連携帳票だけです。BLC 帳票では使用できません。
- 一括承認時に、ユーザ追加処理はできません。
- 一括承認で業務データベースを更新するときは、格納されているデータを基に加減乗除して更新するデータ（残年休数など）は、更新できません。
- 一括承認中にエラーが発生した場合、処理状況確認画面にエラー件数が表示されて、一括承認処理は続行されます。一括承認中に発生したエラーのログは、BLC のエラーログに出力されます。
- 一括承認機能では、前回作業員氏名、前回作業員組織略称および更新日は必ず変更されます。

14.2 一括承認機能を使用するための条件

一括承認機能を使用するには、次の条件があります。

- 操作環境が BLC のポータル画面であること。
- 帳票の種類が EUR Form 連携帳票であること（BLC 帳票では、一括承認機能を使用できません）。
- ネットワークのデータの転送速度が 128kbps (bits per second) 以上であること（PHS の利用を想定しています）。
- 拡張受信ボックスのデータベース設定が実施済みであること。

14.3 一括承認機能を使用するための環境設定

ここでは、一括承認機能を使用するための環境設定について説明します。

一括承認機能を使用するためには、次の準備が必要です。

1. BLC が提供する一括承認機能のサンプルファイルを、インストールディレクトリから、<作業フォルダ>以下にコピーします。

BLC が提供する一括承認機能のサンプルファイルおよびコピー先のフォルダについては、「14.3.1 提供する一括承認機能のサンプルファイル」を参照してください。

2. 1.でコピー先のフォルダにコピーした一括承認機能のサンプルファイルを、業務に合わせてカスタマイズします。

詳細は、次の項を参照してください。

- 「14.4.2 BLCLinboxBC.jsp のカスタマイズ」
- 「14.4.3 BLCLinboxItemBC.jsp のカスタマイズ」
- 「14.4.4 BLCFMCwiGetListBC.jsp のカスタマイズ」
- 「14.4.5 BLCWWFwiBCSample.jsp のカスタマイズ」

3. ワークフローメニュータブに [一括承認受信ボックス] タブを作成します。

手順 2.で作成した JSP ファイルを BLC のポータル画面に表示するために、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルをカスタマイズします。ワークフローメニュータブのカスタマイズは、「14.4.1 ワークフローメニュータブ ([一括承認受信ボックス]) のカスタマイズ」を参照してください。

14.3.1 提供する一括承認機能のサンプルファイル

一括承認機能を使用するためには、BLC が提供する一括承認機能のサンプルファイルを、インストールディレクトリから、<作業フォルダ>以下にコピーする必要があります。一括承認機能のサンプルファイルのファイル名およびコピー先のフォルダを次に示します。

表 14-1 一括承認機能のサンプルファイルのファイル名とコピー先のフォルダ

ファイル名	コピー先のフォルダ	内容
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥tools¥sample¥BatchComplete¥common¥webhome¥app¥main¥BLCFMCwiBatchCompleted.jsp	<作業フォルダ>¥app¥main¥	一括承認結果処理のサンプルファイルです。
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥tools¥sample¥BatchComplete¥hirdb¥webhome¥app¥main¥BLCLinboxBC.jsp	<作業フォルダ>¥app¥main¥	HiRDB の環境で使用する [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面のサンプルファイルです。*1
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥tools¥sample¥BatchComplete¥hirdb¥webhome¥app¥main¥BLCLinboxItemBC.jsp	<作業フォルダ>¥app¥main¥	HiRDB の環境で使用する [一括承認受信ボックス] 画面のサンプルファイルです。*1

ファイル名	コピー先のフォルダ	内容
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%oracle%webhome%app%main%BLCLinboxBC.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	Oracle の環境で使用する [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面のサンプルファイルです。*2
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%oracle%webhome%app%main%BLCLinboxItemBC.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	Oracle の環境で使用する [一括承認受信ボックス] 画面のサンプルファイルです。*2
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%sqlserver%webhome%app%main%BLCLinboxBC.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	SQL Server の環境で使用する [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面のサンプルファイルです。*3
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%sqlserver%webhome%app%main%BLCLinboxItemBC.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	SQL Server の環境で使用する [一括承認受信ボックス] 画面のサンプルファイルです。*3
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%common%webhome%app%main%BLCWWFwiBCSample.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	一括承認の対象として選択した案件について、1 件ずつ案件情報取得して、承認する処理のサンプルファイルです。
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%BatchComplete%common%webhome%app%main%BLCFMCwiGetListBC.jsp	<作業フォルダ>%app%main%	一括承認の対象として選択した案件のリストから、案件を 1 件ずつ取得して、一括承認の途中経過を表示する処理のサンプルファイルです。

注※1

利用しているデータベースが HiRDB の場合に使用します。

注※2

利用しているデータベースが Oracle の場合に使用します。

注※3

利用しているデータベースが SQL Server の場合に使用します。

14.4 一括承認機能のカスタマイズ

一括承認機能では、一括承認受信ボックス表示用の JSP ファイルを提供します。このファイルのカスタマイズすることで、独自の形式で表示させることができます。

14.4.1 ワークフローメニュータブ（「一括承認受信ボックス」）のカスタマイズ

一括承認機能を使用するために、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルをカスタマイズしてワークフローメニュータブに「一括承認受信ボックス」タブを追加します。

「一括承認受信ボックス」タブを選択することで、一括承認の画面がワークフローポートレットの表示領域に表示されます。

ワークフローメニュータブに「一括承認受信ボックス」タブを追加した図を次に示します。

図 14-1 「一括承認受信ボックス」タブを追加したワークフローメニュータブ



ワークフローメニュータブに「一括承認受信ボックス」タブを追加する実装例を次に示します。

```

:
<div id="blc_menu_inboxbc" class="blc_menutab_clickable">
<a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLinboxBC.jsp")%">" target="blc_wf_iframe"
class="blc_menutab" onclick="blc_tabChange('blc_menu_inboxbc');"><
%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BCOMPLETE_TITLE_NAME)%></a>
</div>
:

```

div タグ

ワークフローメニュータブを設定します。

```
id="blc_menu_inboxbc"
```

id は BLCWorkflowMenu.jsp 内で一意になるように指定してください。

```
class="blc_menutab_clickable"
```

「blc_menutab_clickable」は、クリックできる（選択状態ではない）スタイルです。

```
a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLinboxBC.jsp")%">"
```

タブのクリック時にワークフローポートレットの表示領域に表示する jsp ファイルを指定します。例の「BLCLinboxBC.jsp」は、「一括承認受信ボックス（業務別件数）」画面を指定しています。

```
target="blc_wf_iframe"
```

target には必ず「blc_wf_iframe」（ワークフローポートレットの表示領域フレーム名）を指定してください。

```
class="blc_menutab"
```

「blc_menutab」は、クリックできる（選択状態ではない）スタイルです。

```
onclick="blc_tabChange('blc_menu_inboxbc');"
```

「blc_tabChange」は、対象のタブが選択状態になった場合のスタイルを指定します。パラメタには id に指定した値（例では「blc_menu_inboxbc」）を指定してください。

a タグ

a タグの文字列はストリングリソースを利用してください。任意の文字列を指定できます。

14.4.2 BLCLinboxBC.jsp のカスタマイズ

BLCLinboxBC.jsp ファイルには、一括承認受信ボックスの [一括承認受信ボックス (業務別件数)] 画面の表示項目および表示項目の順序が設定されています。表示内容のカスタマイズは、BLCLinboxV.jsp ファイルを十分に理解した上で行ってください。

14.4.3 BLCLinboxItemBC.jsp のカスタマイズ

BLCLinboxItemBC.jsp ファイルには、[一括承認受信ボックス] 画面の表示項目および表示項目が設定されています。

BLCLinboxItemBC.jsp ファイルは、拡張受信ボックス (BLCLinboxItemV.jsp) と同様にカスタマイズできます。カスタマイズの詳細は、「17.4 拡張受信ボックス機能のカスタマイズ」を参照してください。

ただし、作業数のデフォルト値は一括承認受信ボックスでは 20 が指定されています。

なお、業務ごとに一括承認処理の JSP ファイルを作成するため、次に示す変数に利用する JSP ファイルをそれぞれ指定してください。

String BLCBC_TARGET : 業務ごとの JSP ファイル名

業務ごとの JSP ファイル名のサンプルは、BLCWWFwiBCSample.jsp ファイルです。

14.4.4 BLCFMCwiGetListBC.jsp のカスタマイズ

BLCFMCwiGetListBC.jsp ファイルは、一括承認の対象として選択した案件リストから、案件を 1 件ずつ取得して、一括承認の途中経過を表示する処理のサンプルファイルです。途中経過として表示する内容をカスタマイズする場合は、このファイルのカスタマイズします。

14.4.5 BLCWWFwiBCSample.jsp のカスタマイズ

BLCWWFwiBCSample.jsp ファイルは、一括承認の対象として選択した案件について、1 件ずつ案件情報取得および承認する処理のサンプルファイルです。

案件情報を取得したあと、BLCValDic クラスに一括承認を行うという情報を設定します。この設定をしていない場合、前の作業で情報が格納されるため、案件が不正な状態になります。

BLCValDic クラスでアクセスできるキーについては、「5.1 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」を参照ください。

設定内容

BLC_SendToData

宛先ユーザを指定します。BLC が提供するサンプルファイルでは、「A01103」が指定されています。ビジネスプロセス上で該当ノード (作業) 設定している振り分けルールなどを考慮して、指定してください。

BLC_PIStatus

案件状態 (完了, 処理中など) を指定します。BLC が提供するサンプルファイルでは、未設定 (ソース上コメント化) になっています。

BLC_AcceptID

ボタン ID を指定します。BLC が提供するサンプルファイルでは、「ID_BATCHCOMPLETE」が指定されています。

BLC_AcceptMode

ボタン名を指定します。BLC が提供するサンプルファイルでは、「一括承認」が指定されています。

BLC_FlowCond

分岐条件（基本的にボタン ID）を指定します。BLC が提供するサンプルファイルでは、「ID_BATCHCOMPLETE」が指定されています。

変更箇所

```
#####
// set BLC_ValDic
#####

// set SEND TO USER
BLC_FormData.put("BLC_SendToData", "A01103");

// set PROCESS INSTANCE STATUS
//BLC_FormData.put("BLC_PIStatus", BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.COMPLETE));

// set BUTTON ID
BLC_FormData.put("BLC_AcceptID", "ID_BATCHCOMPLETE");

// set BUTTON NAME
BLC_FormData.put("BLC_AcceptMode", BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BTN_BATCHCOMPLETE));

// set FLOW CONDITION (normal case:set BUTTON ID)
BLC_FormData.put("BLC_FlowCond", BLC_FormData.item("BLC_AcceptID"));

// #####
```

業務データベースの更新を行う場合は、この処理と complete メソッドの間に処理を追加してください。業務データベースを更新するための DB コネクションは、BLC の DB アクセスとは、別のトランザクションとなるため、ユーザが生成する必要があります。

15 申請帳票画面へのリンク機能

この章では、BLC 以外のページのリンクから申請帳票画面を表示する機能について説明します。

15.1 申請帳票画面へのリンク機能の概要

申請帳票画面へのリンク機能は、BLC 内のページ、または BLC 以外のページ（イントラネット上のポータルなど）のリンクから直接、申請帳票画面を表示させる機能です。この機能を使用した例を次に示します。

図 15-1 申請帳票画面へのリンク機能を使用した例



この機能を利用するには、申請帳票画面へリンクさせたいページ（リンク元）に直接、帳票表示ログイン JSP への SUBMIT を実行するリンクを作成し、POST データとして次の情報を指定します。

- BLC のログインに必要な情報（BLCAUTHsample.jsp と同様）
- 帳票のファイルパス
- ビジネスプロセス名

なお、これらの情報を追加、変更または削除する場合は、該当するリンクを作り直す必要があります。

注意事項

申請帳票画面の起動パターンは、ユーザがカスタマイズできます。

「15.2 申請帳票画面へのリンク機能の使用方法」を参照し、カスタマイズしてください。

15.2 申請帳票画面へのリンク機能の使用方法

申請帳票画面へのリンクに指定する BLCDirectForm.jsp ファイルとパラメタについて次に示します。

BLCDirectForm.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

＜ Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) ＞*app*main*BLCDirectForm.jsp

パラメタについて、次の表に示します。

表 15-1 申請帳票画面の表示時のパラメタ

キー	値
BLC_DF_BPNAME	BP 定義名 例：販売契約稟議
BLC_DF_FILENAME	帳票ファイルパス 例：form/Hitachi/SampleConsultation/SampleConsultation_1.jsp

申請帳票画面へリンクさせたいページ (リンク元) から申請帳票を表示する実装例を次に示します。

```
<script type="text/javascript">
<!--
function blc_sample_directfunc(){
  document.blc_sample.target="_directBLC";
  window.open("<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCblank.html")%>","_directBLC","");
  document.blc_sample.submit();
}
// -->
</script>

<a href="" onclick="blc_sample_directfunc();return false;">申請帳票表示 (販売契約稟議) </a>

<form name="blc_sample" method="post" action="<%=request.getContextPath()%>/app/main/
BLCDirectForm.jsp">
<input type="hidden" name="BLC_DF_BPNAME" value="販売契約稟議" />
<input type="hidden" name="BLC_DF_FILENAME" value="form/Hitachi/SampleConsultation/
SampleConsultation_1.jsp" />
</form>
```

注 form タグで指定している内容は、パラメタなどの設定です。

注意事項

- form タグの enctype 属性 (エンコード形式) にデフォルト値 (application/x-www-form-urlencoded) 以外が指定された場合は動作しません。
- BLCDirectForm.jsp ファイル内で BLC 認証が実行されるため、ポータルの API (PortalUserInfoBean#getId) からユーザ ID が取得できる環境である必要があります。ポータルの API については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド」を参照してください。

15.3 申請帳票画面へのリンク機能のエラー処理

申請帳票画面へのリンク機能のエラー処理について説明します。

(1) BLCDirectForm.jsp

申請帳票画面へのリンクから POST されてきたデータの帳票ファイル名の URL に POST するため、ファイルが存在しない場合は 404 エラーとなります。

そのほかの帳票表示時に発生するエラー処理は、[名称別帳票一覧] 画面から申請帳票を開く場合のエラー処理に準じます。

(2) 帳票 JSP ファイル名称 (BLC_DF_FILENAME) の指定がない場合

帳票 JSP ファイル名称の指定がない場合、名称別帳票一覧のページを初期表示します。

(3) ビジネスプロセス名 (BLC_DF_BPNAME) の指定がない場合

EUR Form 連携帳票では、ビジネスプロセス名が指定されていない場合、次のエラーとなります。

KDLC1240-E 必要な項目が指定されていません。項目名=BLC_BpName

BLC 帳票では、ビジネスプロセス名が指定されていない場合、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能での帳票生成時に設定したビジネスプロセスに対して、案件が投入されます。

なお、DB アクセス帳票では、ビジネスプロセス名の指定は不要です。

16 引き戻し機能

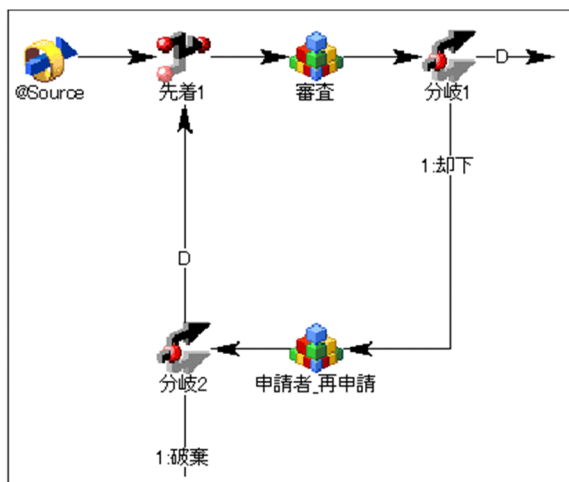
この章では、案件を次のノードから引き戻す機能について説明します。

16.1 引き戻し機能の概要

引き戻し機能は、申請または処理を実行したユーザが、申請した案件または処理した案件を、直後のノードから引き戻す機能です。引き戻し機能は、BLC のポータル画面から使用します。

BLC では、引き戻し機能のサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルとして提供する引き戻し機能は、申請者が申請ノード「@source」で申請した直後の審査ノードにある案件を送信ログから引き戻す機能です。また、サンプルファイルとして提供する引き戻し機能では、次のような分岐条件およびビジネスプロセスに対応しています。

図 16-1 引き戻し機能のサンプルファイルが対応している分岐条件およびビジネスプロセス



審査ノード「審査」

申請（案件）が直後の審査ノード「審査」にある状態で、承認者がまだ開封していない場合に、引き戻しができます。申請（案件）が分業ノード「分岐 1」以降にある状態では、引き戻しはできません。

分業ノード「分岐 1」

分岐条件の条件プロパティには、次の SQL 文が設定されています。

条件プロパティの SQL 文

```
SELECT NMFLOWCOND FROM BLC_INBOX_T WHERE CDPINAME = '@PIName' AND NMFLOWCOND IN ('ID_REJECT', 'ID_PULLBACK')
```

設定値の「ID_REJECT」は却下を、「ID_PULLBACK」は引き戻しを意味します。

16.1.1 引き戻し機能で使用する画面

BLC がサンプルファイルとして提供する引き戻し機能で使用する画面を次に示します。

[送信ログ] 画面 (引き戻し用)

ワークフロー											
受信ボックス		送信ログ		拡張受信ボックス		一括承認受信ボックス		受信ボックス(代行)		受信ボックス(共有トレイ)	
送信ログ											
削除 引き戻し 再表示											
2008年04月03日 14:33:16 現在 再表示 先頭 前頁 1-3/3 次頁 最終											
削除/引き戻し	申請ID	業務名称	案件状態	処理日時	最終作業者氏名	最終作業者組織略称	申請者氏名	申請者組織略称	開始日		
<input type="checkbox"/>	0000046	かんたん帳票	処理中	2008/03/28 14:56:24			情報 太郎	情報システム	2008/0		
<input type="checkbox"/>	0000045	20080323	処理中	2008/03/27 12:28:58	開発 一郎	開発開発2	情報 太郎	情報システム	2008/0		
<input type="checkbox"/>	0000044	サーバインフラ運用作業申請書	完了	2008/03/26 18:10:42	情報 太郎	情報システム	情報 太郎	情報システム	2008/0		

[削除] メニュー

送信ログを削除する案件の [削除/引き戻し] チェックボックスをオンにして、[削除] メニューをクリックすると、確認メッセージが表示されます。

確認メッセージで [OK] ボタンをクリックすると、選択した案件の送信ログが削除されます。

確認メッセージで [キャンセル] ボタンをクリックすると、選択した案件の送信ログの削除が中止されます。

[引き戻し] メニュー

引き戻す案件の [削除/引き戻し] チェックボックスをオンにして、[引き戻し] メニューをクリックすると、エラーチェックが実行されます。

- エラーがない場合は、確認メッセージが表示されます。

確認メッセージで [OK] ボタンをクリックすると、選択した案件が引き戻されます。引き戻しが成功すると、完了通知画面が表示されます。引き戻しでエラーが発生すると、引き戻しエラー画面が表示されます。

確認メッセージで [キャンセル] ボタンをクリックすると、選択した案件の引き戻しが中止されます。

- エラーがある場合は、アラートメッセージが表示されます。

[再表示] メニュー

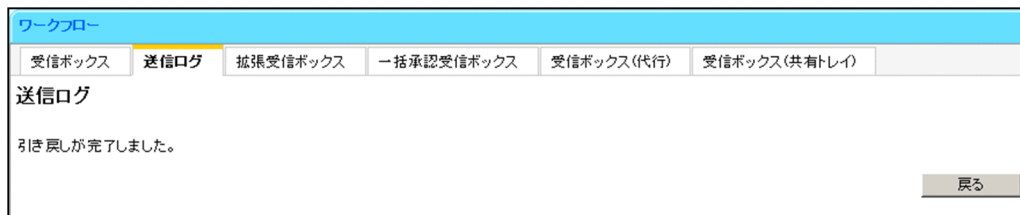
画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

[削除/引き戻し] チェックボックス

送信ログの削除または引き戻しを行う案件のチェックボックスをオンにして、送信ログの削除または引き戻しの対象として選択します。

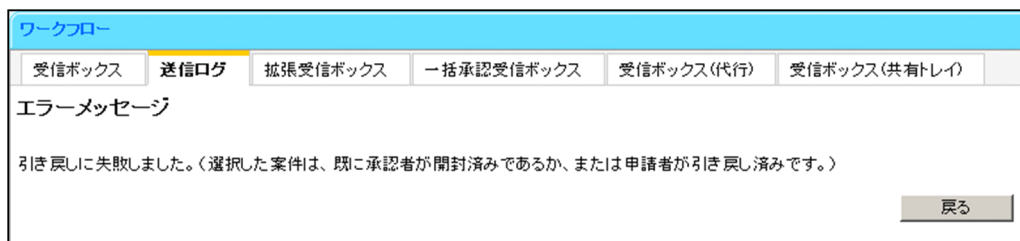
完了通知画面



[戻る] ボタン

[送信ログ] 画面に戻ります。

引き戻しエラー画面



[戻る] ボタン

[送信ログ] 画面に戻ります。

16.1.2 引き戻し機能のメッセージ

BLC がサンプルファイルとして提供する引き戻し機能で表示されるメッセージを次に示します。

アラートメッセージ（送信ログが選択されていない場合）

次のメッセージが表示されます。

引き戻す案件がチェックされていません。

要因

引き戻しの対象となる送信ログが選択されていません。

対処

引き戻しの対象となる送信ログを選択してください。

アラートメッセージ（送信ログが複数選択されている場合）

次のメッセージが表示されます。

引き戻しは複数選択できません。

要因

引き戻しの対象となる送信ログが複数選択されています。

対処

引き戻しの対象となる送信ログを一つ選択してください。

エラーメッセージ

次のメッセージが表示されます。

引き戻しに失敗しました。(選択した案件は、引き戻しできないノードにあるか、既に承認者が開封済みであるか、または申請者が引き戻し済みです。)

要因

選択した案件が、次の条件のどれかに該当します。

- 選択した案件は、引き戻しできないノードにあります。
- 選択した案件は、開封済みです。
- 選択した案件は、引き戻し済みです。

対処

案件履歴を確認して、引き戻しできる案件の場合は、システム管理者に連絡してください。

KDLC1249-E ユーザカスタマイズ処理で BLC 例外オブジェクトが構築されました。(ID=<5xxxx
YYYYYYYY>)

要因

5xxxx はユーザが追加したメッセージ ID、yyyyyyyyy はユーザが追加したメッセージです。

引き戻し処理中にエラーとなった要因は、次のとおりです。

1. ユーザ追加処理中に DB アクセスでエラーを検知しました。
2. ユーザ追加処理中に予期しないエラーを検知しました。
3. 承認者の受信ボックス（案件一覧）で選択した案件は、すでに申請者によって引き戻しされています。

対処

- **エンドユーザの場合**

1. 管理者に連絡してください。
2. 管理者に連絡してください。
3. 承認者の受信ボックス（案件一覧）で選択した案件が、すでに申請者によって引き戻しされていた場合、受信ボックス（案件一覧）を再表示して、エラーとなった案件が表示されているかどうか確認してください。
表示されている場合は、管理者に連絡してください。

- **管理者の場合**

詳細情報に示される内容で DB アクセスに関連する環境設定、または DB サーバの状態を見直してください。または、システム管理者に連絡してください。

KDLC1217-E 作業の状態が不正です。案件 ID = xx,作業 ID = yy,作業の状態コード=z

要因

承認者の受信ボックス（案件一覧）で選択した案件は、すでに申請者によって引き戻しが行われています。

それ以外の要因については、「付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ」の「KDLC1217-E」を参照してください。

対処

承認者の受信ボックス（案件一覧）で選択した案件が、すでに申請者によって引き戻しが行われていた場合、受信ボックス（案件一覧）を再表示して、エラーとなった案件が表示されているかどうか確認してください。表示されている場合は、システム管理者に連絡してください。

それ以外の要因の対処については、「付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ」の「KDLC1217-E」を参照してください。

16.2 引き戻し機能を使用するための条件

BLC がサンプルファイルとして提供する引き戻し機能を使用するためには、次の条件があります。

- 引き戻し対象の案件が、申請ノード「@source」の直後の審査ノードにあること。
- 引き戻し対象の案件が、審査ノードで未開封の状態であること（却下後の再申請は、承認者が開封しているため、引き戻しできません）。
- 引き戻し対象の案件の送信ログがあること。
- 申請ノード「@source」から審査ノードの間に、並列作業および分業ノードがないこと。
- 帳票の種類が EUR Form 連携帳票であること。

16.3 引き戻し機能を使用するための環境設定

ここでは、BLC がサンプルファイルとして提供する引き戻し機能を使用するための環境設定について説明します。

引き戻し機能を使用するためには、次の準備が必要です。

1. データベースで、引き戻しテーブル (BLC_PULL_BACK_T テーブル) を定義します。
2. データベース定義を追加します。
3. ビジネスプロセスを登録します。
4. EUR Form 連携帳票をカスタマイズします。
5. BLC 実行環境をカスタマイズします。

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルについては、「16.3.6 提供する引き戻し機能のサンプルファイル」を参照してください。

16.3.1 データベースの定義

データベースで、次のように引き戻しテーブル (BLC_PULL_BACK_T テーブル) を定義します。引き戻しテーブル (BLC_PULL_BACK_T テーブル) の定義は、HiRDB、Oracle、または SQL Server で異なります。

表 16-1 引き戻しテーブル (BLC_PULL_BACK_T テーブル) の定義

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPINAME	MVARCHAR※	80	案件名	(主キー) NOTNULL	申請 ID
CFPULLBACK	SMALLINT	—	引き戻しフラグ	—	未引き戻し：0 引き戻し済：1

(凡例)

—：指定しません。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

16.3.2 データベース定義の追加

HiRDB の場合は HiRDB SQL Executer、Oracle の場合は SQL*Plus、SQL Server の場合は Microsoft SQL Server Management Studio または sqlcmd ユティリティを使用し、BLC が提供する次のサンプルファイルを入力して、テーブル定義を行ってください。

HiRDB の場合に入力するファイル

<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%hirdb%BLC_PULLBACK_T.txt

Oracle の場合に入力するファイル

<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%oracle%BLC_PULLBACK_T.txt

SQL Server の場合に入力するファイル

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%sqlserver
%BLCPULLBACKT.txt
```

16.3.3 ビジネスプロセスの登録

CSCIW のコマンドを使用して、引き戻し用ビジネスプロセス定義ファイル（販売契約稟議 EUR2.hbx）を登録します。

BLC では、引き戻し用ビジネスプロセス定義ファイル（販売契約稟議 EUR2.hbx）のサンプルファイルを提供しています。

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルについては、「16.3.6 提供する引き戻し機能のサンプルファイル」を参照してください。

16.3.4 EUR Form 連携帳票のカスタマイズ

BLC がサンプルファイルとして提供する引き戻し機能で使用する EUR Form 連携帳票を作成します。この EUR Form 連携帳票は、BLC が提供するサンプルファイルをカスタマイズして作成します。

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルについては、「16.3.6 提供する引き戻し機能のサンプルファイル」を参照してください。

EUR Form 連携帳票のカスタマイズについては、「付録 F.4 引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルデータ」を参照してください。

16.3.5 BLC 実行環境のカスタマイズ

次の作業を実行して、BLC 実行環境をカスタマイズします。

1. 「16.3.4 EUR Form 連携帳票のカスタマイズ」で作成した帳票ファイルを、<作業フォルダ>以下にコピーします。

作成した引き戻し用 EUR Form 連携帳票が格納されているフォルダとコピー先のフォルダを次に示します。

表 16-2 作成した引き戻し用 EUR Form 連携帳票が格納されているフォルダとコピー先のフォルダ

作成した引き戻し用 EUR Form 連携帳票が格納されているフォルダ	コピー先のフォルダ
<BLSG のインストールディレクトリ>%output%form	<作業フォルダ>
<BLSG のインストールディレクトリ>%output%WEB-INF	

2. 引き戻し用リポジトリファイルに対して native2ascii コマンドを実行します。

BLC では、引き戻し用リポジトリファイルのサンプルファイルを提供しています。

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルについては、「16.3.6 提供する引き戻し機能のサンプルファイル」を参照してください。

native2ascii コマンドの実行例を次に示します（<作業フォルダ>を"C:%Program Files%Hitachi %HBPM2%webSample"とした場合）。

```
cd C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%webSample%form%_entryinfo
native2ascii △SampleConsultationEUR2_def.dat△△test
```

```
del△SampleConsultationEUR2_def.dat
ren△test△SampleConsultationEUR2_def.dat
```

3. BLC が提供する引き戻し用ユーザ追加処理のサンプルファイルを、<作業フォルダ>%WEB-INF%src %jp%co%Hitachi%soft%blc%Hitachi%以下にコピーして、コンパイルします。

BLC が提供する引き戻し用ユーザ追加処理のサンプルファイルとコピー先のフォルダを次に示します。

表 16-3 BLC が提供する引き戻し用ユーザ追加処理のサンプルファイルとコピー先

ファイル名	コピー先のフォルダ
<BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %usersource %SampleConsultationEUR2_1_userServerSideClass.java	<作業フォルダ>%WEB-INF%src%jp%co%Hitachi%soft %blc%Hitachi%

コマンドの実行例を次に示します（<作業フォルダ>を"C:%Program Files%Hitachi %HBPM2%webSample"とした場合）。

```
cd C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%webSample%WEB-INF%src%jp%co%Hitachi%soft%blc%Hitachi
javac -d "C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%webSample%WEB-INF%classes" SampleConsultation
EUR2_1_userServerSideClass.java
```

4. BLC が提供する引き戻し機能の JSP ファイルのサンプルファイルをコピーします。

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルのコピー元とコピー先のフォルダを次に示します。

表 16-4 BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルのコピー元とコピー先

コピー元のフォルダ	コピー先のフォルダ
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample %pullback%webhome%app%main%	<作業フォルダ>%app%main%

注

引き戻し機能で提供されている次の JSP ファイルは、標準で提供されている送信ログ機能の JSP ファイルと名称が同じです。このため、上書きコピーをする場合は注意してください。

<作業フォルダ>%app%main%BLCLsentlog.jsp

5. Web プロジェクトを再作成して、デプロイします。

Web プロジェクトの作成およびデプロイについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

16.3.6 提供する引き戻し機能のサンプルファイル

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルを提供しています。引き戻し機能のサンプルファイルは、[送信ログ] 画面と同様にカスタマイズできます。カスタマイズの詳細は、「5.5.2 [送信ログ] 画面のカスタマイズ」を参照してください。

引き戻し機能の [送信ログ] 画面（引き戻し用）のサンプルファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%<DB 種別※>%webhome%app%main

注※ 使用する DB 種別に合わせて選択してください。

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback %common%webhome%app%main

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) >%app%main

[送信ログ] 画面 (引き戻し用) のサンプルファイルを次に示します。

表 16-5 [送信ログ] 画面 (引き戻し用) のサンプルファイル

ファイル名	内容	説明
BLClsentlog.jsp	[送信ログ] 画面 (引き戻し用)	[送信ログ] 画面 (引き戻し用) を表示します。
BLClsentlogPullBack.jsp	引き戻し処理	引き戻しを実行します。
BLC_ChgPullBack.jsp	正常終了	正常に引き戻しが終了した場合に表示されます。
BLC_ChgPullBackErr.jsp	エラー終了	引き戻し処理にエラーが発生した場合に表示されます。

そのほかの BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルを次に示します。

表 16-6 BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイル

ファイル名	内容
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%hirdb %BLCPULLBACKT.txt	HiRDB 用 SQL ファイル
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%oracle %BLCPULLBACKT.txt	Oracle 用 SQL ファイル
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%pullback%sql%sqlserver %BLCPULLBACKT.txt	SQL Server 用 SQL ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%usersource %SampleConsultationEUR2_1_userServerSideClass.java	引き戻し用ユーザ追加処理
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%bp%販売契約稟議 EUR2.hbx	引き戻し用ビジネスプロセス定義ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%repository %fSampleConsultationEUR2.dat	引き戻し用リポジトリファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2.efs	引き戻し用帳票ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2.efd	サンプル帳票の EUR Form 帳票ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2C.csv	EUR Form 帳票定義ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2D.csv	EUR Form 帳票定義ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2M.csv	EUR Form 帳票定義ファイル
<BSLG のインストールディレクトリ>%sample%data%eurform %SellingAgreementEUR2P.csv	EUR Form 帳票定義ファイル

16.4 引き戻し機能の注意事項

HiRDB の場合、引き戻し機能を使用する前に、環境変数「PDISLLVL」に 2 が指定されていることを確認してください。環境変数「PDISLLVL」に 2 が指定されていない場合は、2 を指定してください。この設定は、Oracle および SQL Server の場合には必要ありません。

16.5 BLCDBAccess クラス

BLC が提供する引き戻し機能のサンプルファイルでは、BLCDBAccess クラスを使用して DB へアクセスしています。BLCDBAccess クラスについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

ここでは、引き戻し処理内でだけ使用できる BLCDBAccess クラスの次のメソッドについて、概要を説明します。

- executeQuery(String)
- executeUpdate(String)

引き戻し機能のサンプルファイルが使用する BLCDBAccess クラスのメソッドの概要を次の表に示します。

表 16-7 引き戻し機能のサンプルファイルが使用する BLCDBAccess クラスのメソッド

戻り値のデータ型	形式	機能
ResultSet	executeQuery(String)	引数で指定された検索系 SQL 文を実行します。
int	executeUpdate(String)	引数で指定された追加更新系 SQL 文を実行します。

17 拡張受信ボックス機能

この章では、BLC が提供する拡張受信ボックス機能について説明します。

17.1 拡張受信ボックス機能の概要

拡張受信ボックスは、CSCIW の作業情報のテーブルと BLC_INBOX_T テーブルを結合したビューを使用し、カラムへアクセスします。拡張受信ボックスを利用することで、独自の DB アクセスができます。

17.2 拡張受信ボックス機能を利用するための環境設定

次の手順に従って設定します。

1. BLC の実行環境を構築します。

マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の説明に従って、BLC の実行環境を構築します。

2. 拡張受信ボックスで使用するビューを作成します。

「17.3 拡張受信ボックス機能のビュー定義」に示す定義に BLC_INBOX_T テーブルのカラムなどを追加し、業務に必要なデータを取得するためのビューを作成します。

作成したビューを DB へ登録する方法は、DB のマニュアルを参照してください。

3. JSP ファイルを作成します。

拡張受信ボックスの JSP ファイルは、使用する DB (HiRDB, Oracle, または SQL Server) によって異なります。デフォルト (<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%webhome%app%main にあるファイル) は HiRDB です。使用する DB に応じて、次に示す二つのファイルを作業フォルダにコピーし、カスタマイズします。

HiRDB の場合 (デフォルトのため、コピーする必要はありません)

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%inboxV%hirdb%webhome%app%main
%フォルダ以下
BLCLinboxV.jsp
BLCLinboxItemV.jsp
```

Oracle の場合

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%inboxV%oracle%webhome%app%main
%フォルダ以下
BLCLinboxV.jsp
BLCLinboxItemV.jsp
```

SQL Server の場合

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>%tools%sample%inboxV%sqlserver%webhome%app%main
%フォルダ以下
BLCLinboxV.jsp
BLCLinboxItemV.jsp
```

4. ワークフローメニュータブに [拡張受信ボックス] タブを作成します。

手順 3. で作成した JSP ファイルを BLC のポータル画面に表示するために、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルをカスタマイズします。

ワークフローメニュータブのカスタマイズは、「17.4(3)(a) ワークフローメニュータブ(「拡張受信ボックス」)のカスタマイズ」を参照してください。

17.3 拡張受信ボックス機能のビュー定義

ビューの作成に必要なビュー定義の内容を次に示します。この定義をカスタマイズし、データベースサーバへ登録します。

(1) BLC_INBOX_WI_LIST_V (作業一覧取得用ビュー)

●HiRDB の場合

```
CREATE READ ONLY VIEW BLC_INBOX_WI_LIST_V (
  CDPINAME,                /*案件名*/
  CDPI,                    /*案件ID*/
  NMBP,                    /*ビジネスプロセス定義名*/
  NMAPPLICANT,            /*申請者名*/
  NMAPPLICANTBELONGTO,    /*申請者所属組織略称*/
  DTCREATEPI,             /*案件開始日時*/
  DTLIMITPI,              /*案件処理期限*/
  CDWI,                    /*作業ID*/
  NMWIDEF,                 /*作業定義名*/
  NMWI,                    /*作業名*/
  DTCREATEWI,             /*作業開始日時*/
  CDPARTICIPANT           /*作業者ID*/
/*上記カラムは削除しないでください*/
/*この後にBLC_INBOX_Tから必要なカラムを追加してください。*/
) AS
SELECT
  CSCIW.ProcessInstanceName,
  CSCIW.ProcessInstanceID,
  BLC.NMBP,
  BLC.NMAPPLICANT,
  BLC.NMAPPLICANTBELONGTO,
  BLC.DTCREATE,
  BLC.DTLIMIT,
  CSCIW.ID,
  CSCIW.WorkDefinitionName,
  CSCIW.Name,
  CSCIW.CreationDate,
  CSCIW.Participant
/*追加したカラムにマッピングするカラムを追加してください。*/
FROM <SYSTEMID> WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
, BLC_INBOX_T BLC
/*結合するユーザテーブルを追加してください*/
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
/*結合する条件を追加してください*/
;
```

●Oracle の場合

```
CREATE OR REPLACE VIEW BLC_INBOX_WI_LIST_V (
  CDPINAME,                /*案件名*/
  CDPI,                    /*案件ID*/
  NMBP,                    /*ビジネスプロセス定義名*/
  NMAPPLICANT,            /*申請者名*/
  NMAPPLICANTBELONGTO,    /*申請者所属組織略称*/
  DTCREATEPI,             /*案件開始日時*/
  DTLIMITPI,              /*案件処理期限*/
  CDWI,                    /*作業ID*/
  NMWIDEF,                 /*作業定義名*/
  NMWI,                    /*作業名*/
  DTCREATEWI,             /*作業開始日時*/
  CDPARTICIPANT           /*作業者ID*/
/*上記カラムは削除しないでください*/
/*この後にBLC_INBOX_Tから必要なカラムを追加してください。*/
) AS
SELECT
  CSCIW.ProcessInstanceName,
  CSCIW.ProcessInstanceID,
  BLC.NMBP,
  BLC.NMAPPLICANT,
  BLC.NMAPPLICANTBELONGTO,
```

```

BLC.DTCREATE,
BLC.DTLIMIT,
CSCIW.ID,
CSCIW.WorkDefinitionName,
CSCIW.Name,
CSCIW.CreationDate,
CSCIW.Participant
/*追加したカラムにマッピングするカラムを追加してください。*/
FROM <SYSTEMID>_WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
,BLC.INBOX_T BLC
/*結合するユーザテーブルを追加してください*/
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
/*結合する条件を追加してください*/
WITH READ ONLY
;

```

●SQL Server の場合

```

CREATE VIEW BLC_INBOX_WI_LIST_V (
  CDPINAME, /*案件名*/
  CDPI, /*案件ID*/
  NMBP, /*ビジネスプロセス定義名*/
  NMAPPLICANT, /*申請者名*/
  NMAPPLICANTBELONGTO, /*申請者所属組織略称*/
  DTCREATEPI, /*案件開始日時*/
  DTLIMITPI, /*案件処理期限*/
  CDWI, /*作業ID*/
  NMWIDDEF, /*作業定義名*/
  NMWI, /*作業名*/
  DTCREATEWI, /*作業開始日時*/
  CDPARTICIPANT /*作業者ID*/
/*上記カラムは削除しないでください*/
/*この後にBLC_INBOX_Tから必要なカラムを追加してください。*/
) AS
SELECT
  CSCIW.ProcessInstanceName,
  CSCIW.ProcessInstanceID,
  BLC.NMBP,
  BLC.NMAPPLICANT,
  BLC.NMAPPLICANTBELONGTO,
  BLC.DTCREATE,
  BLC.DTLIMIT,
  CSCIW.ID,
  CSCIW.WorkDefinitionName,
  CSCIW.Name,
  CSCIW.CreationDate,
  CSCIW.Participant
/*追加したカラムにマッピングするカラムを追加してください。*/
FROM <SYSTEMID>_WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
,BLC.INBOX_T BLC
/*結合するユーザテーブルを追加してください*/
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
/*結合する条件を追加してください*/
;

```

注意事項

SQL Server で大文字と小文字を区別して動作させる場合、CSCIW のテーブルを参照する個所は、CSCIW のテーブル定義に一致させてください。

(2) BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V (業務別作業件数取得用ビュー)

●HiRDB の場合

```

CREATE READ ONLY VIEW BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V (
  CDPARTICIPANT,
  NMBP,
  CDWI ) AS
SELECT
  CSCIW.Participant,
  BLC.NMBP,
  CSCIW.ID

```

```

FROM <SYSTEMID>_WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
,BLC_INBOX_T BLC
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
;

```

●Oracle の場合

```

CREATE OR REPLACE VIEW BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V (
CDPARTICIPANT,
NMBP,
CDWI ) AS
SELECT
CSCIW.Participant,
BLC.NMBP,
CSCIW.ID
FROM <SYSTEMID>_WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
,BLC_INBOX_T BLC
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
WITH READ ONLY
;

```

●SQL Server の場合

```

CREATE VIEW BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V (
CDPARTICIPANT,
NMBP,
CDWI ) AS
SELECT
CSCIW.Participant,
BLC.NMBP,
CSCIW.ID
FROM <SYSTEMID>_WORK_ITEM CSCIW /*<SYSTEMID>をCSCIWのシステムIDに書き換えてください*/
,BLC_INBOX_T BLC
WHERE CSCIW.StateCode='j' AND BLC.CDPINAME=CSCIW.ProcessInstanceName
;

```

注意事項

SQL Server で大文字と小文字を区別して動作させる場合、CSCIW のテーブルを参照する個所は、CSCIW のテーブル定義に一致させてください。

17.4 拡張受信ボックス機能のカスタマイズ

拡張受信ボックス機能では、BLC の受信ボックスへアクセスするための Java クラスを提供します。Java クラスでは、次の DB アクセス条件をカスタマイズできます。

- アクセス対象のビュー
- アクセス時の SQL 文

また、拡張受信ボックス機能では、受信ボックス表示用の JSP ファイルを提供します。このファイルのカスタマイズすることで、独自の形式で表示させることができます。

(1) ビュー定義

拡張受信ボックス機能では、テンプレートとしてあらかじめ次の二つのビュー定義を提供しています。

- 作業一覧取得用ビュー：BLC_INBOX_WI_LIST_V
- 業務別作業件数取得用ビュー：BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V

なお、ビュー定義は次の項目をカスタマイズできます。

- アクセスする BLC_INBOX_T のカラムの追加
- WHERE 条件の追加
- 新たな view の作成

(2) SQL 文

拡張受信ボックス機能の Java クラスでは、DB アクセスする際の SQL 文をパラメタとして受け取ります。カスタマイズしたビューなどに独自の SQL 文を使用することで、独自の DB アクセスができます。

(3) JSP ファイル

BLCLinboxV.jsp ファイルおよび BLCLinboxItemV.jsp ファイルをカスタマイズすることによって、表示する項目、表での並び順やリンク付けなどをカスタマイズできます。

！ 注意事項

DB によって処理が異なります。次に示す JSP ファイルは、デフォルトが HiRDB 用になっています。Oracle または SQL Server を使用する場合は「17. 拡張受信ボックス機能」の説明に従って修正をしてください。

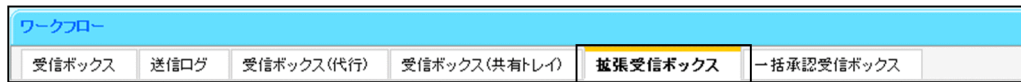
(a) ワークフローメニュータブ（「拡張受信ボックス」）のカスタマイズ

拡張受信ボックス機能を使用するために、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルをカスタマイズしてワークフローメニュータブに「拡張受信ボックス」タブを追加します。

「拡張受信ボックス」タブを選択することで、拡張受信ボックスの画面がワークフローポートレットに表示されます。

ワークフローメニュータブに「拡張受信ボックス」タブを追加した図を次に示します。

図 17-1 【拡張受信ボックス】タブを追加したワークフローメニュータブ



ワークフローメニュータブに「拡張受信ボックス」を追加する実装例を次に示します。

```

:
<div id="blc_menu_inboxv" class="blc_menu_tab_clickable">
<a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLinboxV.jsp")%">" target="blc_wf_iframe"
class="blc_menu_tab" onclick="blc_tabChange('blc_menu_inboxv');"><
%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOXV_TITLE_NAME)%></a>
</div>
:

```

div タグ

ワークフローメニュータブを設定します。

id="blc_menu_inboxv"

id は BLCWorkflowMenu.jsp 内で一意になるように指定してください。

class="blc_menu_tab_clickable"

「blc_menu_tab_clickable」は、クリックできる（選択状態ではない）スタイルです。

a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLinboxV.jsp")%">"

タブのクリック時にワークフローポートレットの表示領域に表示する jsp ファイルを指定します。例の「BLCLinboxV.jsp」は、【拡張受信ボックス（業務別件数）】画面を指定しています。

target="blc_wf_iframe"

target には必ず「blc_wf_iframe」（ワークフローポートレットの表示領域フレーム名）を指定してください。

class="blc_menu_tab"

「blc_menu_tab」は、クリックできる（選択状態ではない）スタイルです。

onclick="blc_tabChange('blc_menu_inboxv');"

「blc_tabChange」は、対象のタブが選択状態になった場合のスタイルを指定します。パラメタには id に指定した値（例では「blc_menu_inboxv」）を指定してください。

a タグ

a タグの文字列はストリングリソースを利用してください。任意の文字列を指定できます。

(b) BLCLinboxV.jsp のカスタマイズ

BLCLinboxV.jsp ファイルには、【拡張受信ボックス（業務別件数）】画面の表示項目が設定されています。表示内容のカスタマイズは、BLCLinboxV.jsp ファイルを十分に理解した上で行ってください。

BLCLinboxV.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ >¥tools¥sample¥inboxV¥<DB 種別¥>¥webhome¥app¥main

注※ 使用する DB 種別に合わせて選択してください。

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) >¥app¥main

(c) BLCLinboxItemV.jsp のカスタマイズ

BLCLinboxItemV.jsp ファイルには、[拡張受信ボックス] 画面の表示項目が設定されています。表示内容のカスタマイズは、BLCLinboxItemV.jsp ファイルを十分に理解した上で行ってください。

BLCLinboxItemV.jsp ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %tools%sample%inboxV% <DB 種別* > %webhome%app%main

注※ 使用する DB 種別に合わせて選択してください。

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %app%main

表示内容のカスタマイズについて次に説明します。

- 列のカスタマイズ

次に示す変数の値を変更することで、一覧表の項目の表示内容および並び順を変更できます。

String[] colTitle：列のタイトル文字列

String[] column：ソートキーに使用するカラム名

BLCInboxVColumn[] getter：カラム値を取得する取得クラスのインスタンス

boolean[] isAnchor：表示をリンクアンカーにするか単なるテキスト表示にするかのフラグ

各配列数が列数になります。

配列の順番が列の並びになります。

colTitle, column, getter, isAnchor の配列数が等しくない場合の動作は保証されません。

- 作業数のカスタマイズ

次に示す変数の値を変更することで、一画面で表示する作業数を変更できます。

int BLC_TABLE_ROWS：表示作業数

18 保管案件の照会機能

この章では、データベースに保管されている案件を検索して参照する機能について説明します。

18.1 保管案件の照会機能の概要

保管案件の照会機能は、完了案件削除ユティリティで保管した案件の情報を検索して参照する機能です。さらに、EUR Form 連携帳票の場合は、検索した案件の帳票を参照できます。

完了案件削除ユティリティの詳細は、「12.1 完了案件削除ユティリティ」を参照してください。

保管用データベースに保管した案件を照会する流れを次に示します。

図 18-1 保管した案件を照会する流れ (例)

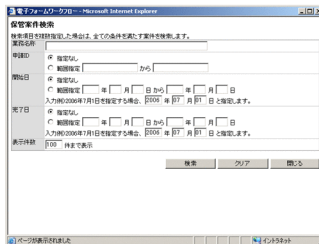
BLCのメニューポートレット



[保管案件の検索/表示] メニューを選択します。



[保管案件検索] 画面



検索したい案件の条件を指定し、[検索] ボタンをクリックします。



[保管案件検索結果] 画面

案件ID	案件名称	開始日時	終了日時	案件状態
000000	販売契約決済EUR	2008/01/28 13:07:57	2008/01/29 14:47:00	債権 和子
000001	販売契約決済	2008/01/29 14:45:30	2008/01/29 17:17:36	債権 和子
000002	販売契約決済	2008/01/29 14:45:36	2008/01/29 14:46:24	債権 和子
000006	販売契約決済	2008/01/29 14:47:48	2008/01/29 17:17:36	債権 和子
000009	販売契約決済	2008/01/29 15:36:02	2008/01/29 11:21:05	債権 和子
000000	販売契約決済	2008/01/29 15:36:08	2008/01/29 11:20:17	債権 和子
000000	販売契約決済EUR	2008/01/29 11:21:15	2008/01/29 11:21:07	債権 和子

検索結果が表示されます。
 案件履歴を参照する場合は、[保管案件履歴表示] ボタンをクリックします。
 帳票を参照する場合は、[帳票表示] ボタンをクリックします（EUR Form連携帳票の場合だけ）。

[保管案件履歴] 画面

案件名	担当者	開始日時	作業状態
案件名	債権 和子	2008/01/29 13:07:57	実行済
案件名	債権 和子	2008/01/29 13:07:57	実行済
案件名	債権 和子	2008/01/29 14:40:41	実行済
案件名	債権 和子	2008/01/29 14:46:00	実行済
案件名	債権 和子	2008/01/29 14:47:00	実行済

EUR Form連携帳票画面

販売契約決済EUR

案件ID: [] 案件名: [] 開始日時: [] 終了日時: []

帳票種類: [] 帳票期間: []

通貨種別: [] 通貨単位: []

帳票形式: [] 帳票サイズ: []

帳票内容: []

実行

BLC では、保管案件の照会機能のサンプルファイルを Web アプリケーションとして提供しています。

! 注意事項

保管案件の照会機能のサンプルでは、処理者などのセキュリティチェックをしません。このため、処理者以外でも案件履歴や帳票などの情報を参照できます。セキュリティを管理するには、カスタマイズしてください。

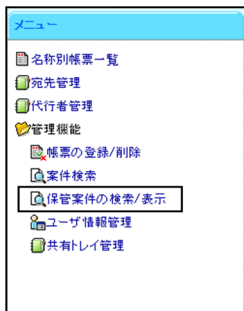
18.2 保管案件の照会機能で使用する画面

BLC がサンプルファイルとして提供する、保管案件の照会機能で使用する画面について、画面の構成および処理のフローを次に示します。

18.2.1 画面の構成

保管案件の照会機能で使用する各画面の構成を次に示します。

メニューポर्टレットの管理機能のサブメニュー



管理機能のサブメニューとして [保管案件の検索/表示] が追加されます。

[保管案件検索] 画面

 A screenshot of a web browser window titled '電子フォームワークフロー - Microsoft Internet Explorer'. The main content is a form titled '保管案件検索'. Below the title is a note: '検索項目を複数指定した場合は、全ての条件を満たす案件を検索します。'. The form has several sections:

- 業務名称**: A text input field.
- 申請ID**: Radio buttons for '指定なし' (selected) and '範囲指定' with 'から' and another input field.
- 開始日**: Radio buttons for '指定なし' (selected) and '範囲指定' with date pickers (year, month, day) and a note: '入力例)2006年7月1日を指定する場合、2006年07月01日と指定します。'.
- 完了日**: Radio buttons for '指定なし' (selected) and '範囲指定' with date pickers and the same note as above.
- 表示件数**: A dropdown menu set to '100 件まで表示'.

 At the bottom of the form are three buttons: '検索', 'クリア', and '閉じる'. The browser status bar at the bottom shows 'ページが表示されました' and 'イントラネット'.

[業務名称] テキストボックス

業務名称（ビジネスプロセス名）を指定します。

指定した業務名称は、完全に一致するものが検索されます。

業務名称を指定しない場合は、業務名称について条件なしで検索されるようになります。

申請 ID

[指定なし] ラジオボタン

検索条件に申請 ID を指定しない場合に選択します。初期状態では、このボタンが選択されています。

【範囲指定】 ラジオボタン

検索条件に申請 ID を指定する場合に選択します。検索する申請 ID をテキストボックスに入力します。

- テキストボックスに入力した値を含めて検索されます。例えば、「0000101 から 0000210」と指定した場合は、 $0000101 \leq \text{申請 ID} \leq 0000210$ の条件で検索されます。
- 特定の申請 ID を持つ案件を検索する場合は、範囲指定の先頭と終端に同じ値を指定します。
- 特定の申請 ID の値以上の案件を検索する場合は、範囲指定の先頭だけに値を指定します。例えば、「0000101 から」と指定した場合は、 $0000101 \leq \text{申請 ID}$ の条件で検索されます。
- 特定の申請 ID の値以下の案件を検索する場合は、範囲指定の終端だけに値を指定します。例えば、「から 0000210」と指定した場合は、 $\text{申請 ID} \leq 0000210$ の条件で検索されます。
- 【範囲指定】 ラジオボタンを選択して、テキストボックスに何も入力しない場合は、エラーになります。
- 先頭のテキストボックスに入力した値が終端のテキストボックスに入力した値よりも大きい場合は、検索結果が 0 件になります。

開始日**【指定なし】 ラジオボタン**

検索条件に案件の開始日を指定しない場合に選択します。初期状態では、このボタンが選択されています。

【範囲指定】 ラジオボタン

検索条件に案件の開始日を指定する場合に選択します。検索する開始日をテキストボックスに入力します。

- 年は 4 桁、月は 2 桁、日は 2 桁で指定します。例えば、2006 年 7 月 1 日を指定する場合は、「2006」、「07」、「01」と入力します。
- 年月日として有効でない数値を指定した場合は、エラーになります。
- 1970 年～2037 年以外の年を指定した場合は、エラーになります。
- テキストボックスに入力した値を含めて検索されます。例えば、「2005 年 04 月 01 日から 2006 年 03 月 31 日」と指定した場合は、 $2005 \text{ 年 } 04 \text{ 月 } 01 \text{ 日} \leq \text{開始日} \leq 2006 \text{ 年 } 03 \text{ 月 } 31 \text{ 日}$ の条件で検索されます。
- 特定の開始日の案件を検索する場合は、範囲指定の先頭と終端に同じ値を指定します。
- 特定の年月日以降の開始日の案件を検索する場合は、範囲指定の先頭だけに値を指定します。例えば、「2005 年 04 月 01 日から」と指定した場合は、 $2005 \text{ 年 } 04 \text{ 月 } 01 \text{ 日} \leq \text{開始日}$ の条件で検索されます。
- 特定の年月日以前の開始日の案件を検索する場合は、範囲指定の終端だけに値を指定します。例えば、「から 2006 年 03 月 31 日」と指定した場合は、 $\text{開始日} \leq 2006 \text{ 年 } 03 \text{ 月 } 31 \text{ 日}$ の条件で検索されます。
- 【範囲指定】 ラジオボタンを選択して、テキストボックスに何も入力しない場合は、エラーになります。
- 先頭のテキストボックスに入力した年月日が終端のテキストボックスに入力した年月日よりもあとの年月日の場合は、検索結果が 0 件になります。

完了日

[指定なし] ラジオボタン

検索条件に案件の完了日を指定しない場合に選択します。初期状態では、このボタンが選択されています。

[範囲指定] ラジオボタン

検索条件に案件の完了日を指定する場合に選択します。検索する完了日をテキストボックスに入力します。

指定方法を次に示します。

- 年は4桁、月は2桁、日は2桁で指定します。例えば、2006年7月1日を指定する場合は、「2006」、「07」、「01」と入力します。
- 年月日として有効でない数値を指定した場合は、エラーになります。
- 1970年～2037年以外の年を指定した場合は、エラーになります。
- テキストボックスに入力した値を含めて検索されます。例えば、「2005年04月01日から2006年03月31日」と指定した場合は、2005年04月01日≦開始日≦2006年03月31日の条件で検索されます。
- 特定の完了日の案件を検索する場合は、範囲指定の先頭と終端に同じ値を指定します。
- 特定の年月日以降の完了日の案件を検索する場合は、範囲指定の先頭だけに値を指定します。例えば、「2005年04月01日から」と指定した場合は、2005年04月01日≦開始日の条件で検索されます。
- 特定の年月日以前の完了日の案件を検索する場合は、範囲指定の終端だけに値を指定します。例えば、「から2006年03月31日」と指定した場合は、開始日≦2006年03月31日の条件で検索されます。
- [範囲指定] ラジオボタンを選択して、テキストボックスに何も入力しない場合は、エラーになります。
- 先頭のテキストボックスに入力した年月日が終端のテキストボックスに入力した年月日よりもあとの年月日の場合は、検索結果が0件になります。

表示件数

保管案件の検索結果画面に表示する案件数の上限を指定します。初期値は「100」です。指定できる値は、1～9,999です。

[検索] ボタン

入力した条件で案件が検索され、検索結果が【保管案件検索結果】画面に表示されます。

[クリア] ボタン

入力した内容が消去され、初期状態に戻ります。

[閉じる] ボタン

【保管案件検索】画面が閉じます。

[保管案件検索結果] 画面

選択	申請ID	案件状態	業務名称	開始日時	完了日時	申請者	最終作業者
<input checked="" type="radio"/>	0000033	完了	販売契約案議EUR	2008/01/28 13:07:57	2008/01/29 14:47:00	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000041	完了	販売契約案議	2008/01/29 14:45:30	2008/01/29 17:17:36	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000042	完了	販売契約案議	2008/01/29 14:45:36	2008/01/29 14:46:24	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000046	完了	販売契約案議EUR	2008/01/29 14:47:48	2008/01/29 17:17:09	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000049	完了	販売契約案議	2008/01/29 15:36:02	2008/01/30 11:21:05	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000050	完了	販売契約案議	2008/01/29 15:36:08	2008/01/30 11:20:17	情報 和子	情報 和子
<input type="radio"/>	0000051	完了	販売契約案議EUR	2008/01/30 11:21:15	2008/01/30 11:21:57	情報 和子	情報 和子

[保管案件検索結果] 画面には、保管案件の検索結果が申請 ID の昇順に表示されます。

[保管案件履歴] メニュー

選択した案件の [保管案件履歴] 画面が別ウィンドウに表示されます。

[帳票表示] メニュー

選択した案件の帳票が別ウィンドウに表示されます。表示できる帳票は、EUR Form 連携帳票だけです。

[保管案件検索] メニュー

[保管案件検索] 画面が表示されます。

[閉じる] メニュー

[保管案件検索結果] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

l-n/m

- l：表示ページの先頭の案件が何件目かが表示されます。
- n：表示ページの最後の案件が何件目かが表示されます。
- m：全体の案件の件数が表示されます。

保管案件検索結果の一覧

• [選択] ラジオボタン

案件履歴または帳票を表示させたい案件を選択します。初期状態では、先頭の1件目が選択されています。

EUR Form 連携帳票でない保管案件を選択して、[帳票表示] ボタンをクリックした場合は、エラーになります。

• 申請 ID

案件の申請 ID が表示されます。

- **案件状態**

案件の状態が表示されます。

案件の状態は、案件状態コードを基に表示されます。

案件状態コードと案件の状態の対応を次に示します。

案件状態コード	案件の状態
o	完了
u	強制終了
v	異常終了

該当する案件状態コードが見つからない場合は、空白が表示されます。

- **業務名称**

案件の業務名称が表示されます。

- **開始日時**

案件の開始日時が表示されます。

- **完了日時**

案件の完了日時が表示されます。

- **申請者**

案件の申請者が表示されます。

- **最終作業員**

案件を最後に操作した作業員が表示されます。

[保管案件履歴] 画面



[保管案件履歴] 画面には、CSCIW の履歴情報が表示されます。

[保管案件検索結果] メニュー

[保管案件検索結果] 画面が表示されます。

[閉じる] メニュー

[保管案件履歴] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

保管案件履歴

- **業務名称**
案件の業務名称が表示されます。
- **申請 ID**
案件の申請 ID が表示されます。
- **開始日時**
案件の開始日時が表示されます。
- **完了日時**
案件の完了日時が表示されます。
- **作業名**
作業の作業名が表示されます。
作業名は、「申請者」または「業務ステップ定義名+"-"+作業定義名」です。
- **処理者**
作業の処理者が表示されます。
- **処理日時**
作業の処理日時が表示されます。
- **作業状態**
作業の状態が表示されます。
作業の状態は、作業状態コードを基に表示されます。
作業状態コードと作業の状態の対応を次に示します。

作業状態コード	作業の状態
e	自動実行
f	作業実行
i	初期
j	実行開始可能
l	実行開始不可
m	実行停止
p	実行省略
q	実行取消
r	実行済
u	強制終了
v	異常終了
z	未定義

該当する作業状態コードが見つからない場合は、空白が表示されます。

注意事項

- 「処理者」には、処理者 ID (ユーザ ID) を基に BLC データベースが検索された結果が表示されます。該当する処理者が見つからない場合は、処理者 ID が表示されます。
- 「処理日時」には、ワーク管理データベースから取得した情報が表示されます。このため、BLC の [案件履歴] 画面に表示される処理日時と異なることがあります。

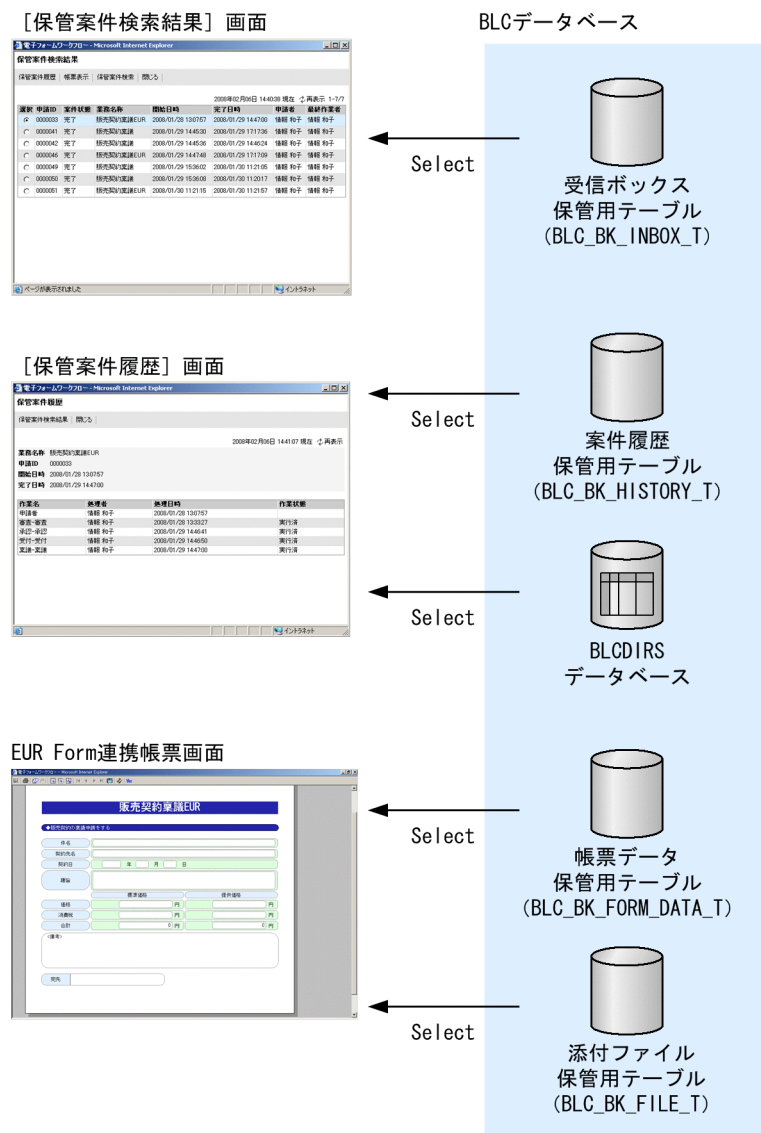
EUR Form 連携帳票画面

注意事項

- BLC の標準のボタンは、非表示になります。ユーザのボタンおよびカスタマイズしたボタンは、EUR Form 連携帳票画面をカスタマイズして、ボタンを非表示にしてください。
- ボタンを非表示にするようカスタマイズしていない場合、表示されているボタンをクリックするとエラーが発生します。
- 表示する EUR Form 連携帳票は、次の形式で作成しておくことを推奨します。
項目は最終表示型で作成してください。
ボタンはデフォルトで非表示とし、必要に応じて表示するようにしてください。
- このウィンドウを閉じる場合は、Web ブラウザの閉じるボタンをクリックして閉じてください。
- 帳票前処理は行われません。
- EUR Form 帳票で設定しているスクリプト定義が動作する可能性があります。

保管案件の照会機能で使用する画面と BLC データベースの関係を次に示します。

図 18-2 保管案件の照会機能で使用する画面と BLC データベースの関係

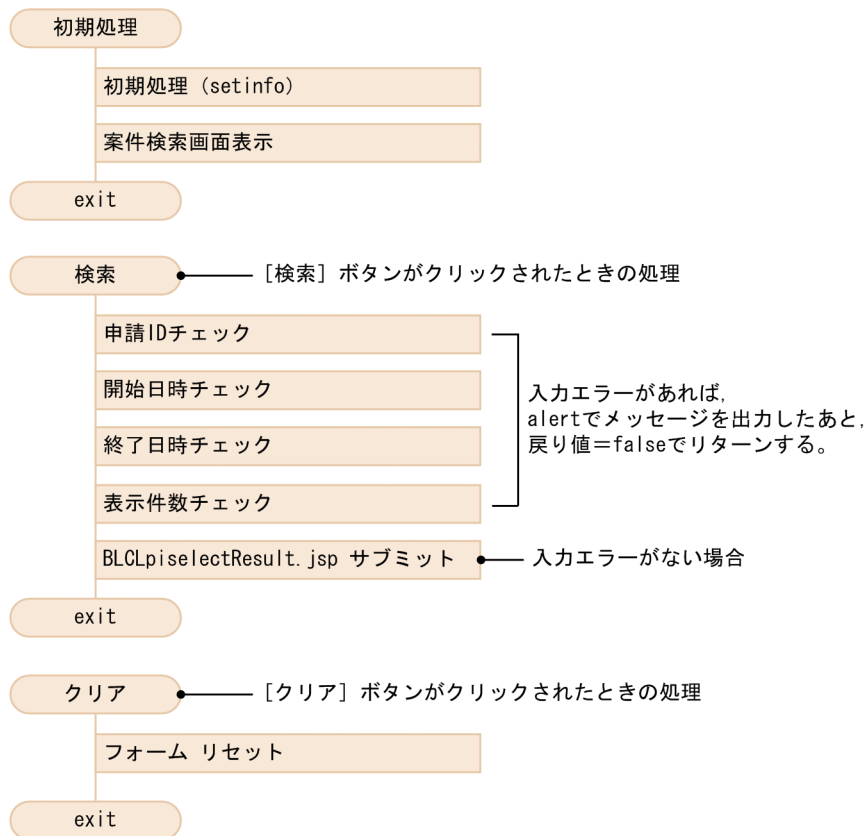


- BLC データベースは参照されるだけです。追加や更新処理などはありません。
- BLC のメニューポートレットの [保管案件の検索/表示] アイコンおよび [保管案件検索] 画面は、BLC データベースを使用しません。

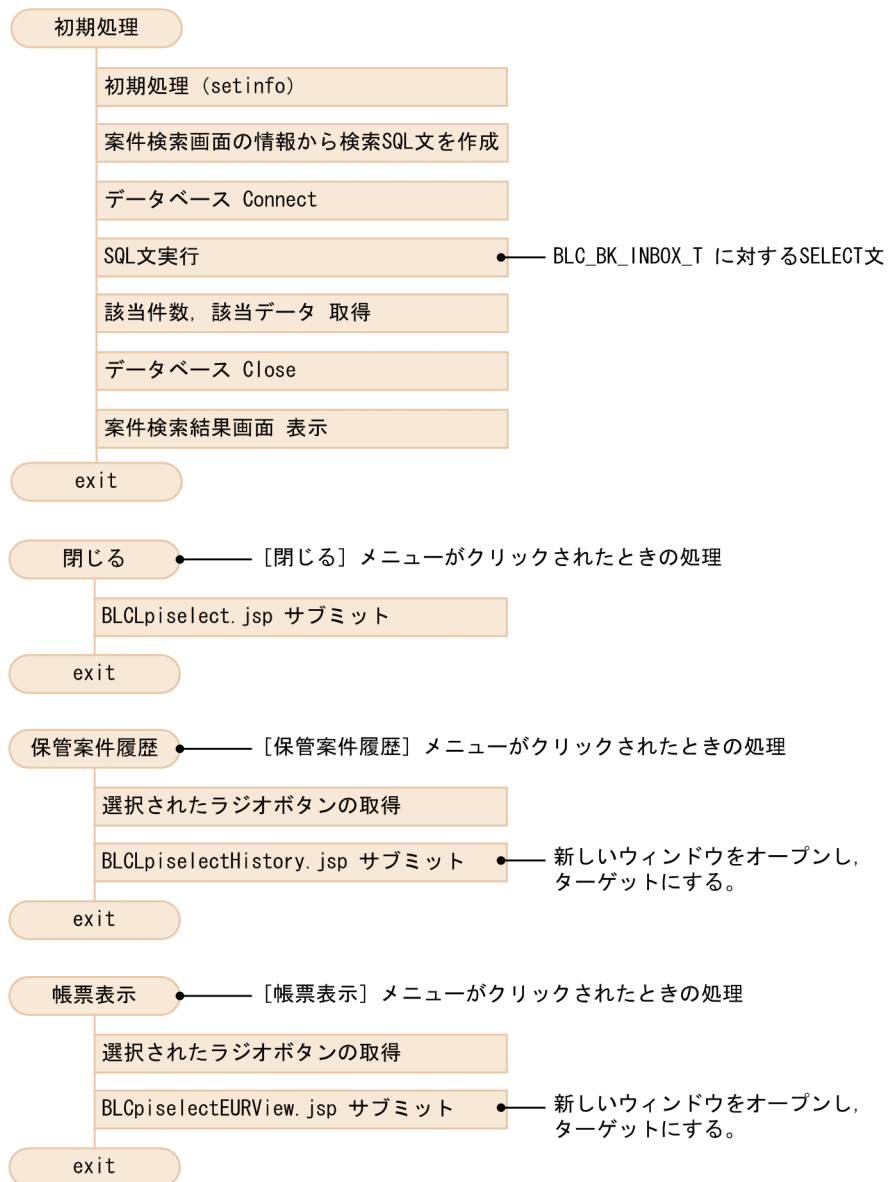
18.2.2 処理のフロー

保管案件の照会機能で使用する各画面の処理のフローを次に示します。処理のフローはカスタマイズできます。

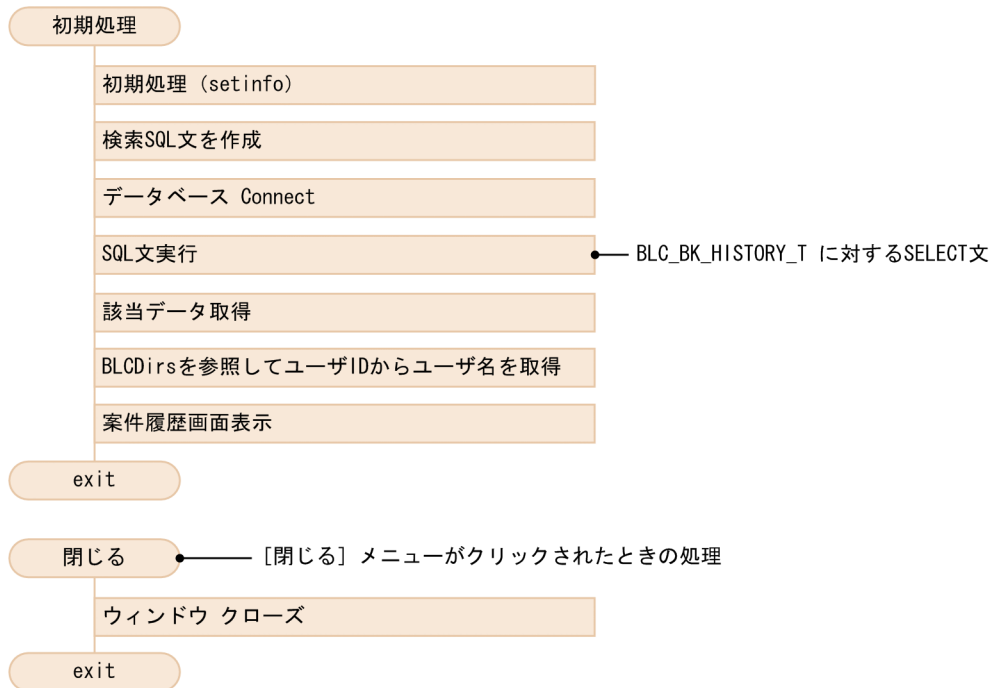
保管案件の検索画面の処理のフロー



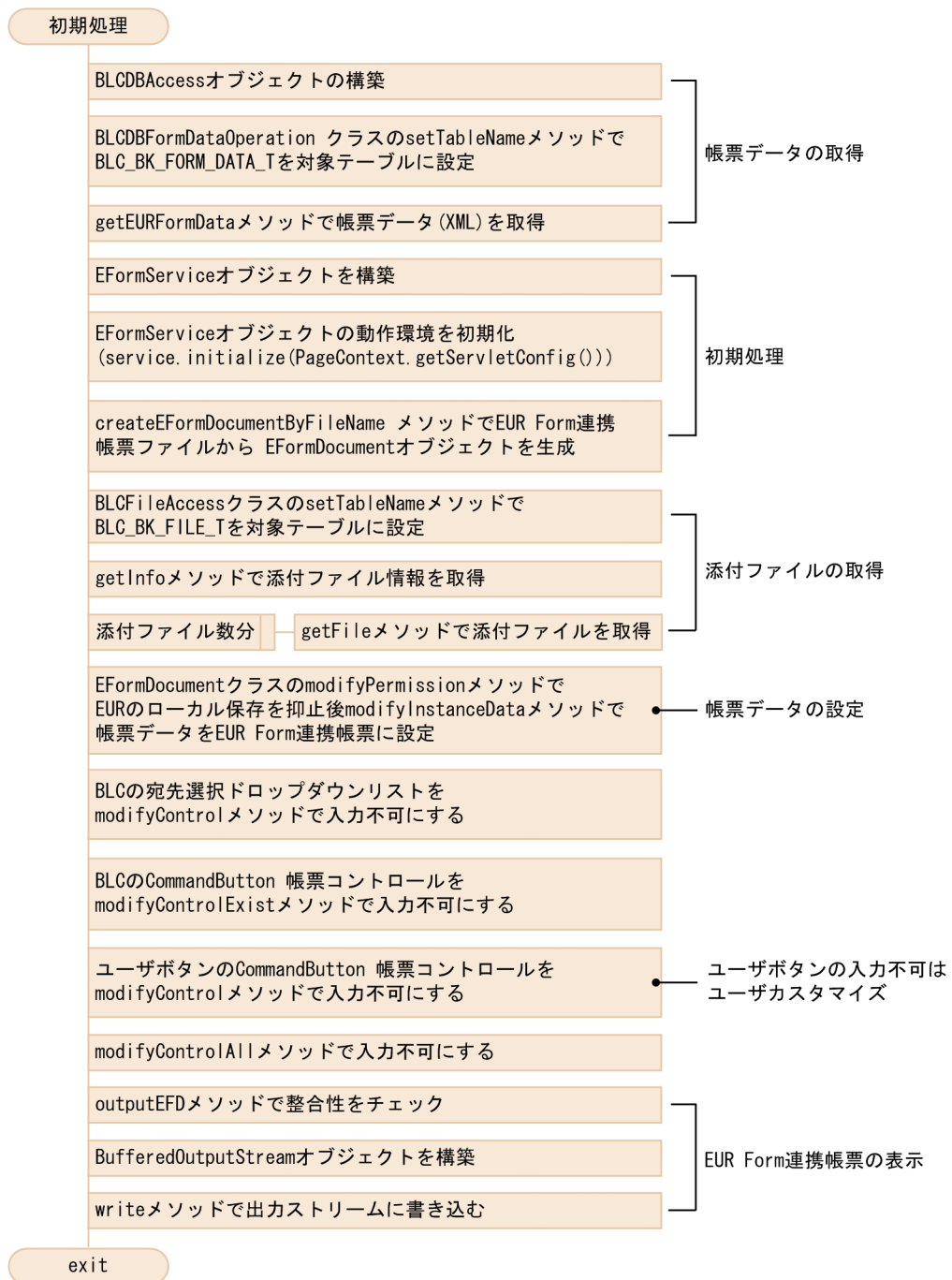
保管案件の検索結果画面の処理のフロー



保管案件の案件履歴画面の処理のフロー



EUR Form 連携帳票画面の処理のフロー



18.3 保管案件の照会機能のメッセージ

BLC がサンプルファイルとして提供する、保管案件の照会機能で表示されるメッセージを次に示します。

アラートメッセージ

次のメッセージが表示されます。

申請 ID の指定に誤りがあります。

要因

範囲指定の場合、先頭および終端とも入力されていません。

対処

範囲指定の申請 ID を入力してください。

日付の指定に誤りがあります。

要因

次の要因が考えられます。

1. 数値以外の文字を指定している。
2. 「yyyy 年 mm 月 dd 日」の形式で指定していない。
3. 日にちとして有効でない数値を指定している。
4. 範囲指定の場合、先頭および終端とも指定されていない。

対処

1. 数値を指定してください。
2. 「yyyy 年 mm 月 dd 日」の形式で指定してください。
3. 日にちとして有効な数値を指定してください。
4. 範囲指定の日付を指定してください。

表示件数の指定に誤りがあります。

要因

次の要因が考えられます。

1. 数値以外の文字を指定している。
2. 0 を指定している。

対処

1. 数値を指定してください。
2. 1 以上の値を指定してください。

エラーメッセージ

次のメッセージ ID のメッセージが表示されます。

KDLC1272-E, KDLC2206-E

メッセージの詳細は、「付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ」を参照してください。

18.4 保管案件の照会機能を利用するための環境設定

保管案件の照会機能を利用するためには、環境設定が必要です。

詳細は、「11.1.3 保管案件を照会するための環境設定」を参照してください。

18.5 保管案件の照会機能のカスタマイズ

保管案件の照会機能を使用するためには、サンプルファイルをカスタマイズする必要があります。サンプルファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%webhome%app%main

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %app%main

保管案件の照会機能を使用するためにカスタマイズするサンプルファイルを次に示します。

表 18-1 保管案件の照会機能を使用するためにカスタマイズするファイル

カスタマイズするファイル	内容	説明
BLCMenu.jsp [*]	メニューポートレットの [保管案件の検索/表示] メニュー	メニューポートレットに [保管案件の検索/表示] メニューを表示します。
BLCpiselect.jsp	[保管案件検索] 画面	保管案件の検索項目を表示します。
BLCLpiselectResult.jsp	[保管案件検索結果] 画面	保管案件の検索結果を一覧で表示します。
BLCLpiselectHistory.jsp	[保管案件履歴] 画面	保管案件の履歴を表示します。
BLCpiselectEURView.jsp	EUR Form 連携帳票画面	保管案件用の EUR Form 連携帳票を表示します。
BLCpiselecterror.jsp	保管案件エラー画面	保管案件の検索でエラーが発生した場合に表示されます。

注※

BLCMenu.jsp だけ次のディレクトリに格納されています。

インストールディレクトリ：< BLC2 のインストールディレクトリ > %blc%portal%portlet%blcmenu

デプロイディレクトリ：< Web 帳票アプリケーションのディレクトリ (webSample) > %adportlets%blcmenu

カスタマイズするファイルは、内容を十分理解した上で、編集してください。

カスタマイズするファイル内で使用している各クラスの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

(1) BLCMenu.jsp のカスタマイズ

メニューポートレットの管理機能のメニューに [保管案件の検索/表示] メニューを表示する場合は、BLCMenu.jsp ファイルをカスタマイズする必要があります。

JavaScript の設定

[保管案件の検索/表示] メニューを表示する JavaScript の実装例を次に示します。太字のコードを追加します。

```
var blc_mp_pisearch_win = null;
function blc_mp_PISearch(){
  if(blc_mp_pisearch_win == null || blc_mp_pisearch_win.closed){
```

```

    document.blc_mp_form.method="post";
    document.blc_mp_form.target="blcpisearch";
    document.blc_mp_form.action="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCPIsearch.jsp")%>";
    blc_mp_pisearch_win = window.open("<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCblank.html")
%>","blcpisearch","menubar=no,location=no,status=yes,scrollbars=yes,resizable=yes,width=650,height=450");
    document.blc_mp_form.submit();
  }else{
    alert("<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BLC_WINDOWOPEN_ERROR_MESSAGE)%>");
    try{
      blc_mp_pisearch_win.focus();
    }catch(e){}
  }
  return false ;
}
var blc_mp_backpi_win = null;
function blc_mp_backPI(){
  if(blc_mp_backpi_win == null || blc_mp_backpi_win.closed){
    document.blc_mp_form.method="post";
    document.blc_mp_form.target="blcbackpi";
    document.blc_mp_form.action="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCpiselect.jsp")%>";
    blc_mp_backpi_win = window.open("<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCblank.html")
%>","blcbackpi","menubar=no,location=no,status=yes,scrollbars=yes,resizable=yes,width=650,height=450");
    document.blc_mp_form.submit();
  }else{
    alert("<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BLC_WINDOWOPEN_ERROR_MESSAGE)%>");
    try{
      blc_mp_backpi_win.focus();
    }catch(e){}
  }
  return false ;
}
<%%>

```

メニューの設定

[保管案件の検索/削除] メニューを表示する例を次に示します。太字の追加コードを指定することで、[保管案件の検索/表示] メニューがメニューポートレットに表示されるようになります。

```

<!-- PISearch -->
<%if(sysAuthFlag){%>
<div class="blc_mp_normal2" onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover2');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal2');" onclick="blc_mp_PISearch(); return
false;">

<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.MP_PISEARCH)%>
</div>
<%%>
<!-- BackPI-->
<%if(sysAuthFlag){%>
<div class="blc_mp_normal2" onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover2');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal2');" onclick="blc_mp_backPI(); return
false;">

<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.MP_ADMBACKPI)%>
</div>
<%%>
<!-- UserAdmin-->
<div class="blc_mp_normal2" onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover2');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal2');" onclick="blc_mp_userAdmin(); return
false;">

<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.MP_ADMUSER)%>
</div>

```

(2) 添付ファイルを参照する場合のカスタマイズ

保管案件の帳票を参照したときに添付ファイルも参照する場合は、カスタマイズが必要です。カスタマイズの方法については、「11.1.4 添付ファイルを参照する場合のカスタマイズ」を参照してください。

18.6 保管案件の照会機能の注意事項

保管案件の照会機能の注意事項について説明します。

- 保管した案件に対応する EUR Form 帳票ファイル (.efd) は、古い帳票（過去に使用した帳票）のファイルでも消さないでください。
- BLC 帳票の帳票表示はできません。
- 表示件数に大きい値を指定し、該当する案件が多数ある場合、検索結果の表示に時間が掛かったり、エラーが発生したりすることがあります。大きな値は指定しないでください。
- 完了案件削除ユティリティの実行中は、保管案件の照会をしないでください。
- 保管案件の照会を実行するアプリケーションサーバと、業務で使用するアプリケーションサーバを同一のサーバにした場合、業務実行中に大量の保管案件を参照すると、業務および保管案件の照会の処理速度が低下することがあります。このような場合は、別サーバにすることを検討してください。

19 案件の振り替え機能

この章では、案件の処理をほかのユーザに振り替える機能について説明します。

19.1 案件の振り替え機能の概要

ここでは案件の振り替え機能に関連する権限、および機能の概要について説明します。

19.1.1 案件の振り替え機能に関連する権限

案件の振り替え機能を使用するための権限を次の表に示します。

表 19-1 案件の振り替え機能を使用するための権限

権限		使用できる案件の振り替え機能
代行権限		<p>案件の代行に関連する権限です。</p> <p>代行権限は、振替作業員、代行者、および利用者の3種類に区分されます。</p>
代行権限	振替作業員	<p>利用者の案件をほかのユーザに振り替えることができるユーザです。また、振替作業員が代行者になり、利用者に代わって案件の承認処理を実行することもできます。</p>
	代行者	<p>代行依頼者の案件の処理を実行できるユーザです。</p>
	利用者	<p>案件の申請や承認を実行する一般のユーザです。</p>
管理者権限		<p>システムを管理する権限です。</p> <p>管理者権限は、システム管理者、共有トレイ管理者、および一般ユーザの3種類に区分されます。</p> <p>管理者権限については、「10.2.1 ユーザの権限とアクセス制御」を参照してください。</p>
管理者権限	システム管理者	<p>システム全体に実行権限を持つユーザです。</p>
	共有トレイ管理者	<p>共有トレイを管理（作成、削除など）できるユーザです。</p> <p>なお、システム管理者は共有トレイ管理者の権限を持ちます。</p>
	一般ユーザ	<p>操作できる機能が最小限に制限されているユーザです。</p>
共有トレイ利用者		<p>共有トレイの案件を処理できるユーザです。</p> <p>代行者または振替作業員の代行権限を持つユーザだけが共有トレイ利用者になります。</p>

19.1.2 機能の概要（案件の振り替え機能）

案件の振り替え機能を使用して、次のとおり案件を振り替えることができます。

- 振替作業員が、利用者の持つ案件を自分またはほかのユーザに振り替える。
- システム管理者または共有トレイ管理者が、共有トレイを作成し、共有トレイ内にある案件を自分またはほかのユーザに振り替える。

案件の振り替え機能の概要を次の表に示します。

表 19-2 案件の振り替え機能の概要

機能	概要
代行者または振替作業者の設定	利用者は、自分の案件を代わりに処理する代行者または振替作業者を設定できます。 利用者が所属する組織およびその配下の組織の中で、代行者または振替作業者の代行権限を持つユーザを選択できます。
代行案件の処理	代行者は、振り替えられた案件を処理できます。 案件が振り替えられると、代行者の受信ボックスに案件が表示されます。
案件の振り替え*	代行者は、利用者の案件を自分に振り替えることができます。 また、振替作業者は、案件の作業をほかのユーザや自分に振り替えることができます。
共有トレイの作成	システム管理者および共有トレイ管理者は、指定した組織に共有トレイを作成できます。
作業の分担	共有トレイ利用者は、共有トレイにある案件をほかのユーザに振り替えることができます。 共有トレイは、登録された共有トレイ利用者だけが利用できます。

注※

次の状態のときに案件を振り替えると、振り替え前と振り替え後のユーザが同じ案件に対して処理可能な状態となります。

- 振り替え前のユーザが、該当案件を受信ボックスに表示している状態
- 振り替え前のユーザが、該当案件の帳票を開いている状態

このとき、振り替え前と振り替え後のユーザが同じ案件を同時に処理すると、先に案件を処理したユーザが処理したものとして扱われ、あとで処理しようとしたユーザはエラーとなります。

19.1.3 代行権限と案件の振り替え機能の関係

ユーザが持つ代行権限と案件の振り替え機能の関係を次の表に示します。

表 19-3 代行権限と案件の振り替え機能

案件の振り替え機能	代行権限		
	振替作業者	代行者	利用者
利用者の持つ案件を自分に振り替えることができる。	○	○	×
利用者の持つ案件をほかのユーザに振り替えることができる。	○	×	×
共有トレイ利用者になることができる。	○*	○*	×
共有トレイに届いた案件を自分に振り替えることができる。	○	○	×
共有トレイに届いた案件をほかのユーザに振り替えることができる。	○	×	×

(凡例)

- ：できます。
- ×：できません。

注※

システム管理者または共有トレイ管理者によって、共有トレイ利用者として設定される必要があります。

19.2 案件の振り替え機能を使用するための環境設定

案件の振り替え機能を使用するための環境設定について説明します。

案件の振り替え機能を使用するためには、次の準備が必要です。

1. データベースで、代行者管理テーブル (BLC_AGENT_INFO_T テーブル) を定義します。
2. ユーザに代行権限を設定します。

また、案件の振り替え機能を使用しない場合は、メニューポートレットとワークフローメニュータブのカスタマイズが必要です。

19.2.1 代行権限の設定

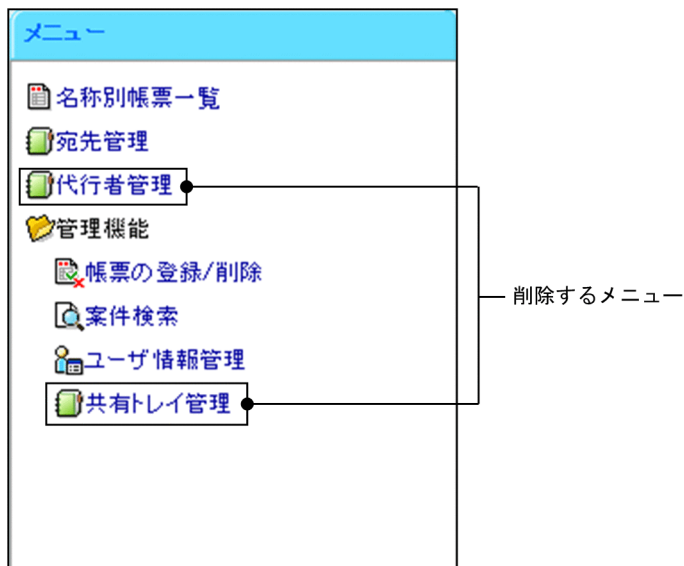
ユーザにそれぞれ代行権限を設定してください。代行権限については、「10.2.1(2) 代行権限で制御できること」を参照してください。

19.2.2 メニューポートレットのカスタマイズ

[代行者管理] メニューは [代行者一覧] 画面、[共有トレイ管理] メニューは [共有トレイ管理] 画面を表示するためのメニューです。

案件の振り替え機能を使用しない場合は、BLCMenu.jsp ファイルをカスタマイズしてメニューポートレットから [代行者管理] メニューおよび [共有トレイ管理] メニューを削除します。

カスタマイズによって削除される [代行者管理] メニューおよび [共有トレイ管理] メニューを次の図に示します。



BLCMenu.jsp ファイルのカスタマイズについて説明します。

ログインユーザの管理者権限を識別する設定の削除

ログインユーザの管理者権限を識別する設定を削除する実装例を次に示します。斜体部分の処理をコメントにすることで削除できます。


```
        :
final boolean sysAuthFlag = auth.isAdminAuthSystem(userInfo.item("blc_us_nuadminauth"));
final boolean formCtlFlag =
auth.isFormCtrlGroup(userInfo.item("blc_us_cdbelong"), userInfo.item("blc_us_cdjobt"));
//システム管理者か共有トレイ管理者の場合にtrueを返す。
//final boolean sysAndShareFlag = auth.isAdminAuthShare(userInfo.item("blc_us_nuadminauth"));
String simpleFormProp = BLCPProperty.getProperty(BLCPProperty.KEY_SIMPLEFORMUSE);
boolean simpleFormFlag = false;
        :
```

JavaScript の設定

[代行者管理] メニューおよび [共有トレイ管理] メニューを削除する JavaScript の実装例を次に示します。[代行者管理] メニューの処理および [共有トレイ管理] メニューの処理をコメントにすることで削除できます。

```

:
<%=
var blc_mp_agent_win = null;
function blc_mp_AgentList() {
    if (blc_mp_agent_win == null || blc_mp_agent_win.closed) {
        document.blc_mp_form.method="post";
        document.blc_mp_form.target="_blcagentlist";
        document.blc_mp_form.action="<%=blcDisUtil.getJSPPath("
BLCWAgentChoiceFrame.jsp")%>";
        blc_mp_agent_win =
window.open("<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCblank.html")%>", "_blcagentlist",
"menubar=no, location=no, status=yes, scrollbars=yes, resizable=yes, width=650, hei
ght=450");
        document.blc_mp_form.submit();
    } else {
        alert("<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BLC_WINDOWOPEN_
ERROR_MESSAGE)%>");
        try {
            blc_mp_agent_win.focus();
        } catch (e) {}
    }
    return false ;
}
--%>
<%=
<%if (sysAndShareFlag) {%>
var blc_mp_share_win = null;
function blc_mp_share() {
    if (blc_mp_share_win == null || blc_mp_share_win.closed) {
        document.blc_mp_form.method="post";
        document.blc_mp_form.target="_blcshareform";
        document.blc_mp_form.action="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCShareTrayFrame.jsp"
) %>";
        blc_mp_share_win
=window.open("<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCblank.html")%>", "_blcshareform",
"menubar=no, location=no, status=yes, scrollbars=yes, resizable=yes, width=1000, he
ight=700");
        document.blc_mp_form.submit();
    } else {
        alert("<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.BLC_WINDOWOPEN_
ERROR_MESSAGE)%>");
        try {
            blc_mp_share_win.focus();
        } catch (e) {}
    }
    return false ;
}
<%}%>
--%>
:

```

メニューの設定

メニューポートレットから [代行者管理] メニューおよび [共有トレイ管理] メニューを削除する実装例を次に示します。[代行者管理] メニューの処理および [共有トレイ管理] メニューの処理をコメントにすることで削除できます。

```

:
<!-- AgentList -->
<!--
<div class="blc_mp_normal1"
onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover1');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal1');" onclick="blc_mp_AgentList();
return false;">
<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.MP_ADMAGENT)%>
</div>
-->
:
:
<!-- ShareTray -->
<!--
<%if(sysAndShareFlag) {%>
<div class="blc_mp_normal2"
onmouseover="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_mouseover2');"
onmouseout="blc_mp_changeClass(this,'blc_mp_normal2');" onclick="blc_mp_share();
return false;">
<%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.SHARE_TRAY_MANAGE_TITLE)%>
</div>
<%%>
-->
:

```

実装例のタグについては、「5.3.2(3) メニューの追加」を参照してください。

19.2.3 ワークフローメニュータブのカスタマイズ

[受信ボックス (代行)] タブおよび [受信ボックス (共有トレイ)] タブは、ワークフローポートレットの表示領域に次の画面を表示するために選択するタブです。

- [受信ボックス (代行)] タブ: [代行依頼者一覧] 画面
- [受信ボックス (共有トレイ)] タブ: [共有トレイ一覧] 画面

案件の振り替え機能を使用しない場合は、BLCWorkflowMenu.jsp ファイルをカスタマイズしてワークフローメニュータブから [受信ボックス (代行)] タブおよび [受信ボックス (共有トレイ)] タブを削除します。

カスタマイズによって削除されるワークフローメニュータブの [受信ボックス (代行)] タブおよび [受信ボックス (共有トレイ)] タブを次の図に示します。



ワークフローメニュータブから [受信ボックス (代行)] タブおよび [受信ボックス (共有トレイ)] タブを削除する実装例を次に示します。[受信ボックス (代行)] タブおよび [受信ボックス (共有トレイ)] タブの処理をコメントにすることで削除できます。

```

:
<%--
<div id="blc_menu_acting" class="blc_menu_clickable">
<a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLActing.jsp")%">" target="blc_wf_iframe"
class="blc_menu_clickable"
onclick="blc_tabChange(' blc_menu_acting ');"><%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_TITLE
_NAME) + "(" + BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.ACTING_LIST_ITEM_TITLE_PARTS_1) +
")" %></a>
</div>
<div id="blc_menu_sharing" class="blc_menu_clickable">
<a href="<%=blcDisUtil.getJSPPath("BLCLSharingTray.jsp")%">" target="blc_wf_iframe"
class="blc_menu_clickable"
onclick="blc_tabChange(' blc_menu_sharing ');"><%=BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.INBOX_TITL
E_NAME) + "(" + BLCSTRPortal.get(BLCSTRPortal.ACTING_LIST_ITEM_TITLE_PARTS_2) +
")" %></a>
</div>
--%>
:

```

[受信ボックス (共有トレイ)] タブ

[受信ボックス (代行)] タブ

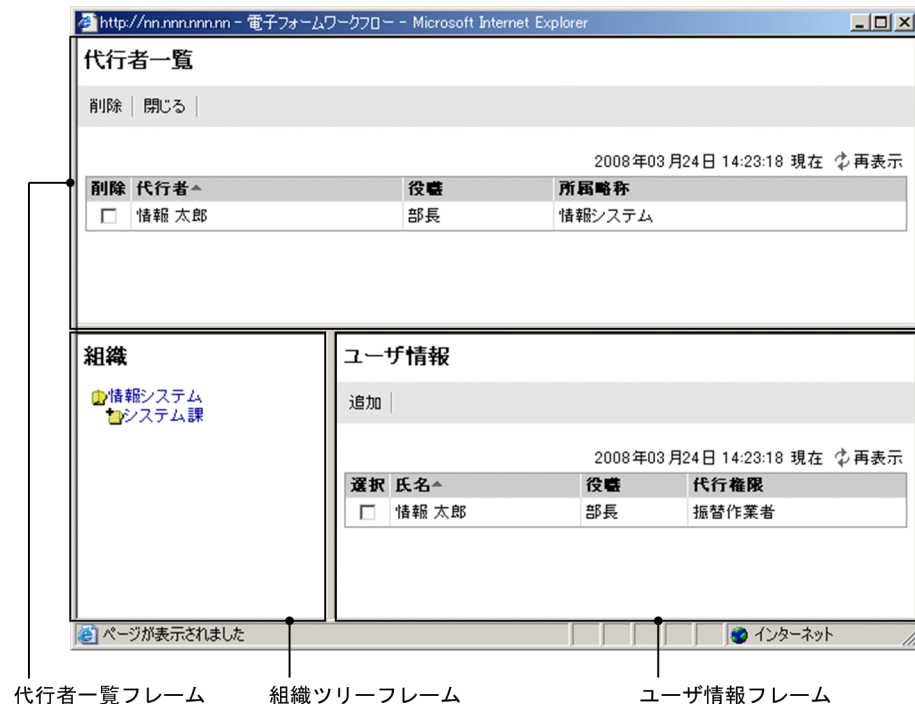
19.3 画面の構成（案件の振り替え）

案件の振り替え機能で使用する画面の構成を説明します。

19.3.1 【代行者一覧】画面の構成

代行者を追加および削除する【代行者一覧】画面の構成を説明します。

【代行者一覧】画面を次に示します。



【代行者一覧】画面は、次の要素から構成されます。

- 代行者一覧フレーム
登録されている代行者の一覧が表示されます。
代行者一覧フレームで、代行者一覧からユーザを削除できます。
- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- ユーザ情報フレーム
組織ツリーフレームで選択した組織の振替業者または代行者の一覧が表示されます。ユーザ情報フレームで、代行者一覧にユーザを追加できます。

(1) 代行者一覧フレームの構成

代行者一覧フレームの構成を説明します。

【削除】メニュー

代行者から削除したいユーザのチェックボックスをオンにして【削除】メニューをクリックすると、選択したユーザが代行者から削除されます。

削除が成功すると、[代行者一覧] 画面が更新されます。

[閉じる] メニュー

[代行者一覧] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

代行者の一覧

ログインユーザが代行者として設定しているユーザの一覧が表示されます。

なお、一覧に表示される代行者は代行者管理テーブル (BLC_AGENT_INFO_T テーブル) に登録されている情報です。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは代行者でソートされます。

[削除] チェックボックス

代行者から削除するユーザを選択するか、または選択を解除します。

代行者

代行者の氏名が表示されます。

役職

代行者の役職が表示されます。

所属略称

代行者が所属する組織の略称が表示されます。

(2) 組織ツリーフレームの構成 ([代行者一覧] 画面)

組織ツリーフレームの構成を説明します。

ログインユーザが所属する組織、およびその配下に位置する組織だけが表示されます。

デフォルトでは、ログインユーザの所属組織が表示されます。

フォルダアイコン

組織ツリーフレームで、組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、画面の表示が次のように変わります。

- 組織ツリーフレーム：選択した組織の下位階層が表示されます。
- ユーザ情報フレーム：選択した組織に所属する振替作業員または代行者の一覧が表示されます。

(3) ユーザ情報フレームの構成 ([代行者一覧] 画面)

ユーザ情報フレームの構成を説明します。

[追加] メニュー

[選択] チェックボックスをオンにし、[追加] メニューをクリックすると、選択したユーザを代行者に追加します。代行者を追加すると、[代行者一覧] 画面が更新されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

ユーザ情報の一覧

組織ツリーフレームで選択した組織に所属する振替作業員または代行者の一覧が表示されます。

なお、選択した組織に振替作業員または代行者が存在しない場合、画面に「代行権限を持つユーザが存在しません」と表示されます。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは氏名でソートされます。

[選択] チェックボックス

代行者に追加するユーザを選択するか、または選択を解除します。

氏名

組織ツリーフレームで選択した組織に所属している、振替作業員または代行者の氏名が表示されます。

役職

ユーザの役職名が表示されます。

代行権限

ユーザの代行権限が表示されます。

19.3.2 [代行依頼者一覧] 画面の構成

代行依頼者が表示される [代行依頼者一覧] 画面の構成を説明します。

[代行依頼者一覧] 画面を次に示します。



[代行依頼者一覧] 画面の構成を説明します。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

代行依頼者の一覧

代行依頼者の一覧が表示されます。

なお、案件を代行する権限を持たないユーザが [代行依頼者一覧] 画面を開いた場合、画面に「代行権限がありません」と表示されます。

表示項目名 (リストの列の内容を示すラベル) のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは代行依頼者でソートされます。

代行依頼者

代行依頼者の氏名が表示されます。

代行依頼者のアンカーをクリックすると、[案件振替] 画面 (選択した代行依頼者の [受信ボックス] 画面) が表示されます。

役職

代行依頼者の役職が表示されます。

所属略称

代行依頼者が所属する組織の略称が表示されます。

19.3.3 [案件振替] 画面の構成

案件の振り替えが実行できる [案件振替] 画面の構成を説明します。

[案件振替] 画面を次に示します。

<input type="checkbox"/>	申請ID	作業名	業務名称	到着日時
<input type="checkbox"/>	0000002	承認	連絡票	2008/12/18 12:55:30
<input type="checkbox"/>	0000003	部教育委員	社内英語検定申し込み	2008/12/18 12:53:06
<input type="checkbox"/>	0000001	受付	販売契約稟議EUR	2008/12/18 12:46:03

[案件振替] 画面の構成を説明します。

[振替先選択] メニュー

別ウィンドウにユーザ選択画面が表示されます。ユーザ選択画面で振り替え先のユーザを選択できます。

なお、[振替先選択] ボタンは、ログインユーザの代行権限が振替作業者の場合だけ表示されます。

[振替] メニュー

振り替えたい案件のチェックボックスをオンにして [振替] メニューをクリックすると、案件が代行者またはログインユーザに振り替えられます。

なお、案件が存在しない場合は [振替] メニューは表示されません。

[戻る] メニュー

前画面 ([代行依頼者一覧] 画面または [共有トレイ一覧] 画面) に戻ります。

振替先

ログインユーザが振替作業者の場合、ユーザ選択画面で選択したユーザの氏名が振替先に表示されます。

ログインユーザが代行者の場合、ログインユーザの氏名が振替先に表示されます。この場合、振替先は変更できません。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

l：表示ページの先頭の作業が何件目かが表示されます。

n：表示ページの最後の作業が何件目かが表示されます。

m：全体の作業の件数が表示されます。

次頁

表示されている一覧の次のページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

一覧の最終ページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

案件の一覧

代行依頼者の案件の一覧が表示されます。

1 ページに表示される案件の件数は、デフォルトで最大 50 件です。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは到着日時でソートされます。また、指定した作業（テンプレートでは実行ユーザ）の作業が、CSCIW の作業属性に 150 件以上ある場合は、ソートの結果が不正となる項目があります。

チェックボックス

振り替える案件を選択するか、または選択を解除します。

なお、ヘッダのチェックボックスをクリックすると、すべての案件を一括で選択するか、または一括で選択を解除できます。

また、画面遷移や一覧のソートを行うと、チェックボックスの選択はすべてクリアされます。

申請 ID

案件の申請 ID が表示されます。

作業名

案件の作業名が表示されます。

業務名称

案件の業務名称が表示されます。

到着日時

案件が到着した日時が表示されます。

！ 注意事項

一度に表示できる案件数のデフォルト値を変更したい場合は、BLCLActingItem.jsp をカスタマイズしてください。

19.3.4 [共有トレイ一覧] 画面の構成

ログインユーザが利用できるトレイが表示される [共有トレイ一覧] 画面の構成を説明します。

[共有トレイ一覧] 画面を次に示します。



[共有トレイ一覧] 画面の構成を説明します。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

なお、[再表示] メニューは日時表示の横にも表示されます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

共有トレイの一覧

ログインユーザが利用できる共有トレイの一覧が表示されます。また、振替作業者の代行権限を持つユーザの場合、所属する組織の共有トレイも表示されます。

なお、案件を代行する権限を持たないユーザが [共有トレイ一覧] 画面を開いた場合、画面に「代行権限がありません」と表示されます。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは共有トレイ名でソートされます。

共有トレイ名

共有トレイ名が表示されます。

共有トレイ名のアンカーをクリックすると、[案件振替]画面（選択した共有トレイの[受信ボックス]画面）が表示されます。

所属略称

共有トレイを共有する組織の略称が表示されます。

19.3.5 [共有トレイ管理] 画面の構成

システム管理者または共有トレイ管理者が管理できる [共有トレイ管理] 画面の構成を説明します。

共有トレイの管理はシステム管理者または共有トレイ管理者だけが実行できます。なお、システム管理者または共有トレイ管理者は、所属組織およびその配下にあるすべての共有トレイを管理できます。

[共有トレイ管理] 画面を次に示します。



[共有トレイ管理] 画面は、次の要素から構成されます。

- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- 共有トレイ一覧フレーム
組織ツリーフレームで選択した組織の共有トレイの一覧が表示されます。

(1) 組織ツリーフレームの構成（[共有トレイ管理] 画面）

組織ツリーフレームの構成を説明します。

フォルダアイコン

ログインユーザの管理者権限によって、次に示す組織が表示されます。

- システム管理者の場合：すべての組織
- 共有トレイ管理者の場合：ログインユーザの所属組織およびその配下の組織

なお、組織ツリーフレームで組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、画面の表示が次のように変わります。

- 組織ツリーフレーム：選択した組織の下位階層が表示されます。
- 共有トレイ一覧フレーム：選択した組織に所属する共有トレイの一覧が表示されます。

(2) 共有トレイ一覧フレームの構成

共有トレイ一覧フレームの構成を説明します。

[共有トレイ追加] メニュー

[共有トレイ登録] 画面が表示されます。

[更新] メニュー

[変更] チェックボックスで選択した共有トレイの変更内容が、ユーザ情報テーブル（BLC_USER_INFO_T テーブル）に登録されます。

また、[削除] チェックボックスで選択した共有トレイがユーザ情報テーブルおよび代行者管理テーブルから削除されます。

なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[閉じる] メニュー

[共有トレイ管理] 画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

先頭

一覧の先頭ページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

前頁

表示されている一覧の一つ前のページが表示されます。

先頭ページが表示されている場合は選択できません。

l-n/m

l：表示ページの先頭の共有トレイが何個目かが表示されます。

n：表示ページの最後の共有トレイが何個目かが表示されます。

m：全体の共有トレイの数が表示されます。

次頁

表示されている一覧の次のページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

最終

一覧の最終ページが表示されます。

最終ページが表示されている場合は選択できません。

共有トレイの一覧

ログインユーザが管理できる共有トレイの一覧が表示されます。

1 ページに表示される共有トレイの件数は、デフォルトで最大 50 件です。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1 件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは共有トレイ ID でソートされます。

[削除] チェックボックス

削除する共有トレイを選択するか、または選択を解除します。

[変更] チェックボックス

変更する共有トレイを選択するか、または選択を解除します。

共有トレイ ID

共有トレイの ID が表示されます。

共有トレイ ID のアンカーをクリックすると、[共有トレイ更新] 画面が表示されます。

[共有トレイ名] テキストボックス

登録されている共有トレイのトレイ名が表示されます。

共有トレイ名は変更できます。全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[役職] ドロップダウンリスト

共有トレイに設定されている役職が表示されます。

役職はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

共有トレイを共有する組織の略称が表示されます。

所属略称はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

なお、リストには、ログインユーザの管理者権限によって次の組織が表示されます。

システム管理者：すべての組織

共有トレイ管理者：所属組織およびその配下の組織

ユーザ設定の [設定] ボタン

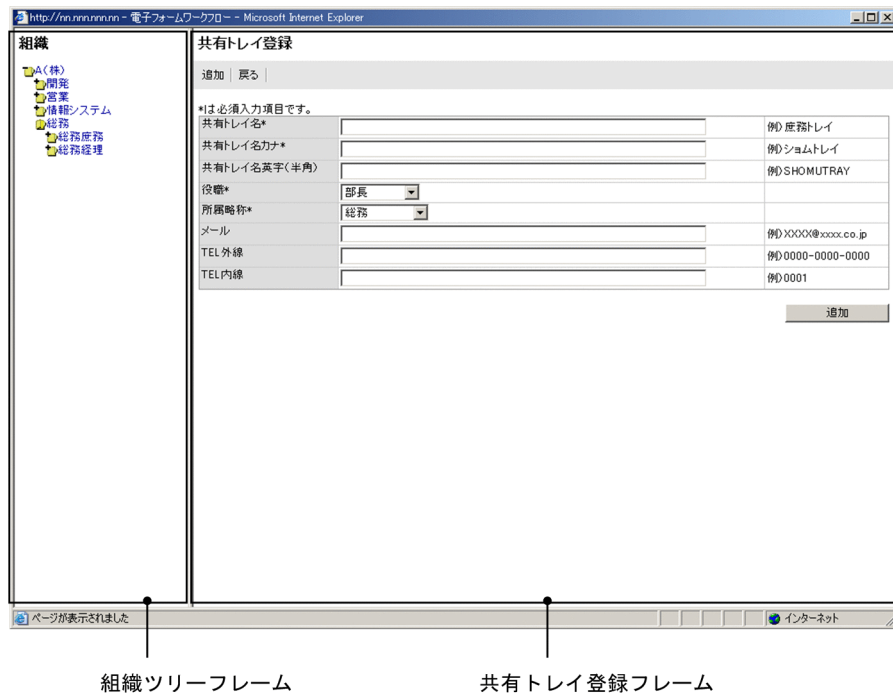
[共有トレイ利用者一覧] 画面が表示されます。

[共有トレイ利用者一覧] 画面で、共有トレイの利用者を選択できます。

19.3.6 [共有トレイ登録] 画面の構成

共有トレイを新規作成できる [共有トレイ登録] 画面の構成を説明します。

[共有トレイ登録] 画面を次に示します。



【共有トレイ登録】画面は、次の要素から構成されます。

- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- 共有トレイ登録フレーム
共有トレイを新規作成する画面が表示されます。

(1) 組織ツリーフレームの構成（【共有トレイ登録】画面）

組織ツリーフレームで組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、【共有トレイ管理】画面が表示されます。

組織ツリーフレームの構成は、「19.3.5(1) 組織ツリーフレームの構成（【共有トレイ管理】画面）」を参照してください。

(2) 共有トレイ登録フレーム

共有トレイ登録フレームの構成を説明します。

【追加】メニュー

設定した共有トレイをユーザ情報テーブルに登録します。
なお、【追加】メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

【戻る】メニュー

【共有トレイ管理】画面に戻ります。

新規共有トレイの入力項目

【共有トレイ名】テキストボックス

追加したい共有トレイのトレイ名を入力します。
全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[共有トレイ名カナ] テキストボックス

追加したい共有トレイ名のかたかな名を入力します。
全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[共有トレイ名英字 (半角)] テキストボックス

追加したい共有トレイ名の英字名を入力します。
半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[役職] ドロップダウンリスト

共有トレイに設定する役職をドロップダウンリストから選択します。
デフォルトでは、ログインユーザの役職が表示されます。
ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

共有トレイを共有する組織をドロップダウンリストから選択します。
デフォルトでは、ログインユーザが所属する組織の所属略称が表示されます。
なお、リストには、ログインユーザの管理者権限によって次の組織が表示されます。
システム管理者：すべての組織
共有トレイ管理者：所属組織およびその配下の組織

[メール] テキストボックス

追加したい共有トレイのメールアドレスを入力します。
半角 128 文字以下の英数字で入力してください。

[TEL 外線] テキストボックス

追加したい共有トレイの電話番号（外線）を入力します。
半角 128 文字以下で入力してください。

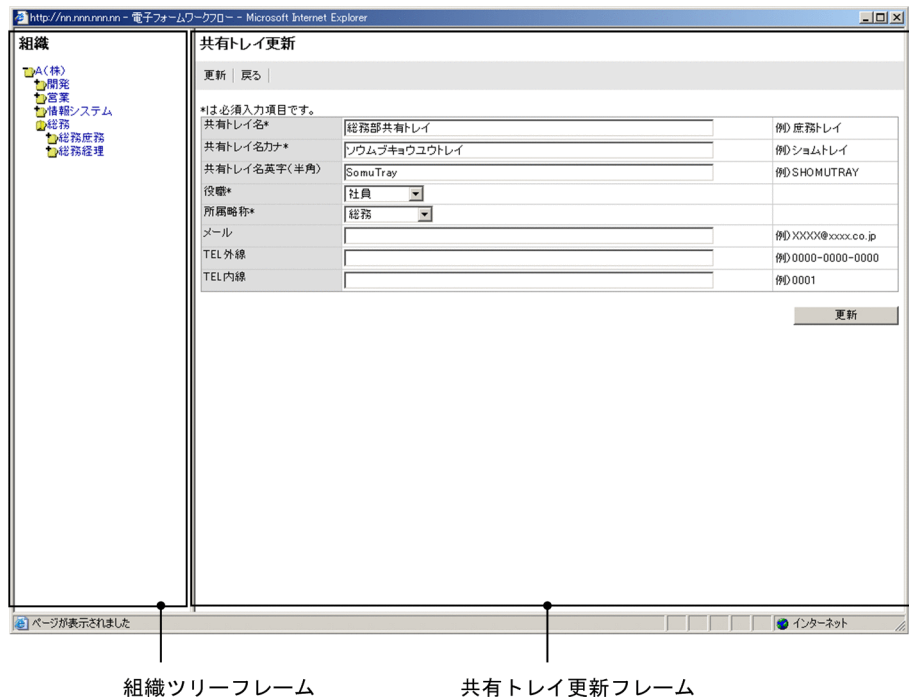
[TEL 内線] テキストボックス

追加したい共有トレイの電話番号（内線）を入力します。
半角 128 文字以下で入力してください。

19.3.7 [共有トレイ更新] 画面の構成

共有トレイの情報を更新できる [共有トレイ更新] 画面の構成を説明します。

[共有トレイ更新] 画面を次に示します。



[共有トレイ更新] 画面は、次の要素から構成されます。

- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- 共有トレイ更新フレーム
[共有トレイ管理] 画面で選択した共有トレイの情報が表示されます。

(1) 組織ツリーフレームの構成 ([共有トレイ更新] 画面)

組織ツリーフレームで組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、[共有トレイ管理] 画面が表示されます。

組織ツリーフレームの構成は、「19.3.5(1) 組織ツリーフレームの構成 ([共有トレイ管理] 画面)」を参照してください。

(2) 共有トレイ更新フレーム

共有トレイ更新フレームの構成を説明します。

[更新] メニュー

更新した共有トレイをユーザ情報テーブルに登録します。
なお、[更新] メニューは画面の下部にもボタンとして表示されます。

[戻る] メニュー

[共有トレイ管理] 画面に戻ります。

共有トレイの入力項目

[共有トレイ名] テキストボックス

選択した共有トレイのトレイ名が表示されます。
共有トレイ名は変更できます。全角 20 文字以下の文字列で入力してください。

[共有トレイ名カナ] テキストボックス

選択した共有トレイのかたかな名が表示されます。

共有トレイ名カナは変更できます。全角 20 文字以下のかたかなで入力してください。

[共有トレイ名英字 (半角)] テキストボックス

選択した共有トレイの英字名が表示されます。

共有トレイ名英字 (半角) は変更できます。半角 62 文字以下の英字で入力してください。

[役職] ドロップダウンリスト

選択した共有トレイに設定されている役職の略称が表示されます。

役職はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

ドロップダウンリストに表示される「役職」とは、[役職登録] 画面で登録された役職略称の一覧です。

[所属略称] ドロップダウンリスト

選択した共有トレイを共有する組織の所属略称が表示されます。

所属略称はドロップダウンリストから選択し、変更できます。

なお、リストには、ログインユーザの管理者権限によって次の組織が表示されます。

システム管理者：すべての組織

共有トレイ管理者：所属組織およびその配下の組織

[メール] テキストボックス

選択した共有トレイのメールアドレスが表示されます。

メールアドレスは変更できます。半角 128 文字以下の英数字で入力してください。

[TEL 外線] テキストボックス

選択した共有トレイの電話番号 (外線) が表示されます。

電話番号 (外線) は変更できます。半角 128 文字以下で入力してください。

[TEL 内線] テキストボックス

選択した共有トレイの電話番号 (内線) が表示されます。

電話番号 (内線) は変更できます。半角 128 文字以下で入力してください。

19.3.8 [共有トレイ利用者一覧] 画面の構成

[共有トレイ利用者一覧] 画面は、[共有トレイ管理] 画面でユーザ設定の [設定] ボタンをクリックすることで表示されます。

共有トレイの利用者が表示される [共有トレイ利用者一覧] 画面の構成を説明します。

[共有トレイ利用者一覧] 画面を次に示します。



共有トレイ利用者一覧 フレーム 組織ツリーフレーム ユーザ情報フレーム

[共有トレイ利用者一覧] 画面は、次の要素から構成されます。

- 共有トレイ利用者一覧フレーム
登録されている共有トレイ利用者の一覧が表示されます。
- 組織ツリーフレーム
組織が階層で表示されます。
- ユーザ情報フレーム
組織ツリーフレームで選択した組織の振替業者または代行者の一覧が表示されます。ユーザ情報フレームで、共有トレイ利用者一覧にユーザを追加できます。

(1) 共有トレイ利用者一覧フレームの構成

共有トレイ利用者一覧フレームの構成を説明します。

[削除] メニュー

共有トレイ利用者から削除したいユーザのチェックボックスをオンにして [削除] メニューをクリックすると、選択したユーザが共有トレイ利用者から削除されます。

削除が成功すると、[共有トレイ利用者一覧] 画面が更新されます。

[戻る] メニュー

[共有トレイ管理] 画面に戻ります。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

共有トレイ利用者の一覧

[共有トレイ管理] 画面で選択した共有トレイの利用者の一覧が表示されます。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは共有トレイ利用者名でソートされます。

[削除] チェックボックス

共有トレイ利用者から削除するユーザを選択するか、または選択を解除します。

共有トレイ利用者名

共有トレイ利用者の氏名が表示されます。

役職

共有トレイ利用者の役職が表示されます。

所属略称

共有トレイ利用者が所属する組織の略称が表示されます。

(2) 組織ツリーフレームの構成（[共有トレイ利用者一覧] 画面）

組織ツリーフレームの構成を説明します。

フォルダアイコン

ログインユーザの管理者権限によって、次に示す組織が表示されます。

- システム管理者の場合：すべての組織
- 共有トレイ管理者の場合：ログインユーザの所属組織およびその配下の組織

なお、組織ツリーフレームで組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、画面の表示が次のように変わります。

- 組織ツリーフレーム：選択した組織の下位階層が表示されます。
- ユーザ情報フレーム：選択した組織に所属する振替作業員または代行者の一覧が表示されます。

(3) ユーザ情報フレームの構成（[共有トレイ利用者一覧] 画面）

ユーザ情報フレームの構成を説明します。

[追加] メニュー

[選択] チェックボックスをオンにし、[追加] メニューをクリックすると、選択したユーザを共有トレイ利用者に追加します。共有トレイ利用者を追加すると、[共有トレイ利用者一覧] 画面が更新されません。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

[再表示] メニュー

画面を最新の情報に更新します。

ユーザ情報の一覧

組織ツリーフレームで選択した組織に所属する振替作業員または代行者の一覧が表示されます。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは氏名でソートされます。

[選択] チェックボックス

共有トレイ利用者に追加するユーザを選択するか、または選択を解除します。

氏名

組織ツリーフレームで選択した組織に所属している、振替業者または代行者の氏名が表示されます。

役職

ユーザの役職名が表示されます。

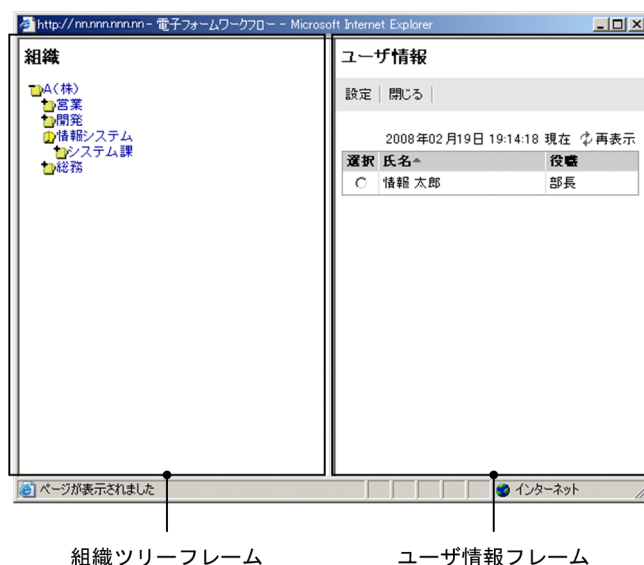
代行権限

ユーザの代行権限が表示されます。

19.3.9 ユーザ選択画面の構成

[案件振替] 画面で [振替先選択] ボタンをクリックした場合など、ユーザを一人だけ選択する場合に利用するユーザ選択画面の構成について説明します。

ユーザ選択画面を次に示します。



ユーザ選択画面は、次の要素から構成されます。

- 組織ツリーフレーム
すべての組織が階層で表示されます。
- ユーザ情報フレーム
組織ツリーフレームで選択した組織に所属するすべてのユーザの一覧が表示されます。ユーザ情報フレームで、ユーザを選択できます。

(1) 組織ツリーフレームの構成（ユーザ選択画面）

組織ツリーフレームの構成を説明します。

ユーザ選択画面の組織ツリーフレームには、すべての組織が表示されます。

デフォルトでは、ログインユーザの所属組織が表示されます。

フォルダアイコン

組織ツリーフレームで、組織名またはフォルダアイコンをクリックすると、画面の表示が次のように変わります。

- 組織ツリーフレーム：選択した組織の下位階層が表示されます。
- ユーザ情報フレーム：選択した組織に所属するすべてのユーザの一覧が表示されます。

(2) ユーザ情報フレームの構成（ユーザ選択画面）

ユーザ情報フレームの構成を説明します。

【設定】メニュー

【選択】 ラジオボタンで選択したユーザが設定されます。

【閉じる】メニュー

ユーザ選択画面が閉じます。

YYYY年MM月DD日 hh:mm:ss 現在

画面を表示した日時が表示されます。

【再表示】メニュー

画面を最新の情報に更新します。

ユーザの一覧

組織ツリーフレームの組織のアンカーをクリックすることで、選択した組織に所属するすべてのユーザが表示されます。

デフォルトでは、ログインユーザが所属する組織のすべてのユーザが表示されます。

表示項目名（リストの列の内容を示すラベル）のアンカーをクリックすると、その表示項目の内容をキーとして、一覧がソートされ、1件目から表示されます。キーとされている項目には、項目名の横に次のシンボルが表示されます。

△：昇順で表示されている場合

▽：降順で表示されている場合

なお、デフォルトでは氏名でソートされます。

【選択】 ラジオボタン

ユーザを選択します。

氏名

ユーザの氏名または共有トレイ名が表示されます。

役職

ユーザの役職、または共有トレイに設定されている役職が表示されます。

19.4 操作手順（案件の振り替え）

案件の振り替え機能の操作手順を説明します。

19.4.1 代行者または振替作業者の設定

代行者または振替作業者を追加および削除する操作の手順を説明します。

なお、代行者または振替作業者のどちらに設定されるかは、ユーザが持つ代行権限に依存します。

(1) 操作手順

1. メニューポートレットで [代行者管理] メニューをクリックします。

別ウィンドウに [代行者一覧] 画面が表示されます。

2. 代行者または振替作業者を追加および削除します。

代行者または振替作業者の追加については「(a) 代行者または振替作業者の追加」、削除については「(b) 代行者または振替作業者の削除」を参照してください。

(a) 代行者または振替作業者の追加

代行者または振替作業者を追加する手順を説明します。

操作手順

1. 組織ツリーフレームで、組織を選択します。

選択した組織に所属する振替作業者または代行者が、ユーザ情報フレームに表示されます。

2. ユーザ情報フレームで、追加したいユーザの [選択] チェックボックスをオンにします。

ユーザは複数選択できます。

3. ユーザ情報フレームの [追加] メニューをクリックします。

代行者または振替作業者が代行者管理テーブルに登録され、[代行者一覧] 画面が更新されます。

(b) 代行者または振替作業者の削除

代行者または振替作業者を削除する手順を説明します。

操作手順

1. 代行者一覧フレームで、削除するユーザの [削除] チェックボックスをオンにします。

ユーザは複数選択できます。

2. [削除] メニューをクリックします。

削除を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

選択した代行者または振替作業者が代行者管理テーブルから削除され、[代行者一覧] 画面が更新されます。

(2) 注意事項

- チェックボックスを選択していない状態で [追加] メニューまたは [削除] メニューをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。

- ユーザ管理機能を使用して削除されたユーザは、代行者管理テーブルからも削除されるため、[代行者一覧] 画面には表示されません。
- 次に示す状態のユーザはユーザ情報テーブルに情報は存在しますが、[代行者一覧] 画面には表示されません。
 - SQL 文で削除されたユーザ
 - ログイン可否のステータスが「不可」に設定されたユーザ
 - 代行権限が「利用者」に設定されたユーザ

19.4.2 代行案件の処理

代行を依頼されている案件を処理する操作の手順を説明します。

(1) 操作手順

1. ワークフローポートレットで [受信ボックス] タブをクリックします。
[受信ボックス (業務別件数)] 画面が表示されます。
2. 案件を表示します。
次に示す方法で案件を表示できます。
 - [全件表示] メニューをクリックする
すべての案件が表示されます。
 - [申請 ID] テキストボックスに申請 ID を指定し、検索する
指定した案件が表示されます。
 - 業務名称のアンカーをクリックする
選択した業務の案件が表示されます。
3. 処理する案件の申請 ID のアンカーをクリックします。
選択した案件の [案件履歴] 画面が表示されます。
4. 案件を処理します。

19.4.3 代行依頼者の案件の振り替え

代行依頼者の案件を振り替える操作の手順を説明します。

代行者は案件を自分に振り替えることができます。また、振替作業者は案件を自分またはほかのユーザに振り替えることができます。

(1) 操作手順

1. ワークフローポートレットの [受信ボックス (代行)] タブをクリックします。
[代行依頼者一覧] 画面が表示されます。
2. 代行依頼者のアンカーをクリックします。
[案件振替] 画面が表示されます。[案件振替] 画面には、選択した代行依頼者の案件が表示されます。
3. 処理する案件のチェックボックスをオンにします。
案件は複数選択できます。
代行権限が代行者の場合は操作 8.へ進んでください。
代行権限が振替作業者の場合は次の操作へ進んでください。

4. [振替先選択] メニューをクリックします。
別ウィンドウにユーザ選択画面が表示されます。
5. ユーザ選択画面の組織ツリーフレームで、組織を選択します。
選択した組織に所属するユーザが、ユーザ情報フレームに表示されます。
6. ユーザ情報フレームで、案件を振り替えたいユーザの [選択] ラジオボタンをオンにします。
ユーザは一人しか選択できません。なお、ログインユーザ自身を選択することもできます。
7. [設定] メニューをクリックします。
振替先に指定したユーザが、[案件振替] 画面の振替先に表示されます。
8. [振替] メニューをクリックします。
選択した案件が振り替えられます。

(2) 注意事項

次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。

- チェックボックスを選択していない状態で [振替] メニューをクリックした場合
- 振替先を選択していない状態で [振替] メニューをクリックした場合
- ユーザ選択画面で、ラジオボタンを選択していない状態で [設定] メニューをクリックした場合
- 遷移元の [案件振替] 画面を閉じたり、ほかの画面に遷移させたりしたあとで、ユーザ選択画面の [設定] メニューをクリックした場合

19.4.4 共有トレイの案件の振り替え

共有トレイにある案件をほかのユーザに振り替える手順について説明します。

共有トレイ内の案件は、登録された共有トレイ利用者だけが操作できます。

(1) 操作手順

1. ワークフローポートレットの [受信ボックス (共有トレイ)] タブをクリックします。
[共有トレイ一覧] 画面が表示されます。[共有トレイ一覧] 画面には、ログインユーザが利用できる共有トレイの一覧が表示されます。
2. 共有トレイ名のアンカーをクリックします。
[案件振替] 画面が表示されます。[案件振替] 画面には、選択した共有トレイの案件が表示されます。
3. 処理する案件のチェックボックスをオンにします。
案件は複数選択できます。
代行権限が代行者の場合は操作 8.へ進んでください。
代行権限が振替業者の場合は次の操作へ進んでください。
4. [振替先選択] メニューをクリックします。
別ウィンドウにユーザ選択画面が表示されます。
5. ユーザ選択画面の組織ツリーフレームで、組織を選択します。
選択した組織に所属するユーザが、ユーザ情報フレームに表示されます。
6. ユーザ情報フレームで、案件を振り替えたいユーザの [選択] ラジオボタンをオンにします。
ユーザは一人しか選択できません。なお、ログインユーザ自身を選択することもできます。
7. [設定] メニューをクリックします。

振替先に指定したユーザが、[案件振替] 画面の振替先に表示されます。

8. [振替] メニューをクリックします。

選択した案件が振り替えられます。

(2) 注意事項

次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。

- チェックボックスを選択していない状態で [振替] メニューをクリックした場合
- 振替先を選択していない状態で [振替] メニューをクリックした場合
- ユーザ選択画面で、ラジオボタンを選択していない状態で [設定] メニューをクリックした場合
- 遷移元の [案件振替] 画面を閉じたり、ほかの画面に遷移させたりしたあとで、ユーザ選択画面の [設定] メニューをクリックした場合

19.4.5 共有トレイの設定

共有トレイを追加，変更および削除する操作の手順を説明します。

共有トレイの作成はシステム管理者または共有トレイ管理者だけが実行できます。

(1) 操作手順

1. システム管理者または共有トレイ管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
2. メニューポートレットの [共有トレイ管理] メニューをクリックします。
別ウィンドウに、[共有トレイ管理] 画面が表示されます。
3. 共有トレイを追加，変更，および削除します。
共有トレイの追加については「(a) 共有トレイの追加」，変更については「(b) 共有トレイの変更」，削除については「(c) 共有トレイの削除」を参照してください。

(a) 共有トレイの追加

共有トレイを追加する手順を説明します。

操作手順

1. [共有トレイ追加] メニューをクリックします。

[共有トレイ登録] 画面が表示されます。

2. 登録したい共有トレイの情報を指定します。

次に示す項目は入力必須です。

- 共有トレイ名
- 共有トレイ名カナ
- 役職
- 所属略称

入力できる文字列については、「19.3.6 [共有トレイ登録] 画面の構成」を参照してください。

3. [追加] メニューをクリックします。

ユーザ情報テーブルに共有トレイが登録され、共有トレイ一覧が更新されます。

(b) 共有トレイの変更

共有トレイを変更する手順を説明します。

操作手順

1. 変更する共有トレイの [変更] チェックボックスをオンにします。
2. [共有トレイ名], [役職], および [所属略称] の設定を変更する場合, 変更内容を指定します。
入力できる文字列および選択できる値については, 「19.3.5 [共有トレイ管理] 画面の構成」を参照してください。
3. [更新] メニューをクリックします。
変更内容が更新されます。
変更内容を更新する前にユーザ設定の [設定] ボタンをクリックした場合, 画面が遷移し, 変更内容はクリアされます。
4. 共有トレイ利用者の設定を変更する場合, ユーザ設定の [設定] ボタンをクリックします。
[共有トレイ利用者一覧] 画面が表示されます。
共有トレイ利用者の追加については「19.4.6(1)(a) 共有トレイ利用者の追加」, 削除については「19.4.6(1)(b) 共有トレイ利用者の削除」を参照してください。
5. 共有トレイの詳細設定を変更する場合, [共有トレイ管理] 画面で共有トレイ ID のアンカーをクリックします。
[共有トレイ更新] 画面が表示されます。
6. 変更内容を指定します。
入力できる文字列および選択できる値については, 「19.3.7 [共有トレイ更新] 画面の構成」を参照してください。
7. [更新] メニューをクリックします。
ユーザ情報テーブルに共有トレイの変更内容が登録されます。

(c) 共有トレイの削除

共有トレイを削除する手順を説明します。

操作手順

1. 削除する共有トレイの [削除] チェックボックスをオンにします。
共有トレイは複数選択できます。
2. [更新] メニューをクリックします。
削除を確認するダイアログが表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。
選択した共有トレイがユーザ情報テーブルおよび代行者管理テーブルから削除され, [共有トレイ管理] 画面が更新されます。

(2) 注意事項

- 次の場合はエラーが表示されます。エラー表示に従って修正してください。
 - チェックボックスを選択していない状態で [更新] メニューをクリックした場合
 - [削除] および [変更] チェックボックスを両方選択している状態で [更新] メニューをクリックした場合

- 入力必須の項目が指定されていない場合
- 同じ共有トレイ名がすでに存在する場合
- 共有トレイ ID は自動的に採番されます。

19.4.6 共有トレイ利用者の設定

共有トレイ利用者を追加および削除する操作の手順を説明します。

共有トレイ利用者の設定はシステム管理者または共有トレイ管理者だけが実行できます。

(1) 操作手順

1. システム管理者または共有トレイ管理者の権限を持つユーザで、電子フォームワークフローにログインします。
2. メニューポートレットで [共有トレイ管理] メニューをクリックします。
別ウィンドウに、[共有トレイ管理] 画面が表示されます。
3. 変更する共有トレイの [設定] ボタンをクリックします。
[共有トレイ利用者一覧] 画面が表示されます。
4. 共有トレイ利用者を追加および削除します。
共有トレイ利用者の追加については「(a) 共有トレイ利用者の追加」、削除については「(b) 共有トレイ利用者の削除」を参照してください。

(a) 共有トレイ利用者の追加

共有トレイ利用者を追加する手順を説明します。

操作手順

1. [共有トレイ利用者一覧] 画面の組織ツリーフレームで、組織を選択します。
選択した組織に所属する振替業者または代行者が、ユーザ情報フレームに表示されます。
2. ユーザ情報フレームで、追加したいユーザの [選択] チェックボックスをオンにします。
ユーザは複数選択できます。
3. ユーザ情報フレームの [追加] メニューをクリックします。
共有トレイ利用者が代行者管理テーブルに登録され、[共有トレイ利用者一覧] 画面が更新されます。

(b) 共有トレイ利用者の削除

共有トレイ利用者を削除する手順を説明します。

操作手順

1. [共有トレイ利用者一覧] 画面の共有トレイ利用者一覧フレームで、削除したい共有トレイ利用者の [削除] チェックボックスをオンにします。
ユーザは複数選択できます。
2. [削除] メニューをクリックします。
削除を確認するダイアログが表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。

選択した共有トレイ利用者が代行者管理テーブルから削除され、[共有トレイ利用者一覧]画面が更新されます。

(2) 注意事項

チェックボックスを選択していない状態で [追加] メニューまたは [削除] メニューをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。

付録

付録 A 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面とダイアログ

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のメイン画面と、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能使用時に表示されるダイアログについて説明します。

付録 A.1 メイン画面

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動すると、メイン画面が表示されます。メイン画面の構成を次に示します。

【構成一覧】領域

編集中の帳票定義および帳票モジュール定義の ID が、ツリー状に表示されます。【構成一覧】領域では、帳票定義に含まれる帳票モジュールの数および名前を確認できます。

ツリーの上位に帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) が表示され、その下に帳票モジュール定義の ID (以降、帳票モジュール ID と呼びます) が表示されます。

【構成一覧】領域に表示されている帳票 ID をクリックすると、帳票定義の設定内容が、【詳細情報一覧】領域に表示されます。

帳票モジュール ID をクリックすると、帳票モジュール定義の設定内容が、【詳細情報一覧】領域に表示されます。

【構成一覧】領域に表示されている帳票 ID をダブルクリックすると、【帳票定義】画面が表示されます。【帳票定義】画面では、帳票定義の設定内容を編集できます。【帳票定義】画面の詳細は、「付録 A.5 【帳票定義】画面 (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

帳票モジュール ID をダブルクリックすると、【帳票モジュール定義】画面が表示されます。【帳票モジュール定義】画面では、帳票モジュール定義の設定内容を編集できます。【帳票モジュール定義】画面の詳細は、「付録 A.12 【帳票モジュール定義】画面」を参照してください。

【詳細情報一覧】領域

【構成一覧】領域で選択した帳票定義および帳票モジュール定義の設定内容が表示されます。【詳細情報一覧】領域の表示される設定内容を次に示します。

帳票定義の場合

【構成一覧】領域に帳票 ID が表示されている場合、【詳細情報一覧】領域には次の内容が表示されません。

表 A-1 帳票定義の詳細情報

「設定項目」	「設定値」
帳票名	【帳票定義】画面の【基本情報】タブで、【帳票名】テキストボックスに設定されている帳票名が表示されます。
帳票 ID	【帳票定義】画面の【基本情報】タブで、【帳票 ID】テキストボックスに設定されている帳票 ID が表示されます。
帳票パッケージ名	【帳票定義】画面の【基本情報】タブで、【帳票パッケージ名】テキストボックスに設定されている帳票パッケージ名が表示されます。
ビジネスプロセス定義名	【帳票定義】画面の【基本情報】タブで、【ビジネスプロセス定義】テキストボックスに設定されているビジネスプロセス定義名が表示されます。
DB 出力作業数	【帳票定義】画面の【作業関連】タブにある【DB 出力作業】領域で設定されている、DB 出力作業の数が表示されます。

「設定項目」	「設定値」
宛先選択表示作業数	[帳票定義] 画面の [作業関連] タブにある [宛先選択表示作業] 領域で設定されている、宛先選択表示作業の数が表示されます。
業務完了指示作業数	[帳票定義] 画面の [作業関連] タブにある [業務完了指示作業] 領域で設定されている、業務完了指示作業の数が表示されます。
ユーザ定義クラス名	[帳票定義] 画面の [ユーザ処理] タブにある [ユーザ定義クラス] 領域で設定されている、クラス名が表示されます。 ただし、[ユーザ定義クラス] 領域で、[ユーザ定義クラスをインポートする。] チェックボックスがオンになっている場合だけ、表示されます。
ユーザ定義スクリプト名	[帳票定義] 画面の [ユーザ処理] タブにある [ユーザ定義スクリプト] 領域で設定されている、スクリプトファイル名が表示されます。 ただし、[ユーザ定義スクリプト] 領域で、[ユーザ定義スクリプトをインクルードする。] チェックボックスがオンになっている場合だけ、表示されます。
帳票モジュール定義数	帳票に含まれる帳票モジュールの数が表示されます。 [帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域で設定されている帳票モジュール ID の数と同じです。
DB アクセス定義数	帳票の DB アクセスの数が表示されます。 [帳票定義] 画面の [DB アクセス] タブにある [DB アクセス定義名一覧] 領域で設定されている DB アクセス定義名の数と同じです。
タイトル	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[タイトル] テキストボックスに設定されているタイトルが表示されます。
バージョン	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[バージョン] テキストボックスに設定されているバージョンが表示されます。
作成者	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[作成者] テキストボックスに設定されている作成者が表示されます。
分類	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[分類] テキストボックスに設定されている分類が表示されます。
作成日時	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[作成日時] に設定されている作成日時が表示されます。
更新日時	[帳票定義] 画面の [プロパティ] タブで、[更新日時] に設定されている更新日時が表示されます。

帳票モジュール定義の場合

[構成一覧] 領域に帳票モジュール ID が表示されている場合、[詳細情報一覧] には次の内容が表示されます。

表 A-2 帳票モジュール定義の詳細情報

「設定項目」	「設定値」
帳票モジュール名	[帳票モジュール定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール情報] 領域で設定されている、帳票モジュール名が表示されます。
帳票モジュール ID	[帳票モジュール定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール情報] 領域で設定されている、帳票モジュール ID が表示されます。

「設定項目」	「設定値」
帳票モジュールプレフィックス	[帳票モジュール定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール情報] 領域で設定されている、帳票モジュールプレフィックスが表示されます。
帳票モジュール HTML	[帳票モジュール定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール HTML] 領域で設定されている、帳票モジュール HTML ファイル名が表示されます。
項目プロパティ数	項目プロパティの数 (項目の数) が表示されます。 [帳票モジュール定義] 画面の [帳票プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域で設定されている、項目と同じ数です。
項目グループ数	項目グループの数が表示されます。 [帳票モジュール定義] 画面の [帳票グループ] タブにある [項目グループ名一覧] 領域で設定されている、項目グループ名と同じ数です。
DB アクセス定義数	帳票モジュールの DB アクセスの数が表示されます。 [帳票モジュール定義] 画面の [DB アクセス] タブにある [DB アクセス定義名一覧] 領域で設定されている、DB アクセス定義名と同じ数です。
タイトル	[帳票モジュール定義] 画面の [プロパティ] タブで、[タイトル] テキストボックスに設定されているタイトルが表示されます。
作成者	[帳票モジュール定義] 画面の [プロパティ] タブで、[作成者] テキストボックスに設定されている作成者が表示されます。
分類	[帳票モジュール定義] 画面の [プロパティ] タブで、[分類] テキストボックスに設定されている分類が表示されます。
作成日時	[帳票モジュール定義] 画面の [プロパティ] タブで、[作成日時] に設定されている作成日時が表示されます。
更新日時	[帳票モジュール定義] 画面の [プロパティ] タブで、[更新日時] に設定されている更新日時が表示されます。

[ファイル] メニュー

[新規作成] コマンド

新しい BLC 帳票の帳票定義を作成します。EUR Form 連携帳票の帳票定義を作成する場合は、[EUR Form 連携帳票の新規作成] コマンドを使用してください。

[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が作成されます。帳票 ID に入力できる文字は、半角英字、半角数字、[] (半角アンダーバー) です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

[構成一覧] 領域で帳票 ID を入力すると、帳票定義が作成されます。

帳票定義の内容を保存する場合、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] コマンドを選択します。

帳票定義の内容は、帳票定義の定義情報ファイル (以降、帳票定義ファイルと呼びます) に保存されます。帳票定義ファイルには、帳票 ID を基に、自動的にファイル名が付けられます。帳票定義ファイルのファイル名は、"f" (半角小文字) + "帳票 ID" + ".dat" となります。

[EUR Form 連携帳票の新規作成] コマンド

新しい EUR Form 連携帳票の帳票定義を作成します。BLC 帳票の帳票定義を作成する場合は、[新規作成] コマンドを使用してください。

[構成一覧] 領域に、帳票 ID の入力欄が作成されます。

帳票 ID に入力できる文字は、半角英字、半角数字、「_」（半角アンダーバー）です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

【構成一覧】領域で帳票 ID を入力すると、帳票定義が作成されます。

帳票定義の内容を保存する場合、【ファイル】メニューから【名前を付けて保存】コマンドを選択します。

帳票定義の内容は、帳票定義ファイルに保存されます。帳票定義ファイルには、帳票 ID を基に、自動的にファイル名が付けられます。帳票定義ファイルのファイル名は、「I」（半角小文字）+「帳票 ID」+.dat」となります。

【開く】コマンド

既存の帳票定義をメイン画面に表示します。

【開く】コマンドを選択して、表示される【帳票 ID の選択】ダイアログで帳票 ID を選択します。

【帳票 ID の選択】ダイアログの詳細は、【付録 A.9 【帳票 ID の選択】および【帳票モジュール ID の選択】ダイアログ】を参照してください。

帳票 ID を選択すると、【構成一覧】領域に帳票 ID が表示され、【詳細情報一覧】領域に帳票定義の内容が表示されます。

【帳票モジュールの追加】コマンド

このコマンドは BLC 帳票を編集の場合だけ選択できます。

サブメニューに、【新規作成】コマンドと【ファイルから】コマンドが表示されます。

【新規作成】コマンドでは、帳票定義の下に新しい帳票モジュール定義を作成します。【新規作成】コマンドを選択すると、【構成一覧】領域に、新しい帳票モジュール ID の入力欄が作成されます。帳票モジュール ID に入力できる文字は、半角英字、半角数字、「_」（半角アンダーバー）です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

帳票モジュール定義の内容を保存する場合、【ファイル】メニューから【名前を付けて保存】コマンドを選択します。

帳票モジュール定義の内容は、帳票モジュール定義の定義情報ファイル（以降、帳票モジュール定義ファイルと呼びます）に保存されます。帳票モジュール定義ファイルには、帳票モジュール ID を基に、自動的にファイル名が付けられます。帳票モジュール定義ファイルのファイル名は、「m」（半角小文字）+「帳票モジュール ID」+.dat」となります。

帳票モジュール定義を新規作成した場合、【構成一覧】領域にデフォルトで表示される帳票モジュール ID は、「module」+「半角数字」となります。「半角数字」には、1~100 の数字が重複しないように、自動的に割り当てられます。ただし、module1~module100 がすべて重複している場合、帳票モジュール ID を指定する【帳票 ID 入力】ダイアログが表示されます。【帳票 ID 入力】ダイアログの帳票モジュール ID を入力するテキストボックスには、デフォルトでは「module100」と表示されますが、ユーザが別の帳票モジュール ID に変更する必要があります。帳票モジュール ID を変更しない場合、帳票モジュール ID を変更するように促すメッセージが表示されます。

【ファイルから】コマンドでは、帳票定義の下に、既存の帳票モジュール定義を追加します。【ファイルから】コマンドを選択して、表示される【帳票モジュール ID の選択】ダイアログで、帳票モジュール ID を選択します。【帳票モジュール ID の選択】ダイアログの詳細は、【付録 A.9 【帳票 ID の選択】および【帳票モジュール ID の選択】ダイアログ】を参照してください。

帳票モジュール ID を選択すると、【構成一覧】領域に帳票モジュール ID が表示され、【詳細情報一覧】領域に設定内容が表示されます。

【閉じる】コマンド

編集中の帳票定義を終了します。

[上書き保存] コマンド

編集中の帳票定義および帳票モジュール定義を、同じ名前で保存します。新規に作成した帳票定義および帳票モジュール定義を保存するときは、[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。

[名前を付けて保存] コマンド

帳票定義ファイルに新しいファイル名を付けて、編集中の帳票定義および帳票モジュール定義を保存します。

[名前を付けて保存] コマンドを選択して、表示される [名前を付けて保存] ダイアログで、新しい帳票 ID を入力します。[名前を付けて保存] ダイアログの詳細は、「付録 A.2 [名前を付けて保存] ダイアログ」を参照してください。

[終了] コマンド

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を終了します。編集中の定義 (帳票定義および帳票モジュール定義) を保存していない場合、上書き保存するかどうかを確認するダイアログが表示されます。ヘルプが表示されている場合、ヘルプも終了します。

[生成] メニュー

[定義編集] コマンド

[構成一覧] 領域に表示されている帳票定義および帳票モジュール定義の設定内容を編集します。

[構成一覧] 領域で帳票 ID を選択し、[定義編集] コマンドを選択すると、[帳票定義] 画面が表示されます。[帳票定義] 画面の詳細は、「付録 A.5 [帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

[構成一覧] 領域で帳票モジュール ID を選択し、[定義編集] コマンドを選択すると、[帳票モジュール定義] 画面が表示されます。[帳票モジュール定義] 画面の詳細は、「付録 A.12 [帳票モジュール定義] 画面」を参照してください。

[帳票ファイル生成] コマンド

帳票定義ファイルから、帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

[構成一覧] 領域に帳票 ID が表示されている状態で、[帳票ファイル生成] コマンドを選択すると、帳票ファイル (JSP 形式) の生成が始まります。

ただし、編集中の帳票定義および帳票モジュール定義を保存していない場合、上書き保存するかどうかを確認するダイアログが表示され、上書き保存した場合だけ帳票ファイル (JSP 形式) の生成が実行されます。

帳票ファイル (JSP 形式) の生成中はダイアログが表示され、実行中の処理の確認、生成結果の確認および処理の中断ができます。

帳票ファイル (JSP 形式) の生成が終了すると、ダイアログも自動的に終了します。ただし、ダイアログが表示されている間に [Shift] キーを押すと、ダイアログは表示されたままになります。この場合、[閉じる] ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。また、[Esc] キーを押すと、生成を中断できます。

生成ファイルは、ユーザがアプリケーションサーバへコピーしたあと、帳票登録処理 (以降、デプロイと呼びます) をします。

デプロイの詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

生成ファイルについては、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報」を参照してください。

[関連する帳票ファイルの再生成] コマンド

帳票モジュール定義に変更があった場合、その帳票モジュールを使っている帳票ファイル (JSP 形式) も、生成し直す必要があります。

[構成一覧] 領域で、変更があった帳票モジュールの帳票モジュール ID を選択し、[関連する帳票ファイルの再生成] コマンドを選択すると、その帳票モジュールを使っているすべての帳票定義を検索し、帳票ファイル (JSP 形式) を再生成します。

帳票ファイル (JSP 形式) の再生成後、[生成] メニューの [定義編集] コマンドを選択して [帳票定義] 画面を開き、変更した部分と関連するすべての情報を見直す必要があります。

[ツール] メニュー

[オプション] コマンド

帳票定義、帳票モジュール定義、および帳票ファイル (JSP 形式) の開発環境について設定します。
[オプション] コマンドを選択すると、[開発環境設定] ダイアログが表示されます。詳細は、「付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ」を参照してください。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] コマンド

ヘルプのトップページが表示されます。

[この画面の説明] コマンド

メイン画面についてのヘルプが表示されます。

[バージョン情報] コマンド

バージョン情報が表示されます。

[上書き保存] アイコン

[ファイル] メニューの [上書き保存] コマンドの説明を参照してください。

[帳票ファイル生成] アイコン

[生成] メニューの [帳票ファイル生成] コマンドの説明を参照してください。

[ヘルプ] アイコン

[ヘルプ] メニューの [この画面の説明] コマンドの説明を参照してください。

付録 A.2 [名前を付けて保存] ダイアログ

帳票定義の定義情報ファイル (以降、帳票定義ファイルと呼びます) に新しいファイル名を付けて、編集中の帳票定義および帳票モジュール定義を保存します。新しい帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) を入力すれば、ファイル名を変更して帳票定義ファイルを保存できます。

ただし、既存の帳票定義および帳票モジュール定義を編集している場合、帳票定義ファイルはファイル名を新しい名前に変更できますが、帳票モジュール定義の定義情報ファイル (以降、帳票モジュール定義ファイルと呼びます) はファイル名を変更できません。

[名前を付けて保存] ダイアログの構成を次に示します。

[帳票 ID] テキストボックス

編集中の帳票定義に付ける、新しい帳票 ID を入力します。帳票 ID に入力できる文字は、半角英字、半角数字、[] (半角アンダーバー) です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

新しい帳票 ID を付けて帳票定義の内容を保存すると、帳票定義ファイルが作成されます。帳票定義ファイルには、帳票 ID を基に、自動的にファイル名が付けられます。帳票定義ファイルのファイル名は、"f" (半角小文字) + "帳票 ID" + ".dat" となります。

[帳票モジュール ID 一覧] 領域

帳票定義に含まれる帳票モジュール定義の ID (以降、帳票モジュール ID と呼びます) と、帳票モジュールの名前が表示されます。このダイアログでは、帳票モジュール ID を変更できません。

[保存] ボタン

帳票定義ファイルに新しいファイル名を付けて、編集中の帳票定義および帳票モジュール定義を保存します。同じ名前のファイルがすでにある場合、上書き保存するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

[キャンセル] ボタン

保存を中断して、[名前を付けて保存] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.3 [開発環境設定] ダイアログ

帳票ジェネレータ (BSLG) 機能の開発環境について設定します。[開発環境設定] ダイアログの構成を次に示します。

[開発環境設定] ダイアログには、次の二つのタブがあります。

- [基本情報] タブ
- [生成オプション] タブ

[保存] ボタン

設定した内容を保存します。

メイン画面に帳票定義が表示されている状態で、設定内容を変更して [保存] ボタンをクリックすると、変更したフォルダパスに、同じファイル名の帳票定義ファイルや帳票モジュール定義ファイルなどがないことを確認するように促すメッセージが表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[開発環境設定] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

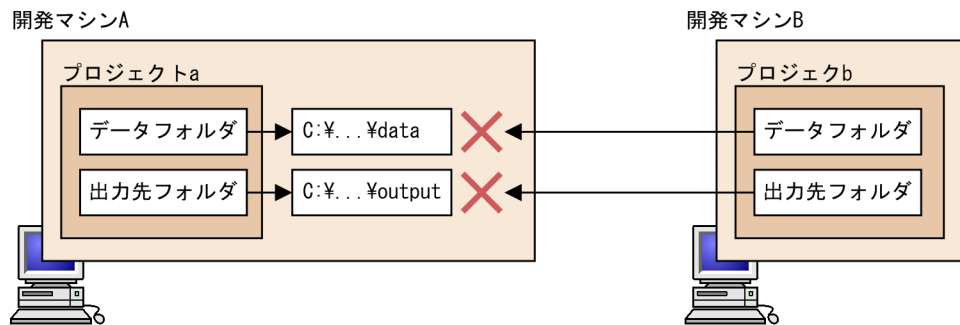
(1) [基本情報] タブ

プロジェクト名、帳票定義の定義情報ファイル (以降、帳票定義ファイルと呼びます) の保存先、および帳票ファイル (JSP 形式) の生成先を設定します。

プロジェクトと各フォルダについて

プロジェクトは、開発マシンごとに作成します。一つのプロジェクトを複数人で使用しないでください。また、各フォルダは、複数のプロジェクトから同時にアクセスしないでください。

図 A-1 プロジェクトから各フォルダへのアクセスの例



開発マシンAのデータフォルダと出力先フォルダが、すでにプロジェクトaによって使用されている場合、開発マシンBのプロジェクトbから同時にアクセスしないでください。

[基本情報] タブの構成を次に示します。

[プロジェクト名] テキストボックス

プロジェクトの名前を入力します。[参照] ボタンをクリックして表示される [プロジェクトファイルの選択] ダイアログでも選択できます。

入力例：project

[参照] ボタン

[プロジェクトファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[プロジェクトファイルの選択] ダイアログで選択したプロジェクトファイルのファイル名が、[プロジェクト名] テキストボックスに表示されます。

[データフォルダパス] テキストボックス

帳票定義ファイルの保存先となるフォルダを、フルパス名で指定します。[参照] ボタンをクリックして表示される [フォルダの参照] ダイアログでも選択できます。

データフォルダについては、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BSLG) 機能の出力情報」を参照してください。

入力例：C:\¥Program files¥Hitachi¥HBPM2¥bslg¥data

[参照] ボタン

[フォルダの参照] ダイアログが表示されます。

[フォルダの参照] ダイアログで選択したフォルダのフルパス名が、[データフォルダパス] テキストボックスに表示されます。

[出力先フォルダパス] テキストボックス

生成した帳票ファイル (JSP 形式) の生成先となるフォルダを、フルパス名で指定します。[参照] ボタンをクリックして表示される [フォルダの参照] ダイアログでも選択できます。

生成ファイルについては、「付録 E.3 帳票ジェネレータ (BSLG) 機能の出力情報」を参照してください。

入力例：C:\¥Program files¥Hitachi¥HBPM2¥bslg¥output

[参照] ボタン

[フォルダの参照] ダイアログが表示されます。

[フォルダの参照] ダイアログで選択したフォルダのフルパス名が、[出力先フォルダパス] テキストボックスに表示されます。

(2) 【生成オプション】タブ

帳票ファイル (JSP 形式) 生成時に実行するオプション (以降、生成オプションと呼びます) について設定します。【生成オプション】タブの構成を次に示します。

例えば、生成ファイルに対して native2ascii コマンドの実行、java コンパイルなどの処理を記述したバッチファイルを作成し、「帳票ファイル生成」の延長で自動的に実行させたい場合に設定します。

【生成オプション一覧】領域

生成オプションの設定内容が表示されます。

生成オプションには 2 種類の設定項目があり、各設定項目には、対応する変数名が付けられています。変数名を指定すると、設定項目を追加、削除、および編集することができます。

変数名

生成オプションの設定項目を表す変数名が表示されます。【追加】ボタンをクリックして表示される【生成オプションの追加】ダイアログ、または【編集】ボタンをクリックして表示される【生成オプションの編集】ダイアログで入力した変数名が表示されます。詳細は、「付録 A.4 【生成オプションの追加】および【生成オプションの編集】ダイアログ」を参照してください。

値

生成オプションの各設定項目の内容を表す値が表示されます。【追加】ボタンをクリックして表示される【生成オプションの追加】ダイアログ、または【編集】ボタンをクリックして表示される【生成オプションの編集】ダイアログで入力した値が表示されます。詳細は、「付録 A.4 【生成オプションの追加】および【生成オプションの編集】ダイアログ」を参照してください。

【生成オプション一覧】領域に表示される設定項目 (変数名およびその内容) を次に示します。

表 A-3 【生成オプション一覧】領域の設定項目

変数名	設定項目	内容
FIXCMDPATH* ¹	完了時の実行ファイルのパス	帳票ファイル (JSP 形式) の生成完了後、ユーザが作成した実行ファイルを実行して、帳票ファイル (JSP 形式) を WAR 形式のプロジェクトに変換するなどの処理をする場合に指定します。 【値】には、ユーザが作成した実行ファイルをフルパス名で指定します。 ユーザが作成した実行ファイルのプロセス終了コード (バッチファイルの EXIT コマンドの引数) が 0 以外の場合、帳票ファイル (JSP 形式) の生成がエラー終了したと認識されます。 ユーザが作成した実行ファイルの出力バッファは、ログファイル (blsgcc.log) に保存されます。
FIXCMDARG* ¹	完了時の実行ファイルの引数	帳票ファイル (JSP 形式) の生成完了後、ユーザが作成した実行ファイルを実行する場合に指定します。この設定項目は省略できます。 【値】には、"FIXCMDPATH" (完了時コマンドパス) で指定されている実行ファイルに渡す引数を指定します。
EXECN2ASC* ¹	native2ascii 実行	"yes"を指定すると、native2ascii を実行します。 native2ascii を実行する場合、Cosminexus 付属の JDK コマンドが必要です。

変数名	設定項目	内容
N2ASCOPT*1*2	native2ascii 実行時の option 文字列	native2ascii コマンドのオプションを指定する場合に指定します。

注

変数名に使用する文字は、大文字と小文字が区別されません。

注※1

同じ変数名を複数指定できません。

注※2

-encoding Shift_JIS を指定することを推奨します。

【追加】 ボタン

【生成オプション一覧】領域に設定項目を追加します。【追加】ボタンをクリックして、表示される【生成オプションの追加】ダイアログで、変数名および値を設定します。詳細は、「付録 A.4 【生成オプションの追加】および【生成オプションの編集】ダイアログ」を参照してください。

【編集】 ボタン

【生成オプション一覧】領域の設定項目の内容を編集します。【生成オプション一覧】領域で変数名を選択し、【編集】ボタンをクリックして、表示される【生成オプションの編集】ダイアログで、変数名および値を編集します。詳細は、「付録 A.4 【生成オプションの追加】および【生成オプションの編集】ダイアログ」を参照してください。

【削除】 ボタン

【生成オプション一覧】領域の変数名および値を削除します。【生成オプション一覧】領域で変数名を選択し、【削除】ボタンをクリックすると、選択した変数名が削除されます。

付録 A.4 【生成オプションの追加】 および 【生成オプションの編集】 ダイアログ

【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブで、【追加】ボタンおよび【編集】ボタンをクリックした場合は表示されるダイアログについて説明します。

- 【生成オプションの追加】ダイアログ

【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブで、【追加】ボタンをクリックすると表示されます。【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブにある【生成オプション一覧】領域に、設定項目（変数名および値）を追加します。

- 【生成オプションの編集】ダイアログ

【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブで、【編集】ボタンをクリックすると表示されます。【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブにある【生成オプション一覧】領域の、設定項目（変数名および値）の設定内容を編集します。

生成オプションには 2 種類の設定項目があり、各設定項目には対応する変数名が付けられています。変数名を指定すると、設定項目を追加または編集することができます。【生成オプションの追加】ダイアログおよび【生成オプションの編集】ダイアログの構成を次に示します。

【変数名】 ドロップダウンリスト

生成オプションの設定項目に対応する変数名を入力します。【変数名】ドロップダウンリストの右側にあるボタンをクリックして、表示されるドロップダウンリストで選択できます。入力した変数名は、【開発環境設定】ダイアログの【生成オプション】タブにある【生成オプション一覧】領域の「変数名」に表示されます。

入力できる変数名については、「付録 A.3(2) [生成オプション] タブ」の表 A-3 を参照してください。

[値] テキストボックス

生成オプションの設定項目（変数名）に対して、内容（実行するコマンドやその引数など）を入力します。入力した値は、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブにある [生成オプション一覧] 領域の [値] に表示されます。

入力できる値については、「付録 A.3(2) [生成オプション] タブ」の表 A-3 を参照してください。

[OK] ボタン

設定内容を保存します。設定した項目（変数名と値）が、[開発環境設定] ダイアログの [生成オプション] タブにある [生成オプション一覧] 領域に表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[生成オプションの追加] ダイアログまたは [生成オプションの編集] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.5 [帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)

メイン画面で選択した、帳票定義の設定内容を編集します。[帳票定義] 画面の構成を次に示します。

[帳票定義] 画面には、次の七つのタブがあります。

- [基本情報] タブ
- [作業関連] タブ
- [ユーザ処理] タブ
- [帳票モジュール] タブ
- [カスタム申請] タブ
- [DB アクセス] タブ
- [プロパティ] タブ

[OK] ボタン

設定した内容を保存して、[帳票定義] 画面を終了します。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[帳票定義] 画面を終了します。

[適用] ボタン

設定した内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

(1) [基本情報] タブ

帳票情報、特殊帳票、およびビジネスプロセス定義ファイルを設定します。[基本情報] タブの構成を次に示します。

[帳票情報] 領域

帳票名、帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) および帳票パッケージ名を設定します。

[帳票名] テキストボックス

帳票定義の名称を入力します。デフォルトでは"formname1"となります。この項目は必ず入力します。帳票名は、ワークフローで帳票を識別するために使われます。

入力例：販売契約稟議

[帳票 ID] テキストボックス

帳票定義を新規作成したときに付けた ID が表示されます。

デフォルトでは"form1"となります。この項目は必ず入力します。帳票 ID に使える文字は、半角英字、半角数字、「_」(半角アンダーバー) です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

入力例：SampleConsultation

[帳票パッケージ名] テキストボックス

帳票定義のパッケージ名を入力します。デフォルトでは"package1"となります。この項目は必ず入力します。このパッケージ名を基にして、自動生成帳票クラスを設定します。Java のパッケージ名は、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+帳票パッケージ名"となります。

入力例：Hitachi

帳票 ID および帳票パッケージ名に使用する英字の大文字と小文字の違いには注意が必要です。英字の大文字と小文字の違いは、Windows 環境では区別されませんが、Java では区別されます。

[特殊帳票] 領域

特殊帳票 (カスタム申請のソース帳票および DB アクセス専用帳票) について定義する場合に選択します。

[カスタム申請のソース帳票] チェックボックス

カスタム申請のソース帳票を定義する場合、チェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオンにすると、[カスタム申請] タブが選択できる状態になります。カスタム申請のソース帳票については、[カスタム申請] タブで設定します。[カスタム申請] タブの詳細は、[付録 A.5(5) [カスタム申請] タブ] を参照してください。

また、チェックボックスをオンにすると、次の項目が選択できない状態になります。

- [特殊帳票] 領域の [DB アクセス専用帳票] チェックボックス
- [ビジネスプロセス定義ファイル] 領域
- [作業関連] タブ
- [帳票モジュールの編集] ダイアログの [各作業モード] 領域
- [帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブにある [承認帳票] 領域

[DB アクセス専用帳票] チェックボックス

DB アクセス専用帳票を定義する場合、チェックボックスをオンにします。DB アクセス専用帳票については、[DB アクセス] タブで設定します。[DB アクセス] タブの詳細は、[付録 A.5(6) [DB アクセス] タブ] を参照してください。また、チェックボックスをオンにすると、次の項目が選択できない状態になります。

- [特殊帳票] 領域の [カスタム申請のソース帳票] チェックボックス
- [ビジネスプロセス定義ファイル] 領域
- [作業関連] タブ
- [カスタム申請] タブ

- [帳票モジュールの編集] ダイアログの [各作業モード] 領域
- [帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブにある [承認帳票] 領域

[ビジネスプロセス定義] 領域

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義ファイルの名称を選択します。この項目は必ず入力します。ビジネスプロセス定義ファイルが指定されている場合は、[帳票定義] 画面を初回表示したときに、自動的にビジネスプロセス定義ファイルが読み込まれます。

帳票定義の作成時に設定したビジネスプロセス定義ファイルの内容を変更した場合、および参照するビジネスプロセス定義ファイルを変更した場合には、指定し直す必要があります。[参照] ボタンをクリックして表示される [ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログから、ビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

入力例：販売契約稟議

ビジネスプロセス定義ファイルを変更すると、ビジネスプロセス定義ファイルの情報が解析され、各作業 (WorkItem) 情報が再作成されます。以前と同じ情報が保持されるとは限らないので、必要に応じて、[WorkItem 関連] タブや [帳票モジュール] タブなどを開いて、各作業 (WorkItem) 情報を見直す必要があります。

[参照] ボタン

[ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[条件定義] ボタン

[条件定義] ダイアログが表示されます。

このボタンは、[ビジネスプロセス定義] 領域にビジネスプロセス定義が設定されている場合に使用できます。ただし、指定されているビジネスプロセス定義ファイルをほかのプログラムが利用している場合など、書き込み権限を取得できない場合には使用できません。

(2) [作業関連] タブ

DB 更新、宛先選択表示、および業務完了指示をする作業 (WorkItem) について設定します。[作業関連] タブの構成を次に示します。

[DB 出力作業] 領域

[DB アクセス] タブで設定した DB 出力処理を実行する作業を選択します。[DB 出力作業リストの編集] ボタンをクリックして、表示される [DB 出力作業選択] ダイアログで、作業を選択します。[DB 出力作業選択] ダイアログの詳細は、「付録 A.7 [作業関連] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

[宛先選択表示作業] 領域

帳票の下部に [宛先選択] のドロップダウンリストを表示する作業を選択します。[宛先選択表示作業リストの編集] ボタンをクリックして、表示される [宛先選択表示作業選択] ダイアログで、作業を選択します。[宛先選択表示作業選択] ダイアログの詳細は、「付録 A.7 [作業関連] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

[業務完了指示作業] 領域

業務完了指示を行う作業を選択します。業務完了指示とは、案件がシンクノードに到達する前に、案件の状態を完了状態にすることです。[業務完了指示作業リストの編集] ボタンをクリックして、表示される [業務完了指示作業選択] ダイアログから、作業を選択します。[業務完了指示作業選択] ダイアログの詳細は、「付録 A.7 [作業関連] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

(3) [ユーザ処理] タブ

ユーザが定義したクラスをインポートする場合、およびユーザが定義したスクリプトファイルをインクルードする場合に設定します。[ユーザ処理] タブの構成を次に示します。

[ユーザ定義クラス] 領域

ユーザが定義したクラスをインポートする場合に設定します。

[ユーザ定義クラスをインポートする。] チェックボックス

ユーザが定義したクラスをインポートする場合に、チェックボックスをオンにします。

[クラス名] テキストボックス

インポートするクラス名 (ユーザが定義したもの) を入力します。拡張子を入力する必要はありません。class ファイルは、自動生成帳票クラスをコンパイルして作成される class ファイルと同じフォルダに格納する必要があります (Java パッケージの名前は、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+帳票パッケージ名"となります)。格納先については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「EUR Form Service の環境設定ファイルの設定」の説明を参照してください。

BLC 実行環境とのインタフェースについては、「5.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (BLC 帳票の場合)」を参照してください。

入力例 : SampleConsultation_1_userServerSideClass

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、ユーザ定義クラスのサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルの詳細は、「付録 F.1 提供する BLC 帳票用サンプルデータ」を参照してください。

[ユーザ定義スクリプト] 領域

ユーザが定義したスクリプトファイルをインクルードする場合に設定します。

[ユーザ定義スクリプトをインクルードする。] チェックボックス

ユーザが定義したスクリプトファイルをインクルードする場合に、チェックボックスをオンにします。

[スクリプトファイル名] テキストボックス

インクルードするスクリプトファイル名 (ユーザが定義したもの) を入力します。拡張子に ".inc" を入力する必要があります。このスクリプトファイルは、自動生成帳票ファイルと同じフォルダに格納する必要があります。自動生成帳票ファイルと別のフォルダに格納する場合、[スクリプトファイル名] テキストボックスで、スクリプトファイル名の前に、自動生成帳票ファイルからの相対パスを入力する必要があります。格納先については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」を参照してください。

BLC 実行環境とのインタフェースについては、「5.1.3 クライアント側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ」を参照してください。

入力例 : SampleConsultation_1_userClientSideScript.inc

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能では、ユーザ定義スクリプトファイルのサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルの詳細は、「付録 F.1 提供する BLC 帳票用サンプルデータ」を参照してください。

(4) [帳票モジュール] タブ

帳票で使う帳票モジュールを追加、削除、または編集します。帳票モジュールは、対応する帳票モジュール定義の ID (以降、帳票モジュール ID と呼びます) を指定すると、追加、削除、または編集できます。[帳票モジュール] タブの構成を次に示します。

【帳票モジュール ID 一覧】 領域

帳票で使う帳票モジュールの帳票モジュール ID の一覧が表示されます。帳票モジュール ID には、一覧の上から順番に番号が付けられます。帳票モジュール ID の番号が小さい順に、帳票モジュールが帳票に表示されます。

【追加】 ボタン

【帳票モジュール ID 一覧】 領域に帳票モジュール ID を追加します。【追加】 ボタンをクリックすると、新しい番号で【帳票モジュールの編集】 ダイアログが表示されます。【帳票モジュール ID】 領域に追加する帳票モジュール ID を設定します。【帳票モジュールの編集】 ダイアログの詳細は、「付録 A.8 【帳票モジュールの編集】 ダイアログ」を参照してください。

【編集】 ボタン

【帳票モジュール ID 一覧】 領域で帳票モジュール ID を選択し、【編集】 ボタンをクリックすると、【帳票モジュールの編集】 ダイアログが表示されます。【帳票モジュールの編集】 ダイアログの詳細は、「付録 A.8 【帳票モジュールの編集】 ダイアログ」を参照してください。

【削除】 ボタン

【帳票モジュール ID 一覧】 領域で帳票モジュール ID を選択し、【削除】 ボタンをクリックすると、選択した帳票モジュール ID が削除されます。

【↑】 ボタン/ 【↓】 ボタン

【帳票モジュール ID 一覧】 領域で、帳票モジュール ID の並ぶ順番を入れ替えます。
【↑】 ボタンをクリックすると、選択した帳票モジュール ID が一つ上に移動します。
【↓】 ボタンをクリックすると、選択した帳票モジュール ID が一つ下に移動します。

(5) 【カスタム申請】 タブ

カスタム申請のソース帳票に必要な情報を設定します。【カスタム申請】 タブの構成を次に示します。

【ターゲット帳票 ID】 テキストボックス

カスタム申請のソース帳票で条件を入力したあとに表示される、カスタム申請帳票をターゲット帳票と呼びます。ここでは、ターゲット帳票の ID (以降、ターゲット帳票 ID と呼びます) を設定します。【参照】 ボタンをクリックして表示される【帳票 ID の選択】 ダイアログで、カスタム申請帳票の ID を選択します。【帳票 ID の選択】 ダイアログの詳細は、「付録 A.9 【帳票 ID の選択】 および【帳票モジュール ID の選択】 ダイアログ」を参照してください。

【参照】 ボタン

【帳票 ID の選択】 ダイアログが表示されます。【帳票 ID の選択】 ダイアログの詳細は、「付録 A.9 【帳票 ID の選択】 および【帳票モジュール ID の選択】 ダイアログ」を参照してください。

【帳票モジュール表示条件一覧】 領域

【ターゲット帳票 ID】 テキストボックスで指定した、カスタム申請帳票に表示する帳票モジュールの、表示条件 (判定用項目変数名および比較値) を設定します。

帳票モジュール ID

【ターゲット帳票 ID】 テキストボックスで指定した、カスタム申請帳票に表示する帳票モジュールの、帳票モジュール ID が表示されます。

判定用項目変数名

帳票モジュールの表示条件を判定するために使う、判定用項目変数の名前を設定します。
判定用項目変数名は、セルをクリックし、セルの右側に表示されるボタンをクリックして表示される【判定用項目変数名編集】 ダイアログで設定します。【判定用項目変数名編集】 ダイアログの詳細は、「付録 A.11 【項目変数名編集】 ダイアログ」を参照してください。

使用できる予約語を次に示します。この予約語を使用した場合、比較値は必要ありません。

- `_Const_True`
 [帳票モジュールの編集] ダイアログの [各作業のモード] 領域で「モード」に表示される設定 (参照, 入力, または非表示) に従って、帳票モジュールを表示します。
- `_Const_False`
 帳票モジュールを表示しません。

比較値

判定用項目変数名と比較する値を設定します。

セルをクリックすると、比較値が入力できる状態になります。

判定用項目変数名と比較値を比較した結果が"真"の場合、該当する帳票モジュールがカスタム申請帳票に表示されます。

判定用項目変数名の項目種別が checkbox の場合、"on", "off", "true", および"false"のどれかを指定します。大文字と小文字は区別はありません。

"on"または"true"を指定すると、チェックボックスをオンにした場合に、カスタム申請帳票の帳票モジュールが表示されます。

"off"または"false"を指定すると、チェックボックスをオンにした場合に、カスタム申請帳票の帳票モジュールが表示されません。

判定用項目変数名の項目種別が radio の場合、radio 項目の順序値 (0,1,2・・・) を指定します。

[継承項目一覧] 領域

カスタム申請のソース帳票からカスタム申請帳票に継承する項目 (ソース項目およびターゲット項目) が表示されます。

ソース項目

カスタム申請のソース帳票の項目で、カスタム申請帳票に継承する項目が表示されます。

ソース項目は、[追加] ボタンをクリックして表示される [継承項目の追加] ダイアログ、または [編集] ボタンをクリックして表示される [継承項目の編集] ダイアログで設定します。詳細は、「付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ」を参照してください。

ターゲット項目

[ターゲット帳票 ID] テキストボックスで指定したカスタム申請帳票の項目で、カスタム申請のソース帳票から継承する項目が表示されます。

ターゲット項目は、[追加] ボタンをクリックして表示される [継承項目の追加] ダイアログ、または [編集] ボタンをクリックして表示される [継承項目の編集] ダイアログで設定します。詳細は、「付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ」を参照してください。

[追加] ボタン

[継承項目一覧] 領域に、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を追加します。[追加] ボタンをクリックすると、[継承項目の追加] ダイアログが表示されます。[継承項目の追加] ダイアログの詳細は、「付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

[継承項目一覧] 領域に表示される、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を編集します。[継承項目一覧] で継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[継承項目の編集] ダイアログが表示されます。[継承項目の編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[継承項目一覧] 領域から、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を削除します。[継承項目一覧] 領域で継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) が削除されます。

(6) [DB アクセス] タブ

帳票ごとに DB アクセスする場合に、必要な情報を設定します。

帳票定義の DB アクセス定義は、複数の帳票モジュール定義にある項目に対して DB アクセスする場合に行います。一つの帳票モジュール定義内にある項目に対して DB アクセスする場合は、その帳票モジュール定義の DB アクセス定義を行います。

DB アクセス定義は、[DB アクセス] タブにある [DB アクセス定義名一覧] 領域の上から順番に実行されます。

また、帳票定義の DB アクセス定義の実行前に、[帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール一覧] 領域の上から順番に、各帳票モジュール定義の DB アクセス定義が実行されます。

[DB アクセス] タブの構成を次に示します。

[DB アクセス定義名一覧] 領域

DB アクセス定義の主な設定項目 (DB アクセス定義名、入出力属性、および定義実行) の一覧が表示されます。

DB アクセス定義名

DB の入出力処理をする DB アクセスの定義名が表示されます。DB アクセス定義名は、[追加] ボタンまたは [編集] ボタンをクリックして表示される [DB アクセス定義の編集] ダイアログで設定します。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

入出力属性

DB アクセス時の入出力属性 (入力または出力) が表示されます。

定義実行

DB アクセス定義を実行するかどうか (有効/無効) が表示されます。

[追加] ボタン

[DB アクセス定義名一覧] 領域に DB アクセス定義を追加します。[追加] ボタンをクリックすると、[DB アクセス定義の編集] ダイアログが表示されます。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

選択した DB アクセス定義を編集します。[DB アクセス定義名一覧] 領域から DB アクセス定義名を選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[DB アクセス定義の編集] ダイアログが表示されます。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[DB アクセス定義名一覧] 領域で DB アクセス定義を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、DB アクセス定義が削除されます。

[↑] ボタン / [↓] ボタン

[DB アクセス定義一覧] 領域で、DB アクセス定義が並ぶ順番を入れ替えます。[↑] ボタンをクリックすると、選択した DB アクセス定義が一つ上に移動します。

[↓] ボタンをクリックすると、選択した DB アクセス定義が一つ下に移動します。

(7) 【プロパティ】 タブ

帳票定義を管理するための情報を設定します。

【タイトル】 テキストボックス

編集中の帳票定義のタイトルを入力します。

入力例：サンプル (販売契約稟議)

【バージョン】 テキストボックス

編集中の帳票のバージョン番号を指定します。必ず 1 以上を入力します。新規に作成したときは、通常、1 を入力します。

入力したバージョン番号は、自動生成帳票ファイルのファイル名の最後に付けられます。ただし、バージョン番号をファイル名に付けるだけで、帳票定義ファイルのバージョン管理は行われません。帳票定義ファイルのバージョン管理は、作成者自身で行う必要があります。

入力例：1

【作成者】 テキストボックス

編集中の帳票定義の作成者、または提出先の顧客名を入力します。

入力例：(株) 日立製作所

【分類】 テキストボックス

帳票定義の分類を入力します。

入力例：稟議

【コメント】 テキストボックス

帳票を識別するための任意のコメント（著作権表示や修正履歴など）を入力します。入力できる文字の種類別に、制限はありません。

入力例：All Rights Reserved. Copyright (C) 2002, Hitachi, Ltd.

作成日時

帳票定義を作成した日時（時間はローカル時間）が表示されます。帳票定義を作成すると、自動的に入力されます。

更新日時

帳票定義を更新した日時（時間はローカル時間）が表示されます。帳票定義を更新すると、自動的に入力されます。

付録 A.6 【帳票定義】 画面 (EUR Form 連携帳票の場合)

メイン画面で選択した、EUR Form 連携帳票定義の設定内容を編集します。[EUR Form 連携帳票定義] 画面の構成を次に示します。

[EUR Form 連携帳票定義] 画面には、次の八つのタブがあります。

- 【基本情報】 タブ
- 【作業関連】 タブ
- 【ユーザ処理】 タブ
- 【帳票コントロール表示属性】 タブ
- 【ボタン制御】 タブ

- [ページ制御] タブ
- [オプション] タブ
- [プロパティ] タブ

[OK] ボタン

設定した内容を保存して、[帳票定義] 画面を終了します。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[帳票定義] 画面を終了します。

[適用] ボタン

設定した内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

(1) [基本情報] タブ

帳票情報、EUR Form 帳票およびビジネスプロセス定義ファイルを設定します。[基本情報] タブの構成を次に示します。

[帳票情報] 領域

帳票名、帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) および帳票パッケージ名を設定します。

[帳票名] テキストボックス

帳票定義の名称を入力します。デフォルトでは"formname1"となります。この項目は必ず入力します。帳票名は、ワークフローで帳票を識別するために使われます。

入力例：販売契約稟議 EUR

[帳票 ID] テキストボックス

帳票定義を新規作成したときに付けた ID が表示されます。

デフォルトでは"form1"となります。この項目は必ず入力します。帳票 ID に使える文字は、半角英字、半角数字、[_] (半角アンダーバー) です。ただし、先頭に入力できる文字は半角英字だけです。

入力例：SampleConsultationEUR

[帳票パッケージ名] テキストボックス

帳票定義のパッケージ名を入力します。デフォルトでは"package1"となります。この項目は必ず入力します。このパッケージ名を基にして、自動生成帳票クラスを設定します。Java のパッケージ名は、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+帳票パッケージ名"となります。

帳票パッケージ名は、会社名を設定することをお勧めします。

入力例：Hitachi

帳票 ID および帳票パッケージ名に使用する英字の大文字と小文字の違いには注意が必要です。英字の大文字と小文字の違いは、Windows 環境では区別されませんが、Java では区別されます。

[EUR Form 帳票] 領域

送信ユニット情報の一覧表ファイルまたは EUR Form 帳票定義ファイルを設定します。

[送信ユニット情報の一覧表ファイル] テキストボックス

送信ユニット情報の一覧表ファイルを選択します。この項目、または [EUR Form 帳票定義ファイル] テキストボックスのどちらかは必ず選択します。ただし、一覧表ファイルは、BSLG のバージョンまたは帳票定義内容によって選択できない場合があります。詳細は、「9.6.6 EUR Form 連携帳票使用時の注意事項」を参照してください。帳票定義の作成時に設定した EUR Form 帳票の内容を

変更した場合、および参照する EUR Form 帳票を変更した場合は、送信ユニット情報の一覧表ファイルを再度生成して、指定し直す必要があります。[参照] ボタンをクリックして表示される [送信ユニット情報の一覧表ファイルの選択] ダイアログから、送信ユニット情報の一覧表ファイルを選択します。

入力例：販売契約稟議 EUR

送信ユニット情報の一覧表ファイルを変更すると、帳票コントロール表示属性情報が再作成されます。以前と同じ情報が保持されるとは限らないので、必要に応じて、[帳票コントロール表示属性] タブを開いて、情報を見直す必要があります。

[参照] ボタン

[送信ユニット情報の一覧表ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[EUR Form 帳票定義ファイル] テキストボックス

EUR Form 帳票定義ファイルを選択します。この項目、または [送信ユニット情報の一覧表ファイル] テキストボックスのどちらかは必ず選択します。帳票定義の作成時に設定した EUR Form 帳票の内容を変更した場合、および参照する EUR Form 帳票を変更した場合は、EUR Form 帳票定義ファイルを再度生成して、指定し直す必要があります。[参照] ボタンをクリックして表示される [EUR Form 帳票定義ファイルの選択] ダイアログから、EUR Form 帳票定義ファイルを選択します。

入力例：販売契約稟議 EUR

EUR Form 帳票定義ファイルを変更すると、帳票コントロール表示属性情報、ボタン表示属性情報およびページ表示属性情報が再作成されます。以前と同じ情報が保持されるとは限らないので、必要に応じて、[帳票コントロール表示属性] タブ、[ボタン制御] タブまたは [ページ制御] タブを開いて、情報を見直す必要があります。

[参照] ボタン

[EUR Form 帳票定義ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[ビジネスプロセス定義] 領域

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義ファイルの名称を選択します。この項目は必ず入力します。ビジネスプロセス定義ファイルが指定されている場合は、[帳票定義] 画面を初回表示したときに、自動的にビジネスプロセス定義ファイルが読み込まれます。

帳票定義の作成時に設定したビジネスプロセス定義ファイルの内容を変更した場合、および参照するビジネスプロセス定義ファイルを変更した場合には、指定し直す必要があります。[参照] ボタンをクリックして表示される [ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログから、ビジネスプロセス定義ファイルを選択します。

入力例：販売契約稟議 EUR

ビジネスプロセス定義ファイルを変更すると、ビジネスプロセス定義ファイルの情報が解析され、各作業 (WorkItem) 情報が再作成されます。以前と同じ情報が保持されるとは限らないので、必要に応じて、[作業関連] タブ、[帳票コントロール表示属性] タブ、[ボタン制御] タブ、[ページ制御] タブなどを開いて、各作業 (WorkItem) 情報を見直す必要があります。

[参照] ボタン

[ビジネスプロセス定義ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[条件定義] ボタン

[条件定義] ダイアログが表示されます。

このボタンは、[ビジネスプロセス定義] 領域にビジネスプロセス定義が設定されている場合に使用できます。ただし、指定されているビジネスプロセス定義ファイルをほかのプログラムが利用している場合など、書き込み権限を取得できない場合には使用できません。

(2) 【作業関連】 タブ

宛先選択表示、および業務完了指示をする作業 (WorkItem) について設定します。【作業関連】 タブの構成を次に示します。

【宛先選択表示作業】 領域

帳票に【宛先選択】 のドロップダウンリストを表示する作業を選択します。

【宛先選択表示作業リストの編集】 ボタンをクリックして、表示される【宛先選択表示作業選択】 ダイアログで、作業を選択します。【宛先選択表示作業選択】 ダイアログの詳細は、「付録 A.7 【作業関連】 タブに関連するダイアログ」を参照してください。

【業務完了指示作業】 領域

業務完了指示を行う作業を選択します。業務完了指示とは、案件がシンクノードに到達する前に、案件の状態を完了状態にすることです。【業務完了指示作業リストの編集】 ボタンをクリックして、表示される【業務完了指示作業選択】 ダイアログから、作業を選択します。【業務完了指示作業選択】 ダイアログの詳細は、「付録 A.7 【作業関連】 タブに関連するダイアログ」を参照してください。

(3) 【ユーザ処理】 タブ

ユーザが定義したクラスをインポートする場合に設定します。【ユーザ処理】 タブの構成を次に示します。

【ユーザ定義クラス】 領域

ユーザが定義したクラスをインポートする場合に設定します。

【ユーザ定義クラスをインポートする。】 チェックボックス

ユーザが定義したクラスをインポートする場合に、チェックボックスをオンにします。

【クラス名】 テキストボックス

インポートするクラス名 (ユーザが定義したもの) を入力します。拡張子を入力する必要はありません。class ファイルは、自動生成帳票クラスをコンパイルして作成される class ファイルと同じフォルダに格納する必要があります (Java パッケージの名前は、"jp.co.Hitachi.soft.blc."+ "帳票パッケージ名" となります)。格納先については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」を参照してください。

BLC 実行環境とのインタフェースについては、「8.1.2 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

入力例 : SampleConsultationEUR_1_userServerSideClassEUR

帳票ジェネレータ (BSLG) 機能では、ユーザ定義クラスのサンプルファイルを提供しています。サンプルファイルの詳細は、「付録 F.2 提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータ」を参照してください。

(4) 【帳票コントロール表示属性】 タブ

EUR Form 帳票の帳票コントロールに作業 (WorkItem) 単位で表示属性 (入力/参照/非表示) を設定します。

【帳票コントロール表示属性】 タブの構成を次に示します。

【帳票コントロール表示属性一覧】 領域

【入力】 ボタン

選択した表示属性と帳票コントロールの組み合わせ (以降、セルと呼びます) の表示属性を入力します。

印刷属性は、uCosminexus EUR Developer で設定した属性に従います。

[参照] ボタン

選択したセルの表示属性を参照にします。

印刷属性は、uCosminexus EUR Developer で設定した属性に従います。

[非表示] ボタン

選択したセルの表示属性を非表示にします。

印刷属性は、[非表示時に印刷不可にする] チェックボックスで設定できます。

[非表示時に印刷不可にする] チェックボックス

非表示項目を印刷しない場合、チェックボックスをオンにします。

チェックボックスがオフの場合の印刷属性は、uCosminexus EUR Developer で設定した属性に従います。

(5) [ボタン制御] タブ

EUR Form 帳票のボタンに、作業 (WorkItem) 単位で表示属性 (表示/非表示) を設定します。[ボタン制御] タブの構成を次に示します。

[ボタン表示属性一覧] 領域**[表示] ボタン**

選択した作業とボタンの組み合わせ (以降、セルと呼びます) の表示属性を表示にします。

[非表示] ボタン

選択したセルの表示属性を非表示にします。

(6) [ページ制御] タブ

EUR Form 帳票のページに作業 (WorkItem) 単位で表示属性 (表示/印刷可/表示/印刷不可/非表示) を設定します。[ページ制御] タブの構成を次に示します。

[ページ表示属性一覧] 領域**[表示/印刷可] ボタン**

選択した作業とページの組み合わせ (以降、セルと呼びます) の表示属性を表示/印刷可にします。

[表示/印刷不可] ボタン

選択したセルの表示属性を表示/印刷不可にします。

[非表示] ボタン

選択したセルの表示属性を非表示にします。すべてのセルを非表示にすることはできません。

(7) [オプション] タブ

EUR Form 帳票の自動生成帳票クラスのオプションを設定します。[オプション] タブの構成を次に示します。

[自動生成帳票クラス] 領域**[バージョン 03-01 までのクラス構成で生成する。] チェックボックス**

自動生成帳票クラスの出力形式を設定します。

チェックボックスをオンにした場合、定義できる EUR Form 帳票の帳票コントロール数やビジネスプロセス定義の作業数が少なくなります。帳票コントロール数や作業数が多いと、帳票クラスがコンパイルエラーになる場合があります。通常はチェックボックスをオフにしてください。

定義数は帳票コントロール数 3,000 個以内、かつ作業数 100 個以内を目安にしてください。

また、BSLG 03-01 以前に保存した帳票定義情報リポジトリ構成ファイルを読み込み、保存しないで自動生成帳票クラスを生成した場合は、BSLG 03-01 までのクラス構成で生成します。

(8) [プロパティ] タブ

帳票定義を管理するための情報を設定します。[プロパティ] タブの構成を次に示します。

[タイトル] テキストボックス

編集中の帳票定義のタイトルを入力します。

入力例：サンプル (販売契約稟議 EUR)

[バージョン] テキストボックス

編集中の帳票のバージョン番号を指定します。必ず 1 以上を入力します。新規に作成したときは、通常、1 を入力します。

入力したバージョン番号は、自動生成帳票ファイルのファイル名の最後に付けられます。ただし、バージョン番号をファイル名に付けるだけで、帳票定義ファイルのバージョン管理は行われません。帳票定義ファイルのバージョン管理は、作成者自身で行う必要があります。

入力例：1

[作成者] テキストボックス

編集中の帳票定義の作成者、または提出先の顧客名を入力します。

入力例：(株) 日立製作所

[分類] テキストボックス

帳票定義の分類を入力します。

入力例：稟議

[コメント] テキストボックス

帳票を識別するための任意のコメント (著作権表示や修正履歴など) を入力します。

入力できる文字の種別に、制限はありません。

入力例：All Rights Reserved. Copyright (C) 2002,2003, Hitachi, Ltd.

作成日時

帳票定義を作成した日時 (時間はローカル時間) が表示されます。帳票定義を作成すると、自動的に入力されます。

更新日時

帳票定義を更新した日時 (時間はローカル時間) が表示されます。帳票定義を更新すると、自動的に入力されます。

付録 A.7 [作業関連] タブに関連するダイアログ

[帳票定義] 画面の [作業関連] タブで、[DB 出力作業リストの編集] ボタン、[宛先選択表示作業リストの編集] ボタン、および [業務完了指示作業リストの編集] ボタンをクリックしたときに表示されるダイアログについて説明します。

- [DB 出力作業選択] ダイアログ
[帳票定義] 画面の [作業関連] タブで、[DB 出力作業リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。[DB アクセス] タブで設定した DB 出力処理を実行する作業 (WorkItem) を選択します。
- [宛先選択表示作業選択] ダイアログ

[帳票定義] 画面の [作業関連] タブで、[宛先選択表示作業リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。帳票の下部にある [宛先選択] ドロップダウンリストに表示する作業 (WorkItem) を選択します。

- [業務完了指示作業選択] ダイアログ

[帳票定義] 画面の [作業関連] タブで、[業務完了指示作業リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。案件状態を完了状態にする作業 (WorkItem) を選択します。

[DB 出力作業選択] ダイアログ、[宛先選択表示作業選択] ダイアログ、および [業務完了指示作業選択] ダイアログの構成を次に示します。

[作業一覧] 領域

作業 (WorkItem) の名前の一覧が表示されます。一覧から、実行する作業 (WorkItem) を選択します。選択する場合、作業 (WorkItem) のチェックボックスをオンにします。

[全て選択] ボタン

[作業リスト] のすべての作業 (WorkItem) のチェックボックスがオンになり、選択された状態になります。

[全て解除] ボタン

[作業一覧] 領域にあるすべての作業のチェックボックスがオフになり、選択されていない状態になります。

[OK] ボタン

設定した内容を保存して、ダイアログを終了します。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.8 [帳票モジュールの編集] ダイアログ

[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域で選択した帳票モジュールの設定内容を編集します。

または、[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域に追加する、帳票モジュールの ID (以降、帳票モジュール ID と呼びます) を選択します。

[帳票モジュール] ダイアログの構成を次に示します。

[番号] 領域

編集中の帳票モジュールの番号が表示されます。

既存の帳票モジュールを編集する場合、[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域で帳票モジュール ID に設定されている番号が表示されます。

新しい帳票モジュールを追加する場合、自動的に設定された新しい番号が表示されます。

[<] ボタンまたは [>] ボタンをクリックして、編集する帳票モジュールを変更できます。

[<] ボタン/ [>] ボタン

編集する帳票モジュールを変更します。

[<] ボタンをクリックすると、一つ小さい番号の帳票モジュールが表示されます。

[>] ボタンをクリックすると、一つ大きい番号の帳票モジュールが表示されます。

[帳票モジュール ID] テキストボックス

既存の帳票モジュールを編集する場合、[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域で選択した帳票モジュール ID が表示されます。

新しい帳票モジュールを追加する場合、帳票モジュール ID を入力します。[参照] ボタンをクリックして表示される [帳票モジュール ID の選択] ダイアログでも選択できます。

入力例：SalesContract

[各作業のモード] 領域

編集中の帳票モジュールについて、各作業 (WorkItem) で実行される処理を設定します。

作業名

作業 (WorkItem) の名前が表示されます。

モード

入力欄を選択すると表示されるコンボボックスで、各作業 (WorkItem) で実行される処理を次の三つの項目から一つを選択します。セルをクリックすると、項目が選択できる状態になります。

- 入力：入力できる領域を生成します。
- 参照：入力できない (ただし表示はされる) 領域を生成します。
- 非表示：情報を生成しますが表示はしません。

[OK] ボタン

設定した内容を保存して、[帳票モジュール] ダイアログを終了します。設定された帳票モジュールが、[帳票定義] 画面の [帳票モジュール] タブにある [帳票モジュール ID 一覧] 領域に表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[帳票モジュール] ダイアログを終了します。

[適用] ボタン

設定した内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.9 [帳票 ID の選択] および [帳票モジュール ID の選択] ダイアログ

呼び出し元のダイアログに表示する、帳票定義、または帳票モジュール定義を選択します。

ここでは、[帳票 ID の選択] ダイアログを説明します。[帳票モジュール ID の選択] ダイアログを使用している場合は、文中の「帳票」を「帳票モジュール」と置き換えてください。

[帳票 ID 一覧] 領域

帳票定義の場合、帳票定義の ID (以降、帳票 ID と呼びます) および帳票名の一覧が表示されます。帳票 ID をクリックして反転表示されると、選択した状態になります。

[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブに指定した、[データフォルダパス] に保存されている帳票定義ファイルを解析し、記述されている帳票 ID および帳票名を表示します。

詳細は、「付録 A.3(1) [基本情報] タブ」を参照してください。

帳票 ID

帳票 ID の一覧が表示されます。

帳票名

帳票 ID に対応する帳票名が表示されます。

[選択] ボタン

[帳票 ID 一覧] 領域で帳票 ID を選択し、[選択] ボタンをクリックすると、呼び出し元のダイアログに、選択した帳票 ID が表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[帳票 ID の選択] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.10 [継承項目の追加] および [継承項目の編集] ダイアログ

[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域で、[追加] ボタンおよび [編集] ボタンをクリックした場合に表示される、次のダイアログについて説明します。

- **[継承項目の追加] ダイアログ**

[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域で、[追加] ボタンをクリックすると表示されます。[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域に、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) を追加します。

- **[継承項目の編集] ダイアログ**

[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域で、[編集] ボタンをクリックすると表示されます。[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域の、継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) の設定内容を編集します。

[継承項目の追加] ダイアログおよび [継承項目の編集] ダイアログの構成を次に示します。

[ソース項目] テキストボックス

カスタム申請のソース帳票で、カスタム申請帳票に継承する項目を指定します。[参照] ボタンをクリックして表示される [ソース項目編集] ダイアログで、選択できます。[ソース項目編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[参照] ボタン

[ソース項目編集] ダイアログが表示されます。[ソース項目編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[ターゲット項目] テキストボックス

カスタム申請帳票で、カスタム申請のソース帳票から継承する項目を指定します。[参照] ボタンをクリックして表示される [ターゲット項目編集] ダイアログで、選択できます。[ターゲット項目編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[参照] ボタン

[ターゲット項目編集] ダイアログが表示されます。[ターゲット項目編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[OK] ボタン

設定内容を保存して、[継承項目の追加] ダイアログまたは [継承項目の編集] ダイアログを終了します。設定した継承項目 (ソース項目およびターゲット項目) が、[帳票定義] 画面の [カスタム申請] タブにある [継承項目一覧] 領域に表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[継承項目の追加] ダイアログまたは [継承項目の編集] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ

このダイアログには、呼び出し元のダイアログによって異なったタイトルが表示されます。表示されたタイトルに置き換えてください。

呼び出し元のダイアログに表示する、予約語および各帳票モジュール内の項目変数名を選択します。[項目変数名編集] ダイアログの構成を次に示します。

[フリーテキスト入力] 領域

この領域には、呼び出し元のダイアログによって異なったタイトルが表示されます。表示されたタイトルに置き換えてください。

[予約語] 領域および [モジュール内の項目変数] 領域で入力した項目が表示されます。また、任意の文字を入力できます。

設定内容を保存すると、ここに設定された内容が、呼び出し元のダイアログに表示されます。

[定数化] チェックボックス

変数を定数化する場合に、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、呼び出し元のダイアログの項目変数名は、"#"+ [フリーテキスト] 領域に表示される文字列"となります。

[予約語] 領域

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義されている予約語を選択します。選択した結果が、[フリーテキスト入力] 領域に表示されます。

[モジュール内の項目変数] 領域

選択された帳票モジュール ID に対応する帳票モジュール内の項目変数名を選択します。ここで設定した内容は、[フリーテキスト入力] 領域に表示されます。

帳票モジュール内の項目変数名は、次の「帳票モジュール ID」および「項目変数一覧」で指定した値によって決まります。帳票モジュール内の項目変数名の形式は、「項目変数名"+"."+帳票モジュール ID"となります。

[帳票モジュール ID] ドロップダウンリスト

帳票モジュール ID を選択します。

[項目変数一覧] ドロップダウンリスト

項目変数を選択します。

[OK] ボタン

設定内容を保存して、[項目変数名編集] ダイアログを終了します。[フリーテキスト入力] 領域に表示された内容が、呼び出し元のダイアログに表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[項目変数名編集] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.12 【帳票モジュール定義】画面

メイン画面で選択した、帳票モジュール定義の設定内容を編集します。【帳票モジュール定義】画面の構成を次に示します。

【帳票モジュール定義の編集】画面には、次の六つのタブがあります。

- 【帳票モジュール】タブ
- 【項目入力・表示制御】タブ
- 【項目プロパティ】タブ
- 【項目グループ】タブ
- 【DB アクセス】タブ
- 【プロパティ】タブ

【OK】ボタン

設定した内容を保存して、【帳票モジュール定義】画面を終了します。

【キャンセル】ボタン

設定を中断して、【帳票モジュール定義】画面を終了します。

【適用】ボタン

設定した内容を有効にします。

【ヘルプ】ボタン

ヘルプが表示されます。

(1) 【帳票モジュール】タブ

帳票モジュール、および帳票モジュールを生成する基になる HTML ファイルについて設定します。【帳票モジュール】タブの構成を次に示します。

【帳票モジュール情報】領域

帳票モジュール名、帳票モジュール定義の ID (以降、帳票モジュール ID と呼びます) および帳票モジュールプレフィックスについて設定します。

【帳票モジュール名】テキストボックス

帳票モジュールの名前を入力します。この項目は必ず入力します。

入力例：販売契約

【帳票モジュール ID】テキストボックス

帳票モジュールに対応する、帳票モジュール ID を入力します。この項目は必ず入力します。

帳票モジュール ID を入力すると、帳票モジュール定義の定義情報ファイル (以降、帳票モジュール定義ファイルと呼びます) が自動生成されます。帳票モジュール定義ファイルには、入力した ID を基に自動的にファイル名が付けられます。

入力例：SalesContract

【帳票モジュールプレフィックス】テキストボックス

帳票モジュールを登録するときに、帳票項目に付けられるコード (半角英数字, 最大文字列長 32 バイト) を入力します。この項目は必ず入力します。このコードは、帳票内で重複しないように指定する必要があります。このコードは、ほかの帳票モジュールで同名の項目変数名があった場合に重複を避ける目的で、先頭に必ず "m" を追加し、元の項目変数と「_」(半角アンダーバー) で連結して、プレフィックスとして付けられます。

この指定値は各項目変数名の長さに影響するため、帳票画面では HTML ファイルのデータサイズに影響します。ネットワーク環境やアクセス性能のために、ブラウザで表示するファイルのデータサイズを意識する場合は、帳票モジュールプレフィックスを短くするよう、帳票を設計する必要があります。

入力例：m1

【帳票モジュール HTML】 領域

帳票モジュールを生成する基になる HTML ファイルについて設定します。

指定する HTML ファイル内では、各タグに name タグオプションの指定が必要です。name タグオプションの内容が項目変数名になります。name タグオプションの内容は、"="に続いて、「"」（半角ダブルクォーテーション）で囲んで指定します。name タグオプションの内容に使用できる文字は、半角英数字と「_」（半角アンダーバー）で、長さは 32 文字以内です。

「"」（半角ダブルクォーテーション）を、タグオプションを囲む目的ではなく、文字として使用する場合は、必ず"""と記述してください。

"<"または">"（半角の山括弧）を、タグを囲む目的ではなく、文字として使用する場合は、必ず"<"と記述してください。

"&"（半角アンパーセント）を、文字として使用する場合は、必ず"&"と記述してください。

JavaScript ソースは、HTML ファイルに直接記述しないで、ユーザ追加スクリプトとして別なファイルに記述します。

HTML ファイルに記述するデータや文字は、Shift_JIS コードをサポートします。

【帳票モジュール HTML ファイル名】 テキストボックス

帳票モジュールを生成する基になる HTML ファイルのファイル名を入力します。この項目は必ず入力します。

【参照】 ボタンをクリックして表示される【帳票モジュール HTML ファイルの選択】ダイアログで選択します。

【HTML ビューワ】 ボタンをクリックして、表示される HTML ビューワで、帳票モジュールの画面イメージを確認できます。

入力例：販売契約.htm

【HTML ビューワ】 ボタン

帳票モジュールの画面イメージを確認します。【HTML ビューワ】 ボタンをクリックすると、HTML ビューワが表示されます。

【参照】 ボタン

【帳票モジュール HTML ファイルの選択】ダイアログが表示されます。

(2) 【項目入力・表示制御】 タブ

帳票モジュールを構成する項目での、入力/非入力、表示/非表示の制御について設定します。【項目入力・表示制御】タブの構成を次に示します。

【申請帳票】 領域

申請帳票の帳票モジュールで、入力しない項目、および表示しない項目を設定します。

【非入力項目リストの編集】 ボタン

申請帳票の帳票モジュールで、入力しない項目を指定します。【非入力項目リストの編集】 ボタンをクリックして、表示される【申請帳票における非入力項目リストの編集】ダイアログで、入力しない項目を選択します。

【申請帳票における非入力項目リストの編集】ダイアログの詳細は、【付録 A.13 【項目入力・表示制御】タブに関連するダイアログ】を参照してください。

[非表示項目リストの編集] ボタン

申請帳票の帳票モジュールで、表示しない項目を指定します。[非表示項目リストの編集] ボタンをクリックして、表示される [申請帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログで、表示しない項目を選択します。[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.13 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

[承認帳票] 領域

承認帳票の帳票モジュールで、入力する項目、および表示しない帳票モジュール項目を設定します。

[入力項目リストの編集] ボタン

承認帳票の帳票モジュールで、入力する項目を指定します。[入力項目リストの編集] ボタンをクリックして、表示される [承認帳票における入力項目リストの編集] ダイアログで、入力する項目を選択します。[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.13 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

[非表示項目リストの編集] ボタン

承認帳票の帳票モジュールで、表示しない項目を指定します。[非表示項目リストの編集] ボタンをクリックして表示される [承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログで、表示しない項目を選択します。[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.13 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ」を参照してください。

BLC のポータル画面で、送信ログを確認する画面から帳票の確認画面を表示する場合、各モジュールの項目は、基本的にすべて非入力項目として表示されます。ただし、承認帳票で非表示項目と定義されている項目は、定義を継承するため、帳票の確認画面には表示されません。

(3) [項目プロパティ] タブ

帳票モジュールを生成する基になる HTML ファイルから項目情報を読み込み、帳票モジュールの各項目の機能を設定します。[項目プロパティ] タブの構成を次に示します。

[項目プロパティ一覧] 領域

帳票モジュールの各項目の、設定項目 (項目変数名、項目名、および項目種別) が表示されます。[編集] ボタンをクリックして、表示される [項目プロパティの編集] ダイアログで、設定項目の内容を編集します。[項目プロパティの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ」を参照してください。

項目変数名

ユーザが入力したデータおよび処理データが格納される変数の名前が表示されます。HTML ファイルで input タグや select タグの Name タグオプションに記述されている変数名です。

[編集] ボタンをクリックして表示される、[項目プロパティの編集] ダイアログの [項目変数名] テキストボックスに表示される内容と同じです。[項目プロパティの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ」を参照してください。

項目名

エラーメッセージとして表示するときの項目の名前 (項目変数の別名) を入力します。デフォルトで表示される項目名は、"項目変数名"+"オブジェクト"となります。[編集] ボタンをクリックして表示される、[項目プロパティの編集] ダイアログの [項目名] テキストボックスで変更できます。[項目プロパティの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ」を参照してください。

項目種別

項目変数の種別が表示されます。HTML ファイルで input タグの type タグオプションに記述されている値です。

[編集] ボタンをクリックして表示される、[項目プロパティの編集] ダイアログの [項目種別] テキストボックスに表示される内容と同じです。

[項目プロパティの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

帳票モジュールの項目について、設定項目 (項目変数名、項目名、および項目種別) を編集します。

[編集] ボタンをクリックすると、[項目プロパティの編集] ダイアログが表示されます。[項目プロパティの編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ」を参照してください。

(4) [項目グループ] タブ

帳票モジュールについて、項目グループ名と項目リストを設定します。

[項目グループ名一覧] 領域

帳票モジュールの項目グループ名の一覧が表示されます。

項目グループ名

項目グループ名が表示されます。

[編集] ボタンをクリックして、表示される [項目グループ定義編集] ダイアログで項目グループ名を変更できます。

[追加] ボタンをクリックして、表示される [項目グループ定義編集] ダイアログで項目グループ名を追加できます。

[項目グループ定義編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.15 [項目グループ定義編集] ダイアログ」を参照してください。

[追加] ボタン

[項目グループ名一覧] 領域に項目グループ名を追加します。[追加] ボタンをクリックすると、[項目グループ定義編集] ダイアログが表示されます。[項目グループ定義編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.15 [項目グループ定義編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

[項目グループ名一覧] 領域に表示されている項目グループ名を編集します。[編集] ボタンをクリックすると、[項目グループ定義編集] ダイアログが表示されます。[項目グループ定義編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.15 [項目グループ定義編集] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[項目グループ名一覧] 領域から、選択した項目グループ名を削除します。[項目グループ名一覧] 領域で項目グループ名を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択した項目グループ名が削除されます。

(5) [DB アクセス] タブ

DB アクセスの際に必要な情報を設定します。

帳票モジュール定義の DB アクセス定義は、選択している帳票モジュール定義にある項目に対して DB アクセスする場合に行います。複数の帳票モジュール定義内にある項目に対して DB アクセスする場合は、帳票定義の DB アクセス定義を行います。

DB アクセス定義は、[DB アクセス] タブにある [DB アクセス定義名一覧] 領域の上から順番に実行されます。

[DB アクセス定義名一覧] 領域

DB アクセス定義の主な設定項目 (DB アクセス定義名, 入出力属性, および定義実行) の一覧が表示されます。

DB アクセス定義名

DB の入出力処理をする DB アクセスの定義名が表示されます。DB アクセス定義名は, [追加] ボタンまたは [編集] ボタンをクリックして表示される [DB アクセス定義の編集] ダイアログで設定します。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は, 「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

入出力属性

DB アクセス時の入出力属性 (入力または出力) が表示されます。

定義実行

DB アクセス定義を実行するかどうか (有効/無効) が表示されます。

[追加] ボタン

[DB アクセス定義名一覧] 領域に DB アクセス定義を追加します。[追加] ボタンをクリックすると, [DB アクセス定義の編集] ダイアログが表示されます。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は, 「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

選択した DB アクセス定義を編集します。[DB アクセス定義名一覧] 領域から DB アクセス定義名を選択し, [編集] ボタンをクリックすると, [DB アクセス定義の編集] ダイアログが表示されます。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの詳細は, 「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[DB アクセス定義名一覧] 領域で DB アクセス定義を選択し, [削除] ボタンをクリックすると, DB アクセス定義が削除されます。

[↑] ボタン/ [↓] ボタン

[DB アクセス定義一覧] 領域で, DB アクセス定義が並ぶ順番を入れ替えます。[↑] ボタンをクリックすると, 選択した DB アクセス定義が一つ上に移動します。

[↓] ボタンをクリックすると, 選択した DB アクセス定義が一つ下に移動します。

(6) [プロパティ] タブ

帳票モジュール定義ファイルの管理情報を設定します。

[タイトル] テキストボックス

編集中の帳票モジュール定義のタイトルを入力します。

入力例: 販売契約

[作成者] テキストボックス

編集中の帳票モジュール定義の作成者, または提出先の顧客名を入力します。

入力例: (株) 日立製作所

[分類] テキストボックス

帳票モジュール定義の分類を入力します。

入力例: 稟議モジュール

[コメント] テキストボックス

帳票モジュールを識別するためのコメント（著作権表示や修正履歴など）を入力します。入力できる文字の種別に制限はありません。

入力例：All Rights Reserved. Copyright (C) 2002, Hitachi, Ltd.

作成日時

帳票モジュール定義を作成した日時（時間はローカル時間）が表示されます。

帳票モジュール定義を作成すると、自動的に入力されます。

更新日時

帳票モジュール定義を更新した日時（時間はローカル時間）が表示されます。

帳票モジュール定義を更新すると、自動的に入力されます。

付録 A.13 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ

[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブで、ボタンをクリックした場合に表示される、次のダイアログについて説明します。

- [申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログ
[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブで、[申請帳票] 領域の [非入力項目リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。申請帳票の中で、入力しない項目を選択します。
- [申請帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログ
[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブで、[申請帳票] 領域の [非表示項目リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。申請帳票の中で、表示しない項目を選択します。
- [承認帳票における入力項目リストの編集] ダイアログ
[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブで、[承認帳票] 領域の [入力項目リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。承認帳票の中で、入力する項目を選択します。カスタム申請のソース帳票および DB アクセス専用帳票では設定できません。
- [承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログ
[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目入力・表示制御] タブで、[承認帳票] 領域の [非表示項目リストの編集] ボタンをクリックすると表示されます。承認帳票の中で、表示しない項目を選択します。カスタム申請のソース帳票および DB アクセス専用帳票では設定できません。

BLC のポータル画面の [送信ログ] 画面から起動した帳票では、非入力項目となります。ただし、[承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログに選択されている項目は表示されません。

[申請帳票における非入力項目リストの編集] ダイアログ、[申請帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログ、[承認帳票における入力項目リストの編集] ダイアログおよび [承認帳票における非表示項目リストの編集] ダイアログの構成を次に示します。

[項目一覧] 領域

選択する項目の一覧が表示されます。一覧から必要な項目を選択します。必要な項目のチェックボックスをオンにします。

[全て選択] ボタン

[項目一覧] 領域にあるすべての項目のチェックボックスがオンになり、選択された状態になります。

[全て解除] ボタン

[項目一覧] 領域にあるすべての項目のチェックボックスがオフになり、選択されていない状態になります。

[OK] ボタン

設定内容を保存して、ダイアログを終了します。

[キャンセル] ボタン

設定内容をキャンセルして、ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.14 [項目プロパティの編集] ダイアログ

[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域に表示される、項目変数名、項目名、および項目種別を編集します。[項目プロパティの編集] ダイアログの構成を次に示します。

[番号] 領域

編集している帳票モジュールの番号が表示されます。

[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域で設定されている番号を入力します。

[<] ボタンまたは [>] ボタンをクリックして、編集する帳票モジュールの項目を変更できます。

[<] ボタン/ [>] ボタン

編集する項目プロパティを変更します。

[<] ボタンをクリックすると、一つ小さい番号の項目を表示します。

[>] ボタンをクリックすると、一つ大きい番号の項目を表示します。

[HTML ビューワ] ボタン

帳票モジュールの画面イメージを確認します。[HTML ビューワ] ボタンをクリックすると、HTML ビューワが表示されます。

[項目変数名] テキストボックス

[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域に表示される項目変数名が表示されます。変更はできません。

[項目種別] テキストボックス

[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域に表示される項目種別が表示されます。変更はできません。

[項目名] テキストボックス

[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域に表示される項目名を入力します。

項目名には、デフォルトでは、"項目変数名"+"オブジェクト"が設定されています。

帳票実行時の入力エラーチェックでエラーが発生した場合、エラーメッセージに表示される項目名となります。

入力例：契約年

[項目プロパティの編集] ダイアログには、次の三つのタブがあります。

- [共通項目] タブ

- [チェック] タブ
- [動作] タブ

[OK] ボタン

設定内容を保存して、[項目プロパティ] ダイアログを終了します。設定した項目変数名、項目名、および項目種別が、[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] に表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定内容をキャンセルして、[項目プロパティ] ダイアログを終了します。

[適用] ボタン

設定内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

(1) [共通項目] タブ

帳票モジュールの共通項目を設定します。

プロパティ

共通項目の名称が表示されます。

設定値

[プロパティ] に表示された共通項目の内容が表示されます。

[共通項目] タブに表示される設定項目を次に示します。

入力項目のチェックは、項目プロパティ単位で、次に示す順序で行われます。

- 1.条件付きチェックの指定がある場合、その対象項目変数のデータ種別
- 2.入力必須チェック
- 3.データ種別
- 4.入力チェック要によるチェックタブ指定内容

表 A-4 [共通項目] タブの設定項目

項目の名称	項目の説明
項目長	帳票画面に表示される画面項目の入力長 (文字数) です。HTML ファイルで input タグ(text または password)の maxlength タグオプションに適用する値です。 入力例：4
項目初期値	項目変数にあらかじめ代入する値です。img タグの場合は、src タグオプションに設定するパスを指定します。指定するパスは、自動生成帳票ファイルが格納されているフォルダを基準にした相対パスです。 入力例：2002
初期状態	項目種別が"checkbox"の場合、あらかじめチェックボックスをオンにするときは、"on"を設定します。
入力必須	ユーザ入力がない場合の処理を設定します。"yes"を指定した場合、ユーザ入力がないときはエラーとして処理し、エラーメッセージを表示します。項目種別が"select"の場合、マルチカラム表示時 (size 指定が 2 以上) のとき設定が有効になります。

項目の名称	項目の説明
入力必須	入力例: yes
入力チェック要	ユーザ入力がある場合の処理を設定します。 "yes"を指定した場合、入力データをチェックします ([チェック] タブの設定が実行されます)。 "yes"を指定した場合、[チェック] タブが選択できる状態になります。 入力例: yes
データ種別	入力データチェック処理の種別を設定します。種別は、"文字"、"整数"、"数値" (実数) の3種類です。入力データがデータ種別と異なる場合、入力エラーとして処理し、エラーメッセージを表示します。 デフォルトでは、"文字"が設定されています。 入力例: 整数
桁区切り表示	データ種別で"整数"または"数値 (実数)"が選択されている場合、表示項目の値を桁区切りで表示するかどうかを設定します。 "yes"に設定すると、整数値または実数値を表す数字文字列を、3桁ごとに「,」(半角コンマ)で区切って表示します。整数値または実数値を表す数字文字列だけを桁区切り表示します。 データ種別で"整数"が選択されている場合、10進数で構成された数字文字列を桁区切り表示します。データ種別で"実数"が選択されている場合、10進数で構成された数字文字列、および小数点(先頭および末尾を除く)を含む10進数で構成された数字文字列を桁区切り表示します。これ以外の文字を含む場合は、桁区切り表示しません。 負の値を表す場合は、左端にマイナス記号だけが有効です。また、0を表す整数および実数にマイナス記号が付加されている場合、マイナス記号を省略します。 データ種別で"文字"が選択されている場合は、桁区切り表示するかどうか設定できません。
項目表示時のスタイル定義	帳票モジュールの項目を表示する場合のスタイルを設定します。 項目種別が"textarea"の場合だけ設定できます。設定できる値は、style タグオプションの仕様に依存します。 入力例: Background-color:#DDFFDD;color:#006400

(2) [チェック] タブ

ユーザの入力があつた場合の処理を設定します。「入力チェック要」に"yes"を指定した場合、入力データをチェックします。

入力規則

ユーザが入力したデータのエラーをチェックする場合の規則です。規則外のデータが入力された場合、エラー処理が行われます。「入力規則」の設定項目について次に示します。

表 A-5 エラーチェックの設定項目 (入力規則)

項目名	項目の説明
最小文字長*	ユーザ入力を受け付ける最低限のデータ長です。この値よりも短いデータが入力された場合、入力エラーとして処理し、エラーメッセージを表示します。 「入力必須」に"no"が指定されている場合、未入力 (空の入力) の状態では、エラーチェックは実行されません。最小文字長を必ずチェックしたい場合は、「入力必須」に"yes"を指定してください。 入力例: 5
最大文字長*	ユーザ入力を受け付ける最大限のデータ長です。この値よりも長いデータが入力された場合、入力エラーとして処理し、エラーメッセージを表示します。

項目名	項目の説明
最大文字長*	入力例：5
値範囲比較条件 1	ユーザ入力データの入力できる範囲を設定します。値範囲比較条件 1 と値範囲比較値 1 を組み合わせて、ユーザ入力を受け付ける条件を設定します。比較条件には、「等しい (=)」、「不等 (!=)」、「小なり (<)」、「大なり (>)」、「以下 (<=)」、「以上 (>=)」の 6 種類から選択します。比較値は、項目変数と比較する値を設定します。この条件に合わないデータが入力された場合、入力エラーとして処理し、エラーメッセージを表示します。 入力例 (値範囲比較条件 1) : >= 入力例 (値範囲比較値 1) : 1000 比較値は、必ずデータ種別を考慮して適切な値を指定する必要があります。
値範囲比較値 1**	
値範囲比較条件 2	ユーザ入力データの入力できる範囲を設定します。比較条件および比較値の設定方法は、比較条件 1・比較値 1 と同じです。値範囲比較条件 1 と値範囲比較条件 2、値範囲比較値 1 と値範囲比較値 2 の両方を設定することで入力できる範囲を限定できます。 入力例 (値範囲比較条件 2) : <= 入力例 (値範囲比較値 2) : 2000 比較値は、必ずデータ種別を考慮して適切な値を指定する必要があります。
値範囲比較値 2**	
先頭選択肢を無効	ドロップダウンリスト (select) では、先頭の項目を使ってユーザにメニューの使用方法を説明することがあります。ドロップダウンリストの先頭の項目を選択できないようにするには"yes"を設定します。 入力例：yes

注※

入力した文字列は、帳票実行時、ブラウザによって JavaScript 構文として数値文字列が解釈されます。文字列の長さは、全角文字の 1 字を 2 バイトと数えます。

条件付きチェック

エラーチェック処理の実行条件を設定します。ほかの帳票モジュールの項目の入力結果に応じて、エラーチェック処理を行う場合に設定します。

また、この条件が成立した場合のエラーチェック処理は、「入力必須」として処理します。

「条件付きチェック」の設定項目について次に示します。

表 A-6 エラーチェックの設定項目 (条件付きチェック)

項目名	項目の説明
対象項目変数名	実行条件を判定する項目変数名です。ここで設定された項目変数の値に応じて、エラーチェック処理が実行されます。 入力例：Year.SalesContract
対象項目変数の種別	「対象項目変数名」で指定した画面項目の項目種別です。対象項目変数名を入力すると自動的に設定されます。編集できません。 入力例：text
比較条件	エラーチェック処理の実行条件です。実行条件は次のようになっています。下記の条件文が成立した場合にエラーチェック処理が実行されます。比較条件には、「等しい (=)」、「不等 (!=)」、「小なり (<)」、「大なり (>)」、「以下 (<=)」、「以上 (>=)」の 6 種類から選択します。 入力例：>=
比較値	比較値は、項目変数と比較する値を設定します。項目種別が"checkbox"の場合、選択状態 ("on"または"off") を設定します。改行などの制御文字は設定できません。

項目名	項目の説明
比較値	<p>対象項目変数が text 項目で、データ種別が整数または数値の場合、数値（例：1000 または 1,000）を指定します。数値以外（例：abc）を指定すると、文字列として比較します。数値の解釈は、JavaScript の数値の扱いに準拠します。</p> <p>比較条件に「小なり (<)」、「大なり (>)」、「以下 (<=)」または「以上 (>=)」が含まれる場合、何も入力しないと、"0"として扱われます。</p> <p>入力チェックは、[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブにある [項目プロパティ一覧] 領域に表示される順に実行されます。</p> <p>入力例（比較値）：2000</p> <p>比較値は、必ずデータ種別を考慮して適切な値を指定する必要があります。</p>
対象項目 index [※]	<p>画面項目の項目種別がラジオボタン (radio) やドロップダウンリスト (select) の場合、エラーチェックを実行したい選択肢を指定します。指定は選択肢の順番で行い、先頭から 0,1,2,...となります。ドロップダウンリストでは、比較条件として、「等しい (=)」,「不等 (!=)」が指定できます。対象項目「index」と等しい（または不等な）選択肢が選択された場合に、エラーチェック処理を実行します。</p> <p>入力例：0</p>

注※

入力した文字列は、帳票実行時、ブラウザによって JavaScript 構文として数値文字列が解釈されます。

(3) 【動作】 タブ

帳票モジュールの項目の動作を設定します。

OnClick アクション

帳票モジュールの項目がマウスでクリックされた場合の処理です。項目で OnClick イベントが発生したときに、コールする関数を設定します。OnClick アクションの設定項目を次に示します。

表 A-7 動作タブの設定項目 (OnClick アクション)

項目名	項目の説明
ID	<p>OnClick イベント発生時に実行される処理です。</p> <p>"jsfunc" (JavaScript 関数呼出し) および"jssource" (JavaScript ソース) の 2 種類の処理を設定できます。</p> <p>入力例：jsfunc</p>
関数名	<p>ID が"jsfunc" の場合に実行する関数名を設定します。</p> <p>入力例：u_func1</p>
引数個数	<p>ID が"jsfunc"の場合に実行する関数の引数を設定します。関数によって、設定できる引数は異なります。*</p> <p>入力例：0</p>
ソース	<p>ID が"jssource"の場合に実行する JavaScript ソースを記述します。</p> <p>入力例：window.close()</p>

注※

各関数の引数は、「各関数の引数」を参照してください。

OnFocus アクション

帳票モジュールの項目にフォーカスが移動した場合の処理です。項目で OnFocus イベントが発生したときにコールする関数を設定します。OnFocus アクションの設定項目について次に示します。

表 A-8 動作タブの設定項目 (OnFocus アクション)

項目名	項目の説明
ID	OnFocus イベント発生時に実行される処理です。 "jsfunc" (JavaScript 関数呼出し) および"jssource" (JavaScript ソース) の 2 種類の処理を設定できます。 入力例: jsfunc
関数名	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数名を設定します。 入力例: u_func2
引数個数	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数の引数を設定します。関数によって、設定できる引数は異なります。* 入力例: 0
ソース	ID が"jssource"の場合に実行する JavaScript ソースを記述します。 入力例: window.close()

注※

各関数の引数は、「各関数の引数」を参照してください。

OnChange アクション

帳票モジュールの項目の値が変更された場合の処理です。項目で OnChange イベントが発生したときにコールする関数を設定します。OnChange アクションの設定項目について次に示します。

表 A-9 動作タブの設定項目 (OnChange アクション)

項目名	項目の説明
ID	OnChange イベント発生時に実行される処理です。 "jsfunc" (JavaScript 関数呼出し) および"jssource" (JavaScript ソース) の 2 種類の処理を設定できます。 入力例: jsfunc
関数名	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数名を設定します。 入力例: u_func3
引数個数	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数の引数を設定します。関数によって、設定できる引数は異なります。* 入力例: 0
ソース	ID が"jssource"の場合に実行する JavaScript ソースを記述します。 入力例: window.close()

注※

各関数の引数は、「各関数の引数」を参照してください。

OnBlur アクション

帳票モジュールの項目からほかへフォーカスが移動した場合の処理です。具体的には、項目で OnBlur イベントが発生したときにコールする関数を設定します。OnBlur アクションの設定項目を次に示します。

表 A-10 動作タブの設定項目 (OnBlur アクション)

項目名	項目の説明
ID	OnBlur イベント発生時に実行される処理です。 "jsfunc" (JavaScript 関数呼出し) および"jssource" (JavaScript ソース) の 2 種類の処理を設定できます。 入力例: jsfunc

項目名	項目の説明
ID	入力例：jsfunc
関数名	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数名を設定します。 入力例：u_func4
引数個数	ID が"jsfunc"の場合に実行する関数の引数を設定します。関数によって、設定できる引数は異なります。* 入力例：0
ソース	ID が"jssource"の場合に実行する JavaScript ソースを記述します。 入力例：window.close()

注※

各関数の引数は、「各関数の引数」を参照してください。

各関数の引数

[動作] タブで設定する動作に関する関数と、その引数を次に示します。

表 A-11 JavaScript 関数呼出し：jsfunc

指定方法	ドロップダウンリストで指定します。
機能	ユーザ追加処理で作成した JavaScript 関数をコールします。
関数名	コールする JavaScript 関数名を指定します。
引数個数	指定する引数の数を指定します。1～10 を指定します。
引数 1～引数 10	JavaScript 関数に渡す引数です。
備考	<p>指定できる関数引数は最大 10 個です。11 個以上の引数が必要な場合は、配列を使用するか、または this オブジェクトを使用します。</p> <p>JavaScript 関数呼び出しに限り、引数に予約語"BLC_RadioCount"が使用できます。複数あるラジオボタンのうち、クリックされたラジオボタンを表す番号が設定されます。番号は先頭から 0, 1, 2, …の順になります。</p> <p>指定する引数の形式によって、帳票実行時に次のように変換します。</p> <p>シングルクォーテーション (') で囲まれた引数の場合 変換しないで、そのまま文字列型の引数にします。</p> <p>シングルクォーテーション (') で囲まれないで、項目変数名形式の引数の場合 変換して、文字列型の引数にします。</p> <p>シングルクォーテーション (') で囲まれないで、項目変数名形式ではない引数の場合 変換しないで、そのまま引数にします。</p> <p>明細領域内の項目プロパティで、明細領域内の項目変数名を引数に指定した場合 明細項目の変数名形式 ("_"+行番号) を付けた形式) に変換して、文字列型の引数にします。</p>

表 A-12 JavaScript ソース：jssource

指定方法	ドロップダウンリストで指定します。
機能	JavaScript のソースを記述します。
ソース	実行する JavaScript ソースを指定します。
備考	引数が指定できないため、関数コールする場合には引数のない関数を指定する必要があります。 入力例：window.close()

付録 A.15 [項目グループ定義編集] ダイアログ

[帳票モジュール定義] 画面の [項目グループ] タブにある [項目グループ名一覧] に表示する、帳票モジュール定義の項目グループが表示されます。[項目グループ定義編集] ダイアログの構成を次に示します。

[番号] 領域

編集中の項目グループ定義が表示されます。

[帳票モジュール定義] 画面の [項目グループ] タブにある [項目グループ名一覧] 領域に表示される項目モジュール定義の番号が表示されます。

[<] ボタン/ [>] ボタン

編集する項目グループを変更します。

[<] ボタンをクリックすると、一つ小さい番号の項目を表示します。

[>] ボタンをクリックすると、一つ大きい番号の項目を表示します。

[項目グループ名] テキストボックス

[帳票モジュール定義] ダイアログの [項目グループ] タブで [項目グループ名一覧] に表示される、項目グループ名を入力します。

ただし、使用する帳票モジュール内にある項目変数名と同一の名称を設定しないでください。

入力名 : ContractDate

[項目一覧] 領域

結合する項目変数の一覧を表示します。

[追加] ボタンをクリックして表示される [項目グループ-項目 追加] ダイアログで、項目変数を追加できます。[項目グループ-項目 追加] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[項目一覧] 領域で項目変数を選択し、[編集] ボタンをクリックして表示される [項目グループ-項目 追加] ダイアログで、項目変数を編集できます。[項目グループ-項目 追加] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[項目一覧] 領域で項目変数を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、項目変数を削除できます。

入力例 : Year.SalesContract Month.SalesContract Day.SalesContract

[追加] ボタン

[項目一覧] 領域に項目変数を追加します。クリックすると、[項目グループ-項目 追加] ダイアログが表示されます。[項目グループ-項目 追加] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

[項目一覧] 領域で選択した項目変数を追加します。

[項目一覧] 領域から項目変数を選択し、[編集] ボタンをクリックすると [項目グループ-項目 追加] ダイアログが表示されます。[項目グループ-項目 追加] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[項目一覧] 領域から、選択した項目変数を削除します。[項目一覧] 領域で項目変数を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択した項目変数が削除されます。

[↑] ボタン/ [↓] ボタン

[項目一覧] 領域で選択した項目変数が表示される順番を変更します。

[↑] ボタンをクリックすると、選択した項目が一つ上に移動します。

[↓] ボタンをクリックすると、選択した項目が一つ下に移動します。

[連結フォーマット] テキストボックス

連結する項目変数の書式を入力します。DB 出力で日付型カラムに使用する場合、DB の SQL 文に合致するような書式にする必要があります。先頭と末尾に「」（シングルクォーテーション）を付ける必要があるかどうかは、BLC が自動的に処理します。

連結フォーマットの書式を次に示します。

表 A-13 連結フォーマットの書式

書式	説明
%s,%d,%x	[項目一覧] 領域の各項目の値を、そのまま指定します。
%0nd, %0nx	[項目一覧] 領域の各項目の値が n 文字数に満たない場合、右詰で入力し、空欄に"0"を入力します。
%0ns	[項目一覧] 領域の各項目の値が n 文字に満たない場合、右詰で入力し、空欄に半角スペースを入力します。
%ns	[項目一覧] 領域の各項目の値が n 文字に満たない場合、左詰で入力し、空欄に半角スペースを入力します。
%nd, %nx	[項目一覧] 領域の各項目の値が n 文字に満たない場合、左詰で入力し、空欄に"0"を入力します。

注 1

"%"は"%"の固定文字列となります。

注 2

上記以外の書式中の文字は、固定文字列となります。

入力例：%04d-%02d-%02d

[入力時チェック種別] ドロップダウンリスト

入力値のチェック種別を入力します。右側にあるボタンをクリックして、表示される一覧で選択できます。"date"を選択すると、入力されていた場合に、日付があるかどうかをチェックします。日付入力を必須チェックにする場合、[帳票モジュール定義] 画面の [項目プロパティ] タブで、「年」の項目を入力必須に指定します。

日付のチェックを条件付きチェックにしたい場合、[項目一覧] 領域の先頭項目（年）に対応する項目変数名に対して、[項目プロパティの編集] ダイアログで条件付きチェックの定義をする必要があります。

詳細は、「付録 A.12(3) [項目プロパティ] タブ」を参照してください。

入力例：date

[OK] ボタン

設定内容を保存して、[項目グループ定義編集] ダイアログを終了します。設定した帳票モジュール定義の項目グループが、[帳票モジュール定義] 画面の [項目グループ] タブにある [項目グループ名一覧] 領域に表示されます。

[キャンセル] ボタン

設定内容をキャンセルして、[項目グループ定義編集] ダイアログを終了します。

[適用] ボタン

設定内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

項目グループには、次の三つの用途があります。

- データベースの一つのカラムと複数の帳票モジュールの項目を対応付けて、[DB アクセス定義] ダイアログの [カラム項目定義] タブにある [カラム項目定義] 領域で、「項目変数名」に項目グループ名を指定します。DB 入力の定義では、連結フォーマットの書式でカラムの値を解析して、帳票モジュールの項目に読み込みます。DB カラムの値が、連結フォーマットの書式で解析できない内容になることがある場合は、使用しないでください。
- DB 出力の定義では、連結フォーマットの書式でカラムの値を作成し、帳票モジュールの項目の値を格納します。
- 年月日の日付をチェックする際、JavaScript を使って、うるう年を含めた日付実在チェックができます。年月日の三つの項目を、年、月、日の順で、[項目グループ定義編集] ダイアログの [項目一覧] 領域に指定してください。

付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ

帳票定義および帳票モジュール定義で、DB アクセス定義を編集する場合に必要な情報を設定します。[DB アクセス定義の編集] ダイアログでの情報の入力方法の詳細は、「3.5 DB アクセス定義の定義方法」を参照してください。[DB アクセス定義の編集] ダイアログの構成を次に示します。

[番号] 領域

[帳票定義] 画面および [帳票モジュール定義] 画面の [DB アクセス] タブにある、[DB アクセス定義名一覧] の番号が表示されます。

[<] ボタン / [>] ボタン

編集する DB アクセス定義を変更します。

[<] ボタンをクリックすると、一つ小さい番号の DB アクセス定義を表示します。

[>] ボタンをクリックすると、一つ大きい番号の DB アクセス定義を表示します。

[DB アクセス定義] 領域

[読込] ボタン

ひな形として保存している DB アクセス定義を、ファイルから読み込みます。[読込] ボタンをクリックすると、[DB アクセス定義ファイルの選択] ダイアログが表示されます。

[保存] ボタン

DB アクセス定義をひな形として、ファイルに保存します。DB アクセス定義のファイル名については、「DB アクセス定義のファイル名」を参照してください。

[DB アクセス定義を無効化する.] チェックボックス

[DB アクセス定義を無効化する.] チェックボックスをオンにすると、編集中の DB アクセス定義は実行されません。

ユーザの追加処理 (ユーザ定義クラス) で、ある条件のときだけ DB アクセス定義を実行したい場合に、「無効」を選択してください。実行方法については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCDBDef クラス」の説明を参照してください。

[DB アクセス定義名] テキストボックス

DB アクセス定義の名称を入力します。DB アクセス定義名と、DB アクセス定義のファイル名との関係については、「DB アクセス定義のファイル名」を参照してください。

入力例: MName_NameInput

[DB アクセス定義の編集] ダイアログには、次の三つのタブがあります。

- [接続テーブル定義] タブ
- [SQL 検索条件指定] タブ
- [カラム項目定義] タブ

[OK] ボタン

設定内容を保存して、[DB アクセス定義の編集] ダイアログを終了します。

[キャンセル] ボタン

設定を中断して、[DB アクセス定義の編集] ダイアログを終了します。

[適用] ボタン

設定内容を有効にします。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

<DB アクセス定義名およびファイル名>

DB アクセス定義をファイルに保存する場合、初期値として次の規則でファイル名が付けられます。このファイル名は変更できます。

帳票定義ファイルの場合

- DB アクセス定義名

"F"+帳票 ID+"_"+任意の文字列"

("_"は半角アンダーバー)

"F(帳票 ID)_"は帳票ジェネレータ (BLSG) 機能によって自動的に付加される部分で、変更できません。"_のあとに目的の DB アクセス定義の名前を設定してください。

- ファイル名

"DB アクセス定義名+".dat"

帳票モジュール定義ファイルの場合

- DB アクセス定義名

"M"+帳票モジュール ID+"_"+任意の文字列"

("_"は半角アンダーバー)

"M(帳票モジュール ID)_"は帳票ジェネレータ (BLSG) 機能によって自動的に付加される部分で、変更できません。"_のあとに目的の DB アクセス定義の名前を設定してください。

- ファイル名

"DB アクセス定義名+".dat"

(1) [接続テーブル定義] タブ

DB へ接続する際に必要な情報を設定します。

設定方法の詳細は、「3.5 DB アクセス定義の定義方法」を参照してください。

[DB 接続情報] ドロップダウンリスト

BLC プロパティファイルで定義した DB 接続情報を識別する、DB 接続名を指定します。または、ユーザ情報取得用の予約語を指定します。[DB 接続情報] の右側にあるボタンをクリックして、表示される一覧 (次の三つの項目) から、次の予約語も選択できます。

DB 接続名の予約語

BLC システムで使用する DB 接続情報を使って DB アクセスを行う場合に指定します。

- BLCMASTER : BLC データベース

ユーザ情報取得用の予約語

ユーザ ID や名前などを取得する場合に指定します。

- _USERINFO : ユーザ情報
- _AUTHINFO : 認証時ユーザ情報

入力例 : _USERINFO

"_AUTHINFO"は、認証をしたユーザ情報です。通常は、実行時のユーザの情報である"_USERINFO"を指定します。

"_USERINFO"および"_AUTHINFO"を指定した場合、テーブル名は入力できなくなります。[SQL 検索条件指定] タブも選択できない状態になります。

[テーブル名] テキストボックス

DB アクセス時のテーブル名を入力します。

テーブル名には、英字の大文字、数字、および全角文字が使用できます。英字の大文字/小文字は区別されません。また、「"」(半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるテーブル名は指定できません。

[DB 入出力属性] ドロップダウンリスト

DB アクセス時の入出力属性を選択します。[DB 入出力属性] の右側にあるボタンをクリックして表示される次のドロップダウンリストから選択します。

- 入力
- 出力

入力例 : 入力

入出力は、次の条件で実行されます。

1. 新規に申請する帳票を開くときに、入力の定義を実行します。
2. 帳票モジュールを非表示にする定義をした作業ノードとカスタム申請のソース帳票からの表示条件の判定によって非表示になった帳票モジュールについて、その帳票モジュールに定義した DB アクセス定義の実行を抑止します。
3. 承認と送信ログからの内容確認で帳票を表示するときは、候補値取得の入力の DB アクセス定義だけを実行します。
4. 出力の DB アクセス定義は DB 出力ノードの指定がある作業で実行します。ただし、2.に該当する場合は、DB アクセス定義の実行を抑止します。

[DB 操作種別] ドロップダウンリスト

DB アクセス時の操作種別を選択します。[DB 操作種別] の右側にあるボタンをクリックして表示される次のドロップダウンリストから選択します。候補値取得用を選択した場合、カラム項目定義の項目変数名は、"_OptValue"または"_OptText"以外は選択できません。

- 単項目
- リスト項目
- 候補値取得用
- レコード削除用

入力例 : 単項目

(2) [SQL 検索条件指定] タブ

接続 DB テーブルから情報を取得する際の検索条件を指定します。

検索条件の指定方法の詳細は、「3.5.9 DB アクセス定義の定義方法の詳細」を参照してください。

[SQL 用検索条件項目] 領域

SQL 文の WHERE 句の内容 (WHERE 句に指定する条件文) を入力します。

検索条件が複数ある場合、SQL 文法に従って AND などで接続します。改行はスペース 1 文字と解釈されます。項目変数名または予約語を指定して、実行時の値に置換する場合、"<#=#項目変数名#>"の形式で指定できます。

入力例: CDUSER = '<#=#BLC_UserID#>'

カラム名を指定する場合は、「付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ」の「[カラム名] テキストボックスまたはドロップダウンリスト」で説明する規則に従う必要があります。

[SQL 用条件オプション] テキストボックス

SQL 文の最後尾に指定する句 (ORDER BY など) を入力します。

カラム名を指定する場合は、「付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ」の「[カラム名] テキストボックスまたはドロップダウンリスト」で説明する規則に従う必要があります。

Oracle を使用する場合、[カラム項目定義] タブで同じカラム名を複数指定し、そのカラム名をキーとしてソートするときは、"ORDER BY 列番号"で入力します。

[レコード数項目変数名] テキストボックス

DB 操作種別がリスト項目または候補値取得用の場合は、レコード数を示す項目変数名を入力します。

常に出力するレコードが固定の場合などに、「#」(シャープ)に続けて行数を入力します。候補値を参照する場合は、候補値取得項目変数名を設定します。[参照] ボタンをクリックして表示される [レコード数項目変数名編集] ダイアログで、候補値取得項目変数名を選択します。[レコード数項目変数名編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[参照] ボタン

クリックすると、[レコード数項目変数名編集] ダイアログが表示されます。[レコード数項目変数名編集] ダイアログの詳細は、「付録 A.11 [項目変数名編集] ダイアログ」を参照してください。

[参照ゼロ件エラー扱い] チェックボックス

DB アクセスによって得られたレコード数が 0 件のときにエラーとしたい場合、チェックボックスをオンにします。

[候補値追加取得] チェックボックス

HTML ファイル内に記述したドロップダウンリスト候補値またはリスト項目に、DB アクセスして取得したデータを追加する場合に選択します。チェックボックスをオンにします。

(3) [カラム項目定義] タブ

DB テーブルのカラムと画面項目の対応を設定します。

[カラム項目定義一覧] 領域

カラム名および項目変数の一覧が表示されます。

カラム名

接続先 DB テーブルのカラム名を表示します。DB アクセス時に有効とするカラム名は、チェックボックスをオンにします。

項目変数

HTML ファイルに記述されている画面項目変数名またはキーカラム制御用の予約語を表示します。

[追加] ボタン

[カラム項目定義一覧] 領域にカラム名および項目変数を追加します。[追加] ボタンをクリックすると、[カラム項目定義] ダイアログが表示されます。[カラム項目定義] ダイアログの詳細は、「付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ」を参照してください。

[編集] ボタン

[カラム項目定義一覧] 領域のカラム名および項目変数の設定内容を編集します。[カラム項目定義一覧] 領域でカラム名および項目変数を選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[カラム項目定義] ダイアログが表示されます。[カラム項目定義] ダイアログの詳細は、「付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ」を参照してください。

[削除] ボタン

[カラム項目定義一覧] 領域からカラム名および項目変数を削除します。[カラム項目定義一覧] 領域でカラム名および項目変数を選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択したカラム名および項目変数が削除されます。

付録 A.17 [カラム項目定義] ダイアログ

[DB アクセス定義の編集] ダイアログの [カラム項目定義] タブにある [カラム項目定義一覧] 領域に、カラム定義を追加します。または、カラム定義の設定内容を編集します。

[カラム名] テキストボックスまたはドロップダウンリスト

接続先 DB テーブルのカラム名を入力します。

カラム名には、英字の大文字、数字、および全角文字が使用できます。英字の大文字/小文字は区別されません。また、「"」(半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるカラム名は指定できません。

または、[接続テーブル定義] タブで定義する「DB 接続情報」が、"_USERINFO"または"_AUTHINFO"の場合は、ドロップダウンリストからカラム名を選択します。

入力例：NMLASTNAMEJ

リスト項目の出力用 DB アクセス定義を行う場合には、項目変数名にキーカラム制御用の予約語を指定できません。指定できるキーカラム制御用の予約語を次に示します。

表 A-14 キーカラム制御用の予約語一覧

予約語※1	説明
_Count	インデックス番号として0からの値を自動出力します。 出力するインデックス番号を持つレコードがある場合、既存のレコードを更新します。この予約語を指定するカラムは、数値型である必要があります。※2
_NewIndex	SQL 検索条件でヒットした既存のレコードセットにないインデックス番号を順に使用して、レコードを出力します。 既存のレコードを更新しません。この予約語を指定するカラムは、数値型である必要があります。※2
_UpdateKey	"_UpdateKey"を指定したカラムのデータを、レコードを更新するか追加するかの判定に使用します。 SQL 検索条件でヒットした既存のレコードセットに対して、追加するか更新するかを判定します。 "_UpdateKey"を指定したカラムのデータと一致するレコードは更新し、一致するレコードがない場合は追加します。

予約語※1	説明
_UpdateKey	"_UpdateKey"を指定したカラムは、項目変数名との対応付けを示すカラム項目定義が別に必要です。※2

注※1

一つの DB アクセス定義内に"_Count", "_NewIndex", および"_UpdateKey"を同時に指定できません。また、複数指定することもできません。キーカラム制御方式の詳細は、「3.5.8 DB 出力制御」を参照してください。この三つの予約語が一つも指定されていないリスト項目で DB 出力する場合は、レコードを追加します。

注※2

SQL 検索条件では、複数行に対応する既存レコードがすべてヒットする条件式を記述する必要があります。

候補値参照の DB アクセス定義を行う場合、項目変数名には制御用の予約語を指定できます。指定できる予約語を次に示します。

表 A-15 候補値参照制御用の予約語一覧

予約語	説明
_OptValue	取得した値を、HTML の select タグの候補値 option タグの VALUE の値に割り当てます。
_OptText	取得した値を、HTML の select タグの候補値 option タグの表示文字列に割り当てます。

[接続テーブル定義] タブの [DB 接続情報] ドロップダウンリストに, "_USERINFO"または"_AUTHINFO"を指定した場合, 「カラム名」ドロップダウンリストに次に示す予約語が指定できます。指定できる予約語を次に示します。

表 A-16 ユーザ情報カラム情報名一覧

情報名	BLC_USER_V ビュー カラム名
ユーザ ID	CDUSER
従業員番号	CDPERSONALNO
氏名名字 (漢字)	NMLASTNAMEJ
氏名名前 (漢字)	NMFIRSTNAMEJ
氏名名字 (カタカナ)	NMLASTNAMEK
氏名名前 (カタカナ)	NMFIRSTNAMEK
氏名名字 (英字)	NMLASTNAMEE
氏名名前 (英字)	NMFIRSTNAMEE
所属組織コード	CDBELONGTO
所属組織名称	NMBELONGTO
役職コード	CDJOBTITLE
役職名	NMJOBTITLEFULL
役職略称	NMJOBTITLE
メール (e-Mail)	NMMAILADDRESS
TEL 外線	NMTELOUTSIDE

情報名	BLC_USER_V ビュー カラム名
TEL 内線	NMTELEXTENSION

「カラム名」で指定したカラムの型によって、DB 出力で SQL 文組み立て時の出力データ形式が決定されます。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」の「BLCDBDef クラス」の説明を参照してください。

【項目変数名】 テキストボックス

HTML ファイル中の画面項目変数またはキーカラム制御用の予約語を表示します。「#」(シャープ) に続けて文字列を指定した場合は、定数と解釈して格納します。【参照】 ボタンをクリックして表示される【カラム項目定義-項目変数名編集】ダイアログでも選択できます。【カラム項目定義-項目変数名編集】ダイアログの詳細は、「付録 A.11 【項目変数名編集】ダイアログ」を参照してください。

入力例：LastName.Name

【参照】 ボタン

HTML ファイル中の画面項目変数またはキーカラム制御用の予約語を選択します。【参照】 ボタンをクリックすると、【カラム項目定義-項目変数名編集】ダイアログが表示されます。【カラム項目定義-項目変数名編集】ダイアログの詳細は、「付録 A.11 【項目変数名編集】ダイアログ」を参照してください。

【OK】 ボタン

クリックすると、設定内容を保存して、【カラム項目定義】ダイアログを終了します。設定したカラム項目定義が、【DB アクセス定義の編集】ダイアログの【カラム項目定義】タブにある【カラム項目定義一覧】領域に表示されます。

【キャンセル】 ボタン

クリックすると、設定内容をキャンセルして、【カラム項目定義】ダイアログを終了します。

【ヘルプ】 ボタン

クリックすると、ヘルプが表示されます。

付録 A.18 【条件定義】 ダイアログ

【帳票定義】画面の【基本情報】タブで設定したビジネスプロセス定義ファイルの条件定義を編集します。【条件定義】ダイアログでは、SQL 文を直接編集することなく、テーブル名やカラム名の値を編集できます。【条件定義】ダイアログの構成を次に示します。

【条件定義】ダイアログには、次の二つの領域と二つのタブがあります。

- 【ビジネスプロセス定義】領域
 - 【業務ステップ】タブ
 - 【制御ノード】タブ
- 【定義内容】領域

【OK】 ボタン

編集した内容を保存して、【条件定義】ダイアログを終了します。

【キャンセル】 ボタン

編集を中断して、【条件定義】ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

(1) [ビジネスプロセス定義] 領域

[ビジネスプロセス定義] 領域の構成を次に示します。

[ビジネスプロセス定義] 領域の各タブに表示された項目を選択すると、[定義内容] 領域に詳細が表示されます。

[業務ステップ] タブ

ビジネスプロセス定義ファイルの業務ステップの詳細が表示されます。

業務ステップ名

ビジネスプロセス定義の業務ステップ名が表示されます。並列業務ステップ作業の子業務ステップ名もこの項目に表示されます。

作業名

ビジネスプロセス定義の作業名が表示されます。並列作業の子作業の場合は、「作業名-子作業名」が表示されます。

種別

次のどれかが表示されます。

- 発生条件
- 完了条件
- 時間取得ルール
- 生成ルール
- 振り分けルール

名称

条件名（ルール名および振り分けルール名を含む）として登録されている名称が表示されます。

[制御ノード] タブ

ビジネスプロセス定義ファイルの制御ノードの詳細が表示されます。

遷移元

条件が定義されているノードの遷移元が表示されます。

遷移先

条件が定義されているノードの遷移先が表示されます。

種別

「分岐条件」が表示されます。

名称

条件名として登録されている名称が表示されます。

[条件変更] ボタン

[条件変更] ボタンは、条件を指定している場合だけ選択できます。

各タブの項目を選択して [条件変更] ボタンをクリックすると、[条件選択] ダイアログが表示されます。[条件選択] ダイアログの詳細は、「付録 A.19 [条件選択] ダイアログ」を参照してください。

[Ctrl] キーを押しながら各タブの行をクリックすると、複数の行を選択できます。複数の行を選択して [条件変更] ボタンをクリックすると、条件をまとめて変更できます。この場合、同じ種別の条件・ルー

ルの行を選択してください。同じ種別の行を選択しないで [条件変更] ボタンをクリックすると、エラーメッセージが表示されます。

(2) [定義内容] 領域

[定義内容] 領域には、[ビジネスプロセス定義] 領域の [業務ステップ] タブおよび [制御ノード] タブで選択した項目の詳細が表示されます。表示される内容は、各タブで選択した項目の種別によって異なります。

[定義内容] 領域の構成を次に示します。

条件名

条件名として登録されている名称が表示されます。

ルール名

ルール名として登録されている名称が表示されます。

振り分けルール名

振り分けルール名として登録されている名称が表示されます。

ファイル名

振り分けルール定義のファイル名が表示されます。

DB 識別子

使用する DB 識別子が表示されます。

SQL 文

使用する SQL 文が表示されます。

True/False 結果の反対

種別が発生条件、完了条件または分岐条件の行を選択した場合に表示されます。SQL の実行結果をどう扱うかを示すフラグです。

説明

条件の説明が表示されます。

振り分けルールでファイル名が指定されていない場合は、振り分けルール名以外は空欄になります。

別のビジネスプロセス定義ファイルを [帳票定義] 画面の [基本情報] タブから読み込んだ場合も、同じ条件名が存在すれば振り分けルールの情報は保持されます。

[ファイル参照] ボタン

[ファイル参照] ボタンは、[定義内容] 領域で振り分けルールを選択している場合だけ選択できます。

[ファイル参照] ボタンをクリックすると、ファイルを選択するダイアログが表示されます。このダイアログで、振り分けルールとして設定するファイルを選択できます。このダイアログで指定したパスは BLSG で SQL 文を変更するファイルのパスとして使用されるため、書き込み可能なフォルダを指定する必要があります。

[SQL 編集] ボタン

[SQL 編集] ボタンは、[定義内容] 領域で SQL 文が表示されている場合だけ選択できます。ただし、指定されている振り分けルール定義ファイルをほかのプログラムが利用している場合など、書き込み権限を取得できない場合には使用できません。

[SQL 編集] ボタンをクリックすると、[SQL 定義] ダイアログが表示されます。[SQL 定義] ダイアログの詳細は、「付録 A.20 [SQL 定義] ダイアログ」を参照してください。

付録 A.19 [条件選択] ダイアログ

[条件定義] ダイアログで選択した項目の条件やルールを設定します。[条件選択] ダイアログの構成を次に示します。

条件またはルールの一覧領域

設定できる条件またはルールの一覧が表示されます。表示される内容は、[条件定義] ダイアログで選択した項目の種別によって異なります。

[条件定義] ダイアログで選択した条件に完了条件が含まれる場合は、「@False」を設定することもできます。また、完了条件が含まれない場合は、「@True」および「@False」を設定することもできます。

[定義内容] 領域

[定義内容] 領域には、条件またはルールの一覧領域で選択した項目の詳細が表示されます。表示される内容は、条件またはルールの一覧領域で選択した項目によって異なります。

[定義内容] 領域の構成を次に示します。

条件名

条件名として登録されている名称が表示されます。

ルール名

ルール名として登録されている名称が表示されます。

振り分けルール名

振り分けルール名として登録されている名称が表示されます。

ファイル名

振り分けルール定義のファイル名が表示されます。

DB 識別子

使用する DB 識別子が表示されます。

SQL 文

使用する SQL 文が表示されます。

True/False 結果の反対

種別が発生条件、完了条件または分岐条件の行を選択した場合に表示されます。SQL の実行結果をどう扱うかを示すフラグです。

説明

条件の説明が表示されます。

振り分けルールでファイル名が指定されていない場合は、振り分けルール名以外は空欄になります。

選択した条件またはルールに値が設定されている場合、先頭の値が初期データとなります。

[OK] ボタン

設定した内容を保存して、[条件選択] ダイアログを終了します。

[キャンセル] ボタン

選択を中断して、[条件選択] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

付録 A.20 [SQL 定義] ダイアログ

[条件定義] ダイアログで選択した項目の SQL 文を編集できます。[SQL 定義] ダイアログの構成を次に示します。

[生成条件] 領域

[テーブル名] ドロップダウンリスト

生成する SQL のテーブル名を指定します。必ず指定してください。入力できる文字列は、64 バイトまでです。

[カラム名] ドロップダウンリスト

生成する SQL のカラム名を指定します。必ず指定してください。入力できる文字列は、64 バイトまでです。

[条件名] ドロップダウンリスト

生成する SQL の条件名を指定します。入力できる文字列は、64 バイトまでです。

[カラムへの条件を追加する] チェックボックス

生成する SQL のカラムに対して条件を設定する場合、チェックボックスをオンにします。

追加条件

カラムに対して設定する条件を指定します。[カラムへの条件を追加する] チェックボックスをオンにした場合は、必ず指定してください。入力できる文字列は、64 バイトまでです。

[演算子] ドロップダウンリストから演算子を選択し、[比較値] ドロップダウンリストに比較対象となる値を指定します。

[演算子] ドロップダウンリストからは、次の演算子を選択できます。

- 以上 (SQL 文では「>=」となります)。
- 以下 (SQL 文では「<=」となります)。
- より大きい (SQL 文では「>」となります)。
- より小さい (SQL 文では「<」となります)。
- 等しい (SQL 文では「=」となります)。
- 異なる (SQL 文では「NOT =」となります)。

[生成] ボタン

指定した生成条件で SQL 文が生成されます。

なお、生成された SQL 文は、システムで検証されません。

SQL 文

生成された SQL 文が表示されます。

生成される SQL 文の形式 (条件名および追加条件を省略しないで設定した場合の形式) を次に示します。

SELECT <カラム名> FROM <テーブル名> WHERE <条件名> AND <カラム名> <演算子> <比較値>

表示された SQL 文は直接編集できます。

この欄が空欄、または 2,000 バイト以上の文字列が入力されている場合、SQL の生成時にエラーとなります。

[OK] ボタン

指定した生成条件で SQL 文が生成されます。

編集した内容を保存して、[SQL 定義] ダイアログを終了します。

[キャンセル] ボタン

編集を中断して、[SQL 定義] ダイアログを終了します。

[ヘルプ] ボタン

ヘルプが表示されます。

選択できる項目の組み合わせ

[生成条件] 領域で、デフォルトで選択できる項目の組み合わせを次に示します。

表 A-17 [生成条件] 領域で、デフォルトで選択できる項目の組み合わせ

テーブル名	カラム名	条件名	比較値
受信ボックス	申請 ID	該当案件	案件名
	申請者 ID	該当案件	—
	案件状態	該当案件	—
	作業者 ID	該当案件	—
	分岐条件値	該当案件	却下
		該当案件	破棄
	項目値 1	該当案件	—
	項目値 2	該当案件	—
	項目値 3	該当案件	—
	項目値 4	該当案件	—
	項目値 5	該当案件	—
	項目値 6	該当案件	—
	項目値 7	該当案件	—
	項目値 8	該当案件	—
項目値 9	該当案件	—	
項目値 10	該当案件	—	
組織管理情報	組織コード	—	—
ユーザー情報	ユーザー ID	—	—
	所属する組織コード	—	—

(凡例)

—：デフォルトで選択できる項目はありません。

注

性能を重視する場合は、インデックスが設定されたカラムを使用するようにしてください。

選択項目と生成される SQL の対応

ダイアログで選択した項目と、生成される SQL の対応を次に示します。

表 A-18 ダイアログで選択した項目と生成される SQL の対応

テーブル名	カラム名	条件名	比較値	生成される SQL
受信ボックス	—	—	—	BLC_INBOX_T
	申請 ID	—	—	CDPINAME
		—	案件名	'@PIName'
	申請者 ID	—	—	CDAPPLICANT
	案件状態	—	—	NMSTATUS
	作業者 ID	—	—	CDPARTICIPANT
	分岐条件値	—	—	NMFLOWCOND
		—	却下	'ID_REJECT'
		—	破棄	'ID_DESTRUCTION'
	項目値 1	—	—	NMITEM1
	項目値 2	—	—	NMITEM2
	項目値 3	—	—	NMITEM3
	項目値 4	—	—	NMITEM4
	項目値 5	—	—	NMITEM5
	項目値 6	—	—	NMITEM6
	項目値 7	—	—	NMITEM7
項目値 8	—	—	NMITEM8	
項目値 9	—	—	NMITEM9	
項目値 10	—	—	NMITEM10	
—	該当案件	—	CDPINAME = '@PIName'	
組織管理情報	—	—	—	BLC_ORG_T
	組織コード	—	—	CDORG
ユーザー情報	—	—	—	BLC_USER_INFO_T
	ユーザー ID	—	—	CDUSER
	所属する組織コード	—	—	CDBELONGTO

(凡例)

— : 該当しません。

付録 B ビジネスプロセス定義に関する情報

BLC を使用する場合に必要な、ビジネスプロセス定義に関する情報を紹介します。

付録 B.1 ビジネスプロセス定義とのインターフェース

ビジネスプロセス定義とのインターフェースとして、帳票ジェネレータ (BLSG) で使用する情報、BLC に対応したビジネスプロセスの定義、および BLC で使用する振り分けルールについて説明します。

(1) 帳票ジェネレータ (BLSG) で使用する情報

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義ファイル (XML 形式) に記述されている情報の中で、帳票ジェネレータ (BLSG) で使用する情報を次に示します。

- ビジネスプロセス定義名
- 業務ステップ名
- 一般作業名
- 並列作業名

注意事項

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義に階層定義が含まれると、BLSG では読み込むことができません。階層定義を使わないで、ビジネスプロセス定義を作成してください。

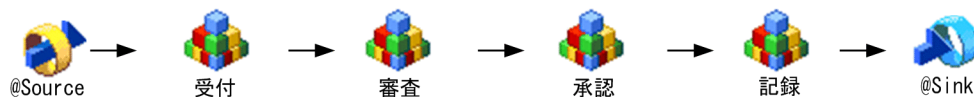
(2) BLC で利用するビジネスプロセスの定義

CSCIW-Definer で、BLC を利用した業務のビジネスプロセスを定義する方法を説明します。

ビジネスプロセス定義

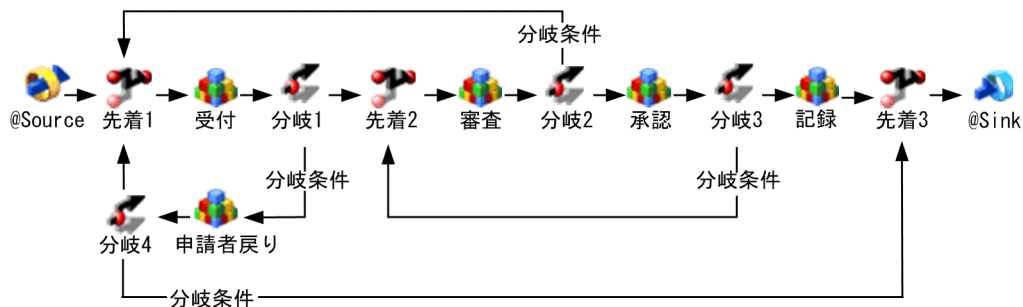
基本的な流れの業務の場合は、次のようなビジネスプロセス定義を作成します。

図 B-1 基本的な流れの業務の場合



案件の差し戻しが発生する業務を分岐ノードを利用して差し戻し可能にする場合は、次のようなビジネスプロセス定義を作成します。

図 B-2 差し戻しが発生する業務の場合



案件の差し戻しが発生する業務 (図 B-2 の業務) の場合は、次の手順でビジネスプロセス定義を作成します。

操作手順

1. 差し戻しを行う場合は、差し戻しを行う業務ステップの直後に分岐ノードを作成し、差し戻し先ノードの直前に先着ノードを作成します。
2. 申請者に差し戻しする場合は、申請者戻し用の業務ステップを作成します。
3. 先着ノードでは、後続停止オプションをチェックしないように設定します。

差し戻し機能の実現

図 B-2 のビジネスプロセス定義を実装するには、INBOX に分岐条件用カラム (NMFLOWCOND) を使います。次のような設定が必要です。

- 帳票に [却下] ボタンを作成します。[却下] ボタンをクリックすると、BLC が分岐条件用カラム (NMFLOWCOND) に値 ('ID_REJECT') を設定します。
- 分岐条件条件定義では、INBOX の分岐条件用カラム (NMFLOWCOND) を参照するように分岐条件を作成します。分岐条件の指定例を次に示します。

図 B-3 条件分岐の指定例

```
SELECT NMFLOWCOND FROM BLC_INBOX_T WHERE CDPINAME = '@PName'
AND NMFLOWCOND = 'ID_REJECT'
```

破棄機能の実現

申請者戻りノードで、帳票の [破棄] ボタンをクリックした場合は、案件がシンクノードに遷移します。次のような設定が必要です。

- 帳票に [破棄] ボタンを作成します。[破棄] ボタンをクリックすると、BLC が分岐条件用カラム (NMFLOWCOND) に ('ID_DESTRUCTION') を設定します。
- 分岐条件条件定義では、INBOX の分岐条件用カラム (NMFLOWCOND) を参照するように分岐条件を作成します。申請者戻りノード用の分岐条件の指定例を次に示します。

図 B-4 申請者戻りノード用の分岐条件の指定例

```
SELECT NMFLOWCOND FROM BLC_INBOX_T WHERE CDPINAME = '@PName'
AND NMFLOWCOND = 'ID_DESTRUCTION'
```

再申請機能の実現

申請者戻りノードで、帳票の [再申請] ボタンをクリックした場合は、案件が、案件投入後の最初のノードに遷移します。デフォルトの分岐先を案件投入後の最初のノードにしておくことで、破棄以外の通常の承認では再申請が行われます。

(3) BLC で使用する振り分けルールの定義

BLC では、次に示す振り分けルールを使用する必要があります。

図 B-5 振り分けルール

```
SELECT CDPARTICIPANT FROM BLC_INBOX_T WHERE CDPINAME = '@PName'
```

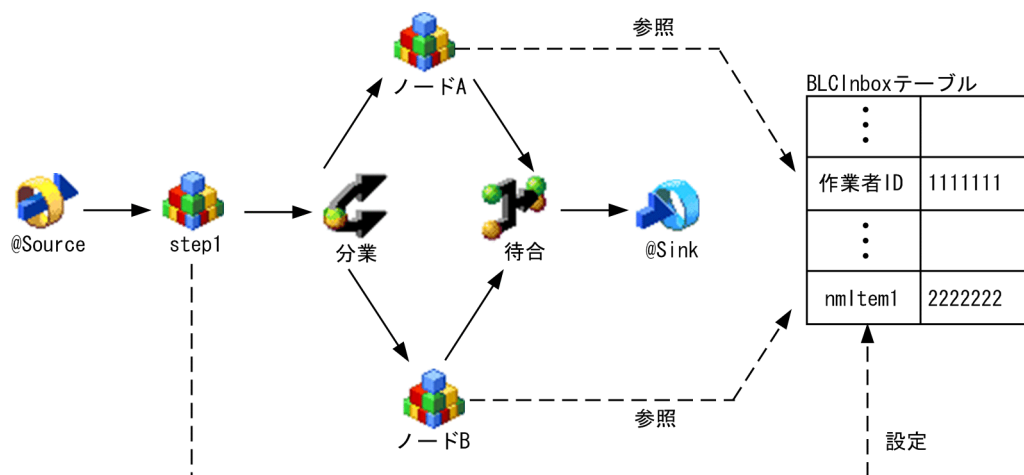

付録 B.2 ビジネスプロセス定義に対応するユーザ追加処理の例

BLC のユーザ追加処理で実行できる帳票のカスタマイズの例を紹介します。

(1) 分業ノードに対応するカスタマイズ

分業ノードを持つビジネスプロセスに対応する帳票のカスタマイズの例を次に示します。

図 B-6 分業ノードを持つビジネスプロセス



操作手順

1. 分業ノードの前のノード (図 B-6 の step1) で、案件属性の項目を設定する API を利用して、BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM1 カラムに分業ノード B の作業者を格納します。
2. BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM1 カラムに格納されたユーザが作業者になるように、分業ノード B の振り分けルールを作成します。
3. 分業ノード A と分業ノード B の両方で帳票項目を更新する場合は、分業ノード A と分業ノード B で異なる帳票項目を更新するように、帳票を作成する必要があります。

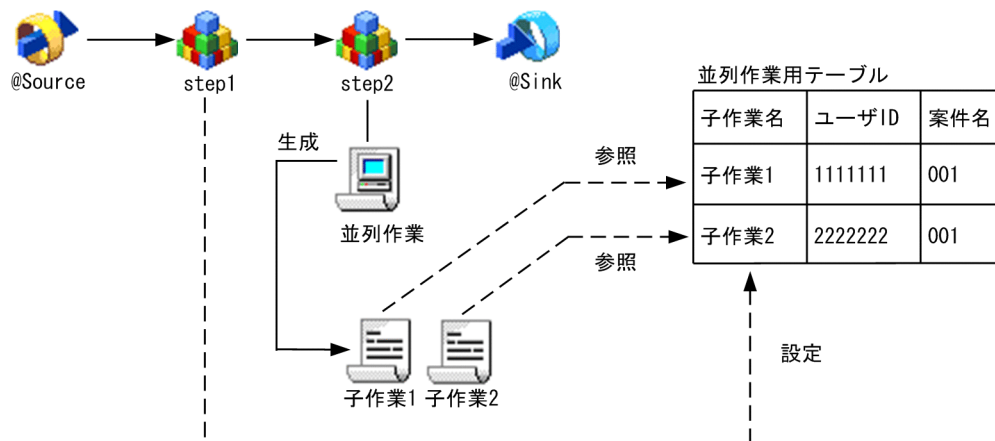
なお、分業ノード A と分業ノード B のユーザが同時に案件を処理すると、帳票データが上書きされます。そのため、先に処理したユーザが更新した帳票項目の値は、更新されてしまいます。

分業ノード上で更新する帳票項目の値は業務 DB に格納しておき、帳票を開くときに業務 DB から値を取得して帳票項目に設定することで、分業ノード上のユーザが同時に案件を処理した場合にも対応できます。

(2) 並列作業に対応するカスタマイズ

並列作業を持つビジネスプロセスに対応する、帳票のカスタマイズの例を次に示します。

図 B-7 並列作業を持つビジネスプロセス



操作手順

1. 並列作業用テーブルを用意します。
2. 並列作業の前の作業（図 B-7 の step1）で、並列作業用テーブルに、子作業 1 と子作業 2 の子作業名、および作業者を格納します。
3. step2 の並列作業が並列作業用テーブルを参照し、子作業を生成します。子作業生成ルール of 指定例を次に示します。

```
Select子作業名 from 並列作業用テーブル where 案件名=@PName'
```

4. 子作業 1 と子作業 2 の振り分けルールが並列作業用テーブルを参照するように、振り分けルールを作成します。子作業 1 および子作業 2 の振り分けルールの指定例を以下に示します。

```
SelectユーザID from 並列作業用テーブル where 子作業名=@WName'
AND 案件名=@PName'
```

5. 子作業 1 と子作業 2 の両方で帳票項目を更新する場合は、子作業 1 と子作業 2 では異なる帳票項目を更新するように、帳票を作成する必要があります。
6. 子作業の完了と同時に、ユーザ追加処理(ufsv_addButtonExecution)を実装して、該当する子作業のレコードを削除します。子作業のレコードを削除するには、次のような SQL を実行します。

```
Delete from 並列作業用テーブル where 子作業名=<子作業名> and
案件名=<案件名>
```

<子作業名>は、BLC_NodeInstName タグのハイフン以降を切り出すことで取得できます。<案件名>は、BLC_PName タグで取得できます。

```
String strPName = blse.m_DataValue.item("BLC_PName");
String strNodeInstName = blse.m_DataValue.item("BLC_NodeInstName");
StringTokenizer strToken = new StringTokenizer(strNodeInstName);
String strAName = strToken.nextToken("-");
String strWName = strToken.nextToken();
```

7. 業務ステップの終了条件を追加して、子作業ステップがすべて完了した際に、業務ステップを完了させます。業務ステップを完了させるには、次のような完了条件を追加します。

```
select 案件名 from 並列作業用テーブル where 案件名=@PName'
```

業務ステップの完了条件の SQL 文の指定で、「True/False の結果を反対にする」をチェックします。

(3) ノードごとに表示する帳票を変更するカスタマイズ

帳票は、基本的に一つのビジネスプロセスに対して一つだけ存在します。ただし、ビジネスプロセスの途中で、一時的に帳票を変更できます。

付録C BLCのクラス

BLCで提供するクラスの概要について説明します。

付録C.1 BLCクラス一覧

BLCで提供するクラスの一覧を次に示します。

表 C-1 BLCクラス一覧

分類	名称	クラス名
帳票表示制御クラス	帳票表示制御クラス	BLCFormControl
	帳票宛先選択表示クラス	BLCFormTarget
	帳票ボタン表示クラス	BLCFormButton
DB 名称取得クラス	DB 名称取得クラス	BLCDBAccess
DB アクセス定義実行クラス※1	DB アクセス定義実行クラス	BLCDBDef
帳票基本クラス	BLC 帳票基本クラス	BLCFormBase
	EUR Form 連携帳票基本クラス	BLCEURFormBase
	帳票データ管理クラス	BLCValDic
認証処理クラス※2	認証処理クラス	BLCAuthenticate, BLCAuthenticatePortal
一覧処理クラス	受信ボックス処理クラス	BLCListInbox
	送信ログ処理クラス	BLCListSentlog
メール送信クラス	メール送信クラス	BLCMail
案件制御クラス	EUR Form 連携帳票案件遷移情報クラス	BLCEURFormProcessInfo
	EUR Form 連携帳票案件遷移クラス	BLCEURFormProcess
共通クラス※3	ディクショナリクラス	BLCDictionary
	例外クラス	BLCException
	ページ初期化クラス	BLCInfo
	ディレクトリ情報クラス	BLCDirs
	トレース出力クラス	BLCTrace
	共通クラス	BLCCommon
	ストリングリソースクラス	BLCSTRPortal
	リクエストデータクラス	BLCRequestData
	ディレクトリ情報クラスのローディングクラス	BLCDirsLoader
プロパティ情報取得クラス	BLCProperty	

分類	名称	クラス名
共通クラス※3	ユニーク ID クラス	BLCUniqueID
	ファイルアクセスクラス	BLCFileAccess
	業務アプリケーションのトレース出力クラス	BLCAPTrace
	アクセス制御クラス	BLCAccessAuthority
案件開始クラス	案件開始クラス	BLCWFPIStart
引き戻しおよび差し戻しクラス	引き戻しおよび差し戻しクラス	BLCWFWIBackward
案件の振り替えクラス	案件の振り替えクラス	BLCWFWIReassign
案件強制終了クラス	案件強制終了クラス	BLCWFPITerminate
BLCFormData アクセスクラス	案件履歴追加クラス	BLCDBFormDataHistoryOperation
	帳票データ出力クラス	BLCDBFormDataOperation
案件履歴操作クラス	案件履歴項目クラス	BLCDBPIHistoryElement
案件処理フレームワーククラス※4	案件処理管理クラス	BLCPIManager
	案件情報クラス	BLCPIInfo
	案件履歴情報クラス	BLCPIHistoryInfo
	案件処理実行クラス	BLCPIPerform
	案件ステータスクラス	BLCPIStatus
	案件ステータスクラスファクトリ	BLCPIStatusFactory
拡張受信ボックスアクセスクラス	作業一覧取得クラス	BLCDBInboxV
	受信ボックス作業件数集計クラス	BLCDBInboxCountV
	受信ボックス画面先頭メッセージ作成クラス	BLCListInboxHeader
	一覧系 DB 読み込みクラス	BLCDBList
	カラム値取得処理共通化クラス	BLCInboxVColumn
	案件開始日時取得クラス	BLCInboxVColDTCreatePI
	作業開始日時取得クラス	BLCInboxVColDTCreateWI
	案件処理期限取得クラス	BLCInboxVColDTLimitPI
	作業名取得クラス	BLCInboxVColNMWI
	カラム値取得クラス	BLCInboxVColString
	作業一覧取得クラス (Oracle 用)	BLCDBInboxVforOracle
	受信ボックス作業件数集計クラス (Oracle 用)	BLCDBInboxCountVforOracle

注

各クラスの仕様については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。

注※1

「付録 C.2 DB アクセス定義実行クラスの補足情報」で補足情報を説明しています。

注※2

「付録 C.3 認証処理クラスの補足情報」で補足情報を説明しています。

注※3

「付録 C.4 共通クラスの補足情報」で補足情報を説明しています。

注※4

このクラスは、BLC 帳票の処理の場合に使用できます。「付録 C.5 案件処理フレームワーククラス」で補足情報を説明しています。

付録 C.2 DB アクセス定義実行クラスの補足情報

ここでは、DB アクセス定義実行クラスの補足情報を説明します。

(1) BLCDBDef クラス

BLCDBDef クラスの処理の概要を説明します。

処理の概要

1. DB アクセス定義ファイルの読み込み

DB アクセス定義は、一度読み込んだ定義ファイルをメモリに常駐させ、同じ DB アクセス定義ファイルの読み込み要求について、メモリに常駐させたデータを使用します。これによって、ファイルアクセスのコストを削減します。

メモリに常駐させた DB アクセス定義は、アプリケーションサーバプロセス終了まで有効です。

DB アクセス定義内容を変更した場合、有効にするためには、アプリケーションサーバプロセスを再起動しなければなりません。

2. DB アクセス定義の実行

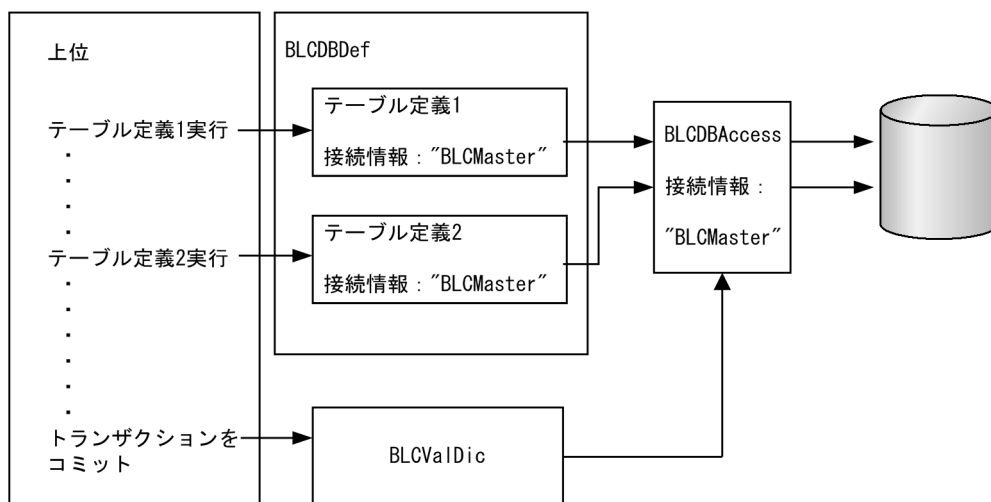
DB アクセス結果は、BLCValDic クラスに設定されます。

更新アクセスをした場合、トランザクションを継続させるため、更新に使用した BLCDBAccess オブジェクトを BLCValDic クラスに登録します。

DB アクセス定義で、同じ接続情報の BLCDBAccess オブジェクトが登録されている場合、トランザクションを継続させるため、この BLCDBAccess オブジェクトを使用し DB アクセスを実行します。

トランザクションを分ける場合には、DB 接続情報を異なるものにすることで実現できます。

図 C-1 DB アクセス定義の実行イメージ



付録 C.3 認証処理クラスの補足情報

ここでは、BLCAuthenticate クラス・BLCAuthenticatePortal クラスの補足情報を説明します。

(1) BLC 認証クラス (BLCAuthenticate クラス・BLCAuthenticatePortal クラス)

BLCAuthenticate クラス・BLCAuthenticatePortal クラスは、BLC 認証によるユーザ管理情報にかかわる機能を提供します。BLC システムを使用するためには必ず認証メソッド (login) を呼び出します。また、認証後のページ間遷移では、各 JSP ページでログインチェックメソッド (checkLoginStatus) を呼び出します。

ログイン処理では、BLC_USER_V ビューにアクセスして該当するユーザ情報を取得し、Cookie または Session に次の BLC 認証情報を設定します。

表 C-2 BLC 認証情報

項番	セッション Cookie ID	意味	オブジェクト種別
1	BLCAUTHSVID	サーバ ID	認証したサーバ ID
2	BLCAUTHSID	ユーザ ID	ログイン時のパラメタで受けたユーザ ID

ログイン済みチェックでは、上記の情報が Cookie または Session に BLC 認証情報が設定されているかチェックし、BLC_USER_V ビューにアクセスして該当するユーザ情報を取得します。ログアウト処理では、Cookie または Session から BLC 情報を消去します。

ログイン、およびログインチェック処理が正常に終了すると、ユーザ情報を BLCDictionary オブジェクトで保持されます。保持される情報を次に示します。

表 C-3 BLCDictionary オブジェクトで保持されるユーザ情報

項番	キー名	意味	オブジェクト種別
1	blc_us_id	ユーザ ID	String

項番	キー名	意味	オブジェクト種別
2	blc_us_no	従業員番号	String
3	bls_us_nmlastj	氏名漢字名字	String
4	blc_us_nmfirstj	氏名漢字名前	String
5	blc_us_nmlastk	氏名カナ名字	String
6	blc_us_nmfirstk	氏名カナ名前	String
7	blc_us_nmlaste	氏名英字名字	String
8	blc_us_nmfirste	氏名カナ名前	String
9	blc_us_cdbelong	所属するコード	String
10	blc_us_nmbelong	所属する組織名称	String
11	blc_us_cdjobt	役職コード	String
12	blc_us_nmjobt	役職名	String
13	blc_us_abjobt	役職名称	String
14	blc_us_mailaddr	メール (e-Mail)	String
15	blc_us_telout	TEL 外線	String
16	blc_us_telext	TEL 内線	String
17	blc_us_nmfull	氏名漢字	String

注意事項

- BLC ログイン認証では、ブラウザ側でセッション Cookie を許可しないと、以降の操作では認証情報無効エラーが発生します。
- メソッドがパラメタとして受けるユーザ ID は、半角英数字だけです。
日本語などの2バイトコードや記号を含む文字列をユーザ ID としてメソッドを使用した場合、動作を保証しません。
- ログインまたはログイン済みチェックをすると、該当するユーザ情報を保持しますが、そのユーザ情報は BLCInfo オブジェクトの有効範囲内(JSP ページ内、または forward による BLCInfo オブジェクト引き継ぎ)で有効です。
- このメソッドを発行する前に、BLCInfo クラスの setInfo()メソッドを発行しておく必要があります。

認証クラスでは、その他、次の機能を提供します。

- 実行ユーザ変更メソッド
- 実行ユーザ情報設定メソッド
- 実行ユーザ初期化メソッド
- メンバアクセスメソッド
 - 実行ユーザ ID 取得

- 実行ユーザ情報(BLCDictionary)オブジェクト取得
- ログインユーザ ID 取得
- ログインユーザ情報(BLCDictionary)オブジェクト取得

付録 C.4 共通クラスの補足情報

ここでは、BLCTrace クラス、BLCCommon クラス、BLCSTRPortal クラス、および BLCRequestData クラスの補足情報を説明します。

(1) BLCTrace クラス

このクラスは、トレース情報を初期化および出力するメソッドを提供します。

BLC で取得するトレースには 5 種類のトレースレベルがあり、トレースレベルは BLC プロパティファイルの TraceLevel キーで設定します。

- 1: トレース出力なし
- 10: 例外情報だけ出力
- 20: 例外情報およびコールトレース
- 30: 例外情報, 主要なコールトレースおよび内部トレース
- 40: 例外情報, すべてのコールトレースおよび内部トレース

注意事項

レベル 30 で出力する主要なトレースとは、次の処理をするメソッドです。

- BLC 初期化をするメソッド
- DB アクセスをするメソッド
- 他プログラム呼び出しをするメソッド
- Servlet 固有のオブジェクト参照および更新をするメソッド
- 上記メソッドを呼び出すメソッド

(2) BLCCommon クラス

このクラスは、BLC 共通情報を取得および設定するメソッドを提供します。主に、数値変換や日付変換などの BLC クラス共通部品を扱います。

BLC で扱う日付時刻の取得とフォーマット機能を共通インタフェースで提供します。

BLC では、日付時刻を GMT(グリニッジ標準時間)でデータ格納します。したがって、データ格納の際、または格納データを使用する際に、タイムゾーンによる時差でローカル時刻へ変換してエンドユーザーに表示する必要があります。

注意事項

- ローカル日付時刻について
BLC プロパティの TimeZone キーで指定された値(ID)を認識できない場合は、GMT ゾーンになりますので、指定書式に注意してください。
- 日付時刻パターン文字列について
java.text.SimpleDateFormat クラスの日付時刻フォーマット構文に従った書式を指定してください。
- ローカル日付時刻から GMT 日付時刻への変換について

ローカル日付時刻には、GMT 日付時刻に変換したときに「9999/12/31 00:00:00」を超える値を指定できません。タイムゾーンが GMT+23:59 の地域で、GMT 日付時刻からローカル日付時刻に変換する場合は考慮しています。

- 半角スペースの HTML エンコードについて
システムデフォルトでは半角スペースコードは、" "に変換します。ただし、印刷で不具合を生じる場合があります。
変換不要の場合は、BLC プロパティファイルで制御できます。

(3) BLCSTRPortal クラス

このクラスは、ストリングリソースファイル (BLCstringResourcePortal.properties) をプロパティリソースとして、メモリにローディングして管理するメソッドを提供します。

各 BLC クラス、および各 BLC ページで、エンドユーザ表示用文字列を使用言語に合わせてカスタマイズしやすいようにソースコーディング上から切り離すことを目的としています。

日本語の文字コードを含む場合は Unicode 文字コーディング変換されていることが必要です。

ストリングリソースプロパティリソースは、Properties クラスによるプロパティリストです。構成を次に示します。

- 識別コード
BLC で管理する 4 バイト文字コードです。
- テキストリソース
BLC で管理するテキストリソースで、埋め字は"%s"で定義されます。

BLCSTRPortal クラスオブジェクトは、実行プロセスで一つです。

BLC では、共通クラスの BLCProcessInit.initBLC()メソッドで排他制御され、オブジェクトが生成されます。ストリングリソースファイルのローディングは、上記の制御の延長で行われ、プロパティリストは静的オブジェクトとして保持されます。このため、ストリングリソースファイルの内容を変更した場合は、実行プロセスの再起動が必要です。

(4) BLCRequestData クラス

このクラスは、ページへのリクエストデータをエンコードし、保持するメソッドを提供します。

簡単な JSP ページでは、キーと値は更新する用途でこのオブジェクトを使用し、ページ表示時の HIDDEN タグの重複出力を防止するために利用します。

複雑なデータ処理を伴うページでは、このオブジェクトの更新はリクエストポリシーにかかわる内容だけに限定し、ほかに BLCValDic クラスオブジェクトをインタフェースとしてデータ処理をする必要があります。

保持するリクエストデータは、BLC プロパティファイルの RequestDataEncode キーで指定された値で、エンコードされます。RequestDataEncode キーの指定がない場合、エンコードされません。

付録 C.5 案件処理フレームワーククラス

ここでは、案件処理フレームワーククラスの補足情報を説明します。なお、このクラスは、BLC 帳票の処理の場合に使用できます。

(1) 概要

案件処理フレームワークとは、BLC 帳票の案件ステータス管理を含んだ案件処理を実装するためのフレームワークです。案件のステータス管理を行う案件ステータスクラス、および案件の処理を行う案件処理実行クラスを継承し、メソッドをオーバーライドすることによって実現されます。

また、次のようなこともできます。

- 案件ステータスクラスファクトリを実装し、プロパティファイルに記述することで、システムに複数の案件ステータスの管理方法を定義できます。
- 案件処理管理クラスのメソッドで帳票データを取得し、案件情報クラスおよび案件履歴情報クラスのメソッドを使用することで、各情報を取得できます。

(2) 案件処理フレームワークの適用

案件処理フレームワークの使用環境では、すべての帳票が案件処理フレームワークの処理の対象となります。このため、案件処理フレームワークを適用しない帳票を利用する場合は、適用する帳票だけが処理の対象となるようなプログラムを作成する必要があります。

案件処理フレームワークを適用しない帳票を利用する場合は、次の例のようなユーザプログラムを開発してください。

この例では、案件処理フレームワークを適用するかどうかを帳票 ID と帳票 Ver から判定するメソッドを作成しています。適用しない帳票の場合は、案件処理フレームワーク関連の処理をしないで return します。

例

```
public class MyPIStatus extends BLCPIStatus { //BLCPIStatusを継承したクラス
    public void initPIStatus(BLCInfo blcInfo, BLCPIInfo blcPIInfo, Connection con, HashMap
hmParam)
        throws BLCEXception { //initPIStatusをオーバーライドしたメソッド
        (中略)
        // 帳票が案件フレームワーク対応かチェックする。
        if (checkForm(blcPIInfo.getBLCSystemInfo("BLC_FormID"),
            blcPIInfo.getBLCSystemInfo("BLC_FormVer")) != true){
            // 案件フレームワーク非対応の場合：処理しない
            return;
        }
        (以下、案件ステータスの初期化処理を記述：略)
    }
    (中略)
    /**
     * 帳票が案件フレームワーク対応かチェックする。
     * @param 帳票ID
     * @param 帳票Ver
     * @return true:案件フレームワーク対応, false:案件フレームワーク非対応
     */
    private boolean checkForm(String formID, String formVer){ //案件フレームワーク対応帳票判定メソッド
        boolean l_flg = false;
        try{
            if (formID == null || formVer == null){
                // 帳票ID, ver取得不能の場合
                l_flg = false;
            }
            // 案件フレームワーク対応帳票ID, Ver
            String l_strFormID = "SampleConsultation";
            String l_strFormVer = "1";
            if (formID.equals(l_strFormID)){
                if (formVer.equals(l_strFormVer)){
                    // 帳票ID, Verが一致すれば、案件フレームワーク対象とする。
                    l_flg = true;
                }
            }
        } catch( Exception l_exp ){
```

```
        l_flg = false;
    } finally{
        return l_flg;
    }
}
```

付録 D 電子フォームワークフローのデータベース

電子フォームワークフローで提供するデータベースのうち、BLC で提供するデータベースに関する注意事項、名称規則、およびテーブルについて説明します。

付録 D.1 注意事項

- データベースの文字コードについて

データベースを UTF-8 で構築する場合は、データベースを Shift_JIS で構築した場合に比べて、格納できる文字数が少なくなる場合があります。データベースを UTF-8 で構築する場合は、入力データがカラムサイズをオーバーしないように注意してください。

該当例

- [帳票登録] 画面の「頭文字 (ソート用)」の入力文字数
データベースを Shift_JIS で構築した場合、「頭文字 (ソート用)」の項目は 64 文字まで入力できますが、データベースを UTF-8 で構築した場合は、32 文字を超えて入力したとき (入力文字列が UTF-8 で 128 バイトを超える場合) に SQL エラーが発生することがあります。
- データベースを Shift_JIS の環境から UTF-8 の環境に移行する
例えば、Windows 環境 (DB : Shift_JIS) から Linux 環境 (DB : UTF-8) へ移行する場合、同じ文字列でも Shift_JIS (1 文字 1 バイトまたは 2 バイト) と UTF-8 (1 文字 1 バイト~4 バイト) でデータベースに格納時のサイズが変わります。そのため、Shift_JIS 環境では格納できた文字列が、UTF-8 環境ではカラムの最大長を超えることがあります。「付録 D.3 BLCMASTER データベース」および「付録 D.4 BLCDIRS データベース」のカラム名一覧で、データ型が MVARCHAR のカラムが該当します (マルチバイト文字が格納されるカラムです)。
- BLC のテーブル名およびカラム名の文字列について
BLC のテーブルは、HiRDB、Oracle、および SQL Server のサポートするすべてのデータベースサーバで、テーブル名およびカラム名を大文字で作成します。
これは、SQL Server ではテーブル名およびカラム名の大文字と小文字が区別されますが、HiRDB および Oracle ではすべて大文字として扱われるためです。
SQL Server で大文字と小文字を区別して動作させる場合は、SQL 文および CSCIW のビジネスプロセス定義や振り分けルール定義の評価 SQL のテーブル名およびカラム名は大文字で指定してください。
- SQL Server の QUOTED_IDENTIFIER オプションについて
SQL Server の QUOTED_IDENTIFIER オプションは、デフォルト値の ON (識別子を半角ダブルクォーテーションで区切ることができる) を指定してください。OFF は指定できません。
これは、CSCIW で SQL Server の QUOTED_IDENTIFIER オプションが、識別子を半角ダブルクォーテーションで区切ることを動作の前提としているためです。

付録 D.2 名称規則

データベース、テーブル、およびカラムの名称規則を次に示します。

(1) データベース名規則

次に示すデータベースを構造上の概念ととらえ、データベースサーバの実際のスキーマは一つとします。BLC プロパティで指定する BLCMASTER キーによる接続定義はこのスキーマを指します。

BLCMASTER データベース

BLCMASTER データベースは、BLC が使用する基本テーブル、およびユーザ DB のうちのトランザクション用テーブルを持ちます。

BLCDIRS データベース

BLCDIRS データベースは、ユーザ情報、および組織情報のテーブルを持ちます。

(2) テーブル名規則

BLC で始まるテーブル名、およびビュー名は BLC で予約されています。

付録 D.3 BLCMASTER データベース

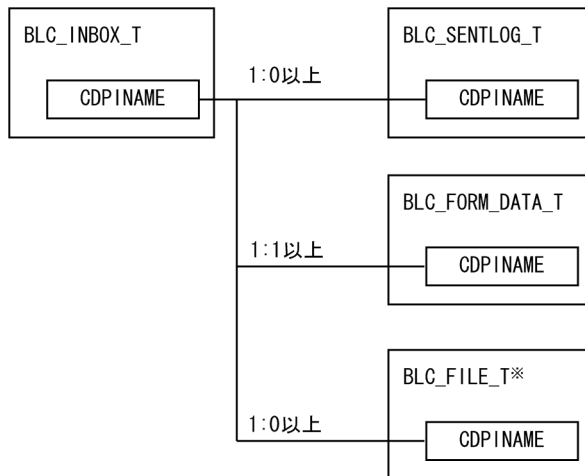
BLCMASTER データベースのテーブル名の一覧を次に示します。

表 D-1 BLCMASTER データベースのテーブル名一覧

分類	テーブル名 (和名)	テーブル名	テーブル名 (エイリアス)
BLC 基本情報	BLC_BASE_INFO_T	BLC_BASE_INFO_T	BLCbase
BLC 制御情報	受信ボックステーブル	BLC_INBOX_T	BLCInbox
	送信ログテーブル	BLC_SENTLOG_T	BLCSentlog
	ユニーク ID 管理テーブル	BLC_UNIQUE_ID_T	BLCUniqueID
帳票データ情報	帳票データテーブル	BLC_FORM_DATA_T	BLCFormData
帳票管理情報	帳票情報テーブル	BLC_FORM_INFO_T	BLCFormInfo
添付ファイル情報	添付ファイルテーブル	BLC_FILE_T	BLCFile

電子フォームワークフローでは、案件名をキーとして各テーブルを関連づけて参照・更新します。各テーブルの関連図を次に示します。

図 D-1 BLCMASTER データベースの各テーブルの関連



注※ 添付ファイル機能を使うためのテーブル（BLC_FILE_T）を作成した場合に
関連づけられます。

BLCMASTER データベースの各テーブルの詳細を次に説明します。

(1) BLC_BASE_INFO_T テーブル

電子フォームワークフローの基本情報を管理するテーブルです。BLC_BASE_INFO_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-2 BLC_BASE_INFO_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDDDBVERSION	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	値は 30300 で固定	—	—
NMITEM1	VARCHAR	128	BLC DB のバージョン	—	080000
NMITEM2	VARCHAR	128	提供種類番号	—	—
NMITEM3	VARCHAR	128	予約	—	—
NMITEM4	VARCHAR	128	予約	—	—
NMITEM5	VARCHAR	128	予約	—	—
NMITEM6	VARCHAR	256	予約	—	—
NMITEM7	VARCHAR	256	予約	—	—
NMITEM8	VARCHAR	256	予約	—	—
NMITEM9	VARCHAR	256	予約	—	—

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMITEM10	VARCHAR	256	予約	—	—

(凡例)

—：指定しません。

(2) BLC_INBOX_T テーブル

INBOX 案件管理データ用のテーブルです。BLC_INBOX_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-3 BLC_INBOX_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMBP	MVARCHAR ※1	128	ビジネスプロセス名	—	—
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL	申請 ID
CDAPPLICANT	VARCHAR	128	申請者 ID	—	—
NMAPPLICANT	MVARCHAR ※1	128	申請者氏名	INDEX	名字△名前※2
NMAPPLICANTBE LONGTO	MVARCHAR ※1	128	申請者組織略称	INDEX	—
DTCREATE	VARCHAR	14	開始日時	INDEX	yyyymmddhhmmss (GMT)
DTLIMIT	VARCHAR	14	処理期限	INDEX	yyyymmddhhmmss (GMT)
DTUPDATE	VARCHAR	14	更新日	—	yyyymmddhhmmss (GMT)
NMUPDATEWI	MVARCHAR ※1	132	更新作業名	INDEX	定義名－名称
NMSTATUS	MVARCHAR ※1	16	案件状態	—	—
CDPARTICIPANT	VARCHAR	128	作業者 ID	—	BLC_SendToData の内容 標準では、宛先として選択したユーザの ID が設定されます。
NMPARTICIPANT	MVARCHAR ※1	128	作業者氏名	—	名字△名前※2
NMPARBELONGT O	MVARCHAR ※1	128	作業者組織略称	—	—

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDBEFOREPARTICIPANT	VARCHAR	128	前回作業者 ID	—	—
NMBEFOREPARTICIPANT	MVARCHAR ※1	128	前回作業者氏名	—	名字△名前※2
NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO	MVARCHAR ※1	128	前回作業者組織略称	—	—
NMFLOWCOND	VARCHAR	128	分岐条件値	—	BLC_AcceptID の内容 <ul style="list-style-type: none"> 申請： "ID_APPLY" 承認： "ID_WICOMPLE TE"
NMITEM1	MVARCHAR ※1	128	項目値 1	—	※3
NMITEM2	MVARCHAR ※1	128	項目値 2	—	※3
NMITEM3	MVARCHAR ※1	128	項目値 3	—	※3
NMITEM4	MVARCHAR ※1	128	項目値 4	—	※3
NMITEM5	MVARCHAR ※1	128	項目値 5	—	※3
NMITEM6	MVARCHAR ※1	128	項目値 6	—	※3
NMITEM7	MVARCHAR ※1	128	項目値 7	—	※3
NMITEM8	MVARCHAR ※1	128	項目値 8	—	※3
NMITEM9	MVARCHAR ※1	128	項目値 9	—	※3
NMITEM10	MVARCHAR ※1	128	項目値 10	—	※3
CDLOCKINFO	MVARCHAR ※1	128	排他ロック用情報	—	※4
NUFILE	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> HiRDB, SQL Server の場合：2 	添付ファイル数	—	※4

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NUFILE	SMALLINT	• Oracle の 場合：22	添付ファイル数	—	※4
NMFORMNAME	MVARCHAR ※1	128	帳票名	—	※4

(凡例)

—：指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

△は半角スペースです。

注※3

NMITEM1～NMITEM10 をビジネスプロセス定義で設定する分岐用データや作業割当用データに利用できます。

注※4

今後のバージョンアップ時のために、BLC で予約されています。

(3) BLC_SENTLOG_T テーブル

送信ログ案件管理データ用のテーブルです。BLC_SENTLOG_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-4 BLC_SENTLOG_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDLOGPARTICIPANT	VARCHAR	128	ログ所有作業 者 ID	(主キー) NOTNULL	—
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL INDEX	申請 ID
DTCOMPLETE	VARCHAR	14	作業日時	INDEX	yyyymmddhhmmss (GMT)
NMITEM1	MVARCHAR ※1	128	項目値 1	—	※2
NMITEM2	MVARCHAR ※1	128	項目値 2	—	※2
NMITEM3	MVARCHAR ※1	128	項目値 3	—	※2
NMITEM4	MVARCHAR ※1	128	項目値 4	—	※2
NMITEM5	MVARCHAR ※1	128	項目値 5	—	※2

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMITEM6	MVARCHAR ※1	128	項目値 6	—	※2
NMITEM7	MVARCHAR ※1	128	項目値 7	—	※2
NMITEM8	MVARCHAR ※1	128	項目値 8	—	※2
NMITEM9	MVARCHAR ※1	128	項目値 9	—	※2
NMITEM10	MVARCHAR ※1	128	項目値 10	—	※2

(凡例)

—：指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

NMITEM1～NMITEM10 は、ユーザ追加処理または BLCWWFwiBCSample.jsp で設定した項目値 1～10 が設定されます。

(4) BLC_UNIQUE_ID_T テーブル

ユニーク ID の採番用のテーブルです。BLC_UNIQUE_ID_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-5 BLC_UNIQUE_ID_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMUNIQUEKEY	MVARCHAR ※1	130	ユニークキー	(主キー) NOTNULL	"cmPI"固定
NUCURRENTID	DECIMAL (12) ※2	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, Oracle の 場合：7 • SQL Server の場合：9 	採番番号	NOTNULL	0 以上

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

Oracle の場合は、「DEC (12)」に読み替えてください。

(5) BLC_FORM_DATA_T テーブル

ワークフロー実行時の帳票管理項目データ用のテーブルです。BLC_FORM_DATA_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-6 BLC_FORM_DATA_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL	申請 ID
CDPREFIX	VARCHAR	32	帳票モジュール プレフィックス	(主キー) NOTNULL	プレフィックスの規則
NUINDEX	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	インデックス	(主キー) NOTNULL	0 以上
NMFORMDATA	MVARCHAR ※1	4,000※2	フォームデータ	—	firstname=太郎,lastname=日立,....

(凡例)

—：指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

帳票データが 4,000 バイトを超える場合は、複数レコードに分割して格納します (BLC が自動的に分割します)。

(6) BLC_FORM_INFO_T テーブル

帳票ファイルの管理情報を保管するテーブルです。BLC_FORM_INFO_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-7 BLC_FORM_INFO_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDFORMID	VARCHAR	32	帳票 ID	(主キー) NOTNULL	—
NUFORMVERSION	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	帳票バージョン	(主キー) NOTNULL	1 以上
NMBP	MVARCHAR ※1	128	ビジネスプロセス名	—	—
NMPACKAGE	VARCHAR	32	パッケージ ID	(主キー) NOTNULL	—
NMFILE	VARCHAR	128	ファイル名	NOTNULL	※2
NMFORM	MVARCHAR ※1	128	帳票名	NOTNULL	—

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMFORM	MVARCHAR ※1	128	帳票名	INDEX	—
CDBELONGTO	MVARCHAR ※1	128	管理元の組織 コード	—	管理元別帳票一覧用
NUCATEGORY	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	帳票カテゴリ番 号	NOTNULL	0 固定
NMCAPTION	MVARCHAR ※1	128	一覧での帳票説 明文	—	帳票カテゴリ別帳票 一覧用
NMHEADCAPTION	MVARCHAR ※1	128	頭文字	NOTNULL INDEX	名称別帳票一覧用
CFSTOPOPE	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	運用許可フラグ	INDEX	許可：0 不可：1
CFPROTECTED	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	セキュリティフ ラグ	—	なし：0 あり：1
NMBPINBOXPAGE	VARCHAR	256	業務指向受信 ボックスファイ ル名	—	null 時デフォルトは "app/main/ BLCxxxListInboxBP. jsp"
CSBPITEMNAMES	MVARCHAR ※1	1,024	案件データ項目 名リスト	—	コンマ区切り 表示名をコンマ区切 りで指定 項目名にコンマは使 用不可
DTCREATE	VARCHAR	14	データ設定日時	NOTNULL	yyyymmddhhmmss (GMT)
DTUPDATE	VARCHAR	14	データ更新日時	NOTNULL	yyyymmddhhmmss (GMT)
CDFORMTYPE	MVARCHAR ※1	128	帳票種別	—	—
CDSSENTLOGAPPLY	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 	送信ログからの 申請許可フラグ	—	不可：0 許可：1

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDESENTLOGAPPLY	SMALLINT	• Oracle の場合：22	送信ログからの申請許可フラグ	—	不可：0 許可：1

(凡例)

—：指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

ファイル名カラムを次に示すフォーマットで格納します。

"form/" + NMPACKAGE + "/" + CDFORMID + "/" + CDFORMID + "_" + NUFORMVERSION + ".jsp"

(7) BLC_FILE_T テーブル

添付ファイルを管理するテーブルです。BLC_FILE_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-8 BLC_FILE_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL	—
NUFID	SMALLINT	• HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22	ファイル ID	(主キー) NOTNULL	1 以上
NMFILENAME	MVARCHAR ※1	1024	ファイル名	—	—
NMCONTENT	VARCHAR	256	コンテンツタイプ	—	—
NMCREATEUSER	MVARCHAR ※1	128	作成者名	—	—
DTCREATE	VARCHAR	14	作成日時	—	—
NMUPDATEUSER	MVARCHAR ※1	128	更新者名	—	—
DTUPDATE	VARCHAR	14	更新日時	—	—
NUSIZE	INTEGER※2	• HiRDB, SQL Server の場合：4 • Oracle の 場合：22	ファイルサイズ	—	—
BNFILECONTENT	BLOB※3	• HiRDB, SQL Server	添付ファイル データ	—	—

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
BNFILECONTENT	BLOB※3	の場合： 214748364 7 • Oracle の 場合：4000	添付ファイル データ	—	—
NMITEM1	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報 1	—	—
NMITEM2	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報 2	—	—
NMITEM3	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報 3	—	—
NMITEM4	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報 4	—	—
NMITEM5	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報 5	—	—
NMITEM6	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 6	—	—
NMITEM7	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 7	—	—
NMITEM8	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 8	—	—
NMITEM9	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 9	—	—
NMITEM10	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 10	—	—

(凡例)

—：指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

SQL Server の場合は、「INT」に読み替えてください。

注※3

SQL Server の場合は、「VARBINARY (MAX)」に読み替えてください。

付録 D.4 BLCDIRS データベース

BLCDIRS ディレクトリ情報データベースは次のように分類されます。

表 D-9 BLCDIRS ディレクトリ情報データベースの分類一覧

分類	内容
ビュー	ビュー（ビューにカラムを追加できます）
製品提供テーブル	カスタマイズ禁止のテーブル
テンプレートテーブル	テーブルにカラムを追加できるテーブル
作業領域テーブル	ユーザ情報を管理するテーブル
ポータル用テーブル	ポータル情報を管理するテーブル
帳票利用者テーブル	帳票利用者を管理するテーブル
代行者管理テーブル	代行者の設定を管理するテーブル

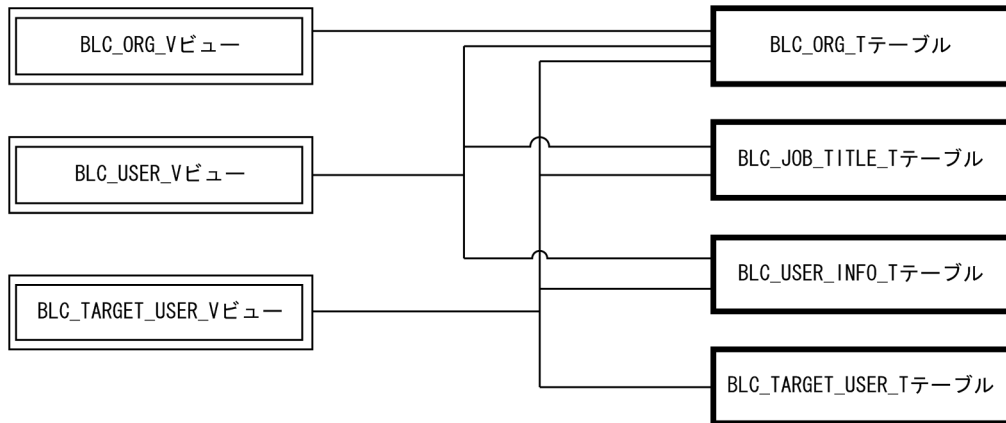
BLCDIRS ディレクトリ情報データベースのテーブル名、およびビューの一覧を次に示します。

表 D-10 BLCDIRS ディレクトリ情報データベースのテーブル名、およびビュー名一覧

分類	テーブル名, またはビュー名 (和名)	テーブル名, またはビュー名	テーブル名, またはビュー名 (エイリアス)
ビュー	組織情報検索ビュー	BLC_ORG_V	BLCOrgView
	ユーザ情報検索ビュー	BLC_USER_V	BLCUserView
	宛先情報検索ビュー	BLC_TARGET_USER_V	BLCTargetUserView
製品提供テーブル	役職情報テーブル	BLC_JOB_TITLE_T	BLCJobTitle
	宛先情報テーブル	BLC_TARGET_USER_T	BLCTargetUser
テンプレートテーブル	組織管理情報テーブル	BLC_ORG_T	BLCOrg
	ユーザ情報テーブル	BLC_USER_INFO_T	BLCUserInfo
ポータル用テーブル	Portal カスタマイズ情報テーブル	BLC_PORTAL_INFO_T	BLCPortalInfo
帳票利用者情報	帳票利用者権限テーブル	BLC_FORM_USERAUTH_T	BLCFormUserAuth
代行者情報	代行者管理テーブル	BLC_AGENT_INFO_T	BLCAgentInfo

BLCDIRS ディレクトリ情報のビュー、およびビューが参照しているテーブルの関連図を次に示します。

図 D-2 ビュー、およびビューが参照しているテーブルの関連図



(凡例)

- : BLCが追加, 削除, および参照するテーブル
- : BLCが参照するビュー
- : 参照

注 テーブルにデータを追加, 削除または変更する場合, そのテーブルに関連するビューと, そのテーブルに関連するビューが参照するテーブルの内容を見直してください。関連するテーブルに不要なデータがある場合は, 不要なデータを必要に応じて削除してください。

例 BLC_USER_INFO_TテーブルからユーザIDを削除する場合, BLC_TARGET_USER_Tテーブルからも関連するデータを削除します。

BLCDIRS ディレクトリ情報データベースのテーブル名, およびビューの詳細を次に説明します。

(1) BLC_ORG_Vビュー

組織階層の情報を参照するためのビューです。BLC_ORG_Vビューのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-11 BLC_ORG_Vビューのカラム名一覧

カラム名	意味	テンプレートテーブルとの対応	
		対象テーブル	対象カラム
CDORG	組織コード※1	BLC_ORG_T	CDORG
NMORG	組織略称	BLC_ORG_T	NMORG
NMORGFULL	組織名	BLC_ORG_T	NMORGFULL
CDPARENTORG	上位組織コード※2	BLC_ORG_T	CDPARENTORG

注※1

"\$root"はシステムで予約されています。"\$root"以外のコードを格納してください。

注※2

最上位組織では上位組織コードに"\$root"を格納します。

(2) BLC_USER_V ビュー

ユーザ情報を参照するためのビューです。BLC_USER_V ビューのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-12 BLC_USER_V ビューのカラム名一覧

カラム名	意味	テンプレートテーブルとの対応		製品提供テーブルとの対応	
		対象テーブル	対象カラム	対象テーブル	対象カラム
CDUSER	ユーザ ID	BLC_USER_INFO_T	CDUSER	—	—
CDLOGINPASSWORD	パスワード	BLC_USER_INFO_T	CDLOGINPASSWORD	—	—
CDPERSONALNO	従業員番号	BLC_USER_INFO_T	CDPERSONALNO	—	—
NMLASTNAMEJ	氏名漢字名字	BLC_USER_INFO_T	NMLASTNAMEJ	—	—
NMFIRSTNAMEJ	氏名漢字名前	BLC_USER_INFO_T	NMFIRSTNAMEJ	—	—
NMLASTNAMEK	氏名カナ名字	BLC_USER_INFO_T	NMLASTNAMEK	—	—
NMFIRSTNAMEK	氏名カナ名前	BLC_USER_INFO_T	NMFIRSTNAMEK	—	—
NMLASTNAMEE	氏名英字名字	BLC_USER_INFO_T	NMLASTNAMEE	—	—
NMFIRSTNAMEE	氏名英字名前	BLC_USER_INFO_T	NMFIRSTNAMEE	—	—
CDBELONGTO	所属する組織コード	BLC_USER_INFO_T	CDBELONGTO	—	—
NMBELONGTO	所属する組織略称	BLC_ORG_T	NMORG	—	—
CDJOBTITLE	役職コード	BLC_USER_INFO_T	CDJOBTITLE	—	—
NMJOBTITLEFULL	役職名	—	—	BLC_JOB_TITLE_T	NMJOBTITLEFULL
NMJOBTITLE	役職略称	—	—	BLC_JOB_TITLE_T	NMJOBTITLE
NUORDER	役職順序	—	—	BLC_JOB_TITLE_T	NUORDER
NMMAILADDRESS	メール(e-Mail)	BLC_USER_INFO_T	NMMAILADDRESS	—	—
NMTELOUTSIDE	TEL 外線	BLC_USER_INFO_T	NMTELOUTSIDE	—	—

カラム名	意味	テンプレートテーブルとの対応		製品提供テーブルとの対応	
		対象テーブル	対象カラム	対象テーブル	対象カラム
NMTELEXTE NSION	TEL 内線	BLC_USER_INFO_T	NMTELEXTENSION	—	—
NUADMINA UTHORITY	管理者権限	BLC_USER_INFO_T	NUADMINAUTHORI TY	—	—
NUALTERNA TEAUTHORI TY	代行権限	BLC_USER_INFO_T	NUALTERNATEAUT HORITY	—	—
CFLOGINST ATUS	ログイン可否ステータス	BLC_USER_INFO_T	CFLOGINSTATUS	—	—
CFSHAREST ATUS	共有トレイスステータス	BLC_USER_INFO_T	CFSHARESTATUS	—	—

(凡例)

—：指定しません。

(3) BLC_TARGET_USER_V ビュー

個人ごとの宛先作業者を保存し、参照するためのビューです。BLC_TARGET_USER_V ビューのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-13 BLC_TARGET_USER_V ビューのカラム名一覧

カラム名	意味	テンプレートテーブルとの対応		製品提供テーブルとの対応	
		対象テーブル	対象カラム	対象テーブル	対象カラム
CDUSER	ユーザ ID	—	—	BLC_TARGET_U SER_T	CDUSER
CDTARGET	宛先作業 者 ID	—	—	BLC_TARGET_U SER_T	CDTARGET
NMBELONG TO	宛先の所属 する組織略称	BLC_ORG_T	NMORG	—	—
CDJOBTITLE	宛先の役職 コード	BLC_USER_INFO _T	CDJOBTITLE	—	—
NMJOBTITLE	宛先の役職略 称	—	—	BLC_JOB_TITLE_ T	NMJOBTITLE
NMLASTNA ME	宛先の氏名漢 字名字	BLC_USER_INFO _T	NMLASTNAMEJ	—	—
NMFIRSTNA ME	宛先の氏名漢 字名前	BLC_USER_INFO _T	NMFIRSTNAMEJ	—	—
CFLOGINST ATUS	宛先のログイン 可否ステータス	BLC_USER_INFO _T	CFLOGINSTATU S	—	—

(凡例)

- : 指定しません。

(4) BLC_JOB_TITLE_T テーブル

役職の情報を管理するテーブルです。BLC_JOB_TITLE_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-14 BLC_JOB_TITLE_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDJOBTITLE	MVARCHAR ※	128	役職コード	(主キー) NOTNULL	-
NUORDER	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合: 2 • Oracle の場合: 22 	役職順序	NOTNULL	0 以上 値の小さい役職を上位役職とし、値の大きい役職を下位役職とします。 役職順序に同じ値を設定した役職については、役職の一覧をドロップダウンリストなどで表示する場合に並び順が不定となります。
NMJOBTITLEFULL	MVARCHAR ※	128	役職名 漢字	-	-
NMJOBTITLE	MVARCHAR ※	128	役職略称	NOTNULL INDEX	"TOP"および"LOW"は使用できません。 "." (半角ハイフン) および"," (半角コンマ) は使用できません。
NMNAMEK	MVARCHAR ※	128	役職名 カナ	-	-
NMNAMEE	VARCHAR	128	役職名 英字	-	-

(凡例)

- : 指定しません。管理者が、SQLなどでユーザ情報を設定してください。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

(5) BLC_TARGET_USER_T テーブル

宛先情報を管理するテーブルです。BLC_TARGET_USER_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-15 BLC_TARGET_USER_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID	(主キー) NOTNULL	BLC_USER_INFO_T テーブルにあるユー ザ ID を指定します。
CDTARGET	VARCHAR	128	宛先作業 ID	(主キー) NOTNULL	BLC_USER_INFO_T テーブルにあるユー ザ ID を指定します。

エンドユーザ操作（電子フォームワークフローの「宛先管理」機能）で宛先情報が設定されます。

(6) BLC_ORG_T テーブル

組織管理情報テーブルのテンプレートテーブルです。BLC_ORG_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-16 BLC_ORG_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDORG	MVARCHAR ※	128	組織コード	(主キー) NOTNULL	"\$root"はシステムで 予約されています。 "\$root"以外のコード で指定してください。
NMORG	MVARCHAR ※	128	組織略称	NOTNULL INDEX	—
NMORGFULL	MVARCHAR ※	128	組織名	—	—
CDPARENTORG	MVARCHAR ※	128	上位組織コード	NOTNULL INDEX	最上位組織では上位 組織コード に"\$root"を格納しま す。

(凡例)

—：指定しません。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

管理者が、SQL などユーザ情報を設定してください。一つの組織に登録するユーザは、300 人程度までにしてください。登録するユーザが 300 人を超えると、ユーザ選択画面の処理に時間が掛かるようになります。

テーブルへのカラムの追加カスタマイズができます。

テーブルに定義されている次の項目の変更、および削除をしないでください。

- カラム名の変更
- サイズおよびデータ型の変更

- カラムの削除

(7) BLC_USER_INFO_T テーブル

ユーザ情報テーブルのテンプレートテーブルです。BLC_USER_INFO_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-17 BLC_USER_INFO_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID	(主キー) NOTNULL	32 バイト以内の半角英数字だけの文字列で指定します。
CDLOGINPASSWORD	VARCHAR	128	パスワード	—	A-Z, a-z, 0-9 の範囲で、8 文字以上の文字列で指定します。
CDPERSONALNO	MVARCHAR ※	128	従業員番号	—	—
NMLASTNAMEJ	MVARCHAR ※	62	氏名漢字名字	INDEX	—
NMFIRSTNAMEJ	MVARCHAR ※	62	氏名漢字名前	INDEX	—
NMLASTNAMEK	MVARCHAR ※	62	氏名カナ名字	—	—
NMFIRSTNAMEK	MVARCHAR ※	62	氏名カナ名前	—	—
NMLASTNAMEE	VARCHAR	62	氏名英字名字	—	—
NMFIRSTNAMEE	VARCHAR	62	氏名英字名前	—	—
CDBELONGTO	MVARCHAR ※	128	所属する組織コード	NOTNULL INDEX	BLC_ORG_T テーブルにある組織コードを指定します。
CDJOBTITLE	MVARCHAR ※	128	役職コード	NOTNULL	BLC_JOB_TITLE_T テーブルにある役職コードを指定します。
NMMAILADDRESS	VARCHAR	128	メール(e-Mail)	—	—
NMTELOUTSIDE	VARCHAR	128	TEL 外線	—	—
NMTELEXTENSION	VARCHAR	128	TEL 内線	—	—
NUADMINAUTHORITY	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	管理者権限	NOTNULL	一般ユーザ：0 システム管理者：1 共有トレイ管理者：2 デフォルトでは、「0」が指定されています。

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NUALTERNATEAUTHORITY	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	代行権限	NOTNULL	利用者：0 代行者：1 振替作業：2 デフォルトでは、「0」が指定されています。
CFLOGINSTATUS	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	ログイン可否ステータス	NOTNULL	可：0 不可：1 デフォルトでは、「0」が指定されています。
CFSHARESTATUS	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	共有トレイスステータス	NOTNULL	ユーザ情報として登録する場合：0 共有トレイス情報として登録する場合：1 デフォルトでは、「0」が指定されています。

(凡例)

－：指定しません。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

管理者が、SQL などユーザ情報を設定してください。

テーブルへのカラムの追加カスタマイズができます。

テーブルに定義されている次の項目の変更、および削除をしないでください。

- カラム名の変更
- サイズおよびデータ型の変更
- カラムの削除

(8) BLC_PORTAL_INFO_T テーブル

ポータルのカスタマイズ情報を管理するテーブルです。BLC_PORTAL_INFO_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-18 BLC_PORTAL_INFO_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID	(主キー) NOTNULL	32 バイト以内の半角英数字だけの文字列で指定します。
BNPERSONALIZEINFORMO ^{※1}	BLOB ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, Oracle の 	ポータルカスタマイズ情報	－	Portal で使用します。BLC では更新しません。

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
BNPERSONALIZEIN FO※1	BLOB※2	場合： 64000 • SQL Server の場合： 214748364 7	ポータルカスタ マイズ情報	—	Portal で使用します。 BLC では更新しませ ん。

(凡例)

—：指定しません。

注※1

BNPERSONALIZEINFO カラムの詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

注※2

SQL Server の場合は、「VARBINARY(MAX)」に読み替えてください。

(9) BLC_FORM_USERAUTH_T テーブル

帳票を利用できる組織や役職情報を保存するテーブルです。BLC_FORM_USERAUTH_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-19 BLC_FORM_USERAUTH_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDFORMID	VARCHAR	80	帳票 ID	(主キー) NOTNULL	管理テーブルと関連 させるキー
NUFORMVERSION	SMALLINT	• HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22	帳票バージョン	(主キー) NOTNULL	—
CDORG	MVARCHAR ※	128	帳票利用組織	(主キー) NOTNULL	—
CDJOBTITLE	MVARCHAR ※	128	帳票利用役職	(主キー) NOTNULL	—
NUSTATUS	SMALLINT	• HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22	帳票の状態	—	帳票がシステムに登 録されている状態：0

(凡例)

—：指定しません。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

(10) BLC_AGENT_INFO_T テーブル

代行者の設定を管理するテーブルです。BLC_AGENT_INFO_T テーブルのカラム名の一覧を次に示します。

表 D-20 BLC_AGENT_INFO_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDUSER	VARCHAR	128	ユーザ ID または共有トレイ ID	(主キー) NOTNULL	—
CDSUBUSER	VARCHAR	128	代行者のユーザ ID	(主キー) NOTNULL	—

(凡例)

—：指定しません。

付録 D.5 完了案件の保管用データベース

完了案件の保管用データベースのテーブル名の一覧を次に示します。

表 D-21 完了案件の保管用データベースのテーブル名一覧

保管先テーブル名 (和名)	保管先テーブル名	保管元テーブル名
受信ボックス保管用テーブル	BLC_BK_INBOX_T	BLC_INBOX_T テーブル
送信ログ保管用テーブル	BLC_BK_SENTLOG_T	BLC_SENTLOG_T テーブル
帳票データ保管用テーブル	BLC_BK_FORM_DATA_T	BLC_FORM_DATA_T テーブル
添付ファイル保管用テーブル	BLC_BK_FILE_T	BLC_FILE_T テーブル※1
案件履歴保管用テーブル	BLC_BK_HISTORY_T	ワーク管理データベース※2
業務データベース保管用テーブル	<ユーザ任意>	業務データベース※3

注※1

添付ファイル機能を使うためのテーブル (BLC_FILE_T) がある場合に作成します。

注※2

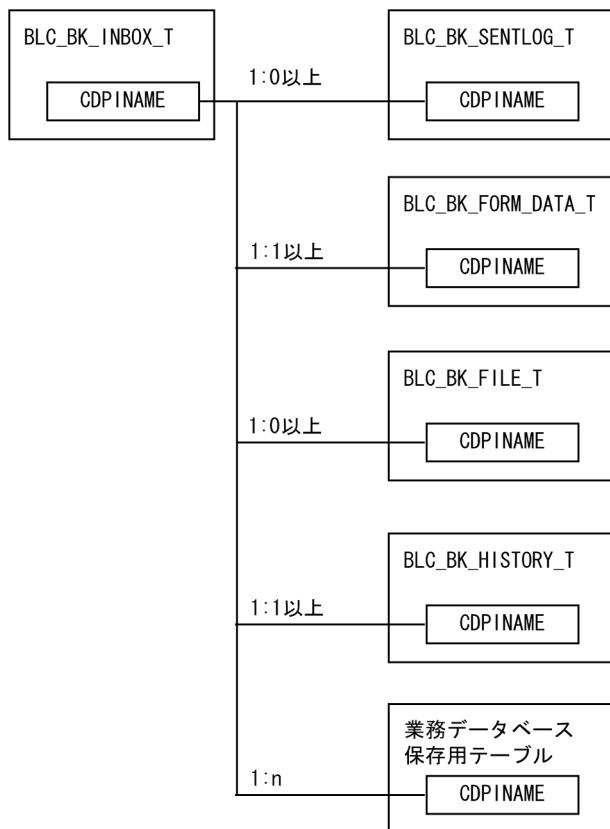
CSCIW のデータを保管するテーブルです。

注※3

業務データベースのデータを保管する場合に作成します。

保管用データベースのテーブルは、案件名をキーとして各テーブルを関連づけて参照・更新します。各テーブル間の関連図を次に示します。

図 D-3 保管用データベースの各テーブルの関連



保管用データベースの各テーブルの詳細を次に説明します。

(1) BLC_BK_INBOX_T テーブル

BLC_INBOX_T テーブル保管用のテーブルです。BLC_BK_INBOX_T テーブル（受信ボックス保管用テーブル）のカラム名の一覧を次に示します。

表 D-22 BLC_BK_INBOX_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMBP	MVARCHAR ※1	128	ビジネスプロセス名	INDEX	BLC_INBOX_T テーブルの NMBP
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL	BLC_INBOX_T テーブルの CDPINAME
CDAPPLICANT	VARCHAR	128	申請者 ID	—	BLC_INBOX_T テーブルの CDAPPLICANT
NMAPPLICANT	MVARCHAR ※1	128	申請者氏名	INDEX	BLC_INBOX_T テーブルの NMAPPLICANT
NMAPPLICANTBE LONGTO	MVARCHAR ※1	128	申請者組織名称	INDEX	BLC_INBOX_T テーブルの

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMAPPLICANTBE LONGTO	MVARCHAR ※1	128	申請者組織名称	INDEX	NMAPPLICANTBE LONGTO
DTCREATE	VARCHAR	14	開始日時	INDEX	BLC_INBOX_T テー ブルの DTCREATE (GMT)
DTLIMIT	VARCHAR	14	処理期限	INDEX	BLC_INBOX_T テー ブルの DTLIMIT (GMT)
DTUPDATE	VARCHAR	14	更新日	—	BLC_INBOX_T テー ブルの DTUPDATE (GMT)
NMUPDATEWI	MVARCHAR ※1	132	更新作業名	INDEX	BLC_INBOX_T テー ブルの NMUPDATEWI
NMSTATUS	MVARCHAR ※1	16	案件状態	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMSTATUS
CDPARTICIPANT	VARCHAR	128	作業者 ID	—	BLC_INBOX_T テー ブルの CDPARTICIPANT
NMPARTICIPANT	MVARCHAR ※1	128	作業者氏名	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMPARTICIPANT
NMPARBELONGT O	MVARCHAR ※1	128	作業者組織略称	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMPARBELONGT O
NMFLOWCOND	VARCHAR	128	分岐条件値	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMFLOWCOND
NMITEM1	MVARCHAR ※1	128	項目値 1	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMITEM1
NMITEM2	MVARCHAR ※1	128	項目値 2	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMITEM2
NMITEM3	MVARCHAR ※1	128	項目値 3	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMITEM3
NMITEM4	MVARCHAR ※1	128	項目値 4	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMITEM4
NMITEM5	MVARCHAR ※1	128	項目値 5	—	BLC_INBOX_T テー ブルの NMITEM5

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMITEM6	MVARCHAR ※1	128	項目値 6	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM6
NMITEM7	MVARCHAR ※1	128	項目値 7	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM7
NMITEM8	MVARCHAR ※1	128	項目値 8	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM8
NMITEM9	MVARCHAR ※1	128	項目値 9	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM9
NMITEM10	MVARCHAR ※1	128	項目値 10	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMITEM10
CDLOCKINFO	MVARCHAR ※1	128	排他ロック用情報	—	BLC_INBOX_T テーブルの CDLOCKINFO
NUFILE	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の場合：22 	添付ファイル数	—	BLC_INBOX_T テーブルの NUFILE 元のデータが null の場合、「0」が設定されます。
NMFORMNAME	MVARCHAR ※1	128	帳票名	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMFORMNAME
CDBEFOREPARTICIPANT	VARCHAR	128	前回作業者 ID	—	BLC_INBOX_T テーブルの CDBEFOREPARTICIPANT
NMBEFOREPARTICIPANT	MVARCHAR ※1	128	前回作業者氏名	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMBEFOREPARTICIPANT
NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO	MVARCHAR ※1	128	前回作業者組織略称	—	BLC_INBOX_T テーブルの NMBEFOREPARTICIPANTBELONGTO
DTCOMPLETE	VARCHAR	14	完了日	INDEX	ワーク管理データベースの案件属性の ClosedDate (案件の終了日時) ※2
DTSAVE	VARCHAR	14	保存日時	—	yyyymmddhhmmss (GMT) ※2

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
EFDFILENAME	MVARCHAR ※1	128	EUR Form 帳 票ファイル (.efd) 名	—	※2※3
CDSTATE	VARCHAR	4	案件状態コード	—	ワーク管理データ ベースの案件属性の StateCode (案件の状 態) ※2

(凡例)

— : 指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

BLC_INBOX_T テーブルにはない追加項目です。追加項目以外のテーブルフォーマットは、BLC_INBOX_T テーブルと同一です。インデックスは、BLC_INBOX_T テーブルと同一のものにインデックスを追加しています。

注※3

今後のバージョンアップ時のために、BLC で予約されています。

(2) BLC_BK_SENTLOG_T テーブル

BLC_SENTLOG_T テーブル保管用のテーブルです。BLC_BK_SENTLOG_T テーブル (送信ログ保管用テーブル) のカラム名の一覧を次に示します。

表 D-23 BLC_BK_SENTLOG_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDLOGPARTICIPANT	VARCHAR	128	ログ所有作業者 ID	(主キー) NOTNULL	BLC_SENTLOG_T テーブルの CDLOGPARTICIPANT
CDPINAME	MVARCHAR ※	80	案件名	(主キー) NOTNULL INDEX	BLC_SENTLOG_T テーブルの CDPINAME
DTCOMPLETE	VARCHAR	14	作業日時	INDEX	BLC_SENTLOG_T テーブルの DTCOMPLETE
NMITEM1	MVARCHAR ※	128	項目値 1	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM1
NMITEM2	MVARCHAR ※	128	項目値 2	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM2

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMITEM3	MVARCHAR ※	128	項目値 3	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM3
NMITEM4	MVARCHAR ※	128	項目値 4	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM4
NMITEM5	MVARCHAR ※	128	項目値 5	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM5
NMITEM6	MVARCHAR ※	128	項目値 6	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM6
NMITEM7	MVARCHAR ※	128	項目値 7	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM7
NMITEM8	MVARCHAR ※	128	項目値 8	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM8
NMITEM9	MVARCHAR ※	128	項目値 9	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM9
NMITEM10	MVARCHAR ※	128	項目値 10	—	BLC_SENTLOG_T テーブルの NMITEM10

(凡例)

—：指定しません。

注

テーブルフォーマット、およびインデックスは、BLC_SENTLOG_T テーブルと同一です。

注※

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

(3) BLC_BK_FORM_DATA_T テーブル

BLC_FORM_DATA_T テーブル保管用のテーブルです。BLC_BK_FORM_DATA_T テーブル (帳票データ保管用テーブル) のカラム名の一覧を次に示します。

表 D-24 BLC_BK_FORM_DATA_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL INDEX	BLC_FORM_DATA_T テーブルの CDPINAME

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPREFIX	VARCHAR	32	帳票モジュール プレフィックス	(主キー) NOTNULL	BLC_FORM_DATA_ T テーブルの CDPREFIX
NUINDEX	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	インデックス	(主キー) NOTNULL	BLC_FORM_DATA_ T テーブルの NUINDEX
NMFORMDATA	MVARCHAR ※1	4,000※2	フォームデータ	—	BLC_FORM_DATA_ T テーブルの NMFORMDATA

(凡例)

—：指定しません。

注

テーブルフォーマットは、BLC_FORM_DATA_T テーブルと同一です。インデックスは、BLC_FORM_DATA_T テーブルと同一のものにインデックスを追加しています。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

帳票データが 4,000 バイトを超える場合は、複数レコードに分割 (BLC が自動的に分割) して格納します。BLC が自動的に分割します。

(4) BLC_BK_FILE_T テーブル

BLC_FILE_T テーブル保管用のテーブルです。BLC_BK_FILE_T テーブル (添付ファイル保管用テーブル) のカラム名の一覧を次に示します。

表 D-25 BLC_BK_FILE_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	案件名	(主キー) NOTNULL INDEX	BLC_FILE_T テーブルの CDPINAME
NUFID	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2 • Oracle の 場合：22 	ファイル ID	(主キー) NOTNULL	BLC_FILE_T テーブルの NUFID
NMFILENAME	MVARCHAR ※1	1,024	ファイル名	—	BLC_FILE_T テーブルの NMFILENAME
NMCONTENT	VARCHAR	256	コンテンツタイプ	—	BLC_FILE_T テーブルの NMCONTENT

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMCREATEUSER	MVARCHAR ※1	128	作成者名	—	BLC_FILE_T テーブルの NMCREATEUSER
DTCREATE	VARCHAR	14	作成日時	—	BLC_FILE_T テーブルの DTCREATE
NMUPDATEUSER	MVARCHAR ※1	128	更新者名	—	BLC_FILE_T テーブルの NMUPDATEUSER
DTUPDATE	VARCHAR	14	更新日時	—	BLC_FILE_T テーブルの DTUPDATE
NUSIZE	INTEGER※2	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：4 • Oracle の場合：22 	ファイルサイズ	—	BLC_FILE_T テーブルの NUSIZE
BNFILECONTENT	BLOB※3	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB, SQL Server の場合：2147483647 • Oracle の場合：4294967296 	添付ファイルデータ	—	BLC_FILE_T テーブルの BNFILECONTENT
NMITEM1	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報1	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM1
NMITEM2	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報2	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM2
NMITEM3	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報3	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM3
NMITEM4	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報4	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM4
NMITEM5	MVARCHAR ※1	128	ユーザ任意情報5	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM5
NMITEM6	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報6	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM6
NMITEM7	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報7	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM7
NMITEM8	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報8	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM8

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考
NMITEM9	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 9	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM9
NMITEM10	MVARCHAR ※1	256	ユーザ任意情報 10	—	BLC_FILE_T テーブルの NMITEM10

(凡例)

—：指定しません。

注

テーブルフォーマットは、BLC_FILE_T テーブルと同一です。インデックスは、BLC_FILE_T テーブルと同一のものにインデックスを追加しています。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

SQL Server の場合は、「INT」に読み替えてください。

注※3

SQL Server の場合は、「VARBINARY (MAX)」に読み替えてください。

(5) BLC_BK_HISTORY_T テーブル

案件履歴保管用のテーブルです。BLC_BK_HISTORY_T テーブル (案件履歴保管用テーブル) のカラム名の一覧を次に示します。

表 D-26 BLC_BK_HISTORY_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考	
					インデックス=0 (申請時)	インデックス>0
CDPINAME	MVARCHAR ※1	80	申請 ID	(主キー) NOTNULL INDEX	ワーク管理データベースの案件属性の Name (案件の名称)	
NUINDEX	SMALLINT	<ul style="list-style-type: none"> HiRD B, SQL Server の場合：2 Oracle の場合：22 	インデックス	(主キー) NOTNULL	申請 ID ごとの連番※2 1 以上	
ACTDEF	MVARCHAR ※1	64	業務ステップ 定義名	—	NULL	ワーク管理データベースの業務ステップ属性の ActivityDefinitionName (業務ステップ定義 の名称)

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	属性	備考	
					インデックス= 0 (申請時)	インデックス> 0
WINNM	MVARCH AR* ¹	64	作業定義名	—	NULL	ワーク管理データベースの作業属性の WorkDefinitionName (作業定義の名称)
STATECODE	VARCHAR R	4	作業状態コード	—	NULL	ワーク管理データベースの作業属性の StateCode (作業の状態)
PARID	VARCHAR R	128	作業者 ID	—	ワーク管理データベースの案件属性 の Creator (案件 の投入者)	ワーク管理データベースの作業属性の Participant (作業者の ID)
PROCESSDATE	VARCHAR R	14	処理日時	—	ワーク管理データベースの案件属性 の StartDate (案 件の開始日時 (GMT))	ワーク管理データベースの作業属性の ClosedDate (作業の終 了日時 (GMT))

(凡例)

— : 指定しません。

注※1

Oracle または SQL Server の場合は、「VARCHAR」に読み替えてください。

注※2

インデックスの範囲は、0～ (案件のワーク管理データベースの作業属性の件数) です。

(6) 業務データベース保管用テーブル

業務データベース保管用のテーブルです。

業務データベースを基に、ユーザがテーブルの詳細を決定する必要があります。

付録 E 電子フォームワークフローのファイル

BLC プロパティファイルや、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で出力されるファイルについて説明します。

付録 E.1 BLC プロパティファイル

BLC プロパティファイルのファイル名と保存先、プロパティファイルを読み込むタイミング、プロパティファイルの書式、およびプロパティ情報について説明します。

(1) プロパティファイルのファイル名と保存先

BLC プロパティファイルのファイル名および保存先を次に示します。

ファイル名

BLC.BLCproperties

保存先

BLC プロパティファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに保存してください。

- Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf

注意事項

BLC プロパティファイル格納ディレクトリは、クラスパスに追加する必要があります。

クラスパスに追加されたディレクトリすべてを対象として、BLC.BLCproperties ファイルが複数にならないようにしてください。

(2) プロパティファイルを読み込むタイミング

BLC プロパティ情報は、プロセスで最初に BLCInfo クラスの setInfo メソッドがコールされたタイミングで static 領域に保持します。プロパティ情報を更新した場合は、次のプロセス起動時から有効です。プロパティファイルがない場合、BLCInfo クラスの setInfo メソッドは例外 (BLCException) をスローしません。

(3) プロパティファイルの書式

BLC プロパティファイルの書式、および書式の規則を次に示します。

プロパティファイルの書式

キー名=設定値

書式の規則

1. ASCII 文字だけが指定でき、大文字/小文字は区別します。
2. 空白文字だけの行、または最初の非空白文字が ASCII 文字「#」(シャープ) または「!»(感嘆符) の行は無視します。「#」(シャープ) または「!»(感嘆符) はコメント行を示します。
3. キー名は、行の最初の非空白文字から、最初の ASCII 文字「=」(イコール)、「:」(コロン)、または空白文字の直前までの行内すべての文字から構成される文字列です。
4. キー名の終わりを示す ASCII 文字「=」(イコール)、「:」(コロン)、または空白文字は、前に「¥」(円記号) を付けるとキー名に含められます。
5. キー名の後ろの空白はすべて無視します。

6. キー名の後ろにある最初の非空白文字が「=」（イコール）または「:」（コロン）の場合、これらの文字、およびそのあとの空白文字をすべて無視します。
7. 行内で 5., 6. の条件以外の文字はすべて、キー値として扱います。
8. 要素文字列内では、ASCII エスケープシーケンス「\t」, 「\r」, 「\n」, 「\f」, および「\s」（円記号とスペース）は認識され、単独の文字に変換されます。
9. 行の最後の文字が「\n」（円記号）場合は、次の行は現在の行に継続します。その場合、「\n」（円記号）と改行コード、および継続行の先頭の空白はすべて無視されます。

注意事項

Java で提供する Properties クラスの getProperty メソッドを使用して読み込みます。Properties クラスの getProperty メソッドの仕様に従ったフォーマットで記述する必要があります。詳細は、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス」を参照してください。エンコードしないので、2 バイト文字は対応しません。

(4) プロパティ情報一覧

BLC プロパティ情報を次に示します。

表 E-1 プロパティ情報の一覧 (BLC)

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
1	TracePath ※1	必須	BLC トレースファイルの出力先ディレクトリをフルパスで指定します。なお、指定したディレクトリには書き込み権限を与えておく必要があります。 指定したディレクトリがない場合、指定したディレクトリが有効な名称であれば BLC でプロセス開始後の初回アクセス時に作成されます。 指定したディレクトリが無効な名称であればプロセス開始後の初回アクセス時にエラーをスローします。 例：C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\logs	—	—
2	TraceFile Num	任意	BLC トレースファイルの面数を指定します。	2~16	16
3	TraceFile Size	任意	BLC トレースファイルのサイズを指定します。	4096~ 21474836 47 (バイト)	10485760 (バイト)
4	TraceLevel	任意	BLC トレースの出力レベルを次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • -1：出力しません。 • 10：例外情報と最低限必要な情報だけ出力します。 • 20：例外情報とコールトレースを出力します。 • 30：例外情報と主要なコールトレースと内部トレースを出力します。 • 40：例外情報とすべてのコールトレースと内部トレースを出力します。 	-1~1000	20

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
5	TraceEncoding	必須	トレース出力の文字セットを指定します。	Shift_JIS または UTF-8 の どちらか	Windows 版 Shift_JIS
6	yyyyyyyyy. ApTracePath* ¹ * ²	任意	ユーザアプリケーションのトレースファイルの出力先ディレクトリをフルパスで指定します。 指定したディレクトリがない場合、指定したディレクトリが有効な名称であれば yyyyyyyy で指定したアプリケーション名のプロセスで初回トレース出力要求時 BLC によって作成されます。 指定したディレクトリが無効な名称であれば yyyyyyyy で指定したアプリケーション名のプロセスで初回トレース出力要求時にエラーをスローします。 例：C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\logs\Ap	—	—
7	yyyyyyyyy. ApTraceFileNum* ²	任意	ユーザアプリケーションのトレースファイルの面数を指定します。	2~16	16
8	yyyyyyyyy. ApTraceFileSize* ²	任意	ユーザアプリケーションのトレースファイルのサイズを指定します。	4096~ 21474836 47 (バイト)	10485760 (バイト)
9	yyyyyyyyy. ApTraceLevel* ²	任意	ユーザアプリケーションのトレース出力レベルを指定します。	-1~1000	20
10	yyyyyyyyy. ApTraceEncoding* ²	任意	ユーザアプリケーションのトレースファイル出力時のエンコーディング値を指定します。	—	Shift_JIS
11	BLCMASTER.method	必須	BLC データベースとの接続方法を次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> pool : DB コネクションプール機能を使って接続します。 direct : 直接接続します。 DB コネクションプール機能は、uCosminexus Application Server の J2EE サーバモードのコネクションプール機能を利用します。DB コネクションプール機能は、プールされたコネクションを利用するため、接続に掛かる時間を節約できますが、コネクション数などのリソース見積もりが必要です。 直接接続は、毎回 DB へ接続するため、プール機能と比較すると接続に時間が掛かります。 "direct"指定は単独の動作確認などで利用し、"pool"指定は実業務環境や、多重実行の確認に利用することをお勧めします。	pool または direct のどちらか	—
12	BLCMASTER.driv	任意* ³	JDBC のドライバ名を指定します。 HiRDB の場合 JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver	—	—

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲(単位)	デフォルト(単位)
12	BLCMAS TER.drv	任意* 3	Oracle の場合 oracle.jdbc.driver.OracleDriver SQL Server の場合 com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver	—	—
13	BLCMAS TER.url	任意* 3	接続情報 URL を指定します。 HiRDB の場合 jdbc:hitachi:hirdb:// DBID=22200,DBHOST=BPMSV,ENCODELANG=MS 932 Oracle の場合 jdbc:oracle:thin:@BPMSV:1521:BLCDB SQL Server の場合 jdbc:sqlserver://BPMSV: 1433;DatabaseName=BLCDB;selectMethod=cursor 添付ファイル操作を行う場合、「付録 H 添付ファイルの使用方法」を参照して、BUF_SIZE=バッファ長を含む形式で指定してください。	—	—
14	BLCMAS TER.prop erties	任意* 3	DB 接続用パラメタ情報を"キーワード=値、・・・接続引数リスト"の形式で指定します。ただし、キーワードおよび値には、"," (半角コンマ) および"=" (半角イコール) を指定しないでください。 例：user=BPM,password=BPM	—	—
15	BLCMAS TER.name	任意* 4	論理 DB 名称を"java:comp/env/任意文字列"で指定します。 例：java:comp/env/BLC	—	—
16	xxxxxxx. method* ⁵	任意	DB との接続方法を次の値で指定します。 • pool：DB コネクションプール機能を使って接続します。 • direct：直接接続します。 DB コネクションプール機能は、uCosminexus Application Server の J2EE サーバモードのコネクションプール機能を利用します。DB コネクションを利用するため、接続に掛かる時間を節約できますが、コネクション数などのリソース見積もりが必要です。 直接接続は、毎回 DB へ接続するため、プール機能と比較すると接続に時間が掛かります。 "direct"指定は単独の動作確認用などで利用し、"pool"指定は実業務環境や、多重実行を確認する場合に利用することをお勧めします。	—	—
17	xxxxxxx. drv* ⁵	任意* 6	JDBC のドライバ名を指定します。 HiRDB の場合 JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver Oracle の場合 oracle.jdbc.driver.OracleDriver	—	—

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
17	xxxxxxxxx.driv ^{※5}	任意 ^{※6}	SQL Server の場合 com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver	—	—
18	xxxxxxxxx.url ^{※5}	任意 ^{※6}	接続情報 URL を指定します。 HiRDB の場合 jdbc:hitachi:hirdb:// DBID=33300,DBHOST=BPMSV,ENCODLANG=MS932 Oracle の場合 jdbc:oracle:thin:@BPMSV:1521:BLCDB SQL Server の場合 jdbc:sqlserver://BPMSV: 1433;DatabaseName=BLCDB;selectMethod=cursor	—	—
19	xxxxxxxxx.properties ^{※5}	任意 ^{※6}	DB 接続用パラメタ情報を"キーワード=値,・・・接続引数リスト"の形式で指定します。ただし、キーワードおよび値には、"," (半角コンマ) および"=" (半角イコール) を指定しないでください。 例：user=BPM,password=BPM	—	—
20	xxxxxxxxx.name ^{※5}	任意 ^{※7}	論理 DB 名称を"java:comp/env/任意文字列"で指定します。 例：java:comp/env/BLC	—	—
21	Directory_Class	任意	ディレクトリ情報アクセスクラスを変更する場合に、ディレクトリ情報アクセスクラス名を指定します。 例：jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCDirs	—	—
22	ListForm_UserAddClass	任意	ユーザ追加の帳票一覧処理クラスを変更する場合に、ユーザ追加の帳票一覧処理クラス名を指定します。 例：jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCListForm	—	—
23	ListMenu_UserAddClass	任意	ユーザ追加のメニューボタン取得クラスを変更する場合に、ユーザ追加のメニューボタン取得クラス名を指定します。 例：jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCListMenu	—	—
24	RequestDataEncode	必須	Web コンテナに依存して必要になる HttpServletRequest クラスのリクエストデータに対するエンコードで使用する文字セットを指定します。指定がないときはエンコードしません。 例：Shift_JIS	Shift_JIS または UTF-8 の どちらか	—
25	PINamePrefix	任意	申請 ID のプレフィックスを任意文字列で指定します。申請 ID は 30 文字以内の半角英数字の任意の文字列です (30 文字を超えるとエラーになります)。 例：BLC	—	空文字列 (文字)
26	PINameLength	任意	申請 ID の長さを指定します。	1~12 (バイト)	7 (バイト)
27	TimeZone ^{※8}	任意	カレントホストのタイムゾーンを指定します。BLC で保持する日付時刻の値は GMT です。該当するキーで指定された値でローカライズします。 例：GMT+09:00	—	カレントホストのタイムゾーン

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲(単位)	デフォルト(単位)
28	SpaceHtmlEncode	任意	半角スペースコードを HTML エンコードするかどうかを次の値で指定します。ただし、textarea タグに含まれる半角スペースコードは HTML エンコードしません。 <ul style="list-style-type: none"> • true : &nbsp;に変更します。 • false : HTML エンコードしません。 	true または false のどちらか	true
29	DispHistory	任意	帳票上部に承認履歴を表示するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : 表示します。 • false : 表示しません。 この項目の指定がない、値の指定がない、または値が範囲外の場合、デフォルト値で動作します。 また、キーおよび値は大文字と小文字が区別されます。 EUR-Form 連携帳票の場合、この項目の指定にかかわらず承認履歴は表示されません。	true または false のどちらか	false
30	PIHistory.outputPISatus ^{*9}	任意	最終作業の実行処理名を表示するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • yes : 表示します。 • no : 表示しません。 	yes または no のどちらか	no
31	PIPFrameWork	任意	BLC 案件処理フレームワークを使用するかどうかを設定します。ただし、BLC 案件処理フレームワークを使用できるのは、BLC 帳票の場合だけです。 <ul style="list-style-type: none"> • yes : 使用します。 • no : 使用しません。 指定がない、または値が範囲外の場合、デフォルト値で動作します。	yes または no のどちらか	no
32	BLCPIStatusFactoryName	任意	案件ステータスクラスのファクトリクラス名を指定します。ユーザは、このキーに指定したクラスを作成し、案件ステータスクラスのインスタンスを返すメソッドを実装します。 PIPFrameWork キーに"yes"が指定されているときに、BLCPIStatusFactory キーが存在しない場合は、デフォルトの BLCPIStatusFactory クラス (jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCPIStatusFactory) が使用されます。BLCPIStatusFactory クラスは、デフォルトの BLCPIStatus クラス (jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCPIStatusFactory) を getInstance メソッドで返すため、案件ステータス管理は行いません。	—	jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCPIStatusFactory
33	FormDataSeparateSize	任意	帳票データの分割文字数を指定します。 BLCMASTER テーブルの BLC_FORM_DATA_T テーブルの nmFormData カラムに、帳票データを格納する文字数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1950 : データベースが Shift_JIS の場合 • 975 : データベースが UTF-8 の場合 上記以外の値は指定しないでください。範囲外の値を指定した場合、または 975 未満の値を指定した場合は、無効な文字列と判断されプロパティ不正のエラーになります。	975 または 1950 のどちらか (文字)	Windows 版 (Shift_JIS) 1950 (文字)

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
34	CheckSendToData	任意	申請/承認処理で、宛先未指定 (BLC_SendToData に値が設定されているかどうか) のチェックをするかどうかを設定します。クライアント側での宛先選択チェックではありません。 <ul style="list-style-type: none"> • true : チェックします。 宛先が未指定の場合は、エラーをスローします。 • false : チェックしません。 この場合、BLC_SendToData に値が指定されていないため、別途ユーザプログラムで宛先を指定するなど、振り分けルールなどを含めて矛盾が発生しないようにしてください。 	true または false のどちらか	true
35	CheckHistoryNodeExist	任意	送信ログからの内容確認時に、ログインユーザが処理した履歴が存在チェックをするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : チェックします。 ログインユーザが処理した履歴がない場合は、エラーをスローします。 • false : チェックしません。 ログインユーザが処理した履歴がない場合は、現在の最終処理ノードとして表示します。 	true または false のどちらか	true
36	PasswordType	任意	パスワード形式を指定します。ユーザ管理機能で入力したパスワードが、指定した形式に変換されます。 <ul style="list-style-type: none"> • md5 : MD5 形式 • sha1 : SHA-1 形式 • 指定なし : 平文 キーおよび値は大文字と小文字を区別します。	md5, sha1, 指定なしのどれか	指定なし
37	MailSMTPHost	任意	メール連携機能でメールの送信を実行する場合に、メールサーバ (SMTP サーバ) のホスト名、または IP アドレスを指定します。 例 : MailSMTPHost=XXX.XXX.XXX.XXX	-	-
38	ScreenValidPolicy* 10	任意	画面表示の期間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • cookie : 従来の方法です。ポータルで session タイムアウトが発生しても、BLC 単独の画面が起動している場合は動作が続行されます。 • session : ポータルの session に合わせた方法です。session タイムアウトが発生した場合、エラー画面が表示されます。 なお、session タイムアウトを発生させたくない場合は、ポータルの基本画面に隠しフレームを作成し、そのフレーム内に meta タグを埋め込んでください。 例 : <meta http-equiv="refresh" content="1200" /> 注 例の content (秒) の値は、セッションタイムアウト期間より短い期間を設定してください。セッションタイムアウト期間のデフォルト値は 30 分 (1800 秒) です。web.xml で指定します。	cookie または session のどちらか	cookie

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲(単位)	デフォルト(単位)
39	PortalScreenEnable	任意	BLC の画面がポータル対応かどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : BLC のバージョン 05-50 以降の画面 • false : BLC のバージョン 05-00 以前の画面 	true または false のどちらか	false
40	PasswordMin	任意	パスワードに入力する文字の最小文字数を指定します。	1~128 (バイト)	8 (バイト)
41	MaxSearchUser	任意	ユーザ管理機能のユーザ検索で検索できるユーザの最大件数を指定します。	0~2147483647 (件)	500 (件)
42	BLCMaxRequestSize	任意	Web コンテナに依存して必要になる HttpServletRequest クラスのリクエストデータに対して、送信できるデータの最大データサイズを指定します。 指定した最大データサイズと javax.servlet.ServletRequest#getContentLength メソッドの値を比較し、最大データサイズの値を超えた場合はリクエストの送信に失敗します。 値が不正または範囲外の場合は、デフォルト値で動作します。 なお、キーの指定がない場合、サイズチェックは実行されません。 また、 javax.servlet.ServletRequest#getContentLength メソッドの値が不明だった場合は、最大データサイズを超えていないものとして動作します。	4096~2147483647 (バイト)	サイズをチェックしない
43	MailSMTPPort	任意	メール連携機能でメールを送信する場合に、メールサーバ (SMTP サーバ) のポート番号を指定します。	1~65535	25

(凡例)

— : 該当しません。

注

キーを指定しない場合、デフォルトの値で動作します。

注※1

Windows でディレクトリパスにセパレータを含む場合は、"¥¥"としてください。

注※2

yyyyyyyy は 16 バイト以内の半角英数字の任意の文字列です。

注※3

BLCMASTER.method に "direct"指定時は必須で、"pool"指定時は無視します。

注※4

BLCMASTER.method が"pool"指定時は必須で、"direct"指定時は無視します。

注※5

xxxxxxx は 32 バイト以内の半角英数字の任意の文字列です。この文字列が、DB 接続名になります。

注※6

xxxxxxx.method が"direct"指定時は必須で、"pool"指定時は無視します。

注※7

xxxxxxx.method が"pool"指定時は必須で、"direct"指定時は無視します。

注※8

指定書式に誤りがあると GMT ゾーンとして扱われます。書式は Java の TimeZone クラスを参照してください。

注※9

実行処理名を表示させるよう設定した場合、DB アクセスが増加します。

注※10

ScreenValidPolicy キーに"cookie"を指定した場合の補足情報および注意事項については、「ScreenValidPolicy キーに"cookie"を指定した場合の補足情報および注意事項」を参照してください。

トレースサイズ、および面数のデフォルト値の見積もりモデル

- 1 メソッド：4 レコード
 - 同時アクセススレッド数：50
 - 1 スレッド当たりの保存メソッド数：2000
 - デフォルト面数：2
- ↑ $100 \times 4 \times 50 \times 2,000 \div 2 \div 1,024 \div 1,024 \uparrow \times 1,024 \times 1,024 = 20,971,520$ (20MB)

ScreenValidPolicy キーに"cookie"を指定した場合の補足情報および注意事項

Cookie を使用した認証は、認証クラスと認証ページで処理を実現します。認証処理では、Cookie に対するユーザ ID の保持および参照を実行します。BLC 実行環境は、Cookie にユーザ ID があればログイン済みと判断し、BLC のページを遷移させます。

認証クラスは、次の条件で使用されます。

- ログイン処理
ユーザの業務開始ページ (ログインページなど) から BLC 認証ページが要求されて、BLC 認証ページ内で認証処理をします。
- ログイン済みチェック処理
すべてのページから呼ばれて、認証済みチェックをします。

注意事項

- BLC の各ページからほかのページに遷移する場合、Cookie にユーザ ID などの情報がないときは、BLC 認証エラーとなり、ブラウザにエラーメッセージが表示されます。
- Cookie には、BLC にログインしたブラウザを終了するまで、ユーザ ID などの情報が保持されます。
- BLC にログインしたブラウザを終了すると、Cookie に保持されているユーザ ID などの情報は削除されます。
- Cookie に保持されるユーザ ID などの情報は、現在ログインしているアプリケーションサーバだけで認証情報として使用されます。アプリケーションサーバ上で、BLC のコンテキストパスが異なる場合、BLC 認証情報は無効となります。
- "cookie"選択時にポータル画面でセッションタイムアウトが発生した場合でも、BLC の画面では動作し続けます。ただし、Portal Framework が管理する画面 (ポータルホームなど) を操作するとエラーが発生します。この場合は、いったんログアウトしたあとで再ログインしてください。

(5) プロパティファイルのサンプル

BLC プロパティファイルのサンプルについて、ファイル名、格納先、および内容を次に示します。

ファイル名

BLC.BLCproperties.sam

格納先

BLC プロパティファイルのサンプルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- Windows 版の場合
 <BLC2 のインストールディレクトリ>%conf

サンプルの内容

サンプルの内容を次に示します。

```
#All Rights Reserved. Copyright (C) 2002, 2009, Hitachi, Ltd.
#Licensed Material of Hitachi, Ltd.
#Reproduction, use, modification or disclosure otherwise than
#permitted in the License Agreement is strictly prohibited.
#####
# Hitachi Business Logic - Container 2 sample file
#####
TracePath = C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%logs
TraceFileNum = 16
TraceFileSize = 10485760
TraceLevel = 20
TraceEncoding = Shift_JIS
#yyyyyyyy.ApTracePath = C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%logs%Ap
#yyyyyyyy.ApTraceFileNum = 16
#yyyyyyyy.ApTraceFileSize = 10485760
#yyyyyyyy.ApTraceLevel = 20
#yyyyyyyy.ApTraceEncoding = Shift_JIS
BLCMASTER.method = pool
#BLCMASTER.driv = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver
#BLCMASTER.url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=22200,DBHOST=BPMSV, ENCODELANG=MS932
#BLCMASTER.properties = user=BPM,password=BPM
BLCMASTER.name = java:comp/env/BLC
#xxxxxxx.method = pool
#xxxxxxx.driv = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver
#xxxxxxx.url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=33300,DBHOST=BPMSV, ENCODELANG=MS932
#xxxxxxx.properties = user=BPM,password=BPM
#xxxxxxx.name = java:comp/env/BLC
#Directory_Class = jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCDirs
#ListForm_UserAddClass = jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCListForm
#ListMenu_UserAddClass = jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCListMenu
RequestDataEncode = Shift_JIS
#PINamePrefix = BLC
#PINameLength = 7
TimeZone = GMT+09:00
SpaceHtmlEncode = true
DispHistory = false
PIPFramework = no
#BLCPIStatusFactoryName = jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCPIStatusFactory
PIHistory.outputPIStatus = no
FormDataSeparateSize = 1950
ScreenValidPolicy = session
PortalScreenEnable = true
BLCMaxRequestSize = 11000000
#MailSMTPHost =
#MailSMTPPort = 25
#PasswordType = sha1
#PasswordMin = 8
```

付録 E.2 スtringリソースプロパティファイル

Stringリソースプロパティファイルは、BLC 実行環境の各ページで表示するテキストのリソースをカスタマイズするためのファイルです。

Stringリソースの一覧を、次に示します。

(1) 識別コード 1000~1199

識別コード 1000~1199 のStringソースの一覧を次の表に示します。

表 E-2 スtringリソース一覧 (識別コード 1000~1199)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1001	AUTH_ERROR_P RAM	%s が指定されていません。	認証ページ(BLCAUTHlogin.jsp) でリクエストタグのパラメタが取得 できなかった場合に使用
1002	AUTH_LOGOUT_B ODY	ログアウトしました。	ログアウト画面 (BLCAUTHlogout.jsp)で使用する ボディテキスト
1003	AUTH_LOGOUT_B UTTON	認証画面へ	ログアウト画面 (BLCAUTHlogout.jsp)でボタン 名として使用 ただし, BLC プロパティファイル の AuthenticatePageURL キーの 指定がない場合は非表示
1004	AUTH_LOGOUT_T ITLE	BLC ログアウト	ログアウト画面 (BLCAUTHlogout.jsp)のページ タイトルで使用
1005	DATETIME_FORM AT	yyyy 年 MM 月 dd 日 HH:mm:ss	全画面の右上に表示される現在日 時の形式 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (作業件数表示) 画面 受信ボックス画面 送信ログ画面 案件履歴表示 注 日時のあとの"現在"の部分 を変更する場合は, ID: 1010 を変更
1006	DATE_FORMAT	yyyy 年 MM 月 dd 日	案件履歴表示の処理日時のうち, 完 了した作業についての日付 "YYYY/MM/dd"の日時フォー マット
1007	TIME_FORMAT	HH:mm:ss	案件履歴表示の処理日時のうち, 完 了した作業についての時刻 "hh:mm"の日時フォーマット
1008	NO_DATE_FORMA T	----年--月--日	案件履歴表示の処理日時のうち, ま だ完了していない作業についての 日付"----/--/--"の文字
1009	NO_TIME_FORMA T	--:--:--	案件履歴表示の処理日時のうち, ま だ完了していない作業についての 時刻"--:--"の文字
1010	NOW	現在	全画面の右上に表示される現在日 時のあとに表示される "現在"文字 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (作業件数表示) 画面 受信ボックス画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1010	NOW	現在	<ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 案件履歴表示 <p>注 "現在"の前の現在日時の形式を変更する場合は, ID:1005 を変更</p>
1012	BPNAME	業務名称	<p>(1) 受信ボックス (作業件数表示) 画面の一覧表にある項目名</p> <p>(2) 受信ボックス画面の一覧表にある項目名</p> <p>(3) 送信ログ画面の一覧表にある項目名</p> <p>(4) 案件履歴表示の上部中央にある項目名</p>
1013	PINAME	申請 ID	<p>(1) 表にある項目名</p> <p>(2) 送信ログ画面の一覧表にある項目名</p> <p>(3) 案件履歴表示の上部中央にある項目名</p>
1014	WORK_NAME	作業名	<p>(1) 受信ボックス画面の一覧表にある項目名</p> <p>(2) 案件履歴表示の表にある見出しにある項目名</p> <p>(3) 申請時宛先ユーザ 0 人時のエラー画面の作業名見出し表示テキスト</p>
1015	PARTICIPANT	処理名	案件履歴表示の表にある見出しの項目名
1016	COMPLETE_TIME	処理日時	<p>(1) 送信ログ画面の一覧表にある項目名</p> <p>(2) 案件履歴表示の表にある見出しの項目名</p>
1017	APPLY	申請	<p>(1) 帳票ボタン名リソース</p> <p>(2) 申請時宛先ユーザ 0 人時のエラー画面の作業表示テキスト</p>
1019	REJECTION	却下	帳票ボタン名リソース
1020	DESTRUCTION	破棄	帳票ボタン名リソース
1021	PULL_BACK	引き戻し	帳票ボタン名リソース
1022	PHIS_TITLE	案件履歴	案件履歴表示のタイトルとして使用しています。画面には表示されず、BLCnotifyTitle が使用されます。

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1023	PISTATUS	案件状態	送信ログ画面の一覧表にある項目名
1024	START_TIME	開始日時	(1) 受信ボックス画面の一覧表にある項目名 (2) 送信ログ画面の一覧表にある項目名
1026	APPLY_NAME	申請者氏名	(1) 受信ボックス画面の一覧表にある項目名 (2) 送信ログ画面の一覧表にある項目名
1027	APPLY_ORG	申請者 組織略称	(1) 受信ボックス画面の一覧表にある項目名 (2) 送信ログ画面の一覧表にある項目名
1029	LAST_PARTICIPANT_NAME	最終作業者氏名	送信ログ画面の一覧表にある項目名
1030	LAST_PARTICIPANT_ORG	最終作業者 組織略称	送信ログ画面の一覧表にある項目名
1031	SORT_DESC	▽	一覧表示画面でソート (降順) をした項目名の後ろに付ける文字列 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 宛先管理画面 ユーザ選択画面
1032	SORT_ASC	△	一覧表示画面でソート (昇順) をした項目名の後ろに付ける文字列 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 宛先管理画面 ユーザ選択画面
1033	COM_RELOAD	最終状況を確認します。	全画面の最新表示用アンカーの文字列 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (作業件数表示) 画面 受信ボックス画面 送信ログ画面
1034	PREVIOUS	前へ	[前へ] ボタンの表示名 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面
1035	NEXT	次へ	[次へ] ボタンの表示名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1035	NEXT	次へ	<ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面
1036	COUNT	件数	受信ボックス (作業件数表示) 画面の一覧表にある項目名
1037	INBOX_ALLITME	全作業の表示	受信ボックス (作業件数表示) 画面から受信ボックスを全業務指定で起動するボタンの表示名
1038	ARRIVED_TIME	到着日時	受信ボックス画面の一覧表にある項目名
1040	INBOX_MENU	業務別作業数表示	受信ボックスから受信ボックス (作業件数表示) 画面に戻るボタンの表示名
1041	SLOG_TITLE_NO	表示する送信ログはありません。	送信ログが1件もない場合に送信ログ画面に表示されるテキスト
1042	SLOG_TITLE	送信ログを%s件目から%s件表示しています。	送信ログが1件以上ある場合に送信ログ画面に表示されるテキスト
1043	INBOX_TITLE_NO	処理待ち作業はありません。	<p>(1) 作業が1件もない場合に受信ボックス (作業件数表示) 画面に表示されるテキスト</p> <p>(2) 作業が1件もない場合に受信ボックス画面に表示されるテキスト</p>
1044	INBOX_TITLE	処理待ち作業が%s件あります。	作業が1件以上ある場合に受信ボックス (作業件数表示) 画面に表示されるテキスト
1045	INBOXITEM_TITL E_BP	%sの処理待ち作業を%s件目から%s件表示しています。	作業が1件以上ある場合の受信ボックス画面に表示されるテキスト (業務で絞り込み時)
1046	INBOXITEM_TITL E	処理待ち作業を%s件目から%s件表示しています。	作業が1件以上ある場合の受信ボックス画面に表示されるテキスト (全業務指定時)
1047	ACTIVE	処理中	業務完了指示作業での"処理中"設定テキスト
1048	COMPLETE	完了	業務完了指示作業での"完了"設定テキスト
1093	FMJSBPMANAGER	再度操作をしてください。	帳票表示失敗時の alert メッセージ
1107	CONFBPNAME	業務名称:	帳票案件開始後の確認画面テキスト
1108	CONFPINAME	申請 ID:	(1) 帳票案件開始後の確認画面テキスト

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1108	CONFPINAME	申請 ID :	(2) 帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1109	CONFMSGAFX	の案件を申請しました。	帳票案件開始後の確認画面テキスト
1110	CONFOPEEND	しました。	帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1111	FMJSINCOMPLETE	帳票の表示が不完全です。	帳票表示失敗時の alert メッセージ
1112	SBTN_SAVETMP	一時保存	帳票ボタン名リソース
1113	SBTN_SAVEMODE L	ひな形保存	帳票ボタン名リソース
1114	SBTN_RESET	リセット	帳票ボタン名リソース
1115	SBTN_RTNPAGE	戻る	帳票ボタン名リソース (帳票間で戻るときに使用)
1116	SBTN_RTNMENU	戻る	帳票ボタン名リソース (コンソールメソッドで戻るときに使用)
1117	SBTN_RTNBACK	戻る	帳票ボタン名リソース (ブラウザヒストリへ戻るときに使用)
1118	SBTN_FORMREUSE	再表示	帳票ボタン名リソース
1119	SBTN_REAPPLY	再申請	帳票ボタン名リソース
1120	SBTN_REASSIGN	振替	帳票ボタン名リソース
1121	SBTN_CONFIRM	確認	帳票ボタン名リソース
1122	SBTN_RECEPTION	受付	帳票ボタン名リソース
1123	SBTN_SUSPEND	保留	帳票ボタン名リソース
1124	SBTN_WICOMPLE TE	承認	帳票ボタン名リソース
1125	SBTN_VIEWFORM	内容確認	帳票ボタン名リソース
1126	SBTN_APPLYFOR M	申請書表示	帳票ボタン名リソース
1127	SBTN_EXTEND1	機能 1	帳票ボタン名リソース
1128	SBTN_EXTEND2	機能 2	帳票ボタン名リソース
1129	SBTN_EXTEND3	機能 3	帳票ボタン名リソース
1130	SBTN_EXTEND4	機能 4	帳票ボタン名リソース
1131	SBTN_EXTEND5	機能 5	帳票ボタン名リソース

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1132	SBTN_EXTEND6	機能 6	帳票ボタン名リソース
1134	SNODEEND_CONFIRM	確認	帳票作業名終結文字判定文字列(作業完了ボタン名確認用)
1135	SNODEEND_RECEPTION	受付	帳票作業名終結文字判定文字列(作業完了ボタン名受付用)
1136	BTNLIST_INVALID	ボタンリスト種別が不正です。	帳票ガイダンス文字列 (ボタンリスト ID が不正な場合に表示されるテキスト)
1137	BTNLIST_NOTFOUND	ボタンリストの指定がありません。	帳票ガイダンス文字列 (ボタンリストが指定されていない場合に表示されるテキスト)
1138	BTNLIST_IDUNKNOWN	未定義のボタン ID です。	帳票ガイダンス文字列 (ボタンリストのボタン ID が不正な場合に表示されるテキスト)
1139	SOURCE_NODETEXT	申請者	案件履歴表示の作業名のうち, @Source に当たる部分の文字
1140	BTNDISP_FAIL	申請/承認ボタンの表示処理が失敗しました。	BLCFormButton クラス指定エラー時の表示テキストタイトル
1141	FMCOMMENT1	コメント	コメント記述テキスト領域の見出しテキスト
1142	FMCOMMENT2	記述欄	コメント記述テキスト領域の見出しテキスト
1143	FMTARGETCAP	宛先選択:	宛先選択ドロップダウンリストの見出しテキスト
1144	FMTARGETCLICK	宛先を選択してください。	(1) 宛先選択ドロップダウンリストの先頭選択肢テキスト (2) 宛先選択ドロップダウンリスト未選択時の alert テキスト
1145	FMTGTNOUSER	宛先が登録されていません。	<ul style="list-style-type: none"> 宛先管理画面の宛先未登録時のタイトル文字 申請時宛先ユーザ 0 人時のエラー画面のタイトルテキスト
1150	DATETIME_FORMAT2	yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<p>一覧表に表示する日付の形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面 <p>注 これを変更した場合は ID: 1230 も合わせて変更要</p>

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1151	DAY_FORMAT	yyyy/MM/dd	帳票の承認履歴の日付フォーマット
1154	FMMDEL_ASK	よろしいですか?	帳票登録画面の登録確認メッセージ
1155	FMMDEL_DELETE	削除	送信ログ画面の一覧表にある項目名 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面のボタン名 宛先管理画面のボタン名
1156	FMMRED_INITIAL	帳票の頭文字を入力してください。	帳票登録画面の頭文字未入力エラー
1157	FMMRED_OPEINPUT	運用許可/不可を選択してください。	帳票登録画面の運用状態未入力エラー
1158	FMMRED_FMFILE	帳票ファイル	帳票登録画面の登録確認メッセージ
1159	FMMRED_REDSTART	<ファイル名>の登録を行います。	帳票登録画面の登録確認メッセージ
1160	FMMRED_REDITEM	登録する帳票の項目を入力してください。	帳票登録画面のタイトル文字
1162	FMMRED_KAKUSYU	各種申請	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面の帳票カテゴリ 帳票登録画面の帳票カテゴリ
1163	FMMRED_INISORT	頭文字 (ソート用)	帳票登録画面の表ヘッダ
1164	FMMRED_URL	帳票格納 URL	帳票登録画面の表ヘッダ
1165	FMMRED_FILENAME	ファイル名	帳票登録画面の表ヘッダ
1167	FMMRED_FMVR	帳票バージョン	帳票登録画面の表ヘッダ
1168	FMMRED_BACK	戻る	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面のボタン名 帳票登録画面のボタン名 帳票登録用定義選択画面のボタン名
1170	FMMID_FMNAME	帳票名称	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1171	FMMID_OPERATING	運用	登録済み帳票一覧画面表ヘッダ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1172	FMMID_CATEGORY	帳票カテゴリ	登録済み帳票一覧画面表ヘッダ
1173	FMMID_FORMID	帳票 ID	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1174	FMMID_FORM	帳票	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1175	FMMID_VR	バージョン	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1176	FMMID_BPNAME	ビジネスプロセス名	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1177	FMMID_CRE_DATE	作成日時	帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1178	FMMID_UPD_DATE	更新日時	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ
1179	FMMID_UPDATE	更新	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面のボタン名 帳票登録画面のボタン名 DB アクセス専用帳票の更新ボタン名
1180	FMMID_OPE	許可	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面の運用状態 帳票登録画面の運用状態
1181	FMMID_NOPE	不可	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面の運用状態 帳票登録画面の運用状態
1182	FMMID_NEWREGISTER	新規登録	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面のボタン名 帳票登録画面のボタン名
1183	FMMID_DEFCHK	定義ファイル再選択	登録済み帳票一覧画面のボタン名
1184	FMMID_RESELECT	再選択	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面のボタン名に対応した文字列 帳票登録画面のボタン名に対応した文字列

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1184	FMMID_RESELECT	再選択	<ul style="list-style-type: none"> 帳票登録用定義選択画面のボタン名に対応した文字列
1185	FMMID_DELCHECK	削除する帳票がチェックされていません。	登録済み帳票一覧画面のチェックボックス複数チェック時のエラー
1186	FMMID_CHECK	1 帳票のみチェックしてください	登録済み帳票一覧画面のチェックボックス複数チェック時のエラー
1187	FMMMENU_TITLE	帳票の登録/削除	管理機能画面の表示文字列
1188	MPART_TITLE	宛先管理	宛先管理画面タイトル
1190	FMMSELD_TITLE	帳票登録用定義の選択	帳票登録用定義選択画面タイトル
1191	FMMSELD_SELECT	選択	<ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面表ヘッダ 帳票登録用定義選択画面表ヘッダ ユーザ選択画面のボタン名
1195	FMMSELD_NEXT	次へ	帳票登録用定義選択画面のボタン名
1196	FMMSELD_FMNEWREDIST	帳票新規登録	帳票登録用定義選択画面のボタン名に対応した文字列
1197	FMMSELD_SELECT_CHECK	帳票定義情報を選択してください。	帳票登録用定義選択画面の帳票未選択時のエラー

(2) 識別コード 1200～1399

識別コード 1200～1399 のストリングソースの一覧を次の表に示します。

表 E-3 スtringリソース一覧 (識別コード 1200～1399)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1201	MPART_MPARTLIST	登録宛先一覧	宛先管理画面のタイトル
1202	MPART_NAME	氏名	<ul style="list-style-type: none"> 宛先管理画面の表ヘッダ ユーザ選択画面の表ヘッダ
1203	MPART_JOBTITLE	役職	<ul style="list-style-type: none"> 宛先管理画面の表ヘッダ ユーザ選択画面の表ヘッダ
1204	MPART_BELONG	所属略称	宛先管理画面の表ヘッダ
1205	MPART_ADD	追加	宛先管理画面のボタン名
1206	MPART_DELADDR	指定した宛先を削除します。	<ul style="list-style-type: none"> 宛先管理画面のボタン説明 宛先管理画面の削除確認メッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1207	MPART_ADDADDR	宛先を新規に追加します。	宛先管理画面のボタン説明
1208	WSDIR_TITLE	ユーザ選択	ユーザ選択画面のウィンドウタイトル
1209	WSDIR_USERINFO	ユーザ情報	ユーザ選択画面のユーザー一覧タイトル
1210	WSDIR_CLOSE	閉じる	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ選択画面のボタン名 DB アクセス専用帳票の更新結果画面のボタン名
1211	WSDIR_SELECTUSER	ユーザ情報を選択してください。	ユーザ選択画面のユーザ未選択エラー
1213	WSDIR_ORG	組織	ユーザ選択画面の組織ツリータイトル
1214	DBFORM_UPDATEID	更新しました。	DB アクセス専用帳票の結果表示テキスト
1215	WSDIR_NOUSER	ユーザが存在しません。	ユーザ選択画面のユーザがない場合のメッセージ
1217	LISTLOG_DELLERR	削除する送信ログがチェックされていません。	送信ログ削除時に削除対象の送信ログが1件も指定されていない場合のエラー画面のテキスト
1218	LISTLOG_DELL	指定した送信ログを削除します。	送信ログ削除時の問い合わせ画面のテキスト
1219	MANAGE_TITLE	管理機能	管理機能画面のタイトル
1220	FMM_TITLE	登録済み帳票一覧	登録済み帳票画面タイトル
1221	UPDATE_CHECK_ERR	更新する帳票がチェックされていません。	登録済み帳票画面の更新用チェックボックス未選択エラー
1222	FMDEFFILE_NOTFOUND	帳票登録用定義ファイルが存在しません。	帳票登録用定義選択画面の帳票が1件もないときのエラー
1223	INBOX	受信ボックス	コンソールタイトルの表示文字 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (作業数表示) 受信ボックス
1224	SENTLOG	送信ログ	コンソールタイトルの表示文字 <ul style="list-style-type: none"> 送信ログ
1225	FORMNAME	名称別帳票一覧	コンソールタイトルの表示文字 <ul style="list-style-type: none"> 名称別帳票一覧
1226	FMMTITLE	帳票管理	帳票管理画面のタイトル
1228	FMDEL_MSG	指定した帳票を削除します。	登録済み帳票一覧画面の帳票削除時のメッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1229	FMMLIST_NOFORM	帳票が登録されていません。	登録済み帳票一覧画面で帳票が1件も登録されていない場合のエラー
1230	NO_DATE_FORMAT2	----/--/-- --:--:--	一覧表に表示する日付がDBに格納されていない場合の表示文字 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 帳票登録用定義選択画面 注 これを変更した場合は, ID1150 も合わせて変更する必要があるか検討要
1231	REDIST_DATE	登録日時	登録済み帳票一覧画面表ヘッダ
1232	CREATOR	作成者	登録済み帳票一覧画面表ヘッダ
1233	FMTGTNOUSERFORM	この帳票の宛先条件に一致する作業者が登録されていません。	申請時宛先ユーザ0人時のエラー画面のメッセージテキスト
1235	WFAPPLYERR	案件の申請に失敗しました。	帳票案件開始後の確認画面テキスト
1238	WICOMPLERR	%s が失敗しました。	帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1239	LISTLOG_DELLB	指定した送信ログの削除	送信ログ画面の送信ログ削除用ボタンの表示名
1240	BACKTO_MENU	一覧へ戻る	(1) 帳票案件開始後の確認画面テキスト (2) 帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1241	BACKTO_FORM	帳票へ戻る	(1) 帳票案件開始後の確認画面テキスト (2) 帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1242	ADDED_USER	指定したユーザを追加しました。	ユーザ選択画面の宛先一覧へユーザを追加した結果メッセージ
1243	NO_ORGCD	組織が存在しません。	—
1244	BTN_ERRDETAIL	エラー詳細	(1) 帳票案件開始後の確認画面テキスト (2) 帳票案件作業完了後の確認画面テキスト
1245	MPRT_DELCHECK	削除する宛先がチェックされていません。	宛先管理画面のチェックボックス複数チェック時のエラー
1246	FMMID_DBIN	読込	DB アクセス専用帳票の読込ボタン名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1247	TARGET_TITLE	宛先選択のタイトル	申請時宛先ユーザ 0 人時のエラー画面のメッセージテキスト
1248	RESULT_TITLE	%s 結果	DB アクセス専用帳票の更新結果画面のタイトル
1249	NOT_SUPPORTED	この機能は未サポートです。処理を実装してください。	(1) 一時保存およびひな形保存のテンプレートページがコールされたときに表示されるメッセージ (2) 振替のテンプレートページがコールされたときに表示されるメッセージ (3) 引戻しのテンプレートページがコールされたときに表示されるメッセージ
1250	EUR_INVALID_DATA	指定した値が不正です。[%s]	EUR Form 連携帳票遷移 JSP 内で実行する EUR Form 帳票の入力値チェックでエラーが発見された場合に表示されるメッセージ
1251	EUR_TRANSEDDATA	XSL 変換されているためチェックできません。	EUR Form 連携帳票遷移 JSP 内で実行する EUR Form 帳票の入力値チェックでエラーが発見された場合に表示するメッセージ
1252	CANT_USE_BUTTON_ON_APPLY	新規申請では%s ボタンは使用できません。	EUR Form 帳票遷移 JSP 内で新規申請時に保留ボタンがクリックされた場合に表示するメッセージ
1253	CANT_USE_BUTTON_ON_APPROVAL	この作業では%s ボタンは使用できません。	新規申請および内容確認以外でのボタン使用不可メッセージ 製品サンプルでは使用しませんが、カスタマイズ用に追加しています。
1254	CANT_USE_BUTTON_ON_VIEWFORM	内容確認では%s ボタンは使用できません。	EUR Form 帳票遷移 JSP 内で内容確認時に保留ボタンがクリックされた場合に表示するメッセージ
1255	SBTN_SENTLOGAPPLY	送信ログからの申請	帳票ボタンクラスの「送信ログからの申請」 ボタン名
1256	FMMID_SENTLOGAPPLY	送信ログ からの申請	帳票登録一覧の見出し
1257	FMMRED_SENTLOGAPPLY	送信ログからの申請	帳票登録画面の項目名
1258	FMMRED_SENTLOGAPPLYINPUT	送信ログからの申請許可/不可を選択してください。	帳票登録画面の値未設定エラー
1259	LOGOUT	ログアウト	BLC コンソールのアイコン
1260	TOGGLEMENU	メニュー切替	BLC コンソールのアイコン
1261	REAPPLY	再申請	「再申請」表示リソース

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1262	CONFERENCE	相談	「相談」表示リソース
1263	SBTN_CONFERENCE	相談	「相談」ボタン名リソース
1264	REPLY	回答	「回答」表示リソース
1265	SBTN_REPLY	回答	「回答」ボタン名リソース
1266	INBOX_BC	一括承認	一括承認受信ボックスのタイトル
1267	BTN_BATCHCOMPLETE	一括承認	一括承認受信ボックス画面の一括承認ボタン用リソース
1268	INBOX_TOTAL	総数%s 件	受信ボックスの総数
1269	INBOX_PAGE	ページ	一括承認受信ボックス画面のページ数表示
1270	BC_SELECT	選択	一括承認受信ボックス画面のチェックボックス列の見出し
1271	BTN_CHECKALL	全選択	一括承認受信ボックス画面の [全選択] ボタン
1272	BTN_CLEARALL	全クリア	一括承認受信ボックス画面の [全クリア] ボタン
1273	INBOX_PAGEJUMP	ページ移動	一括承認受信ボックス画面で、案件表示が複数ページになった場合、ページ移動ボタンの見出しとして表示
1274	BC_NO_CHECK_ERROR	一括承認する案件がチェックされていません。	一括承認受信ボックス画面で、一括承認ボタンをクリックしたとき、一括承認対象の案件が一つも選択されていない場合、ダイアログに表示
1275	BC_USE_ERR	一括承認機能が利用できません。	一括承認途中経過表示
1276	BC_END	一括承認が終了しました。	一括承認結果ダイアログ
1277	BC_PROGRESS	を処理しています。	一括承認での処理状況表示に使用例 「X 件中 X 件目を処理しています。」
1278	BC_PI_COUNT_TOTAL	件中	一括承認での処理状況表示に使用例 「X 件中 X 件目を処理しています。」
1279	BC_PI_COUNT_PROGRESS	件目	一括承認での処理状況表示に使用例 「X 件中 X 件目を処理しています。」

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1280	BC_PI_COUNT	件	一括承認でのエラー件数カウントに使用 例 (エラー X 件)
1281	BC_ERR	エラー	一括承認でのエラー件数カウントの見出し 例 (エラー X 件)
1282	PULL_BACK_CHEC KBOX	削除/ 引き戻し	引き戻しを利用する [送信ログ] 画面のチェックボックス列の見出し
1283	PULL_BACK_CHKE RR_PLURAL	引き戻しは複数選択できません。	[送信ログ] 画面で, 引き戻し対象の送信ログを複数選択した場合に表示
1284	PULL_BACK_CHKE RR	引き戻す案件がチェックされていません。	[送信ログ] 画面で, 引き戻し対象の送信ログが一つも選択されていなかった場合に表示
1285	PULL_BACK_MSG	指定した案件を引き戻します。	[送信ログ] 画面で, [引き戻し] ボタンをクリックしたときに表示
1286	PULL_BACK_ERR	引き戻しに失敗しました。(選択した案件は, 引き戻しできないノードにあるか, 既に承認者が開封済みであるか, または申請者が引き戻し済みです。)	[送信ログ] 画面で選択した案件が, 引き戻し済みか開封済みかを表示
1287	PULL_BACK_DELB TN	ログ削除	差し戻しで使用するログ削除ボタン名
1288	BC_ERR_MSG	一括承認でエラーが発生していますので受信ボックスを確認し, 再度承認を行ってください。	一括承認結果ダイアログで, エラーが 1 件以上あった場合に表示
1289	PULL_BACK_BACK	戻る	引き戻し完了通知, および引き戻しエラーの [戻る] ボタンで使用
1290	PULL_BACK_NEN D	引き戻しが完了しました。	引き戻し完了通知のメッセージ
1291	FMMID_NOPE_CO MPATI	不可(互換)	<ul style="list-style-type: none"> • 帳票登録画面の運用状態 • 登録済み帳票一覧画面の運用状態
1292	FMMID_NOPE_CO MPATI_NOTE	不可(互換) : BLC 03-01 以前のバージョンで, 運用状態を「不可」に設定した場合の互換モード(名称別帳票一覧での表示: 不可, 帳票の申請: 許可)です。	帳票登録画面の説明
1293	INBOX_ITEM1	項目値 1	受信ボックスの一覧表にある項目名
1294	INBOX_ITEM2	項目値 2	受信ボックスの一覧表にある項目名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
1295	INBOX_ITEM3	項目値 3	受信ボックスの一覧表にある項目名
1296	INBOX_ITEM4	項目値 4	受信ボックスの一覧表にある項目名
1297	INBOX_ITEM5	項目値 5	受信ボックスの一覧表にある項目名
1298	INBOX_ITEM6	項目値 6	受信ボックスの一覧表にある項目名
1299	INBOX_ITEM7	項目値 7	受信ボックスの一覧表にある項目名
1300	INBOX_ITEM8	項目値 8	受信ボックスの一覧表にある項目名
1301	INBOX_ITEM9	項目値 9	受信ボックスの一覧表にある項目名
1302	INBOX_ITEM10	項目値 1 0	受信ボックスの一覧表にある項目名
1303	BEFORE_PARTICIPANT	前回作業者氏名	受信ボックスおよび送信ログの一覧表にある項目名
1304	BEFORE_PARTICIPANT_TIME	前回作業日時	受信ボックスおよび送信ログの一覧表にある項目名
1305	PINAME_FIND_BUTTON	検索	受信ボックスに表示される検索ボタン
1306	BEFORE_PARTICIPANT_BELONGTO	前回作業者 組織略称	受信ボックスおよび送信ログの一覧表にある項目名
1307	DELPI_RETRIEVAL_AND_VIEW	保管案件の検索/表示	次の画面に表示されるリンク先および画面タイトル <ul style="list-style-type: none"> 管理機能画面 保管案件の検索画面 保管案件の検索結果画面
1308	DELPI_RETRIEVAL	保管案件の検索	保管案件の検索画面に表示される画面タイトル
1309	DISCLAIMER_STRING_1	検索項目を複数指定した場合は、全ての条件を満たす案件を検索します。	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1310	RETRIEVAL_ITEM	検索項目	保管案件の検索画面の一覧に表示される項目名
1311	SEARCH_CONDITION	検索条件	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1312	NO_SPECIFICATION	指定なし	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1313	RANGE_SPECIFICATION	範囲指定	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1314	FROM_STRING	から	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1315	END_DATE	完了日	保管案件の検索画面に表示される項目名
1316	INPUT_EXAMPLE_1_AHEAD	入力例) 2006 年 7 月 1 日を指定する場合、	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列 (入力例の前部分)
1317	YEAR_STRING	年	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1318	MONTH_STRING	月	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1319	DAY_STRING	日	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1320	INPUT_EXAMPLE_1_BACK	と指定します。	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列 (入力例の後部分)
1321	DISPLAY_NUMBER	表示件数	保管案件の検索画面に表示される項目名
1322	DISPLAY_UP_TO	件まで表示	保管案件の検索画面に表示される画面表示文字列
1323	SBTN_SEARCH	検索	保管案件の検索画面に表示される「検索」ボタン名リソース
1324	SBTN_BUTTON	クリア	保管案件の検索画面に表示される「クリア」ボタン名リソース
1325	DELPI_RETRIEVAL_RESULT	保管案件の検索結果	保管案件の検索結果画面に表示される画面タイトル
1326	INSIDE_DISPLAY_STRING	%s 件中、%s 件を表示します。	保管案件の検索結果画面に表示される画面表示文字列
1327	CHOICE	選択	保管案件の検索結果画面の一覧表にある項目名
1328	APPLICANT	申請者	保管案件の検索結果画面の一覧表にある項目名
1329	FINAL_WORKER	最終作業員	保管案件の検索結果画面の一覧表にある項目名
1330	SBTN_HISTORYVIEW	履歴表示	保管案件の検索結果画面に表示される「履歴表示」ボタン名リソース
1331	SBTN_EURFORMVIEW	帳票表示	保管案件の検索結果画面に表示される「帳票表示」ボタン名リソース

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1332	SBTN_RETURN	戻る	保管案件の検索結果画面に表示される「戻る」ボタン名リソース
1333	SBTN_CLOSE	閉じる	案件履歴画面に表示される「閉じる」ボタン名リソース
1334	PINAME_ERROR_MESSAGE	申請 ID の指定に誤りがあります。	申請 ID の入力エラーメッセージ
1335	DATE_ERROR_MESSAGE	日付の指定に誤りがあります。	開始日時および完了日時の入力エラーメッセージ
1336	DISPLAY_NUMBER_ERROR_MESSAGE	表示件数の指定に誤りがあります。	表示件数の入力エラーメッセージ
1337	START_DATE	開始日	保管案件の検索画面に表示される項目名
1338	APPLY_NO_INPUT	申請 ID が入力されていません。	受信ボックス (作業数表示) 画面および受信ボックス画面の alert メッセージ
1339	END_TIME	完了日時	保管案件の検索結果画面の一覧表にある項目名
1340	SENTLOG_ITEM1	項目値 1	送信ログの一覧表にある項目名
1341	SENTLOG_ITEM2	項目値 2	送信ログの一覧表にある項目名
1342	SENTLOG_ITEM3	項目値 3	送信ログの一覧表にある項目名
1343	SENTLOG_ITEM4	項目値 4	送信ログの一覧表にある項目名
1344	SENTLOG_ITEM5	項目値 5	送信ログの一覧表にある項目名
1345	SENTLOG_ITEM6	項目値 6	送信ログの一覧表にある項目名
1346	SENTLOG_ITEM7	項目値 7	送信ログの一覧表にある項目名
1347	SENTLOG_ITEM8	項目値 8	送信ログの一覧表にある項目名
1348	SENTLOG_ITEM9	項目値 9	送信ログの一覧表にある項目名
1349	SENTLOG_ITEM10	項目値 1 0	送信ログの一覧表にある項目名
1350	PI_STATECODE	案件状態	保管案件の検索結果画面の一覧表にある項目名
1351	WI_STATECODE	作業状態	案件履歴画面に表示される項目名
1352	STATECODE_O	完了	保管案件の検索結果画面に表示される「案件状態="o"の場合」の案件状態
1353	STATECODE_U	強制終了	<ul style="list-style-type: none"> 保管案件の検索結果画面に表示される「案件状態="u"の場合」の案件状態

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
1353	STATECODE_U	強制終了	<ul style="list-style-type: none"> 案件履歴画面に表示される「案件状態="u"の場合」の作業状態
1354	STATECODE_V	異常終了	<ul style="list-style-type: none"> 保管案件の検索結果画面に表示される「案件状態="v"の場合」の案件状態 案件履歴画面に表示される「案件状態="v"の場合」の作業状態
1355	STATECODE_E	自動実行	案件履歴画面に表示される「案件状態="e"の場合」の作業状態
1356	STATECODE_F	作業実行	案件履歴画面に表示される「案件状態="f"の場合」の作業状態
1357	STATECODE_I	初期	案件履歴画面に表示される「案件状態="i"の場合」の作業状態
1358	STATECODE_J	実行開始可能	案件履歴画面に表示される「案件状態="j"の場合」の作業状態
1359	STATECODE_L	実行開始不可	案件履歴画面に表示される「案件状態="l"の場合」の作業状態
1360	STATECODE_M	実行停止	案件履歴画面に表示される「案件状態="m"の場合」の作業状態
1361	STATECODE_P	実行省略	案件履歴画面に表示される「案件状態="p"の場合」の作業状態
1362	STATECODE_Q	実行取消	案件履歴画面に表示される「案件状態="q"の場合」の作業状態
1363	STATECODE_R	実行済	案件履歴画面に表示される「案件状態="r"の場合」の作業状態
1364	STATECODE_Z	未定義	案件履歴画面に表示される「案件状態="z"の場合」の作業状態

(凡例)

—: 該当しません。

(3) 識別コード 3000～3199

識別コード 3000～3199 のstringソースの一覧を次の表に示します。

表 E-4 stringリソース一覧 (識別コード 3000～3199)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3000	BLCSYSTEM_TITL E	電子フォームワークフロー	表示されるすべてのウィンドウのタイトル
3001	INBOX_TITLE_NA ME	受信ボックス	受信ボックスのタイトル <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3001	INBOX_TITLE_NAME	受信ボックス	<ul style="list-style-type: none"> ワークフローメニュータブ
3002	INBOX_COUNT_TITLE_NAME	業務別件数	業務別受信ボックスのタイトル <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (業務別件数) 画面 受信ボックス画面
3003	SENTLOG_TITLE_NAME	送信ログ	送信ログのタイトル <ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 案件履歴画面 ワークフローメニュータブ
3004	INBOXV_TITLE_NAME	拡張受信ボックス	拡張受信ボックス画面に表示される拡張受信ボックスのタイトル
3005	INBOXV_COUNT_TITLE_NAME	業務別件数	業務別拡張受信ボックスのタイトル <ul style="list-style-type: none"> 拡張受信ボックス画面 拡張受信ボックス (業務別件数) 画面
3006	BCOMPLETE_TITLE_NAME	一括承認受信ボックス	一括承認受信ボックス画面に表示される一括承認のタイトル
3007	BCOMPLETE_COUNT_TITLE_NAME	業務別件数	業務別一括承認のタイトル <ul style="list-style-type: none"> 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面
3008	PIHISTORY_TITLE_NAME	案件履歴	案件履歴画面に表示される案件履歴のタイトル
3009	FORMNAME_TITLE_NAME	名称別帳票一覧	名称別帳票一覧画面に表示される名称別帳票一覧のタイトル
3010	PARTICIPANT_ADMIN_TITLE_NAME	宛先管理	宛先管理のタイトル
3011	PARTICIPANT_LIST_TITLE_NAME	宛先一覧	宛先一覧画面に表示される宛先一覧のタイトル
3012	PARTICIPANT_ORG_TITLE_NAME	組織	宛先管理組織ツリー画面に表示される宛先の組織画面のタイトル
3013	PARTICIPANT_USER_TITLE_NAME	ユーザ情報	宛先管理ユーザ情報画面に表示される宛先のユーザ情報のタイトル
3014	FORM_LIST_TITLE_NAME	登録済み帳票一覧	登録済み帳票一覧のタイトル <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3015	FORM_REGIST_LIST_TITLE_NAME	帳票登録用定義選択	帳票登録用定義選択画面に表示される帳票登録用定義設定のタイトル
3016	FORM_REGIST_SECT_TITLE_NAME	帳票登録	登録帳票項目設定画面に表示される登録帳票項目設定のタイトル
3017	BACKUPPI_SEARCH_TITLE_NAME	保管案件検索	保管案件検索のタイトル <ul style="list-style-type: none"> 保管案件検索結果画面 保管案件検索画面
3018	BACKUPPI_LIST_TITLE_NAME	保管案件検索結果	保管案件一覧のタイトル <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面
3019	BACKUPPI_HISTORY_TITLE_NAME	保管案件履歴	保管案件履歴のタイトル <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面
3040	MP_FORMNAME	名称別帳票一覧	メニューポートレットのメニュー
3041	MP_PARTADMIN	宛先管理	メニューポートレットのメニュー
3042	MP_ADMINFUNC	管理機能	メニューポートレットのメニュー
3043	MP_ADMFORMLIST	帳票の登録/削除	メニューポートレットのメニュー
3044	MP_ADMBACKPI	保管案件の検索/表示	メニューポートレットのメニュー
3045	MP_ADMUSER	ユーザ情報管理	メニューポートレットのメニュー
3050	REFRESH	再表示	ページ送りの再表示 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面 受信ボックス (業務別件数) 画面 受信ボックス画面 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面 送信ログ画面 宛先一覧画面 宛先管理ユーザ情報画面 案件履歴画面 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3050	REFRESH	再表示	<ul style="list-style-type: none"> 拡張受信ボックス(業務別件数)画面
3051	TOPPAGE	先頭	ページ送りの先頭 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面
3052	PREVPAGE	前頁	ページ送りの前頁 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面
3053	NEXTPAGE	次頁	ページ送りの次頁 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面
3054	LASTPAGE	最終	ページ送りの最終 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面
3055	COUNTPAGE	%s-%s/%s	ページ送りの件数フォーマット
3056	DATETIME_FORM AT	yyyy 年 MM 月 dd 日 HH:mm:ss	日時のフォーマット <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面 受信ボックス (業務別件数) 画面 受信ボックス画面 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面 送信ログ画面 宛先一覧画面 宛先管理ユーザ情報画面 案件履歴画面 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3056	DATETIME_FORMAT	yyyy 年 MM 月 dd 日 HH:mm:ss	<ul style="list-style-type: none"> • 拡張受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス(業務別件数)画面 • 送信ログ(引き戻し用)画面
3057	DATE_FORMAT	yyyy 年 MM 月 dd 日	案件履歴画面に表示される日付のフォーマット
3058	TIME_FORMAT	HH:mm:ss	案件履歴画面に表示される時間のフォーマット
3059	NO_DATE_FORMAT	----年--月--日	案件履歴画面に表示される不明日付のフォーマット
3060	NO_TIME_FORMAT	--:--:--	案件履歴画面に表示される不明時間のフォーマット
3061	NOW	現在	<p>現在日時の後ろに付ける文字</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登録済み帳票一覧画面 • 帳票登録用定義選択画面 • 受信ボックス(業務別件数)画面 • 受信ボックス画面 • 保管案件履歴画面 • 保管案件検索結果画面 • 送信ログ画面 • 宛先一覧画面 • 宛先管理ユーザ情報画面 • 案件履歴画面 • 一括承認受信ボックス(業務別件数)画面 • 一括承認受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス(業務別件数)画面 • 送信ログ(引き戻し用)画面
3062	DATETIME_FORMAT2	yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<p>INBOX, 送信ログ, および帳票管理に表示される日時のフォーマット</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登録済み帳票一覧画面 • 帳票登録用定義選択画面
3063	NO_DATE_FORMAT2	----/--/-- --:--:--	帳票登録用定義選択画面に表示される INBOX, 送信ログ, および帳票管理の不明な日時
3064	DAY_FORMAT	yyyy/MM/dd	日付フォーマット

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3070	REFRESH_MENU	再表示	メニューに表示される「再表示」 <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (業務別件数) 画面 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面 拡張受信ボックス (業務別件数) 画面
3071	CLOSE_MENU	閉じる	メニューに表示される「閉じる」 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面 名称別帳票一覧画面 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面 宛先一覧画面
3072	DELETE_MENU	削除	メニューに表示される「削除」 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 送信ログ画面 宛先一覧画面
3073	ADD_MENU	追加	宛先管理ユーザ情報画面のメニューに表示される「追加」
3074	NEW_MENU	新規	メニューに表示される「新規」
3075	UPDATE_MENU	更新	登録済み帳票一覧画面のメニューに表示される「更新」
3076	DETAILSET_MENU	詳細設定	メニューに表示される「詳細設定」
3080	CLOSE_BTN	閉じる	閉じるボタン <ul style="list-style-type: none"> 帳票画面 登録帳票項目設定画面 保管案件検索画面
3081	RETURN_BTN	戻る	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示される戻るボタン
3082	NEXT_BTN	次へ	次へボタン
3083	SEARCH_BTN	検索	検索ボタン <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス (業務別件数) 画面

識別コード	リソースID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3083	SEARCH_BTN	検索	<ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 保管案件検索画面
3084	CLEAR_BTN	クリア	保管案件検索画面に表示されるクリアボタン
3085	DELETE_BTN	削除	削除ボタン
3086	ADD_BTN	追加	追加ボタン
3087	PREVIOUS	前へ	送信ログ (引き戻し用) 画面で表示される「前へ」
3088	RELOAD	最新状況を確認します。	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示されるメッセージ
3089	NEXT	次へ	送信ログ (引き戻し用) 画面で表示される「次へ」
3090	ACTIVE	処理中	業務完了指示作業での"処理中"設定テキスト
3091	COMPLETE	完了	一括承認受信ボックスに表示される業務完了指示作業での"完了"設定テキスト
3092	APPLY	申請	<p>次の場合に帳票画面で表示される文字列</p> <ul style="list-style-type: none"> 帳票ボタン「申請」 申請時宛先ユーザ0人時のエラー画面の作業表示テキスト 申請時のメール送信に失敗した際に表示されるメッセージ
3093	SBTN_SAVETMP	一時保存	帳票ボタン「一時保存」
3094	SBTN_SAVEMODEL	ひな形保存	帳票ボタン「ひな形保存」
3095	SBTN_RESET	リセット	帳票ボタン「リセット」
3096	SBTN_RTNPAGE	戻る	帳票ボタン「戻る (帳票間で戻る)」
3097	SBTN_RTNMENU	戻る	帳票ボタン「戻る (コンソールメニューで戻る)」
3098	SBTN_RTNBACK	戻る	帳票ボタン「戻る (ブラウザ履歴リへ戻る)」
3099	SBTN_FORMREUSE	再表示	帳票画面の帳票ボタン「再表示」
3100	SBTN_REAPPLY	再申請	帳票ボタン「再申請」
3101	SBTN_REASSIGN	振替	帳票ボタン「振替」

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3102	SBTN_CONFIRM	確認	帳票ボタン「確認」
3103	SBTN_RECEPTION	受付	帳票ボタン「受付」
3104	SBTN_SUSPEND	保留	帳票画面の帳票ボタン「保留」
3105	SBTN_WICOMPLE TE	承認	帳票ボタン「承認」 <ul style="list-style-type: none"> • 帳票画面 • 一括承認受信ボックス画面
3106	SBTN_VIEWFORM	内容確認	帳票ボタン「内容確認」
3107	SBTN_APPLYFOR M	申請書表示	帳票ボタン「申請書表示」
3108	SBTN_EXTEND1	機能 1	帳票ボタン「機能 1」
3109	SBTN_EXTEND2	機能 2	帳票ボタン「機能 2」
3110	SBTN_EXTEND3	機能 3	帳票ボタン「機能 3」
3111	SBTN_EXTEND4	機能 4	帳票ボタン「機能 4」
3112	SBTN_EXTEND5	機能 5	帳票ボタン「機能 5」
3113	SBTN_EXTEND6	機能 6	帳票ボタン「機能 6」
3114	REJECTION	却下	帳票画面の帳票ボタン「却下」
3115	DESTRUCTION	破棄	帳票画面の帳票ボタン「破棄」
3116	PULL_BACK	引き戻し	送信ログ (引き戻し用) 画面の帳票 ボタン「引き戻し」
3117	SBTN_SENTLOGA PPLY	送信ログからの申請	帳票ボタンクラスの「送信ログから の申請」ボタン名
3118	SNODEEND_CON FIRM	確認	帳票作業名終結文字判定文字列 (作 業完了ボタン名確認用)
3119	SNODEEND_RECE PTION	受付	帳票作業名終結文字判定文字列 (作 業完了ボタン名受付用)
3120	BTNLIST_INVALID	ボタンリスト種別が不正です。	ボタンリスト ID が不正なときの 表示テキスト
3121	BTNLIST_NOTFO UND	ボタンリストの指定がありません。	ボタンリストの指定がないときの 表示テキスト
3122	BTNLIST_IDUNKN OWN	未定義のボタン ID です。	ボタンリストのボタン ID が不正 なときの表示テキスト
3123	SOURCE_NODE_T EXT	申請者	案件履歴画面の案件履歴表示の作 業名のうち, @Source に当たる部 分の文字 (カスタマイズ可能)
3124	BTNDISP_FAIL	申請/承認ボタンの表示処理が失敗しました。	BLCFormButton クラス指定エ ラー時の表示テキストのタイトル

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3125	FMCOMMENT1	コメント	コメント記述テキスト領域の見出しテキスト
3126	FMCOMMENT2	記述欄	コメント記述テキスト領域の見出しテキスト
3127	FMTARGETCAP	宛先選択:	宛先選択ドロップダウンリストの見出しテキスト
3128	FMTARGETCLICK	宛先を選択してください。	帳票画面に表示される帳票宛先選択ガイダンス文字列
3129	BCOMplete	一括承認	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される一括承認のボタン
3130	PINAME	申請 ID	案件名称 <ul style="list-style-type: none"> • 受信ボックス (業務別件数) 画面 • 受信ボックス画面 • 保管案件履歴画面 • 保管案件検索結果画面 • 送信ログ画面 • 案件履歴画面 • 保管案件検索画面 • 一括承認受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス画面 • 送信ログ (引き戻し用) 画面
3131	WORK_NAME	作業名	作業名 <ul style="list-style-type: none"> • 受信ボックス画面 • 保管案件履歴画面 • 案件履歴画面 • 一括承認受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス画面
3132	BPNAME	業務名称	業務名称 <ul style="list-style-type: none"> • 受信ボックス (業務別件数) 画面 • 受信ボックス画面 • 保管案件履歴画面 • 保管案件検索結果画面 • 送信ログ画面 • 案件履歴画面 • 保管案件検索画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3132	BPNAME	業務名称	<ul style="list-style-type: none"> 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面 拡張受信ボックス (業務別件数) 画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3133	ARRIVED_TIME	到着日時	<p>到着日時</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面
3134	APPLY_NAME	申請者氏名	<p>申請者氏名</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3135	APPLY_ORG	申請者 組織略称	<p>申請者組織略称</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3136	START_TIME	開始日時	<p>開始日時</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面 送信ログ画面 一括承認受信ボックス画面 拡張受信ボックス画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3137	BEFORE_PARTICIPANT	前回作業者氏名	<p>前回作業者氏名の一覧ヘッダ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面
3138	BEFORE_PARTICIPANT_BELONGTO	前回作業者 組織略称	<p>前回作業者組織略称の一覧ヘッダ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面

識別コード	リソースID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3139	BEFORE_PARTICIPANT_TIME	前回作業日時	前回作業日時の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 送信ログ画面
3140	COMPLETE_TIME	処理日時	処理日時の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 送信ログ画面 案件履歴画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3141	PARTICIPANT	処理者	処理者 <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 案件履歴画面
3142	WI_STATECODE	作業状態	保管案件履歴画面に表示される作業状態
3143	PI_STATECODE	案件状態	保管案件検索結果画面に表示される案件状態
3144	END_TIME	完了日時	完了日時 <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面
3145	ERROR	エラー	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される「エラー」
3146	COUNT_TOTAL	件中	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される「件中」
3147	COUNT	件	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される「件」
3148	COUNT_PROGRESS	件目	一括承認受信ボックスに表示される「件目」
3149	PROGRESS	を処理しています。	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される「を処理しています。」
3150	INBOX_COUNTLIST_MENU	業務別作業一覧	業務別作業一覧へのメニュー
3151	INBOX_LIST_MENU	受信一覧	受信一覧へのメニュー
3152	INBOX_COUNT	件数	受信件数一覧の件数の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックスの (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3152	INBOX_COUNT	件数	<ul style="list-style-type: none"> 拡張受信ボックス(業務別件数)画面
3153	INBOX_ITEM1	項目値 1	受信ボックス画面の nmitem1 の一覧ヘッダ
3154	INBOX_ITEM2	項目値 2	受信ボックス画面の nmitem2 の一覧ヘッダ
3155	INBOX_ITEM3	項目値 3	受信ボックス画面の nmitem3 の一覧ヘッダ
3156	INBOX_ITEM4	項目値 4	受信ボックス画面の nmitem4 の一覧ヘッダ
3157	INBOX_ITEM5	項目値 5	受信ボックス画面の nmitem5 の一覧ヘッダ
3158	INBOX_ITEM6	項目値 6	受信ボックス画面の nmitem6 の一覧ヘッダ
3159	INBOX_ITEM7	項目値 7	受信ボックス画面の nmitem7 の一覧ヘッダ
3160	INBOX_ITEM8	項目値 8	受信ボックス画面の nmitem8 の一覧ヘッダ
3161	INBOX_ITEM9	項目値 9	受信ボックス画面の nmitem9 の一覧ヘッダ
3162	INBOX_ITEM10	項目値 1 0	受信ボックス画面の nmitem10 の一覧ヘッダ
3163	INBOX_MENU_ALLCOUNT	全件表示	受信ボックスの全件表示メニュー
3164	INBOXV_MENU_ALLCOUNT	全件表示	拡張受信ボックス(業務別件数)画面の全件表示メニュー
3165	INBOXBC_MENU_ALLCOUNT	全件表示	一括承認受信ボックスの全件表示メニュー
3170	SENTLOG_DELETE_LABEL	削除	送信ログ画面に表示される送信ログの削除の一覧ヘッダ
3171	LAST_PARTICIPANT_NAME	最終作業着氏名	送信ログの最終作業着氏名の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 送信ログ(引き戻し用)画面
3172	LAST_PARTICIPANT_ORG	最終作業着 組織略称	送信ログの最終作業着組織略称の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 送信ログ(引き戻し用)画面
3173	PISTATUS	案件状態	送信ログの案件状態の一覧ヘッダ

識別コード	リソースID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3173	PISTATUS	案件状態	<ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
3174	SENTLOG_ITEM1	項目値 1	送信ログ画面の nmitem1 の一覧ヘッダ
3175	SENTLOG_ITEM2	項目値 2	送信ログ画面の nmitem2 の一覧ヘッダ
3176	SENTLOG_ITEM3	項目値 3	送信ログ画面の nmitem3 の一覧ヘッダ
3177	SENTLOG_ITEM4	項目値 4	送信ログ画面の nmitem4 の一覧ヘッダ
3178	SENTLOG_ITEM5	項目値 5	送信ログ画面の nmitem5 の一覧ヘッダ
3179	SENTLOG_ITEM6	項目値 6	送信ログ画面の nmitem6 の一覧ヘッダ
3180	SENTLOG_ITEM7	項目値 7	送信ログ画面の nmitem7 の一覧ヘッダ
3181	SENTLOG_ITEM8	項目値 8	送信ログ画面の nmitem8 の一覧ヘッダ
3182	SENTLOG_ITEM9	項目値 9	送信ログ画面の nmitem9 の一覧ヘッダ
3183	SENTLOG_ITEM10	項目値 1 0	送信ログ画面の nmitem10 の一覧ヘッダ
3184	SELNTLOG_VIEW FORM_MENU	内容確認	案件履歴画面に表示される案件履歴メニューの「内容確認」
3185	SENTLOG_APPLY_ MENU	申請	案件履歴画面に表示される案件履歴メニューの「申請」
3186	PULLBACK_CHEC KBOX	削除/ 引き戻し	送信ログ (引き戻し用) 画面の「削除/ 引き戻し」
3187	LOG_DELETE	ログ削除	送信ログ (引き戻し用) 画面の「ログ削除」
3190	BKUPPI_NO_SPECI FICATION	指定なし	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「指定なし」テキスト
3191	BKUPPI_RANGE_S PECIFICATION	範囲指定	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「範囲指定」テキスト
3192	BKUPPI_FROM_ST RING	から	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「から」テキスト
3193	BKUPPI_START_D ATE	開始日	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「開始日」ラベル

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3194	BKUPPI_END_DATE	完了日	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「完了日」ラベル
3195	BKUPPI_INPUT_EXAMPLE_1_AHEAD	入力例) 2006 年 7 月 1 日を指定する場合、	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「入力例」テキスト (前半部分)
3196	BKUPPI_YEAR_STRING	年	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「年」テキスト
3197	BKUPPI_MONTH_STRING	月	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「月」テキスト
3198	BKUPPI_DAY_STRING	日	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「日」テキスト
3199	BKUPPI_INPUT_EXAMPLE_1_BACK	と指定します。	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「入力例」テキスト (後半部分)

(4) 識別コード 3200～3399

識別コード 3200～3399 のストリングソースの一覧を次の表に示します。

表 E-5 ストリングリソース一覧 (識別コード 3200～3399)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3200	BKUPPI_DISPLAY_NUMBER	表示件数	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「表示件数」ラベル
3201	BKUPPI_DISPLAY_UP_TO	件まで表示	保管案件検索画面に表示される保管案件検索の「件まで表示」テキスト
3202	BKUPPI_CHOICE	選択	保管案件一覧の選択の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 保管案件検索結果画面 宛先管理ユーザ情報画面
3203	BKUPPI_APPLICATION	申請者	保管案件一覧の申請者の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面 保管案件検索結果画面
3204	BKUPPI_FINAL_WORKER	最終作業員	保管案件検索結果画面に表示される保管案件一覧の最終作業員の一覧ヘッダ
3205	BKUPPI_BTN_HISTORYVIEW	履歴表示	保管案件一覧の「履歴表示」ボタン名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3206	BKUPPI_SBTN_EU RFORMVIEW	帳票表示	保管案件検索結果画面に表示される保管案件一覧の「帳票表示」ボタン名
3220	FMMID_SELECT	選択	登録帳票の選択の一覧ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面
3221	FMMID_FMNAME	帳票名称	登録帳票の帳票名称ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面 帳票登録用定義選択画面
3222	FMMID_BPNAME	ビジネスプロセス名	登録帳票のビジネスプロセス名ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面 帳票登録用定義選択画面
3223	FMMID_OPERATING	運用	登録帳票の運用ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3224	FMMID_CATEGORY	帳票カテゴリ	登録帳票の帳票カテゴリヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3225	FMMID_FORMID	帳票 ID	登録帳票の帳票 ID ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面
3226	FMMID_FORM	帳票	登録帳票の帳票ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面
3227	FMMID_VR	バージョン	登録帳票のバージョンヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面 帳票登録用定義選択画面
3228	FMMID_REGIST_DATE	登録日時	登録済み帳票一覧画面に表示される登録帳票の登録日時ヘッダ
3229	FMMID_UPD_DATE	更新日時	登録帳票の更新日時ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 帳票登録用定義選択画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3230	FMMID_SENTLOG APPLY	送信ログ からの申請	登録帳票の送信ログからの申請 ヘッダ <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3231	FMMID_OPE	許可	登録帳票の運用カラムの値 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3232	FMMID_NOPE	不可	登録帳票の運用カラムの値 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3233	FMMID_NOPE_CO MPATI	不可(互換)	登録帳票の運用カラムの値 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3234	FMMID_KAKUSYU	各種申請	登録帳票の帳票カテゴリの値 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3235	FMMID_FORM_US ER	帳票利用者	登録帳票項目設定画面に表示される登録帳票の帳票利用者
3236	FMMID_JOB	役職	登録帳票項目設定画面に表示される登録帳票の役職
3237	FMMID_ORG	組織	登録帳票項目設定画面に表示される登録帳票の組織
3238	FMMID_INISORT	頭文字 (ソート用)	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
3239	FMMID_URL	帳票格納 URL	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
3240	FMMID_FILENAME	ファイル名	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
3241	FMMID_NOPE_CO MPATI_NOTE	不可(互換) : BLC 03-01 以前のバージョンで、運用状態を「不可」に設定した場合の互換モード(名称別帳票一覧での表示: 不可, 帳票の申請: 許可)です。	登録帳票項目設定画面に表示される不可 (互換) の説明
3242	FMMID_CRE_DATE	作成日時	帳票登録用定義選択画面に表示される BLCFmmanID.jsp 用文字列
3243	FMMID_CREATOR	作成者	帳票登録用定義選択画面に表示される帳票定義の作成者

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3244	FMMRED_USERAUGHINPUT	帳票利用者の役職/組織を選択してください。	登録帳票項目設定画面に表示される登録帳票の帳票利用者確認文字列
3250	PART_LIST_NAME	氏名	宛先一覧の氏名 <ul style="list-style-type: none"> 宛先一覧画面 宛先管理ユーザ情報画面
3251	PART_LIST_JOB	役職	宛先一覧の役職 <ul style="list-style-type: none"> 宛先一覧画面 宛先管理ユーザ情報画面
3252	PART_LIST_BELONG	所属略称	宛先一覧画面の所属略称
3300	STATECODE_E	自動実行	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3301	STATECODE_F	作業実行	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3302	STATECODE_I	初期	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3303	STATECODE_J	実行開始可能	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3304	STATECODE_L	実行開始不可	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3305	STATECODE_M	実行停止	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3306	STATECODE_O	完了	保管案件履歴画面に表示される保管案件検索結果の案件状態
3307	STATECODE_P	実行省略	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3308	STATECODE_Q	実行取消	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3309	STATECODE_R	実行済	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3310	STATECODE_U	強制終了	<ul style="list-style-type: none"> 保管案件検索結果画面に表示される保管案件検索結果の案件状態 保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3311	STATECODE_V	異常終了	<ul style="list-style-type: none"> 保管案件検索結果画面に表示される保管案件検索結果の案件状態

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3311	STATECODE_V	異常終了	<ul style="list-style-type: none"> 保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態
3312	STATECODE_Z	未定義	保管案件履歴画面に表示される保管案件履歴の作業状態

(5) 識別コード 3400～3599

識別コード 3400～3599 のストリングソースの一覧を次の表に示します。

表 E-6 スtringリソース一覧 (識別コード 3400～3599)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
3400	FORM_RESULT_TITLE	%s 結果	結果表示画面の TITLE タグ用文字列
3401	FORM_WICOMPLERR	%s が失敗しました。	作業完了に失敗した時に表示するガイダンス
3402	FORM_BTN_ERRDETAIL	エラー詳細	結果表示画面でのボタン名 <ul style="list-style-type: none"> 帳票画面 保管案件検索画面
3403	FORM_WSDIR_CLOSE	閉じる	保管案件検索画面に表示される BLCWsdidUserList.jsp 用文字列または画面クローズ時の閉じるボタン
3404	FORM_DBFORM_UPDATED	更新しました。	DB アクセス専用帳票の更新ガイダンス
3405	FORM_APPLY	申請	「申請」
3406	FORM_FMTGTNOUSERFORM	この帳票の宛先条件に一致する作業者が登録されていません。	帳票宛先 0 件警告画面ガイダンス文字列
3407	FORM_WORK_NAME	作業名	「作業名」
3408	FORM_TARGET_TITLE	宛先選択のタイトル	帳票宛先 0 件警告画面ガイダンス文字列
3409	SBTN_CONFERENCE	相談	帳票画面の「相談」
3410	SBTN_REPLY	回答	帳票画面の「回答」
3411	BACKTO_MENU	一覧へ戻る	結果表示画面でのボタン名
3412	BACKTO_FORM	帳票へ戻る	帳票画面に表示される結果表示画面でのボタン名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
3413	FMMRED_FMFILE	帳票ファイル	登録帳票項目設定画面で表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
3414	FMMTITLE	帳票管理	帳票管理タイトル
3415	UPDATE	更新	「更新」
3416	ERR_MESSAGE	エラーメッセージ	保管案件検索画面の「エラーメッセージ」
3417	RELOAD_FILE	定義ファイル再読込	登録済み帳票一覧画面に表示される「定義ファイル再読込」
3500	FMMID_DBIN	読込	帳票ボタン用文字列
3501	FMMID_UPDATE	更新	登録帳票項目設定画面に表示される帳票ボタン用文字列
3502	FMMSELD_NEXT	次へ	帳票ボタン用文字列
3503	FMMID_NEWREDIST	新規登録	帳票ボタン用文字列 <ul style="list-style-type: none"> 登録済み帳票一覧画面 登録帳票項目設定画面
3504	FMMRED_BACK	戻る	登録帳票項目設定画面に表示される帳票ボタン用文字列
3505	FMMID_SET	設定	帳票登録用定義選択画面に表示される帳票ボタン用文字列

(6) 識別コード 4500～4999

識別コード 4500～4999 のストリングソースの一覧を次の表に示します。

表 E-7 スtringリソース一覧 (識別コード 4500～4999)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
4500	APPLY_NO_INPUT	申請 ID が入力されていません。	受信ボックス (業務別件数) 画面または受信ボックス画面のアラートメッセージ <ul style="list-style-type: none"> 受信ボックス画面 受信ボックス (業務別件数) 画面
4501	LISTLOG_DELL_ERR	削除する送信ログがチェックされていません。	送信ログを削除するときに削除対象が選択されていない場合に表示 <ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
4502	LISTLOG_DELL	指定した送信ログを削除します。	送信ログの削除を確認する場合に表示

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
4502	LISTLOG_DELL	指定した送信ログを削除します。	<ul style="list-style-type: none"> 送信ログ画面 送信ログ (引き戻し用) 画面
4503	PINAME_ERROR_MESSAGE	申請 ID の指定に誤りがあります。	保管案件検索画面に表示される申請 ID の入力エラーメッセージ
4504	DATE_ERROR_MESSAGE	日付の指定に誤りがあります。	保管案件検索画面に表示される, 開始日時または完了日時の入力エラーメッセージ
4505	DISPLAY_NUMBER_ERROR_MESSAGE	表示件数の指定に誤りがあります。	保管案件検索画面に表示される表示件数の入力エラーメッセージ
4506	BCOMPLETE_NO_CHECK_ERROR_MESSAGE	一括承認する案件がチェックされていません。	案件がチェックされていない場合, 一括承認受信ボックス画面に表示されるエラーメッセージ
4507	BCOMPLETE_USE_ERROR_MESSAGE	一括承認機能が利用できません。	機能が利用できない場合のエラーメッセージ <ul style="list-style-type: none"> 一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面 一括承認受信ボックス画面
4508	PART_LIST_NO_CHECK_ERROR_MESSAGE	削除する宛先がチェックされていません。	宛先一覧画面で, 宛先削除時に削除対象がチェックされていない場合に表示
4509	PART_LIST_DELL	指定した宛先を削除します。	宛先一覧画面で, 宛先の削除を確認する場合に表示
4510	BCOMPLETE_ERROR_MESSAGE	一括承認でエラーが発生していますので受信ボックスを確認し, 再度承認を行ってください。	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される一括承認画面のエラーメッセージ
4511	PULLBACK_ERROR_MESSAGE	引き戻しに失敗しました。(選択した案件は, 引き戻しできないノードにあるか, 既に承認者が開封済みであるか, または申請者が引き戻し済みです。)	引き戻しのエラーメッセージ
4512	PULLBACK_ERROR_MESSAGE_PARALLEL	引き戻しは複数選択できません。	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示される引き戻しのエラーメッセージ
4513	PULLBACK_ERROR_MESSAGE_SENT_LOG	引き戻す案件がチェックされていません。	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示される引き戻しのエラーメッセージ
4514	EUR_TRANSED_DATA	XSL 変換されているためチェックできません。	帳票画面に表示される EUR Form 帳票のメッセージ
4515	EUR_INVALID_DATA	指定した値が不正です。[%s]	EUR Form 帳票のメッセージ
4516	CANT_USE_BUTTON_ON_APPLY	新規申請では%s ボタンは使用できません。	EUR Form 帳票のメッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
4517	CANT_USE_BUTTON_ON_VIEWFORM	内容確認では%s ボタンは使用できません。	EUR Form 帳票のメッセージ
4518	BLC_WINDOWOPEN_ERROR_MESSAGE	画面が起動されています。画面を閉じてから再度実行してください。	EUR Form 帳票のメッセージ <ul style="list-style-type: none"> • 名称別帳票一覧画面 • 受信ボックス画面 • 案件履歴画面 • 一括承認受信ボックス画面 • 拡張受信ボックス画面
4519	FMMID_DELCHECK	削除する帳票がチェックされていません。	登録済み帳票一覧画面に表示される帳票削除時のエラーメッセージ
4520	UPDATE_CHECK_ERROR	帳票がチェックされていません。	登録済み帳票一覧画面に表示される更新用チェックボックス未選択時のエラーメッセージ
4521	FMMID_CHECK	1 帳票のみチェックしてください。	登録済み帳票一覧画面に表示される BLCFmmanID.jsp 用文字列
4522	NOT_SUPPORTED	本機能は未サポートです。処理を実装してください。	帳票画面に表示される未サポートのエラーメッセージ
4523	FMMRED_INITIAL	帳票の頭文字を入力してください。	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
4524	FMMRED_OPEINPUT	運用許可/不可 を選択してください。	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
4525	FMMRED_SENTLOGAPPLYINPUT	送信ログからの申請許可/不可 を選択してください。	登録帳票項目設定画面に表示されるラジオボタン未選択のメッセージ
4526	FMJSINCOMPLETE	帳票の表示が不完全です。	帳票表示失敗時の alert メッセージ
4527	FMJSBPMANAGER	再度操作をして下さい。	帳票表示失敗時の alert メッセージ
4528	WSDIR_NOUSER	ユーザが存在しません。	宛先管理ユーザ情報画面に表示される BLCWmdirUserList.jsp 用エラーメッセージ
4529	WSDIR_SELECTUSER	ユーザ情報を選択してください。	宛先管理ユーザ情報画面に表示される BLCWmdirUserList.jsp 用文字列
4530	FMMSELD_SELECT_CHECK	帳票定義情報を選択してください。	帳票登録用定義選択画面に表示される BLCFmmanSelectDef.jsp 用文字列
4533	SESSION_TIMEOUT	セッションタイムアウトが発生しました。ポータルホーム画面からログインしてください。	セッションタイムアウト発生時に表示される文字列

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
4600	DISCLAIMER_STRING_1	検索項目を複数指定した場合は、全ての条件を満たす案件を検索します。	保管案件検索画面に表示される画面表示文字列
4601	BCOMplete_END	一括承認が終了しました。	一括承認受信ボックス (業務別件数) 画面に表示される一括承認画面の終了メッセージ
4602	PULLBACK_END	引き戻しが完了しました。	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示される引き戻しの終了メッセージ
4603	PULLBACK_SENTLOG	指定した送信ログを引き戻します。	送信ログ (引き戻し用) 画面に表示される引き戻しのメッセージ
4604	CONFOPENEND	しました。	帳票画面に表示される帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4605	CONFPINAME	申請 ID :	帳票画面に表示される帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4606	CONFBPNAME	業務名称 :	帳票画面に表示される帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4607	CONFMSGAFX	の案件を申請しました。	帳票画面に表示される帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4608	WFAPPLYERR	案件の申請に失敗しました。	帳票画面に表示される帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4609	WICOMPLERR	%s が失敗しました。	帳票処理後の確認ダイアログ用文字列
4610	FMDEL_MSG	指定した帳票を削除します。	登録済み帳票一覧画面に表示される帳票削除時のメッセージ
4611	ADDED_USER	指定したユーザを追加しました。	宛先管理ユーザ情報画面で宛先一覧にユーザを追加したときの結果を表示
4612	FMMRED_REDSTART	の登録を行います。	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanFormRedist.jsp 用文字列
4613	FMMDEL_ASK	よろしいですか?	登録帳票項目設定画面に表示される BLCFmmanDeleteQuery.jsp 用文字列
4614	MSG_FILE_DOWNLOAD_CLOSE	ファイルのダウンロード後、この画面を閉じてください。	添付ファイルダウンロード画面に表示する文字列

(7) 識別コード 7000~7199

識別コード 7000~7199 のstringソースの一覧を次の表に示します。

表 E-8 スtringリソース一覧 (識別コード 7000~7199)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7000	ACTING_LIST_ITEM_TITLE	案件振替	画面タイトル <ul style="list-style-type: none"> 代行依頼者一覧画面 案件振替画面
7001	ACTING_LIST_ITEM_TITLE_PARTS_1	代行	案件振替画面に表示される画面タイトル
7002	ACTING_LIST_ITEM_TITLE_PARTS_2	共有トレイ	案件振替画面に表示される画面タイトル
7003	ACTING_LIST_ITEM_TITLE_PARTS_3	さん	案件振替画面に表示される画面タイトル
7004	AGENT_LABEL	代行者	代行者一覧画面に表示される代行者
7005	AGENT_REQ_LABEL	代行依頼者	代行依頼者一覧画面に表示される代行依頼者
7006	TRAN_AHEAD	振替先	案件振替画面に表示される画面表示文字列
7007	BTN_TRAN_WORK	振替	案件振替画面に表示されるボタン名称
7008	BTN_TRAN_SET	設定	ボタン名 <ul style="list-style-type: none"> 共有トレイ管理画面 代行ユーザ選択画面
7009	USER_OPER_LABEL	ユーザ設定	共有トレイ管理画面の設定ボタン z 列の見出し
7010	AGENT_LIST_TITLE	代行者一覧	代行者一覧画面に表示される画面タイトル
7011	ACTING_LIST_TITLE	代行依頼者一覧	代行依頼者一覧画面に表示される画面タイトル
7012	SHARE_TRAY_TITLE	共有トレイ一覧	共有トレイ一覧画面に表示される画面タイトル
7013	SHARE_TRAY_MANAGE_TITLE	共有トレイ管理	共有トレイ管理画面に表示される画面タイトル
7014	SHARE_TRAY_USER_LIST_TITLE	共有トレイ利用者一覧	共有トレイの利用者一覧画面に表示される画面タイトル
7015	ADD_AGENT	代行者を追加しました。	代行者一覧画面に表示される代行者追加の通知メッセージ
7016	DEL_AGENT	代行者を削除しました。	代行者一覧画面に表示される代行者削除の通知メッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7017	NOT_SET_AGENT	代行者が設定されていません。	代行依頼者一覧画面で, ログインユーザが代行者を1人も設定していない場合に表示される画面表示文字列
7018	NOT_AGENT_AUTH	代行権限がありません。	代行依頼者一覧画面で, ログインユーザが代行権限を持っていない場合に表示される画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 代行依頼者一覧画面 共有トレイ一覧画面
7019	ACTING_LIST_ITEM_NUM	全作業%s件中, %s件目から%s件を表示中。	案件振替画面に表示される画面表示文字列
7020	NOT_ACTING_LIST_ITEM	のボックスには作業は存在しません。	案件振替画面で, 選択された代行依頼者または共有トレイのボックスに作業が存在しない場合に表示される画面表示文字列
7021	TRAYID_LABEL	共有トレイ ID	共有トレイ作成画面に表示される画面表示文字列
7022	TRAYNAME_LABEL	共有トレイ名	共有トレイ名列の見出し, または画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 共有トレイ作成画面 共有トレイ一覧画面 共有トレイ管理画面
7023	USERNAME_LABEL	共有トレイ利用者名	共有トレイ利用者一覧画面に表示される共有トレイの利用者列の見出し
7024	AHEAD_BTN	前へ	案件振替画面に表示されるボタン名
7025	NOT_USE_SHARING_TRAY	利用できる共有トレイがありません。	共有トレイ一覧画面に表示される画面表示文字列
7026	NOT_CHECK_MATTER	振り替える案件が選択されていません。	案件振替画面で, 振り替え対象案件をチェックしないで振り替えボタンをクリックした場合に表示される通知メッセージ
7027	NOT_CHECK_TRAY_USER	削除する利用者がチェックされていません。	共有トレイの利用者一覧画面で, 削除対象の共有トレイ利用者をチェックしないで削除ボタンをクリックした場合に表示される通知メッセージ
7028	SET_USER_INFO	ユーザ情報を選択してください。	ユーザ選択画面で, 設定対象のユーザをチェックしないで設定ボタンをクリックした場合に表示される通知メッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7029	SET_TRAN_AHEAD	振替先を選択してください。	代行者選択画面で, 振り替え先対象ユーザをチェックしないで設定ボタンをクリックした場合には表示される通知メッセージ
7030	MATTER_TRAN_ERROR	エラー : %s 件、申請 ID=%s	振り替え時にエラーが発生した場合には表示される BLCWWRwiReassignWork.jsp 用通知メッセージ
7031	NOT_CHECK_AGENT	削除する代行者がチェックされていません。	代行者一覧画面で, 削除対象の代行者をチェックしないで削除ボタンをクリックした場合には表示される通知メッセージ
7032	AGENT_AUTHORITY	代行権限	代行者選択画面に表示される見出しの文字列
7033	SBTN_TRAN	振り替え	BLCWFWIReassign.java 用ボタン ID
7034	STR_HIST_PULLBACK	引き戻し	BLCWFWIBackward.java 用案件履歴用の定数文字列
7035	STR_HIST_SENDBACK	差し戻し	BLCWFWIBackward.java 用案件履歴用の定数文字列
7036	NMBELONGTO_LABEL	所属略称	見出しの文字列 <ul style="list-style-type: none"> 代行者一覧画面 代行依頼者一覧画面 共有トレイ一覧 共有トレイ利用者一覧
7037	SBTN_ALL_CHOICE	全選択	案件振替画面に表示されるボタン ID
7038	SBTN_ALL_CLEAR	全クリア	案件振替画面に表示されるボタン ID
7039	SBTN_USER_CHOICE	振替先選択	案件振替画面に表示されるボタン ID
7040	NOT_AGENT_REQUEST	代行依頼者が存在しません。	代行依頼者一覧画面に表示される画面表示文字列
7041	SBTN_SENDBACK	差し戻し	BLCEURFormProcess.java 用ボタン名
7042	BTN_TRAY_ADD	共有トレイ追加	共有トレイ管理画面で表示されるボタン名
7043	NOT_AGENT_AUTH_USER	代行権限を持つユーザが存在しません。	代行者選択画面で表示される画面表示文字列

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7044	ADD_TRAY_USER	共有トレイ利用者を追加しました。	共有トレイ利用者一覧画面で, 共有トレイ利用者を設定した場合に表示される文字列
7045	DEL_TRAY_USER	共有トレイ利用者を削除しました。	共有トレイ利用者一覧画面で, 共有トレイ利用者を削除した場合に表示される文字列
7046	EX_TRAYNAME	庶務トレイ	共有トレイ管理画面 (作成) に表示される画面表示文字列
7047	EX_TRAYNAMEK	ショムトレイ	共有トレイ管理画面 (作成) に表示される画面表示文字列
7048	EX_TRAYNAMEE	SHOMUTRAY	共有トレイ管理画面 (作成) に表示される画面表示文字列
7051	JS_ERR_PARENT_CHANGE	呼び出し元が他の画面に遷移しているため設定できません。再度設定を行ってください。	子画面から呼び出し元の画面に情報を送信する場合に, 呼び出し元の画面がほかのページに遷移していた場合のメッセージ
7052	JS_ERR_PARENT_LOSE	呼び出し元の画面が見つかりません。	子画面から呼び出し元の画面に情報を送信する場合に, 呼び出し元の画面が閉じていた場合のメッセージ
7053	MP_ADMAGENT	代行者管理	メニューポートレットに表示されるメニュー名
7054	SHARE_TRAY_MANAGE_ADD_TITLE	共有トレイ登録	共有トレイ登録画面のタイトル
7055	SHARE_TRAY_MANAGE_UPDATE_TITLE	共有トレイ更新	共有トレイ更新画面のタイトル
7100	JOB_ALL_USER	全員	全役職用の表示文字列 (役職の権限なし) <ul style="list-style-type: none"> ・ 帳票管理画面 ・ 帳票管理グループ登録画面
7101	ORG_ALL_USER	全組織	全組織用の表示文字列 (組織の権限なし) <ul style="list-style-type: none"> ・ 帳票管理画面 ・ 帳票管理グループ登録画面
7102	CSVINPUT_BTN	CSV 読込	ユーザ管理機能の CSV 入出力機能表示画面に表示されるボタン名
7103	CSVOUTPUT_BTN	CSV 出力	ユーザ管理機能の CSV 入出力機能表示画面に表示されるボタン名

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7104	JOBNTLMENU	役職	ユーザ管理機能のツリービュー表示画面に表示されるメニュー表示用文字列
7105	ORGNTLMENU	組織	ユーザ管理機能のツリービュー表示画面に表示されるメニュー表示用文字列
7106	FORMCNTLMENU	帳票管理グループ	ユーザ管理機能のツリービュー表示画面に表示されるメニュー表示用文字列
7107	USER_SEARCHMENU	ユーザ検索	ユーザ管理機能のツリービュー表示画面に表示されるメニュー表示用文字列
7108	ADD_ORG_BTN	組織作成	ユーザ管理機能のツリービュー表示画面に表示されるボタン名
7109	ADD_JOB_BTN	役職追加	ユーザ管理機能の役職一覧画面に表示されるボタン名
7110	ADD_USER_BTN	ユーザ追加	ユーザ管理機能のユーザー一覧画面に表示されるボタン名
7111	ADD_FCG_BTN	帳票管理グループ追加	ユーザ管理機能の帳票管理グループ一覧画面に表示されるボタン名
7112	JOB_LIST_TITLE	役職一覧	ユーザ管理機能の役職一覧画面に表示される画面タイトル
7113	JOB_REG_TITLE	役職登録	ユーザ管理機能の役職登録画面に表示される画面タイトル
7114	ORG_CTRL_TITLE	組織管理	ユーザ管理機能の組織管理画面に表示される画面タイトル
7115	ORG_TAB	組織情報	ユーザ管理機能のタブ文字列 <ul style="list-style-type: none"> • 組織管理画面 • ユーザー一覧画面 • ユーザ情報登録・編集画面
7116	USER_TAB	ユーザ情報	ユーザ管理機能のタブ文字列 <ul style="list-style-type: none"> • 組織管理画面 • ユーザー一覧画面 • ユーザ情報登録・編集画面
7117	USER_LIST_TITLE	ユーザー一覧	ユーザ管理機能のユーザー一覧画面に表示される画面タイトル
7118	USER_REG_TITLE	ユーザ情報登録	ユーザ管理機能のユーザ登録画面に表示される画面タイトル

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7119	USER_UPD_TITLE	ユーザ情報変更	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面タイトル
7120	USER_SEARCH_COND_TITLE	ユーザ検索入力	ユーザ管理機能のユーザ検索入力画面に表示される画面タイトル
7121	USER_SEARCH_RESULT_TITLE	ユーザ検索結果	ユーザ管理機能のユーザ検索入力画面に表示される画面タイトル
7122	FCG_LIST_TITLE	帳票管理グループ一覧	ユーザ管理機能の帳票管理グループ一覧画面に表示される画面タイトル
7123	FCG_REG_TITLE	帳票管理グループ登録	ユーザ管理機能の帳票管理グループ登録・更新画面に表示される画面タイトル
7124	FCG_UPD_TITLE	帳票管理グループ更新	ユーザ管理機能の帳票管理グループ登録・更新画面に表示される画面タイトル
7125	CSVINPUT_TITLE	CSV 読込	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示される画面タイトル
7126	CSVOUTPUT_TITLE	CSV 出力	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示される画面タイトル
7127	SEL_ORG_TITLE	階層選択	ユーザ管理機能の上位組織選択画面に表示される画面タイトル
7128	JOB_CD	役職コード	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職一覧画面 ・ 役職登録画面
7129	JOB_TITLE	役職略称	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職一覧画面 ・ 役職登録画面 ・ ユーザ情報登録・編集画面 ・ ユーザー一覧表示用画面
7130	JOB_ORDER	役職順序	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職一覧画面 ・ 役職登録画面
7131	JOB_TITLE_FULL	役職名	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職一覧画面 ・ 役職登録画面
7132	KANA	カナ	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザ検索結果画面 ・ 役職一覧画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7132	KANA	カナ	<ul style="list-style-type: none"> 役職登録画面
7133	ENGLISH	英字	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 役職登録画面
7134	FULLSIZE	(全角)	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 役職登録画面 ユーザ情報登録・編集画面
7135	HARFSIZE	(半角)	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 役職登録画面 ユーザ情報登録・編集画面
7136	ORGCD	組織コード	ユーザ管理機能の組織管理画面に表示される画面表示文字列
7137	ORG	組織略称	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 組織管理画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面
7138	ORGFULL	組織名	ユーザ管理機能の組織管理画面に表示される画面表示文字列
7139	PARENTORG	上位組織	ユーザ管理機能の組織管理画面に表示される画面表示文字列
7140	SELECT_BTN	選択	ユーザ管理機能の組織管理画面に表示されるボタン名
7141	USERID	ユーザ ID	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7142	LOGINSTATUS	ログイン可否	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7143	PERSONALNO	従業員番号	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7144	NAME_LABEL	氏名	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7145	JOB_LABEL	役職	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面 帳票管理グループ一覧画面 帳票管理グループ登録・更新画面
7146	ORG_LABEL	組織	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面 帳票管理グループ一覧画面 帳票管理グループ登録・更新画面
7147	ADMINAUTH	管理者権限	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7148	ALTAUTH	代行権限	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7149	PASSWORD	パスワード	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7150	CONFIRM	(確認)	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列

識別コード	リソースID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7151	BELONGTO	所属略称	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7152	MAIL	メール	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7153	TELOUTSIDE	TEL 外線	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7154	TELEXTENSION	TEL 内線	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7155	LASTNAME	(姓)	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ情報登録・編集画面 • ユーザー一覧表示用画面 • ユーザ検索入力画面 • ユーザ検索結果画面
7156	FIRSTNAME	(名)	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ情報登録・編集画面 • ユーザー一覧表示用画面 • ユーザ検索入力画面 • ユーザ検索結果画面
7157	EXAMPLE	例)	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7158	EX_NAME	営業 花子	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7159	EX_NAMEK	エイギョウ ハナコ	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7160	ABOVE	以上	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ検索入力画面 • 帳票管理画面 • 帳票管理グループ登録・更新画面
7161	SEARCH_COND	検索条件	ユーザ管理機能のユーザ検索結果画面に表示される画面表示文字列
7162	FCGNAME	帳票管理グループ名	ユーザ管理機能 画面表示文字列 (帳票管理グループ名)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7162	FCGNAME	帳票管理グループ名	<ul style="list-style-type: none"> 帳票管理グループ登録・更新画面 帳票管理グループ一覧画面
7163	SELECT_ORGLIST	選択済み組織	ユーザ管理機能の帳票管理グループ登録・更新画面に表示される画面表示文字列
7164	ORG_SET	設定	ユーザ管理機能の上位組織選択画面に表示されるボタン名
7165	REGISTTOMASTER	登録	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示されるボタン名
7166	USER_INFO_INPUT	ユーザ情報	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示される画面表示文字列
7167	ORG_INFO_INPUT	組織情報	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示される画面表示文字列
7168	JOB_INFO_INPUT	役職情報	ユーザ管理機能の CSV 読込画面に表示される画面表示文字列
7169	USER_INFO_OUTPUT	ユーザ情報 出力	ユーザ管理機能の CSV 出力画面に表示される画面表示文字列
7170	ORG_INFO_OUTPUT	組織情報 出力	CSV 出力画面に表示されるユーザ管理機能の画面表示文字列
7171	JOB_INFO_OUTPUT	役職情報 出力	ユーザ管理機能の CSV 出力画面に表示される画面表示文字列
7172	CHK_DEL_STRING	削除するレコードにチェックしてください。	帳票管理グループ一覧画面に表示されるユーザ管理機能 画面表示文字列 (画面上のチェックボックスの説明)
7173	CHK_DEL_UPD_STRING	変更または削除するレコードにチェックしてください。	ユーザ管理機能の画面表示文字列 (画面上のチェックボックスの説明) <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 ユーザー一覧表示用画面
7174	REQUIRED_ITEM_STRING	*は必須入力項目です。	ユーザ管理機能の画面表示文字列 (画面上の必須入力項目の注意事項) <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 役職登録画面 組織管理画面 ユーザー一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 帳票管理グループ登録・更新画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7175	ADMIN_SYSYSTEM	システム管理者	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7176	ADMIN_SHARE	共有トレイ管理者	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7177	ADMIN_USER	一般ユーザ	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7178	ALT_TRANSOPERATOR	振替作業者	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7179	ALT_AGENT	代行者	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7180	ALT_USER	利用者	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7181	LOGIN_PERMIT	可	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7182	LOGIN_DISAPPROVE	不可	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ一覧表示用画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7182	LOGIN_DISAPPROVE	不可	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面
7183	DEL_CHECK_LABEL	削除	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 ユーザー一覧表示部 帳票管理グループ一覧画面
7184	UPD_CHECK_LABEL	変更	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 ユーザー一覧表示部
7185	EX_NAMEE	Eigy Hanako	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7186	EX_MAIL	XXXX@xxxx.co.jp	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7187	EX_TELOUTSIDE	0000-0000-0000	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7188	EX_TELEXTENSION	0001	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7189	MOVEMENT_LEFT	<<	ユーザ管理機能の帳票管理グループ登録・更新画面に表示される画面表示文字列 (左のリストボックスに移動)
7190	MOVEMENT_RIGHT	>>	ユーザ管理機能の帳票管理グループ登録・更新画面に表示される画面表示文字列 (右のリストボックスに移動)
7191	USER_MSG_NOT_CHECK_DELORG	削除対象が選択されていません。組織管理画面に表示されている組織が削除対象となります。	ツリービュー表示用画面で、削除対象の組織を選択しない状態で削除ボタンをクリックした場合に表示される通知メッセージ
7192	USER_MSG_NOT_CHECK_ITEM	削除・変更対象にチェックがされていません。	変更または削除にチェックが一つもない場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 ユーザー一覧画面
7193	USER_MSG_NOT_CHECK_PLURAL	削除・変更の両方にチェックはできません。実行したい方のみチェックしてください。	変更および削除の両方にチェックされている場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7193	USER_MSG_NOT_CHECK_PLURAL	削除・変更の両方にチェックはできません。実行したい方のみチェックしてください。	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー一覧画面
7194	USER_MSG_JOB_ALREADY_EXIST	指定された役職は既に登録されています。役職 =	役職登録画面で、役職がすでに登録されている場合に表示される通知メッセージ
7195	USER_MSG_NOT_SPECIFIED	必要な項目が指定されていません。項目名 =	必須項目に入力がない場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 役職登録画面 組織管理画面 ユーザー一覧画面 ユーザー情報登録・変更画面 帳票管理グループ登録・更新画面
7196	USER_MSG_INVALID_ID_VALUE	値は不正です。項目名 =	入力された項目に誤りがある場合の通知メッセージ
7197	USER_MSG_USER_EXIST_JOB	削除しようとした役職に所属するユーザが存在します。選択された役職は削除できません。	DB アクセス用役職情報で、削除対象の役職がユーザ情報に存在する場合に表示される通知メッセージ
7198	USER_MSG_GETPARAM_ERROR	パラメータの取得に失敗しました。	削除する組織コードが指定されていない場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> DB アクセス用組織情報 DB アクセス用ユーザ情報 DB アクセス用帳票管理グループ情報
7199	USER_MSG_USER_EXIST_ORG	削除しようとした組織に所属するユーザが存在します。選択された組織は削除できません。	DB アクセス用組織情報で、削除対象の組織がユーザ情報に存在する場合に表示される通知メッセージ

(8) 識別コード 7200～7399

識別コード 7200～7399 のストリングソースの一覧を次の表に示します。

表 E-9 スtringリソース一覧 (識別コード 7200～7399)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7200	USER_MSG_ORG_ALREADY_EXIST	指定された組織は既に登録されています。組織 =	組織管理画面で、すでに組織が登録されている場合に表示される通知メッセージ
7201	USER_MSG_PARENT_ORG_NOT_EXIST	上位組織が存在しません。	組織管理画面で、選択された上位組織がほかのユーザによって削除さ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7201	USER_MSG_PAREN TORG_NOT_EXIST	上位組織が存在しません。	れた場合に表示される通知メッセージ
7202	USER_MSG_OWN USER_CANNOT_DELETE	ログインユーザは自身のユーザ情報を削除できません。	ユーザー一覧画面で, 自分自身のユーザ ID の削除チェックボックスにチェックがされている場合に表示される通知メッセージ
7203	USER_MSG_TRANSFER_OR_ACTING	システム管理者または共有トレイ管理者は、「振替作業員／代行者」のいずれかを設定してください。	管理者権限に「システム管理者／共有トレイ管理者」を選択しているときに代行権限の「利用者」を設定している場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> ユーザー一覧画面 ユーザ情報登録・変更画面
7204	USER_MSG_PASSWORD_INVALID	パスワードに不正な文字が入力されています。	ユーザ情報登録・変更画面で, パスワードに不正な文字が入力されている場合に表示される通知メッセージ
7205	USER_MSG_PASSWORD_COUNT_B	パスワードは	ユーザ情報登録・変更画面で, パスワードに入力された文字数がプロパティで指定された文字数より少ない場合に表示される通知メッセージ (前半部分)
7206	USER_MSG_PASSWORD_COUNT_E	文字以上入力してください。	ユーザ情報登録・変更画面で, パスワードに入力された文字数がプロパティで指定された文字数より少ない場合に表示される通知メッセージ (後半部分)
7207	USER_MSG_PASSWORD_MISMATCH	確認用に入力されたパスワードが一致しません。	ユーザ情報登録・変更画面で, パスワードが確認用と一致しない場合に表示される通知メッセージ
7208	USER_MSG_PASSWORD_IS_USERID	パスワードにユーザ ID は指定できません。	ユーザ情報登録・変更画面で, パスワードがユーザ ID と同じ場合に表示される通知メッセージ
7209	USER_MSG_SEARCH_CONDITION_NOT_SPECIFIED	検索条件が指定されていません。	ユーザ検索入力画面で, 全項目未入力の場合に表示される通知メッセージ
7210	USER_MSG_RESULT_MAXOVER	検索結果が検索最大数の上限を超えました。検索条件の絞込みを行い、再度検索を行ってください。	ユーザ検索結果画面で, 検索結果が検索最大数を超えた場合に表示される通知メッセージ
7211	USER_MSG_PROPERTY_INVALID	プロパティの値が不正です。キー＝	ユーザ検索入力画面で, プロパティファイルから検索最大ユーザ数を取得できなかった場合に表示される通知メッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7212	USER_MSG_SYSTE MADMIN_NOT_EX IST_B	システム管理者権限を持つユーザが存在しません。	DB アクセス用ユーザ情報で, システム管理者権限を持つユーザが存在しない場合に表示される通知メッセージ (前半部分)
7213	USER_MSG_SYSTE MADMIN_NOT_EX IST_E	人以上設定してください	DB アクセス用ユーザ情報で, システム管理者権限を持つユーザが存在しない場合に表示される通知メッセージ (後半部分)
7215	USER_MSG_NOT_ CHECK_DELF CG	削除対象にチェックがされていません。	帳票管理グループ一覧画面で, 削除にチェックが一つもない場合に表示される通知メッセージ
7216	USER_MSG_FCG_A LREADY_EXIST	指定された帳票グループ名は既に登録されています。帳票グループ名=	DB アクセス用帳票管理グループ情報で, すでに帳票管理グループ名が登録されている場合に表示される通知メッセージ
7217	USER_MSG_ADD_ COMPLETE	DB 登録処理が完了しました。	登録処理が完了した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> DB アクセス用役職情報 DB アクセス用組織情報 DB アクセス用ユーザ情報 DB アクセス用帳票管理グループ情報 CSV 読込処理用
7218	USER_MSG_DEL_C COMPLETE	DB 削除処理が完了しました。	削除処理が完了した場合の通知メッセージ (前半部分) <ul style="list-style-type: none"> DB アクセス用役職情報 DB アクセス用組織情報 DB アクセス用ユーザ情報 DB アクセス用帳票管理グループ情報
7219	USER_MSG_UPD_C COMPLETE	DB 更新処理が完了しました。	更新処理が完了した場合の通知メッセージ(前半部分) <ul style="list-style-type: none"> 役職情報 DB アクセス用 組織情報 DB アクセス用 ユーザ情報 DB アクセス用 帳票管理グループ情報 DB アクセス用 CSV 読込処理用
7220	USER_MSG_COMP LETE_NUM	件	削除処理が完了した場合の通知メッセージ (後半部分) および更新処理が完了した場合の通知メッセージ (後半部分)

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7220	USER_MSG_COMPLETE_NUM	件	<ul style="list-style-type: none"> DB アクセス用役職情報 DB アクセス用組織情報 DB アクセス用ユーザ情報 DB アクセス用帳票管理グループ情報 CSV 読込処理用
7221	USER_MSG_JOB_INFO	役職情報	CSV による登録処理または更新処理が完了した場合に, 登録または更新した「役職情報」を表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7222	USER_MSG_ORG_INFO	組織情報	CSV による登録処理または更新処理が完了した場合に, 登録または更新した「組織情報」を表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7223	USER_MSG_USER_INFO	ユーザ情報	CSV による登録処理または更新処理が完了した場合に, 登録または更新した「ユーザ情報」を表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7224	USER_MSG_FILE_NOT_FOUND	指定されたファイルが空または存在しません。	指定されたファイルが空または存在しなかった場合に表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7225	USER_MSG_FILE_FORMAT_INVALID	指定されたファイルはフォーマットが異なる為、読込みできません。	規定フォーマット以外の場合に表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7226	USER_MSG_FILE_RECORD_NOT_FOUND	登録または更新するレコードがありません。レコード識別子を確認してください。	登録または更新するレコードが存在しなかった場合に表示する CSV 読込処理用の通知メッセージ
7227	USER_MSG_PARENT_ORG	上位組織が選択されていません。	上位組織が選択されていることを確認するときに上位組織選択画面に表示される通知メッセージ
7228	INTERNAL_ERROR_GET_JOB_LIST_INVALID	役職情報の一覧の取得に失敗しました。詳細情報＝	ユーザ情報登録・変更画面で, 役職コード一覧の取得に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7229	INTERNAL_ERROR_GET_ORG_LIST_INVALID	組織情報の一覧の取得に失敗しました。詳細情報＝	ユーザ情報登録・変更画面で, 組織コード一覧の取得に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7230	INTERNAL_ERROR_GET_USER_LIST_INVALID	ユーザ情報の一覧の取得に失敗しました。詳細情報＝	ユーザ情報登録・変更画面で, ユーザ情報の取得に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7231	INTERNAL_ERROR_GET_JOB_INVALID	役職情報の取得に失敗しました。詳細情報＝	役職情報の取得に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7231	INTERNAL_ERR_GETJOB_INVALID	役職情報の取得に失敗しました。詳細情報＝	<ul style="list-style-type: none"> 役職登録画面 ユーザー一覧画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面 CSV 出力処理用
7232	INTERNAL_ERR_DELJOB_INVALID	役職情報の削除に失敗しました。詳細情報＝	役職情報の削除に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 役職登録画面
7233	INTERNAL_ERR_UPDATEJOB_INVALID	役職情報の更新に失敗しました。詳細情報＝	役職情報の更新に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職一覧画面 役職登録画面 CSV 読込処理用
7234	INTERNAL_ERR_ADDJOB_INVALID	役職情報の登録に失敗しました。詳細情報＝	役職情報の登録に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 役職登録画面 CSV 読込処理用
7235	INTERNAL_ERR_GETORG_INVALID	組織情報の取得に失敗しました。詳細情報＝	組織情報の取得に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 組織管理画面 ユーザー一覧画面 ユーザ情報登録・編集画面 ユーザ検索入力画面 ユーザ検索結果画面 CSV 出力処理用
7236	INTERNAL_ERR_DELORG_INVALID	組織情報の削除に失敗しました。詳細情報＝	ツリービュー表示用画面で, 組織情報の削除に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7237	INTERNAL_ERR_UPDATEORG_INVALID	組織情報の更新に失敗しました。詳細情報＝	組織情報の更新に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 組織管理画面 CSV 読込処理用
7238	INTERNAL_ERR_ADDORG_INVALID	組織情報の登録に失敗しました。詳細情報＝	組織情報の登録に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> 組織管理画面 CSV 読込処理用

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7239	INTERNAL_ERR_GETUSR_INVALID	ユーザ情報の取得に失敗しました。詳細情報=	ユーザ情報の取得に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー一覧画面 • ユーザ検索結果画面ユーザー表示部分 • CSV 出力処理用
7240	INTERNAL_ERR_DELUSR_INVALID	ユーザ情報の削除に失敗しました。詳細情報=	ユーザ情報の削除に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー一覧画面 • ユーザ検索結果画面 • ユーザー一覧 表示部分
7241	INTERNAL_ERR_UPDATEUSR_INVALID	ユーザ情報の更新に失敗しました。詳細情報=	ユーザ情報の更新に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー一覧画面 • ユーザ検索結果画面 • ユーザー一覧 表示部分 • CSV 読込処理用
7242	INTERNAL_ERR_ADDUSR_INVALID	ユーザ情報の登録に失敗しました。詳細情報=	ユーザ情報の登録に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ情報登録・編集画面 • CSV 読込処理用
7243	INTERNAL_ERR_GETFCG_INVALID	帳票管理グループ情報の取得に失敗しました。詳細情報=	帳票管理グループ一覧画面で、帳票管理グループ情報の取得に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7244	INTERNAL_ERR_DELETEFCG_INVALID	帳票管理グループ情報の削除に失敗しました。詳細情報=	帳票管理グループ一覧画面で、帳票管理グループ情報の削除に失敗した場合に通知メッセージ
7245	INTERNAL_ERR_UPDATEFCG_INVALID	帳票管理グループ情報の更新に失敗しました。詳細情報=	帳票管理グループ登録・更新画面で、帳票管理グループ情報の更新に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7246	INTERNAL_ERR_ADDFCG_INVALID	帳票管理グループ情報の登録に失敗しました。詳細情報=	帳票管理グループ登録・更新画面で、帳票管理グループ情報の登録に失敗した場合に表示される通知メッセージ
7247	INTERNAL_ERR_TREEVIEW_INVALID	ツリービューの表示に失敗しました。詳細情報=	ツリーの生成に失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • ツリービュー表示用画面 • 上位組織選択画面

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用箇所, および用途 (詳細)
7248	INTERNAL_ERR_FILE_OUTPUT_ERROR	ファイルの出力処理に失敗しました。詳細情報 =	ファイル出力に失敗した場合の CSV 出力処理用通知メッセージ
7249	INTERNAL_ERR_DBACCESS_INVALID	データベースへのアクセスに失敗しました。詳細情報 =	DB アクセスに失敗した場合の通知メッセージ <ul style="list-style-type: none"> • 役職一覧画面 • 役職登録画面 • 組織管理画面 • ユーザー一覧画面 • ユーザ情報登録・編集画面 • ユーザ検索結果画面ユーザー表示部分 • 帳票管理グループ一覧画面 • 帳票管理グループ登録・更新画面 • 上位組織選択画面 • CSV 読込処理用 • CSV 出力処理用
7250	USER_MSG_ATTENTION_OF_DELETE	削除レコードがあります。削除してよろしいですか？	一覧の削除チェックボックスにチェックを入れた場合に表示される, ユーザに注意を促すためのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> • 役職一覧画面 • ユーザー一覧画面 • ユーザ検索結果画面 • 帳票管理グループ一覧画面
7251	USER_MSG_ATTENTION_OF_DELETE_BTN	削除してよろしいですか？	ツリービュー表示用画面で, 削除ボタンをクリックしたあとに表示される, ユーザに注意を促すためのメッセージ
7252	UPDATE_BTN	更新	ユーザ管理機能のボタン名 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー一覧画面 • ユーザ検索結果画面 • 帳票管理グループ登録・更新画面
7253	REGIST_BTN	登録	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示されるボタン名
7254	USER_MSG_PASSWORD_MIN	パスワードは%s 文字以上入力してください。	ユーザ情報登録・編集画面で, パスワードに入力された文字数がプロパティで指定された文字数より少ない場合に表示される通知メッセージ

識別コード	リソース ID	表示文字列	使用個所, および用途 (詳細)
7255	USER_INFO_MANAGER_TITLE	ユーザ情報管理	ユーザ管理機能の CSV 入出力機能表示画面 (フレーム分割したウィンドウのトップ) に表示されるユーザ管理機能の画面タイトル
7256	OLD_PASSWORD	旧パスワード	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7257	NEW_PASSWORD	新パスワード	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7258	USER_MSG_DOWNLOAD_CLOSE	ファイルのダウンロード後, この画面を閉じてください。	ユーザ情報登録・編集画面で, CSV ファイルダウンロードしたときの出力メッセージ
7259	PASSWORD_MIN	文字以上の英数字および記号	ユーザ管理機能のユーザ情報登録・編集画面に表示される画面表示文字列
7260	USER_MSG_PASSWORD_NOT_SET	パスワードが設定されていないユーザ情報が登録されました。	CSV ファイルでのユーザ情報登録時に, パスワードが設定されていないユーザのユーザ情報を登録した場合のメッセージ
7261	USER_MSG_PASSWORD_PROMPTLY_SET	速やかにパスワードを設定することを推奨します。	CSV ファイルでのユーザ情報登録時に, パスワードの設定を促す場合のメッセージ
7262	NO_CSVFILE	ファイルが指定されていません。	ユーザ管理機能の CSV 読み込みでファイルが指定されていない場合のメッセージ
7263	JS_ERR_FILEACCESS	ファイルにアクセスできません。	input タグで file を使用することで, アクセス例外が発生した場合のメッセージ
7264	JS_ERR_UNKNOWN	javascript エラーが発生しました。詳細情報=	input タグで file を使用することで, アクセス例外以外の例外が発生した場合のメッセージ
7265	DEL_ORG_BTN	組織削除	ユーザ管理機能のボタン名 (組織削除)
7266	SELECT_PARENT_ORG_TITLE	上位組織選択	上位組織選択画面のタイトル
7267	ORG_LIST	組織一覧	ユーザ管理機能の画面表示文字列 <ul style="list-style-type: none"> ・ 帳票管理グループ登録・更新画面

付録 E.3 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が出力する生成ファイル、保存および再利用するファイル、およびデータフォルダについて説明します。

(1) 生成ファイル

帳票ファイルを生成したときに生成するファイルの一覧を次に示します。

なお、各ファイルは、[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブで「出力先フォルダパス」に指定したパスに生成されます。出力先フォルダパスの詳細は、「付録 A.3(1) [基本情報] タブ」を参照してください。また、生成ファイルのサーバへの格納先については、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「EUR Form Service の環境設定ファイルの設定」の説明を参照してください。

図 E-1 生成ファイル一覧

ファイルの種類	説明	ファイル名 (実体がある場合だけ)
生成ファイル	帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が生成するファイルの総称。	—
帳票登録情報ファイル	BLC実行環境で帳票をサーバに登録するときに使用するファイル。	“帳票ID”_def. dat
帳票ファイル (JSP形式)	帳票を構成するファイルの総称。 JSPファイルとJavaクラスがあります。	—
自動生成帳票 ファイル	帳票を構成するJSPファイル。	“帳票ID”_“バージョン”.jsp
自動生成帳票 クラス	帳票のデータを持つJavaクラス。	“帳票ID”_“バージョン” _Class. java
DBアクセス定義ファイル (実行用)	DBアクセスに必要な情報を定義した ファイル。	“帳票ID”_“バージョン” _d. dat

注1 これらのファイルの内容は、直接修正しないでください。

注2 “”で囲まれた名称は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で設定した名称になります。

これらの生成ファイルから Web プロジェクトを作成する前に、全ファイルに対して Cosminexus 付属の JDK コマンド native2ascii コマンドでファイルエンコードします。

native2ascii コマンドの指定例を次に示します。

native2ascii コマンドの指定例

```
native2ascii -encoding Shift_JIS ファイル名 \> 一時ファイル
copy 一時ファイル ファイル名
```

また、自動生成帳票クラスの Java ファイルは Cosminexus 付属の JDK コマンド javac コマンドを利用してコンパイルする必要があります。コンパイルに必要なクラスファイルは次の二つです。

- BLC のクラスファイル (blc.jar)
- uCosminexus Application Server で提供している「アプリケーション開発用 jar」クラスファイル

(2) 保存および再利用するファイル

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が出力するファイルのうち、保存および再利用するファイルには、帳票定義情報リポジトリ構成ファイルおよび DB アクセス定義ファイル (定義用) の二つがあります。

(a) 帳票定義情報リポジトリ構成ファイル

帳票定義情報リポジトリに格納されるファイルの一覧を次に示します。

表 E-10 帳票定義情報リポジトリ構成ファイル一覧

項番	ファイルの種類	ファイル名	ファイルの内容
1	帳票定義ファイル	f"帳票 ID".dat	<ul style="list-style-type: none"> 構成する帳票モジュール ID ビジネスプロセス定義から取り込んだビジネスプロセス名、業務ステップ名、作業名 取り込んだ DB アクセス定義情報
2	帳票モジュール定義ファイル	m"帳票モジュール ID".dat	<ul style="list-style-type: none"> 画面項目情報 取り込んだ DB アクセス定義情報

注 1

これらのファイルの内容は、直接修正しないでください。

注 2

""で囲まれた名称は、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で設定した名称になります。

ファイルごとの追加、および削除には、次の規則があります。

- 一つの帳票モジュール ID に対して、「帳票モジュール定義ファイル」は一つあります。
- 一つの帳票 ID に対して「帳票定義ファイル」は一つあります。
- 一つの帳票モジュールは複数の帳票内で参照されます。帳票定義からの参照がある限り、帳票モジュールのファイルは必要です。

(b) DB アクセス定義ファイル (定義用)

DB アクセス定義ファイル (定義用) とは、DB アクセス定義を再利用するためのファイルです。このファイルには、DB アクセス定義の各情報が保存されます。

DB アクセス定義ファイル (定義用) は、[DB アクセス定義の編集] ダイアログで [保存] ボタンをクリックすると作成されます。作成されるファイル名は、「DB アクセス定義名.dat」になります。ファイル名はユーザが任意に変更できますが、拡張子は".dat"にしてください。

[DB アクセス定義の編集] ダイアログおよび DB アクセス定義名の詳細は、「付録 A.16 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ」を参照してください。

注意事項

DB アクセス定義ファイル (定義用) は、直接変更しないでください。

(3) データフォルダ

データフォルダとは、帳票定義情報リポジトリなどのデータファイルを保存するフォルダです。必要なファイルを表 E-11 に示すフォルダにコピーしてください。

データフォルダのパスは、[開発環境設定] ダイアログの [基本情報] タブの「データフォルダパス」で指定します。データフォルダパスの詳細は、「付録 A.3(1) [基本情報] タブ」を参照してください。

データフォルダ下のフォルダの内容を次に示します。

表 E-11 データフォルダ下のフォルダの内容

項番	フォルダの種類	フォルダ	用途
1	HTML フォルダ	data¥module	ユーザ用
2	EUR Form フォルダ	data¥eurform	ユーザ用
3	ビジネスプロセス定義フォルダ	data¥bp	ユーザ用
4	DB アクセス定義フォルダ	data¥dbaccess	ユーザ用
5	帳票定義情報リポジトリ	data¥repository	BLSG データ管理用
6	作業フォルダ	data¥tmp	BLSG データ処理用
7	ユーザファイル	data¥usersource	ユーザ用

付録 E.4 完了案件削除ユーティリティのプロパティファイル

完了案件削除ユーティリティでは、BLCDelPI_conf.bat.sam ファイルを BLCDelPI_conf.bat というファイル名でコピーし、ご使用の環境に合わせて編集してください。

BLCDelPI_conf.bat.sam ファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

- <Windows 版の場合>
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf

プロパティファイルで設定できる項目および設定例を次に示します。

(1) 完了案件削除ユーティリティ設定ファイル

(a) 完了案件削除ユーティリティ設定ファイルで設定できる項目

完了案件削除ユーティリティ設定ファイルで設定できる項目を次に示します。

表 E-12 完了案件削除ユーティリティ設定ファイルで設定できる項目

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
1	BLCDELPI_JVM_OPTIONS	任意	JavaVM の起動オプションを指定します。 複数指定する場合はスペースで区切ります。	—	-Xmx512m
2	BLCDELPI_CLASSPATH	必須	クラスパスに追加する値を指定します。 複数指定する場合は「;」(セミコロン) で区切ります。 この項目の値は、Windows の実行ファイルではなく JavaVM に引き渡す設定項目である	—	C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥CLIENT¥UTL¥pdjdbc2.jar

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
2	BLCDELPI_JVM_CLASSPATH	必須	め、クラスパス内に空白が存在していても " "で囲まないでください。 JDBC Driver の追加の指定例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • HiRDB の場合 set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=<HiRDB インストールディレクトリ>%CLIENT%UTL%pdjdbc2.jar • Oracle の場合 set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=<Oracle インストールディレクトリ>%jdbc%lib%ojdbc6.jar • SQLServer の場合 (Microsoft SQL Server 2005 の場合) set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=<SQL Server JDBC Driver のインストールディレクトリ>%sqljdbc_3.0%jpn%sqljdbc4.jar 	—	C:%win32app%hitachi%hirdb_s%CLIENT%UTL%pdjdbc2.jar
3	PDISLVL	任意	HiRDB の使用時にデータ保証レベルを指定します。デフォルトの設定を変更する場合は、システムの運用を考慮して実施してください。 Oracle または SQL Server の場合は、この項目は指定しないでください。	—	2
4	PDCWAITTIME	任意	HiRDB の最大待ち時間を指定します。デフォルトの設定を変更する場合は、システムの運用を考慮して実施してください。 Oracle または SQL Server の場合は、この項目は指定しないでください。	—	600

(凡例)

— : 指定しません。

(b) 完了案件削除ユティリティ設定ファイルの設定例

完了案件削除ユティリティ設定ファイルの設定例を次に示します。

```

set BLCDELPI_JVM_OPTIONS=-Xmx512m

@rem Example for HiRDB
set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=C:%win32app%hitachi%hirdb_s%CLIENT%UTL%pdjdbc2.jar
set PDISLVL=2
set PDCWAITTIME=600

@rem Example for Oracle
@rem set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=C:%oracle%product%11.2.0%client_1%jdbc%lib%ojdbc6.jar

@rem Example for SQL Server
@rem set BLCDELPI_JVM_CLASSPATH=C:%Program Files%Microsoft SQL Server JDBC Driver 3.0%sqljdbc_3.0%jpn%sqljdbc4.jar

```

スペースの都合上、設定例は 2 行にわたっている場合がありますが、実際は「キー名=設定値」の形式で 1 行で記述します。

(2) 完了案件削除 BLC プロパティファイル

(a) 完了案件削除 BLC プロパティファイルで設定できる項目

完了案件削除 BLC プロパティファイルで設定できる項目を次に示します。

表 E-13 完了案件削除 BLC プロパティファイルで設定できる項目

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
1	TracePath	必須	BLC トレースファイルの出力先ディレクトリをフルパスで指定します。指定したディレクトリがない場合、指定したディレクトリが有効な名称であれば BLC でプロセス開始後の初回アクセス時に作成されます。指定したディレクトリが無効な名称であればプロセス開始後の初回アクセス時にエラーをスローします。	—	—
2	TraceFileNum	任意	BLC トレースファイルの面数を指定します。指定がない、または値が範囲外の場合、デフォルト値で動作します。	2～16	16
3	TraceFileSize	任意	BLC トレースファイルのサイズを指定します。指定がない、または値が範囲外の場合、デフォルト値で動作します。	4,096 ～ 2,147,483, 647 (バイト)	10,485,760 (バイト)
4	TraceLevel	任意	BLC トレースの出力レベルを次の値で指定します。 -1：出力しません。 10：例外情報と最低限必要な情報だけ出力します。 20：例外情報とコールトレースを出力します。 30：例外情報と主要なコールトレースと内部トレースを出力します。 40：例外情報とすべてのコールトレースと内部トレースを出力します。 指定がない、または値が範囲外の場合、デフォルト値で動作します。	—	20
5	drv	必須	JDBC の名前を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HiRDB の場合 JP.co.Hitachi.soft.HiRDB,JDBC.HiRDBDriver • Oracle の場合 oracle.jdbc.driver.OracleDriver • SQL Server の場合 com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver 	—	—
6	url	必須	接続情報の URL を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HiRDB の場合 jdbc:hitachi:hirdb:// DBID=22200,DBHOST=BPMSV,ENCODELANG=MS932 • Oracle の場合 	—	—

項番	キー名	必須/任意	内容	範囲 (単位)	デフォルト (単位)
6	url	必須	jdbc:oracle:thin:@BPMSV:1521:BLCDB <ul style="list-style-type: none"> SQL Server の場合 jdbc:sqlserver://BPMSV:1433;DatabaseName=BLCDB;selectMethod=cursor 	—	—
7	properties	任意	HiRDB のデータ型である BLOB 型へのアクセス方法を指定します。 「キー=値,キー=値」の形式で指定します。キーおよび値には、次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> キー: LONGVARBINARY_ACCESS 値: LOCATOR (推奨値) または REAL 次の値は、LONGVARBINARY_ACCESS に LOCATOR を指定した場合に有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> キー: HiRDB_for_Java_LONGVARBINARY_ACCESS_SIZE 値: サイズ (キロバイト) 次の値は、LONGVARBINARY_ACCESS に REAL を指定した場合に有効になります。 <ul style="list-style-type: none"> キー: HiRDB_for_Java_MAXBINARYSIZE 値: サイズ (バイト) 例: LONGVARBINARY_ACCESS=LOCATOR,HiRDB_for_Java_LONGVARBINARY_ACCESS_SIZE=16 Oracle または SQL Server の場合は、この項目は指定しないでください。	—	—
8	SaveUDB	任意*1	業務データベース保管用プロシージャのプロシージャ名 (ルーチン識別子) を指定します。2 バイト文字は使用できません。指定されたプロシージャが登録されていない場合、処理が中断されます。	—	—
9	DeleteUDB	任意*2	業務データベース削除用プロシージャのプロシージャ名 (ルーチン識別子) を指定します。2 バイト文字は使用できません。指定されたプロシージャが登録されていない場合、処理が中断されます。	—	—
10	WorkPath	必須	作業用ディレクトリをフルパスで指定します。作業用ディレクトリには、ロックファイルやワークファイルが作成されます。	—	—
11	TimeZone	任意	削除結果ファイルに出力する案件完了日時のタイムゾーンを指定します。指定がない場合はデフォルト値で動作します。 例: TimeZone=GMT+09:00	—	カレントホストのタイムゾーン

(凡例)

—: 指定しません。

注※1

-s オプションと-g オプションを同時に指定した場合は、必須です。

注※2

-g オプションを指定した場合は、必須です。

(b) 完了案件削除 BLC プロパティファイルの設定例

完了案件削除 BLC プロパティファイルの設定例を次に示します。

```
TracePath = C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥HBPM2¥¥logs
TraceFileNum = 16
TraceFileSize = 10485760
TraceLevel = 20
#Example for HiRDB
drv = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver
url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=22200,DBHOST=localhost,ENCODLANG=MS932
properties = LONGVARBINARY_ACCESS=LOCATOR,HiRDB_for_Java_LONGVARBINARY_ACCESS_SIZE=16
#Example for Oracle
#drv = oracle.jdbc.driver.OracleDriver
#url = jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:BLCDB
#Example for SQL Server
#drv = com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
#url = jdbc:sqlserver://localhost:1433;DatabaseName=BLCDB;selectMethod=cursor
SaveUDB = SaveUDB
DeleteUDB = DeleteUDB
WorkPath = C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥HBPM2¥¥tmp
TimeZone = GMT+09:00
```

スペースの都合上、設定例は 2 行にわたっている場合がありますが、実際は「キー名=設定値」の形式で 1 行で記述します。

付録 F サンプル帳票の構築方法

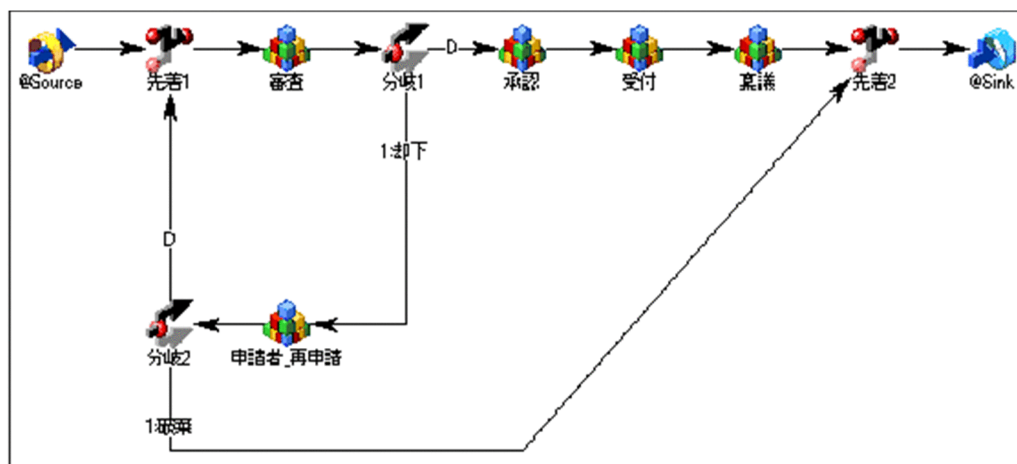
BLC では、帳票を作成する手順を理解するための参考に、帳票の見本（サンプル帳票）を構成する各種ファイル一式のサンプル（サンプルデータ）を提供します。帳票ジェネレータ（BLSG）機能を使って、提供するサンプルデータから、サンプル帳票を作成することで、帳票の作成方法を確認できます。ここでは、BLC が提供するサンプルデータの内容、およびサンプルデータからサンプル帳票を作成するときに必要な作業を説明します。

付録 F.1 提供する BLC 帳票用サンプルデータ

BLSG で提供する BLC 帳票用サンプルデータについて説明します。

(1) ビジネスプロセス

BLSG で提供する BLC 帳票用サンプルデータのビジネスプロセス定義を次に示します。



(2) 提供するサンプルファイル

BLSG で提供する BLC 帳票用サンプルデータの一覧を次に示します。

表 F-1 提供する BLC 帳票用サンプルデータの一覧

ファイル名	説明
fSampleConsultation.dat	サンプル帳票の「販売契約稟議」という帳票定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
mSalesContract.dat	サンプル帳票の中の「販売契約」という帳票モジュール定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
mSettlement.dat	サンプル帳票の中の「販売契約決済」という帳票モジュール定義ファイル

ファイル名	説明
mSettlement.dat	インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
mRequest.dat	サンプル帳票の中の「審査依頼部署」という帳票モジュール定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
販売契約稟議.hbx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義 インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%bp%
sample_rule.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDPARTICIPANT に格納されている作業者 ID) インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%bp%
申請者振り分けルール.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDAPPLICANT に格納されている申請者 ID) インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%bp%
販売契約.htm	帳票モジュールの「販売契約」で使用する帳票モジュール HTML ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%module%
販売契約決済.htm	サンプル帳票の帳票モジュールの販売契約決済で使用する帳票モジュール HTML ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%module%
審査依頼部署.htm	帳票モジュールの「審査依頼部署」で使用する帳票モジュール HTML ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%module%
SampleConsultation_1_userClientSideScript.inc	サンプル帳票のユーザ定義スクリプトファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %usersource%
SampleConsultation_1_userServerSideClass.java	ユーザ定義クラスのサンプルファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %usersource%

ファイル名	説明
fSampleDBIO.dat	ログインしているユーザの氏名を DB 入出力するサンプル帳票定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
mName.dat	ログインしているユーザの氏名を DB 入出力する帳票定義の中の、氏名というサンプル帳票モジュール定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data %repository%
氏名.htm	帳票モジュールの氏名で使用する帳票モジュール HTML ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ>%sample%data%module%

サンプルデータは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能をインストールしたディレクトリの下の「%sample」フォルダにインストールされます。

サンプルデータを使用する場合は、サンプルデータのインストール先にあるすべてのディレクトリとファイルを、任意の環境にコピーして使います。

- コピーするディレクトリおよびファイル
 サンプルデータのインストール先がデフォルトの場合、C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%blsg %sample%data の下にあるすべてのディレクトリとファイルをコピーします。
- コピー先の環境
 開発環境がデフォルトの場合、C:%Program Files%Hitachi%HBPM2%blsg%data の下がコピー先となります。

サンプルデータを実際のユーザ業務として使用するためには、必要に応じてファイルの内容を修正または追加する必要があります。

帳票名 (DB の入出力サンプル) について、次のユーザ環境を想定しています。

想定しているテーブル

```
CREATE TABLE USERDATA (
  名前 VARCHAR (128)
);
```

! 注意事項

UTF-8 で構築した場合、列名に全角文字は使用できません。この場合は、列名を半角文字に変更してください。

例：「名前」を「NAME」に変更

列名を変更する場合は、サンプル帳票の DB アクセス定義の対象カラム名もあわせて変更する必要があります。

想定している BLC プロパティファイルのプロパティ情報

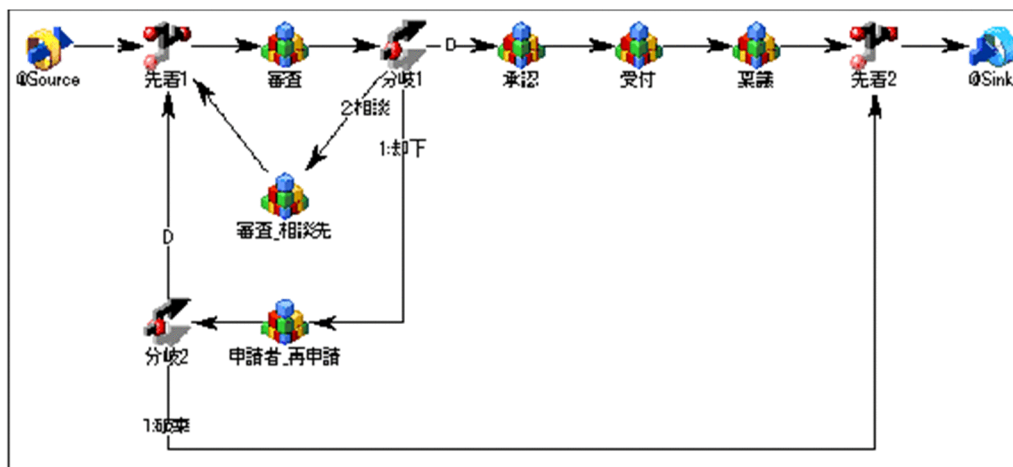
```
[BLC.BLCproperties]ファイル
U_USERDATA.method = pool
U_USERDATA.name = java:comp/env/BLC
```

付録 F.2 提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータ

BLSG で提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータについて説明します。

(1) ビジネスプロセス

BLSG で提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータのビジネスプロセス定義を次に示します。



(2) 提供するサンプルファイル

BLSG で提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータの一覧を次に示します。

表 F-2 提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータの一覧

ファイル名	説明
fSampleConsultationEUR.dat	サンプル帳票の「販売契約稟議 EUR」という帳票定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥repository¥
販売契約稟議 EUR.hbx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義 インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
sample_rule.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDPARTICIPANT に格納されている作業員 ID) インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥

ファイル名	説明
申請者振り分けルール.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDAPPLICANT に格納されている申請者 ID) インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
SellingAgreementEUR.efd	サンプル帳票の EUR Form 帳票ファイル インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SellingAgreementEURC.csv SellingAgreementEURD.csv SellingAgreementEURM.csv SellingAgreementEURP.csv	サンプル帳票の EUR Form 帳票定義情報ファイル インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SellingAgreementEUR.efs	サンプル帳票の EUR Form 帳票定義ファイル インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SellingAgreementEUR.js	サンプル帳票の、EUR Form 帳票定義ファイルにインクルードしている JavaScript ファイルです。 インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SampleConsultationEUR_1_userServerSideClass.java	ユーザ定義クラスのサンプルファイル インストール先： <BSLG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥usersource¥

サンプルデータは、帳票ジェネレータ (BSLG) 機能をインストールしたディレクトリの下に「sample」フォルダにインストールされます。

サンプルデータを使用する場合は、サンプルデータのインストール先にあるすべてのディレクトリとファイルを、任意の環境にコピーして使います。

- コピーするディレクトリおよびファイル

サンプルデータのインストール先がデフォルトの場合、C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥blsg ¥sample¥data の下にあるすべてのディレクトリとファイルをコピーします。

- コピー先の環境

開発環境がデフォルトの場合、C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥blsg¥data の下がコピー先となります。

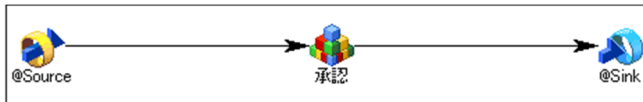
サンプルデータを実際のユーザ業務として使用するためには、必要に応じてファイルの内容を修正または追加する必要があります。

付録 F.3 提供する添付ファイル用サンプルデータ

BLSG で提供する添付ファイル用の EUR Form 連携帳票用サンプルデータ（以降、添付ファイル用サンプルデータと呼びます）について説明します。

(1) ビジネスプロセス

BLSG で提供する添付ファイル用サンプルデータのビジネスプロセス定義を次に示します。



(2) 提供するサンプルファイル

BLSG で提供する添付ファイル用サンプルデータの一覧を次に示します。

表 F-3 提供する添付ファイル用サンプルデータの一覧

ファイル名	説明
fEUR_ReportApp.dat	サンプル帳票の「議事録」という帳票定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥repository¥
議事録.hbx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義 インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
sample_rule.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール（BLC_INBOX_T の CDPARTICIPANT に格納されている作業者 ID） インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
ReportApp.efd	サンプル帳票の EUR Form 帳票ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
<ul style="list-style-type: none"> • ReportAppC.csv • ReportAppD.csv • ReportAppM.csv • ReportAppP.csv 	EUR Form 帳票 (ReportApp.efd) の EUR Form 帳票定義情報ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
ReportApp.efs	サンプル帳票の EUR Form 帳票定義ファイル

ファイル名	説明
ReportApp.efs	インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
EUR_ReportApp_1_userServerSideClass.java	ユーザ定義クラスのサンプルファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥usersource¥
ReportApp.js	EUR Form 帳票定義ファイル (ReportApp.efs) のスクリプトファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥

サンプルデータは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能をインストールしたディレクトリの下に「sample」フォルダにインストールされます。

サンプルデータを使用する場合は、サンプルデータのインストール先にあるすべてのディレクトリとファイルを、任意の環境にコピーして使います。

- コピーするディレクトリおよびファイル
サンプルデータのインストール先がデフォルトの場合、C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥blsg ¥sample¥data の下にあるすべてのディレクトリとファイルをコピーします。
- コピー先の環境
開発環境がデフォルトの場合、C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥blsg¥data の下がコピー先となります。
サンプルデータを実際のユーザ業務として使用するためには、必要に応じてファイルの内容を修正または追加する必要があります。

(3) BLC で提供する添付ファイル用サンプルデータ

BLC で提供する添付ファイル用サンプルデータの EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルを次に示します。

表 F-4 提供する EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルの一覧

ファイル名	説明
BLCEURAttachedSample.jsp	EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルのサンプルファイル インストール先： Windows 版の場合 <BLC2 のインストールディレクトリ>¥webhome¥app¥main¥

Windows 版の場合

サンプルデータは、BLC をインストールしたディレクトリの下に「¥webhome」フォルダにインストールされます。

- コピーするディレクトリおよびファイル

Windows 版の場合

サンプルデータのインストール先がデフォルトの場合、<BLC2 のインストールディレクトリ> %webhome%app%main% の下にある、EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルの一覧に示したファイルをコピーします。

- コピー先の環境

Windows 版の場合

開発環境がデフォルトの場合、<作業フォルダ>%app%main の下がコピー先となります。

サンプルデータを実際のユーザ業務として使用するためには、必要に応じてファイルの内容を修正または追加する必要があります。

(4) 添付ファイル情報格納用テーブルの作成

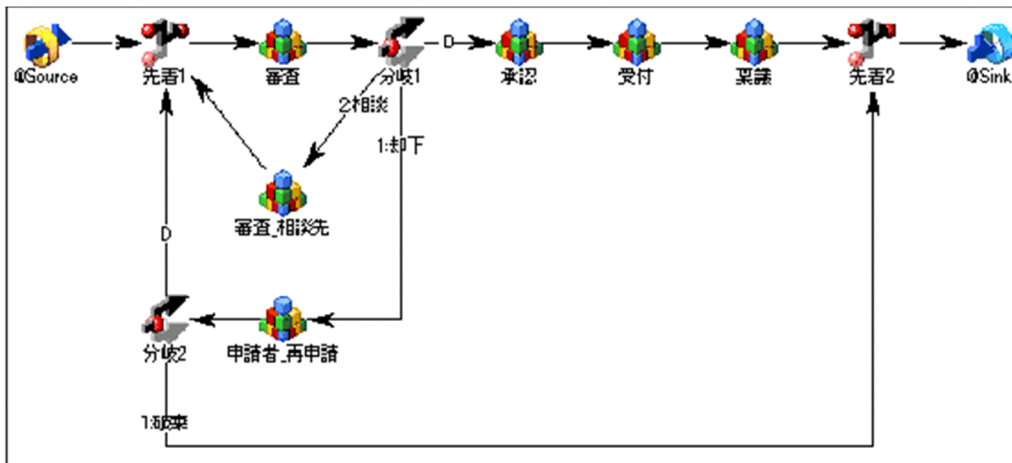
「付録 H.2 (1) EUR Form 連携帳票の添付ファイルを使うための環境設定」を参照して作成してください。

付録 F.4 引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルデータ

BLSG で提供する引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルデータについて説明します。

(1) ビジネスプロセス

BLSG で提供する引き戻し用 EUR Form 連携帳票のビジネスプロセス定義を次に示します。



(2) 提供するサンプルファイル

BLSG で提供する引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルファイル一覧を次に示します。

表 F-5 提供する引き戻し用サンプル帳票データの一覧

ファイル名	説明
fSampleConsultationEUR2.dat	引き戻し用リポジトリファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> %sample%data%repository%
販売契約稟議 EUR2.hbx	引き戻し用ビジネスプロセス定義

ファイル名	説明
販売契約稟議 EUR2.hbx	インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
sample_rule.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDPARTICIPANT に格納されている作業者 ID) インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
申請者振り分けルール.hcx	サンプル帳票のビジネスプロセス定義で使用している振り分けルール (BLC_INBOX_T の CDAPPLICANT に格納されている申請者 ID) インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥bp¥
sSellingAgreementEUR2.efd	サンプル帳票の EUR Form 帳票ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
<ul style="list-style-type: none"> • SellingAgreementEUR2C.csv • SellingAgreementEUR2D.csv • SellingAgreementEUR2M.csv • SellingAgreementEUR2P.csv 	EUR Form 帳票定義ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SellingAgreementEUR2.efs	引き戻し用帳票ファイル インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥eurform¥
SampleConsultationEUR2_1_userServerSideClass.java	引き戻し用ユーザ追加処理 インストール先： <BLSG のインストールディレクトリ> ¥sample¥data¥usersource¥

サンプルデータは、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能をインストールしたディレクトリの下に「sample」フォルダにインストールされます。

サンプルデータを使用する場合は、サンプルデータのインストール先にあるすべてのディレクトリとファイルを、任意の環境にコピーして使います。

- コピーするディレクトリおよびファイル
サンプルデータのインストール先がデフォルトの場合、C:¥Program Files¥Hitachi¥HBPM2¥blsg ¥sample¥data の下にあるすべてのディレクトリとファイルをコピーします。
- コピー先の環境

開発環境がデフォルトの場合、C:\Program Files\Hitachi\HBPM2\blsg\data の下がコピー先となります。

サンプルデータを実際のユーザ業務として使用するためには、必要に応じてファイルの内容を修正または追加する必要があります。

(3) 引き戻し用 EUR Form 帳票を使用するための環境設定

「16.3 引き戻し機能を使用するための環境設定」を参照して、引き戻し機能を使用するために必要な環境設定をしてください。

付録 F.5 サンプル帳票作成時に必要な作業

サンプルデータからサンプル帳票を作成する際に必要な作業を、次に示します。

(1) 振り分けルール定義の登録

BLC 帳票サンプルデータ使用時、振り分けルール定義 (sample_rule.hcx および申請者振り分けルール.hcx) を CSCIW サーバに登録します。登録の方法は、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

(2) ビジネスプロセス定義の登録

次のビジネスプロセス定義を CSCIW サーバに登録します。

- BLC 帳票サンプルの場合：販売契約稟議.hbx
- EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：販売契約稟議 EUR.hbx
- 添付ファイル用の EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：議事録.hbx
- 引き戻し用の EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：販売契約稟議 EUR2.hbx

登録の方法は、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

(3) 帳票ファイル (JSP 形式) の生成

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して、サンプルデータから帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。帳票ファイル (JSP 形式) の生成は、「3.2.6 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合)」, または「6.2.5 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (EUR Form 連携帳票の場合)」を参照してください。

また、EUR Form 連携帳票の場合、次の EUR Form 帳票定義ファイル (*.efs) を編集して、送信ユニット情報を変更する必要があります。

- EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：SellingAgreementEUR.efs
- 添付ファイル用の EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：ReportApp.efs
- 引き戻し用の EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：SellingAgreementEUR2.efs

変更する手順を次に示します。

操作手順

1. EURForm 帳票定義ファイルを開きます。

2. [編集] - [送信ユニット操作] - [送信ユニットのプロパティ] の送信先 URL を、次のように設定します。
 - 添付ファイル用の EUR Form 連携帳票サンプルデータの場合：http://<ホスト名>/blc/app/main/BLCEURAttachedSample.jsp
 - そのほかの場合：http://<ホスト名>/blc/app/main/BLCEURProcessSample.jsp
3. [ツール] - [EUR Form 帳票定義情報の出力] をチェックします。
4. [ファイル] - [上書き保存] で保存します。
5. [ファイル] - [EUR Form 帳票ファイルの生成] を実行します。
6. 帳票ジェネレータ (BLSG) で、EURForm 帳票定義ファイルを読み込んで、帳票ファイルを生成します。

(4) 帳票ファイル (JSP 形式) のデプロイ

生成された帳票ファイルを、アプリケーションサーバにデプロイします。帳票ファイル (JSP 形式) のデプロイについては、マニュアル「uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド」の「Web アプリケーションの作成」および「J2EE サーバの設定」の説明を参照してください。

付録 G 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の画面およびダイアログで入力する項目について、入力できる文字の種類、文字列の長さなどの規則を説明します。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則を次に示します。

表 G-1 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則

項番	入力項目	文字の種類	文字列の長さ (バイト)	定義時の チェックの 有無	備考
1	帳票名	B	64	—	—
2	帳票 ID	D*	32	○	ファイル名に使用されます。
3	帳票パッケージ名	D*	32	○	ファイル名に使用されます。
4	クラス名	F*	64	○	Java クラス完全限定名を指定します。
5	スクリプトファイル名	G*	256	○	"パス"+"ファイル名"
6	判定用項目変数名	F	65	—	—
7	[カスタム申請] タブ —比較値	A	64	—	ただし、判定用項目変数名の項目種別が radio の場合、文字の種類は C、文字の長さは 3 となります。
8	ソース項目	F	65	—	—
9	ターゲット項目	F	65	—	—
10	タイトル	A	128	—	—
11	バージョン	C	3	○	—
12	作成者	A	128	—	—
13	分類	A	128	—	—
14	コメント	A	4096	—	—
15	帳票モジュール名	B	64	—	—
16	帳票モジュール ID	D*	32	○	—
17	帳票モジュールプレフィックス	E	32	○	—
18	項目変数名	D	32	—	HTML 作成時、文字種類に注意する必要があります。
19	項目名	A	64	—	—

項番	入力項目	文字の種類	文字列の長さ (バイト)	定義時のチェックの有無	備考
20	項目長	C	3	—	—
21	項目初期値	A	64	—	—
22	データの最小長さ	C	6	—	—
23	データの最大長さ	C	6	—	—
24	値範囲比較値 1	B	64	—	—
25	値範囲比較値 2	B	64	—	—
26	小数点制限桁数	C	2	—	—
27	条件付きチェック対象項目変数名	F	65	—	—
28	条件付きチェック対象項目 index	C	3	—	—
29	条件付きチェック比較値	A	64	—	—
30	TEXTAREA スタイル定義	A	128	—	—
31	JavaScript 関数名・ソース	A	64	—	—
32	JavaScript 引数	A	65	—	—
33	項目グループ名	D	32	○	—
34	項目グループ定義 項目一覧の項目変数名	F	65	—	—
35	連結フォーマット	A	32	—	—
36	DB 接続情報	D	32	—	—
37	DB アクセス定義名	D	66	○	例： "M"+帳票モジュール ID+"_"+指定名称"
38	テーブル名	A	64	—	["] (半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるカラム名は指定できません。
39	SQL 用検索条件項目	A	1024	—	["] (半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるカラム名は指定できません。
40	SQL 用条件オプション	A	1024	—	["] (半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるカラム名は指定できません。

項番	入力項目	文字の種類	文字列の長さ (バイト)	定義時の チェックの 有無	備考
41	レコード数項目変数名	F	65	—	ただし、定数を指定する場合、#以降の文字列は、文字の種類はC、文字の長さは5となります。
42	候補値取得項目変数名	F	65	—	—
43	カラム名	A	64	—	[""] (半角ダブルクォーテーション) で囲む必要のあるカラム名は指定できません。
44	カラム項目定義項目変数名	F	65	—	—
45	ビジネスプロセス定義ファイル名	B	200	○	—
46	帳票モジュール HTML ファイル名	B	200	○	—
47	プロジェクト名	D*	32	○	—
48	EUR Form 帳票名	B	200	○	—
49	テーブル名	A	64	—	SQL 文の生成に使用されます。
50	カラム名	A	64	—	SQL 文の生成に使用されます。
51	条件名	A	64	—	SQL 文の生成に使用されます。
52	演算子	A	64	—	SQL 文の生成に使用されます。
53	比較値	A	64	—	SQL 文の生成に使用されます。
54	SQL 文	A	2000	—	ビジネスプロセス定義の SQL 文です。

(凡例)

文字の種類について

A：制限なし

B：全角、英数字、半角記号（¥ / : , ; * ? " < > | を除く）

C：半角数値

D：半角英数字、"_"（半角アンダーバー）

E：半角英数字

F：半角英数字、"_"（半角アンダーバー）、"."（半角ピリオド）

G：半角英数字、"_"（半角アンダーバー）、"."（半角ピリオド）、"/"（半角スラッシュ）

文字列の長さについて

ID などの識別子として扱う項目は、基本的に 32 バイト。

値や名称の項目は、基本的に 64 バイト。

項目変数名 ("項目変数名"+"." (半角ピリオド) +"帳票モジュール ID") を指定できる項目は、基本的に 65 バイト。

その他は、それぞれの項目の性質から適当な長さを定義します。

長さの計算方法

半角文字は 1 バイト、全角文字は 2 バイト、1 回の改行は 1 バイトと数えます。

定義時のチェックの有無

○：定義時にチェックされます。

－：定義時にチェックされません。

注※

先頭文字は、半角英字である必要があります。

文字コードについて

扱える文字コードは、Shift_JIS コードです。

大文字と小文字の区別について

ファイル名などの Windows に依存する部分と、項目変数名などの HTML の仕様に依存する部分を除いて、基本的に大文字と小文字は区別されますが、大文字と小文字の違いだけで名称や値を区別するような使い方は、できるだけ避けてください。

備考について

－：該当しません。

付録 H 添付ファイルの使用方法

ここでは、BLC 帳票および EUR Form 帳票から添付ファイル进行操作する手順を説明します。

付録 H.1 BLC 帳票の添付ファイルの使用方法

ここでは、BLC 帳票から添付ファイル进行操作する手順を説明します。

(1) BLC 帳票の添付ファイルを使うための環境設定

BLC 帳票から添付ファイル进行操作するには、添付ファイル情報格納用テーブルを作成して環境設定をします。

BLC では、データベース (HiRDB, Oracle および SQL Server) 用に、添付ファイル进行操作するためのテーブル情報を定義したファイル (BLCFile.txt) をサンプルとして提供しています。サンプルファイルは、アプリケーションサーバの次のディレクトリに格納されています。

Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%sql%<データベース種別>

HiRDB を使う場合の注意事項

- HiRDB 用のサンプルファイル (BLCFile.txt) では、LOB 列格納用 RD エリアに RLOB2 を指定しています。
変更する場合は、サンプルファイル (BLCFile.txt) の RLOB2 を、環境に合わせて変更してください。
- HiRDB を使う場合、BLOB 型のカラムに指定する RECOVERY オペランドには、必ず"ALL"または"PARTIAL"を指定します。

(2) BLC 帳票の添付ファイルの使い方

BLC 帳票から添付ファイルをアップロード、ダウンロードまたは削除する方法を説明します。

(a) 添付ファイルのアップロード機能

各帳票から案件開始、作業完了、保留などの処理を実行するときに、添付ファイルをアップロードできません。

操作手順

1. 添付ファイルのアップロード機能を利用する場合、ユーザ追加処理 (ufcl_OnLoad) を使って、ユーザ定義スクリプトの OnLoad イベントに次の設定を追加します。

```
document.forms[0].encoding="multipart/form-data";
```

なお、「forms[0]」の値はご利用の環境に合わせて修正してください。

2. 帳票内に、最大ファイルサイズ、添付ファイル最大数、ファイル、およびファイル参照名を設定する次のタグを指定します。

タグの設定値に基づいてアップロードの処理が実行されます。

```
<input type="hidden" name="A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE" value="最大ファイルサイズ">
<input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NUM" value="添付ファイル最大数">
<input type="hidden" name="A_BLC_FILE_1" value="ファイル">
<input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_1" value="ファイル参照名">
```

タグはすべて設定してください。指定していないタグがある場合、正常に添付ファイルをアップロードできません。

なお、上記タグの type および value には、任意の数値または値を指定してください。また、上記のタグは、BLSG に帳票モジュールとして指定する HTML ファイル内には設定しないで、ユーザ定義クラスユーザ追加処理 (ufsv_overrideCommentArea) の中で実行してください。

各タグの詳細を次の表に示します。

表 H-1 アップロード機能のタグ

種類	項目	説明
最大ファイルサイズ	type 属性	任意※1
	name 属性※2	A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE
	value 属性	アップロードできる最大ファイルサイズ (バイト) 指定範囲：1~2147483647
	説明	value 属性に指定したサイズが、アップロードできる添付ファイルの最大ファイルサイズになります。 なお、最大ファイルサイズとあわせて、帳票サイズの上限值も指定することを推奨します。 指定したサイズ以上のファイルをアップロードした場合は、エラーメッセージが表示されます。 また、複数の添付ファイルをアップロードする場合は、全ファイルのファイルサイズの合計が最大ファイルサイズを超えると、エラーメッセージが表示されます。
添付ファイル最大数	type 属性	任意※1
	name 属性※2	A_BLC_FILE_NUM
	value 属性	添付するファイルの数 (個数) 指定範囲：1~32767
	説明	value 属性に指定した値が、アップロードできる添付ファイルの最大ファイル数になります。 ファイル数には「1」以上の数値を指定してください。 ファイル数に「0」を指定した場合は、ファイルのアップロードは実行されません。
ファイル	type 属性	file
	name 属性※2	A_BLC_FILE_[n]
	value 属性	ファイル本体 ファイルの入力フォームから指定されます。
	説明	value 属性に指定したファイルがアップロードできます。 このタグを複数配置することで、複数の添付ファイルをアップロードできます。 添付ファイルが一つの場合、name 属性の「[n]」に「1」を指定してください。 また、添付ファイルが複数の場合、「1」から始まる連番を指定してください。

種類	項目	説明
ファイル	説明	なお、ファイルタグはファイル参照名タグと対で指定してください。対になっていない場合はファイルのアップロードできません。
ファイル参照名	type 属性	任意※1
	name 属性※2	A_BLC_FILE_NAME_[n]
	value 属性	A_BLC_FILE_[n]のファイル名
	説明	ファイルタグ「A_BLC_FILE_[n]」の value 属性に指定したファイルのファイル名を指定します。 ファイル参照名タグはファイルタグと対で指定してください。対になっていない場合はファイルのアップロードできません。

注

各タグには上記以外の属性値を指定することもできます。ただし、その場合はBLCのチェック対象外になるため、各属性の仕様を確認して追加してください。不正な値を指定した場合は、添付ファイルをアップロードできないことがあります。

注※1

type 属性には、各値の仕様を参照して任意の値を指定してください。不正な値を指定した場合は、添付ファイルをアップロードできないことがあります。

注※2

name 属性の値は変更できません。name 属性を変更した場合は、添付ファイルをアップロードできません。

注意事項

各タグの設定内容に誤りがあると、誤りのあるファイルがアップロードされなかったり、アップロードの処理自体がエラーになったりすることがあります。アップロードに失敗する場合の動作の種類を次に示します。

表H-2 アップロード実行時の動作

動作	説明
無視	無視されたファイルはアップロードされませんが、処理自体は正常とみなされます。 同時に処理されたほかのファイルはアップロードされます。
警告	トレースファイルが出力されます。 警告が出たファイルはアップロードされません。
エラー	例外が発生し、アップロードの処理が失敗します。 同時に処理されたほかのファイルもすべてエラーになります。

動作の詳細を説明します。

- 無視について

次の場合、添付ファイルのアップロード処理は無視されます。

- 最大ファイルサイズのタグまたは値を指定していない場合
- 添付ファイル最大数のタグまたは値を指定していない場合
- 添付ファイル最大数の値に「0」を指定した場合
- ファイル参照名の値を指定していない場合

添付ファイルが無視される場合の例を次に示します。

図 H-1 添付ファイルが無視される場合の例

<pre><input type="hidden" name="A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE" value="1000000"> <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NUM" value="1"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_0" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_0" value="file0"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_1" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_1" value="file1"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_2" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_2" value="file2"></pre>	<p>ファイルの連番は「1」以上が有効値のため、連番0のファイルは無視されます。</p> <p>添付ファイル最大数に「1」が指定されているため、連番2のファイルは範囲外として無視されます。</p>
---	--

添付ファイル最大数に指定されている連番 1 のファイルだけがアップロードされます。

• 警告について

次の場合、添付ファイルに警告が表示されます。

- 添付ファイル最大数の範囲内にある連番のファイルタグおよびファイル参照名タグが両方指定されていない場合

警告が表示される場合の例を次に示します。

図 H-2 警告が表示される場合の例

<pre><input type="hidden" name="A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE" value="1000000"> <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NUM" value="3"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_1" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_1" value="file1"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_3" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_3" value="file3"></pre>	<p>添付ファイル最大数の範囲内にある連番のファイルタグおよびファイル参照名タグが両方指定されていないため、警告が表示されます。</p>
---	--

添付ファイル最大数の範囲内の連番 1 および連番 3 のファイルはアップロードされます。

• エラーについて

次の場合、エラーが発生し、アップロードの処理が中断されます。

- 最大ファイルサイズまたは添付ファイル最大数の値が数値以外の場合
- 最大ファイルサイズまたは添付ファイル最大数の値が範囲外の場合
- 添付ファイル最大数の範囲内にある連番のファイルタグとファイル参照名タグが対で指定されていない場合
- アップロード後の添付ファイルサイズの合計が、最大ファイルサイズより大きくなる場合
- ファイルの実体の取得時にエラーが発生した場合
- ファイルの実体のサイズが 0 の場合
- ファイルのアップロードで例外が発生した場合

エラーが発生する場合の例を次に示します。

図 H-3 エラーが発生する場合の例

<pre> <input type="hidden" name="A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE" value="1000000"> <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NUM" value="3"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_1" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_1" value="file1"> <input type="file" name="A_BLC_FILE_2" > <input type="file" name="A_BLC_FILE_3" > <input type="hidden" name="A_BLC_FILE_NAME_3" value="file3"> </pre>	<p>添付ファイル最大数の範囲内にある連番2のファイルのタグが正しく指定されていないため、エラーが発生します。</p>
--	---

処理自体が中断されるため、正しく指定された連番 1 および連番 3 のファイルもアップロードされません。

実装例

ユーザ追加処理でタグを出力する実装例を次に示します。

```

StringBuilder strOut = new StringBuilder(4096);

strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE' value='1000000'>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NUM' value='5'>");
strOut.append("<input type='file' name='A_BLC_FILE_1' value='' size='50'>");
strOut.append("<br>");
strOut.append("<input type='file' name='A_BLC_FILE_2' value='' size='50'>");
strOut.append("<br>");
strOut.append("<input type='file' name='A_BLC_FILE_3' value='' size='50'>");
strOut.append("<br>");
strOut.append("<input type='file' name='A_BLC_FILE_4' value='' size='50'>");
strOut.append("<br>");
strOut.append("<input type='file' name='A_BLC_FILE_5' value='' size='50'>");
strOut.append("<br>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NAME_1' value='a1.txt'>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NAME_2' value='a2.txt'>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NAME_3' value='a3.txt'>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NAME_4' value='a4.txt'>");
strOut.append("<input type='hidden' name='A_BLC_FILE_NAME_5' value='a5.txt'>");
strOut.append("<br>");

```

(b) 添付ファイルのダウンロード機能

帳票に添付ファイルのダウンロード用のリンクを追加することで、リンクのクリック時に添付ファイルをダウンロードできます。

添付ファイルダウンロード機能では、申請 ID とファイル ID を用いて DB からファイル本体を取得し、呼び出し元に戻します。

操作手順

- 次に示すスクリプトファイルを取り込みます。

```
/form/include/BLCFMCParts.jsc
```

BLCFMCParts.jsc ファイルの取り込みは、<head>タグと</head>タグの間に、<script>タグのオプションとして記述します。

BLCFMCParts.jsc を取り込む記述例を次に示します。

```
<script type="text/javascript" src="../../form/include/BLCFMCparts.jsc"></script>
```

- 帳票内に、ダウンロードリンクを設定する次のタグを指定します。

タグの設定値に基づいてダウンロードの処理が実行されます。

```
<a href='' onClick='BLC_DownloadFile( "申請ID", "ファイルID" ); return false;' >ファイル名</a>
```

タグの詳細を次の表に示します。

表 H-3 ダウンロード機能のタグ

種類	項目	説明
ダウンロードリンク	href	任意※
	onclick	BLC_DownloadFile(" 申請 ID" ," ファイル ID")を呼び出します。
	BLC_DownloadFile	申請 ID およびファイル ID を指定し、app/main/BLCFileDownload.jsp を呼び出します。app/main/BLCFileDownload.jsp では、添付ファイルダウンロード画面を表示し、BLC_FILE_T テーブルから申請 ID とファイル ID に該当するファイルを取得します。
	引数の取得方法	申請 ID は BLCValDic クラスの item メソッドから、ファイル ID は BLCFileAccess クラスの getInfo メソッドから取得してください。
	説明	ファイル名はリンクの文字列に相当します。 ファイル名をデータベースから取得するには BLCFileAccess クラスの getInfo メソッドから取得してください。

注※

href 属性には、値の仕様を参照して任意の値を指定してください。不正な値を指定した場合は、添付ファイルをダウンロードできないことがあります。

注意事項

ファイルのダウンロード画面は開いたままの状態では放置しないでください。ファイルのダウンロード画面を開いたままの状態にすると、J2EE サーバの実行スレッドが使用されたままになります。

実装例

ダウンロード機能および削除機能を実装すると、BLC 帳票のコメント記述欄の上に添付ファイル名のリンクと削除用チェックボックスが表示されます。

リンクをクリックすることで添付ファイルをダウンロードできます。また、チェックボックスをチェックすることで添付ファイルを削除できます。

ダウンロード機能および削除機能の実装例を次に示します。

```

StringBuilder strOut = new StringBuilder(4096);

try {
    if(!blse.m_ProcMode.equals("0")){
        strOut.append("<div align=¥center¥><center>¥n");
        strOut.append("<table width=¥100%¥ border=¥1¥ cellspacing=¥1¥>¥n");
        strOut.append("<tr>¥n");
        strOut.append("<th class=¥blcitname¥ nowrap width=¥20%¥>");
        strOut.append(BLCSTRPortal.get(50000)); ●────────────────────────────────── ※1
        strOut.append("</th>¥n");

        BLCFileAccess blcFileAccess = new BLCFileAccess();
        String l_strPName = blse.m_DataValue.item("BLC_PName"); ●────────────────── 申請ID
        ArrayList<String> list = new ArrayList<String>();
        list.add("NUFID"); ●────────────────────────────────── ファイルIDのキー
        list.add("NMFILENAME"); ●────────────────────────────────── ファイル名のキー (任意)
        HashMap[] resultMap = blcFileAccess.getInfo(l_strPName, list, null); ●──────────────────────────────────

        if(resultMap != null && resultMap.length !=0){
            strOut.append("<input type=¥hidden¥ name=¥A_BLC_DELETE_FILE_NUM¥ value=¥");
            strOut.append(resultMap.length + "¥");

            for (int i = 0; i < resultMap.length; i++) {
                StringBuilder l_strWork = new StringBuilder(255);
                HashMap l_hm = (HashMap) resultMap[i];
                String fileName = (String)l_hm.get("NMFILENAME");
                Number fileID = (Number)l_hm.get("NUFID");
                l_strWork.append("<td class=¥blcitvalu¥ nowrap>");
                //ファイル数分、リンク生成
                l_strWork.append("<a href=¥¥¥ ");
                l_strWork.append("<onclick=' BLC_DownloadFile(¥"+l_strPName + "¥,¥"+ fileID);
                l_strWork.append("¥"); return false;");
                l_strWork.append(">" + fileName + "</a>");
                l_strWork.append("&nbsp;");
                //削除チェックボックス生成
                l_strWork.append("<input type=¥checkbox¥");
                l_strWork.append("< name=¥A_BLC_DELETE_FILE_¥ + (i+1) + "¥");
                l_strWork.append("< value=¥¥ + fileID + "¥">" + BLCSTRPortal.get(50050)); ●── ※2
                l_strWork.append("</td>¥n");

                strOut.append(l_strWork);
            }
        }
        strOut.append("</tr></table>¥n");
        strOut.append("</center></div>¥n");
    }

    strOut.append(strComment);
} catch (RuntimeException exp) {
    throw new BLCException(exp);
}

return strOut.toString();

```

ダウンロードに必要な情報をDBから取得します。

注※1 「添付ファイル一覧」などの表列名をリソースファイルから指定してください。

注※2 「削除」などの表列名をリソースファイルから指定してください。

(c) 添付ファイルの削除機能

各帳票から案件開始、作業完了、保留などの処理を実行するときに、添付ファイルを削除できます。

操作手順

1. 添付ファイルの削除機能を利用する場合、帳票内に削除ファイルを設定する次のタグを設定します。
タグの設定値に基づいてファイルが削除されます。

```
<input type="値" name="A_BLC_DELETE_FILE_1" value="削除ファイル">
<input type="値" name="A_BLC_DELETE_FILE_NUM" value="削除ファイル最大数">
```

なお、上記タグの value="" には、任意の数値または値を指定してください。

各タグの詳細を次の表に示します。

表 H-4 削除機能のタグ

種類	項目	説明
削除ファイル	type 属性	任意※1
	name 属性※2	A_BLC_DELETE_FILE_[n]
	value 属性	削除するファイルのファイル ID ("NUFID") BLCFileAccess クラスの getInfo メソッドで取得できます。
	説明	type 属性に指定した入力形式で、削除処理が実行されます。 このタグを複数配置することで、複数の添付ファイルを削除できます。 削除する添付ファイルが一つの場合、name 属性の「[n]」に「1」を指定します。また、削除するファイルが複数の場合は、「1」から始まる連番を指定します。
削除ファイル最大数	type 属性	任意※1
	name 属性※2	A_BLC_DELETE_FILE_NUM
	value 属性	削除するファイルの数 (個数) 指定範囲：1～32767
	説明	value 属性の値が削除ファイル数に指定されます。 value 属性に指定した値が、削除できるファイル数になります。 ファイル数には「1」以上の数値を指定してください。1 から value 属性値までの連番を指定されたファイルが削除対象になります。 ファイル数に「0」を指定した場合は、ファイルは削除されません。

注

各タグには上記以外の属性値を指定することもできます。ただし、その場合は BLC のチェック対象外になるため、各属性の仕様を確認して追加してください。不正な値を指定した場合は、添付ファイルを削除できないことがあります。

注※1

type 属性には、各値の仕様を参照して任意の値を指定してください。不正な値を指定した場合は、添付ファイルを削除できないことがあります。

注※2

name 属性の値は変更できません。name 属性を変更した場合は、添付ファイルを削除できません。

注意事項

各タグの設定内容に誤りがあると、誤りのあるファイルが削除されなかったり、削除の処理自体がエラーになったりすることがあります。削除に失敗する場合の動作の種類を次に示します。

表 H-5 削除実行時の動作

動作	説明
無視	無視されたファイルは削除されませんが、処理自体は正常とみなされます。

動作	説明
無視	同時に処理されたほかのファイルは削除されます。
警告	トレースファイルが出力されます。 警告が出たファイルは削除されません。
エラー	例外が発生し、削除の処理が失敗します。 同時に処理されたほかのファイルもすべてエラーになります。

動作の詳細を説明します。

• 無視について

次の場合、添付ファイルの削除処理は無視されます。

- 削除ファイルの値を指定していない場合
- 削除ファイル最大数のタグまたは値を指定していない場合
- 削除ファイル最大数の値に「0」を指定している場合
- 削除ファイル最大数の範囲外の連番を持つ削除ファイルを指定している場合

削除ファイルが無視される場合の例を次に示します。

図 H-4 削除ファイルが無視される場合の例

```
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_NUM" value="1">
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_0" value="1">
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_1" value="14">
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_2" value="333">
```

削除ファイルの連番は「1」以上が有効値のため、連番0のファイルは無視されます。

削除ファイル最大数に「1」が指定されているため、連番2のファイルは範囲外として無視されます。

削除ファイル最大数に指定されている連番 1 のファイルだけが削除されます。

• 警告について

次の場合、削除ファイルに警告が表示されます。

- 削除ファイル最大数の範囲内にある連番の削除ファイルのタグが指定されていない場合

警告が表示される場合の例を次に示します。

図 H-5 警告が表示される場合の例

```
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_NUM" value="3">
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_1" value="14">
<input type="hidden" name="A_BLC_DELETE_FILE_3" value="1">
```

削除ファイル最大数の範囲内にある連番2の削除ファイルタグが指定されていないため、警告が表示されます。

添付ファイル最大数の範囲内の連番 1 および連番 3 のファイルは削除されます。

• エラーについて

次の場合、エラーが発生し、削除処理が中断されます。

- 削除ファイル最大数の値が数値以外の場合
- 削除ファイル最大数の値が範囲外の場合
- ファイルの実体の削除時にエラーが発生した場合

- 削除ファイルが見つからない場合

実装例

削除機能の実装例については、「(b) 添付ファイルのダウンロード機能」の実装例を参照してください。

(3) BLC 帳票の添付ファイルを使う上での注意事項

添付ファイル処理とユーザ業務で追加した処理やセッションのメモリ使用量の合計が Cosminexus の最大ヒープサイズを超えていないか、次の計算式を基に確認してください。なお、次の計算式の単位は MB (メガバイト) です。

$$\text{最大ヒープサイズ} > \text{添付ファイルサイズ} \times \text{係数}^{\ast 1} \times \text{多重度} + 100^{\ast 2} + \text{ユーザ追加業務処理やセッションの消費メモリ}$$

注※1

BLC 帳票のアップロードおよびダウンロードの場合、係数は 5 です。

注※2

Cosminexus が消費するメモリです。

なお、Cosminexus の最大ヒープサイズの指定方法は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」を参照してください。

付録 H.2 EUR Form 連携帳票の添付ファイルの使用方法

ここでは、EUR Form 帳票から添付ファイルを操作する手順を説明します。

(1) EUR Form 連携帳票の添付ファイルを使うための環境設定

EUR Form 連携帳票から添付ファイルを操作するための環境設定の方法を説明します。

(a) 添付ファイル情報格納用テーブルの作成

BLC では、データベース (HiRDB, Oracle および SQL Server) 用に、添付ファイルを操作するためのテーブル情報を定義したファイル (BLCFile.txt) をサンプルとして提供しています。サンプルファイルは、次のディレクトリに格納されています。

Windows 版の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%sql%<データベース種別>

HiRDB を使う場合の注意事項

- HiRDB 用のサンプルファイル (BLCFile.txt) は、使用する環境に合わせて、LOB 列格納用 RD エリアを指定する必要があります。サンプルファイル (BLCFile.txt) の LOB_RDAREA_NAME(Ex.RLOB1)を、正しい RD エリア名に変更してください。
- HiRDB を使う場合、BLOB 型のカラムに指定する RECOVERY オペランドには、必ず"ALL"または"PARTIAL"を指定します。

(b) J2EE サーバのリソースアダプタで使用するコンフィグレーションプロパティの設定

HiRDB, Oracle および SQL Server の環境で、コンフィグレーションプロパティに設定する値を次に示します。

表 H-6 コンフィグレーションプロパティの設定値

項目名	HiRDB の場合	Oracle の場合	SQL Server の場合
LONGVARIABLE_ACCESS	LOCATOR*	—	—

(凡例)

—：指定しません。

注※

LOCATOR を設定することを推奨します。LOCATOR を設定する場合は、HiRDB のバージョンが LOCATOR 機能に対応しているか確認してください。

(2) EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルの使い方

添付ファイル用サンプルデータの EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイル (BLCEURAttachedSample.jsp) とユーザ追加処理について説明します。

(a) 対応ボタン

添付ファイル用サンプルデータの EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルが対応するボタンと、ユーザ追加処理で添付ファイル进行处理するボタンについて次に示します。

表 H-7 対応ボタン

ボタン名	EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイル	ユーザ追加処理
申請	○	○
承認	○	○
閉じる	○	—

(凡例)

○：対応しています。

—：該当しません。

(b) 動作仕様

ユーザ追加処理で添付ファイルの処理をするタイミングを説明します。

● 申請時の動作仕様

申請方法には次の四つがあります。

- 名称別帳票一覧からの申請
- 送信ログからの申請
- ローカル保存から申請
- 申請帳票画面へのリンク機能からの申請

帳票を表示したとき

申請作業で帳票を表示する時は、添付ファイルの処理はできません。

申請作業でボタンをクリックしたとき

申請作業でボタンをクリックしたときの動作を次に示します。

表 H-8 申請作業でボタンをクリックしたときの動作仕様

ボタン	処理			
	データベースからの取得	EUR Form 連携帳票への設定	EUR Form 連携帳票からの取得	データベースへの更新
申請	—	—	○	○
閉じる	—	—	—	—

(凡例)

○：処理します。

—：処理しません。

● 承認時の動作仕様

帳票を表示するとき

受信ボックスからの選択の動作を次に示します。

表 H-9 承認作業で帳票を表示するときの動作仕様

帳票の表示時	処理			
	データベースからの取得	EUR Form 連携帳票への設定	EUR Form 連携帳票からの取得	データベースへの更新
受信ボックスからの選択	○	○	—	—

(凡例)

○：処理します。

—：処理しません。

承認作業でボタンをクリックしたとき

承認作業でボタンをクリックしたときの動作を次に示します。

表 H-10 承認作業でボタンをクリックしたときの動作仕様

ボタン	処理			
	データベースからの取得	EUR Form 連携帳票への設定	EUR Form 連携帳票からの取得	データベースへの更新
申請	—	—	○	○
閉じる	—	—	—	—

(凡例)

○：処理します。

—：処理しません。

● 内容確認時の動作仕様

帳票を表示するとき

送信ログからの選択の動作を次に示します。

表 H-11 送信ログからの帳票を表示するときの動作仕様

帳票の表示時	処理			
	データベースからの取得	EUR Form 連携帳票への設定	EUR Form 連携帳票からの取得	データベースへの更新
送信ログからの内容確認	○	○	—	—

(凡例)

○：処理します。

—：処理しません。

内容確認作業でボタンをクリックしたとき

内容確認作業でボタンをクリックしたときは、添付ファイルの処理はしません。

(c) 添付ファイル機能が使用するデータベースの説明

BLC_FILE_T テーブルの NMITEM1 カラム、NMITEM2 カラムおよび NMITEM3 カラムは、添付ファイル用サンプルデータのユーザ追加処理で使用します。ユーザが独自に利用している場合、ユーザ追加処理のカスタマイズが必要になります。

BLC_FILE_T テーブルの NMITEM1 カラム、NMITEM2 カラムおよび NMITEM3 カラムについて次に示します。そのほかのカラム名については、「付録 D.3(7) BLC_FILE_T テーブル」を参照してください。

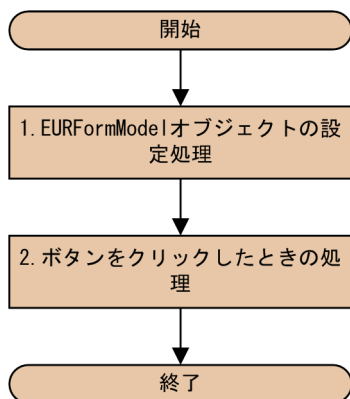
表 H-12 BLC_FILE_T テーブルのカラム名一覧

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	意味	備考
NMITEM1	VARCHAR	128	タイトル	タイトルには添付書類名称を設定します。添付書類名称は 128 バイト以下になるように設定してください。 注 添付書類名称は EUR Form 帳票定義ファイルを作成するときに設定します。
NMITEM2	VARCHAR	128	添付種別	DEMAND：指定添付ファイル FREE：自由添付ファイル null の場合は、指定添付ファイルとして処理します。
NMITEM3	VARCHAR	128	エンコードタイプ	BINARY：未 Base64 タイプ null：Base64 タイプ 上記以外：Base64 タイプ

(d) 処理のフロー

添付ファイル用サンプルデータの EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルの処理フローを次に示します。

図 H-6 EUR Form 帳票送信先 URL の JSP ファイルの処理フロー



図の説明

1. EURFormModel オブジェクトの設定処理

BLC の API を使用して、EURFormModel オブジェクトの設定をします。

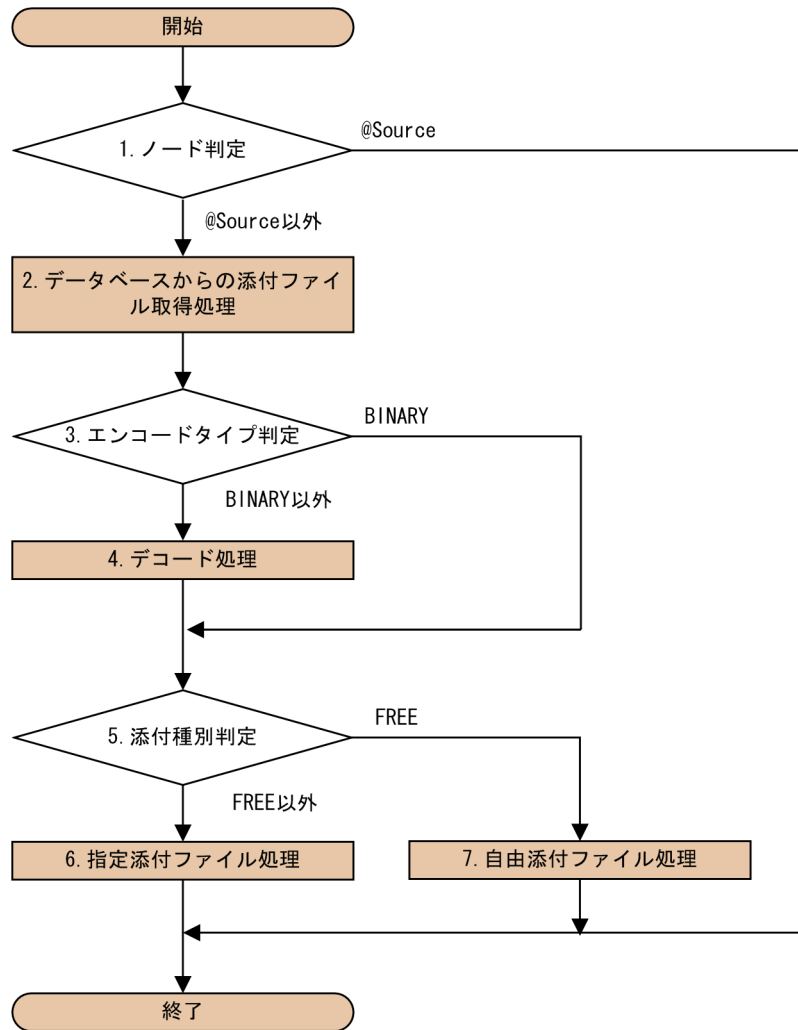
2. ボタンをクリックしたときの処理

[申請] ボタン, [承認] ボタンおよび [閉じる] ボタンは、既存の BLCEURProcessSample.jsp と同様の処理をします。

• 帳票前処理 (ufsv_addEURFormPreparation)

新規申請 (@Source) 以外の場合に添付ファイルを取得します。

図 H-7 帳票前処理フロー



図の説明

1. ノード判定
ノード名が"@Source"の場合は処理を終了します。"@Source"以外の場合は、データベースから添付ファイルを取得する処理をします。
2. データベースからの添付ファイル取得処理
BLC の API を使用して、データベースから添付ファイルの情報と実体を取得します。
3. エンコードタイプ判定
エンコードタイプが"BINARY"以外の場合はデコード処理をします。
4. デコード処理
取得した添付ファイルの実体をデコードします。
エンコードタイプ：Base64
5. 添付種別判定
添付種別が"FREE"の場合、自由添付ファイル処理をします。"FREE"以外の場合、指定添付ファイル処理をします。
6. 指定添付ファイル処理

EUR Form Service の API を使用して、添付ファイルの情報および実体を EUR Form 連携帳票へ設定します。

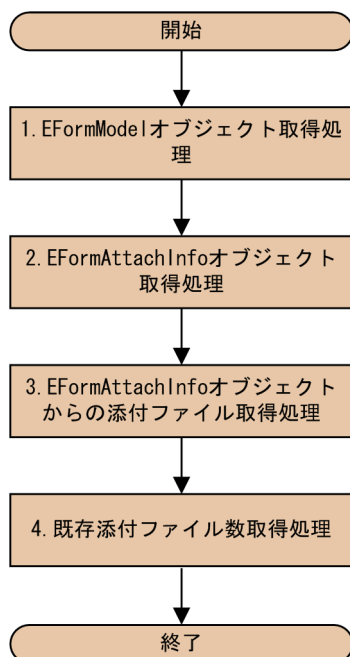
7. 自由添付ファイル処理

EUR Form Service の API を使用して、添付ファイルの情報および実体を EUR Form 連携帳票へ設定します。

- ボタン DB 更新前処理 (ufsv_addEURButtonPreparation)

EUR Form 連携帳票に添付されたファイルの編集をします。

図 H-8 ボタン DB 更新前処理フロー



図の説明

1. EFormModel オブジェクト取得処理

BLC の API を使用して、EFormModel オブジェクトの取得処理をします。

2. EFormAttachInfo オブジェクト取得処理

EUR Form Service の API を使用して、EFormAttachInfo オブジェクトの取得処理をします。

3. EFormAttachInfo オブジェクトからの添付ファイル取得処理

EUR Form Service の API を使用して、EFormAttachInfo オブジェクトから添付ファイルの情報と実体を取得します。

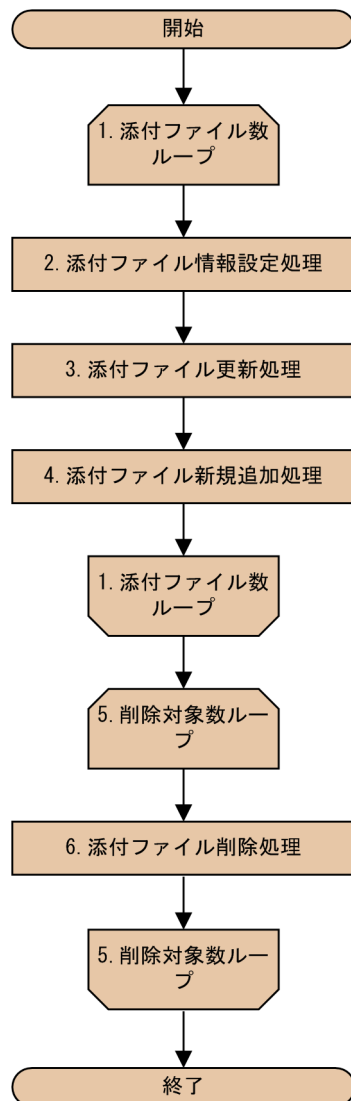
4. 既存添付ファイル数取得処理

BLC の API を使用して、既存添付ファイル数を取得します。

- ボタン DB 更新処理 (ufsv_addEURButtonExecution)

ボタン DB 更新前処理で編集した添付ファイルの情報と実体を、BLC の API を使用して、更新処理をします。

図 H-9 ボタン DB 更新処理フロー



図の説明

1. 添付ファイル数ループ
EUR Form 連携帳票で添付したファイルをすべて処理するまで、2、3および4を繰り返します。
2. 添付ファイル情報設定処理
添付ファイルの情報を設定します。
3. 添付ファイル更新処理
ループ回数が既存添付ファイル数以内の場合、BLCのAPIを使用して、添付ファイルの情報と実体を更新します。
4. 添付ファイル新規追加処理
ループ回数が既存添付ファイル数より多い場合、BLCのAPIを使用して、添付ファイルの情報と実体を登録します。
5. 削除対象数ループ
EUR Form 連携帳票で添付したファイル数が既存添付ファイル数を超えるまで、添付ファイル削除処理をします。

6. 添付ファイル削除処理

BLC の API を使用して、削除対象の添付ファイルの情報と実体を削除します。

(3) EUR Form 連携帳票の添付ファイルを使う上での注意事項

添付できるファイル名は、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」を参照してください。

EUR Form 連携帳票では、帳票データを BASE64 でエンコードして送信します。そのため、HTTP リクエストの送信データサイズは実際の添付ファイルサイズよりも大きくなります。帳票のサイズチェック機能を利用する場合は、BLC プロパティの BLCMaxRequestSize キーの設定値に注意してください。

EUR Form 連携帳票のおおよその送信データサイズは、次の計算式を基に確認してください。

(帳票コントロールに入力する平均データ長
+ (帳票コントロールに付けたメンバ名の平均の長さ×2))×帳票コントロール数
+ 添付ファイルサイズ×1.5

帳票コントロールおよび EUR Form 連携帳票の送信データについては、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form システム設計・管理」を参照してください。

帳票のサイズチェック機能については、「付録 H.3 帳票のサイズチェック機能」を参照してください。

アプリケーションサーバのメモリ不足で、通信エラーのポップアップがクライアント側に表示される場合があります。エラーが発生した場合は、添付ファイル処理とユーザ業務で追加した処理やセッションのメモリ使用量の合計が Cosminexus の最大ヒープサイズを超えていないか、次の計算式を基に確認してください。なお、次の計算式の単位は MB (メガバイト) です。

最大ヒープサイズ > 添付ファイルサイズ×係数^{※1}×多重度+100^{※2}+ユーザ追加業務処理やセッションの消費メモリ

注※1

EUR Form 連携帳票のアップロードおよびダウンロードの場合、係数は 13 です。

注※2

Cosminexus が消費するメモリです。

なお、Cosminexus の最大ヒープサイズの指定方法は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」を参照してください。

付録 H.3 帳票のサイズチェック機能

帳票のサイズチェックを実施するようカスタマイズできます。

これは、添付ファイルのサポートによって帳票のサイズが長大になり、申請中にサーバダウンなどの重大なエラーが発生しないためです。

帳票のサイズは、各 JSP ファイルから BLCRequestData クラスの API をスローしたタイミングでチェックできます。帳票のサイズは、javax.servlet.ServletRequest#getContentLength の値です。添付ファイルの最大ファイルサイズの値より大きくなることに注意してください。

環境設定

帳票のサイズチェックを利用する場合、BLC プロパティファイルに BLCMaxRequestSize キーを指定してください。BLCMaxRequestSize キーに指定されている値と、帳票のサイズが比較されます。

なお、帳票のサイズチェックを実施しない場合は、BLCMaxRequestSize キーを削除してください。

BLCMaxRequestSize キーについては、「付録 E.1(4) プロパティ情報一覧」を参照してください。

usrconf.properties (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の
webservice.connector.limit.max_post_form_data キーで指定する POST リクエストのフォーム
データの最大サイズについて

帳票のサイズが webservice.connector.limit.max_post_form_data キーに指定した値を超えると、
ステータスコード 413 (Request Entity Too Large) エラーが返却されます。

webservice.connector.limit.max_post_form_data キー省略時のデフォルトは 2,097,152 バイト
となります。添付ファイルのある帳票のように 2,097,152 バイト以上のサイズの大きい帳票を扱う
場合は webservice.connector.limit.max_post_form_data キーを必ず指定してください。

また、BLCMaxRequestSize キーに指定する値は

webservice.connector.limit.max_post_form_data キーに指定した値を超えないようにしてくださ
い。

付録I メッセージ

ここでは、電子フォームワークフローが出力するメッセージについて説明します。

付録I.1 メッセージの概要

この項では、電子フォームワークフローが出力するメッセージの概要を説明します。

(1) メッセージの形式

電子フォームワークフローが出力するメッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストから構成されます。メッセージの形式を次に示します。

YYYYnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージの意味を次に示します。

YYYY

メッセージを出力したプログラムを表します。

KDLC : BLC

KDLG : 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能

nnnn

メッセージの番号です。

Z

メッセージの種類を表します。次にその意味を示します。

I : システムの動作を通知します。

E : 障害が発生したので、処理を中断します。

W : 処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

U : ユーザが任意に追加したメッセージ番号を示します (トレースに出力されます)。

メッセージテキスト

メッセージの内容を説明しています。

(2) マニュアルのメッセージの見方

このマニュアルでは、メッセージをメッセージ ID の番号順に並べています。各メッセージは、メッセージテキスト、要因、対応の順に説明してあります。

付録I.2 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のメッセージ

この項では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能使用時に表示されるメッセージについて説明します。

各メッセージの説明で、「要因」に付いている番号と「対処」に付いている番号とは、対応していないものもあります。

KDLG1001-E

初期化に失敗しました。

要因

1. 環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。
2. プロジェクトファイルの読み込みに失敗しました。
3. repository フォルダ内の帳票定義、または帳票モジュール定義情報の取得に失敗しました。

対処

ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1002-E

開発環境設定ファイルの書き込みに失敗しました。

要因

1. ディスクの空き容量が不足しています。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. ディスクの空き容量を確保して、再実行してください。
2. ディスク、またはファイルの書き込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1003-E

プロジェクトファイルの書き込みに失敗しました。

要因

1. ディスクの空き容量が不足しています。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. ディスクの空き容量を確保して、再実行してください。
2. ディスク、またはファイルの書き込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1004-E

プロジェクトファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. 指定したプロジェクトファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1101-E

帳票定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。

2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. 未対応のリポジトリフォーマットです。

対処

1. 指定した帳票定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. 指定したファイルは、新しいバージョンの帳票ジェネレータで作成されたおそれがあります。バージョンを見直してください。

KDLG1102-E

帳票定義ファイルの書き込みに失敗しました。

要因

1. ディスクの空き容量が不足しています。
2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. リポジトリファイルに出力する内容が不正です。

対処

1. ディスクの空き容量を確保して、再実行してください。
2. ディスク、またはファイルの書き込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. ページ表示属性の設定内容を確認してください。

KDLG1103-E

帳票モジュール定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. 未対応のリポジトリフォーマットです。

対処

1. 指定した帳票モジュール定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. 指定したファイルは、新しいバージョンの帳票ジェネレータで作成されたおそれがあります。バージョンを見直してください。

KDLG1104-E

帳票モジュール定義ファイルの書き込みに失敗しました。

要因

1. ディスクの空き容量が不足しています。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. ディスクの空き容量を確保して、再実行してください。

2. ディスク、またはファイルの書き込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1105-E

ビジネスプロセス定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. 指定したビジネスプロセス定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. インストールされている Internet Explorer のバージョンが古い可能性があります。バージョンを見直してください。

KDLG1106-E

帳票モジュール HTML ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. 指定した帳票モジュール HTML ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1107-E

DB アクセス定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. 未対応のリポジトリフォーマットです。

対処

1. 指定した DB アクセス定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. 指定したファイルは、新しいバージョンの帳票ジェネレータで作成されたおそれがあります。バージョンを見直してください。

KDLG1108-E

DB アクセス定義ファイルの書き込みに失敗しました。

要因

1. ディスクの空き容量が不足しています。
2. ファイルのオープンに失敗しました。

対処

1. ディスクの空き容量を確保して、再実行してください。
2. ディスク、またはファイルの書き込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1109-E

送信ユニット情報の一覧表ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. ファイルの解析に失敗しました。

対処

1. 指定した送信ユニット情報の一覧表ファイルがあるかどうか見直してください。
2. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. uCosminexus EUR Developer で出力した送信ユニット情報の一覧表ファイルを指定してください。

KDLG1110-E

EUR Form 帳票定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルがありません。
2. ファイルのオープンに失敗しました。
3. ファイルの解析に失敗しました。

対処

1. 指定した EUR Form 帳票定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. EUR Form 帳票定義情報ファイル（帳票情報、帳票コントロール情報またはページ情報）があるかどうか見直してください。または、ディスク、ファイルの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。
3. uCosminexus EUR Developer で EUR Form 帳票定義情報ファイルを出力したかどうか見直してください。

KDLG1111-E

EUR Form 帳票定義ファイルの生成バージョンが古いです。

要因

EUR Form 帳票定義ファイルの生成バージョンが 05-05 以前です。

対処

EUR Form 帳票定義ファイルを 05-06 以降で生成してください。

KDLG1201-E

帳票 ID が不正です。

要因

1. 帳票 ID が指定されていません。
2. 帳票 ID が 33 文字以上です。
3. 帳票 ID に使用できない文字があります。

対処

1. 帳票 ID を指定してください。
2. 帳票 ID を 32 文字以内で指定してください。
3. 帳票 ID を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1202-E

帳票パッケージ名が不正です。

要因

1. 帳票パッケージ名が指定されていません。
2. 帳票パッケージ名が 33 文字以上です。
3. 帳票パッケージ名に使用できない文字があります。

対処

1. 帳票パッケージ名を指定してください。
2. 帳票パッケージ名を 32 文字以内で指定してください。
3. 帳票パッケージ名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1203-E

ユーザ定義クラス名が不正です。

要因

1. ユーザ定義クラス名が 65 文字以上です。
2. ユーザ定義クラス名に指定できない文字列があります。

対処

1. ユーザ定義クラス名を 64 文字以内で指定してください。
2. ユーザ定義クラス名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1204-E

ユーザ定義スクリプトファイル名が不正です。

要因

1. ユーザ定義スクリプトファイル名が 257 文字以上です。
2. ユーザ定義スクリプトファイル名に指定できない文字列があります。

対処

1. ユーザ定義スクリプトファイル名を 256 文字以内で指定してください。
2. ユーザ定義スクリプトファイル名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1205-E

帳票モジュール ID が不正です。

要因

1. 帳票モジュール ID が指定されていません。
2. 帳票モジュール ID が 33 文字以上です。
3. 帳票モジュール ID に使用できない文字があります。

対処

1. 帳票モジュール ID を指定してください。
2. 帳票モジュール ID を 32 文字以内で指定してください。
3. 帳票モジュール ID を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1206-E

帳票内に同じ ID の帳票モジュール ID が存在します。

要因

帳票内に同じ ID の帳票モジュール ID があります。

対処

別の帳票モジュール ID を指定してください。

KDLG1207-E

帳票モジュールプレフィックスが不正です。

要因

1. 帳票モジュールプレフィックスが 33 文字以上です。
2. 帳票モジュールプレフィックスに使用できない文字があります。

対処

1. 帳票モジュールプレフィックスを 32 文字以内で指定してください。
2. 帳票プレフィックスを半角英数字で指定してください。

KDLG1208-E

項目グループ名が不正です。

要因

1. 項目グループ定義名が指定されていません。
2. 項目グループ定義名が 33 文字以上です。
3. 項目グループ定義名に使用できない文字があります。

対処

1. 項目グループ定義名を指定してください。
2. 項目グループ定義名を 32 文字以内で指定してください。
3. 項目グループ定義名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1209-E

帳票内に同じ項目グループ名が存在します。

要因

帳票内に同じ項目グループ名があります。

対処

別の項目グループ名を指定してください。

KDLG1210-E

DB アクセス定義名が不正です。

要因

- 1.DB アクセス定義名が指定されていません。
- 2.DB アクセス定義名が 67 文字以上です。
- 3.DB アクセス定義名に使用できない文字があります。

対処

- 1.DB アクセス定義名を指定してください。
- 2.DB アクセス定義名を 66 文字以内で指定してください。
- 3.DB アクセス定義名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1211-E

帳票内に同じ DB アクセス定義名が存在します。

要因

帳票内に同じ DB アクセス定義名があります。

対処

別の DB アクセス定義名を指定してください。

KDLG1212-E

プロジェクト名が不正です。

要因

- 1.プロジェクト名が指定されていません。
- 2.プロジェクト名が 33 文字以上です。
- 3.プロジェクト名に使用できない文字があります。

対処

- 1.プロジェクト名を指定してください。
- 2.プロジェクト名を 32 文字以内で指定してください。
- 3.プロジェクト名を半角英数字、および"_"を使って指定してください。

KDLG1213-E

データフォルダパスが不正です。

要因

1. 相対パスが指定されました。
2. データフォルダが不正です。

対処

1. フルパスで指定してください。
2. 指定したパスに、フォルダ名として使用できない文字がないかどうか見直してください。

KDLG1214-E

出力フォルダパスが不正です。

要因

1. 相対パスが指定されました。
2. データフォルダが不正です。

対処

1. フルパスで指定してください。
2. 指定したパスに、フォルダ名として使用できない文字がないかどうか見直してください。

KDLG1215-E

不正なフォルダが選択されました。

要因

マイコンピュータなどの仮想フォルダが選択されました。

対処

仮想フォルダでないフォルダを指定してください。

KDLG1216-E

変数名が不正です。

要因

複数指定できない変数名が指定されました。

対処

指定された変数名は複数指定できません。変更したい場合、変数を選択し、再編集してください。

KDLG1217-E

バージョンが不正です。

要因

1～999の整数以外が指定されました。

対処

1～999の整数を指定してください。

KDLG1218-E

帳票モジュール ID、または帳票モジュール項目が変更されています。

要因

帳票モジュール ID または帳票モジュール項目が変更されています。

対処

[OK] ボタンまたは [適用] ボタンをクリックしてください。

KDLG1219-E

定義できる帳票コントロール数や作業数の上限を超えています。

要因

EUR Form 帳票の帳票コントロール数、またはビジネスプロセス定義の作業数が上限を超えています。

対処

EUR Form 帳票の帳票コントロール数、またはビジネスプロセス定義の作業数を見直してください。

KDLG1301-E

振り分けルール定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ファイルパスが長過ぎます。
2. ファイルが存在しません。
3. ファイルのオープンに失敗しました。
4. ルール名が一致しません。
5. ファイルの解析に失敗しました。

対処

1. 振り分けルール定義ファイルのパス長が 200 バイトを超えていないことを確認してください。
2. 振り分けルール定義ファイルが存在することを確認してください。
3. ディスク、またはファイルの読み込み保護が有効になっていないか確認してください。
4. 振り分けルール定義ファイルの振り分けルール名を確認してください。
5. 振り分けルール定義ファイルの振り分けルール名を確認してください。

KDLG1302-E

条件、時間取得ルール、生成ルール、振り分けルールは混在して選択できません。

要因

条件定義画面で条件（発生条件、完了条件、分岐条件）、時間取得ルール、生成ルール、および振り分けルールを混在して選択した状態で、[条件変更] ボタンをクリックしました。

対処

選択内容を確認してください。

KDLG1303-E

ビジネスプロセス定義データが不正です。

要因

選択された条件が、ビジネスプロセス定義から取得したデータ内に見つかりません。

対処

リポジトリの定義内容を変更していないことを確認してください。

KDLG1304-E

指定値が不正です。

要因

1. [SQL 定義] ダイアログのテーブル名またはカラム名が空欄になっています。
2. [SQL 定義] ダイアログの演算子または比較値が空欄になっています。
3. [SQL 定義] ダイアログの入力データの文字列長が 64 バイトを超えています。
4. [SQL 定義] ダイアログの SQL 文が空欄になっています。
5. [SQL 定義] ダイアログの SQL 文が 2,000 バイトを超えています。

対処

1. テーブル名およびカラム名を指定してください。
2. 演算子および比較値を指定してください。
3. 入力データの文字列長を確認してください。
4. SQL 文を指定してください。
5. SQL 文に指定した文字列長を確認してください。

KDLG1305-E

ビジネスプロセス定義ファイルの出力に失敗しました。

要因

1. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルが見つかりません。
2. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルの内容を解析できません。
3. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルを更新できません。

対処

1. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルが存在していることを確認してください。
2. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルの内容を確認してください。
3. [帳票定義] 画面で参照したビジネスプロセス定義ファイルが CSCIW-Definer で開いたままとなっていないこと、およびファイルの権限を確認してください。

KDLG1306-E

振り分けルール定義ファイルの出力に失敗しました。

要因

1. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルが見つかりません。
2. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルの内容を解析できません。
3. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルを更新できません。

対処

1. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルが存在していることを確認してください。
2. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルの内容を確認してください。
3. [条件定義] ダイアログで参照した振り分けルール定義ファイルが CSCIW-Definer で開いたままとになっていないこと、およびファイルの権限を確認してください。

KDLG1801-W

データフォルダ、または出力フォルダへのアクセスに失敗しました。

要因

データフォルダ、または出力フォルダへのアクセスに失敗しました。

対処

データフォルダ、または出力フォルダの読み込み保護が有効になっていないかどうか見直してください。

KDLG1802-W

ビジネスプロセス定義ファイルは使用中、または読み取り専用です。

要因

ビジネスプロセス定義ファイルの書き込み権限が取得できません。

対処

指定したビジネスプロセス定義ファイルが別プロセスで使用中または読み取り専用になっていないか確認してください。

KDLG1803-W

振り分けルール定義ファイルは使用中、または読み取り専用です。

要因

振り分けルール定義ファイルの書き込み権限が取得できません。

対処

指定した振り分けルール定義ファイルが別プロセスで使用中または読み取り専用になっていないか確認してください。

KDLG1804-W

振り分けルール定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. 振り分けルール定義ファイルがありません。
2. 振り分けルール定義ファイルのオープンに失敗しました。
3. 振り分けルール定義ファイルの書き込み権限が取得できません。
4. 振り分けルール定義ファイルの文字コードが不正です。

対処

1. 指定した振り分けルール定義ファイルがあるかどうか確認してください。

2. 指定した振り分けルール定義ファイルの内容を確認してください。
3. 指定した振り分けルール定義ファイルが別プロセスで使用または読み取り専用になっていないか確認してください。
4. 指定した振り分けルール定義ファイルの文字コードに Shift_JIS が指定されていることを確認してください。

KDLG1805-W

開くことが可能なファイル数を超過しました。

要因

開かれているファイル数が上限を超えています。

対処

帳票定義で参照したビジネスプロセス定義ファイルが使用している振り分けルール定義数を 120 までとしてください。

KDLG1806-W

ビジネスプロセス定義ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

1. ビジネスプロセス定義ファイルがありません。
2. ビジネスプロセス定義ファイルのオープンに失敗しました。
3. ビジネスプロセス定義ファイルの書き込み権限が取得できません。
4. ビジネスプロセス定義ファイルの文字コードが不正です。

対処

1. 指定したビジネスプロセス定義ファイルがあるかどうか確認してください。
2. 指定したビジネスプロセス定義ファイルの内容を確認してください。
3. 指定したビジネスプロセス定義ファイルが別プロセスで使用または読み取り専用になっていないか確認してください。
4. 指定したビジネスプロセス定義ファイルの文字コードに Shift_JIS が指定されていることを確認してください。

KDLG1901-E

プロセスの生成に失敗しました。

要因

1. 実行ファイルがありません。
2. プロセスの生成でエラーが発生しました。

対処

1. インストール環境を見直してください。
2. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG1902-E

予期せぬエラーが発生しました。

対処

システム管理者に連絡してください。

付録 I.3 帳票ファイル (JSP 形式) 生成時のエラーメッセージ

この項では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票ファイル (JSP 形式) を生成するときに表示されるエラーメッセージについて説明します。

KDLG3001-E

帳票モジュールが1つ以上必要です。〈帳票 ID〉

要因

帳票定義に帳票モジュール定義が一つもありません。

対処

帳票モジュールは一つ以上必要です。定義を見直してください。

KDLG3002-E

ログファイルの表示に失敗しました。

要因

BLSG ログファイルの実行に失敗しました。

対処

作業フォルダ (データフォルダの tmp フォルダ) 下のログファイルをテキストエディタで開いてください。

KDLG3003-E

コマンドの実行に失敗しました。(エラーコード=〈内部作成結果番号〉)

要因

生成オプション FIXCMDPATH の指定プログラムの実行に失敗しました。

対処

1. 環境変数のパスが正しく設定されているかどうか見直してください。
2. 生成オプションを見直してください。
3. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3004-E

環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

帳票生成コマンド (BLSGJ) コマンド引数に指定されたファイルにアクセスできません。

対処

ユーザのファイルアクセス権を見直してください。

KDLG3005-E

生成する帳票 ID の指定が必須です。

要因

環境設定ファイルに生成する帳票 ID の指定パラメタがありません。

対処

- 1.OS を再起動して、再実行してください。
- 2.BLSG の再インストールしてください。

KDLG3006-E

環境変数の設定に失敗しました。(エラーコード=<Windows エラーコード>)

要因

Win32API SetEnvironmentVariable でエラーが発生しました。

対処

OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3007-E

ファイルサイズが 0 です。

要因

次のファイルアクセスで 0 バイトファイルを開きました。

- リポジトリファイル
- 環境設定ファイル
- スtringリソースファイル

対処

- 1.OS を再起動して、再実行してください。
- 2.BLSG の再インストールしてください。

KDLG3009-E

実行環境が不正です。フォルダが見つかりません。(folder=<フォルダ名>)

要因

- 1.データフォルダが見つかりません。
- 2.作業フォルダが見つかりません。

対処

OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3010-E

実行環境の作成に失敗しました。(folder=<フォルダ名>)

要因

- 1.作業フォルダが作成できません。
- 2.出力フォルダの階層が作成できません。

対処

- 1.ユーザのファイルアクセス権を見直してください。

2. ディスクの空き容量を見直してください。
3. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3011-E

ファイルの書き込みができません。ファイルシステムを確認してください。

要因

ログファイルが作成できません。

対処

1. ユーザのファイルアクセス権を見直してください。
2. ディスクの空き容量を見直してください。
3. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3012-E

ファイルアクセスができません。(＜アクセス処理番号＞, ＜Windows エラーコード＞, ＜ファイル名＞)

要因

1. 作業ファイル入出力ができません。
2. リポジトリファイル入力ができません。

対処

1. ユーザのファイルアクセス権を見直してください。
2. ディスクの空き容量を見直してください。
3. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3014-E

fixcmd error (＜コマンド出力テキスト＞)

要因

指定コマンドがエラー終了しました。

対処

ログファイルのコマンド出力テキストを参照して、生成オプション、定義情報、および環境変数を見直してください。

KDLG3015-E

自動生成帳票ファイルのコピーに失敗しました。(＜エラーオブジェクト説明メッセージ＞)

要因

生成ファイル (jsp, dat, java) のコピーができません。

対処

1. ユーザのファイルアクセス権を見直してください。
2. OS を再起動して、再実行してください。

KDLG3018-E

HTML フォーマットエラー。<エラー詳細情報>

要因

HTML データの内容にエラーがあります。

対処

エラー詳細情報を参照し、HTML を見直して再操作をしてください。

KDLG3019-E

帳票生成に失敗しました。<エラーオブジェクト説明メッセージ>, <checkDBInfo>, <エラーコード>

要因

DB アクセス定義の内容にエラーがあります。

対処

DB アクセス定義の定義内容を見直してください。

KDLG3020-E

HTML 情報がありません。<帳票モジュール ID>

要因

- 1.HTML データサイズが 0 です。
- 2.HTML ファイルを読み込んでいません。

対処

HTML ファイルを読み込んでください。

KDLG3101-E

未対応のリポジトリフォーマットです。帳票 ID=<帳票 ID>, <フォーマット番号>

要因

帳票生成コマンド (BLSGJ) に、未対応のバージョンの BLSG リポジトリデータが指定されました。

対処

BLSG の再インストールしてください。

KDLG3103-E

帳票定義時のバージョンには 1 以上の整数を指定してください。<帳票 ID>, <帳票バージョン>

要因

帳票定義のプロパティタブのバージョンに使用できない文字があります。

対処

1 以上の整数を指定してください。

KDLG3104-E

帳票名称の指定は必須です。<帳票 ID>

要因

文字が入力されていません。

対処

帳票名を入力してください。

KDLG3105-E

帳票パッケージ名の指定は必須です。〈帳票 ID〉

要因

文字が入力されていません。

対処

帳票パッケージ名を入力してください。

KDLG3106-E

ビジネスプロセス名が見つかりません。ビジネスプロセス定義ファイルを再入力してください。〈帳票 ID〉

要因

ビジネスプロセス名が決まっています。

対処

ビジネスプロセス定義を読み込んでください。

KDLG3107-E

帳票モジュール定義ファイルの帳票モジュール ID が不正です。〈帳票 ID〉, 〈帳票定義の帳票モジュール ID〉, 〈帳票モジュール定義の帳票モジュール ID〉

要因

リポジトリファイル名と内容が矛盾しています。

対処

BLSG で定義情報を保存して、再実行してください。

KDLG3108-E

同じ帳票モジュール ID を2つ以上含めることはできません。〈帳票 ID〉, 〈帳票モジュール ID〉

要因

帳票モジュール ID が重複しています。

対処

BLSG で定義情報を見直して、再実行してください。

KDLG3109-E

帳票モジュールプレフィックスの先頭文字が m ではありません。〈帳票モジュール ID〉, 〈帳票モジュールプレフィックス〉

要因

不正な形式に生成されたリポジトリデータが指定されました。

対処

BLSG で定義情報を見直して、再実行してください。

KDLG3110-E

リポジトリフォーマットが不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈データ〉

要因

不正な形式に生成されたりポジトリデータが指定されました。

対処

BLSG で定義情報を見直して、再実行してください。

KDLG3111-E

name 属性が定義されていない項目です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈項目種別〉

要因

帳票モジュールリポジトリデータが改変されて、項目リストが HTML データの内容と一致していません。

対処

HTML ファイルを取り込んでください。

KDLG3112-E

定義項目の項目種別と HTML ファイル中の項目種別が一致していません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈定義の項目種別〉, 〈HTML ファイル中の項目種別〉

要因

帳票モジュールリポジトリデータが改変されて、項目リストが HTML データの内容と一致していません。

対処

HTML ファイルを取り込んでください。

KDLG3113-E

項目プロパティで入力チェック要の指定がある場合は、チェックタブの入力規則または条件付きチェックを指定する必要があります。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈項目種別〉

要因

入力チェック要のチェック内容が指定されていません。

対処

1. チェックタブでチェック内容を指定してください。
2. 入力チェック要を解除してください。

KDLG3114-E

HTML ファイル中の項目に対応する定義項目がありません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈項目種別〉

要因

帳票モジュールリポジトリデータが変更されて、項目リストが HTML データの内容と一致していません。

対処

HTML ファイルを取り込んでください。

KDLG3116-E

値範囲比較条件 1 を指定した項目において、値範囲比較値 1 の指定は必須です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

値範囲比較条件 1 を指定していますが、値範囲比較値 1 が指定されていません。

対処

1. 値範囲比較値 1 を指定してください。
2. 値範囲比較条件 1 に"なし"を指定してください。

KDLG3117-E

値範囲比較条件 2 を指定した項目において、値範囲比較値 2 の指定は必須です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

値範囲比較条件 2 を指定していますが、値範囲比較値 2 が指定されていません。

対処

1. 値範囲比較値 2 を指定してください。
2. 値範囲比較条件 2 に"なし"を指定してください。

KDLG3118-E

値範囲比較値 1 を指定した項目において、値範囲比較条件 1 の指定は必須です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

値範囲比較値 1 を指定していますが、値範囲比較条件 1 が指定されていません。

対処

1. 値範囲比較条件 1 を指定してください。
2. 値範囲比較値 1 に"なし"を指定してください。

KDLG3119-E

値範囲比較値 2 を指定した項目において、値範囲比較条件 2 の指定は必須です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

値範囲比較値 2 を指定していますが、値範囲比較条件 2 が指定されていません。

対処

1. 値範囲比較条件 2 を指定してください。

2. 値範囲比較値 2 に"なし"を指定してください。

KDLG3124-E

ターゲット帳票 ID の指定がありません。〈帳票 ID〉

要因

カスタム申請タブで、ターゲット帳票 ID が指定されていません。

対処

カスタム申請のソース帳票を定義する場合、カスタム申請タブでターゲット帳票 ID を指定してください。

KDLG3125-E

ターゲット帳票に 1 つ以上の帳票モジュールが必要です。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉

要因

カスタム申請タブで選択したターゲット帳票に、帳票モジュールの定義がありません。

対処

先にターゲット帳票で帳票モジュール定義をして、ターゲット帳票の帳票定義を完了してください。

KDLG3126-E

カスタム申請タブ-帳票モジュール表示条件一覧の判定用項目変数名の指定がありません。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉, 〈対象帳票の帳票モジュール ID〉

要因

カスタム申請タブの帳票モジュール表示条件一覧に必要な判定用項目変数名の定義がありません。

対処

カスタム申請タブの判定用項目変数名に指定した内容を見直してください。

KDLG3127-E

カスタム申請タブの項目変数名の項目種別がラジオボタンの場合は、「比較値」にラジオボタングループ内の順序の番号 (0, 1, 2, …) を指定してください。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉, 〈対象帳票の帳票モジュール ID〉, 〈比較値〉

要因

カスタム申請タブの項目変数名がラジオボタンですが、比較値に数値以外が指定されました。

対処

カスタム申請タブの比較値に指定した内容を見直してください。

KDLG3128-E

カスタム申請タブの項目変数名の項目種別がチェックボックスの場合は、「比較値」に選択状態 (on または off) を指定してください。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉, 〈対象帳票の帳票モジュール ID〉, 〈比較値〉

要因

カスタム申請タブの項目変数名がチェックボックスですが、比較値に on, off 以外が指定されました。

対処

カスタム申請タブの比較値に指定した内容を見直してください。

KDLG3129-E

カスタム申請タブで継承項目を定義する場合はソース項目を省略できません。〈帳票 ID〉

要因

カスタム申請タブの継承項目一覧に空のソース項目があります。

対処

カスタム申請タブのソース項目に指定した内容を見直してください。

KDLG3130-E

カスタム申請タブで継承項目を定義する場合はターゲット項目を省略できません。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉

要因

カスタム申請タブの継承項目一覧に空のターゲット項目があります。

対処

カスタム申請タブのターゲット項目に指定した内容を見直してください。

KDLG3131-E

条件付きチェックで指定した対象項目変数名がありません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈対象項目変数名〉

要因

指定された条件付チェックの対象項目変数名が項目一覧にありません。

対処

項目変数名を再選択してください。

KDLG3133-E

条件付きチェックの定義で比較条件の指定がありません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈対象項目種別〉

要因

次の項目種別の項目で指定している条件付きチェックの定義で、比較条件に"なし"を指定しています。
text, password, textarea, select, hidden

対処

条件付きチェックの比較条件を指定してください。

KDLG3134-E

条件付きチェックの定義で比較対象項目の項目種別が SELECT の場合は、比較条件には"=="か"!="を指定してください。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈対象項目種別〉

要因

項目種別が select の項目で指定している条件付きチェックの定義で、比較条件に指定できない候補を選択しています。

対処

条件付きチェックの比較条件に"=="か"!="を指定してください。

KDLG3135-E

条件付きチェックの定義で対象項目 index の指定がありません。<帳票モジュール ID>, <項目変数名>, <対象項目種別>

要因

次の項目種別の項目で指定している条件付きチェックの定義で、対象項目 index に指定がありません。
select, radio

対処

条件付きチェックの対象項目 index に 0 以上の整数を指定してください。

KDLG3137-E

未対応のリポジトリフォーマットです。帳票モジュール ID=<帳票モジュール ID>, <フォーマット番号>

要因

帳票生成コマンド (BLSGJ) に、未対応のバージョンの BLSG リポジトリデータが指定されました。

対処

BLSG を再インストールしてください。

KDLG3138-E

DB 入力をする DB アクセス定義の DB 操作種別が不正です。<DB アクセス定義名>, <DB 操作種別>

要因

DB 入力する DB アクセス定義に、指定できない組み合わせの DB 操作種別が指定されました。

対処

DB 操作種別を見直してください。

KDLG3139-E

DB 出力をする DB アクセス定義の DB 操作種別が不正です。<DB アクセス定義名>, <DB 操作種別>

要因

DB 出力する DB アクセス定義に、指定できない組み合わせの DB 操作種別が指定されました。

対処

DB 操作種別を見直してください。

KDLG3140-E

DB アクセス定義情報の DB 入出力情報が不正です。<DB アクセス定義名>, <DB 入出力情報>

要因

不正な形式に生成されたりポジトリデータが指定されました。

対処

BLSG で定義情報を見直して、再実行してください。

KDLG3141-E

データベース接続情報に「_USERINFO」または「_AUTHINFO」を指定した場合、DB 入出力属性に「出力」を指定することはできません。<DB アクセス定義名>

要因

- 1.DB 接続情報に「_USERINFO」とDB 入出力属性に「出力」を同時に指定しました。
- 2.DB 接続情報に「_AUTHINFO」とDB 入出力属性に「出力」を同時に指定しました。

対処

DB 入出力属性を見直してください。

KDLG3142-E

データベース接続情報に「_USERINFO」または「_AUTHINFO」を指定した場合、DB 操作種別に「単項目」以外を指定することはできません。<DB アクセス定義名>

要因

- 1.DB 接続情報に「_USERINFO」とDB 操作種別に「単項目」以外を同時に指定しました。
- 2.DB 接続情報に「_AUTHINFO」とDB 操作種別に「単項目」以外を同時に指定しました。

対処

DB 操作種別に"単項目"を指定してください。

KDLG3143-E

レコード削除用の DB アクセス定義において、SQL 用検索条件は必須です。<DB アクセス定義名>

要因

DB 操作種別が"レコード削除用"ですが、SQL 用検索条件が指定されていません。

対処

SQL 用検索条件を指定してください。

KDLG3144-E

候補値取得用定義において、項目変数名が指定されていません。<DB アクセス定義名>

要因

DB 操作種別が"候補値取得用"ですが、"候補値取得用の項目変数名"が指定されていません。

対処

項目変数名を選択して、指定してください。

KDLG3145-E

DB アクセス定義の項目定義の項目変数名に指定できない予約語が指定されました。<DB アクセス定義名>、<予約語>

要因

DB 操作種別が"候補値取得用"ですが、指定された項目変数名が"_OptValue"、および"_OptText"以外です。

対処

DB 操作種別が"候補値取得用"の時は、カラム定義の項目変数名に予約語"_OptValue"、または"_OptText"のどちらかを指定してください。

KDLG3146-E

ターゲット帳票のリポジトリファイルが見つかりません。〈帳票 ID〉, 〈対象帳票 ID〉

要因

リポジトリデータファイルがリポジトリフォルダにありません。

対処

1. 先にターゲット帳票の定義を完了して、保存してください。
2. リポジトリファイルがあるかどうか見直してください。

KDLG3147-E

SQL 用検索条件項目で変数指定の終結文字"#>"が見つかりません。〈DB アクセス定義名〉

要因

SQL 用検索条件項目で変数指定開始文字"<#="に対応した終結文字がありません。

対処

SQL 用検索条件項目の指定を見直してください。

KDLG3148-E

SQL 用条件オプションで変数指定の終結文字"#>"が見つかりません。〈DB アクセス定義名〉

要因

SQL 用条件オプションで変数指定開始文字"<#="に対応した終結文字がありません。

対処

SQL 用条件オプションの指定を見直してください。

KDLG3149-E

条件付きチェックの定義で比較対象項目の項目種別が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈正しい対象項目種別〉

要因

HTML に定義された項目一覧の項目種別とは異なる項目種別になっています。

対処

項目変数名を選択して、設定し直してください。

KDLG3150-E

レコード数項目変数名または候補値取得用の項目変数名に指定した項目変数名形式が不正です。〈DB アクセス定義名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3151-E

SQL 用検索条件項目に指定した項目変数名形式が不正です。〈DB アクセス定義名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3152-E

SQL 用条件オプションに指定した項目変数名形式が不正です。〈DB アクセス定義名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3153-E

DB アクセス定義のカラム項目定義に指定した項目変数名形式が不正です。〈DB アクセス定義名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3154-E

項目グループ名に指定した変数名形式が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈帳票 ID〉, 〈項目グループ名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3155-E

項目グループに指定した項目リストの項目変数名形式が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目グループ名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3156-E

HTML 中の明細領域指定 gw-totalitem に指定した項目変数名形式が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈明細 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3157-E

HTML 中の明細領域中の項目変数名形式が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈明細 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3158-E

カスタム申請定義のソース項目の項目変数名形式が不正です。〈帳票 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3159-E

カスタム申請定義のターゲット項目の項目変数名形式が不正です。〈帳票 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3160-E

カスタム申請定義の判定用項目変数名形式が不正です。〈帳票 ID〉, 〈判定用項目変数名〉

要因

項目変数名の指定形式としてピリオド"."に続いて指定された帳票モジュール ID が不正です。

対処

項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3161-E

指定できない文字が含まれています。〈帳票 ID〉または〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉^{*1}, 〈情報名〉, 〈文字種別〉, 〈指定された文字列〉

注※1 〈項目変数名〉は、項目プロパティの入力文字エラーのときだけ表示されます。

要因

指定された情報名の項目に指定できない文字の種類が指定されました。

対処

「付録 G 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則」を参照して、正しい文字の種類を指定してください。

KDLG3162-E

指定された文字が長すぎます。〈帳票 ID〉または〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉※1〈情報名〉, 〈指定された文字の長さ〉, 〈指定された文字列〉

注※1 〈項目変数名〉は、項目プロパティの入力文字エラーのときだけ表示されます。

要因

指定された情報名の項目に指定できない長さの文字が指定されています。

対処

「付録 G 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則」を参照して、正しい長さの文字を指定してください。

KDLG3163-E

有効なカラム定義がありません。〈DB アクセス定義名〉

要因

1. カラム定義に項目がありません。
2. カラム定義の全項目のチェックボックスが off です。

対処

1. DB アクセス定義を無効にしてください。
2. 一つ以上の有効なカラム定義をしてください。

KDLG3164-E

キーカラム制御用予約語を複数指定することはできません。〈DB アクセス定義名〉

要因

カラム定義にキーカラム制御用予約語 (_Count, _NewIndex, _UpdateKey) を指定した有効な定義が複数あります。

対処

有効なキーカラム制御用予約語は同時に一つだけ指定してください。

KDLG3165-E

キーカラム制御用予約語はリスト項目 DB 出力時のみ指定できます。〈DB アクセス定義名〉

要因

リスト項目 DB 出力以外の DB アクセス定義でキーカラム制御用予約語 (_Count, _NewIndex, _UpdateKey) が指定されました。

対処

リスト項目の DB 出力以外を行う場合、キーカラム制御用予約語を指定しないでください。

KDLG3166-E

キーカラム制御用予約語で"_UpdateKey"を指定した時は、項目変数名のカラム項目定義が必要です。〈DB アクセス定義名〉

要因

カラム定義の項目変数名に"_UpdateKey"を指定していますが、同一のカラム名を持った別のカラム定義項目がありません。

対処

同一のカラム名を持った別のカラム定義項目を追加し、項目変数名を選択して指定してください。

KDLG3167-E

リスト項目の DB 出力で SQL 検索条件の指定をした時は、キーカラム制御用予約語の指定が必須です。〈DB アクセス定義名〉

要因

リスト項目の DB 出力で SQL 検索条件を指定していますが、キーカラム制御用予約語の指定がありません。

対処

キーカラム制御用予約語を指定してください。

KDLG3168-E

先頭文字が半角英字ではありません。〈情報名〉, 〈文字種別〉, 〈指定された文字列〉

要因

指定した情報名の項目の先頭が指定できない文字です。

対処

先頭に指定した文字を見直して、正しく指定してください。

KDLG3169-E

ファイル名部分の先頭文字が半角英字ではありません。〈情報名〉, 〈文字種別〉, 〈指定された文字列〉

要因

指定した情報名の項目の先頭が指定できない文字です。

対処

ファイル名の先頭に指定した文字を見直して、正しく指定してください。

KDLG3170-E

同じ帳票モジュールプレフィックスを2つ以上含めることはできません。〈帳票 ID〉, 〈帳票モジュールプレフィックス〉

要因

帳票モジュールプレフィックスが重複しています。

対処

BLSG で定義情報を見直して、再実行してください。

KDLG3171-E

条件付きチェックの定義で対象項目変数の種別が不正です。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈対象項目種別〉

要因

対象項目変数の種別が img, または button の項目を指定しています。

対処

条件付きチェックの対象項目変数に次の項目種別の項目のどれかを指定してください。

text, password, textarea, select, checkbox, radio, hidden

KDLG3172-E

カスタム申請定義の判定用項目変数の項目種別が不正です。<帳票 ID>, <ターゲット帳票の帳票 ID>, <ターゲット帳票の帳票モジュール ID>, <判定用項目変数名>, <判定用項目変数の項目種別>

要因

指定した項目の項目種別に img, または button を指定しています。

対処

BLSG で定義情報を見直して, 再実行してください。

KDLG3173-E

カスタム申請定義のソース項目の項目種別が不正です。<帳票 ID>, <ソース項目の項目変数名>, <ソース項目の項目種別>

要因

img または button の項目種別の項目を指定しています。

対処

BLSG で定義情報を見直して, 再実行してください。

KDLG3174-E

カスタム申請定義のターゲット項目の項目種別が不正です。<帳票 ID>, <ターゲット項目の項目変数名>, <ターゲット項目の項目種別>

要因

img または button の項目種別の項目を指定しています。

対処

BLSG で定義情報を見直して, 再実行してください。

KDLG3176-E

カスタム申請タブ-帳票モジュール表示条件一覧の判定用項目変数名に定数は指定できません。<帳票 ID>, <項目変数名>

要因

カスタム申請タブにある帳票モジュール表示条件一覧の判定用項目変数名に, 定数を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある帳票モジュール表示条件一覧で, 判定用項目変数名の設定を見直してください。

KDLG3177-E

カスタム申請タブ-継承項目一覧のソース項目に定数は指定できません。<帳票 ID>, <項目変数名>

要因

カスタム申請タブにある継承項目一覧のソース項目に、定数を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある継承項目一覧で、ソース項目の設定を見直してください。

KDLG3178-E

カスタム申請タブ-継承項目一覧のターゲット項目に定数は指定できません。〈帳票 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

カスタム申請タブにある継承項目一覧のターゲット項目に、定数を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある継承項目一覧で、ターゲット項目の設定を見直してください。

KDLG3179-E

条件付きチェックの対象項目変数名に定数は指定できません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉, 〈対象項目変数名〉

要因

条件付きチェックの対象項目変数名に、定数を指定しています。

対処

条件付きチェックで、対象項目変数名の設定を見直してください。

KDLG3180-E

項目グループに指定した項目リストに定数は指定できません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目グループ名〉, 〈項目変数名〉

要因

項目グループに指定した項目リストに、定数を指定しています。

対処

項目グループに指定した項目リストの設定を見直してください。

KDLG3181-E

カスタム申請タブ-継承項目一覧のソース項目で指定した項目変数名が存在しません。〈帳票 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

カスタム申請タブにある継承項目一覧のソース項目に、存在しない項目変数名を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある継承項目一覧で、ソース項目の設定を見直してください。

KDLG3182-E

カスタム申請タブ-継承項目一覧のターゲット項目で指定した項目変数名が存在しません。〈帳票 ID〉, 〈項目変数名〉

要因

カスタム申請タブにある継承項目一覧のターゲット項目に、存在しない項目変数名を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある継承項目一覧で、ターゲット項目の設定を見直してください。

KDLG3183-E

カスタム申請タブ-帳票モジュール表示条件一覧の判定用項目変数名で指定した項目変数名が存在しません。<帳票 ID>, <項目変数名>

要因

カスタム申請タブにある帳票モジュール表示条件一覧の判定用項目変数名に、存在しない項目変数名を指定しています。

対処

カスタム申請タブにある帳票モジュール表示条件一覧で、判定用項目変数名の設定を見直してください。

KDLG3184-E

動作タブ-JavaScript 関数の引数が設定されていません。<帳票モジュール ID>, <項目変数名>, <引数>

要因

動作タブにある JavaScript 関数の引数が設定されていません。

対処

動作タブで、JavaScript 関数の引数の設定を見直してください。

KDLG3185-E

DB アクセス定義-レコード数項目変数名に定数の値が指定されていません。<帳票 ID または帳票モジュール ID>, <DB アクセス定義名>, <レコード数項目変数名>

要因

DB アクセス定義のレコード数項目変数名に、定数の値が指定されていません。

対処

DB アクセス定義のレコード数項目変数名に定数を指定する場合、整数の定数を指定してください。

KDLG3186-E

候補値取得用の項目変数名に定数は指定できません。<帳票 ID または帳票モジュール ID>, <DB アクセス定義名>, <候補値取得用の項目変数名>

要因

候補値取得用の項目変数名に定数を指定しています。

対処

候補値取得用の項目変数名の設定を見直してください。

KDLG3187-E

同じ DB アクセス定義名が存在します。<DB アクセス定義名>

要因

同じ DB アクセス定義名が存在します。

対処

DB アクセス定義名の設定を見直してください。

KDLG3188-E

不正なリポジトリフォーマットです。〈帳票 ID〉, 〈フォーマット番号〉

要因

帳票生成コマンド (BLSGJ) に不正なバージョンの BLSG リポジトリデータが指定されました。

対処

帳票の定義を確認し、再度帳票の保存を実行してください。

KDLG3189-E

不正な帳票タイプです。〈帳票 ID〉, 〈帳票タイプ〉

要因

帳票生成コマンド (BLSGJ) に不正な帳票タイプの BLSG リポジトリデータが指定されました。

対処

帳票の定義を確認し、再度帳票の保存を実行してください。

KDLG3190-E

EUR Form 帳票ファイル名が見つかりません。EUR Form 帳票ファイルを再入力してください。〈帳票 ID〉

要因

EUR Form 帳票ファイル名が決まっています。

対処

EUR Form 帳票ファイルを読み込んでください。

KDLG4201-W

帳票ファイル生成を中断しますか？

要因

帳票生成の実行中に ESC キーが入力されました。

対処

1. 中断する場合は"はい"を押してください。
2. 続行する場合は"いいえ"を押してください。

KDLG4202-W

項目変数名の項目名が設定されていません。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

項目変数名の項目名が指定されていません。

対処

入力をお勧めします。

入力しない場合、帳票実行時の入力チェックエラー発生時の alert ダイアログに表示する項目名が空になります。

KDLG4203-W

テーブル定義に指定したカラム定義数が 40 を超えています。実行時にエラーになる可能性があります。<DB アクセス定義名>, <カラム定義数>

要因

一つの DB アクセス定義でカラム定義数が 40 を超えています。

対処

DB アクセス定義を分割してください。

40 を超えた場合、SQL 文が長くなり、データベースプロバイダによっては SQL 実行ができない場合があります。

KDLG4204-W

業務完了指示作業が 1 つ以上必要です。<帳票 ID>

要因

帳票定義に業務完了指示作業が一つも選択されていません。

対処

業務完了指示作業を指定してください。

KDLG4205-W

項目変数名の指定に大文字小文字の違いがあります。<帳票モジュール ID または帳票 ID>, <項目変数名>

要因

項目変数名の指定に、大文字/小文字の違いがあります。

対処

項目変数名の指定を見直してください。

KDLG4206-W

比較条件<, >, <=, >=に対して比較値が指定されていません。<帳票モジュール ID>, <項目変数名>, <項目種別>

要因

比較条件<, >, <=, >=に対して比較値が設定されていません。

対処

比較値の設定を見直してください。

KDLG4207-W

チェック種別 date を指定した項目グループで設定された、項目リストの項目変数名の数が不正です。<帳票モジュール ID>, <項目グループ名>

要因

チェック種別 date を指定した項目グループで設定された項目リストの項目変数名の数が不足しているか、多く設定されています。

対処

項目グループにチェック種別 date を指定する場合、項目リストに項目変数名を三つ指定してください。

KDLG4208-W

チェック種別 date を指定した項目グループで設定された、項目リストに項目種別 text 以外の項目変数名が指定されています。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目グループ名〉, 〈項目変数名〉

要因

チェック種別 date を指定した項目グループで設定された項目リストに、項目種別 text 以外の項目変数名が指定されています。

対処

項目グループにチェック種別 date を指定する場合、項目リストにあるすべての項目の項目種別を text にしてください。

KDLG4209-W

項目グループ名と同じ項目変数名が存在します。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目グループ名〉

要因

項目グループ名と同名、または大文字/小文字だけが異なる項目変数名が存在します。

対処

項目グループ名の設定を見直してください。

KDLG4210-W

"帳票モジュールプレフィックス" + "_" で始まる項目変数名が存在します。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

"帳票モジュールプレフィックス" + "_" で始まる項目変数名が存在します。

対処

帳票モジュールプレフィックスの設定を見直してください。

KDLG4211-W

"s" + "帳票モジュールプレフィックス" + "_" で始まる項目変数名が存在します。〈帳票モジュール ID〉, 〈項目変数名〉

要因

"s" + "帳票モジュールプレフィックス" + "_" で始まる項目変数名が存在します。

対処

帳票モジュールプレフィックスの設定を見直してください。

KDLG4212-W

大文字小文字のみが異なる帳票モジュールプレフィックスが存在します。〈帳票 ID〉, 〈帳票モジュールプレフィックス〉

要因

大文字/小文字だけが異なる帳票モジュールプレフィックスが存在します。

対処

帳票モジュールプレフィックスの設定を見直してください。

KDLG4603-I

fixcmd (<文字列>)

注 <文字列>には、次のどれかが表示されます。

- <start 現在時刻>
- <path コマンドライン>
- <result 出力バッファ>
- <end 現在時刻>

要因

<文字列>に表示される内容によって、それぞれの要因があります。

<start 現在時刻>の場合

表示されたメッセージは、生成オプション FIXCMDPATH 実行時の開始メッセージです。

<path コマンドライン>の場合

表示されたメッセージは、引数メッセージです。

<result 出力バッファ>の場合

表示されたメッセージは、コマンド成功終了時のメッセージです。

<end 現在時刻>の場合

表示されたメッセージは、コマンド処理完了メッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4604-I

source path =<ファイルパス>

要因

ファイルコピー時のコピー元ファイルパスです。

対処

必要ありません。

KDLG4605-I

target path =<ファイルパス>

要因

ファイルコピー時のコピー先ファイルパスです。

対処

必要ありません。

KDLG4607-I

BLSGJ start <現在時刻>

要因

表示されたメッセージは、帳票生成処理を開始したメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4608-I

BLSGJ build version (<バージョンリソース値 Major.Minor.Revision>)

要因

表示されたメッセージは、帳票生成コマンドのバージョンを示すメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4609-I

BLSGJ protocol version (<内部コード>)

要因

表示されたメッセージは、帳票生成コマンドの内部コードを示すメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4610-I

tmpdir (<フォルダパス>)

要因

表示されたメッセージは、作業フォルダのパスを示すメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4611-I

outdir (<フォルダパス>)

要因

表示されたメッセージは、出力フォルダのパスを示すメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4612-I

environ (<生成オプションデータ>)

要因

表示されたメッセージは、生成オプションのメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4613-I

formid (<帳票 ID の一覧>)

要因

表示されたメッセージは、生成対象帳票 ID の一覧を示すメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4614-I

所要時間全体 <秒数> sec

要因

表示されたメッセージは、所要時間全体のメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4615-I

読み込み所要時間 <秒数> sec

要因

表示されたメッセージは、読み込み所要時間のメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4616-I

チェック所要時間 <秒数> sec

要因

表示されたメッセージは、チェック所要時間のメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4617-I

帳票モジュール所要時間 <秒数> sec

要因

表示されたメッセージは、帳票モジュール所要時間のメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4618-I

BLSGJ end <現在時刻>

要因

表示されたメッセージは、帳票生成処理を終了したメッセージです。

対処

必要ありません。

KDLG4619-I

帳票定義のチェックをスキップします。〈帳票 ID〉

要因

1. 帳票モジュールがありません。
2. 帳票モジュールの HTML 情報がありません。

対処

必要ありません。

KDLG4620-I

帳票モジュール定義のチェックをスキップします。〈帳票モジュール ID〉

要因

HTML 情報がありません。

対処

必要ありません。

付録 I.4 電子フォームワークフローメッセージ

ここでは、電子フォームワークフローが出力するメッセージについて説明します。

KDLC1101-W

リクエストに指定した添付ファイル最大数と添付ファイルの指定が一致しません。申請 ID=〈申請 ID〉, name 属性=〈添付ファイル用 HTML タグの name 属性〉

要因

リクエストに添付ファイルの指定 (〈添付ファイル用 HTML タグの name 属性〉の項目) が存在していません。

対処 (管理者の場合)

添付ファイルを操作した帳票の HTML モジュールのタグについて指定方法を見直してください。

KDLC1201-E

Properties file resource loading error.(〈プロパティファイル名〉)

プロパティファイルリソースの読み込みに失敗しました。(〈プロパティファイル名〉)

要因

1. プロパティファイルが見つかりません。
2. プロパティファイルにアクセスできません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

1. プロパティファイルがあるかどうか見直してください。
2. プロパティファイルにアクセス権、または ClassPath の設定があるかどうか見直してください。

KDLC1202-E

No Message text. id=<メッセージ ID>

該当するメッセージはありません。ID=<メッセージ ID>

要因

メッセージプロパティファイルに登録していないメッセージを出力しようとしてしました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

メッセージプロパティファイルのメッセージ ID に誤りがないかどうか見直してください。

KDLC1205-E

引数の指定値が不正です。(<引数>)

要因

指定された引数に誤りがあります。

対処 (エンドユーザの場合)

ブラウザで設定した情報を見直してください。

設定した情報に問題がない場合や、ブラウザから情報を設定していない場合は、管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

メソッド発行時の引数の内容を見直してください。

KDLC1206-E

発行シーケンスに誤りがあります。(<BLC 処理メソッド名>)

要因

BLC 初期化処理が実行されていません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

メソッドの発行シーケンスを見直してください。

KDLC1208-E

ビジネスプロセス定義(<ビジネスプロセス定義名>)が存在しません。

要因

1. ビジネスプロセス定義が削除されました。
2. ビジネスプロセス定義名称の指定に誤りがあります。
3. すべてのバージョンのビジネスプロセス定義が非活性化されています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

指定したビジネスプロセス定義名称を見直してください。

ビジネスプロセス定義名に間違いがなければ、ビジネスプロセス定義の状態を確認してください。

KDLC1209-E

プロパティファイル(<プロパティファイル名>)に必須項目(<必須であるキー名>)の指定がありません。

要因

プロパティファイルに必須項目の指定がありません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

出力された内容を基にプロパティファイルを見直してください。

KDLC1210-E

ユニーク ID が上限に達しています。(<ユニークキー>)

要因

BLC_UNIQUE_ID_T テーブルのユニークキーのユニーク ID が上限に達しています。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

BLC_UNIQUE_ID_T テーブルの該当するユニークキーの nuCurrentID カラムの値を 0 に更新してください。また、プロパティファイルの PNamePrefix の値を変更したあと、J2EE サーバまたは Web コンテナサーバを再起動してください。

KDLC1212-E

ユーザが存在しません。(<ユーザ ID>)

要因

1. ユーザが BLC_USER_V ビューにいません。
2. ユーザ ID の指定に誤りがあります。

対処（エンドユーザの場合）

ブラウザで設定した情報を見直してください。

設定した情報に問題がない場合、またはブラウザから情報を設定していない場合は、管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

1. BLC_USER_V ビューを見直してください。
2. BLC_USER_V ビューを構成するテーブルを見直してください。
3. 指定したユーザ ID を見直してください。

KDLC1213-E

フォームデータのレコードに重複が発生しています。案件名=<案件名>,帳票モジュールプレフィックス=<帳票モジュールプレフィックス>,インデックス=<インデックス>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルのレコードが重複しています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLC_FORM_DATA_T テーブルの案件について、インデックスカラムが重複しないようにしてください。

KDLC1214-E

フォームデータのレコードに欠落が発生しています。案件名=<案件名>,帳票モジュールプレフィックス=<帳票モジュールプレフィックス>,インデックス=<インデックス>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルのレコードが欠落しています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC1215-E

案件履歴データに不整合があります。履歴項目名=<案件履歴の項目名>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルの案件履歴データに必要な履歴項目がありません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC1216-E

BLCInbox テーブルの案件情報がありません。案件名=<案件名>

要因

BLC_INBOX_T テーブルに該当する案件のレコードがありません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC1217-E

作業の状態が不正です。案件 ID=<案件 ID>,作業 ID=<作業 ID>,作業の状態コード=<作業の状態コード>

要因

作業の状態が, "実行開始可能"になっていません。ほかの人の作業中に変更しました。

対処 (エンドユーザの場合)

再度, 受信ボックスを表示して, 作業があるかどうか見直してください。再表示後も受信ボックスに作業がある場合は, 管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

必要なときは, 該当する CSCIW の作業の状態を"実行開始可能"に戻してください。

KDLC1219-E

Process initialize error.(<引数名>)

プロセスの初期化処理でエラーが発生しました。(<引数名>)

要因

BLCInfo クラスの setInfo で指定したアプリケーション名の指定に誤りがあります。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLCInfo クラスの setInfo で指定したアプリケーション名を見直してください。

KDLC1220-E

Properties file resource not loaded.(<プロパティファイル名>)

プロパティファイルリソースが読み込まれていません。(<プロパティファイル名>)

要因

BLC 初期化処理が失敗しているおそれがあります。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLC 初期化処理が失敗していないかどうか見直してください。

KDLC1221-E

JSP ページ機能が利用できません。

要因

ページの呼び出しインタフェースが不正です。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

問題の発生する操作に関するページの呼び出し方 (forward インタフェースの引数情報) を見直してください。

KDLC1222-E

Trace put error(info:<出力エラーの要因>). Id=<エラー時のメッセージ ID>,Type=<トレース種別>,Text=<トレース情報>

トレース出力でエラーが発生しました。(詳細情報:<出力エラーの要因>) Id=<エラー時のメッセージ ID>,Type=<トレース種別>,Text=<トレース情報>

要因

トレース出力でエラーが発生しました。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC1223-E

未対応の帳票が実行されました。(詳細情報:<帳票ファイルの内部コード/BLC 実行環境の内部コード>)

要因

BLC 実行環境の帳票表示処理クラスが、未対応のバージョンの BLSG によって生成した帳票ファイルを実行しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLC 実行環境のバージョンを BLSG のバージョンに合わせて最新にしてください。

KDLC1224-E

帳票の表示に失敗しました。(詳細情報:<エラー理由>)

要因

BLCFormButton クラスメソッドでカスタマイズされたボタン表示処理に失敗しました。

1. ボタンリスト種別が不正です。<引数文字列>

setButtonsList メソッドの p_ButtonListType 引数で指定した文字列が不正です。

2. ボタンリストの指定がありません。

setButtonsList メソッドの p_ButtonListType 引数、および p_DefList 引数がともに null です。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

ユーザ追加処理のボタン表示処理(BLCFormButton クラス)のメソッド引数を見直してください。

KDLC1225-E

当該リクエストでは BLC 認証は受けられません。

要因

1. クライアントからのリクエストに Cookie が見つかりません。

2. アプリケーションサーバのホスト名に "_" が含まれている場合、Internet Explorer が Cookie を送信しないため、BLC の認証でエラーとなる場合があります。

対処（エンドユーザの場合）

ブラウザのセッション単位の Cookie 受付を許可してください。

対処（管理者の場合）

1. BLC 認証機能メソッドの前後の発行シーケンスを見直してください。
2. アプリケーションサーバのホスト名を, "_"を含まないものに変更してください。
3. 「9.6.6 EUR Form 連携帳票使用時の注意事項」を見直し, 該当する注意事項がないか確認してください。

KDLC1226-E

BLC 認証情報が無効です。

要因

ログイン認証情報を認識できません。次の要因が考えられます。

1. BLC 認証をしないで, BLC のページに直接アクセスしました。
2. BLC ログアウトを実施しました。
3. BLC 認証で, セッション Cookie を拒否しました。

対処（エンドユーザの場合）

次の手順で再度ログインしてください。ログインしても問題が解決しない場合は, 管理者に連絡してください。

1. BLC 認証で, BLC セッション Cookie を許可します。
2. BLC 認証機能を使用して, 再度アクセスします。

対処（管理者の場合）

エラーとなる JSP ファイルで BLC 認証機能を使用しているかどうか見直してください。

KDLC1227-E

帳票登録情報ファイルの読み込みに失敗しました。（<帳票登録用定義ファイル名>）

要因

1. 帳票登録用定義ファイルが見つかりません。
2. 帳票登録用定義ファイルにアクセスできません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

1. 帳票登録用定義ファイルがあるかどうか見直してください。
2. 帳票登録用定義ファイルにアクセス権があるかどうか見直してください。

KDLC1228-E

指定されたユーザは既に登録されています。（<ユーザ ID>）

要因

指定されたユーザ ID はすでに登録されています。

対処（エンドユーザの場合）

登録宛先一覧を再表示してください。

再表示しても、登録するユーザの宛先が登録されていない場合は、管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

1. BLC_TARGET_USER_V ビュー、および BLC_TARGET_USER_T テーブルを見直してください。
2. 指定したユーザ ID を見直してください。

KDLC1229-E

指定された帳票は既に登録されています。（<帳票 ID>）

要因

指定された帳票 ID は、すでに登録されています。

対処（管理者の場合）

1. 正しい帳票 ID を指定してください。
2. 定義ファイルを再選択してください。

KDLC1230-E

BLCFormData テーブルの案件情報がありません。案件名=<案件名>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルに該当する案件のレコードがありません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システム管理者に連絡してください。

KDLC1231-E

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の案件情報がありません。案件名=<案件名>

要因

CSCIW に案件がありません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

該当する案件を削除してください。削除するには、BLC_INBOX_T テーブル、BLC_FORM_DATA_T テーブル、BLC_SENTLOG_T テーブル、および添付ファイル機能を使用している場合は BLC_FILE_T テーブルの案件名をキーにして delete を発行します。

KDLC1233-E

指定した案件名が不正です。案件名=<案件名>,案件 ID=<案件 ID>

要因

指定した案件名が、CSCIW に登録されている案件名と違います。

対処（エンドユーザの場合）
管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）
システム管理者に連絡してください。

KDLC1234-E

指定した案件名の案件履歴がありません。案件名=<案件名>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルに該当する案件の履歴がありません。

対処（エンドユーザの場合）
管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）
システム管理者に連絡してください。

KDLC1235-E

ユニーク ID テーブルにユニークキーが存在しません。(<ユニークキー>)

要因

BLC_UNIQUE_ID_T テーブルにユニークキーがありません。

対処（エンドユーザの場合）
管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）
ユニークキーが正しいか確認して、必要なときは BLC_UNIQUE_ID_T テーブルに該当するユニークキーを作成してください。

KDLC1236-E

BLCFormData テーブルの帳票データの形式が不正です。案件名=<案件名>,帳票モジュールプレフィックス=<帳票モジュールプレフィックス>,帳票データ=<帳票データ>

要因

BLC_FORM_DATA_T テーブルに格納されている帳票データが null またはキー=値の形式になっていません。

対処（エンドユーザの場合）
管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）
システム管理者に連絡してください。

KDLC1237-E

プロパティファイル(<プロパティファイル名>)の値が不正です。キー=<キー名>

要因

プロパティファイルの該当するキーの値が不正です。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

プロパティファイルの該当するキーの値を正しい値にしてください。

KDLC1238-E

DB アクセス定義ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名=<DB アクセス定義ファイルパス>

要因

- 1.DB アクセス定義ファイルが見つかりません。
- 2.DB アクセス定義ファイルにアクセスできません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

- 1.DB アクセス定義ファイルがあるかどうか見直してください。
- 2.DB アクセス定義ファイルにアクセス権があるかどうか見直してください。

KDLC1239-E

エンコードに失敗しました。

要因

BLC プロパティファイルの RequestDataEncode キーに指定されたエンコード文字セットでエンコードできません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLC プロパティファイルの RequestDataEncode キーに指定したエンコード文字セットの書式を見直してください。

KDLC1240-E

必要な項目が指定されていません。項目名=<項目名>

要因

作成した帳票に必要な項目が指定されていません。

対処 (エンドユーザの場合)

帳票の作成者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

指定されていない項目を指定して、帳票を作成してください。

KDLC1241-E

値は不正です。(入力時チェック種別:<種別名>)

要因

- 1.入力時のチェック種別の選択に誤りがあります。

2. 値に誤りがあります。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

1. 値を見直してください。

2. DB アクセス定義, および項目グループ-入力時チェック種別が正しいかどうか見直してください。

KDLC1242-E

指定した宛先情報は存在しません。(＜宛先を削除するユーザのユーザ ID,宛先から削除するユーザのユーザ ID＞)

要因

1. 登録先に指定したユーザは宛先に登録されていません。

2. ユーザはありません。

対処 (エンドユーザの場合)

1. 登録宛先一覧を再表示してください。

2. 再表示しても, 削除するユーザが宛先に登録されている場合は, 管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

1. BLC_TARGET_USER_T テーブルに指定した組み合わせの宛先情報があるかどうか見直してください。

2. BLC_TARGET_USER_V ビュー, および BLC_TARGET_USER_T テーブルを見直してください。

KDLC1243-E

DB アクセス定義内容が不正です。(＜エラー番号＞)ファイル名=＜DB アクセス定義ファイルパス＞

要因

DB アクセス定義内容に誤りがあります。

エラー番号

0 : DB アクセス定義ファイルの内容が正しくありません。

1 : カラム項目定義で, _UpdateKey を指定したカラムに, 項目変数名を対応づける指定がありません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

DB アクセス定義を見直してください。

1. BLSG で正しく生成したファイルを使用しているかどうか見直してください。

2. native2ascii コマンドは正常に終了し, ファイルの最後まで正しく出力されているかどうかを見直してください。

KDLC1244-E

検索結果は 0 件です。

要因

検索結果が 0 件です。

DB アクセス定義-SQL 検索条件指定-参照 0 件エラー扱いが指定されています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

1. 検索結果 0 件が正しいかどうか見直してください。
2. 参照 0 件エラー扱いの指定が正しいかどうか見直してください。

KDLC1245-E

プロパティファイル(<プロパティファイル名>)の Directory_Class キーに指定したディレクトリ情報アクセスクラス(<指定されたクラス名>)のインスタンス生成に失敗しました。詳細情報:<詳細情報>

要因

1. プロパティファイル (<プロパティファイル名>) の Directory_Class キーに指定したディレクトリ情報アクセスクラス (<指定されたクラス名>) のクラスがありません。
2. プロパティファイル (<プロパティファイル名>) の Directory_Class キーに指定したディレクトリ情報アクセスクラス (<指定されたクラス名>) のクラスが BLCDirs クラスを継承していません。
3. プロパティファイル (<プロパティファイル名>) の Directory_Class キーに指定したディレクトリ情報アクセスクラス (<指定されたクラス名>) のクラスファイルが壊れています。
4. プロパティファイル (<プロパティファイル名>) の Directory_Class キーに指定したディレクトリ情報アクセスクラス (<指定されたクラス名>) のクラスにアクセスできません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

1. プロパティファイルに指定したクラスファイルがあるかどうか見直してください。
2. プロパティファイルに指定したクラスが BLCDirs クラスを継承しているかどうか見直してください。
3. クラスファイルを再生成してください。
4. クラスファイルの生成環境を見直してください。
5. クラスファイル, およびディレクトリ構成に関するアクセス権を見直してください。

KDLC1246-E

プロパティファイル(<プロパティファイル名>)の読み込み処理でエラーが発生しました。詳細情報:<詳細情報>

要因

プロパティファイルの読み込み処理で入力例外が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

アプリケーションサーバの環境を見直してください。

KDLC1247-E

システムリソース(<リソース名>)へのアクセスでエラーが発生しました。詳細情報:<詳細情報>

要因

セキュリティマネージャによって、該当するスレッドのシステムリソースアクセスが拒否されました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システムプロパティのアクセスを許可して、再実行してください。

KDLC1248-E

処理期限が不正です。処理期限=<処理期限>

要因

処理期限のデータ形式が YYYYMMDDhhmmss 形式になっていません。

対処（エンドユーザの場合）

処理期限を YYYYMMDDhhmmss 形式で入力してください。

対処（管理者の場合）

処理期限を設定している処理を見直して、YYYYMMDDhhmmss 形式になっているかどうか見直してください。

KDLC1249-E

ユーザカスタマイズ処理で BLC 例外オブジェクトが構築されました。（<ユーザメッセージ>）

要因

サーバサイドのユーザカスタマイズ処理で、BLC 例外 (BLCException) オブジェクトが構築されました。

<ユーザメッセージ>は、次の形式で出力されます。

ID=<メッセージ ID> xxxxxxxxxxxx

対処（エンドユーザの場合）

対処が不明な場合、管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

表示される ID を基に要因を調査して対処してください。

KDLC1250-E

リクエストのメッセージ解析処理でエラーが発生しました。詳細情報：<MessagingException 例外の詳細メッセージ>

要因

MIME タイプが、"multipart/form-data"のリクエストを処理する際に MessagingException 例外を受けました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

リクエストしたフォームを見直してください。

KDLC1251-E

リクエストの MIME ヘッダ構文解析処理でエラーが発生しました。ヘッダ情報：<MIME ヘッダの内容>

要因

MIME タイプが, "multipart/form-data"のリクエストを処理する際の MIME ヘッダ構文解析処理でエラーが発生しました。

次の要因が考えられます。

- 添付ファイル名に不正な文字コードが指定されています。
- リクエストしたフォームの input タグの構文が不正です。

対処 (エンドユーザの場合)

添付ファイル名を見直してください。添付ファイル名が適切な場合は、管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

リクエストしたフォームを見直してください。

KDLC1252-E

リクエストの入カストリーム操作でエラーが発生しました。詳細情報：<IOException 例外の詳細メッセージ>

要因

MIME タイプが"multipart/form-data"のリクエストを処理する際に、IOException 例外を受けました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

アプリケーションサーバの状況を確認してください。要因が不明な場合はシステム管理者に連絡してください。

KDLC1253-E

引数のフォーマットが不正です。

要因

指定された引数のフォーマットに誤りがあります。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

メソッド発行時の引数フォーマットを見直してください。

KDLC1254-E

EUR Form 連携処理でインタフェースエラーを検知しました。詳細情報：<保守情報>

要因

DOM Document オブジェクトが不正です。

EUR Form 帳票の送信ユニットが XSL 変換されている可能性があります。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

EUR Form 帳票の送信ユニットのプロパティを見直してください。正しく設定されている場合は、システム管理者に連絡してください。

KDLC1255-E

EUR Form 連携処理で、ユーザ定義クラス名(<ユーザ定義クラス名>)の不正を検知しました。詳細情報:<エラー情報>

要因

ユーザ定義クラスが見つかりません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

帳票パッケージ下にユーザ定義クラスファイルがあるかどうか確認してください。帳票パッケージ下にユーザ定義クラスファイルがある場合、システム管理者に連絡してください。

KDLC1256-E

EUR Form 連携処理で、ユーザ定義クラス(<ユーザ定義クラス名>)のインスタンス生成に失敗しました。詳細情報:<エラー詳細情報>

要因

ユーザ定義クラスのインスタンス生成でエラーが発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システム管理者に連絡してください。

KDLC1257-E

EUR Form 連携処理で、ユーザ定義クラス(<ユーザ定義クラス名>)のアクセスでエラーが発生しました。詳細情報:<エラー詳細情報>

要因

ユーザ定義クラスにアクセスできません。セキュリティマネージャが存在する場合、アクセス拒否された可能性があります。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システム管理者に連絡してください。

KDLC1258-E

EUR Form 連携処理で、ドキュメントツリー内のノードアクセスでエラーが発生しました。詳細情報=<エラー要因コード>

要因

DOM Document オブジェクトの操作でエラーが発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システム管理者に連絡してください。

KDLC1259-E

処理モードが不正です。

要因

処理モードが不正です。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

システム管理者に連絡してください。

KDLC1260-E

EUR Form 連携処理の初期化に失敗しました。詳細情報=<例外情報>

要因

EUR Form 連携処理の初期化処理に失敗しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

EUR Form 連携処理で発生した例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC1261-E

EUR Form 連携処理中に例外が発生しました。詳細情報=<例外情報>

要因

EUR Form 連携処理中に例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

EUR Form 連携処理で発生した例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC1262-E

宛先が登録されていません。

要因

宛先が登録されていません。

対処（エンドユーザの場合）

宛先を登録してください。宛先を登録しても問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

- BLC_TARGET_USER_T テーブルの宛先情報が存在するか確認してください。

- 宛先情報の取得時に条件で絞り込みを行っている場合は、絞り込み条件を見直してください。

KDLC1263-E

送信されたパラメタが不正です。

要因

不正なパラメタが送信されました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

- EUR Form 帳票遷移 JSP 内のパラメタ処理を見直してください。
- EUR Form 帳票の送信ユニットに設定したパラメタを見直してください。

KDLC1264-E

指定した完全作業名に誤りがあります。

要因

- ユーザ追加処理で発生した場合は、指定した完全作業名に誤りがあります。
- ユーザ追加処理以外で発生した場合は、帳票作成時に指定したビジネスプロセス定義と、CSCIW 上のビジネスプロセス定義が一致していません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

指定した完全作業者名を見直してください。
正しいビジネスプロセス定義を指定して、再度帳票を作成してください。

KDLC1267-E

指定された帳票は、現在運用不可となっているため申請帳票を表示できません。送信ログからの申請を利用している場合は、名称別帳票一覧から新規申請してください。名称別帳票一覧からの申請が行えない場合は、帳票がバージョンアップされていないか、管理者に運用状態を確認してください。帳票名称=<帳票名称>,帳票バージョン=<帳票バージョン>

要因

1. 表示しようとした帳票の運用状態が運用不可になっています。
2. 表示しようとした帳票の情報が BLC_FORM_INFO_T テーブルにありません。

対処（エンドユーザの場合）

名称別帳票一覧から新規申請をしてください。名称別帳票一覧からの申請ができない場合は、帳票がバージョンアップされていないか、管理者に運用状態を確認してください。

対処（管理者の場合）

1. 該当する帳票の運用状態を見直してください。
2. 該当する帳票の情報がデータベースに登録されているか確認してください。

KDLC1268-E

指定された帳票は、現在運用不可となっているため申請できません。ローカル保存から申請をしている場合は、名称別帳票一覧から新規申請してください。名称別帳票一覧からの申請が行えない場合は、帳票がバージョンアップされていないか、管理者に運用状態を確認してください。帳票名称=<帳票名称>,帳票バージョン=<帳票バージョン>

要因

1. 申請しようとした帳票の運用状態が運用不可になっています。
2. 申請しようとした帳票の情報が BLC_FORM_INFO_T テーブルにありません。

対処 (エンドユーザの場合)

名称別帳票一覧から新規申請をしてください。名称別帳票一覧からの申請ができない場合は、帳票がバージョンアップされていないか、管理者に運用状態を確認してください。

対処 (管理者の場合)

1. 該当する帳票の運用状態を見直してください。
2. 該当する帳票の情報がデータベースに登録されているか確認してください。

KDLC1269-E

送信した EUR Form 帳票ファイル(拡張子*.efd)がサーバ上に存在しないか、変更されている可能性があります。ローカル保存から操作している場合は、最新の EUR Form 帳票ファイルから操作してください。詳細情報:<EUR Form Service のエラーメッセージ>

要因

送信した EUR Form 帳票がサーバ上に存在しないか、または変更されており、帳票 ID が一致しません。

対処 (エンドユーザの場合)

ローカル保存から操作している場合は、最新の EUR Form 帳票ファイルから操作してください。

対処 (管理者の場合)

サーバ上の EUR Form 帳票ファイルが正しいか確認してください。正しい帳票バージョンアップ手順に従わないで、EUR Form 帳票ファイルだけを入れ替えた可能性があります(サーバ上から EUR Form 帳票ファイルが削除されているおそれもあります)。

KDLC1270-E

EUR Form Client から操作することはできません。Web ブラウザでログインし、ローカル保存申請用ウィンドウに EUR Form 帳票ファイル(拡張子*.efd)をドラッグ&ドロップして操作してください。

要因

Web ブラウザを使用しないで EUR Form Client から操作されました。

対処 (エンドユーザの場合)

Web ブラウザで BLC にログインし、ローカル保存申請用ウィンドウに EUR Form 帳票ファイルをドラッグ&ドロップして操作してください。

KDLC1271-E

指定された案件は、帳票モジュールのレコードが存在しないため、内容確認画面を表示できません。案件名=<案件名>

要因

指定された案件には、帳票モジュールのレコードが存在しません。

対処

ありません。

KDLC1272-E

帳票を表示できません。

要因

EUR Form 連携帳票以外の案件を選択しています。

対処

EUR Form 連携帳票以外の帳票は表示できません。

KDLC1276-E

プロパティファイルの書き込み処理でエラーが発生しました。ファイル名:<ファイル名>,詳細情報:<例外情報>

要因

プロパティファイルへの書き込み処理でエラーが発生しました。

対処

1. 書き込み先ディレクトリまたは対象ファイルのアクセス権限を確認してください。
2. ディスク容量に問題がないか確認してください。

KDLC1277-E

暗号化処理でエラーが発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

暗号化処理でエラーが発生しました。

対処

暗号化処理で発生した例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC1278-E

復号化処理でエラーが発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

復号化処理でエラーが発生しました。

対処

復号化処理で発生した例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC1279-E

値が設定されていません。クラス名=<クラス名>

要因

SQL の INSERT 文または UPDATE 文で、挿入や更新時に値を入れる対象の列が一つも存在しません。

対処

管理者に連絡してください。

KDLC1280-E

環境変数が未定義です。環境変数=<環境変数名>

要因

必須の環境変数が定義されていません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

環境変数を定義して、再実行してください。

KDLC1281-E

デプロイメントディレクトリが不正です。詳細情報:<指定されたデプロイメントディレクトリ>

要因

BLC プロパティファイルの DeploymentDirectory キーに指定した値が不正です。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

BLC プロパティファイルの DeploymentDirectory キーに指定した値を確認してください。

KDLC1283-E

指定したページが見つかりません。詳細情報:<ページの URI>

要因

制御サーブレットで Forward 先の RequestDispatcher が取得できません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

詳細情報に示された URI が存在するか確認してください。

KDLC1286-E

添付ファイルの合計ファイルサイズが上限を超えました。申請 ID=<申請 ID>, name 属性=<原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性>, 値=<値>

要因

添付ファイルの合計サイズが、帳票に登録できる上限値を超えました。

対処 (エンドユーザの場合)

登録する添付ファイルのサイズを小さくしてください。

対処 (管理者の場合)

原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性を見直してください。

KDLC1287-E

メールの送信者または宛先のメールアドレスが不正です。ユーザ ID=<ユーザ ID>

要因

ユーザ ID に指定されたユーザ情報のメールアドレスが不正です。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

指定したユーザ ID のユーザ情報を見直してください。

KDLC1288-E

メール情報の設定で例外が発生しました。詳細情報:<詳細情報>

要因

MIME 形式のメールの作成時に例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

出力された詳細情報と前後に出力されたメッセージを基に対処してください。

KDLC1289-E

メール送信で例外が発生しました。詳細情報:<詳細情報>

要因

メールの送信時に例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

詳細情報の内容と前後に出力されたメッセージを基に対処してください。

KDLC1292-E

帳票情報テーブルのデータが不正です。帳票 ID=<帳票 ID>,帳票バージョン=<帳票バージョン>

要因

BLC_FORM_INFO_T テーブルのレコードが重複しています。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

BLC_FORM_INFO_T テーブルの該当する案件の重複データを修復してください。

KDLC1294-E

値が不正のため、添付ファイルの処理に失敗しました。申請 ID=<申請 ID>, name 属性=<原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性>, 値=<値>

要因

添付ファイル用 HTML タグの name 属性が次のどれかの場合に発生します。

1. A_BLC_FILE_[N]のタグがないまたは値が空のときに、A_BLC_FILE_NAME_[N]に値がある場合

2. A_BLC_FILE_[N]に値があるときに、A_BLC_FILE_NAME_[N]のタグがない場合
3. 次に示す属性の値が範囲外または数値以外が指定されている場合
 - ・ A_BLC_TOTAL_FILE_SIZE
 - ・ A_BLC_FILE_NUM
 - ・ A_BLC_DELETE_FILE_NUM
 - ・ A_BLC_DELETE_FILE_[N]

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

添付ファイル用の HTML タグの name 属性の内容を見直してください。

KDLC1295-E

添付ファイルのコンテンツを取得できません。申請 ID=<申請 ID>, name 属性=<原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性>, 原因=<原因>

要因

1. 添付ファイルの取得で例外が発生しました。
2. 取得した添付ファイルの型が不正です。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

原因に示された内容と前後に出力されたメッセージを基に、ファイルを見直してください。

KDLC1296-E

指定された添付ファイルは存在しません。申請 ID=<申請 ID>, ファイル ID=<ファイル ID>

要因

BLC_FILE_T テーブルに、該当する申請 ID およびファイル ID のファイルがありませんでした。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

BLC_FILE_T テーブルに、該当する申請 ID およびファイル ID のファイルが存在するかを確認してください。

KDLC1298-E

サイズが0バイトのファイルは登録できません。申請 ID=<申請 ID>, name 属性=<原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性>

要因

1. name 属性にある A_BLC_FILE_[N]のファイルのサイズが0になっています。
2. ファイル入力フォームで、ファイルパスを誤って指定しています。

対処（エンドユーザの場合）

1. 登録した添付ファイルのサイズが0になっていないかどうか確認してください。

2.入力フォームに指定したファイルパスが正しいかどうか確認してください。

対処（管理者の場合）

HTML タグの name 属性に指定されたファイルパスの値を見直してください。

KDLC1299-E

リクエストのサイズが最大リクエストサイズの上限を超えました。

リクエストサイズ=<リクエストサイズ>, 最大リクエストサイズ=<BLCMaxRequestSize の値>

要因

HTTP リクエストのメッセージのサイズが、BLCMaxRequestSize に指定された値を超えました。

対処（エンドユーザの場合）

帳票に指定した添付ファイルなどのサイズを見直してください。

対処（管理者の場合）

帳票のサイズまたは BLC プロパティファイルの BLCMaxRequestSize の値を見直してください。

KDLC1300-E

案件履歴が存在しないため、振り替えができません。案件 ID=<案件 ID>

要因

案件 ID をキーにして取得した案件履歴の TOTAL の値が0です。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

案件の情報を確認し、案件を修正または削除してください。

KDLC1301-E

引き戻しに失敗しました。案件名=<案件名>、案件 ID=<案件 ID>、詳細情報=<詳細情報>

要因

指定した案件は削除されています。

対処

指定した案件が引き戻しできる状態かどうか確認してください。

KDLC1302-E

差し戻しに失敗しました。案件名=<案件名>、案件 ID=<案件 ID>、詳細情報=<詳細情報>

要因

1. 指定した案件は次のノードへ遷移済みです。
2. 指定した案件は引き戻し済みです。
3. 指定した案件は削除されています。

対処

指定した案件が差し戻しできる条件かどうか確認してください。

KDLC1303-E

指定されたユーザは既に登録されています。(＜ユーザ ID＞)

要因

DB 追加処理で指定したユーザ ID のレコードはすでに存在しています。

対処 (エンドユーザの場合)

指定したユーザ ID 以外を入力してください。

対処 (管理者の場合)

BLC_USER_INFO_T テーブルで該当するユーザ ID の情報を確認してください。

KDLC1304-E

指定された組織コードは既に登録されています。(＜組織コード＞)

要因

DB 追加処理で指定した組織コードのレコードはすでに存在しています。

対処 (エンドユーザの場合)

指定した組織コード以外を入力してください。

対処 (管理者の場合)

BLC_ORG_T テーブルで該当する組織コードの情報を確認してください。

KDLC1305-E

指定された役職コードは既に登録されています。(＜役職コード＞)

要因

DB 追加処理で指定した役職コードのレコードはすでに存在しています。

対処 (エンドユーザの場合)

指定した役職コード以外を入力してください。

対処 (管理者の場合)

BLC_JOB_TITLE_T テーブルで該当する役職コードの情報を確認してください。

KDLC1306-E

指定された帳票グループ名は既に登録されています。(＜帳票管理グループ名＞)

要因

DB 追加処理で指定した帳票管理グループ名のレコードはすでに存在しています。

対処 (エンドユーザの場合)

指定した帳票管理グループ名以外を入力してください。

対処 (管理者の場合)

BLC_FORMCONTROL_GROUP_T テーブルで該当する帳票管理グループコードの情報を確認してください。

KDLC1307-E

システム管理者権限を持つユーザが存在しません。1 人以上設定してください。

要因

システム管理者権限を持つユーザが一人も存在しません。

対処

システム管理者権限を持つユーザを一人以上設定してください。

KDLC1308-E

CSV ファイルの入力処理に失敗しました。(詳細情報：<エラーの詳細情報>)

要因

CSV ファイルの入力処理でエラーが発生しました。

対処

詳細情報に示された内容を基に対処してください。

KDLC1309-E

入力された旧パスワードが間違っています。

要因

入力されたパスワードが DB に登録されているパスワードと一致しません。

対処

登録されているパスワードを正しく入力してください。

KDLC1310-E

引き戻しできませんでした。案件名=<案件名>

要因

1. 指定した案件は引き戻しできない次のノードへ遷移済みです。
2. 指定した案件は差し戻し済みです。

対処

指定した案件が引き戻しできる状態かどうか確認してください。

KDLC1311-E

削除しようとした役職に所属するユーザが存在します。選択された役職は削除できません。

要因

選択された役職に所属するユーザが存在するため、削除できません。

対処

選択した役職を削除したい場合は、所属するユーザを削除または変更してから、削除してください。

KDLC1312-E

削除しようとした組織に所属するユーザが存在します。選択された組織は削除できません。

要因

選択された組織に所属しているユーザが存在するため、削除できません。

対処

選択した組織を削除したい場合は、所属するユーザを削除または変更してから、削除してください。

KDLC1313-E

組織コードが指定されていません。

要因

削除対象となる組織が選択されていないため、組織を削除できません。

対処

組織を選択してから更新または削除をしてください。

KDLC1314-E

指定された共有トレイ名は既に登録されています。(＜共有トレイ名＞)

要因

指定した共有トレイ名のレコードはすでに登録されているため、登録できません。

対処

登録する共有トレイ名を変更してください。

KDLC1315-E

削除しようとした組織に下位組織が存在します。選択された組織は削除できません。

要因

選択された組織に下位組織が存在するため、削除できません。

対処

選択した組織を削除したい場合は、下位組織を削除または変更してから、削除してください。

KDLC1316-E

form タグの enctype 属性が不正のため、添付ファイルの処理に失敗しました。申請 ID=<申請 ID>, name 属性=<原因となった添付ファイル用 HTML タグの name 属性>

要因

添付ファイルを操作する帳票の form タグの enctype 属性に、「multipart/form-data」が指定されていません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

添付ファイルを操作する帳票の form タグの enctype 属性に、「multipart/form-data」を設定してください。

KDLC1317-E

メールの送信に失敗しました。詳細情報:<原因となった BLC メッセージ>

要因

詳細情報に出力された BLC メッセージの内容が原因となって、メールの送信に失敗しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

詳細情報に出力された BLC メッセージの内容を基に、対処してください。

KDLC1319-E

上位組織コードに指定されている値が不正です。（<組織コード>）

要因

1. 組織コードと上位組織コードが同じです。
2. 上位組織コードが存在しません。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

メッセージの<組織コード>に指定されているレコードの情報を確認してください。

KDLC1320-E

削除しようとした役職は帳票利用者として利用されています。選択された役職は削除できません。

要因

削除しようとした役職は帳票利用者として利用されています。

対処

選択した役職を削除したい場合は、まず帳票利用者で利用している該当の役職を削除してください。その後、役職を削除してください。

KDLC1321-E

削除しようとした役職は帳票管理グループで利用されています。選択された役職は削除できません。

要因

削除しようとした役職は帳票管理グループで利用されています。

対処

選択した役職を削除したい場合は、まず帳票管理グループで利用している該当の役職を削除または変更してください。その後、役職を削除してください。

KDLC1324-E

検索結果が検索最大数の上限を超えました。検索条件の絞込みを行い、再度検索を行ってください。

要因

検索結果が検索最大数を超えました。

対処

検索条件を変更してください。

KDLC1325-E

指定された役職は存在しません。

要因

指定した役職は削除された可能性があります。

対処

もう一度画面を表示し、操作を実行してください。

KDLC1326-E

指定された組織は存在しません。

要因

指定した組織は削除された可能性があります。

対処

もう一度画面を表示し、操作を実行してください。

KDLC1328-E

セッション情報が取得できません。ポータル ホーム画面からログインしてください。

要因

1. セッションタイムアウトが発生してセッションの情報がなくなっています。
2. EUR Form 連携帳票の送信ユニットに設定された URL とブラウザで指定された URL が異なっています。

対処 (エンドユーザの場合)

再度ログインしてください。再度ログインしても解決しない場合は管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

EUR Form 連携帳票の送信ユニットに指定した URL と、ブラウザで指定した URL のホスト名の指定に相違があります。同一のホスト名を指定してください。同じホストを示していても、送信ユニットの指定が IP アドレス、ブラウザの指定がホスト名の場合は相違と判断します。

KDLC1332-E

DB 処理に失敗しました。障害を取り除いて再度実行してください。詳細情報=<例外情報>

要因

案件強制終了処理中に該当する案件情報が消えるなど、DB 処理で障害が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

受信ボックステーブルおよび帳票データテーブルにある該当する案件の情報を確認してください。

KDLC1999-E

内部矛盾が発生しました。

要因

内部矛盾が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC2205-E

DB アクセスでエラーになりました。操作：<DB アクセスメソッド名>

要因

DB アクセスの操作を失敗しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

BLC トレースに出力されています。直前の KDLC2206-E から原因を調査してください。

KDLC2206-E

DB アクセスでエラーになりました。詳細情報：<例外情報>

要因

DB アクセスでエラーを検知しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

添付ファイルを使用している場合

HiRDB の場合は、リソースアダプタで使用するコンフィグレーションプロパティの maxBinarySize に、「最大添付ファイルサイズ以上の値」が設定されているか確認してください。

上記で対処できない場合は、詳細情報に示される内容を基に、DB アクセスに関連する環境設定、または DB サーバの状態を見直してください。

添付ファイルを使用していない場合

詳細情報に示される内容を基に、DB アクセスに関連する環境設定、または DB サーバの状態を見直してください。

KDLC2207-E

DataSource オブジェクトの取得に失敗しました。詳細情報：<例外情報>

要因

1. BLC プロパティファイルの DB 接続指定と、実際の動作環境が一致していません。
2. BLC プロパティファイルの BLCMASTER.name, または DB 接続名.name の設定値が不正です。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

1. DB 接続方法、および uCosminexus Application Server の動作モードを見直してください。
2. 論理 DB 名指定値を見直してください。

KDLC2208-E

JDBC ドライバの登録に失敗しました。詳細情報：<例外情報>

要因

BLC プロパティファイルの JDBC ドライバ名が不正です。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

JDBC ドライバ名を見直してください。

KDLC2209-E

スキーマ名の取得に失敗しました。

要因

スキーマ名の取得に失敗しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC2210-E

データベース名称の取得に失敗しました。

要因

データベース名称の取得に失敗しました。

次の要因が考えられます。

- 未サポートのデータベースに接続しています。
- 未サポートのバージョンのデータベースに接続しています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者)

接続するデータベースの種別およびバージョンを確認してください。

KDLC2211-E

トレース処理に失敗しました。詳細情報：<エラー情報>

要因

1. プロパティファイルに不正な値が指定されています。
2. アプリケーショントレース出力のメソッドに無効な値が指定されています。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3101-W

対象案件が既に完了もしくは強制終了しています。

要因

指定した案件がすでに完了または強制終了しています。

対処（エンドユーザの場合）

必要ありません。

対処（管理者）

指定した案件を確認してください。

KDLC3201-E

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外を受けました。詳細情報：<例外情報>

要因

1. ビジネスプロセス定義の取得時に障害が発生しました。
2. CSCIW の初期化に失敗しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3202-E

案件開始時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.createAndStartProcessInstance()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3203-E

作業完了時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,案件 ID=<案件 ID>,作業 ID=<作業 ID>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWWorkItem.performAndComplete()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3204-E

作業情報取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件 ID=<案件 ID>,作業 ID=<作業 ID>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.getWorkItem()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3205-E

業務ステップ情報取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件 ID=<案件 ID>,業務ステップ ID=<業務ステップ ID>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.getActivityInstance()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3206-E

案件情報取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件 ID=<案件 ID>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.getProcessInstance()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3207-E

作業属性一覧取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,検索条件=<検索条件>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.getWorkItemsList()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3208-E

業務ステップ属性一覧取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,検索条件=<検索条件>,詳細情報：<例外情報>

要因

CIWServer.getActivityInstancesList()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3209-E

案件属性一覧取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,検索条件=<検索条件>,詳細情報:<例外情報>

要因

CIWServer.getProcessInstancesList()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3210-E

作業属性一覧取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。検索条件=<検索条件>,詳細情報:<例外情報>

要因

CIWServer.getWorkItemsList()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3212-E

作業属性一覧取得時に uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。案件名=<案件名>,検索条件=<検索条件>,詳細情報:<例外情報>

要因

CIWProcessInstance.getWorkItemsList()で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

CSCIW 例外の詳細情報に示される事項を見直してください。

KDLC3213-E

ビジネスプロセス操作で uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

ビジネスプロセス操作で CSCIW の例外が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

詳細情報に出力される内容を見直してください。

KDLC3214-E

ビジネスプロセス操作の認証で uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 例外が発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

ビジネスプロセス操作の認証で CSCIW の例外が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

CSCIW への認証接続のためのユーザ ID およびパスワードが正しいかどうか見直してください。

KDLC3215-E

案件を終了できませんでした。障害を取り除いて再度実行してください。詳細情報=<例外情報>

要因

CIWProcessInstance.terminate()で例外が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

CSCIW 例外の詳細情報に出力される内容を見直してください。

KDLC4202-E

ビジネスプロセス操作で例外が発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

ビジネスプロセス操作で例外が発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

例外の詳細情報に出力される内容を見直してください。

KDLC4203-E

ビジネスプロセス操作の初期化で例外が発生しました。詳細情報:<例外情報>

要因

ビジネスプロセス操作の初期化で例外が発生しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

例外の詳細情報に出力される内容を見直してください。

KDLC4204-E

ファイル出力に失敗しました。ファイル=<ファイル名>

要因

1. ファイル以外を指定しました。
2. 指定したフォルダの作成に失敗しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

<ファイル名>に表示されたファイルへ出力できることを確認してください。

KDLC4205-E

帳票ファイルの生成に失敗しました。詳細情報:<コマンドの戻り値>

要因

javac に失敗しました。

対処（エンドユーザの場合）

管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

BLC プロパティファイルの DeploymentDirectory の値を見直してください。

KDLC4206-E

帳票ファイル登録に失敗しました。

要因

帳票ファイルの登録に失敗しました。

対処

管理者に連絡してください。

KDLC5001-I

コマンドを開始しました。

要因

コマンドを開始しました。

対処

必要ありません。

KDLC5002-I

コマンドが正常終了しました。

要因

コマンドが正常終了しました。

対処

必要ありません。

KDLC5006-I

コマンドを開始しました。(＜開始日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) ＞)

要因

コマンドを開始しました。

対処

必要ありません。

KDLC5007-I

コマンドが正常終了しました。(＜開始日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) ＞)

要因

コマンドが正常終了しました。

対処

必要ありません。

KDLC5008-I

業務完了案件を検索します。

要因

業務完了案件を検索します。

対処

必要ありません。

KDLC5009-I

業務完了案件を＜業務完了案件数＞件検知しました。

要因

業務完了案件を検知しました。

対処

必要ありません。

KDLC5010-I

保存処理を開始します。

要因

保存処理を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC5011-I

業務データベース<業務データベース保存処理案件数>件：BLC データベース<BLC 保存処理案件数>件：ワーク管理データベース<CSCIW 保存処理案件数>件を保存しました。

要因

業務データベース、BLC データベース、およびワーク管理データベースから、業務完了案件を保管用テーブルに保管しました。

対処

必要ありません。

KDLC5016-I

削除処理を開始します。

要因

削除処理を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC5017-I

業務データベース<業務データベース削除処理案件数>件：BLC データベース<BLC データベース削除処理案件数>件：ワーク管理データベース<CSCIW 削除処理案件数>件を削除しました。

要因

業務データベース、BLC データベース、およびワーク管理データベースから、業務完了案件を削除しました。

対処

必要ありません。

KDLC5018-I

ユーザ情報テーブルのパスワードを<移行した件数>件移行しました。

要因

ユーザ情報テーブルのパスワードを移行しました。

対処

必要ありません。

KDLC5201-E

必要なオプションが指定されていません。オプション=<オプション>

要因

必要なオプションが指定されていません。

対処

オプションを確認し、再実行してください。

KDLC5202-E

指定されたオプションに誤りがあります。オプション=<オプション>

要因

1. 同一のオプションが複数回指定されています。
2. 指定できないオプションが指定されています。
3. オプションにパラメタが指定されていません。

対処

コマンドの使用方法を確認し、再実行してください。

KDLC5203-E

指定されたファイルに誤りがあります。オプション=<オプション>,ファイル=<ファイル名>

要因

1. ファイル名がフルパス名で指定されていません。
2. ファイル名の文字列が 255 文字を超えています。
3. 指定したファイル名に存在しないディレクトリが含まれています。
4. ファイル名に、ファイル以外が指定されています。
5. 予約デバイス名を指定しています。

対処

指定したファイル名を確認し、再実行してください。

KDLC5204-E

データベースへのアクセスに失敗しました。(詳細情報：<例外情報>)

要因

データベースアクセス操作でエラーが発生しました。

対処

詳細情報から、その要因に対応した対処をしてください。

KDLC5207-E

ファイルの出力処理に失敗しました。(詳細情報：<例外情報>)

要因

ファイル出力処理でエラーが発生しました。

対処

詳細情報から、その要因に対応した対処をしてください。

KDLC5208-E

ファイルの入力処理に失敗しました。(詳細情報：<例外情報>)

要因

ファイル入力処理でエラーが発生しました。

対処

詳細情報から、その要因に対応した対処をしてください。

KDLC5210-E

Can't open lockfile.(function=<失敗したシステム関数名>,errno=<エラーの詳細情報>,fileID=<エラーが発生したファイルの ID>,line=<エラーが発生した行番号>)

要因

ロックファイルのオープンを行うシステム関数でエラーが発生しました。

対処

function および errno からエラーが発生した原因を特定し、問題を取り除いたあとで再度実行してください。

KDLC5211-E

The error occurred in check process of simultaneous execution.(function=<失敗したシステム関数名>,>,errno=<エラーの詳細情報>,fileID=<エラーが発生したファイルの ID>,line=<エラーが発生した行番号>)

要因

1. ファイルのロック処理を行うシステム関数でエラーが発生しました。
2. ミューテックスオブジェクトの生成を行うシステム関数でエラーが発生しました。

対処

function および errno からエラーが発生した原因を特定し、問題を取り除いたあとで再度実行してください。

KDLC5212-E

Can't open UTL.BLCproperties.(details information:<例外情報>)

要因

BLC のユーティリティ用プロパティファイル (UTL.BLCproperties) の読み込み処理で入力例外が発生しました。

対処

アプリケーションサーバの環境を確認してください。

KDLC5213-E

Can't access UTL.BLCproperties.(details information:<例外情報>)

要因

セキュリティマネージャによって、そのスレッドのシステムリソースアクセスが拒否されました。

対処

システムプロパティのアクセスを許可して、再実行してください。

KDLC5215-E

Password input process was failed.(function=<失敗したシステム関数名>,errno=<エラーの詳細情報>,>,fileID=<エラーが発生したファイルの ID>,line=<エラーが発生した行番号>)

要因

パスワードで使用しているシステム関数でエラーが発生しました。

対処

function および errno からエラーが発生した原因を特定してください。

KDLC5216-E

Command starting process was failed.(function=<失敗したシステム関数名>,errno=<エラーの詳細情報>,fileID=<エラーが発生したファイルの ID>,line=<エラーが発生した行番号>)

要因

コマンドの起動処理を制御するシステム関数でエラーが発生しました。

対処

function および errno からエラーが発生した原因を特定してください。

KDLC5220-E

This platform is not supported.

要因

コマンドを実行したプラットフォームは、サポートされていません。

対処

必要ありません。

KDLC5222-E

Command was terminated forcibly.

要因

実行中のコマンドが強制停止されました。

対処

必要ありません。

KDLC5225-E

指定された引数(<指定された引数>)に誤りがあります。

要因

コマンドの使用方法が誤っています。

対処

システム管理者に連絡してください。

KDLC5226-E

指定されたファイルパス(<ファイル名>)にアクセス権がありません。

要因

指定したファイルパスにアクセス権がありません。

対処

指定したファイルパスのアクセス権を確認し、再度実行してください。

KDLC5227-E

指定されたファイルは既に存在します。オプション=<オプション>,ファイル=<ファイル名>

要因

指定されたファイルが存在します。

対処

ファイルを削除するか、またはファイル名を変更したあと、再度実行してください。

KDLC5228-E

指定されたファイルが存在しません。オプション=<オプション>,ファイル=<ファイル名>

要因

1. 指定されたファイルが存在しません。
2. 指定されたファイルまたはディレクトリにアクセス権がありません。

対処

指定したファイル名を確認して、再度実行してください。

KDLC5229-E

指定されたファイル(<ファイル名>)の作成に失敗しました。

要因

1. アクセス権のないディレクトリを含むファイル名が指定されています。
2. 指定されたファイル名に、ファイル名として使用できない文字が含まれています。

対処

1. アクセス権を確認して、再度実行してください。
2. ファイル名として使用できる文字を確認して、再度実行してください。

KDLC5230-E

There is not enough memory.(function=<失敗したシステム関数>,size=<要求サイズ>,fileid=<エラーが発生したファイルの ID>,line=<エラーが発生した行番号>)

要因

メモリ不足が発生しました。

対処

不要なプロセスを終了させるか、またはスワップ領域を増やしたあと、再度実行してください。

KDLC5231-E

The utility could not obtain environment information.

要因

環境情報の取得に失敗しました。

対処

1. 動作環境を確認したあと、再度実行してください。
2. 製品を再度インストールし、再度実行してください。

KDLC5232-E

指定されたパラメタの値に誤りがあります。オプション=<オプション>, パラメタ=<パラメタ>

要因

オプションに指定されたパラメタの値が誤っています。

対処

コマンドの使用方法を確認して、再度実行してください。

KDLC5233-E

指定されたファイルの内容に誤りがあります。オプション=<オプション>, ファイル=<ファイル名>

要因

オプションに指定されたファイルの内容が誤っています。

対処

指定したファイルの内容を確認して、再度実行してください。

KDLC5234-E

業務データベースの保存に失敗しました。(<終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) >) (詳細情報: <例外情報 >)

要因

業務データベースを保管用テーブルに保管する処理で例外が発生しました。または、業務データベース保管用プロシージャの実行に失敗しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5235-E

BLC データベースの保存に失敗しました。(<終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) >) (詳細情報: <例外情報 >)

要因

BLC データベースの保存処理で例外が発生しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5236-E

業務データベースの削除に失敗しました。(<終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) >) (詳細情報: <例外情報 >)

要因

業務データベースの削除処理で例外が発生しました。または、業務データベース削除用プロシージャの実行に失敗しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5237-E

BLC データベースの削除に失敗しました。(＜終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) ＞) (詳細情報：＜例外情報＞)

要因

BLC データベースの削除処理で例外が発生しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5238-E

ワーク管理データベースの削除に失敗しました。(＜終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) ＞) (詳細情報：＜例外情報＞)

要因

ワーク管理データベースの削除処理で例外が発生しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5241-E

The utility that can't be executed simultaneously is already started.

要因

同時に実行できないコマンドがすでに起動されているため、コマンドを実行できません。

対処

実行中のコマンドが終了したあと、再度実行してください。

ロックファイルがある場合は、ほかに実行中のコマンドがないことを確認した上で、ロックファイルを削除してから再度実行してください。

KDLC5242-E

Command was terminated forcibly.

要因

実行中のコマンドが強制的に停止されました。

対処

必要ありません。

KDLC5243-E

“＜キー名＞” key does not specified in <プロパティファイル名>.

要因

プロパティファイルに、該当するキーがありません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

出力された内容を基にプロパティファイルを見直してください。

KDLC5245-E

BP 定義名ファイルに指定された BP 定義名がありません。BP 定義名=<ビジネスプロセス定義名>

要因

ビジネスプロセス定義名ファイルに指定された名称のビジネスプロセス定義がワーク管理データベースにありません。

対処

ビジネスプロセス定義名ファイルに指定された名称のビジネスプロセス定義が CSCIW に登録済みであるか確認してください。

KDLC5246-E

ワーク管理データベースの保存に失敗しました。(<終了日時 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss) >) (詳細情報: <例外情報>)

要因

ワーク管理データベースの保存処理で例外が発生しました。

対処

詳細情報の要因に応じて対処してください。

KDLC5247-E

環境変数が未定義です。環境変数=<環境変数名>

要因

環境変数が未定義です。

対処 (管理者の場合)

出力された内容を基に、必要な環境変数を定義してから再度実行してください。

KDLC5248-E

環境変数の値が不正です。環境変数=<環境変数名>,値=<値>

要因

環境変数に指定した値が、正しいインストールディレクトリではありません。

対処 (管理者の場合)

次に示す環境変数に正しいインストールディレクトリを指定してください。

1. COSMINEXUS_HOME

Cosminexus のインストールディレクトリを指定してください。

2. CSCIW_HOME

CSCIW のインストールディレクトリを指定してください。

3. BLC2_HOME

BLC2 のインストールディレクトリを指定してください。

KDLC5249-E

完了案件削除ユティリティ設定ファイルが存在しません。Path=<パス名>

要因

完了案件削除ユティリティ設定ファイル (BLCDelPI_conf.bat) が存在しません。

対処 (管理者の場合)

完了案件削除ユティリティ設定ファイルのサンプルファイル (BLCDelPI_conf.bat.sam) を基に、完了案件削除ユティリティ設定ファイルを作成してください。

KDLC5250-E

権限の判定中にエラーが発生しました。

要因

権限の判定中にエラーが発生しました。

対処 (管理者の場合)

メモリが不足している可能性があります。空きメモリを増やしたあと、再度コマンドを実行してください。

KDLC5251-E

管理者特権がないため、コマンドを実行できません。

要因

管理者特権がないため、コマンドを実行できません。

対処 (管理者の場合)

管理者として実行したコマンドプロンプト上で、再度コマンドを実行してください。

KDLC5501-E

コマンドを同時実行しているため、失敗しました。

要因

同時に実行しているコマンドがあるため、コマンドを実行できません。

対処 (管理者の場合)

同時に実行しているコマンドがないか見直し、再度コマンドを実行してください。

KDLC5502-E

指定されたコマンドの形式が不正です。

要因

指定したコマンドの形式が不正です。

対処 (管理者の場合)

指定したコマンドの形式が正しいか見直し、再度コマンドを実行してください。

KDLC5503-E

ユーザ情報テーブルを更新できません。ユーザ ID=<ユーザ ID>

要因

- 1.DB にデータが存在しないため、ユーザ情報テーブルを更新できません。
- 2.重複データが存在するため、ユーザ情報テーブルを更新できません。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

ユーザ情報テーブルの該当するユーザを修復してください。

KDLC5504-E

パスワードの変換に失敗しました。旧パスワードに不正な値が設定されています。

要因

旧パスワードの解析に失敗しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

ユーザ情報テーブルの旧パスワードが、BLC の提供するログイン認証機能を利用してスクランブル化されていることを確認してください。

KDLC9201-E

システムエラーが発生しました。保守情報：<例外情報>

要因

プログラムエラーが発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC9202-E

システム関数(<エラーとなったシステム関数名>)でエラーが発生しました。

要因

システム関数でエラーが発生しました。

対処 (エンドユーザの場合)

管理者に連絡してください。

対処 (管理者の場合)

システム管理者に連絡してください。

KDLC9203-E

ページ処理を中断します。

要因

BLCException クラスで例外処理コード (doProc 引数) を指定した例外を、エラーとしてスローしたことを示すページ制御用のメッセージです。

対処 (管理者の場合)

続く別ページの処理へ制御を引き渡すだけなので、このエラーについて対処は必要ありません。

KDLC9301-E

業務処理に失敗しました。〈ユーザ追加処理が指定した任意の文字列〉

要因

ユーザ追加処理でエラーが生成されました。要因は、ユーザ追加処理（各業務）で定義されます。

対処（エンドユーザの場合）

業務で定義された〈ユーザ追加処理が指定した任意の文字列〉の内容から、その要因に対応した対処をしてください。業務で対処が定義されていない場合は、管理者に連絡してください。

対処（管理者の場合）

ユーザ追加処理で出力された〈ユーザ追加処理が指定した任意の文字列〉の内容から要因を調査し、対処を定義してください。

付録 J このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 J.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- uCosminexus 電子フォームワークフロー システム構築ガイド (3020-3-Q31)
電子フォームワークフローのシステムを構築する方法、および Web 帳票アプリケーションを作成する方法について説明しています。
- uCosminexus 電子フォームワークフロー アプリケーション開発ガイド (3020-3-Q33)
電子フォームワークフローの Web 帳票アプリケーションを開発する方法について説明しています。
- uCosminexus 電子フォームワークフロー API リファレンス (3020-3-Q34)
電子フォームワークフローが提供する Java クラスおよびオブジェクトについて説明しています。
- Cosminexus V9 アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説 (3020-3-Y01)
- Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド (3020-3-Y02)
セットアップウィザードまたは Smart Composer 機能を使用してシステムを構築・運用する方法について説明しています。
- Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義) (3020-3-Y16),
Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(アプリケーション/リソース定義)
(3020-3-Y17)
Cosminexus の構築・運用・アプリケーション開発で使用するファイルの形式や、ファイルの定義方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド (3020-3-M80)
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow (CSCIW) の概要およびシステムの構築・運用方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow AP 開発ガイド (3020-3-M81)
ビジネスプロセス定義の開発方法や業務プログラムの作成方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 案件運用操作ガイド (3020-3-M82)
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow のツールである案件運用操作の概要および使用方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow ビジネスプロセス開発ガイド (3020-3-M85)
ビジネスプロセス管理ツール (CSCIW-Definer) を使用し、ワーク管理システムで運用するビジネスプロセスの定義、運用方法について説明しています。
- uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)
uCosminexus Portal Framework 全体の機能およびポータル構築方法について説明しています。ポータルを構築する管理者を対象とした内容です。
- uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)
uCosminexus Portal Framework のポートレットの開発方法および開発時に使用する API について説明しています。

- uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド (3020-3-H74)
uCosminexus Portal Framework の機能概要、および操作方法について説明しています。
- 帳票システム構築支援 uCosminexus EUR uCosminexus EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票) (3020-7-534)
EUR Form の概要、および EUR Form 帳票を作成する方法について説明しています。
- 電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form システム設計・管理 (3020-7-491)
EUR Form の概要、機能、システム設計、システム構築、およびトラブルシューティングについて説明しています。
- 電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発 (3020-7-492)
EUR Form 帳票を使う業務を実現するためのサーバシステム構築の方法について説明しています。
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R)用) (3020-6-355)
HiRDB で使用するコマンドの文法について説明しています。
- HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用) (3020-6-455)
HiRDB で使用するコマンドの文法について説明しています。

付録 J.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
HiRDB	HiRDB/Developer's Kit	HiRDB/Developer's Kit Version 8 HiRDB/Developer's Kit Version 9
	HiRDB/Parallel Server	HiRDB/Parallel Server Version 8 HiRDB Server Version 9
	HiRDB/Run Time	HiRDB/Run Time Version 8 HiRDB/Run Time Version 9
	HiRDB/Single Server	HiRDB/Single Server Version 8 HiRDB Server Version 9
BLSG		Hitachi Business Logic - Container - Script Generator
BLC		Hitachi Business Logic - Container 2
J2EE		J2EE™
Java		Java™
Servlet		Java™ Servlet
Java VM		Java™ Virtual Machine
JDK		JDK™
JSP		JSP™
Oracle		Oracle 11g

表記		製品名
Cosminexus		uCosminexus Application Server
		uCosminexus Developer
EUR Form	EUR Form Client	uCosminexus EUR : イーユーアール Form Client
	EUR Form Service	uCosminexus EUR : イーユーアール Form Service
Portal Framework		uCosminexus Portal Framework
CSCIW		uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow

付録 J.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Program Interface
BP	Business Process
CSS	Cascading Style Sheets
DB	Database
EAR	Enterprise Archive
EIS	Enterprise Information System
EJB	Enterprise JavaBeans™
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
JAR	Java™ Archive
JIS	Japanese Industrial Standards
OS	Operating System
UAC	User Account Control
UAP	User Application Program
URL	Uniform Resource Locator
UTF	UCS Transformation Format
WAR	Web Archive
Web	World Wide Web
XML	Extensible Markup Language

付録 J.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

付録 K 用語解説

(英字)

BLC

ワークフローに対応する帳票アプリケーションの開発と実行を支援するプログラムです。JSP 形式の帳票アプリケーションを自動生成する帳票ジェネレータ (BLSG) 機能と、帳票アプリケーションを実行する BLC 実行環境機能で構成されています。

BLCDIRS テーブル

BLC のユーザ情報、組織情報を管理します。ビューにカラムを追加したり、テーブルにカラムを追加したりするカスタマイズができます。

BLCMASTER テーブル

BLC の案件情報やトランザクション情報 (案件遷移情報、帳票データなど) を管理します。カスタマイズはできません。

BLC 実行環境機能

BLC の機能の一つです。帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して作成した帳票アプリケーションの標準的な実行環境です。

BLC 帳票

HTML を入力として帳票ジェネレータ (BLSG) で生成した帳票のことです。

BLC 予約コントロール

EUR Form 帳票編集時にデフォルトで配置される帳票コントロールのことです。ID には「#BLC」というプレフィックスが追加されます。

BLSGJ

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の中の、帳票ファイル (JSP 形式) を生成する機能です。

CSCIW

対話型ワークフローを適用したワーク管理システムを構築・運用するためのソフトウェアです。

CSCIW-Definer

ビジネスプロセスを定義、管理および運用するビジネスプロセス管理ツールのことです。uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in を Eclipse に組み込むことでビジネスプロセス管理ツールとして使用できます。

DB アクセス専用帳票

帳票の種類の一つです。案件の申請処理および承認処理を実行しないで、帳票からデータベースの更新だけを実行するための帳票です。

DB アクセス定義

帳票または帳票モジュールが DB との入出力処理を実行するための定義です。

EUR Form 帳票

EUR Form で BLC 連携用帳票として生成した帳票のことです。EUR Form 帳票定義ファイル (*.efs) から生成したファイルです。ファイルの拡張子は efd です。

EUR Form 帳票定義情報

EUR Form 帳票の定義情報を含む四つの CSV ファイルです。uCosminexus EUR Developer が出力します。BLSG (03-01 以降) で EUR Form 連携帳票を作成する際に読み込みます。

EUR Form 帳票定義ファイル

バックグラウンドや配置した帳票コントロールの情報など、EUR Form 帳票の定義情報を保存したファイルです。ファイルの拡張子は efs です。

EUR Form 帳票名

EUR Form 帳票を格納フォルダ内でユニークになるように識別する名称です。EUR Form 帳票を EUR Form 帳票ファイル名で管理する場合は、指定は任意です。

EUR Form 連携帳票

EUR Form 帳票の送信ユニット情報の一覧表を入力として帳票ジェネレータ (BLSG) で生成した、EUR Form 帳票を表示するための連携帳票です。

(ア行)

宛先

次のノードで、帳票を処理する作業者のことです。

案件

ビジネスプロセスの開始から終了までを一つの単位とする、業務の実例 (ビジネスプロセスインスタンス) のことです。

案件 ID

CSCIW で案件を識別するための識別子です。案件 ID は CSCIW によって設定されます。

案件状態

BLC 上での案件の状態を表します。[送信ログ] 画面で案件ごとに表示されます。案件投入後は自動的に「処理中」が設定され、BLSG で案件状態を「完了」にする作業を指定できます。カスタマイズによって「処理中」、「完了」以外の値を指定することもできます。

案件名

CSCIW の案件に付ける名前です。BLC では申請 ID と同じ値を設定します。

[案件履歴] 画面

案件の作業履歴を表示する画面です。これまでに完了した案件の作業名、処理者、処理日時が表示されます。

(カ行)

拡張受信ボックス

標準の受信ボックスで表示する情報に加えて、カスタマイズによってユーザの業務テーブルの情報を表示できる受信ボックスです。

カスタム申請

申請画面を表示する条件を設定してから、その設定内容に基づいた申請画面を表示する方法です。

カスタム申請帳票

カスタム申請のソース帳票の設定内容に基づいて表示される申請画面の帳票です。

カスタム申請のソース帳票

帳票の種類の一つです。カスタム申請時に、申請画面を表示する条件を設定するための帳票です。

画面 HTML

ユーザインタフェースとなる帳票の画面の HTML ファイルです。画面 HTML では、画面項目、項目のレイアウト、画面の配色などを定義します。

完全作業名

BLC で作業を一意にするための名前です。CSCIW-Definer の作業の種類によって、次のように異なります。

- 一般作業の場合、"業務ステップ定義名-作業定義名"
- 並列作業の子作業の場合、"業務ステップ定義名-作業名"

業務ステップ

CSCIW-Definer のビジネスプロセス定義の構成要素の一つです。作業の集合として定義されます。

共有トレイ

ユーザが共同で利用できるトレイです。トレイ内の案件は、共有トレイ利用者だけが作業できます。共有トレイ利用者は役職および組織の単位で設定できます。

組み込み作業

CSCIW-Definer の作業の種類です。ワーク管理システムの基本的な機能を組み合わせることで実現するような複雑な処理を一つの作業としてまとめたものです。組み込み作業には、並列作業があります。

項目グループ

複数の帳票モジュール項目をグループ化したものです。入力チェックやデータベースへの書き出し処理などを項目グループ単位で実行できます。

例

「年」, 「月」, 「日」の三つの項目を項目グループと定義します。

(サ行)

作業 (WorkItem)

CSCIW-Definer の業務ステップ中に定義する業務処理の単位です。

承認帳票

承認処理をする帳票です。

シンクノード

CSCIW の案件の終了を意味します。推進された案件は、シンクノードに状態を遷移することで完了します。

申請 ID

BLC 上で案件を一意に特定するための ID です。CSCIW の案件 ID とは異なります。

申請帳票

申請処理をする帳票です。

先着ノード

CSCIW-Definer の制御ノードの一つです。直前の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップのうち、どれか一つが完了した時点で次の業務ステップを開始します。

送信ユニット

EUR Form 帳票に入力され、指定された送信先に送信されるデータです。

送信ユニット情報の一覧表

uCosminexus EUR Developer で出力した一覧表のことです。

(夕行)

帳票

BLC で開発および実行する帳票アプリケーションのことです。また、BLC 帳票と EUR Form 関係帳票を総称して帳票と呼びます。

帳票開始処理

DB から帳票データを読み出す前に呼び出され、帳票の新規表示時だけ呼ばれる処理です。

帳票コントロール

EUR Form 帳票を構成するテキスト領域やボタンなどのオブジェクトのことです。EditField, MultiLineEditField, DropDownList, CheckBox, RadioButton, CommandButton などの複数のオブジェクトを組み合わせて、一つの帳票を表現します。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能

BLC の機能の一つです。入力された帳票アプリケーションの構成要素となる情報を結合して、帳票ファイル (JSP 形式) を生成します。

帳票定義

帳票の内容を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義したものです。

帳票定義情報リポジトリ

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義した帳票定義の情報を格納しておくためのファイルです。画面 HTML およびビジネスプロセス定義の情報の一部が格納されます。画面 HTML が変更されたために帳票を再生成する場合、帳票定義情報リポジトリに格納されたビジネスプロセス定義の情報を利用できるので、ビジネスプロセス定義を再入力する必要はありません。また、ビジネスプロセス定義が変更された場合も同様に、画面 HTML を再入力する必要はありません。

帳票の運用状態

名称別帳票一覧に帳票名を表示するか、申請を許可するかどうかの設定です。運用状態には、許可/不可/不可(互換)の3種類があります。

帳票バージョン

帳票定義のバージョン番号のことです。

帳票ファイル (JSP 形式)

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成した、帳票アプリケーションの JSP ファイルのことです。

帳票前処理

帳票前処理は、DB からの案件情報や帳票データの読み出し後、帳票を表示する直前で呼ばれる処理です。新規表示 (申請帳票) と再表示 (承認帳票) の両方で呼ばれます。

帳票モジュール

帳票の内容を構成する要素です。テキスト領域やボタンなどの項目の集まりで構成されます。複数の帳票モジュールを組み合わせて一つの帳票を表現します。

帳票モジュール項目

帳票モジュールを構成するテキスト領域やボタンなどです。

帳票モジュール定義

帳票モジュールの内容を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義したものです。

電子フォームワークフロー

電子フォームとワークフローの技術の連携によって、業務プロセスの可視化を実現する製品です。

(ナ行)

内容確認画面

過去に処理した帳票の内容を確認する画面です。

ノード

CSCIW-Definer の業務ステップで行う処理である、作業 (WorkItem) のことです。

(ハ行)

ビジネスプロセス (BP)

業務を実行するための作業の流れです。

ビジネスプロセス定義

業務の流れ (ビジネスプロセス) を CSCIW-Definer のビジネスプロセス管理で定義したものです。BLC では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票アプリケーションを作成する際に、ビジネスプロセス定義の情報 (プロセス定義情報) を入力する必要があります。

振替先

案件を代行して処理するユーザのことです。

振り分けルール

CSCIW の、作業者を決定するためのルールです。作業者は、ビジネスプロセス定義の各作業に指定した振り分けルールを適用することで決定します。

分岐ノード

CSCIW-Definer の制御ノードの一つです。次の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップから、条件に従って一つの業務ステップを選択し、開始します。

分業ノード

CSCIW-Definer の制御ノードの一つです。次の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップをすべて開始します。

並列作業

CSCIW-Definer の組み込み作業の一つです。並列作業をビジネスプロセスに定義しておくことで、案件の実行時に複数の作業が自動的に生成されます。生成される作業数は、案件の実行時に決まります。

ボタン DB 更新後処理

ボタン DB 更新処理のあと、BLC の DB トランザクション、CSCIW のトランザクションの終了後に呼ばれる処理です。

ボタン DB 更新処理

ボタン DB 更新前処理のあと、BLC の DB トランザクション中に呼ばれる処理です。

ボタン DB 更新前処理

申請ボタンや承認ボタンなどのボタンをクリックしたあと、BLC の申請/承認処理の延長（BLC の DB 処理の前）で呼ばれる処理です。

(ヤ行)

ユーザ追加処理

帳票のボタン処理などに、ユーザが任意に追加する処理のことです。ユーザが JavaScript や Java クラスで作成します。

ユーザ定義クラス

サーバ側のユーザ追加処理をカスタマイズするために、ユーザが任意に作成するクラスです。ユーザ追加処理をカスタマイズするには、帳票クラスを継承して、必要なメソッドをオーバーライドします。

(ラ行)

リソースアダプタ

J2EE Connector Architecture によって、J2EE サーバと EIS を接続するための接続機能です。

索引

B

- BLC 2
- BLC_AGENT_INFO_T テーブル 533
- BLC_BASE_INFO_T テーブル 515
- BLC_BK_FILE_T テーブル 539
- BLC_BK_FORM_DATA_T テーブル 538
- BLC_BK_HISTORY_T テーブル 541
- BLC_BK_INBOX_T テーブル 534
- BLC_BK_SENTLOG_T テーブル 537
- BLC_FILE_T テーブル 522
- BLC_FORM_DATA_T テーブル 519
- BLC_FORM_INFO_T テーブル 520
- BLC_FORM_USERAUTH_T テーブル 532
- BLC_INBOX_T テーブル 516
- BLC_INBOX_WI_LIST_V 382
- BLC_INBOX_WI_PIGROUP_V 383
- BLC_JOB_TITLE_T テーブル 528
- BLC_ORG_T テーブル 529
- BLC_ORG_V ビュー 525
- BLC_PORTAL_INFO_T テーブル 531
- BLC_TARGET_USER_T テーブル 528
- BLC_TARGET_USER_V ビュー 527
- BLC_UNIQUE_ID_T テーブル 519
- BLC_USER_INFO_T テーブル 530
- BLC_USER_V ビュー 526
- BLCAuthenticate クラス・BLCAuthenticatePortal
クラス 507
- BLCCommon クラス 509
- BLCDBAccess クラス 378
- BLCDBDef クラス 506
- BLCDBFormDataHistoryOperation クラス 189
- BLCDBFormDataOperation クラス 240
- BLCDBPIHistoryElement クラス 189
- BLCDirs クラスに関するカスタマイズ 158
- BLCDirs クラスのカスタマイズ 159
- BLCDirs クラスのカスタマイズ [BLC 実行環境のカ
スタマイズの概要] 41
- BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ 158
- BLCDirs クラス用データベースのカスタマイズ [BLC
実行環境のカスタマイズの概要] 41
- BLCDIRS データベース 523
- BLCDIRS テーブル [用語解説] 742
- BLCEURFormBase クラス 240
- BLCEURFormProcess クラス 240
- BLCLinbox.jsp のカスタマイズ 172
- BLCLinboxItem.jsp のカスタマイズ 173
- BLCLsentlog.jsp のカスタマイズ 177
- BLCMail クラス 195
- BLCMASTER データベース 514
- BLCMASTER テーブル [用語解説] 742
- BLCRequestData クラス 510
- BLCSTRPortal クラス 510
- BLCTrace クラス 509
- BLCWFPIStart クラス 190
- BLCWFWIBackward クラス 196
- BLC が出力する情報 338
- BLC クラス一覧 504
- BLC 実行環境機能 30
- BLC 実行環境機能 [用語解説] 742
- BLC 実行環境のカスタマイズの概要 40
- BLC 帳票 10
- BLC 帳票アプリケーション開発作業手順 23
- BLC 帳票の機能 12
- BLC 帳票の基本構造 10
- BLC 帳票の添付ファイルの使い方 634
- BLC 帳票の添付ファイルを使う上での注意事項 643
- BLC 帳票の添付ファイルを使うための環境設定 634
- BLC 帳票の特長 10
- BLC 帳票 [用語解説] 742
- BLC でカスタマイズできる範囲 37
- BLC で起動する画面のサイズ 168
- BLC で使用する振り分けルールの定義 500
- BLC で利用するビジネスプロセスの定義 499
- BLC トレースファイル (BLC) 337
- BLC 認証 170
- BLC 認証確認 170
- BLC の javascript ファイル 168
- BLC の Java クラスの拡張 42
- BLC の JSP ファイルのカスタマイズ 43
- BLC のカスタマイズ方法 252
- BLC のスタイルシート 167
- BLC のポータル画面の構成 102
- BLC のポータル画面の操作方法 107
- BLC のポータル画面を操作する上での制限事項 107
- BLC のユーティリティ 305
- BLC のユーティリティの障害対策 340
- BLC プロパティファイル 543
- BLC プロパティファイルのカスタマイズ 183
- BLC 予約コントロール [用語解説] 742
- BLC 例外 187
- BLC [用語解説] 742

BLSGJ [用語解説] 742

C

CSCIW [用語解説] 742
 CSCIW-Definer [用語解説] 742
 [CSV 出力] 画面 284
 CSV ファイルのフォーマット 284
 [CSV 読込] 画面 283

D

DB アクセス実行機能 15
 DB アクセス専用帳票 18
 DB アクセス専用帳票を作成する 79
 DB アクセス専用帳票 [用語解説] 742
 [DB アクセス] タブ [[帳票定義] 画面 (BLC 帳票の
 場合)] 460
 [DB アクセス] タブ [[帳票モジュール定義] 画面] 474
 DB アクセス定義実行クラスの補足情報 506
 DB アクセス定義の定義方法 81
 DB アクセス定義の定義方法の詳細 95
 [DB アクセス定義の編集] ダイアログ 486
 DB アクセス定義ファイル (定義用) 613
 DB アクセス定義 [用語解説] 742
 DB 出力制御 91

E

EUR Form 帳票遷移 JSP のカスタマイズ 234
 EUR Form 帳票定義情報 [用語解説] 743
 EUR Form 帳票定義ファイル [用語解説] 743
 EUR Form 帳票に保留ボタンを追加する方法 234
 EUR Form 帳票名 [用語解説] 743
 EUR Form 帳票 [用語解説] 742
 EUR Form 連携帳票 19
 EUR Form 連携帳票アプリケーション開発作業手順
 25
 EUR Form 連携帳票画面 (保管案件の照会機能) 398
 EUR Form 連携帳票から表示される EUR Form 帳票
 の基本構造 19
 EUR Form 連携帳票使用時の注意事項 252
 EUR Form 連携帳票の機能 20
 EUR Form 連携帳票の特長 10
 EUR Form 連携帳票 [用語解説] 743

S

[SQL 検索条件指定] タブ 489
 [SQL 定義] ダイアログ 496
 SQL 文の組み立て 98

W

Web 帳票アプリケーションの構成要素 3

あ

アクセス制御の管理 289
 宛先一覧フレームの構成 (宛先の管理) 122
 宛先管理画面 122
 宛先管理機能 35
 宛先選択機能 [BLC 帳票] 15
 宛先選択機能 [EUR Form 連携帳票] 22
 宛先選択ドロップダウンリスト [BLC 帳票] 12
 宛先選択ドロップダウンリスト [EUR Form 連携帳
 票] 20
 宛先選択のカスタマイズ 144
 宛先の管理 124
 宛先の削除 125
 宛先の追加 124
 宛先の未指定のチェック 194
 宛先の未登録のチェック 240
 宛先 [用語解説] 743
 案件 ID [用語解説] 743
 案件管理機能 36
 [案件強制終了] 画面 303
 [案件検索] 画面 294
 [案件検索結果] 画面 296
 案件状態 [用語解説] 743
 案件処理機能 34
 案件処理フレームワーククラス 510
 案件の宛先を管理する 122
 案件の検索 300
 案件の処理 115
 案件の申請 110
 案件の送信ログを参照する 117
 案件の引き戻しと差し戻し 196
 案件の振り替え (共有トレイ) 437
 案件の振り替え (代行依頼者) 436
 案件の振り替え機能 409
 案件の振り替え機能の概要 410
 案件の振り替え機能を使用するための環境設定 412
 [案件振替] 画面 421
 案件名に関する注意事項 252
 案件名 [用語解説] 743
 案件履歴画面 298
 [案件履歴] 画面 119
 [案件履歴] 画面 [用語解説] 743
 案件履歴項目として設定する値 189
 案件履歴の追加 189
 案件を処理する 112

案件を申請する 110
 案件〔用語解説〕 743

い

一覧処理機能 31
 一覧処理機能のカスタマイズ 172
 一覧処理機能のカスタマイズ〔BLC 実行環境のカスタマイズの概要〕 41
 一括承認機能 347
 一括承認機能で使用する画面例 348
 一括承認機能のカスタマイズ 357
 一括承認機能を使用する際の注意事項 353
 一括承認機能を使用するための環境設定 355
 一括承認機能を使用するための条件 354
 一括承認機能を使用する場合の BLC のポータル画面の構成例 348
 〔一括承認受信ボックス（業務別件数）〕画面 349
 〔一括承認受信ボックス〕画面 350

え

エラー情報表示ページ 188
 エラー情報表示ページのカスタマイズ 187
 エラー情報表示ページのカスタマイズの概要 42
 エラー発生時の操作方法 107

お

〔オプション〕タブ 465

か

開始と終了 244
 〔開発環境設定〕ダイアログ 450
 開発環境のシステム構成 5
 開発環境の前提環境 7
 開発環境を設定する（BLC 帳票の場合） 49
 開発環境を設定する（EUR Form 連携帳票の場合） 205
 開発作業の流れ（BLC 帳票の場合） 46
 開発作業の流れ（EUR Form 連携帳票の場合） 202
 各画面エリア 261
 拡張受信ボックス機能 379
 拡張受信ボックス機能のカスタマイズ 385
 拡張受信ボックス機能のビュー定義 382
 拡張受信ボックス〔用語解説〕 743
 カスタマイズ機能 37
 カスタマイズ時の Java クラス/メソッド・メンバ名命名規則 39
 カスタマイズ時の注意事項 39
 カスタマイズ時のファイル命名規則 39

カスタマイズの概要 37
 〔カスタム申請〕タブ 458
 カスタム申請帳票〔用語解説〕 743
 カスタム申請のソース帳票 16
 カスタム申請のソース帳票を作成する 76
 カスタム申請のソース帳票〔用語解説〕 744
 カスタム申請〔用語解説〕 743
 画面 HTML〔用語解説〕 744
 〔カラム項目定義〕ダイアログ 490
 〔カラム項目定義〕タブ 489
 環境設定の手順（保管案件の照会機能） 301
 完全作業名〔用語解説〕 744
 管理機能とアクセス制御 290
 完了案件削除 BLC プロパティファイルで設定できる項目 616
 完了案件削除 BLC プロパティファイルの設定例 618
 完了案件削除ユティリティ 306
 完了案件削除ユティリティ実行時の障害 342
 完了案件削除ユティリティ実行時の前提条件 307
 完了案件削除ユティリティのプロパティファイル 614
 完了案件の保管用データベース 533

き

〔基本情報〕タブ〔〔開発環境設定〕ダイアログ〕 450
 〔基本情報〕タブ〔〔帳票定義〕画面（BLC 帳票の場合）〕 454
 〔基本情報〕タブ〔〔帳票定義〕画面（EUR Form 連携帳票の場合）〕 462
 共通エリア 260
 共通クラスの補足情報 509
 〔共通項目〕タブ 478
 業務が完了した案件を保管・削除する流れ 306
 業務完了指示 456
 〔業務ステップ〕タブ 493
 業務ステップ〔用語解説〕 744
 業務データベース保管用テーブル 542
 業務別作業件数取得用ビュー 383
 〔共有トレイ一覧〕画面 423
 〔共有トレイ管理〕画面 424
 〔共有トレイ更新〕画面 428
 〔共有トレイ登録〕画面 426
 共有トレイの設定 438
 〔共有トレイ利用者一覧〕画面 430
 共有トレイ利用者の設定 440
 共有トレイ〔用語解説〕 744

<

組み込み作業〔用語解説〕 744

クライアント側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ
152
 クライアント表示機能 30
 クライアント表示機能のカスタマイズ 160
 クライアント表示機能のカスタマイズ [BLC 実行環境
のカスタマイズの概要] 41

け

継承項目 78
 [継承項目の追加] ダイアログ 469
 [継承項目の編集] ダイアログ 469
 検索結果一覧から強制終了する 303
 検索した案件の内容確認 301
 検索した案件の履歴表示 300
 検索した案件を強制終了する 303

こ

[項目グループ] タブ 474
 [項目グループ定義編集] ダイアログ 484
 項目グループ [用語解説] 744
 [項目入力・表示制御] タブ 472
 [項目入力・表示制御] タブに関連するダイアログ 476
 項目の表示属性の変更 151
 [項目プロパティ] タブ 473
 [項目プロパティの編集] ダイアログ 477
 [項目変数名編集] ダイアログ 470
 コメント記述テキスト領域 [BLC 帳票] 11
 コメント記述テキスト領域 [EUR Form 連携帳票] 20

さ

サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (BLC
帳票の場合) 142
 サーバ側のユーザ追加処理で行うカスタマイズ (EUR
Form 連携帳票の場合) 224
 サーバ側のユーザ追加処理で設定するエラー処理の概
要 42
 サーバ側のユーザ追加処理の呼び出し順序 144
 最新の帳票定義を読み込む 132
 作業 (WorkItem) [用語解説] 744
 作業一覧取得用ビュー 382
 [作業関連] タブ [[帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場
合)] 456
 [作業関連] タブ [[帳票定義] 画面 (EUR Form 連携
帳票の場合)] 464
 [作業関連] タブに関連するダイアログ 466
 削除結果ファイル 325
 サンプル帳票作成時に必要な作業 628

し

システム構成 5
 実行環境のシステム構成 5
 実行環境の前提環境 8
 自動生成帳票クラス [BLC 帳票の場合] 52
 自動生成帳票クラス [EUR Form 連携帳票の場合]
209
 [受信ボックス (業務別件数)] 画面 112
 [受信ボックス] 画面 113
 [受信ボックス] 画面のカスタマイズ 172
 [受信ボックス] 画面の項目とデータベースの項目の対
応 175
 [受信ボックス] 画面の追加項目の設定方法 175
 [上位組織選択] 画面 269
 障害対策の流れ 336
 [条件選択] ダイアログ 495
 [条件定義] ダイアログ 492
 承認帳票 [用語解説] 744
 承認履歴 11
 承認履歴表示機能 14
 処理状況確認画面 352
 処理のフロー 399
 処理ボタンのカスタマイズ 144
 処理ボタン表示機能 [BLC 帳票] 15
 処理ボタン表示機能 [EUR Form 連携帳票] 22
 処理ボタン [BLC 帳票] 12
 処理ボタン [EUR Form 連携帳票] 20
 シンクノード [用語解説] 744
 申請 ID [用語解説] 744
 申請帳票画面へのリンク機能 361
 申請帳票画面へのリンク機能のエラー処理 365
 申請帳票画面へのリンク機能の使用方法 364
 申請帳票 [用語解説] 744

す

ストリングリソース一覧 (識別コード 1000~1199)
553
 ストリングリソース一覧 (識別コード 1200~1399)
561
 ストリングリソース一覧 (識別コード 3000~3199)
570
 ストリングリソース一覧 (識別コード 3200~3399)
583
 ストリングリソース一覧 (識別コード 3400~3599)
587
 ストリングリソース一覧 (識別コード 4500~4999)
588

スtringリソース一覧 (識別コード 7000~7199)
 592
 Stringリソース一覧 (識別コード 7200~7399)
 604
 Stringリソースの一覧 552
 Stringリソースプロパティファイル 552
 Stringリソースプロパティファイルのカスタマイズ 185

せ

[制御ノード] タブ 493
 生成オプション 50
 [生成オプション] タブ 452
 [生成オプションの追加] ダイアログ 453
 [生成オプションの編集] ダイアログ 453
 生成ファイル 612
 [接続テーブル定義] タブ 487
 先着ノード [用語解説] 744
 前提環境 7

そ

送信ユニット情報の一覧表 [用語解説] 745
 送信ユニット [用語解説] 745
 [送信ログ] 画面 117
 [送信ログ] 画面のカスタマイズ 177
 [送信ログ] 画面の項目とデータベースの項目の対応 179
 [送信ログ] 画面の追加項目の設定方法 180
 送信ログから申請する 221
 送信ログからの申請の設定方法 237
 送信ログの参照 121
 組織管理画面 267
 組織ツリーフレームの構成 (宛先の管理) 123
 組織の管理 266
 組織の削除 271
 組織の登録 270
 組織の変更 270

た

ターゲット帳票 ID 78
 代行案件の処理 436
 [代行依頼者一覧] 画面 419
 [代行者一覧] 画面 417
 代行者または振替作業者の設定 435
 タイトル行 [BLC 帳票] 11
 タイトル行 [EUR Form 連携帳票] 20
 単独の帳票承認画面の例 353

ち

[チェック] タブ 479
 [帳票 ID の選択] および [帳票モジュール ID の選択] ダイアログ 468
 帳票開始処理 [用語解説] 745
 帳票管理機能 36
 帳票コントロール 20
 帳票コントロールの表示制御機能 20
 [帳票コントロール表示属性] タブ 464
 帳票コントロール [用語解説] 745
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能 23
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報 612
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の障害対策 345
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能のデータフロー 27
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の入力規則 630
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (BLC 帳票の場合) 48
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を起動する (EUR Form 連携帳票の場合) 204
 帳票ジェネレータ (BLSG) 機能 [用語解説] 745
 帳票だけをバージョンアップする場合 248
 [帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合) 454
 [帳票定義] 画面 (EUR Form 連携帳票の場合) 461
 帳票定義情報リポジトリ構成ファイル 613
 帳票定義情報リポジトリ [用語解説] 745
 帳票定義を作成する (BLC 帳票の場合) 51
 帳票定義を作成する (EUR Form 連携帳票の場合) 207
 帳票定義 [用語解説] 745
 帳票データの出力 240
 [帳票登録] 画面 128
 [帳票登録用定義選択] 画面 127
 帳票とビジネスプロセスをバージョンアップする場合 251
 帳票の運用状態 [用語解説] 745
 帳票の更新 132
 帳票のサイズチェック機能 651
 帳票の削除 132
 帳票の登録 131
 帳票の内容を確認してから強制終了する 304
 帳票のバージョンアップ 248
 帳票バージョン [用語解説] 745
 帳票パッケージ名 [BLC 帳票の場合] 52
 帳票パッケージ名 [EUR Form 連携帳票の場合] 209
 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (BLC 帳票の場合) 72
 帳票ファイル (JSP 形式) を生成する (EUR Form 連携帳票の場合) 217
 帳票ファイル (JSP 形式) [用語解説] 745

帳票ボタン処理などのカスタマイズ (BLC 帳票の場合) 142
 帳票ボタン処理などのカスタマイズ (EUR Form 連携帳票の場合) 224
 帳票ボタン処理などのカスタマイズの概要 40
 帳票前処理 (ufsv_addEURFormPreparation メソッド) の実装例 228
 帳票前処理 [用語解説] 745
 帳票モジュール 11
 帳票モジュール項目のグループ化 13
 帳票モジュール項目の表示制御機能 13
 帳票モジュール項目 [用語解説] 746
 [帳票モジュール] タブ [[帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)] 457
 [帳票モジュール] タブ [[帳票モジュール定義] 画面] 471
 [帳票モジュール定義] 画面 471
 帳票モジュール定義を作成する 60
 帳票モジュール定義 [用語解説] 746
 帳票モジュールの表示制御機能 12
 帳票モジュールの部品化機能 15
 [帳票モジュールの編集] ダイアログ 467
 帳票モジュール [用語解説] 745
 帳票を管理する 126
 帳票を再生成する (BLC 帳票の場合) 74
 帳票を作成する (BLC 帳票の場合) 47
 帳票を作成する (EUR Form 連携帳票の場合) 203
 帳票・メニューポートレットの表示とアクセス制御 291
 帳票 [用語解説] 745

つ

ツリーエリア 260

て

提供する BLC 帳票用サンプルデータ 619
 提供する EUR Form 連携帳票用サンプルデータ 622
 提供する一括承認機能のサンプルファイル 355
 提供する引き戻し機能のサンプルファイル 375
 データの更新を伴わない作業完了処理 240
 データのバックアップ 245
 データのリストア 245
 データフォルダ [BLC 帳票の場合] 49
 データフォルダ [EUR Form 連携帳票の場合] 205
 データフォルダ [帳票ジェネレータ (BLSG) 機能の出力情報] 613
 データベース稼働中のバックアップ 246
 データベース再編成の方法 247

データベースの再編成 247
 データベース名規則 513
 データベースを再編成する必要性 247
 テーブル名規則 514
 電子フォームワークフローとは 2
 電子フォームワークフローの運用上の注意事項 252
 電子フォームワークフローの主な機能 2
 電子フォームワークフローの開始 244
 電子フォームワークフローの終了 244
 電子フォームワークフローの障害対策 337
 電子フォームワークフローの処理概要 3
 電子フォームワークフローの帳票 10
 電子フォームワークフロー [用語解説] 746
 添付ファイルの使用方法 634
 添付ファイルを参照する場合のカスタマイズ 407

と

[動作] タブ 481
 [登録済み帳票一覧] 画面 126
 登録済みの帳票の情報を変更する 132
 特殊な BLC 帳票 16
 特殊な帳票を作成する 76
 トレースファイルの出力形式 (BLC のユティリティ) 340

な

内容確認画面 [用語解説] 746
 [名前を付けて保存] ダイアログ 449

に

任意のユーザの案件履歴からの内容確認 182
 認証処理機能 30
 認証処理機能のカスタマイズ 170
 認証処理機能のカスタマイズ [BLC 実行環境のカスタマイズの概要] 41
 認証処理クラスの補足情報 507

の

ノードごとに表示する帳票を変更するカスタマイズ 503
 ノード [用語解説] 746

は

バックアップとリストア 245
 パッケージ [BLC 帳票の場合] 52
 パッケージ [EUR Form 連携帳票の場合] 209

ひ

- 引き戻し機能 367
- 引き戻し機能で使用する画面 368
- 引き戻し機能の注意事項 377
- 引き戻し機能のメッセージ 370
- 引き戻し機能を使用するための環境設定 373
- 引き戻し機能を使用するための条件 372
- 引き戻し用 EUR Form 連携帳票のサンプルデータ 626
- ビジネスプロセス (BP) [用語解説] 746
- ビジネスプロセスだけをバージョンアップする場合 251
- ビジネスプロセス定義とのインタフェース 499
- ビジネスプロセス定義に関連する情報 499
- ビジネスプロセス定義に対応するユーザ追加処理の例 501
- ビジネスプロセス定義 [用語解説] 746
- 表示制御の規則 13

ふ

- 複数のアプリケーションサーバ使用時の帳票登録方法 252
- 振替先 [用語解説] 746
- 振り分けルール [用語解説] 746
- プロジェクト 49
- プロセス定義情報 3
- プロパティ情報一覧 [BLC] 544
- プロパティ情報の設定 13
- [プロパティ] タブ [[帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)] 461
- [プロパティ] タブ [[帳票定義] 画面 (EUR Form 連携帳票の場合)] 466
- [プロパティ] タブ [[帳票モジュール定義] 画面] 475
- プロパティファイルで設定できる項目 340
- プロパティファイルのカスタマイズ 183
- プロパティファイルのカスタマイズの概要 42
- プロパティファイルのサンプル 551
- プロパティファイルの書式 [BLC] 543
- プロパティファイルのファイル名と保存先 543
- プロパティファイルを読み込むタイミング 543
- 分岐ノード [用語解説] 746
- 分業ノードに対応するカスタマイズ 501
- 分業ノード [用語解説] 746

へ

- 並列作業に対応するカスタマイズ 501
- 並列作業 [用語解説] 746
- [ページ制御] タブ 465

ほ

- ポータルホームのカスタマイズ 160
- ポータルホームの構成 102
- [保管案件検索] 画面 392
- [保管案件検索結果] 画面 395
- 保管案件の照会機能 389
- 保管案件の照会機能で使用する画面 392
- 保管案件の照会機能で使用する画面と BLC データベースの関係 399
- 保管案件の照会機能のカスタマイズ 406
- 保管案件の照会機能の注意事項 408
- 保管案件の照会機能のメッセージ 404
- 保管案件の照会機能を利用するための環境設定 405
- [保管案件履歴] 画面 396
- 保管案件を照会するための環境設定 301
- 保管した案件を照会する流れ (例) 390
- ボタン DB 更新後処理 [用語解説] 746
- ボタン DB 更新処理
(ufsv_addEURButtonExecution メソッド) の実装例 231
- ボタン DB 更新処理 [用語解説] 747
- ボタン DB 更新前処理 [用語解説] 747
- [ボタン制御] タブ 465
- 保留機能の追加方法 234
- 保留ボタンの設定値の例 234
- 保留ボタンを非表示にする方法 235
- 保留ボタンを非表示にするユーザ追加処理の例 235

め

- 名称規則 513
- [名称別帳票一覧] 画面の構成 110
- メイン画面 444
- メールの送信 195
- メッセージプロパティファイルのカスタマイズ 183
- メニューポートレットのカスタマイズ 161
- メニューポートレットの管理機能のサブメニュー 392
- メニューポートレットの構成 103

も

- 文字コードの扱い 252
- 文字コードの範囲 252

や

- [役職一覧] 画面 262
- [役職登録] 画面 264
- 役職の管理 262
- 役職の削除 266

役職の登録 265
 役職の変更 265
 役職・組織・ユーザの一括登録 283, 287
 役職・組織・ユーザの出力 288

ゆ

ユーザアプリケーションからの申請 190
 ユーザー一覧画面 271
 ユーザインタフェース 3
 ユーザ管理機能 36
 ユーザ管理機能の注意事項および制限事項 261
 [ユーザ検索結果] 画面 278
 [ユーザ検索入力] 画面 276
 [ユーザ情報管理] 画面の構成 259
 ユーザ情報管理の流れ 258
 ユーザ情報フレーム (宛先の管理) 123
 ユーザ情報編集画面 134
 [ユーザ処理] タブ [[帳票定義] 画面 (BLC 帳票の場合)] 457
 [ユーザ処理] タブ [[帳票定義] 画面 (EUR Form 連携帳票の場合)] 464
 ユーザ選択画面 433
 ユーザ追加処理 3
 ユーザ追加処理クラスでアクセスできる BLCValDic クラスキー 146
 ユーザ追加処理クラスでのトレース出力 339
 ユーザ追加処理のカスタマイズの例 (帳票前処理での DB アクセス) 226
 ユーザ追加処理のカスタマイズの例 (ボタン DB 更新処理での DB アクセス) 230
 ユーザ追加処理 [用語解説] 747
 ユーザ定義クラス (.java) ファイルの先頭部分の実装例 227
 ユーザ定義クラスのインポート (BLC 帳票の場合) 142
 ユーザ定義クラスのインポート (EUR Form 連携帳票の場合) 224
 ユーザ定義クラス [用語解説] 747
 ユーザ登録画面 274
 ユーザの管理 271
 ユーザの権限とアクセス制御 289
 ユーザの削除 281
 ユーザの登録 280
 ユーザの変更 281
 ユーザを編集する 134

り

リスト項目 81

リソースアダプタ [用語解説] 747

れ

例題の内容 (BLC 帳票の場合) 47
 例題の内容 (EUR Form 連携帳票の場合) 203

ろ

ログアウト 109
 ログイン 108
 ログイン可否のステータスとアクセス制御 290
 ロックファイル 331

わ

ワークファイル 330
 ワークフローポートレットのカスタマイズ 164
 ワークフローポートレットの構成 105
 ワークフローメニュータブのカスタマイズ 166
 ワークフローメニュータブの構成 105